111

授業科目名	**成蹊基礎演習１（経営）**				
担当教員名	**中井秀樹・山崎哲弘・鍛治致・澤田彩・藤田大雪・古川拓也・村田正夫・坂中勇亮・小島大輔・白濱孝之・鳥山稔・成瀬尚志・大塚康央**				
学年・コース等	1年	開講期間	前期	単位数	2
授業形態	講義＋演習				
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の概要					

授業概要

本科目は充実した大学生活をスムーズにスタートさせるための科目です。本学の教育理念を踏まえて4年間の学びを見通すとともに、自らの意思で計画し、考え、行動するという能動的態度、ならびに大学生として一人一人の個性に応じた生活と学習の基本態度を身につけることを目指します。
・これからの大学の授業を受ける上で重要となるグループワークについて、基本的な作法を学び実践する。
・後半は、前半で学んだグループワークについての知見を踏まえて、ミニPBLに取り組み、実践する。その中で、他者との協働において何が重要であるかについて自分自身で考える。
・最終レポートでは、グループワーク（協働作業）を通して、気づいたことや気をつけようと思ったことを書かせ、クラス内で共有する。
・大学での学びの理解・他者理解・対話力の育成

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. 全学DP１.幅広い教養やスキル	基礎的な大学生活で必要となる知識やスキルを学ぶ。	グループワークにおける基本の修得や汎用的スキルに関する自己理解。
汎用的な力		
1. 全学DP５.計画・立案力		将来の目標を設定し、日々の活動計画を立てる。また、定期的に計画を見直す
2. 全学DP６.行動・実践		大学生としての日々の学修習慣・生活習慣を確立する
3. 全学DP10.忠恕の心		建学の精神を理解し、大学生にふさわしいマナーを身につける

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
・課題解決学習(PBL)

課題や取組に対する評価・振り返り

・実技・実習後、全体に向けてコメントします
・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

授業へは原則としてすべて出席してください。何らかの事情で欠席する場合は、シラバスや授業内での配布資料を参照し、自学により内容を確認し、必要な課題に取り組むようにしてください。なお、資格・免許取得に必要な科目は、単位修得に必要な授業時間数が定められている場合がありますので、注意してください。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
グループワーク	30 ％	： グループワークにおけるグループ成果物の程度×貢献度で評価
提出物	40 ％	： 各種提出物の体裁(文字数や書式)、各回授業におけるワークシートの記述内容（活動の目的の理解度や実践度合い）の記載内容によって評価する
プレゼンテーション	20 ％	： スライドの見栄え、内容、発表技術の３点で評価する
期末レポート		： 学期末に課すレポートの内容によって、自己の成長を客観的に捉えられているか、充分な振り返りができているか等評価する

10　%

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

『大学生活ナビ』（第２版）小川芳明監修、玉川大学編、玉川大学出版部（2011,ISBN ： 978-4472404337）
『知へのステップ ： 大学生からのスタディ・スキルズ』（第５版）学習技術研究会編、くろしお出版（2019,ISBN ： 978-4874247891

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。
取り組み課題に応じて教室変更等があるため、連絡には注意を払うこと。
授業スケジュールは事情により入れ替えなどがあります。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：　各教員に確認

場所：　西館２～４階

備考・注意事項：　担当教員のオフィスアワーは、初回授業で発表する。

授業計画		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**大阪成蹊大学における「学び」について、研究者倫理について** 建学の精神や大学での学びについてと、そこに必要となるスキルについて理解し、本科目の学びの目的を考える。本学での学びで必要となる、アドバイザー教員の説明やオフィスアワーの説明なども行う。また、生徒と学生の違いについて解説し、研究を行うものとしての倫理やパーソナルブランドについても説明を行う。	大学での学びについて授業内容を振り返りながらまとめる	4時間
第2回	**グループワークの基礎・コミュニケーション** 他者とコミュニケーションをとる上で基礎となる「聴き方」と「伝え方」のポイントを押さえた上で、グループワークを通して実践する。特に、他者と協働するさいに重要なポイントとなる「目標設定」「率先垂範」「同僚支援」の3点を理解し、実践を通してそれらの重要性について検討する。	コミュニケーションを取る上で重要なポイントを授業内容を振り返りながら整理する	4時間
第3回	**学修者としての責任の理解** 大学生は研究者の一人となり、研究活動や成果発表による社会への影響についての理解も必要となる。そうした研究者倫理についての説明を行い考える機会を設ける。	授業での学びについて振り返りシートに記述する	4時間
第4回	**グループワーク実践①　大学生のリスク管理** 大学生は社会人の一員であり、生活の上でのリスクについても自己管理を行う必要がある。そこで、大学生に対するリスクの考察とのその対処法についてグループでで検討する。	授業での学びについて振り返りシートに記述する	4時間
第5回	**建学の精神と人間力** 本学園理事長兼総長による講演。大阪成蹊大学の建学の精神についての理解を深め、自分の人間力について考える。	授業での学びについて振り返りシートに記述する	4時間
第6回	**グループワーク実践②　主権者として** 18歳からは主権者として、参政権(選挙権)も持っているが、主権者としての自覚と行動を促すためにはどうするのがいいのかをグループワークを通じて考える。	授業での学びについて振り返りシートに記述する	4時間
第7回	**PROG結果の振返りと目標設定** リテラシー(基本的な知識・技能)やコンピテンシー(行動特性)についての理解を深めると同時に、自己の理解を深めるため、PROGの結果を通じて、自己分析を行い、今後のキャリアについて考える。また、PROGの結果を踏まえて、各自が前期の目標を設定する。	PROGの結果の振返り各自の目標を設定する	4時間
第8回	**協働の実践（ミニPBL）①チームビルディング** 協働作業の実践を通して、他者理解や対話力の向上を目指す。「協働の実践」において取り組む課題を説明し、チームビルディングを行う。	授業での学びについて振り返りシートに記述する	4時間
第9回	**協働の実践（ミニPBL）②役割分担・スケジューリング** 課題解決に向けて、スケジューリングや役割分担について各グループで検討する。	グループメンバーと協力して各自の役割とスケジュールを決定する	4時間
第10回	**協働の実践（ミニPBL）③情報収集** 課題解決に向けた情報収集を各グループで行う。	グループメンバーと協力しながら、個々の活動を実施する	4時間
第11回	**協働の実践（ミニPBL）④解決案の検討** 課題解決に向けた解決策の検討を各グループで行う。	グループメンバーと協力しながら、個々の活動を実施する	4時間
第12回	**協働の実践（ミニPBL）⑤プレゼン準備**	グループのプレゼンテーション資料を完成させる	4時間

	課題解決に向けたプレゼンテーションの準備を各グループで行う。		
第13回	**協働の実践（ミニPBL）⑥プレゼンテーション** 課題解決に向けたプレゼンテーションを行う。質疑応答を行うとともに、プレゼンテーションをルーブリックで評価する。	グループでのプレゼンテーションを振り返る	4時間
第14回	**試験・レポートについて、授業のまとめとふりかえり** 初めて迎える学期末試験についての心得や注意事項の確認や、成績評価基準などについても再度確認を行う。14回にわたる成蹊基礎演習１での学びの成果について各自でふりかえりを行い、今後の学修における目標設定を行う。	授業での学びについて振り返りシートに記述する	4時間

111

授業科目名	**成蹊基礎演習１（国際）**				
担当教員名	尾崎文則・原田弘之・デイヴィス恵美・樫本英之				
学年・コース等	1年	開講期間	前期	単位数	2
授業形態	講義＋演習				
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の概要					

授業概要

本科目は充実した大学生活をスムーズにスタートさせるための科目です。本学の教育理念を踏まえて4年間の学びを見通すとともに、自らの意思で計画し、考え、行動するという主体的態度、ならびに大学生として一人一人の個性に応じた生活と学習の基本態度を身につけることを目指します。
・大学の授業を受ける上で重要となるグループワークについて、基本的な作法を学び実践する。
・後半は、前半で学んだグループワークの知見を踏まえて、ミニPBLに取り組み、実践する。その中で、他者との協働において何が重要であるか自分自身で考える。
・最終レポートでは、グループワーク（協働作業）を通して、気づいたことや気をつけようと思ったことなどをまとめる。
・大学での学びの理解・他者理解・対話力の育成

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. 全学DP１.幅広い教養やスキル	大学生活で必要となる基礎的な知識やスキルを学ぶ	グループワークにおける基本を修得し、汎用的スキルとして理解し、活用することができる
汎用的な力		
1. 全学DP５.計画・立案力		将来の目標を設定し、日々の活動計画を立て、定期的に計画を見直すことができる
2. 全学DP６.行動・実践		大学生としての日々の学習習慣・生活習慣を身に着けることができる
3. 全学DP10.忠恕の心		建学の精神を理解し、大学生にふさわしいマナーを身につけることができる

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
・課題解決学習(PBL)

課題や取組に対する評価・振り返り

・実習や実技に対して個別にコメントします
・実技・実習後、全体に向けてコメントします
・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

授業へは原則としてすべて出席してください。何らかの事情で欠席する場合は、シラバスや授業内での配布資料を参照し、自学により内容を確認し、必要な課題に取り組むようにしてください。なお、資格・免許取得に必要な科目は、単位修得に必要な授業時間数が定められている場合がありますので、注意してください。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
平常点	40 %	： 授業での主体的態度・貢献度等で評価する
提出物	30 %	： 課題やワークシート等の提出状況や内容で評価する
ミニPBLの取組（期末レポート含む）	30 %	： 授業期間の後半に実施するミニPBLにおけるグループワークでの貢献や協働の状況、課題への対応、期末レポートの提出状況や内容で評価する

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

小川芳明監修、玉川大学コア・FYE教育センター編『大学生活ナビ』玉川大学出版部、2011年、ISBN978-4472404337
学習技術研究会編著『知へのステップ 第5版 ―大学生からのスタディ・スキルズ』くろしお出版、2019年、ISBN978-4874247891

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。
取り組み課題に応じて教室変更等があるため、連絡には注意を払うこと。
授業スケジュールは入れ替え等の可能性あり。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 初回授業時に連絡します

場所： 各教員研究室

授業計画		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**ガイダンス、大阪成蹊大学における「学び」について** 初回授業として授業全体の概要と進め方、評価等のガイダンスを行う。特に、建学の精神や大学での学びについてと、それに必要となるスキルについて理解し、本科目の学びの目的を考える。	ふりかえり：大学の学び	4時間
第2回	**自己紹介とコミュニケーション** １年間にわたり基礎演習をともにするゼミ生同士の相互理解を行う。また、他者とコミュニケーションをとる上で基礎となる「聴き方」と「伝え方」のポイントを押さえた上で、グループワークを通して実践する。 それらの考え方を踏まえた上で、入学前課題を踏まえた自己紹介をみんなの前で行う。	ふりかえり：自己紹介とグループワークの基礎	4時間
第3回	**よりよい学生生活のための「自己管理」** 18歳からは大人であり、日常生活や大学生活、そして海外研修においては、あらかじめ必要な準備を行い、時間管理や他者との連絡・調整も含めて、自ら考え行動していく自己管理が求められる。その自覚と習得のためにどうするのがいいのかを考える。	ふりかえり：自己管理	4時間
第4回	**研究者倫理・ビブリオ説明、情報収集（図書館使い方）** 大学生は研究者の一人となり、研究活動や成果発表による社会への影響についての理解も必要となる。そうした研究者倫理についての説明を行い考える機会を設ける。 さらに、情報収集の基本であるインターネットも含む図書館システムの利用についてのガイダンスと実地見学を行う。	ふりかえり：学修者としての責任	4時間
第5回	**ビブリオバトル** 入学前課題に出題したビブリオバトルについて、プレゼンテーションを実施し、みんなでその質疑応答や評価を行う。	ふりかえり：ビブリオバトル	4時間
第6回	**建学の精神と人間力** 本学園理事長・総長による講演。大阪成蹊大学の建学の精神についての理解を深め、自分の人間力について考える。	ふりかえり：建学の精神と人間力	4時間
第7回	**リテラシーとコンピテンシー** リテラシー(基本的な知識・技能)やコンピテンシー(行動特性)についての理解を深めると同時に、自己の理解を深めるため、PROGの診断結果を通じて、自己分析を行い、今後のキャリアについて考える。	ふりかえり：リテラシーとコンピテンシー	4時間
第8回	**協働の実践（ミニPBL）：①オリエンテーション** ミニPBLは、世界の国々から１つの国を選択し、その歴史文化、社会経済、観光、企業等についてのリサーチ、情報整理、分析・考察、資料作成、プレゼン等を実施することを想定する。 今回の授業では、協働作業の実践を通して、他者理解や対話力の向上を目指す。「協働の実践」において取り組む課題を説明し、チームビルディングを行う。	ふりかえり：ビブリオバトル	4時間
第9回	**協働の実践（ミニPBL）：②情報収集** 情報収集を各グループで行う。	ふりかえり：チームビルディング、役割分担・スケジューリング	4時間
第10回	**協働の実践（ミニPBL）：③情報収集、分析考察** 情報収集に加え、分析・考察を各グループで行う。	ふりかえり：情報収集、分析・考察	4時間
第11回	**協働の実践（ミニPBL）：④発表準備** 発表準備を各グループで行う。	ふりかえり：プレゼン準備	4時間
第12回	**協働の実践（ミニPBL）⑤ポスター発表（前半）** 全学年のうち、前半のグループのプレゼンテーションを行う。質疑応答を行うとともに、プレゼンテーションをルーブリックで評価する。	ふりかえり：プレゼン評価	4時間
第13回	**協働の実践（ミニPBL）⑥ポスター発表（後半）**	ふりかえり：プレゼン評価	4時間

	全学年のうち、後半のグループのプレゼンテーションを行う。質疑応答を行うとともに、プレゼンテーションをルーブリックで評価する。		
第14回	**授業のまとめとふりかえり** 初めて迎える学期末試験についての心得や注意事項の確認や、成績評価基準などについても再度確認を行う。14回にわたる成蹊基礎演習１での学びの成果について各自でふりかえりを行い、今後の学修における目標設定を行う。	振り返り：学修ポートフォリオ	4時間

111

授業科目名	成蹊基礎演習１（芸術）				
担当教員名	加藤隆文・伊藤俊輔・熊倉一紗・内田英武・大手裕子・成清北斗・三津留ゆう・藤井桜子				
学年・コース等	1年	開講期間	前期	単位数	2
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の概要					

授業概要

【有意義な大学生活を送るために】
成蹊基礎演習1・2を通して大学での学びの理解・他者理解・対話力の育成を目指します。また、大学生として学修を進めてゆくうえで必ず押さえておかねばならない研究倫理についても学びます。とりわけ「桃李成蹊」という建学の精神をしっかり理解し、これからはじまる大阪成蹊大学での４年間の学びと生活をスムーズにスタートさせることがこの授業の目標です。大学では、受け身の姿勢で指示を待つのではなく、自らの意思で計画し、考え、行動するという能動的・積極的な態度が求められます。未来を見据えた充実した有意義な大学生活を送るために、大学生として一人一人の個性に応じた生活と学習の基本態度を身につけ、相手の立場に立って物事を考え、行動できる人間に成長しましょう。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. 全学DP１.幅広い教養やスキル	基礎的なアカデミックスキル、スチューデントスキルを身につける	ノートテイキング、情報収集の方法、情報リテラシーなどに関する基礎的な知識やスキルを身につける
2. 全学DP２.専門的知識・技能、職業理解	大学生にふさわしい社会知識の修得	時事問題を理解し、考えるために必要な基礎的な語彙や知識を身につける
汎用的な力		
1. 全学DP５.計画・立案力		将来の目標を設定し、日々の活動計画を立てる。また、定期的に計画を見直す。
2. 全学DP６.行動・実践		大学生としての日々の学習習慣・生活習慣を確立する。
3. 全学DP８.意思疎通		協働学修を通し、意思疎通を図ることができる親和力を身に付けている。
4. 全学DP９.役割理解・連携行動		大学生活において、教員、職員、学生など様々な立場を理解し、適切に連携行動を取れるようなスキルを修得する。
5. 全学DP10.忠恕の心		建学の精神を理解し、大学生にふさわしいマナーを身につける。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

・実技・実習後、全体に向けてコメントします
・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

授業へは原則としてすべて出席してください。何らかの事情で欠席する場合は、シラバスや授業内での配布資料を参照し、自学により内容を確認し、必要な課題に取り組むようにしてください。なお、資格・免許取得に必要な科目は、単位修得に必要な授業時間数が定められている場合がありますので、注意してください。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
平常授業内課題	30 %	： 各回の授業内課題の内容に基づき、授業への取り組み状況、理解度から評価する。
時事ワークシート等の課題	30 %	： 時事ワークシート等の現代社会に関する理解を深める課題の提出状況から評価する。
授業内小テスト		： 授業内で配布する時事ワークシートから出題する小テストにより、日々の学修の成果を評価する（中間と期末の２回実施予定）

20　%

最終レポート　：　14回の授業終了後、学びの総まとめとしてレポートを課す。評価の視点として、授業の理解度、課題設定としての行動計画を明らかにしている点を中心に評価する。

20　%

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

『大学生活ナビ』小川芳明監修、玉川大学コア・FYE教育センター編、玉川大学出版部（ISBN-13　：　978-4472404337）。
『知へのステップ――大学生からのスタディ・スキルズ』（第5版）学習技術研究会編著、くろしお出版（ISBN-13　：　978-4874247891）。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回5時間程度の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

全員が一つの教室で授業を受ける日とクラスに分かれて授業を受ける日があるので注意すること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

備考・注意事項：　各クラスそれぞれ、初日授業にて連絡する。

授業計画		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**大学での学びとは？／研究倫理教育** 高校と大学との違いについて考えます。 また、タイムマネジメントの重要性について理解を深めます。 学修到達度確認の指標について説明、年間目標を考え、週間計画を立てます。 研究倫理についての基本的知識を身につけます。	朝日新聞時事ワークシート「要点チェック」35・36	5時間
第2回	**建学の精神と学園内マナー／グループワークの作法** 映像教材を視聴し、グループでの議論を通して学園内マナーについて検討します。また、学園内マナーと関連させて、建学の精神と本学の行動指針について学びます。さらに、それに基づくグループワークの作法について検討します。	朝日新聞時事ワークシート「要点チェック」37・38	5時間
第3回	**クリエイターにとってのPC技術：基礎編** クリエイターが身につけるべき基本的なPC技術について、社会的に期待されることの多い各種ソフトに関する知識や具体的な資格認定制度について学びます。	朝日新聞時事ワークシート「要点チェック」39・40	5時間
第4回	**クリエイターにとってのPC技術：発展編** クリエイターが身につけるべき基本的なPC技術の詳細について、本年中の資格認定を意識しながら、実践的に学びを深めます。	朝日新聞時事ワークシート「要点チェック」41・42	5時間
第5回	**ノートテイキングの技術～能動的学びのために～** 大学での能動的学び（アクティブ・ラーニング）におけるノートテイキングの重要性を理解します。 具体的にノートを取る技術を学び、実践練習を行います。	朝日新聞時事ワークシート「要点チェック」43・44	5時間
第6回	**大学図書館の活用（合同）** 大学図書館の特徴と活用の仕方について学びます。また、学内ラーニングコモンズなどを通して各種デジタルメディアを活用する方法や、いわゆるSociety 5.0の到来に伴って留意しておくべき社会常識などについて学びます。	朝日新聞時事ワークシート「要点チェック」45・46	5時間
第7回	**キャリアについて考える「自己を理解する」（合同）** 特別講師　ゲスト講師による連続レクチャー 「楽しく働ける！結果が出る！強みを活かして生きていく方法 自己理解編」 ～楽しい自己分析でジブンの強みを知る授業～	朝日新聞時事ワークシート「要点チェック」47・48	5時間
第8回	**理事長講話** 本学理事長が、建学の精神や本学で学生生活を送る上で皆さんに心掛けてほしいことなどについて講話します。	朝日新聞時事ワークシート「要点チェック」1・2	5時間
第9回	**実践ことば力習熟度チェック＋振り返り＋有権者としての心構えについて（合同）** 朝日新聞時事ワークシートを通して得た時事問題に関する知識の習熟度をチェックします（中間）。 これまでの授業全体を振り返り、中間学修到達度を確認します。 18歳選挙権導入について学び、有権者として政治に参加する自覚を養います。	朝日新聞時事ワークシート既習部分の復習	5時間
第10回	**リテラシーとコンピテンシー（PROGテスト解説）**	朝日新聞時事ワークシート「要点チェック」3・4	5時間

	入学時に受験したPROGテストの結果の解説を聞き、自己を捉え直します。		
第11回	**メディアリテラシー（合同）** インターネットやＳＮＳの危険性を知り、メディアを適切に活用する方法を学びます。とりわけ、AI・データサイエンス産業の急成長に伴い、社会の様々な面で根本的な構造変化が生じていることを念頭に、とりわけ個人情報の自己管理の重要性について学びます。	朝日新聞時事ワークシート「要点チェック」5・6	5時間
第12回	**レポートの書き方・テストの受け方（合同）** テストの受け方やレポートの書き方について概要を学びます。また、レポートを作成したり、作品を制作したりするうえで重要な「研究倫理」の基本について学びます。	朝日新聞時事ワークシート「要点チェック」7・8	5時間
第13回	**働くことの意味を知る（合同）** OBやOGなど、社会で働く若者の実際の声を聴きます。	朝日新聞時事ワークシート総復習	5時間
第14回	**社会問題に関する知識習熟度チェックと振り返り（合同）** ・時事ワークシートを通して学んだ社会問題に関する知識の習熟度をチェックします（期末）。また、授業全体を振り返り、最終学修達成度を確認します。	最終学修到達度確認を振り返ることにより、学びを定着させる。	5時間

111

授業科目名	**成蹊基礎演習１（教育）**				
担当教員名	羽野ゆつ子・臼井達矢・山内淳子・保田直美・米田薫・高尾淳子・片岡章彦・稲井雅大・園田育代・宮﨑大樹				
学年・コース等	1年	開講期間	前期	単位数	2
授業形態	講義＋演習				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	小学校教員経験あり（橋本隆公）（全14回） 小学校教員としての実務経験を通した算数科の指導に関する体験知				

授業概要

本科目は充実した大学生活をスムーズにスタートさせるためのアクティブラーニング基礎科目です。本学の教育理念を踏まえて4年間の学びを見通すとともに、自らの意思で計画し、考え、行動するという能動的態度、ならびに大学生として一人一人の個性に応じた生活と学習の基本態度を身につけることを目指します。また、他者意識の重要性について実践を通して学ぶことで、話を聞いて自分の意見を述べる基本を身につけ、大学生活と社会生活、どちらの学びにも大切になるコミュニケーションの作法を習得することを目指します。さらに、各自が選んだ専門分野について深く学ぶと共に、社会に自覚的に賢く参画していくことの意義も考えます。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. 全学DP１.幅広い教養やスキル	基礎的なアカデミックスキル、スチューデントスキルを身につける	ノートテイキング、情報収集の方法、情報リテラシーなどに関する基礎的な知識やスキルを身につける
2. 全学DP１.幅広い教養やスキル	大学生にふさわしい社会知識の修得	時事問題を理解し、考えるために必要な基礎的な語彙や知識を身につける
汎用的な力		
1. 全学DP５.計画・立案力		将来の目標を設定し、日々の活動計画を立てる。また、定期的に計画を見直す
2. 全学DP６.行動・実践		大学生としての日々の学習習慣・生活習慣を確立する
3. 全学DP10.忠恕の心		建学の精神を理解し、大学生にふさわしいマナーを身につける

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)

・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)

・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)

・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

・実技・実習後、全体に向けてコメントします

・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

授業へは原則としてすべて出席してください。何らかの事情で欠席する場合は、シラバスや授業内での配布資料を参照し、自学により内容を確認し、必要な課題に取り組むようにしてください。なお、資格・免許取得に必要な科目は、単位修得に必要な授業時間数が定められている場合がありますので、注意してください。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
平常点	50 %	： 主にシャトルシートへの記入内容によって授業の理解度や実践へとむけた行動設計などを評価する
課題	30 %	： ワークシート等の提出内容によって評価する
期末レポート	20 %	： この科目で学んだことや自分自身が興味や関心をもっている保育・教育に関する課題について考察し、今後の展望を持つことができているかをもとに評価する

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

必要に応じて各教員から適宜紹介する。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は２単位の科目であるため、平均すると毎回４時間の授業外学修が求められる。「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。全員が一つの教室で授業を受ける日とクラスに分かれて授業を受ける日があるので注意すること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 担当教員ごとに異なります。

場所： 担当教員ごとに異なります。

備考・注意事項： 第1回の授業時に詳細を伝えます。

授業計画		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**大阪成蹊大学における「学び」について** 建学の精神と授業マナーを確認し、本科目の目的と全体的な計画を知り、大学での学びに参加するという方向性を明確にします。また、高大移行期を生きる自分自身を見つめる課題について理解します。	大学4年間の生活を構想する。	4時間
第2回	**タイムマネジメントとスケジュール管理** 大学生活を充実したものにするため、年間目標を立てます。各自の目標をグループ、クラスで交流します。	年間および１週間の過ごし方を見つめる。	4時間
第3回	**ノートの取り方と大学での評価方法について** 大学の講義でのノートの取り方を学びます。また、ルーブリックなど大学での評価方法について学び、試験や課題への向かい方を考えます。	履修中の授業でノートの取り方を工夫して実践する。	4時間
第4回	**情報倫理・研究倫理と大学図書館の活用** 情報倫理と研究倫理の基本を学びます。また、大学図書館の特徴と活用の仕方について学びます。	情報倫理・研究倫理についての振り返り。図書館を活用する（図書館の蔵書の中から、本を借りて読み、返却する）。	4時間
第5回	**グループワークの作法** ビデオ教材を用いて、グループワークについて実践的に学びます。	グループワークについての振り返り。	4時間
第6回	**大学生活を見つめなおす、パーソナル・ブランド** ビデオ教材を用いて、大学生活で気を付けるべきことを考えます。また、SNSに関する注意点についても学びます。さらに、主権者としての自分について考えるとともに、自分自身をブランドとして考えマネジメントする、パーソナル・ブランド・マネジメントの考え方について学びます。	授業内容を参考に日々の生活で実践する。	4時間
第7回	**建学の精神と人間力** 本学理事長・総長による講演。講演者に対する質問を考えるグループワークも行います。	講演内容についての振り返り。	4時間
第8回	**先輩の話に学ぶ** 本学部の先輩の体験について聞き、今後の大学生活に役立てます。	先輩の話についての振り返り。	4時間
第9回	**リテラシーとコンピテンシー（PROGテスト解説）** 4月入学時に受験したPROGテストの結果の解説を聞き、自己を捉え直します。	PROG結果から見た自己分析に関する自己評価	4時間
第10回	**働くことの意味を知る（１）前半** 教育・保育職の魅力と、就職までの道、そのための方法について学びます。	授業内容をふまえて、キャリアを考える。　（感想）	4時間
第11回	**働くことの意味を知る（２）後半** 教育職・保育職に限らず、教育学部での学びが生きる職業について学びます。	授業内容をふまえて、キャリアを考える。　（感想）	4時間
第12回	**プレゼンテーションの構想・作成** この科目で学んだことと、自分自身が興味や関心をもっている保育・教育について、掛け合わせた保育・教育時事に関してまとめ、プレゼンテーションを作成する。	プレゼンテーションの構想・作成の続き	4時間
第13回	**プレゼンテーション** 前回作成したプレゼンテーションを用いて、この科目で学んだことと、自分自身が興味や関心をもっている保育・教育について、掛け合わせた保育・教育時事に関して発信することを通して、振り返る。	プレゼンテーションの発表・振り返りを通した改善	4時間
第14回	**半年間の振り返り** 大学生活の最初の半年間について、総合的に振り返り、評価するとともに、今後に向けての目標設定を行います。	ポートフォリオによって授業全体を振り返る	4時間

111

授業科目名	**成蹊基礎演習１（データサイエンス）**				
担当教員名	小山田耕二・關戸啓人・新庄雅斗				
学年・コース等	1年	開講期間	前期	単位数	2
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	小山田耕二/日本IBM(株)にて、顧客のニーズをヒアリングして要件定義をまとめ、提案書作成・提出を行い、大型計算機納入に結びつけた。また、京都大学国際高等教育院にて、初年次教育「研究ベース学習」企画・実施を行った。2010年から5年間、全学共通教育国際学生シンポジウムを主催し、初年次教育学会元会長同志社大学山田礼子教授により高く評価いただいた。				

授業概要

本授業では、これからの大学での学びにおいて重要となるグループワークの基本的なルールやマナーを学び、実践を通じてそのスキルを養う。前半では、データサイエンスを学ぶ上で基盤となる科学的方法の基本的な考え方について理解を深め、具体的な場面での適用方法を習得する。後半では、これら前半で学んだ知識とスキルを活用し、ミニPBL（課題解決型学習）に取り組むことで、実践的な問題解決能力やチームでの協働力を高める。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. DP１.数学・統計学・科学的方法、計算機科学の基礎	ミニPBLにおける科学的方法の実践	ミニPBLを通して、科学的方法の実践において適切な学術的問いを立てることができ、また、その学術的問いに対して、適切な仮説を構築することができるようになる

汎用的な力	
1. DP６.他者とのコミュニケーション	グループワークにおいて、自己の意見をきちんと伝えることができ、かつ、他者の意見をきちんと聞くことができるようになる
2. DP７.他者との協調・協働	グループワークにおいて、自己の役割を認識し、適切に行動することができるようになる
3. DP８.忠恕の心	建学の精神や行動指針の理解や大学生としてのマナーの実践ができるようになる

学外連携学修

有り(連携先：積水ハウス　近田智也氏)

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)

・eラーニング、反転授業

・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)

・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)

・課題解決学習(PBL)

課題や取組に対する評価・振り返り

・実技・実習後、全体に向けてコメントします

成績評価

注意事項等

授業へは原則としてすべて出席してください。何らかの事情で欠席する場合は、シラバスや授業内での配布資料を参照し、自学により内容を確認し、必要な課題に取り組むようにしてください。なお、資格・免許取得に必要な科目は、単位修得に必要な授業時間数が定められている場合がありますので、注意してください。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準	
授業への積極参画度	50 %	：	授業での質問頻度、発言頻度等で評価する。
提出物	20 %	：	Udemyオンライン学習課題等の提出回数で評価する。
レポート（論文）	30 %	：	最終課題として所定の書式に則り、提出された研究成果のレポートをルーブリックに従って総合的に評価する。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

必要に応じて、授業中に指示する。

履修上の注意・備考・メッセージ

「養うべき力と到達目標」に記載しているように、本授業科目については、他者との協調・協働を到達目標としているため、少人数グループでの討論を主体とした授業を展開する。したがって、グループワークでの積極的な参加は、学修成果を上げるうえでも重要な要素であり、評価もこの点を重視する。評価にあたっては、教員が議論の様子を観察する中で、発言頻度やグループへの貢献度などを厳密に測定する。

・授業や課題においてPCを利用するので、授業時には必ず持参すること。
・本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。
・「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習すること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 授業後のお昼休み・月曜３限（小山田）・火曜４限（關戸）・水曜５限（新庄）

場所： 授業教室・各教員の研究室（駅前キャンパスS館4階）

備考・注意事項： オフィスアワーを活用してください。

授業計画

		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**ガイダンス、授業の目的と概要（担当：小山田・關戸・新庄）** 生徒と学生の違いについて解説し、研究を行うものとしての倫理についても簡単に説明する。また、データサイエンスの学びの基礎となる「科学的方法」について、小学生に説明する前提で、グループ討論し、発表させる。	ガイダンス受講後、学生個別の目標を設定する。	4時間
第2回	**グループワークの基礎（担当：小山田・關戸・新庄）** 他者とコミュニケーションをとる上で基礎となる「聴き方」と「伝え方」のポイントを押さえた上で、グループワークを通して実践する。	「聴き方」と「伝え方」を高校生にどう伝えたらよいかを考える。Udemyで「傾聴」についてのコースを視聴する。	4時間
第3回	**グループワーク実践① 社会実装施策（担当：小山田・關戸・新庄）** カーボンニュートラルの2050年実現に向けて、政府や関係省庁は、さまざまな技術の社会実装施策を打ち出しているが、こうした新たな技術の発展の中で、学生がどのように取り組んでいくのがいいのかをグループワークを通じて考える。積水ハウス近田智也氏による特別講演「住まいの脱炭素化への取り組み」（30分）	「カーボンニュートラル」を高校生にどう伝えたらよいかを考える。Udemyで「傾聴」についてのコースをひきつづき視聴する。	4時間
第4回	**グループワーク実践② 多様性の受容（担当：小山田・關戸・新庄）** 多様性の受容とは、相手が大切にしている価値観は、理解できなくても大切にすることとされているが、学生は、多様性をどのように受容するのがいいのかについてグループで検討する。	「多様性と受容」を高校生にどう伝えたらよいかを考える。Udemyで「【初級編】ダイバーシティは組織を強くする」を視聴する。	4時間
第5回	**建学の精神と人間力 本学園理事長・総長による講演（担当：小山田・關戸・新庄）** 大阪成蹊大学の建学の精神についての理解を深め、自分の人間力について考える。	「大阪成蹊大学の建学の精神」を高校生にどう伝えたらよいかを考える。	4時間
第6回	**リテラシーとコンピテンシー（担当：小山田・關戸・新庄）** リテラシー（基本的な知識・技能）やコンピテンシー（行動特性）についての理解を深めると同時に、自己の理解を深めるため、PROGの診断結果を通じて、自己分析を行い、今後のキャリアについて考える。	PROGの診断結果をもとに大学卒業後の進路について考える。	4時間
第7回	**学修者としての責任の理解（担当：小山田・關戸・新庄）** 大学生は研究者の一人となり、研究活動や成果発表による社会への影響についての理解も必要となる。そうした研究者倫理についての説明を行い、考える機会を設ける。	「研究倫理」を高校生にどう伝えたらよいかを考える。	4時間
第8回	**協働の実践（ミニPBL）① 科学的方法の実践（担当：小山田・關戸・新庄）** チームビルディング協働による科学的方法の実践を通して、他者理解や対話力の向上を目指す。科学的方法の概要と「協働の実践」において取り組む課題「どうすれば、地球温暖化を抑制できるか」を説明し、チームビルディングを行う。	「チームビルディングと協働」を高校生にどう伝えたらよいかを考える。Udemyで「チームビルディング」についてのコースを視聴する。	4時間
第9回	**協働の実践（ミニPBL）② 地球温暖化抑制案（担当：小山田・關戸・新庄）** 「課題に対する仮説：地球温暖化抑制案」構築に向けて、スケジューリングや役割分担について各グループで検討する。	Udemyで「チームビルディング」についてのコースをひきつづき視聴する。	4時間
第10回	**協働の実践（ミニPBL）③ 仮説検証（担当：小山田・關戸・新庄）** 仮説検証に向けて、仮説に対してどのようなデータが必要か、検証に向けてどのような手法を学べばよいかを各グループで議論する。	Udemyで「シンプルで本質的！顧客ニーズをつかむリサーチの超基本」を視聴する。	4時間

第11回	**協働の実践（ミニPBL）④ 解決案の社会実装（担当：小山田・關戸・新庄）** 解決案の社会実装：検証結果をどのように社会実装したらよいかの検討を各グループで行う。	「社会実装」を高校生にどう伝えたらよいかを考える。Udemyで「”戦略的ストーリーメイキング」について視聴する。	4時間
第12回	**協働の実践（ミニPBL）⑤ プレゼンテーションの準備（担当：小山田・關戸・新庄）** プレゼン準備：課題解決とその社会実装に向けたプレゼンテーションの準備を各グループで行う。	Udemyで「パワーポイントで学ぶロジカル・プレゼンテーション」について視聴する。	4時間
第13回	**協働の実践（ミニPBL）⑥ プレゼンテーションの実践（担当：小山田・關戸・新庄）** プレゼンテーション：各グループで課題解決と社会実装に向けたプレゼンテーションを行う。質疑応答を行うとともに、プレゼンテーションをルーブリックで評価し、その結果をGoogle Form等で収集し、優秀グループを表彰する。第3回で特別講演を行っていただいた積水ハウス近田智也氏に質疑とともに講評を行っていただく。	Udemyで「パワーポイントで学ぶロジカル・プレゼンテーション」についてひきつづき視聴する。	4時間
第14回	**試験・レポートについて、授業のまとめとふりかえり（担当：小山田・關戸・新庄）** 初めて迎える学期末試験についての心得や注意事項の確認や、成績評価基準などについても再度確認を行う。14回にわたる成蹊基礎演習１での学びの成果について各自でふりかえりを行い、今後の学修における目標設定を行う。	ガイダンス受講時に設定した目標に対してどこまで達成したのかを自己評価する。	4時間

111

授業科目名	**成蹊基礎演習１（看護）**				
担当教員名	**山本純子・吾妻知美・田中登美・近田真美子・北島謙吾・近藤純子・矢野芳美**				
学年・コース等	1年	開講期間	前期	単位数	2
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	担当教員全員が看護師実務経験者であり、一部教員は保健師実務経験者、助産師実務経験者である。				

授業概要

本科目は充実した大学生活をスムーズにスタートさせるための科目です。本学の教育理念を踏まえて4年間の学びを見通すとともに、自らの意思で計画し、考え、行動し学修するために必要な能動的態度について理解を深めて、大学生として一人一人の個性に応じた生活と、自ら学ぶ学習の基本的態度を身につけることを目的とする。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. DP1.人の立場に立って考え行動する高い倫理観と共感性を備え、看護学の科学的知識と実践能力を持ち、自立して看護を実践し看護学の発展に寄与することができる	看護学を学ぶ上で基礎となるアカデミックスキル、スチューデントスキルを学修する。	主体的に学ぶことの大切さを理解し、情報収集の方法、情報リテラシーなど主体的に学ぶための知識・技術を身につけることができる。
汎用的な力		
1. DP1.人の立場に立って考え行動する高い倫理観と共感性を備え、看護学の科学的知識と実践能力を持ち、自律して看護を実践し看護学の発展に寄与することができる		建学の精神を理解し、看護学生としてふさわしいマナーを身につけ、将来の目標を設定し、日々の活動計画を立てる、また、その目標達成のための学習・生活習慣を確立することができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)

・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)

・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

・実習や実技に対して個別にコメントします

・提出物にコメント・評価をつけて返却します

・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

授業へは原則としてすべて出席してください。何らかの事情で欠席する場合は、シラバスや授業内での配布資料を参照し、自学により内容を確認し、必要な課題に取り組むようにしてください。なお、資格・免許取得に必要な科目は、単位修得に必要な授業時間数が定められている場合がありますので、注意してください。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準	
リアクションペーパー	30 %	:	毎回記入するリアクションペーパーの内容により評価する。授業への取組状況、理解度から評価する。
最終レポート	70 %	:	14回の授業終了後、学びの総まとめとしてレポートを課す。評価の視点として、課題の理解度、課題についての行動計画を明らにしている点を中心に評価する。

使用教科書

指定する

著者	タイトル	出版社	出版年
慶応義塾大学出版会	・ アカデミック・スキルズ 第3版	・ 慶応義塾大学出版会	・ 2020 年

参考文献等

南田勝也他「ゼミで学ぶスタディスキル 第3版」　北樹出版　2017年

履修上の注意・備考・メッセージ

原則として毎回出席すること。規程回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を行わない。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

備考・注意事項： オフィスアワーを活用してください。なお、各教員によって異なりますので、初回授業で連絡します。

授業計画		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**ガイダンス、グループワーク、科目の学びの確認** 成蹊基礎演習Ｉの開講する理由や学修目的・目標の確認、演習予定の説明、グループ内での教員、学生の自己紹介を行います。	次回の接遇について考えてきましょう。	4時間
第2回	**接遇：大学内、臨地実習の場　グループワーク** 大学内の接遇は教員との対応、授業中の態度、5分前集合、教員との予約の取り方、研究室への入室方法等、事務職員や他の職員との挨拶や質問や依頼の仕方を意見交換します。また、臨地実習の場における接遇は、看護職と対象者の関係、看護の対象者と接する姿勢や言動、看護の対象者と接する場の接遇では、看護職と対象者の関係、看護の対象者と接する姿勢、言動等を意見交換します。	テキスト第1章を読んで演習に臨んでください。	4時間
第3回	**第1章アカデミックスキルズとは、グループワーク** テキストP.17～における大学で学ぶこと、アカデミックスキルズの意味、大学と高校の学びに違いなどを意見交換します。事前に読んだ内容にわからない点があればグループ内で討議し、理解できるようにします。	テキストP.29 ～をよく読んで演習に臨みましょう。	4時間
第4回	**第2章講義を聴いてノートを取る、グループワーク** テキスト第2章「講義を聴いてノートを取る」の内容を討議しながら、大学でのノーとの取り方を学修します。からない点はお互いに確認して理解を深めましょう。各自が講義ノートを持ちより、ノートをどのような視点でとっているのかを説明します。お互いのノートを比較しながら、学びを深めます。	テキストP.77～をよく読んで演習に臨みましょう。	4時間
第5回	**第4章本を読む―クリティカルリーディングとは、グループワーク** テキスト第4章にあるクリティカルリーディングについて理解した点、わからない点などを話合って学びを深めます。わからない点は再度、グループでポイントを読み、一緒に考えます。クリティカルリーディングは大学での本の読み方です。入学前課題（読書レポート）が返却されますので、演習で学んだことを振り返りながら、見直しします。さらに研究倫理について学びます。	テキストP.139 ～をよく読んで演習に臨みましょう。	4時間
第6回	**第7章プレゼンテーションのやり方、教員のミニ講義、グループワーク** テキスト第7章プレゼンテーションのやり方を学修します。当演習ではプレゼンテーションのツールとしてレジュメを作成します。教員が実際にレジュメを作成してミニ講義をしますので、レジュメの役割，講義内容との関係などを学修します。	レジュメの書き方をよく復習しましょう。	4時間
第7回	**保健医療における関心のあることを調べる、個人ワーク** 入学前課題（読書レポート）は「関心のある保健医療に関する本を読み、レポートする」ことでした。この課題の経験を踏まえ、現在、関心のある保健医療について調べましょう。レジュメを作成してプレゼンテーションしますので作成できるように準備しておきましょう。	調べた内容を理解し、さらに適切な情報を得ましょう。	4時間
	入学前課題（読書レポート）は「関心のある保健医療に関する本を読み、レポートする」ことでした。この課題の経験を踏まえ、現在、関心のある保健医療について調べましょう。レジュメを作成してプレゼンテーションしますので作成できるように準備しておきましょう。		
第9回	**レジュメの作成　個人ワーク** 入学前課題（読書レポート）は「関心のある保健医療に関する本を読み、レポートする」ことでした。この課題の経験を踏まえ、現在、関心のある保健医療について調べましょう。レジュメを作成してプレゼンテーションしますので作成できるように準備しておきましょう。	グループでプレゼンテーションの準備をしましょう	4時間
第10回	**レジュメを用いたプレゼンテーション（個人）　個人ワーク、グループワーク** 作成したレジュメを用いてグループ内でプレゼンテーションします。２グループに分けて、それぞれ個人でプレゼンテーションします。発表は一人5分（感想等含む）です。司会は2名が交代します。発表の方法や内容、やり方等、感想を積極的に述べてお互いの学びを深めます。	P154～をよく読んで演習に臨みましょう。「	4時間
第11回	**第8章論文、レポートをまとめる、レポート作成、グループ、個人ワーク** テキスト第8章「論文、レポートのをまとめる」について疑問点を明らかにしましょう。プレゼンテーションの内容を基盤にして、使用したレジュメや調べた資料を用いて個人でレポートにまとめていきます。レポートのタイトルは各自で考えましょう。	レポート書き方を復習しましょう。	4時間

第12回	**レポート作成　個人ワーク** テキスト第8章「論文、レポートのをまとめる」について疑問点を明らかにしましょう。プレゼンテーションの内容を基盤にして、使用したレジュメや調べた資料を用いて個人でレポートにまとめていきます。レポートのタイトルは各自で考えましょう。	レジュメの内容をレポート作成へいかしましょう。	4時間
	テキスト第8章「論文、レポートのをまとめる」について疑問点を明らかにしましょう。プレゼンテーションの内容を基盤にして、使用したレジュメや調べた資料を用いて個人でレポートにまとめていきます。レポートのタイトルは各自で考えましょう。		
第14回	**レポート提出、成蹊基礎演習Ｉのまとめ　グループワーク** 成蹊基礎演習Ｉでの学修や大学における勉強の方法や内容を振り返ります。個人ワークやグループワークから学んだことや自己の課題、気づきを考えましょう。レポート提出は担当教員に指導を受けて提出します。	成蹊基礎演習Ｉの学びを振り返りましょう。	4時間

111

授業科目名	**成蹊基礎演習２（経営）**				
担当教員名	**中井秀樹・山崎哲弘・成瀬尚志・鍛治致・澤田彩・藤田大雪・古川拓也・村田正夫・坂中勇亮・小島大輔・白濱孝之・鳥山稔・大塚康央**				
学年・コース等	1年	開講期間	後期	単位数	2
授業形態	講義＋演習				
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の概要					

授業概要

１年後期の初年次科目（必履修）として設定される本授業は、大学での学びの基礎となる「協働とコミュニケーション」の作法について学ぶことを目的としています。前期の「成蹊基礎演習１」において学んだ「協働学修の作法」や「自己理解・他者理解」について、グループワーク形式の実践を通じてより身体的に体験し、それらの認識を深めていきます。ソーシャルタッチポイントとして学外講師の講演の聴講やそれに付随する事前学修・事後学修を通じて、最終的には、授業全体の学びをもとに、自己の教育への思いを育て、将来へのビジョンを明確にすることを目指します。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. 全学DP１.幅広い教養やスキル	基礎的な大学生活で必要となる知識やスキルを学ぶ。	グループワークにおける基本の修得や汎用的スキルに関する自己理解。
2. 全学DP２.専門的知識・技能、職業理解	社会の第一線で活躍する外部講師による講演を聞く。	自己のキャリア形成について深く考察する。

汎用的な力	
1. 全学DP４.課題発見	授業での経験を通して、「協働的な学び」「聴くこと・伝えること」「自己理解・他者理解」についての自分の課題を発見・検討することができる。
2. 全学DP６.行動・実践	各活動や課題に対して、他者と協働しながら積極的かつ思慮深く参加することができる。
3. 全学DP８.意思疎通	ペアワークやグループワークに取組むにあたり、他者と対話しながら相互に意思疎通をはかり進めることができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)

・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)

・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)

・課題解決学習(PBL)

課題や取組に対する評価・振り返り

・実技・実習後、全体に向けてコメントします

・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

授業へは原則としてすべて出席してください。何らかの事情で欠席する場合は、シラバスや授業内での配布資料を参照し、自学により内容を確認し、必要な課題に取り組むようにしてください。なお、資格・免許取得に必要な科目は、単位修得に必要な授業時間数が定められている場合がありますので、注意してください。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
グループワーク	30 %	： グループワークにおけるグループ成果物の程度×貢献度で評価
提出物	40 %	： 各種提出物の体裁(文字数や書式)、各回授業におけるワークシートの記述内容（活動の目的の理解度や実践度合い）、学修ポートフォリオの記載内容によって評価する
プレゼンテーション	20 %	： スライドの出来栄え、内容、発表技術、の３点で評価する
期末レポート		： 学期末に課すレポートの内容によって、自己の成長を客観的に捉えられているか、充分な振り返りができているか等評価する

10　%

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

特になし

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：　教員に確認

場所：　西館2～4階

備考・注意事項：　担当教員のオフィスアワーは、初回授業で発表する。

授業計画		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第１回	**オリエンテーションとアイスブレイク** オリエンテーションを通して、授業の目的、授業計画、参加の仕方、課題等について理解する。 仲間づくり・チームづくりを行う。特に、自分について語ったり、自分の中のイメージを表現し共有することを学ぶ。また、他者の話を受容的に聴くことや他者を理解することの基礎を体験する。 学修ポートフォリオについて、前期で立てた目標設定を見直し、期初の目標設定を行う。	ポートフォリオを完成させる。授業での学びについて振り返りシートに記述する。	4時間
第２回	**社会への関心①　事前学修** 自分自身の将来のキャリアについて考えるために、様々なキャリアがあることを理解する。そのために、外部講師を招きキャリアについての知見を広げる。次週の外部講師講演のための事前学習を行う。	事前学習のワークシートを完成させる。	4時間
第３回	**社会への関心②　外部講師講演（キャリア形成へのアドバイス）** キャリアを幅広く捉えるために、外部講師を招き、講師のキャリアについての話を聴き、質疑応答を通して、自らが果たすべき様々な立場や役割との関連を踏まえて「キャリア形成」についての知見を広げる。	授業での学びについて振り返りシートに記述する。	4時間
第４回	**社会への関心③　事後学修・事前学習** 前回の外部講師の話を踏まえ、キャリア形成について検討するための観点についてグループで検討する。また、次週の外部講師講演のための事前学習を行う。	事前学習のワークシートを完成させる。	4時間
第５回	**社会への関心④　外部講師講演（キャリア形成とワークライフバランス）** 講師の講義を聴講して、学生自身がキャリア形成とワークライフバランスの構築に向けて考える。また、講義や講師への質疑応答を通じて、ワークライフバランスを保ちながら働くことの実情を理解する。	授業での学びについて振り返りシートに記述する。	4時間
第６回	**社会への関心⑤　事後学習** 前回の外部講師の話を踏まえ、キャリアについて検討するための観点についてグループで検討する。また、次週のプレゼン準備を行う。	授業での学びについて振り返りシートに記述する。	4時間
第７回	**社会への関心⑥　グループプレゼン** キャリアを検討するための観点についてグループごとにまとめてプレゼンする。また、学修ポートフォリオの中間評価を行う。	授業での学びについて振り返りシートに記述する。	4時間
第８回	**グループ活動①趣旨説明とグループ編成、個人目標設定** グループ活動の趣旨説明と活動目的の説明を行い、グループ編成と各々の役割と目標、グループの目標についての設定を行う グループ活動では、各ゼミで5名程度のグループを編成し、アンケート調査&報告を実施する	各グループの調査内容についての意見をまとめる。	4時間
第９回	**グループ活動②活動計画・活動テーマの決定、調査活動準備** グループ毎の調査目的と調査方法、グループ活動期間(授業外活動を含む)の活動計画についての設定を行い、グループ間の連絡方法の確認を行う アンケート調査内容についての質問項目を検討し、それぞれの質問内容（選択肢の設定等）を行う 調査項目の過不足化、質問間の関連性などの精査し、質問項目を決定する	グループで連絡を取り合いながら、個々の活動を実施していく。	4時間
第１０回	**グループ活動③調査実施**	グループで連絡を取り合いながら、個々の活動を実施していく。	4時間

	作成したアンケート調査票を基に、アンケート調査を実施する 実際のアンケートの回答を通じて、質問項目の設定の適切さや、他グループの工夫に関してもしっかりと観察を行う		
第１１回	**グループ活動④調査結果のまとめ、報告資料の作成、発表準備** アンケート調査結果についてのまとめと分析を行い、報告資料の作成及び資料を用いた発表の準備を行う 発表の予行を行い、資料の修正や内容に関する理解を深める 自分の担当箇所以外についてもしっかりと内容の理解を深め、グループでの成果を自分のものとする	グループで連絡を取り合いながら、個々の活動を実施していく。	4時間
第１２回	**グループ活動⑤調査結果報告と改善活動** 小グループでの調査報告を行う、相互評価を行い発表資料及び発表方法の向上のための意見交換を行う 評価活動を通じて、自己省察の能力を磨く	グループのプレゼンテーションを完成させる。	4時間
第１３回	**グループ活動⑥調査報告（本番）** 複数クラス共同による発表会を実施し、相互評価を行う また、グループ活動の総括を行い、自己の行動とその結果の省察を行うと同時に、自己のコンピテンシーについての評価と改善のための目標再設定を行う	授業での学びについて振り返りシートに記述する。	4時間
第１４回	**キャリアに関する理解、まとめ** キャリアに関する理解を深めるために、インターンシップ参加学生による活動報告を聴講し、職業や労働に関する関心を高め、キャリアについて考える機会を設ける。 まとめとしては、演劇的手法による学習、グループ活動における自己の学習成果についてのふりかえりを行うと同時に、活動のまとめを行う。また、学修ポートフォリオの期末評価を行う。	ポートフォリオを完成させる。授業での学びについて振り返りシートに記述する。	4時間

111

授業科目名	**成蹊基礎演習２（国際観光）**				
担当教員名	尾崎文則・原田弘之・デイヴィス恵美・樫本英之				
学年・コース等	1年	開講期間	後期	単位数	2
授業形態	講義＋演習				
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の概要					

授業概要

大学での学びの基礎となる「協働とコミュニケーション」の作法について学び、将来のキャリアに対する展望をはぐくむことを目的としています。前期の「成蹊基礎演習１」での学びをもとに、まずソーシャルタッチポイントとして学外講師の講演の聴講やそれに付随する事前学修・事後学修を通じて、社会への関心を高めていきます。そして、協働の実践としてグループワークに取り組んでいきます。グループワークを通じて、観光産業を中心とするさまざまな業界・企業・職種・必要なスキルを学びます。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. 全学DP１.幅広い教養やスキル	大学生活で必要となる基礎的な知識やスキルを学ぶ。	グループワークの基本的スキルを修得し、汎用的スキルとして活用できる
2. 全学DP２.専門的知識・技能、職業理解	社会の第一線で活躍する外部講師による講演を聞く。	自己のキャリア形成について深く考察し、将来の自分のイメージを想像できる
汎用的な力		
1. 全学DP４.課題発見		授業での経験を通して、「協働的な学び」「聴くこと・伝えること」「自己理解・他者理解」についての自分の課題を発見・検討することができる。
2. 全学DP６.行動・実践		各活動や課題に対して、他者と協働しながら積極的かつ思慮深く参加することができる。
3. 全学DP８.意思疎通		ペアワークやグループワークに取組むにあたり、他者と対話しながら相互に意思疎通をはかり進めることができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
・課題解決学習(PBL)

課題や取組に対する評価・振り返り

・実習や実技に対して個別にコメントします
・実技・実習後、全体に向けてコメントします
・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

授業へは原則としてすべて出席してください。何らかの事情で欠席する場合は、シラバスや授業内での配布資料を参照し、自学により内容を確認し、必要な課題に取り組むようにしてください。なお、資格・免許取得に必要な科目は、単位修得に必要な授業時間数が定められている場合がありますので、注意してください。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
平常点	40 %	： 授業での態度・貢献度等で評価
提出物	30 %	： 課題やワークシートの提出状況や内容で評価
グループ活動の取組（期末レポート含む）	30 %	： 授業期間の後半で行うグループ活動における、グループワークにおける貢献度や協働、取組や成果物の提出状況や内容、全体をふりかえる期末レポートで評価

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

特になし

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 初回授業時に連絡します

場所： 各教員研究室

授業計画

		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第１回	**ガイダンス** ガイダンスを通して、授業の目的、授業計画、参加の仕方、課題等について理解する。 夏休みの経験や学び等について発表しあい、他者との経験交流により知見や関心、視野を広める。 後期の学修ポートフォリオを作成する。	ふりかえり：ガイダンス	4時間
第２回	**社会への関心①　事前学習** 次週に実施する外部講師による講演に先立って、個人ワーク、グループワーク等により事前学習を行う。	ふりかえり：社会への関心①事前学習	4時間
第３回	**社会への関心①　外部講師講演** キャリアを幅広く捉えるために、外部講師を招き、講師のキャリアについての話を聴き、質疑応答を通してキャリアを検討するための知見を広げる。	ふりかえり：外部講師の講演について	4時間
第４回	**社会への関心①　事後学習・事前学習** 外部講師の話を踏まえ、キャリアについて検討するための観点についてグループで検討する。また、次週の外部講師講演のための事前学習を行う。	ふりかえり：社会への関心①事後学習、社会への関心②事前学習	4時間
第５回	**社会への関心②　外部講師講演** キャリアを幅広く捉えるために、外部講師を招き、講師のキャリアについての話を聴き、質疑応答を通してキャリアを検討するための知見を広げる。	ふりかえり：外部講師の講演	4時間
第６回	**社会への関心②　事後学習、PBLオリエン** 外部講師の話を踏まえ、キャリアについて検討するための観点についてグループで検討する。 また、後期の基礎演習で取り組むPBL（課題解決学習）の概要についてオリエンテーションを実施する。	ふりかえり：社会への関心②事後学習	4時間
第７回	**PBL：①ウォームアップ** 次週から始まるPBLの前段として、将来の自分のキャリアを考えるワークを行う。 具体的にはOHBYカードを用いたキャリアディスカッションや、2年次/3年次/4年次に向けたキャリアプランニングのロードマップについて考えていく。	ふりかえり：キャリア検討ワーク	4時間
第８回	**PBL：②活動計画、情報収集** グループ活動の趣旨説明と活動目的の説明を行い、グループ編成と各々の役割と目標、グループの目標についての設定を行う。 グループ活動では、各ゼミで5名程度のグループを編成し、ヒアリングや文献調査などリサーチ活動＆報告を実施する検討テーマについては、観光関連の業界・企業・職種・スキルなどの発表を想定する。	グループで連絡を取り合いながら、個々の活動を実施していく	4時間
第９回	**PBL：③情報収集、分析・考察** グループ毎に情報収集を行い、情報の分析・考察を行う。	グループで連絡を取り合いながら、個々の活動を実施していく	4時間
第１０回	**PBL：④発表資料作成** 前週までに行った情報に基づき、発表資料を作成する。	グループで連絡を取り合いながら、個々の活動を実施していく	4時間
第１１回	**PBL：⑤発表資料作成、プレゼンテーション練習** 発表資料を完成させ、プレゼンテーションのリハーサルを行う。	グループで連絡を取り合いながら、個々の活動を実施していく	4時間
第１２回	**PBL：⑥プレゼンテーション（前半）** グループ毎にプレゼンテーションを行うとともに、学生同士による相互評価を行う。	グループで連絡を取り合いながら、個々の活動を実施していく	4時間
第１３回	**PBL（課題解決学習）：⑦プレゼンテーション（後半）**	グループで連絡を取り合いながら、個々の活動を実施していく	4時間

	グループ毎にプレゼンテーションを行うとともに、学生同士による相互評価を行う。		
第１４回	**まとめ** PBL全体を振り返り、将来のキャリアに対する意識を深める。また、学修ポートフォリオの期末評価を行い内省の機会を設ける。	授業全体をふりかえり、ポートフォリオを作成する	4時間

111

授業科目名	**成蹊基礎演習２（芸術）**				
担当教員名	**大手裕子・山中コ～ジ・新規専任教員**				
学年・コース等	1年	開講期間	後期	単位数	2
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	山中コ～ジ：2004年～現在「GENETO一級建築士事務所」代表（全14回）。				

授業概要

本科目は、大学における協働的学びの基礎をつくります。まず、参加型ワークショップ形式で、聴くこと・伝えることについての作法・技術を学び、併せて自己理解・他者理解を深めます。次に、これらの学びを応用しながら、 PBL（Project-Based Learning）：課題解決型学修などに求められる役割理解、連携行動、総合理解といった能力を醸成します。その結果として、物事の本質を理解する能力、あるいは自己効力感といったコンピテンシーへと繋がる人間力教育の礎となることを目指します。
具体的な課題として、前半は劇形式の作品を制作し　発表、後半は広報物の作成とプレゼンテーションをグループワークで行います。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. 全学DP１.幅広い教養やスキル	「協働的な学び」「働くこと・伝えること「自己理解・他者理解」に関する技能	協働的な学びより、役割理解、連携行動、情報共有、相互支援をすることができる。
2. 全学DP３.専門的知識・技能を実践で応用する力	協働的な学びから、情報を共有し、信頼関係を構築する、参加型ワークショップを実践していく。	多様性を理解し、気配り、共感して受容する素養を育み、社会生活を営むにたる親和力を身に付けている。
汎用的な力		
1. 全学DP４.課題発見		協働学修を通して、情報収集、情報共有のプロセスを経ることで物事の本質を理解し、課題を発見する素養を身につけている。
2. 全学DP６.行動・実践		参画型ワークショップを通し、実践して行動する素養を育み、その結果として修正、調整力といった次へと繋がる能力を身につけている。
3. 全学DP９.役割理解・連携行動		ペアワーク、グループワークを通し、共感、受容といった対人基礎力を育み、意思疎通を図ることができる親和力を身に付けている。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
・問答法・コメントを求める
・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
・シミュレーション型学習(ロールプレイ、ゲーム型学習など)

課題や取組に対する評価・振り返り

・実技・実習後、全体に向けてコメントします
・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

授業へは原則としてすべて出席してください。何らかの事情で欠席する場合は、シラバスや授業内での配布資料を参照し、自学により内容を確認し、必要な課題に取り組むようにしてください。なお、資格・免許取得に必要な科目は、単位修得に必要な授業時間数が定められている場合がありますので、注意してください。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
振り返りシート	40 %	： 参加型ワークショップが主体となるため、時間内の学び、課題、今後に活かせる事の中心として振り返るを行い、内容を評価する。
成果発表（プレゼンテーション）	30 %	： 学修成果を発揮する機会として、プレゼンテーションの機会がある。プレゼンテーションのルーブリックに則り評価する。

中間レポート	:	中間地点での学修成果としてレポートを課す。授業における養うべき素養に沿う内容であることを基準とし、その中に独自の見解で所見の展開があれば加点項目とする。
10 ％		
最終レポート	:	最終レポートを課す。授業での学びの視点と、2年生以降の学生生活における目標設定と行動計画を作成する。授業目的に沿って記載されている事を基準とし、独自の視点での深い考察があれば加点項目とする。
20 ％		

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

必要に応じて、授業内で紹介する。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は２単位の科目であるため、平均すると毎回5時間程度の授業外学修が求められる。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

備考・注意事項： 山中コ～ジ：水曜３限　東館2階研究室
大手裕子：金曜３限　南館2階総合研究室

授業計画		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第１回	**オリエンテーションとアイスブレイク** ①オリエンテーション（授業の目的、授業計画、参加の仕方、課題の理解）。 ②言葉を用いての小グループでの活動、また、自分について語る活動などを通して、自分の中のイメージを表現し共有することを学ぶ。また、他者の話を受容的に聴くことや他者を理解することの基礎を体験する。 ③学修到達度目標の理解	授業での経験を振り返り、自身にとっての意味、変化などを記録する。	5時間
第２回	**協働とコミュニケーション** ①具体的なものや抽象的なものを身体を使って表現し、他者に伝えることを学ぶ。 ②一つのものを表現するのに、多様な表現方法があることを学ぶことで、表現や意味の多様性を知る。 ③他者と協働し一つのイメージを表現することで、他者との協働について学ぶ。	授業での経験を振り返り、協働することに対する自信の考え、意識の変化について記録する。	5時間
第３回	**受容と応答から協働へ－その表現の可能性－** ①自分の中のイメージを身体を通して或いは描くこと等によって表現することで、表現のあり方について学ぶ。 ②他者の表現を否定せずに受け取ることで、受容性について学ぶ。 ③他者の表現に対して、即興かつ自由に応答することで、即興性を養う。 ④他者との協働によって生まれた表現を振り返り、その可能性についてグループで共有する。	授業での学びについて振り返り、受容しそれに応えることについて、自身の考え、気付きを記録しておく。	5時間
第４回	**協働による演劇的表現に向けての準備　－「私の大切なもの」からストーリーへ－** ①話を相手に伝えるための話し方（表現方法）を考えることで、しっかり使えることについて、また、自分のことを語ることについて学ぶ。 ②話の伝え方、伝わり方は多様であることを知ることで、個の多様性を認識する。 ③他者の「私の大切なもの」の話を互いに共有することを学ぶ。 ④演劇的な発表形態の中からグループごとに方法を選び（劇、ペープサート劇、スライドなどを利用した映像的手法等から）ストーリ―について話し合う。	授業での学びについて振り返るとともに、演劇的表現による発表の準備について記録しておく	5時間
第５回	**協働による演劇的表現に向けての準備　―役割分担―** ①プロット・シナリオはチームで協働し、演者、配役、発表者、資料作成者、等々の各自の仕事（役割）を考えていく。 ②役割分担をチームで考え、成果発表の準備を行う。 ③成果発表までのスケジュール管理。	発表に向けて決まったこと、各役割の分担内容、各担当が進めた成果について、記録と検証を行う	5時間
第６回	**発表準備・リハーサル**	これまでの協働作業について振り返り、その成果、問題点などについて記録しコメントを記述しておく。	5時間

	①成果発表の準備 ②発表に必要な制作物のための作業、プレゼンのリハーサルなどの準備。 ③グループによる成果物を協働で表現することを通してチームワークのあり方やその大切さを学ぶ。		
第７回	**演劇的表現による成果物の発表** ①チームごとに、演劇的表現の発表を行う。 ②発表を振り返り、制作上の工夫や、その成果、グループワークの経過と成果などについて互いに評価する。 ③発表の記録、評価シートへ、成果の内容をまとめる。	前半の授業を振り返り、「協働」「演劇的手法による発表」について、中間レポートを作成する。	5時間
第８回	**採用パンフレット制作計画：聴き方と話し方** ①7コマを使いチームで採用パンフレットを制作する目標設定。 ②グループワークのための２種類のコミュニケーションの理解。 ③グループワークと配布資料の理解（上手に伝えるポイント・上手に聴くポイント）。 ④振り返り（学修到達度目標の中間進捗確認とフィードバック）	コミュニケーションの重要性について 、「伝え方」と「聴き方」のポイントを整理する。	5時間
第９回	**採用パンフレット計画：ブレインストーミング** ①企業の採用パンフレットの考察から就職の基本用語に触れる ②魅力的な採用パンフレットを考える。 ③アイデアだし（ブレインストーミング） ④行動計画（スケジュール・各自の連絡・情報収集）	採用パンフレットを製作するための情報収集を行う。	5時間
第１０回	**採用パンフレット計画：アサーショントレーニング** ①３種類のコミュニケーションの体験（ペアワーク）。 ②言葉以外のコミュニケーションを学ぶ。 ③アサーショントレーニング。 ④振り返り（上手くいったこと、上手くいかなかったこと、これから活かすこと）。	アサーショントレーニングで実践したことを、生活の中でも実践する。	5時間
第１１回	**採用パンフレット計画：仕事に必要な情報収集** ①グループワーク（魅力的感じる情報とは何か）。 ②情報のリストアップ（インターネットネット、書籍、人、その他）。 ③グループでの製作物のコンセプトを考える。	採用パンフレットを作製するために必要な専門知識の中で、理解できない事柄やキーワードを収集する。	5時間
第１２回	**作用パンフレット：アウトプットするスキル** ①大阪成蹊カップの動画視聴 ②振り返り（チーム学修・個人ワーク） ③課題の提示	本日の学びを最終成果発表へ向けた準備とする。	5時間
第１３回	**成果発表準備：協働するプレゼンテーション** ①準備をするポイントの確認（行動計画と役割分担）。 ②プレゼンのストーリー構築（PREP法）。 ③本番当日のポイントの確認（プレゼンのストーリーの最終確認）。	採用パンフレットの完成へ向けて、業務の分担をし作業を進める。	5時間
第１４回	**成果発表：プレゼンテーションと総括** ①協働とコミュニケーションについての振り返り(学修到達度評価の最終確認) ②PDCAを意識した行動計画書の作成。 ③行動計画書に則った目標を立てる（学生生活でやりたいこと（２年生―３年生―４年生））。	プレゼンテーションの振り返りを行ない、今後の自身の役割について、さらに考察する。	5時間

111

授業科目名	**成蹊基礎演習２（教育）**				
担当教員名	**寳學淳郎・惟任泰裕・池内昌美・小林志保・石田貴子・鈴木克彦・宮﨑大樹・園田育代・野上展子**				
学年・コース等	1年	開講期間	後期	単位数	2
授業形態	講義＋演習				
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の概要					

授業概要

アクティブラーニング応用科目として設定される本授業は、大学での学びの基礎となる「協働とコミュニケーション」の作法について学ぶことを目的としています。前期の「成蹊基礎演習１」において学んだ「協働学修の作法」や「自己理解・他者理解」について、ここでは「演劇的手法」などを用いた参加型ワークショップ形式の実践を通じてより身体的に体験し、それらの認識を深めていきます。また、学校・園での実地体験を行い、学校・園における現状を理解するとともに自らのキャリアについて展望することを目指します。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. 全学DP２.専門的知識・技能、職業理解	「協働的な学び」「聴くこと・伝えること」「自己理解・他者理解」に関する理解。教育実践の分析および自己のキャリア構想。	授業での活動をもとに、「協働的な学び」「聴くこと・伝えること」「自己理解・他者理解」についての理解を深める。 日常の教育実践を客観的に捉えるとともに教育を志す者として、自分のあり方を考えることができる
2. 全学DP３.専門的知識・技能を実践で応用する力	「協働的な学び」「聴くこと・伝えること」「自己理解・他者理解」に関する技能の応用。	「協働的な学び」「聴くこと・伝えること」「自己理解・他者理解」についての技能を具体的な実践の中で応用することができる。
汎用的な力		
1. 全学DP４.課題発見		「協働的な学び」「聴くこと・伝えること」「自己理解・他者理解」についての自分の課題を発見・検討することができる。 フィールドワークで体験した事柄から、探求したいテーマを見つけることができる。
2. 全学DP６.行動・実践		各活動や課題に対して、他者と協働しながら積極的かつ思慮深く参加することができる。
3. 全学DP８.意思疎通		ペアワークやグループワークに取組むにあたり、他者と対話しながら相互に意思疎通をはかり進めることができる。

学外連携学修

有り(連携先：見学先小学校・中学校・幼稚園)

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)

・実験、実技、実習

・問答法・コメントを求める

・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)

・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)

・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)

・見学、フィールドワーク

課題や取組に対する評価・振り返り

・実習や実技に対して個別にコメントします

・実技・実習後、全体に向けてコメントします

成績評価

注意事項等

授業へは原則としてすべて出席してください。何らかの事情で欠席する場合は、シラバスや授業内での配布資料を参照し、自学により内容を確認し、必要な課題に取り組むようにしてください。なお、資格・免許取得に必要な科目は、単位修得に必要な授業時間数が定められている場合がありますので、注意してください。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
授業への参加	30 %	： 授業への参加意欲や学びあいの姿勢および課題への取組みを評価する。

ワークシート : ふりかえりシートや校・園見学での観察記録等を、授業における学びの内容について深く分析・考察できているかという点から評価する。

40 %

期末レポート : 授業での学びや校・園見学を省察し、自分の課題を分析・考察するとともに学校・園についての理解を深め、自己のキャリアを展望できているかという点について評価する。

30 %

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

特になし

履修上の注意・備考・メッセージ

本授業は２単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められます。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 各教員によって異なる

場所： 各教員によって異なる

備考・注意事項： 第1回目の授業時に詳細を周知する。

授業計画		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**オリエンテーションとアイスブレイク** オリエンテーションを通して、授業の目的、授業計画、参加の仕方、課題等について理解する。 仲間づくり・チームづくりを行う。特に、自分について語ったり、自分の中のイメージを表現し共有することを学ぶ。また、他者の話を受容的に聴くことや他者を理解することの基礎を体験する。	授業での学びについて振り返りシートに記述する。	4時間
第2回	**協働体験** 相手にきちんと伝えることや他者への応答について学ぶ。また、他者のことを配慮しながら行動することや集団で協働して目標を達成することを学ぶ。	授業での学びについて振り返りシートに記述する。	4時間
第3回	**協働の大切さについて** 他者とイメージを協働で表現することを通し、他者との協働について学ぶ。 これまでのワークの体験を省察し、協働について認識を深めるとともにその大切さを学ぶ。	授業での学びについて振り返りシートに記述する。	4時間
第4回	**伝えること・聞くこと** 自分の声に思いをのせることや他者を意識して声を発することについて学ぶ。また、他者の声や呼びかけを受けとめることについて学ぶ。さらに、他者との協働的会話のあり方について学ぶ。	授業での学びについて振り返りシートに記述する。「わたしの大切なもの」をテーマとする語りの準備をする。	4時間
第5回	**コミュニケーション実践①：わたしの物語** 「わたしの大切なもの」の話を共有することで、自分の思いを他者へ伝えることを学ぶとともに自己理解を深める。また、他者の話を深く聴くことを通し、他者理解に関する認識を深める。さらに活動を通し、個の多様性を認識する。	授業での学びについて振り返りシートに記述する。	4時間
第6回	**コミュニケーション実践②：台本作りとリハーサル** グループで劇をつくり、それを協働で表現することを通してチームワークのあり方やその大切さを学ぶ。	授業での学びについて振り返りシートに記述する。グループ発表の準備を行う。	4時間
第7回	**コミュニケーション実践③：発表会** グループごとに劇発表を行う。それらの体験を省察し、チームワークの大切さを学ぶ。	授業での学びについて振り返りシートに記述する。	4時間
第8回	**校・園見学の課題づくり** 「協働的な学び」「聴くこと・伝えること」「自己理解・他者理解」という視点を中心に、これまでの授業での学びや自身の経験を振り返り、教育への思いや自己の教育観を交流する。その上で学校・園見学の観察の視点を明確にする。	観察の視点に沿って、具体的な見学計画を作成する。	4時間
第9回	**校・園見学の事前準備** 学校・園見学の実施計画や留意点など、学校・園見学の流れを理解する。また、観察の手法や記録の取り方について学ぶ。	ネット等で見学校・園の情報を入手し、事前学習を行う。	4時間

第10回	**校・園見学①：１校・園目** １つ目の校・園見学を実施し､計画に沿って参観、観察する。	参観、観察結果を簡潔にまとめる。	4時間
第11回	**校・園見学②：２校・園目** 前回の見学の省察を踏まえ、２つ目の校・園目見学を実施し､計画に沿って参観、観察する。	参観、観察結果を簡潔にまとめる。	4時間
第12回	**校・園見学の省察と見学成果の交流** 校・園見学で得た知見と考察をまとめる。見学成果の交流を行う。	見学成果の交流を踏まえて、自らの体験を考察する。	4時間
第13回	**発表準備** 校・園見学を省察し、授業前半で学んだ「協働的な学び・聴くこと・伝えること」についての作法・技術を活用しながら、グループでプレゼンテーションの準備を行う。	グループプレゼンテーションの構想・準備の続きを行う。	4時間
第14回	**発表・交流** クラス内で、校・園見学での学びについてプレゼンテーション・交流を行う。それらを通して、学校・園についての理解を深め、自己のキャリアを構想する。	プレゼンテーション・交流を振り返り、学校・園についての学びを深める。	4時間

111

授業科目名	**成蹊基礎演習２（データサイエンス）**				
担当教員名	**鎌原淳三・笠原秀一・山西輝也**				
学年・コース等	1年	開講期間	後期	単位数	2
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	笠原：通信事業者での経営企画、事業開発、管理会計などバックオフィス業務全般と法人・官公庁営業。京都大学における研究成果還元型AIベンチャーの会社設立および継続に関わる業務全般。全回で演習指導を行う。				

授業概要

アクティブラーニング応用科目として設定される本授業では、大学での学びの基礎となる「協働とコミュニケーション」の作法について学ぶ。また、前期の「成蹊基礎演習１」において学んだ「協働学修の作法」や「自己理解・他者理解」について、ここでは「評価グリッド法」を用いたペアインタビューの実践を通じて体験し、それらの認識を深める。さらに、外部講師の講演からIT企業の現状を理解するとともに自らのキャリアについて展望することを目指す。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1.		

汎用的な力

1. DP６.他者とのコミュニケーション	他者の意図を適切に理解し、自分自身の考えを分かりやすく表現することができる。
2. DP７.他者との協調・協働	他者へのインタビューを通じて可視化した評価構造をもとに、アンケート調査内容についての質問項目を検討し、アンケートの実施、表計算ソフト(Excel)などを用いた結果の分析ができる。
3. DP８.忠恕の心	協働しながら主体的に関わり、共通の目標に向かって自身の役割を完遂できる。そして協働学修を通じて意見集約・可視化・共有ができ、まとめとプレゼンテーションがグループでできる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
・実験、実技、実習
・問答法・コメントを求める
・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
・見学、フィールドワーク

課題や取組に対する評価・振り返り

・実習や実技に対して個別にコメントします
・実技・実習後、全体に向けてコメントします
・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

授業へは原則としてすべて出席してください。何らかの事情で欠席する場合は、シラバスや授業内での配布資料を参照し、自学により内容を確認し、必要な課題に取り組むようにしてください。なお、資格・免許取得に必要な科目は、単位修得に必要な授業時間数が定められている場合がありますので、注意してください。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
授業への積極参画度	30 %	： 授業ごとのアンケートにおける内容と、授業での質問・発言などから授業に対する参画と貢献で評価
提出物	40 %	： 提出ワークシートの内容で評価
グループワークとプレゼンテーション	15 %	： グループワークにおけるグループ成果物と貢献、発表会でのプレゼンテーションで評価

期末レポート　　：　学期末に課すレポートの内容によって評価

15　％

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

授業中に指示する。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められます。実践的な学びを通して、自己と他者の理解・協働の力を養うため、積極的な授業参加を望みます。「養うべき力と到達目標」に記載しているように本授業科目については、他者との対話を通じて協調・協働を到達目標としてます。そのため少人数グループでの討論や作業を主体とした授業を展開します。従って、グループワークでの積極的な参加は学習成果を上げるうえでも重要な要素であり、評価もここを重視します。評価にあたっては、複数の教員が議論の様子を観察する中で発言頻度やグループへの貢献度などを厳密に測定します。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：　鎌原 月曜4時限、笠原 火曜3時限（後期）、山西 月曜5時限

場所：　各担当教員研究室

授業計画

		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**オリエンテーションとアイスブレイク** オリエンテーションを通して、授業の目的、授業計画、参加の仕方、課題等について理解する。仲間づくり・チームづくりを行う。特に、自分について語ったり、自分の中のイメージを表現し共有することを学ぶ。また、他者の話を受容的に聴くことや他者を理解することの基礎を体験する。	Udemyからコミュニケーションに関する動画を見て内容をまとめる。	4時間
第2回	**社会への関心①　事前学修** 自分自身の将来のキャリアについて考えるために、様々なキャリアがあることを理解する。そのために、外部講師（日本アイ・ビー・エムなど）を招きキャリアについての知見を広げる。また、次週の外部講師講演のための事前学習を行う。	Udemyからキャリアに関する動画を見て内容をまとめる。	4時間
第3回	**社会への関心①　外部講師講演** キャリアを幅広く捉えるために、外部講師を招き、講師のキャリアについての話を聴き、質疑応答を通してキャリアを検討するための知見を広げる。	外部講師による講演を振り返り、その内容をまとめる。	4時間
第4回	**社会への関心①　事後学修・事前学習** 外部講師の話を踏まえ、キャリアについて検討するための観点についてグループで検討する。また、次週の外部講師（自治体職員など）講演のための事前学習を行う。	Udemyからキャリアに関する動画を見て内容をまとめる。	4時間
第5回	**社会への関心②　外部講師講演** キャリアを幅広く捉えるために、外部講師を招き、講師のキャリアについての話を聴き、質疑応答を通してキャリアを検討するための知見を広げる。	外部講師による講演を振り返り、その内容をまとめる。	4時間
第6回	**社会への関心②　事後学習** 外部講師の話を踏まえ、キャリアについて検討するための観点についてグループで検討する。	Udemyからグループ討論に関する動画を見て内容をまとめる。	4時間
第7回	**社会への関心③　ペアインタビュー実践** キャリアに対する評価構造を可視化するために評価グリッド法を用いた実践をグループごとに行い、結果をプレゼンする。評価グリッド法に先立っての質問は、２つのキャリアを例示し、「どちらのキャリアがより好ましいと思いますか？」とする。	評価グリッド法について調べ、そのソフトであるE-Gridの操作を理解する。	4時間
第8回	**グループ活動①　趣旨説明とグループ編成、個人目標設定** グループ活動の趣旨説明と活動目的の説明を行い、グループ編成と各々の役割と目標、グループの目標についての設定を行う。グループ活動では、各クラスで5名程度のグループを編成し、アンケート調査＆報告を実施する。	Udemyからコミュニケーションに関する動画を見て内容をまとめる。	4時間
第9回	**グループ活動②　活動計画・活動テーマの決定、調査活動準備** グループごとの評価構造を統合し、クラス単位の評価構造に統合する。評価構造を参照しながらアンケート調査内容についての質問項目を検討し、それぞれの質問内容（選択肢の設定等）の設計を行う。	UdemyからGoogle Formについての動画（前半部分）を見て操作を理解する。	4時間
第10回	**グループ活動③　調査実施**	UdemyからGoogle Formについての動画（後半部分）を見て操作を理解する。	4時間

	Google Formで作成したアンケート調査票を基に、アンケート調査を実施する。実際のアンケートの回答を通じて、質問項目の設定の適切さや、他グループの工夫に関してもしっかりと観察を行う。		
第11回	**グループ活動④　調査結果のまとめ、報告資料の作成、発表準備** Excelを用いて、アンケート調査結果についてのまとめと分析を行い、報告資料の作成及び資料を用いた発表の準備を行う。発表の予行を行い、資料の修正や内容に関する理解を深める自分の担当箇所以外についてもしっかりと内容の理解を深め、グループでの成果を自分のものとする。	グループで連絡を取り合いながら各自の役割と作業を進める。	4時間
第12回	**グループ活動⑤　調査結果報告と改善活動** 小グループでの調査報告を行う、相互評価を行い発表資料及び発表方法の向上のための意見交換を行う。評価活動を通じて、自己省察の能力を磨く。	グループで連絡を取り合いながら各自の役割と作業を進める。	4時間
第13回	**グループ活動⑥　調査報告(本番)** 複数クラス共同による発表会を実施し、相互評価を行う。また、グループ活動の総括を行い、自己の行動とその結果の省察を行うと同時に、自己のコンピテンシーについての評価と改善のための目標再設定を行う。	グループで連絡を取り合いながら各自の役割と作業を進める。	4時間
第14回	**キャリアに関する理解、まとめ** キャリアに関する理解を深めるために、インターンシップ参加学生による活動報告を聴講し、職業や労働に関する関心を高め、キャリアについて考える機会を設ける。まとめとしては、グループ活動における自己の学習成果についての振り返りを行うと同時に、活動のまとめを行う。	協働とこれまでのコミュニケーションを振り返り、考察する。	4時間

111

授業科目名	**成蹊基礎演習２（看護）**				
担当教員名	**山本純子・吾妻知美・田中登美・飯尾祐加・北島謙吾・近田真美子・近藤純子・矢野芳美**				
学年・コース等	1年	開講期間	後期	単位数	2
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	担当教員全員が看護師実務経験者であり、一部教員は保健師実務経験者、助産師実務経験者である。				

授業概要

大学での学びの基礎として重要な「協働とコミュニケーション」について、体験し学びを深めることを目的とする。前期の「成蹊基礎演習１」において学んだ「共に学ぶために必要な協力」、「自己理解や他者理解」について様々な社会的かつ看護にも共通する課題等を取り上げて、グループワーク形式の実践を通じて、さらに認識を深める。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. DP1.人の立場に立って考え行動する高い倫理観と共感性を備え、看護学の科学的知識と実践能力を持ち、自立して看護を実践し看護学の発展に寄与することができる	看護学生としての基礎的なアカデミックスキル、スチューデントスキルを身につける。	情報収集の方法、情報リテラシーなどの主体的に学ぶ知識・技術を身につける。
汎用的な力		
1. DP3.地域の特徴や地域で生活する様々な世代の人々の健康課題を理解し、また他の医療専門職者と協働して健康課題を持つ人々への看護支援ができる		論理的に発言する、他社の意見を理解しグループ内で意見交換をすることができる。
2. DP1.人の立場に立って考え行動する高い倫理観と共感性を備え、看護学の科学的知識と実践能力を持ち、自律して看護を実践し看護学の発展に寄与することができる		社会ルールやマナーを遵守する姿勢、社会人としての自立を学ぶ。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)

・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)

・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

・実技・実習後、全体に向けてコメントします

・提出物にコメント・評価をつけて返却します

・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

授業へは原則としてすべて出席してください。何らかの事情で欠席する場合は、シラバスや授業内での配布資料を参照し、自学により内容を確認し、必要な課題に取り組むようにしてください。なお、資格・免許取得に必要な科目は、単位修得に必要な授業時間数が定められている場合がありますので、注意してください。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準	
演習への参加	30 %	:	演習への参加意欲や学びあいの姿勢について評価する。また、演習を通した自らの発見・検討のあり方について評価する。
期末レポート	70 %	:	14回の演習を振り返り、看護を学ぶ者としての目標設定と学修計画が立てられ、アカデミックスキルの学びが反映されていることを評価する。

使用教科書

指定する

著者	タイトル	出版社	出版年
慶応義塾大学出版会	・ アカデミック・スキルズ第3版	・ 慶応義塾大学出版会	・ 2020 年

参考文献等

南田勝也他　ゼミで学ぶスタディスキル第3版　北樹出版,2017

履修上の注意・備考・メッセージ

原則として毎回出席すること。規程回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を行わない。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： オフィスアワーは初回授業時に連絡します

備考・注意事項： オフィスアワーを活用してください。なお、各教員によって異なりますので、初回授業で連絡する。

授業計画

		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**全体ガイダンス　基礎演習ⅠとⅡの違い　グループワーク** 成蹊基礎演習Ⅱの学修目的・目標、開講する意義、グループ編成、演習予定等を説明する。また、今回、プレゼンテーションはパワーポイントを使用し、発表時間も長くなり、成蹊基礎演習Ⅰよりも深く学修する。テキスト第7章の内容を復習し、理解する。 基礎演習Ⅰのレポートを返却します。	教科書第７章を復習しておきましょう。	4時間
第2回	**第７章プレゼンテーションのやり方　グループ課題と発表準備** 教科書の内容を確認し、さらにグループ課題を進めるための知識をもつ。課題「パンデミック」に関連したことをグループで決定する。パンデミックで影響された医療の変化、人々の生活の変化、看護職の役割、WHOの役割、世界の保健医療の連携等を考える。グループ内で発表準備を進める。	COVID-19の影響を考えてみましょう。	4時間
第3回	**グループ課題の発表準備　文献検索　情報収集・分析** 課題「パンデミック」に関連したことをグループで決定する。パンデミックで影響された医療の変化、人々の生活の変化、看護職の役割、WHOの役割、世界の保健医療の連携等を考える。グループ内で発表準備を進める。	COVID-19の影響を考えてみましょう。	4時間
	課題「パンデミック」に関連したことをグループで決定する。パンデミックで影響された医療の変化、人々の生活の変化、看護職の役割、WHOの役割、世界の保健医療の連携等を考える。グループ内で発表準備を進める。学内図書館から医中誌、最新看護索引、CiNii等を検索する。		
第5回	**グループ課題の発表準備　文献検索　情報収集・分析** パンデミックで影響された医療の変化、人々の生活の変化、看護職の役割、WHOの役割、世界の保健医療の連携等を考える。グループ内で発表準備を進める。学内図書館から医中誌、最新看護索引、CiNii等を検索する。レジュメ、パワーポイントの準備をしましょう。	パワーポイントの作成について学習しましょう。	4時間
第6回	**グループ課題の発表準備　文献検索　情報収集・分析** パンデミックで影響された医療の変化、人々の生活の変化、看護職の役割、WHOの役割、世界の保健医療の連携等を考える。グループ内で発表準備を進める。学内図書館から医中誌、最新看護索引、CiNii等を検索する。次回の発表に向けてレジュメ、パワーポイントの準備と役割を決定します。	グループ発表のためのパワーポイントを作成しましょう。	4時間
第7回	**グループ課題の発表** 2グループで発表します。必ずパワーポイントを使用します。事前にレジュメを配布しておきます。発表時間は20分（発表10分、質疑応答10分）です。	発表の振り返りをして今後の課題を見つけましょう。	4時間
第8回	**個人の課題テーマの決定　文献検索、情報収集・分析** 個人で関心のある「看護」に関連するテーマを決め、文献検索、情報収集・分析して発表準備を進めましょう。	これまでの学修から看護を考えてみましょう。	4時間
	個人で関心のある「看護」に関連するテーマを決め、文献検索、情報収集・分析して発表準備を進めましょう。		
	個人で関心のある「看護」に関連するテーマを決め、文献検索、情報収集・分析して発表準備を進めましょう。発表時の枠割分担を決めておきましょう。		
第11回	**個人課題の発表　課題レポート作成　第8章論文・レポートをまとめる** 個人で関心のある「看護」に関連するテーマについて、文献検索、情報収集・分析して準備した資料に基づき発表します。パワーポイントを使用して発表します。発表時間は10分（発表5分、質疑応答5分）です。 発表終了後はレポート課題「大学で看護学を学ぶということ」について準備しましょう。 第8章「論文・レポートをまとめる」をよく読んで復習しましょう。	教科書第8章を復習しておきましょう。	4時間
	個人で関心のある「看護」に関連するテーマについて、文献検索、情報収集・分析して準備した資料に基づき発表します。パワーポイントを使用して発表します。発表時間は10分（発表5分、質疑応答5分）です。 発表終了後はレポート課題「大学で看護学を学ぶということ」について準備しましょう。 第8章「論文・レポートをまとめる」をよく読んで復習しましょう。		

第13回	**課題レポートの作成　個人ワーク** 基礎演習Ⅱ課題レポート「大学で看護学を学ぶということ」を作成します。	課題レポートを作成しましょう。	4時間
第14回	**課題レポート提出、成蹊基礎演習Ⅱのまとめ** 基礎演習Ⅱ課題レポート「大学で看護学を学ぶということ」を作成して担当教員に提出します。また、成蹊基礎演習Ⅱのまとめをします。自分の学びについて振り返り、今後の課題を確認しましょう。	成蹊基礎演習Ⅱの振り返りと学びを考えてみましょう。	4時間

111

授業科目名	**スタディスキルズ１（経営）**				
担当教員名	鍛治致・藤田大雪・海野大・成瀬尚志・澤田彩・坂中勇亮・白濱孝之・大塚康央・小島大輔				
学年・コース等	1年	開講期間	前期	単位数	2
授業形態	講義＋演習				
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の概要					

授業概要

大学では、専門分野について深く学ぶとともに、市民として社会に自覚的に賢く参画する力を育てることも大切です。本科目では、社会の問題に目を向け、多様な意見や資料を収集し、自分で考え、主張を伝えることを目標に、社会人として通用する電子メールの書き方、PCによるレポートやプレゼンテーション資料の作成技法などを実践的に学びます。受講者には、資料の収集方法とそれらの評価方法、引用方法、論理的な文章構築法を習得して、社会の問題について、合理的な、おもいやりある問題解決ができるようになることが求められます。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. 全学DP１.幅広い教養やスキル	社会問題の分析・報告	資料を正しく読み解いて理解・吸収した上で、1600字程度のレポートを正しい作法で執筆できる。パワーポイントを使って５分程度のプレゼンテーションができる。
汎用的な力		
1. 全学DP４.課題発見		社会の問題に目を向け、多様な意見や資料を収集し、自分で考え、主張を立てることができる。
2. 全学DP８.意思疎通		社会の問題に関して、自分の「意見」を整理してわかりやすく口頭発表したり、レポートとしてまとめたりすることができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)

・問答法・コメントを求める

・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)

・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)

・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

・提出物にコメント・評価をつけて返却します

・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

授業へは原則としてすべて出席してください。何らかの事情で欠席する場合は、シラバスや授業内での配布資料を参照し、自学により内容を確認し、必要な課題に取り組むようにしてください。なお、資格・免許取得に必要な科目は、単位修得に必要な授業時間数が定められている場合がありますので、注意してください。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
授業への取り組み	40 %	：①ワークシートの取り組み状況、②授業への参加度（グループでの話し合いへの参加状況、発言など）、③プレゼンテーション（内容、話し方、提示資料）
中間レポート	30 %	：レポートの形式、わかりやすさ、論理的構成力、情報の整理・要約などについて評価する。
試験（レポート）	30 %	：社会問題に関して最も興味を持ったテーマを一つ設定して調べ、整理・要約し、考察し、結論を導き出す。レポートの形式、テーマに関する理解、全体構成、について評価する。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

参考文献などは授業中に紹介します。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。遅刻厳禁。提出物は期限を守ること。他者と協力して気持ちよく学べるよう努力すること。欠席してしまった場合、次回までに、担当教員等から課題をうけとり、指示をうけること。プレゼンテーションの日は絶対に遅刻せず、必ず出席すること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：　各授業でお知らせします

場所：　各担当教員の研究室

備考・注意事項：　変更がある場合は授業でお知らせします。

授業計画		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**（ユニット1）数量データを用いたレポート―情報リテラシーの基礎** 大学で課されるレポートや論文がどのようなものかを確認する。 各ユニットの説明および、本授業の目標（数量データや文字データを参照しながら考察するレポート）について。 ユニット1では数量データを扱うため、情報リテラシーに関する基礎的なスキルについて確認する。	授業内で課された情報リテラシーに関する基礎的なスキルについての課題を完成させる。	4時間
第2回	**（ユニット1）数量データを用いたレポート―図表の作成** 数量データを用いたレポートを書く準備として、グラフを作成する。 国勢調査データにアクセスし、指定されたエクセルで表とグラフを作り、プレゼン資料を作成する。	授業内で作成したプレゼン資料を完成させる。	4時間
第3回	**（ユニット1）数量データを用いたレポート―基礎となる3つの力** 数量データで論じる作法について学ぶ。その中で「発見する力」「想像する力」「説明する力」の重要性について確認する。3つの力を養うために順を追って課題に取り組む。	授業で作成した図表から何を論じることができそうか考えてまとめる。	4時間
第4回	**（ユニット1）数量データを用いたレポート―グループプレゼンの準備** 「社会生活基本調査」を調べ、グループプレゼンで取り組むテーマを探す。 プレゼン時のポイントを踏まえながら、グループプレゼンの準備を行なう。	グループプレゼンの準備を行なう。	4時間
第5回	**（ユニット1）数量データを用いたレポート―グループプレゼン（実施と相互評価）** グループで情報収集し、議論した結果を踏まえ、SDGsの各目標についてのプレゼンテーションを行なう。クラスのメンバーでコメントシートに記入する。発表を良く聞き、内容に関する質問を各自考える。	コメントシートをもちかえり、Googleフォームに清書して記入する。 また、他のグループのプレゼンをみて、参考にしたい点や、自分たちのプレゼンの改善点についても記入。	4時間
第6回	**（ユニット2）文字データを用いたレポート―引用の仕方1** ユニット3の目標についての確認。 引用の仕方についての説明。 「男女共同参画白書」をもとに、引用を取り入れたレポートを作成する。	授業内で作成したレポートを完成させる。	4時間
第7回	**（ユニット2）文字データを用いたレポート―引用の仕方2（間接引用）** 前回作成したレポートをピアでチェック。 引用についてより深く学ぶ（引用の目的および直接引用と間接引用の違い） 引用しながら個人でレポートを書く。	個人レポートを書き進める。	4時間
第8回	**（ユニット2）文字データを用いたレポート―データベースの利用** 情報収集の仕方について学ぶために、学内から利用可能なデータベースについて説明 情報収集を行ないながら個人レポートを書く。	個人レポートを完成させる。	4時間
第9回	**（ユニット3）個人レポートの執筆―「はじめに」の重要性** ユニット3の目標についての確認。 レポートの構成および「はじめに」についての説明。 情報収集をしながら、最終プレゼンに向けた準備を行なう。	各自で情報収集を行い、ユニット3での個人プレゼンの準備を行う。	4時間
第10回	**（ユニット3）個人レポートの執筆―調査の重要性** 調査の重要性についての説明。 情報収集をしながら、最終プレゼンに向けた準備を行なう。	各自で情報収集を行い、ユニット3での個人プレゼンの準備を行う。	4時間
第11回	**（ユニット3）個人レポートの執筆―考察の重要性** 考察の重要性についての説明。 情報収集をしながら、最終プレゼンに向けた準備を行なう。	各自で情報収集を行い、ユニット3での個人プレゼンの準備を行う。	4時間

第12回	**（ユニット3）個人レポートの執筆―最終プレゼン（前半組）** 個人で情報収集し、検討した結果を踏まえ、社会問題についてのプレゼンテーション（前半グループ）を行なう。クラスのメンバーで相互評価票に記入する。発表を良く聞き、内容に関する質問を各自考える。	個人プレゼンテーションの内容にもとづいた、最終レポートの草稿を執筆する。	4時間
第13回	**（ユニット3）個人レポートの執筆―最終プレゼン（後半組）** 個人で情報収集し、検討した結果を踏まえ、社会問題についてのプレゼンテーション（後半グループ）を行なう。クラスのメンバーで相互評価票に記入する。発表を良く聞き、内容に関する質問を各自考える。	個人プレゼンテーションの内容にもとづいた、最終レポートの草稿を執筆する。	4時間
第14回	**（ユニット3）個人レポートの執筆―推敲とピアレビュー** レポートの草稿を提出する。レポートチェックリストをもとに、クラスメンバーで相互にコメントをつける。コメントを踏まえてレポートを修正する。半年の学習をふりかえり「この授業で何を学んだか」を記入する。	ピアレビューでもらった改善のためのコメントを踏まえて、草稿を修正し、最終レポートを執筆する。	4時間

111

授業科目名	スタディスキルズ１（国際観光）				
担当教員名	本間哲也・島雅則・辛川敬				
学年・コース等	1年	開講期間	前期	単位数	2
授業形態	講義＋演習				
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の概要					

授業概要

大学における学修や研究を進めるためのスキルを修得する授業である。
多様な意見や資料を収集し、自分で考え、主張を伝えることを目標に、PCによるレポートやプレゼンテーション資料の作成技法，および口頭発表の方法などを実践的に学ぶ。受講者には、資料の収集方法とそれらの評価方法、引用方法、論理的な文章構築法を習得して、社会の問題について、合理的な問題解決ができるようになることを求める。
併せて、社会の問題に目を向け、市民として社会に自覚的に、賢く、そして思いやりをもって参画する力を育てることも目指す。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. 全学DP１.幅広い教養やスキル	社会問題の分析・報告	資料を正しく読み解いて理解・吸収した上で、1600字程度のレポートを正しい作法で執筆できる。プレゼンテーションツール（スライド資料など）を使って５分程度のプレゼンテーションができる。
汎用的な力		
1. 全学DP４.課題発見		社会の問題に目を向け、多様な意見や資料を収集し、自分で考え、主張を立てることができる。
2. 全学DP８.意思疎通		社会の問題に関して、自分の「意見」を整理してわかりやすく口頭発表したり、レポートとしてまとめたりすることができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
・問答法・コメントを求める
・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

・提出物にコメント・評価をつけて返却します
・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

授業へは原則としてすべて出席してください。何らかの事情で欠席する場合は、シラバスや授業内での配布資料を参照し、自学により内容を確認し、必要な課題に取り組むようにしてください。なお、資格・免許取得に必要な科目は、単位修得に必要な授業時間数が定められている場合がありますので、注意してください。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
授業への取り組み（平常点）	20 %	： 授業・グループワークへの参加度、課題等の提出状況、授業時間外での準備状況など。
期中課題	60 %	： 毎回の授業における提出物の内容、プレゼンテーションの評価（内容、話し方、提示資料）。
期末レポート	20 %	： レポートの形式、情報の整理・要約，論理的構成力とわかりやすさ、テーマに関する理解など。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

参考文献などは授業中に紹介する。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は２単位の科目であるため、平均すると毎回４時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。
遅刻をしない、提出物の期限を守るなど、他の受講者と協力して気持ちよく学べるよう努力すること。
欠席時は、次回までに担当教員等から資料や課題を受け取って指示を受けること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：　初回授業で示す

場所：　各担当教員研究室

授業計画

		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**（ユニット1）大学での学びと情報リテラシー** 学期全体の流れ、各ユニットの説明。 大学の学びにおける，レポートや論文の位置づけを確認。 情報処理に関する基礎的なスキルの確認。	授業内で課された情報処理スキルに関する課題を完成させる。	4時間
第2回	**（ユニット1）数量データの扱い方（１）：情報処理ツール** レポート作成に必須となる，数量データの重要性を学ぶ。 数量データを扱う主要ツールとしての表計算ソフトウェアの概要を学ぶ。	授業内の図表資料作成課題を完成させる。	4時間
第3回	**（ユニット1）数量データの扱い方（２）：表とグラフ** 数量データの表現方法としての、表やグラフの役割・特徴を学ぶ。 表計算ソフトウェアで，社会統計データの表やグラフを作る。 数量データで論じる作法について学び、実際に資料を作る。	授業で取り組んだ課題を完成させ提出する。	4時間
第4回	**（ユニット1）レポートの基礎（１）：レポートの目的・分類・形式** レポートの目的や種類を整理する。 レポートの形式・基本的構成を学ぶ。 レポート作成ツールとして，ワードプロセッサソフトウェアの基本的機能を知る。	授業内で課された報告課題を完成させる。	4時間
第5回	**（ユニット1）レポートの基礎（２）：事例と実作** 事例を通じて，実際のレポートの書き方を学ぶ。 レポートの例やテンプレートを参考に，簡易的なレポートを書いてみる。	授業で取り組んだ課題を完成させる。	4時間
第6回	**（ユニット2）文献調査と引用（１）：引用の意義と種類** 文献・データ参照の意義と、引用方法を学ぶ。 情報収集・文献収集の方法、特にデータベースの使い方を学ぶ。 実際にデータベースで情報検索をする。	授業内で検索した情報を整理する。	4時間
第7回	**（ユニット2）文献調査と引用（２）：引用の実践** 実際に引用しながら簡易レポートを書く。	簡易レポートを完成させる。	4時間
第8回	**（ユニット３）レポートの作成（１）：論文・レポートの基本構成** 最終レポートの内容説明。 レポートの構成（序論・本論・結論）の説明。 得られた事実に対する「考察」の重要性。また、考察の常套的な方法。 最終レポートの全体構成と、特に本論部分を構想する。	期末レポートの本論部分を書き上げる。	4時間
第9回	**（ユニット３）レポートの作成（２）：本論以外の部分の役割** 序論・結論・表題・文献リストなど、本論以外の部分の機能を確認する。 序論や結論を執筆し，レポート全体の形を整える。 レポートを相互点検する。	期末レポートの初稿を一旦書き上げる。	4時間
第10回	**（ユニット３）口頭発表（１）：プレゼンテーションの目的と方法** 口頭プレゼンテーションの目的・方法の整理。 スライドなど，発表用補助資料の作り方・留意点。 期末レポートに基づいたプレゼンテーションを構想・設計する。	期末レポートに基づいたスライド資料を作成する。	4時間
第11回	**（ユニット３）口頭発表（２）：プレゼンテーションの留意点** プレゼンの「本体」たる「話すこと」およびデリバリーの重要性の理解。 発話原稿の必要性など。	原稿の作成，リハーサルなど，プレゼンテーションの準備をする。	4時間
第12回	**（ユニット３）口頭発表（３）：発表会（前半）** 各自の最終レポートの内容をプレゼンテーションする（前半グループ）。 クラスのメンバーは発表者に対し質問やコメントを行う。 また、相互評価票に記入する。	プレゼンテーションの内容も踏まえ、最終レポートの草稿を執筆する。	4時間

第13回	**（ユニット３）口頭発表（４）：発表会（後半）** 各自の最終レポートの内容をプレゼンテーションする（後半グループ）。 クラスのメンバーは発表者に対し質問やコメントを行う。 また、相互評価票に記入する。	個人プレゼンテーションの内容も踏まえ、最終レポートの草稿を改善・提出する。	4時間
第14回	**（ユニット3）個人レポートの執筆：推敲とピアレビュー** プレゼンテーション（発表会）の講評・反省。 チェックリストに基づいて、レポートの草稿にクラスメンバーで相互にコメントをつける。 相互コメントを踏まえてレポートを修正する。 学期を通じた学習を振り返り、授業で学んだことを整理する。	ピアレビューで得た改善のためのコメントを踏まえて、草稿を修正し、最終レポートを完成させる。	4時間

111

授業科目名	**スタディスキルズ１（芸術）**				
担当教員名	加藤隆文・熊倉一紗・大手裕子・三津留ゆう・遠藤太良・池田真実子・炭村紀子・麻生典子・石田直美・三宅萌・飯沼洋子				
学年・コース等	1年	開講期間	前期	単位数	2
授業形態	講義＋演習				
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の概要					

授業概要

大学では、専門分野について深く学ぶとともに、市民として社会に自覚的に賢く参画する力を育てることも大切です。本科目では、社会の問題に目を向け、多様な意見や資料を収集し、自分で考え、主張を伝えることを目標に、社会人として通用する電子メールの書き方、PCによるレポートやプレゼンテーション資料の作成技法などを実践的に学びます。受講者には、資料の収集方法とそれらの評価方法、引用方法、論理的な文章構築法を習得して、社会の問題について、合理的な、おもいやりある問題解決ができるようになることが求められます。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. 全学DP１.幅広い教養やスキル	語彙力と読解力	短文を精読し、その内容を正確に理解し、またその要旨を的確にまとめることができる。
2. 全学DP２.専門的知識・技能、職業理解	社会問題の分析・報告	資料を正しく読み解いて理解・吸収した上で、1500字程度のレポートを正しい作法で執筆できる。パワーポイントを使って５分程度のプレゼンテーションができる。
汎用的な力		
1. 全学DP４.課題発見		社会の問題に目を向け、多様な意見や資料を収集し、自分で考え、主張を立てることができる。
2. 全学DP５.計画・立案力		最終レポート執筆を見据え、論理的な議論構築ならびにプレゼンテーションのデザインを計画的に展開できる。
3. 全学DP９.役割理解・連携行動		社会の問題に関して、自分の「意見」を整理してわかりやすく口頭発表したり、レポートとしてまとめたりすることができる。
4. 全学DP10.忠恕の心		様々な立場を理解した上で、課題に対しておもいやりのある解決策を導き出すことができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)

・問答法・コメントを求める

・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)

・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)

・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

・提出物にコメント・評価をつけて返却します

・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

授業へは原則としてすべて出席してください。何らかの事情で欠席する場合は、シラバスや授業内での配布資料を参照し、自学により内容を確認し、必要な課題に取り組むようにしてください。なお、資格・免許取得に必要な科目は、単位修得に必要な授業時間数が定められている場合がありますので、注意してください。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
平常授業への参加度	20 %	： 毎回のシャトルシートやワークシート等の取り組み状況、授業への参加度（グループでの話し合いへの参加状況、発言など）、授業外での準備状況などに基づき評価する。
授業内課題	40 %	： プレゼンテーション、及びレポートについて聴衆/自己評価を踏まえ、以下の観点で評価。 ①プレゼンテーションでの内容、話し方、効果的な資料。 ②レポートの形式、わかりやすさ、論理的構成力。

小テスト（語彙力・読解力）　：　語彙、読む、聞く、書くの４分野から日本語を使いこなす力を測定。

20　％

最終レポート　：　最終回授業終了後に授業のまとめとして、最終レポートを提出、ルーブリックの基準に則り評価。

20　％

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

なし

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回5時間程度の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

遅刻厳禁。提出物は期限をまもる。
他者と協力して気持ちよく学べるよう努力すること。
欠席してしまった場合、次回までに、担当教員等から課題をうけとり、指示をうけること。
プレゼンテーションの日は絶対に遅刻せず、必ず出席すること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

備考・注意事項：　各クラスそれぞれ、初回授業にて連絡する。

授業計画		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**社会を知る―情報の収集** 担当教員が取り上げる身近な社会問題（例：「スマホ依存」「インバウンドの弊害」「プラスチックゴミ」など）について調査する。その際に必要となる情報を収集する	要約ドリル1	5時間
第2回	**社会を知る―調査依頼の執筆** 社会調査の依頼等に必要な電子メールの書き方を学ぶ。	要約ドリル2	5時間
第3回	**社会を知る―資料の整理** 引用元や参照資料の確認方法、著作権の侵害や盗作を回避する必要性などに留意して、テーマについての資料を収集し、整理する。	要約ドリル3	5時間
第4回	**社会を知る―調査結果の提示** 論理的な内容構成についてクラス内で議論を行い、最適な調査結果の提示方法を考察する。	要約ドリル4	5時間
第5回	**社会を知る―プレゼンテーションの準備** プレゼンテーションのマナー、聴衆の理解を深めるためのパワーポイントの効果的な使い方および話し方を学び、プレゼンテーションの準備を行う。	要約ドリル5	4時間
第6回	**社会を知る―プレゼンテーション** 調査結果についてロ頭発表を行う。プレゼンテーションのルーブリックをもとに、クラスメンバーで相互評価票に記入する。発表を良く聞き、内容に関する質問を各自考える。	要約ドリル復習（小テスト準備）	5時間
第7回	**社会を知る―プレゼンテーションの改善** 語彙力・読解力小テスト1、中間学修到達度確認をおこなう。 口頭発表のときに受けた質問や、内容や構成について指摘された点について再考し、次の発表のための改善点などをクラスで話し合い、共有する。	小テストの復習	5時間
第8回	**社会を知る―問題の設定** ユニット１の全体をふりかえり、論題や参考資料の選び方などを学び直す。ユニット２の発表とレポートのために、関心のある社会問題を取り上げ、自分自身で問いを立てる。	要約ドリル7。	5時間
第9回	**社会について考える―資料の分析・評価** 情報源を適切に引用し、分析・評価する技法を学ぶことを通じて批判的思考力を身につける。選択した論題について、実際に資料を収集する。	ユニット2の発表内容をまとめる。要約ドリル8。	5時間
第10回	**社会について考える―解決案の考察** クラス内で議論を行い、選択した論題について、客観的事実に立脚して自分なりの解決案を論理的に構築する。	課題2の発表内容を吟味する。要約ドリル9。	5時間
第11回	**社会について考える―プレゼンテーションの準備** 口頭発表の読み原稿と、パワーポイントを作成する。客観的な根拠にもとづき相手を説得できる「伝わる」発表をめざす。	プレゼンのルーブリックにそって口頭発表原稿を完成させ、練習する。要約ドリル10。	5時間

第12回	**社会について考える―プレゼンテーション** プレゼンテーション（1人3分） 考察結果について口頭発表を行う。プレゼンテーションのルーブリックをもとに、クラスメンバーで相互評価票に記入する。発表を良く聞き、内容に関する質問を各自考える。	レポート執筆。要約ドリルの復習。	5時間
第13回	**社会について考える―レポートの構成・執筆** 語彙力・読解力小テスト２をおこなう。 レポートのルーブリックにしたがって、レポートの構成と形式を整える。 （A4　2枚　本文が1600～2000字程度）	社会について考える―レポートの執筆と推敲、学修レビュー	5時間
第14回	**社会について考える―レポートの推敲** 下記の点に留意し、レポートを完成させる。 ・論理的に筋道がとおった主張になっているか ・脚注、引用、参照資料は正確に書かれているか ・接続詞、段落構成、文の長さ、主語述語の対応、文体は適切か 所定の評価シートに基づき、期末学修到達度確認をおこなう。 ＊夏休み課題【読書感想文：1600~2400文字, Word,A4横書（1行40字;1頁40行）,MS明朝体,11ポイント】の説明と準備。	レポートの推敲。読書感想文の本の選択。	5時間

111

授業科目名	スタディスキルズ１（教育）				
担当教員名	吉川千晴・宮﨑大樹・藤澤憲・王琳琛・土屋友衣子・木村直登・霜永智弘				
学年・コース等	1年	開講期間	前期	単位数	2
授業形態	講義＋演習				
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の概要					

授業概要

大学では、専門分野について深く学ぶとともに、市民として主体的に社会にかかわる力を身につけることも大切です。本科目は、教育・保育・社会に関わる問題や取組を取り上げ、SDGｓの視点から課題や解決の方向をさぐることを通して、大学や社会で必要な知識やコミュニケーション作法の習得をめざします。まず、コミュニケーションのツールとして、社会人として通用するPCによるレポートやプレゼンテーション資料の作成技法など学びます。また、他者の意見や考えを理解し、自分の意見や主張を的確に伝えるられるように、資料の収集方法とそれらの評価方法、引用方法、論理的な文章構築方を実践的に学びます。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. 全学DP１.幅広い教養やスキル	話すこと、聴くこと、読むこと、書くことの作法を学ぶ	2000字程度のレポートを正しい作法で執筆できる。パワーポイントを使って５分程度のプレゼンテーションができる。
2. 全学DP１.幅広い教養やスキル	語彙力と読解力	資料を精読し、その内容を正確に理解し、またその要旨を的確にまとめ、書評（感想文）を書くことができる。
汎用的な力		
1. 全学DP４.課題発見		社会の問題に目を向け、多様な意見や資料を収集し、自分で考え、主張を伝えることができる。
2. 全学DP８.意思疎通		社会の問題に関して、自分の「意見」を整理してわかりやすく口頭発表したり、レポートとしてまとめたりすることができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)

・問答法・コメントを求める

・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)

・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)

・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

授業へは原則としてすべて出席してください。何らかの事情で欠席する場合は、シラバスや授業内での配布資料を参照し、自学により内容を確認し、必要な課題に取り組むようにしてください。なお、資格・免許取得に必要な科目は、単位修得に必要な授業時間数が定められている場合がありますので、注意してください。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
平常点	30 ％	： 毎回のシャトルシートおよびワークシート等の取り組み状況、授業への参加度（グループでの話し合いへの参加状況、発言など）、授業外での準備状況などに基づき評価する。
授業内課題	50 ％	： プレゼンテーション、書評（感想文）、レポートについて、以下の観点で評価。 ①プレゼンテーションでの内容、話し方、効果的な資料 ②読書の成果を踏まえた書評（感想文）の内容・文章記述 ③レポート作成におけるデータ活用、論理的構成、文章記述
期末レポート	20 ％	： 授業全体の振り返り。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

なし

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

遅刻厳禁。提出物は期限を守ること。
他者と協力して気持ちよく学べるよう努力すること。
欠席してしまった場合、次回までに、担当教員等から課題をうけとり、指示をうけること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

備考・注意事項： 初回授業時に紹介

授業計画		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**オリエンテーション：科目の主旨、授業計画** ◆オリエンテーション ①授業概要説明・SDGｓビジョンレポートについて ②アイスブレーキング…ペアインタビュー ◆グループワーク…入学前課題の交流　＊入学前課題を各自1部印刷して持参すること 【入学前課題】「最近の新聞記事（インターネット記事可）を読み、教育・保育・社会に関わる問題や取り組みについて、関心をもった記事を選び、下記の作成方法に沿って、記事を貼付し、記事の内容を400字程度で要約し、400字程度であなたの考えを述べなさい。」	入学前に取り組んだ「入学前課題」を読み返し、発表の準備をしておく。	2時間
第2回	**SDGｓとSDGｓ４を学ぶ** 教育・保育・社会に関わる問題や取組を取り上げ、SDGｓの視点から課題や解決の方向について考える。 ◆SDGｓとSDGｓ４について概要を学ぶ。 ◆ｸﾞﾙｰﾌﾟﾃﾞｨｽｶｯｼｮﾝ「質の高い教育をみんなに」は実現できているか？ ◆インターネット検索の方法	ＳＤＧｓ４「教育」に関する情報を検索する	4時間
第3回	**追究するテーマを設定する。** ◆ｸﾞﾙｰﾌﾟﾃﾞｨｽｶｯｼｮﾝ「教育・保育・社会に関わる問題や取組とSDGｓ」 …検索してきた情報を交流し、テーマに即してディスカッションする。 ◆追究テーマの決定…自分が追究するテーマを設定し、追究（学修）計画を立てる。 ◆研究倫理について学ぶ（資料を集める方法と、引用元、参照資料の確認方法、著作権侵害、盗作を回避する必要性など）	教育・保育に関わる情報を検索する	4時間
第4回	**現状と問題点を探る** ◆追究テーマ別グループの編成 ◆インターネットまたは文献検索「追究テーマに関する現状と問題点」 ＊サーチエンジン検索ワード、関連サイトの活用法、引用の方法等 ◆ｸﾞﾙｰﾌﾟﾃﾞｨｽｶｯｼｮﾝ「”現状”の何がどう問題か、解決すべき課題は何か」	各自の追究テーマに関する資料、文献を検索し概要をまとめる	4時間
第5回	**問題解決の方法とその可能性、未来像を探る** ◆インターネットまたは文献検索「追究テーマに関する問題解決の方向と可能性、未来像」 ＊サーチエンジン検索ワード、関連サイトの活用法、引用の方法等 ◆ｸﾞﾙｰﾌﾟﾃﾞｨｽｶｯｼｮﾝ「追究テーマに関する問題解決の方向と可能性、未来像」	各自の追究テーマに関する資料、文献を検索し概要をまとめる	4時間
第6回	**アカデミックリテラシー：プレゼンテーションの技法** ◆プレゼンテーションの構成と発表の技法を学ぶ。 ◆プレゼンテーション資料（パワーポイントスライド）を作成する。 ◆プレゼンテーション（５分間）の発表練習を行い、相互評価する。	第4回、第5回の学修内容をまとめて、プレゼンテーションのメモを作成する。	4時間
第7回	**プレゼンテーションのリハーサル** ◆グループ内でプレゼン発表のリハーサルを行う。 ◆ルーブリックに基づいて、相互評価を通し、望ましいプレゼンテーションの在り方について考える。 ◆プレゼンテーションスライドを修正し完成させる。	作成したプレゼンテーションを使いリハーサルの練習をする	6時間
第8回	**プレゼンテーション（前半グループ）**	プレゼンテーションの省察を行う。	4時間

	◆パワーポイントを使った口頭発表 …他者の意見を聞き、自分の意見を述べる。聴衆を説得、納得させる発表をめざす。 ◆プレゼンテーションのルーブリックをもとに、クラスメンバーで相互評価票に記入する。 …発表をよく聞き、内容に関する質問を各自考える。		
第9回	**プレゼンテーション（後半グループ）** ◆パワーポイントを使った口頭発表 …他者の意見を聞き、自分の意見を述べる。聴衆を説得、納得させる発表をめざす。 ◆プレゼンテーションのルーブリックをもとに、クラスメンバーで相互評価票に記入する。 …発表をよく聞き、内容に関する質問を各自考える。	プレゼンテーションの省察を行う。	4時間
第10回	**アカデミックリテラシー：論構成の方法** ◆SDGｓビジョンレポートの過去作品を読み、内容や論構成について学ぶ。 ◆各自、レポートの構成を検討し、目次（構成表）を作成する。 ◆ｸﾞﾙｰﾌﾟﾜｰｸ：構成表の相互批正を行う。	第３回～第５回の授業で作成したノートやメモをもとにレポートの内容を整理しておく。	4時間
第11回	**アカデミックリテラシー：記述の方法** ◆レポート文章の書き方を学ぶ。 ◆2000字程度のレポートの下書を作成する。 ◆資料や図表の挿入の仕方、引用部分の記述方法などについて下書きを自己チェックする。	レポート作成に必要な資料等を準備する。	4時間
第12回	**アカデミックリテラシー：推敲** ◆レポート文章を推敲する方法を学ぶ ◆ルーブリックに即して推敲し、加除修正する。 ◆レポートを完成させる。	下書を完成させる。	4時間
第13回	**レポート発表と交流** ◆完成レポートをもとに、教育・保育・社会に関わる問題について、自分の意見を整理して分かりやすく口頭発表する。 ◆レポートのルーブリックにしたがって、自己評価する。	レポート発表の概要をメモにまとめる	4時間
第14回	**私の”スタディスキルズ”省察** ◆各自の追究テーマの発表、交流（プレゼンテーション・レポート）を振り返り、学びを共有する。 ◆本授業で学んだスタディスキルズについて、自己評価し、今後の大学での学びにどのように生かしていくか目標や展望を交流する。	レポートの最終チェック。課題の総復習	4時間

111

授業科目名	スタディスキルズ１（データサイエンス）				
担当教員名	夏川浩明・吉川正俊・杉山一成				
学年・コース等	1年	開講期間	前期	単位数	2
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の概要					

授業概要

大学では、専門分野について深く学ぶとともに、市民として社会に自覚的に賢く参画する力を育てることも大切である。本科目では、社会の問題に目を向け、多様な意見や資料を収集し、自分で考え、主張を伝えることを目標に、データサイエンスの基盤となる科学的方法に基づいた考え方、PCによるレポートやプレゼンテーション資料の作成技法などを実践的に学ぶ。受講者には、資料の収集方法とそれらの評価方法、引用方法と参考文献の書き方、論理的な文章構築法を習得して、社会の問題について、科学的で合理的な問題解決策が提案できるようになることを目指す。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. DP１.数学・統計学・科学的方法、計算機科学の基礎	科学的方法に基づいた、読み書きやプレゼンテーション、共同作業の作法を実践的に学ぶ。	・科学的方法を理解し、それに基づいた方法で読み書きができる。 ・パワーポイントを使って5分程度のプレゼンテーションができる。 ・科学的方法を理解し、それに基づいた方法で読み書きができる。
汎用的な力		
1. DP６.他者とのコミュニケーション		・パワーポイントを使って5分程度のプレゼンテーションができる。
2. DP７.他者との協調・協働		・社会の問題に目を向け、多様な意見や資料を収集し、自分の「意見」を整理してわかりやすく口頭発表したり、レポートとしてまとめたりすることができる。
3. DP８.忠恕の心		・社会の問題に目を向け、多様な意見や資料を収集し、自分の「意見」を整理してわかりやすく口頭発表したり、レポートとしてまとめたりすることができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)

・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)

・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

・実習や実技に対して個別にコメントします

・実技・実習後、全体に向けてコメントします

・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

授業へは原則としてすべて出席してください。何らかの事情で欠席する場合は、シラバスや授業内での配布資料を参照し、自学により内容を確認し、必要な課題に取り組むようにしてください。なお、資格・免許取得に必要な科目は、単位修得に必要な授業時間数が定められている場合がありますので、注意してください。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
プレゼンテーション	30 %	： 研究内容のプレゼンテーションを実施する。プレゼンテーンションは、ルーブリックに従って評価する。また、パワーポイントによるプレゼン資料を提出する。
レポート（論文）	40 %	： 最終課題として所定の書式に則り、2000字以上のレポートを提出する。ルーブリックに従って評価する。
課題	30 %	： 課題の内容や提出状況によって評価する。

使用教科書

指定する

著者	タイトル	出版社	出版年
松浦 年男、田村 早苗	・「日本語パラグラフライティング入門」	・研究社	・2022 年

参考文献等

授業中に適宜資料を配布する。

佐渡島 沙織、坂本 麻裕子、中島 宏治、太田 裕子：
「課題に応える 卒論に活かせる 大学生のためのレポートの書き方」、ナツメ社、2022年, ISBN: 978-4-8163-7231-5
佐藤 望、湯川 武、横山 千晶、近藤 明彦：
「アカデミック・スキルズ 第3版 ー 大学生のための知的技法入門」、慶應義塾大学出版会、2021年, ISBN: 978-4-8163-7231-5
井下 千以子：
「思考を鍛える大学の学び入門 第2版 ー 論理的な考え方・書き方からキャリアデザインまで」、慶應義塾大学出版会、2020年, ISBN：978-4-7664-2651-9
井下 千以子：
「思考を鍛えるレポート・論文作成法 第3版」、慶應義塾大学出版会、2019年, ISBN：978-4-7664-2577-2
外山 滋比古：
「新版 思考の整理学」、ちくま文庫、2024年, ISBN:978-4-480-43912-3

外務省 「SDGsとは？」
https//www.mofa.go.Jp/mofaJ/gaiko/oda/sdgs/about/index.html
外務省 「持続可能な開発目標（SDGs）達成に向けて日本が果たす役割」
https//www.mofa.go.Jp/mofaJ/gaiko/oda/sdgs/pdf/sdgs_gaiyou_202108.pdf外務省 「持続可能な開発目標（SDGs）と日本の取組」
https//www.mofa.go.Jp/mofaJ/gaiko/oda/sdgs/pdf/SDGs_pamphlet.pdf

履修上の注意・備考・メッセージ

・本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学多が求められる。「授業外学多課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。
・他者と協力して気持ちよく学べるよう努力すること。
・遅刻厳禁。提出物は期限を厳守する。
・欠席してしまった場合、次回までに、担当教員等から課題をうけとり、指示をうけること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：　別途案内される各教員のオフィスアワーを参照すること。

場所：　各担当教員研究室（吉川・杉山・夏川）

備考・注意事項：　各回の担当教員に直接またはメールで連絡すること。

授業計画		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**ガイダンス** 社会課題と科学的方法	SDGs等の項目を調べ、興味のある内容をまとめる。	4時間
第2回	**科学的方法ワークショップ** Scientific method songなどに基づき、科学的方法を体得する。	科学的方法について復習するとともに、SDGs等の項目について、どのような科学的アプローチがなされているか調べ、内容をまとめる。	4時間
第3回	**「SDGsへの取り組み」外部講師による講演** 企業や大学など、社会でのSDGsへの取り組みについて理解を深め、取り上げられた実問題に対してデータサイエンスを手段として何ができるかを考える。	外部講師による講演を振り返り、その内容をまとめる。	4時間
第4回	**SDGsとは何か** 21世紀に生きる市民の教養であるSDGsの理念を理解する。興味のある項目をもとにグループ分けを行い、SDGs等の取り組みについてグループで調べる。	教員が指定したコンテンツ（コミュニケーションに関するもの）を参考に内容をまとめる。	4時間
第5回	**持続可能な地球環境・社会を考える （資料の分析・ディスカッション）** SDGsの諸目標の中から、環境・社会問題に関するものを取り上げる。地球環境問題や社会問題の解決に向けてデータサイエンスを手段として何ができるかを事前に調べ、クラス内で共有する。テーマについて与えられた資料を精読し、まとめ、クラスでディスカッションする。	教員が指定したコンテンツ（プレゼンテーションに関するもの）を参考に内容をまとめる。	4時間
第6回	**持続可能な地球環境・社会を考える （情報収集・プレゼン準備）** 環境・社会問題についてグループで情報収集を行い、プレゼンテーションの準備を行う。科学的方法を用いた仮説検証デザインについてもプレゼンテーションの内容に含める。	教員が指定したコンテンツ（プレゼンテーションに関するもの）を参考に、プレゼンテーションスライドを改善する。	4時間
第7回	**持続可能な地球環境・社会を考える （プレゼンテーション）** 資料についての考察を踏まえ、環境・社会問題についてのプレゼンテーションを行う。プレゼンテーションのルーブリックをもとに、クラスメンバーで相互評価票に記入する。発表を良く聞き、内容に関する質問を各自考える。	プレゼンテーションに関する事前練習や終わった後の振り返りを行う。	4時間
第8回	**科学的方法を用いた仮説検証を考える** これまでに考えた仮説検証デザインをもとに、オープンデータの調査・分析や文献調査（の検証系）をふまえて仮説検証を行う。仮説検証系のアイデアと結果について、クラス内で共有するための準備を行う。	レポート執筆のための仮説検証系の準備を行う（文献調査、データ分析など）。	4時間

第9回	**科学的方法を用いた仮説検証結果のまとめ** これまでに考えた仮説検証デザインをもとに、オープンデータの調査・分析や文献調査（の検証系）をふまえて仮説検証結果をまとめ、クラス内で共有する。また次回以降のレポート執筆の準備を行う。	レポート執筆のための仮説検証系の準備を行う（文献調査、データ分析など）。	4時間
第10回	**SDGs等に関するレポート執筆** 論文形式レポートの基本IMRADとパラグラフライティングについて学び、パワーポイントを使ってレポートの骨格を執筆する。また補足説明を行う分を追加してパラグラフの執筆を行う。	教員が指定したコンテンツ（ライ ティングに関するもの）を参考に内容をまとめる。	4時間
第11回	**SDGs等に関するレポートの査読** 査読に関する基本知識を学び、他学生の執筆したレポートを建設的に査読する。査読結果はGoogle Formに記入する。ひとり2件程度のレポートを査読する。	レポート執筆や査読を進める。	4時間
第12回	**SDGs等に関するレポートの修正稿執筆、再査読を行う。** 査読結果に対する修正を行い、査読者に対する回答書を添付したうえで再投稿する。各学生は、修正稿と回答書の内容を確認して、正しく修正されているかどうか確認する。	執筆したレポート修正や査読に対する回答書の作成を進め、レポートを改善する。	4時間
第13回	**SDGs等に関するレポート内容の発表準備** SDGs等に関するレポートを完成させ、レポート内容についてプレゼンテーションの準備を行う。科学的方法に基づく仮説検証も含めたプレゼンテーションの作成を行う。	教員が指定したコンテンツ（プレゼンテーションに関するもの）を参考に、プレゼンテーションスライドを改善する。	4時間
第14回	**SDGs等に関するレポート内容について、口頭発表を行う。** プレゼンテーションのルーブリックをもとに、クラスメンバーで相互評価票に記入する。発表を良く聞き、内容に関する質問を各自考える。発表終了後、最優秀発表賞を決定し、表彰状を授与する。	プレゼンテーションに関する事前練習や終わった後の振り返りを行う。	4時間

111

授業科目名	**スタディスキルズ２（経営）**				
担当教員名	**鍛治致・藤田大雪・海野大・成瀬尚志・澤田彩・坂中勇亮・白濱孝之・小島大輔・大塚康央**				
学年・コース等	1年	開講期間	後期	単位数	2
授業形態	講義＋演習				
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の概要					

授業概要

本科目では、SDGs（持続可能な開発目標）に関連する資料を読み解き、社会課題の原因を分析する力 を養うことを目的とする。
受講者には、以下の力を身につけることが求められる。

① 聞きなれた言葉でも、その意味を問い直し、本質を理解する。
② 客観的データに基づいて現状を分析し、課題の根本的な要因を考察する。
③ 一つの社会的問題が、他の様々な問題と連関していることを理解し、多角的な視点を持つ。
④ 持続可能な社会の実現に向けて、現状の構造や問題の背景を論理的に整理し、適切に説明できるようになる。

本科目では、単に問題の表面的な側面を捉えるのではなく、多面的な視点から深く考察する力を養うことを重視する。
その過程で、与えられた知識を受け取るだけでなく、自分自身で小さな発見を積み重ね、思考を深めることを目指す。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. 全学DP１.幅広い教養やスキル	SDGsの理解	現代社会の教養であるSDGsに関する知識を身につけ、自分自身の問題としてSDGsを捉えることができるようになる。
汎用的な力		
1. 全学DP４.課題発見		多様な意見や資料を収集し、客観的データに基づいて現状を分析して、課題を発見することができる。
2. 全学DP８.意思疎通		SDGsの問題に関して、自分の「意見」を整理してわかりやすく口頭発表したり、レポートとしてまとめたりすることができる。
3. 全学DP10.忠恕の心		SDGsの理念に即して、様々な問題に対し、おもいやりのある問題解決を考案することができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
・問答法・コメントを求める
・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

・提出物にコメント・評価をつけて返却します
・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

授業へは原則としてすべて出席してください。何らかの事情で欠席する場合は、シラバスや授業内での配布資料を参照し、自学により内容を確認し、必要な課題に取り組むようにしてください。なお、資格・免許取得に必要な科目は、単位修得に必要な授業時間数が定められている場合がありますので、注意してください。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
授業内課題	:	授業中のワークやプレゼンテーションの実施状況に基づいて評価する。具体的には、以下の点を重視する。 ① 各回のワークシートの取り組み状況（記述の充実度） ② 授業への参加度（グループでの話し合いへの参加状況、発表の実施） ③ プレゼンテーションの実施
40 %		
ユニットレポート	:	学期中に 2回のレポート を提出し、それぞれの内容に基づいて評価する。 ① ユニット1レポート（10%）：情報収集と整理の成果をまとめる。 ② ユニット2レポート（20%）：問いの設定、考察の論理性を評価する。 ※ レポートの構成、論理的な展開、情報の整理・要約の適切さを重視する。

30　%

最終レポート　：　SDGsに関して関心のあるテーマを一つ設定し、情報を収集・整理し、考察し、結論を導き出す。
① ユニット1・2のレポートを基盤とし、最終的な分析・まとめを加えて完成させる。
② レポートの形式、テーマに関する理解、全体構成、論理的整合性を評価する。

30　%

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

参考文献などは授業中に紹介します。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。遅刻厳禁。提出物は期限を守ること。他者と協力して気持ちよく学べるよう努力すること。欠席してしまった場合、次回までに、担当教員等から課題をうけとり、指示をうけること。プレゼンテーションの日は絶対に遅刻せず、必ず出席すること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：　各クラスで説明します

場所：　各担当教員の研究室

備考・注意事項：　変更がある場合は授業でお知らせします。

授業計画		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**（ユニット1：情報収集）SDGsの基本概念とレポートの評価基準** ・授業の目的と進め方を確認し、評価基準（ルーブリック）について説明する。 ・SDGsについて事前に知っていることをまとめ、ルーブリックと照らし合わせて何が足りないかを確認する。	指定資料を読み、自身の関心のあるSDGsのテーマを考える。	4時間
第2回	**（ユニット1：情報収集）情報収集①：関心のあるテーマの選定と基礎調査** ・SDGsに関連する各自の関心のあるテーマについて、基礎的な情報を収集する。 ・マンダラート（9マスのフレームワーク）を活用し、収集した情報を整理する。	調査を進め、信頼できる資料を3つ以上集める。	4時間
第3回	**（ユニット1：情報収集）情報収集②：追加調査とプレゼン準備** ・前回収集した情報に加えて、プレゼンの基礎となる具体的なデータを三つ以上収集する。 ・信頼性のあるデータの選定基準を学び、適切な資料の取捨選択を行う。	さらに追加で情報を収集し、プレゼンテーションの準備を行う。	4時間
第4回	**（ユニット1：情報収集）発表とフィードバック** ・各自が調査した内容をもとにプレゼンテーションを実施する。 ・クラスメンバーは改善点などのコメントを相互評価票に記入する。	フィードバックを踏まえ、ユニット1のレポートに取りかかる。	4時間
第5回	**（ユニット1：情報収集）引用・参考文献の整理とレポート執筆** ・情報収集の成果をレポートとして提出する。 ・引用のルールや参考文献一覧の書き方を確認し、適切な情報の扱い方を学ぶ。	引用などのルールに注意しながらユニット1のレポートを完成させる。	4時間
第6回	**（ユニット2：知識の発見と考察）新たな知見の発見** ・収集した情報をもとに、新たな知見を見いだすことを目指す。 ・自身が見いだした知見に独自性や新規性があるかを検討し、それがどのような視点から意義を持ちうるかを考える。	ユニット1のレポートから何が言えるかを検討し、ワークシートを完成させる。	4時間
第7回	**（ユニット2：知識の発見と考察）問いの設定** ・自身が見いだした知見が、どの問いに対応するものかを考え、適切な問いを設定する。 ・問いの検討を通して、改めて自身の見いだした知見を再検討し、その意義について考える。	問いの設定について再検討し、ワークシートを完成させる。	4時間
第8回	**（ユニット2：知識の発見と考察）考察の統合とレポート執筆** ユニット1での情報収集と、ユニット2での考察を統合し、ひとつのレポートとしてまとめる。	これまでのワークシートを踏まえユニット2のレポートを完成させる。	4時間
第9回	**（ユニット3：最終レポート執筆）最終プレゼン準備①（構成の検討）** ・最終プレゼンの構成を検討し、視覚資料の作成を開始する。 ・「はじめに」と「おわりに」の書き方を学ぶ	プレゼン資料を作成し、試行する。	4時間
第10回	**（ユニット3：最終レポート執筆）最終プレゼン準備②（視覚資料の仕上げと出典の確認）**	プレゼン資料を完成させる。	4時間

	・最終プレゼンの資料を完成させ、相互フィードバックを行う。 ・プレゼンの視覚資料の工夫や、説得力を高めるポイントを確認する。		
第11回	**（ユニット3：最終レポート執筆）最終プレゼン（前半グループ）** ・各自が情報収集と考察を踏まえたプレゼンテーションを実施する。 ・クラスメンバーは改善点などのコメントを相互評価票に記入する。	プレゼンテーションの内容に基づき、最終レポートの草稿を執筆する。	4時間
第12回	**（ユニット3：最終レポート執筆）最終プレゼン（後半グループ）** ・各自が情報収集と考察を踏まえたプレゼンテーションを実施する。 ・クラスメンバーは改善点などのコメントを相互評価票に記入する。	プレゼンテーションの内容に基づき、最終レポートの草稿を執筆する。	4時間
第13回	**（ユニット3：最終レポート執筆）レポート執筆のチェックポイントの確認** ・最終レポートに関して、タイトルや見出し、引用などの形式的な側面について確認する。 ・「レポートチェックリスト」と「レポートルーブリック」を用いて、構成を見直す。	最終レポートの草稿を完成させる。	4時間
第14回	**（ユニット3：最終レポート執筆）推敲とピアレビュー** ・レポートの草稿を提出し、レポートチェックリストをもとにクラスメンバーで相互にコメントをつける。 ・コメントを踏まえてレポートを修正する。	ピアレビューを基に修正を加え、最終レポートを完成させる。	4時間

111

授業科目名	**スタディスキルズ２（国際観光）**				
担当教員名	**本間哲也・島雅則・尾崎文則**				
学年・コース等	1年	開講期間	後期	単位数	2
授業形態	講義＋演習				
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の概要					

授業概要

「スタディスキルズ１」で得た諸技能を踏まえつつ、社会問題に対する具体的な提言を行いながら、問題分析力と提言力を鍛える。
受講者には、①聞きなれた言葉でも、改めてその意味を問い直す。②客観的データに基づいて現状を分析する。③一つの社会的な問題が、他の様々な問題と連関していることを知り、多角的に物事を捉える必要性を知る。④持続可能な世界の未来に向けた、独自性と説得力のある提言を行うなどを求める。
具体的な題材としてはSDGs（持続可能な開発目標）を取り上げ、SDGsの理念や実情に関する理解を深めることも併せて目指す。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. 全学DP１.幅広い教養やスキル	SDGsの理解	現代社会の教養であるSDGsに関する知識を身につけ、自分のキャリアをSDGsに位置づけて構想できるようになる。
汎用的な力		
1. 全学DP４.課題発見		多様な意見や資料を収集し、客観的データに基づいて現状を分析して、課題を発見することができる。
2. 全学DP８.意思疎通		SDGsの問題に関して、自分の「意見」を整理してわかりやすく口頭発表したり、レポートとしてまとめたりすることができる。
3. 全学DP10.忠恕の心		SDGsの理念に即して、様々な問題に対し思いやりのある問題解決を考案することができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
・問答法・コメントを求める
・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

・提出物にコメント・評価をつけて返却します
・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

授業へは原則としてすべて出席してください。何らかの事情で欠席する場合は、シラバスや授業内での配布資料を参照し、自学により内容を確認し、必要な課題に取り組むようにしてください。なお、資格・免許取得に必要な科目は、単位修得に必要な授業時間数が定められている場合がありますので、注意してください。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
授業への取り組み（平常点）	20 ％	： 授業・グループワークへの参加・貢献度、課題等の提出状況、授業時間外での準備状況など。
期中課題	60 ％	： 毎回の授業における提出物の内容、プレゼンテーションの評価（内容、話し方、提示資料）。
期末レポート	20 ％	： レポートの形式、情報の整理・要約，論理的構成力とわかりやすさ、テーマに関する理解など。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

授業中に適宜紹介する。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。
遅刻をしない、提出物の期限を守るなど、他者と協力して気持ちよく学べるよう努めること。
欠席時は、次回までに担当教員等から資料や課題を受け取って指示を受けること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 初回授業で示す

場所： 各担当教員研究室

授業計画		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**（ユニット1）SDGsの基礎知識：事前知識の確認など** 授業の目標提示と、学期を通じた授業予定の展望。 のSDGsについて現在知っていることを確認する。 SDGsに関する導入的な学習を行い、新たに知ったことや考えたこと、特にSDGsと自分にはどのようなつながりがあるかを考察する。 夏季休業中の課題に対する講評。	授業内での確認・考察事項を整理して提出する。	4時間
第2回	**（ユニット1）SDGsの基礎知識：基本理解** 前回作業の成果をクラス内で共有する。 SDGsに関する基礎学習（理念、現状、展望など）。	SDGsに関する現在の理解や問題意識を整理する。	4時間
第3回	**（ユニット2）SDGsへの貢献案：取り組みテーマ設定** 最終レポート作成までの流れを確認する。 各自の関心・問題意識に基づいて情報収集を行う。 グループで情報交換・相互コメントを行う。 各自の最終レポートのテーマを検討し、仮決定する。	授業での取り組みと自身の結論を整理する。	4時間
第4回	**（ユニット2）SDGsへの貢献案：事例調査** 仮設定したテーマの関連事例を収集し、取組イメージを具体化する。 有力な参考事例を整理する。	収集事例を参考に独自のアイデアを構想する。	4時間
第5回	**（ユニット2）SDGsへの貢献案に関する考察** 前回までに得られた問題意識や事例を踏まえ，考察を構想する。その際「自分事」としてのSDGs推進への貢献という視点を盛り込む。 提案内容のプレゼンテーション準備。	プレゼンテーションの準備を完了させる。	4時間
第6回	**（ユニット2）SDGsへの貢献案：中間プレゼンテーション** 各自の考察枠組みを口頭発表する。 クラスメートの発表に質問・コメントする。また相互コメントシートに記入する。	相互コメントシートを完成させる。自身のプレゼンテーションの反省を行う。	4時間
第7回	**（ユニット3）最終レポートの作成：レポートの具体的な構想** 前回プレゼンテーションに対する講評および相互コメントのフィードバック。 最終レポートの内容・執筆要領の確認。 プレゼン資料コメント等を踏まえて、レポートの骨格（アウトライン）を設計。 過年度の優秀レポート例の紹介。	最終レポートの骨子案を作成する。	4時間
第8回	**（ユニット3）最終レポートの作成：レポート構想のブラッシュアップ** レポートを作成する。 特に、ストーリーや論理構成、根拠資料の適切さ、取り組み提案の独自性や実現可能性を検討する。	レポートの執筆を進める。	4時間
第9回	**（ユニット3）最終レポートの作成：レポートの構成を固める** レポートを作成する。 特に、各節の順序やタイトルを検討して、レポートの構成と内容を固める。 チェックリストやルーブリックなどに基づいて、引用部分の書式など、形式面でのチェックを行う。	レポートの執筆を進める。	4時間
第10回	**（ユニット3）最終レポートの作成：レポートの細部や形式の完成度を上げる** レポートを作成する。 特に、引用部分の書式や文章のチェックなど、形式面での完成度を上げる。	レポートの初稿を完成させる。	4時間
第11回	**（ユニット3）最終レポートの作成：プレゼンテーション準備** 最終レポート草稿に基づいた口頭プレゼンテーションの準備を行う。 プレゼンテーション時の留意点を再確認する。	プレゼンテーション資料の完成など、発表準備を行う。	4時間
第12回	**（ユニット3）最終レポートの作成：プレゼンテーション（前半）**	個人プレゼンテーションの内容を踏まえて、最終レポートの草稿を改善する。	4時間

	自身の最終レポート内容をプレゼンテーションする（前半グループ）。 クラスのメンバーは発表者に対し質問やコメントを行う。 また、相互評価票に記入する。		
第13回	**（ユニット3）最終レポートの作成：プレゼンテーション（後半）** 自身の最終レポート内容をプレゼンテーションする（前半グループ）。 クラスのメンバーは発表者に対し質問やコメントを行う。 また、相互評価票に記入する。	個人プレゼンテーションの内容を踏まえて、最終レポートの草稿を改善する。	4時間
第14回	**（ユニット3）最終レポートの作成：推敲とピアレビュー** 前週までのプレゼンテーションを講評・反省する。 レポートチェックリストに基づき、クラスメンバーで相互にコメントをつける。 相互コメントを踏まえてレポートを修正する。 学期を通じた学習を振り返り、授業で学んだことを整理する。	ピアレビューで得た改善のためのコメントを踏まえて、草稿を修正し、最終レポートを完成させる。	4時間

111

授業科目名	**スタディスキルズ２（芸術）**				
担当教員名	加藤隆文・大手裕子・伊藤俊輔・熊倉一紗・三津留ゆう・三宅萌・藤井桜子・麻生典子・宇埜直子・遠藤太良・池田真実子・石田直美）				
学年・コース等	1年	開講期間	後期	単位数	2
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の概要					

授業概要

本科目では、SDGs（持続可能な開発目標）に関連する資料を読み解き、具体的な提言を行いながら、問題分析力と提言力を鍛えます。受講者には、①聞きなれた言葉でも、改めてその意味を問い直す。②客観的データに基づいて現状を分析する。③一つの社会的な問題が、他の様々な問題と連関していることを知り、多角的に物事を捉える必要性を知る。④持続可能な世界の未来に向けた、独自性と説得力のある提言を行うことが求められます。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. 全学DP１.幅広い教養やスキル	SDGsの理解	現代社会の教養であるSDGsに関する知識を身につけ、自分のキャリアをSDGsに位置づけて構想できるようになる。
2. 全学DP２.専門的知識・技能、職業理解	社会問題の分析・報告	資料を正しく読み解いて理解・吸収した上で、2000字程度のレポートを正しい作法で執筆できる。パワーポイントを使って５分程度のプレゼンテーションができる。
汎用的な力		
1. 全学DP４.課題発見		多様な意見や資料を収集し、客観的データに基づいて現状を分析して、課題を発見することができる。
2. 全学DP５.計画・立案力		最終レポート執筆を見据え、論理的な議論構築ならびにプレゼンテーションのデザインを計画的に展開できる。
3. 全学DP９.役割理解・連携行動		ＳＤＧｓの問題に関して、自分の「意見」を整理してわかりやすく口頭発表したり、レポートとしてまとめたりすることができる。
4. 全学DP10.忠恕の心		SDGsの理念に即して、様々な問題に対し、おもいやりのある問題解決を考案することができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)

・問答法・コメントを求める

・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)

・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)

・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

・提出物にコメント・評価をつけて返却します

・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

授業へは原則としてすべて出席してください。何らかの事情で欠席する場合は、シラバスや授業内での配布資料を参照し、自学により内容を確認し、必要な課題に取り組むようにしてください。なお、資格・免許取得に必要な科目は、単位修得に必要な授業時間数が定められている場合がありますので、注意してください。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
図書館「読書感想文およびポップ」（課題提出）	10 %	： 夏休みの課題として課した「読書感想文」の提出をもって一律の加点とするが、読書コンクールの基準に従い、内容の優劣によって評価に差異を設ける場合がある。また、課題の「書籍紹介ポップ」は、提出をもって加点する。
プレゼンテーション	20 %	： 研究内容のプレゼンテーションを実施する。プレゼンテーンションは、ルーブリックに従って評価する。また、パワーポイントによるプレゼン資料を提出する。

レポート（論文）	:	最終課題として所定の書式に則り、2000字程度のレポートを提出する。ルーブリックに従って評価する。
20　%		
課題（授業内課題・100文字要約等）	:	①毎回の課題提出による評点。 ②１００文字要約の提出。 ③シャトルシート等から確認する授業への取り組み姿勢への加点。
30　%		
語彙・読解力　小テスト（２回）	:	中間と期末に実施する語彙力と読解力をはかる小テストにより評価する。
20　%		

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

なし

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回5時間程度の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

備考・注意事項：　各クラス、初回授業にて連絡します。

授業計画		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**SDGsとは何か** ・２１世紀に生きる市民の教養であるSDGsの理念を理解する。 ・課題の設定とスケジュールの確認。 ・前期「スタデイスキルズ１」で作成したプレゼン及び、レポートの内容の確認と振り返りの実施。 ・課題を明確にし、後期の授業へ向けた目標設定。 【演習と課題】 ①夏休み課題「読書感想文」の提出（受付）と修正まで ②１００文字要約ドリル演習（第11回）	SDGsの目標を一つ、簡潔に説明する。「１００文字要約ドリル演習」の復習。	5時間
第2回	**持続可能な地球環境を考える――資料の読解** ・SDGｓの諸目標の中から、地球環境に関するものを取り上げる。テーマについて与えられた資料を精読し、まとめる。 ・図書館：POPコンテスト概要説明（課題の提示）→書籍紹介POPを課題とする指示（締め切り10/31予定） 【演習と課題】 ①１００文字要約ドリル演習（第12回） ＊未提出の読書感想文は第2回授業を最終提出締め切りとし、評価への加点項目とする。	SDGsの目標を一つ、簡潔に説明する。「１００文字要約ドリル演習」の復習。	5時間
第3回	**持続可能な地球環境を考える――情報収集とディスカッション** ・持続可能な地球環境に関する情報を集め、クラス内で議論する。 ・前期「スタデイスキルズ１」で学修した「十字モデル」による作業シートへのテーマの落し込み。 ・後期「スタデイスキルズ２」のポイントとして、（ｉ,反論～論駁を明確にすること（起承転結の「転」の明確化）。（ii,参考資料、引用文献、を５点以上掲げること）。（iii,図・グラフなど出典を明らかにし、レポートへの参考資料（図表など）として引用することへのチャレンジ）。 ・課題設定と確認、作業まで。 【演習と課題】 ①１００文字要約ドリル演習（第13回）	「１００文字要約ドリル演習」は次回提出し評価の対象とする。	5時間
第4回	**持続可能な経済を考える――情報収集** ・SDGｓの諸目標の中から、経済に関するものを取り上げる。テーマに関する情報を事前に調べ、クラス内で共有する。テーマについて与えられた資料１を精読し、まとめる。 【演習と課題】 ①１００文字要約ドリル演習（第14回）	パワーポイントで資料の要点をまとめる。「１００文字要約ドリル演習」の復習。	5時間
第5回	**持続可能な経済を考える――資料の整理とディスカッション** ・テーマについて与えられた資料２を精読し、まとめる。2つの資料に関連する情報を集め、クラス内で議論する。 【演習と課題】 ①１００文字要約ドリル演習（第15回）	プレゼンテーション資料を完成させる。「１００文字要約ドリル演習」の復習。	5時間
第6回	**持続可能な経済を考える――プレゼンテーション**	第１回～６回の演習と課題について復習（小テスト準備）。	5時間

	・資料についての考察を踏まえ、持続可能な経済について口頭発表を行う。プレゼンテーションのルーブリックをもとに、クラスメンバーで相互評価票に記入する。発表を良く聞き、内容に関する質問を各自考える。 【演習と課題】 ①１００文字要約ドリル復習（第11～15回）		
第7回	**持続可能な社会を考える――情報収集** ・書く力、読む力の向上に関するまとめとして小テスト（30分程度）を実施。 〈テスト範囲〉 １００文字要約ドリル演習（第11～15回） を踏まえ、同様の問題（類似問題を予定する） ・SDGｓの諸目標の中から、社会に関するものを取り上げる。テーマに関する情報を事前に調べ、クラス内で共有する。テーマについて与えられた資料１を精読し、まとめる。	小テストの復習。	5時間
第8回	**持続可能な社会を考える――資料の整理とディスカッション** ・テーマについて与えられた資料２を精読し、まとめる。2つの資料に関連する情報を集め、クラス内で議論する。 ・中間学修到達度確認をおこなう。 【演習と課題】 ①１００文字要約ドリル演習（第24回）	「１００文字要約ドリル演習」の復習。	5時間
第9回	**持続可能な社会を考える――小レポート** ・SDGs時代のキャリアプランを考える。資料についての考察を踏まえ、自分の将来と結びつけて小レポートを執筆する。 【演習と課題】 ①１００文字要約ドリル演習（第25回）	「１００文字要約ドリル演習」の復習。	5時間
第10回	**SDGｓにコミットする――情報収集** ・SDGｓの諸目標の中から、各自で最も関心のあるものを取り上げる。自ら問いを立て、関連情報を収集する。 【演習と課題】 ①１００文字要約ドリル演習（第27回）	パワーポイントとレジュメで資料の要点をまとめる。「１００文字要約ドリル演習」の復習。	5時間
第11回	**SDGｓにコミットする――プレゼンテーションの準備** ・資料についての考察を踏まえ、自分の将来と結びつけてSDGｓの取り組みを提案する。口頭発表の読み原稿と、パワーポイントを作成する。 【演習と課題】 ①１００文字要約ドリル演習（第29回）	プレゼンテーション資料を完成させる。「１００文字要約ドリル演習」の復習。	5時間
第12回	**SDGｓにコミットする――プレゼンテーション** ・考察結果についてロ頭発表を行う。プレゼンテーションのルーブリックをもとに、クラスメンバーで相互評価票に記入する。発表を良く聞き、内容に関する質問を各自考える。 【演習と課題】 ①これまでに取り組んだ演習・課題を振り返り、次回に実施する期末小テストのための準備をする。	プレゼンテーション資料に基づき、レポートのアウトラインを作成する。「１００文字要約ドリル」の復習。	5時間
第13回	**SDGｓにコミットする――レポートの構成・執筆** ・口頭発表の内容をもとに、レポートのルーブリックにしたがって、レポートの構成と形式を考える。 ・書く力、読む力の向上に関するまとめとして小テスト（４０分程度）を実施。 〈確認テスト範囲〉 ①１００文字要約ドリル演習（第11～15回、24回、25回、27回、29回）を踏まえ、同様の問題（類似問題を予定する）	レポート執筆を進める。確認テストの復習。	5時間
第14回	**SDGｓにコミットする――レポートの執筆・推敲、学修レビュー** ・下記の点に留意し、レポートを完成させる。 ＞論理的に筋道がとおった主張になっているか ＞脚注、引用、参照資料は正確に書かれているか ＞接続詞、段落構成、文の長さ、主語述語の対応、文体は適切か 所定の評価シートに基づき、最終学修到達度確認をおこなう。	レポートの完成版を作成する。	5時間

111

授業科目名	スタディスキルズ２（教育）				
担当教員名	宮﨑大樹				
学年・コース等	1年	開講期間	後期	単位数	2
授業形態	講義＋演習				
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の概要					

授業概要

本科目では、SDGs（持続可能な開発目標）に関連する資料を読み解き、具体的な提言を行いながら、問題分析力と提言力を鍛えます。受講者には、①聞きなれた言葉でも、改めてその意味を問い直す。②客観的データに基づいて現状を分析する。③一つの社会的な問題が、他の様々な問題と連関していることを知り、多角的に物事を捉える必要性を知る。④持続可能な世界の未来に向けた、独自性と説得力のある提言を行うことが求められます。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. 全学DP１.幅広い教養やスキル	SDGｓの理解	現代社会の教養であるSDGsに関する知識を身につけ、自分のキャリアをに位置づけて構想できるようになる。
2. 全学DP１.幅広い教養やスキル	語彙力と読解力	短文を精読し、その内容を正確に理解し、またその要旨を的確にまとめることができる。
汎用的な力		
1. 全学DP４.課題発見		多様な意見や資料を収集し、客観的データに基づいて現状を分析して 課題を発見することができる。
2. 全学DP８.意思疎通		SDGs の問題に関して、自分の「意見」を整理してわかりやすく口頭発表したり、レポートとしてまとめたりすることができる。
3. 全学DP10.忠恕の心		SDGsの理念に即して、様々な問題に対し、おもいやりのある問題解決を考案することができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)

・問答法・コメントを求める

・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)

・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)

・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

・提出物にコメント・評価をつけて返却します

・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

授業へは原則としてすべて出席してください。何らかの事情で欠席する場合は、シラバスや授業内での配布資料を参照し、自学により内容を確認し、必要な課題に取り組むようにしてください。なお、資格・免許取得に必要な科目は、単位修得に必要な授業時間数が定められている場合がありますので、注意してください。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
平常点	30 %	： シャトルシートの記入提出、授業外学習課題の提出、授業への参加度
テーマレポート	20 %	： 第６回に扱うテーマに関するレポートの内容を評価する。
プレゼンテーション	20 %	： 第10～12回に行う個人のプレゼンテーションでの話し方や資料の使い方などを別途配布するルーブリックに従って評価する。
期末レポート		： 第10～12回に行った各自のプレゼンテーションを基にレポートを作成する。わかりやすさや論理構成などを別途配布するルーブリックに従って評価する。

30　%

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

適宜必要に応じて指示する。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。
本科目の履修に当たっては、スタディスキルズ１を履修済みであることが望ましい。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

クラスメートと協力し、気持ちのよい学習環境にするよう努力すること。
遅刻欠席厳禁。提出物の期限を守ること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：　備考欄参照

場所：　備考欄参照

備考・注意事項：　各クラス：初回授業時に案内する。

授業計画

		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**オリエンテーション、SDGsとは何か（１）：概要、理念の確認** 授業の目標、内容、評価などの説明。SDGｓの目標、概要など解説。 読書感想文の閉め切り、Lドライブの使い方、自己紹介、選書など。	選書、SDGsについての情報収集	4時間
第2回	**貧困、児童労働について考える：自分との関係** SDGsの目標の一つである貧困、児童労働に関する現状と課題、目標について知り、自分との関係を考える。	選書、SDGsについての情報収集	4時間
第3回	**持続可能な経済について考える：自分との関係** SDGsの目標の一つである「働きがいも経済成長も」に関する現状と課題、目標について知り、自分との関係を考える。	選書、SDGsについての情報収集	4時間
第4回	**持続可能な社会について考える：自分との関係** SDGsの目標の一つであるジェンダーに関する現状と課題、目標について知り、自分との関係を考える。	選書、SDGsについての情報収集	4時間
第5回	**持続可能な環境について考える：自分との関係** SDGsの目標の一つである地球温暖化、気候変動に関する現状と課題、目標について知り、自分との関係を考える。	選書、SDGsについての情報収集	4時間
第6回	**テーマの選定（１）：情報収集、ディスカッション** 資料の整理とディスカッション。論の立て方について学修した後、既習の経済、社会、環境の中から関心のあるSDGsの目標を一つ選び、グループで議論する。	テーマレポート「どうすれば～できるか」	4時間
第7回	**テーマの選定（２）：私のアクションプラン** テーマに関する選書を紹介し合う。クラスのメンバーの発表から自分の考えを深める。	選んだ書籍の精読	4時間
第8回	**プレゼンテーション準備（１）：構想** メインタイトル「SDGs達成のための私のアクションプラン」のスライドを作成しグループで共有しコメントし合う。コメントをもとに修正する。	選んだ書籍の精読、テーマに関する情報収集	4時間
第9回	**プレゼンテーション準備（２）：推敲** 第10回からはじまるプレゼンテーションに向けて準備を行う。	選んだ書籍の精読、テーマに関する情報収集	4時間
第10回	**SDGsにコミットする（１）：プレゼンテーション①** プレゼンテーション。考察結果について口頭発表を行う。プレゼンテーションのルーブリックをもとに、クラスメンバーで相互評価票に記入する。	選んだ書籍の精読、最終レポートに向けて情報整理	4時間
第11回	**SDGsにコミットする（２）：プレゼンテーション②** プレゼンテーション。考察結果について口頭発表を行う。プレゼンテーションのルーブリックをもとに、クラスメンバーで相互評価票に記入する。	選んだ書籍の精読、最終レポートに向けて情報整理	4時間
第12回	**SDGsにコミットする（３）：プレゼンテーション③** プレゼンテーション。考察結果について口頭発表を行う。プレゼンテーションのルーブリックをもとに、クラスメンバーで相互評価票に記入する。	選んだ書籍の精読、最終レポートに向けて情報整理	4時間
第13回	**SDGsにコミットする（４）：最終レポート執筆**	選んだ書籍の精読、最終レポートに向けて情報整理・要約ドリル	4時間

	プレゼンテーションで取り上げたSDGsのテーマについて調査、整理・要約、考察し、結論を導き出す（2000字）。過去の優秀レポートも参考にしながらルーブリックについて理解する。		
第14回	**SDGsにコミットする（５）：最終レポート推敲** 選んだテーマに沿ったグループごとにレポートを互いに読み合い、ルーブリックをもとにコメントし合う。コメントをもとに修正する。	授業を振り返りながらレポートを完成させる	4時間

111

授業科目名	スタディスキルズ２（データサイエンス）				
担当教員名	佐々木博史・上岡修平・上阪彩香				
学年・コース等	1年	開講期間	後期	単位数	2
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の概要					

授業概要

大学では、専門分野について深く学ぶとともに、市民として社会に自覚的に参画する力を育てることが大切である。本科目では、社会の問題に目を向け、多様な意見や資料を収集し、自分で考え、主張を伝えることを目標に、科学的方法に基づく問題解決の手法として社会調査及び仮説検証、PCによるレポートやプレゼンテーション資料の作成技法などを実践的に学ぶ。そのなかで、協同作業の作法及びコミュニケーション力を身に着ける。受講者は、資料の収集方法とそれらの評価方法、引用方法と参考文献の書き方、論理的な文章構築法を習得して、社会の問題について科学的で合理的な問題解決ができるようになることを目指す。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. DP１.数学・統計学・科学的方法、計算機科学の基礎	科学的方法に基づく問題解決の手法として社会調査及び仮説検証に取り組む。	社会問題の解決のために科学的な調査を計画・実行できる。
汎用的な力		
1. DP６.他者とのコミュニケーション		協同作業の作法やコミュニケーション力を身に着ける。
2. DP７.他者との協調・協働		調査結果や自分の意見を伝えるための論文・レポートを作成できる。
3. DP８.忠恕の心		パワーポイントを使って5分程度のプレゼンテーションができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)

・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)

・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

・実習や実技に対して個別にコメントします

・実技・実習後、全体に向けてコメントします

・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

授業へは原則としてすべて出席してください。何らかの事情で欠席する場合は、シラバスや授業内での配布資料を参照し、自学により内容を確認し、必要な課題に取り組むようにしてください。なお、資格・免許取得に必要な科目は、単位修得に必要な授業時間数が定められている場合がありますので、注意してください。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
提出物	30 %	： 最終課題であるレポートを除く提出物の内容で評価する。
プレゼンテーション	30 %	： 授業中に実施する発表会でのプレゼンテーションについて、その内容をルーブリックに従って評価する。
レポート	40 %	： 最終課題として提出するレポートについて、その内容をルーブリックに従って評価する。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

外務省：「SDGsとは？」
https://www.mofa.go.jp/mofaj/gaiko/oda/sdgs/about/index.html
外務省：「持続可能な開発目標（SDGs）達成に向けて日本が果たす役割」
https://www.mofa.go.jp/mofaj/gaiko/oda/sdgs/pdf/sdgs_gaiyou_202108.pdf
外務省：「持続可能な開発目標（SDGs）と日本の取組」
https://www.mofa.go.jp/mofaj/gaiko/oda/sdgs/pdf/SDGs_pamphlet.pdf

松浦年男、田村早苗「日本語パラグラフ・ライティング入門：読み手を迷わせないための書く技術」（研究社，ISBN:978-4-327-38487-6，2022年）

他にも授業中に適宜資料を配布する。

履修上の注意・備考・メッセージ

・本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業時間外学修が求められる。
・授業はグループワークなどの演習を軸に進めるため、出席して演習に参加することを原則とする。やむをえない理由により欠席する場合は、事前に担当教員に連絡をとり指示を仰ぐこと。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：　佐々木：月曜4限、上岡：水曜5限、上阪：火曜4限

場所：　各教員の研究室（駅前キャンパスＳ館4階）

備考・注意事項：　オフィスアワーを活用すること。

授業計画

		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**SDGsとは何か―持続可能な経済を考える（1）目標の理解** 21世紀に生きる市民の教養であるSDGsの理念を理解する。特にSDGｓの諸目標の中から経済に関するものを取り上げる。諸目標について与えられた資料を精読し、理解を深める。	SDGsの経済に関する目標について、与えられた資料をまとめる。	4時間
第2回	**SDGsとは何か―持続可能な経済を考える（２）課題の洗い出し** SDGsの経済に関する諸目標について、目標を達成するための課題を洗い出す。ディスカッションを通じて具体的な課題をいくつか選定し、まとめる。	ディスカッション用の資料として、目標達成のための課題を事前に調べてまとめておく。	4時間
第3回	**仮説検証（１）グループ編成、仮説設定** グループ活動の趣旨と活動目的の説明を行った後、5名程度のグループを編成する。グループ内でメンバーの役割を決める。 グループ内で話し合って課題に対する仮説を設定する。調査内容についてSDGsに関連した内容を取り上げる。	グループで連絡を取って作業を進める。	4時間
第4回	**仮説検証（２）質問紙の作成** 仮説検証のための調査について、質問文の作成方法を学習する。グループ毎に調査用の質問紙を作成する。	グループで連絡を取って、作業を進める。プリテストに向けた準備を行う。	4時間
第5回	**仮説検証（３）プリテストの実施、質問紙の改善** 作成した質問紙を用いて、クラス内でプリテスト（予備調査）を実施する。プリテストの結果をもとに、グループ内で話し合って質問紙を改善し、本調査用の質問紙を作成する。	作成した質問紙を用いて、各自で本調査を実施し、データを収集する。	4時間
第6回	**仮説検証（４）調査データの整理** 調査で得たデータを整理する。調査記録の確認、データのコーディング、クリーニング等を行い、データの作成を行う。	グループで連絡を取って作業を進める。	4時間
第7回	**仮説検証（５）データ分析とデータ検索、調査報告の準備** 作成したデータを用いて、単純集計および可視化を行う。調査結果に基づき、仮説の真偽について検討する。次回の調査報告に向けて準備を行う。	グループで連絡を取って作業を進める。調査報告用の発表資料を準備する。	4時間
第8回	**仮説検証（６）調査報告** 各グループで実施した調査と仮説検証結果について、発表会を実施する。他グループの発表をよく聞き、質疑応答に参加する。プレゼンテーションのルーブリックをもとに、クラス内で相互評価票に記入する。	グループで連絡を取って作業を進める。授業後に発表資料を改善し提出する。	4時間
第9回	**仮説検証（７）仮説検証のまとめ** 各グループで実施した調査と仮説検証について、調査報告の結果を受けて再検討し、仮説検証結果をまとめる。 次回以降のレポート作成に向けて準備を行う。	グループで連絡を取って作業を進める。 レポート作成に向けて、データ分析、文献調査等の準備を行う。	4時間
第10回	**レポートの作成（1）レポートの執筆** 論文形式のレポートを執筆する上で基本となるIMRaDおよびパラグラフライティングの考え方に基づき、調査結果に関するレポートを執筆する。 （1）WordやPowerPoint等を用いてレポートの骨格を作成する。 （2）各パラグラフの詳細を埋めてレポートを完成させる。	レポートを作成し提出する。	4時間
第11回	**レポートの作成（２）レポートの査読** 論文査読に関する基本知識を学び、他学生の執筆したレポートを建設的に査読する。ひとり2件程度のレポートを査読し、査読報告書を作成する。	査読報告書を作成し提出する。	4時間

第12回	**レポートの作成（３）レポートの修正、再査読** レポートの修正：査読結果に対する修正を行い、査読者に対する回答書を添付したうえで再投稿する。 レポートの再査読：再投稿された修正稿と回答書の内容を確認して、正しく修正されているかどうか確認する。	レポートの修正稿と査読者への回答書を作成し提出する。再査読の報告書を作成し提出する。	4時間
第13回	**レポートの作成（４）プレゼンテーションの準備** 再査読の結果を受けてレポートを完成させる。レポート内容について、次回のプレゼンテーションに向けて準備を行う。	プレゼンテーション用の発表資料を完成させる。	4時間
第14回	**レポートの作成（５）プレゼンテーション** 各自のレポート内容について、発表会を実施する。他者の発表をよく聞き、質疑応答に参加する。プレゼンテーションのルーブリックをもとに、クラスメンバーで相互評価票に記入する。最後に優秀発表者を選定し、表彰する。	プレゼンテーションの事前練習を行う。授業後に発表資料を改善し提出する。	4時間

111

授業科目名	**英語基礎Ⅰ（国際観光）**				
担当教員名	デイヴィス恵美				
学年・コース等	1年	開講期間	前期	単位数	1
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	大手日系電機メーカーのイギリス現地法人において、ヨーロッパ圏内の販社営業を担当し、販売戦略などに関する資料作成やプレゼンテーションも担当した。				

授業概要

本授業では、良質のリーディング・ビデオ素材に触れることを通し、世界の様々な国の文化について多面的な視点を養うこと、及び批判的思考能力を育てることを重視します。他者と効果的に意思疎通を行うためには、まず自分を理解していなければなりません。そのためにはさまざまな状況において常に自らはどう考えるのかを意識しなければならず、その思考の原点となる幅広い教養を育むことは英語教育には欠かせない要素であると言えます。課題解決型学習の一環としてペアワークやグループワークを取り入れ、多文化共生社会における多様な価値観を受け入れ、他と協働できる国際的人材としてのベース作りを視野に入れた授業展開を行います。様々な国で話される英語を知ることを通して、英語に対する受容力を鍛え、英語基礎力を伸ばしていくことを目標とします。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. 全学DP１.幅広い教養やスキル	コミュニケーションに影響を与える国際的・文化的諸問題を多量のインプットにより知る。	トピックに関連してクリティカルに思考し、課題を発見できる。
汎用的な力		
1. 全学DP６.行動・実践		様々なグループの中で、必要に応じてリーダーシップを取ることができる。
2. 全学DP８.意思疎通		グループ活動をスムーズに行える英語コミュニケーション能力を身につける。
3. 全学DP９.役割理解・連携行動		協働学習の中で多様性を理解し、気配り、共感して受容する素養を育み、社会生活を営むにたる親和力を培う。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
・問答法・コメントを求める
・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
・eラーニング、反転授業
・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
・ディベート、討論
・シミュレーション型学習(ロールプレイ、ゲーム型学習など)
・課題解決学習(PBL)

課題や取組に対する評価・振り返り

・提出物にコメント・評価をつけて返却します
・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

授業へは原則としてすべて出席してください。何らかの事情で欠席する場合は、シラバスや授業内での配布資料を参照し、自学により内容を確認し、必要な課題に取り組むようにしてください。なお、資格・免許取得に必要な科目は、単位修得に必要な授業時間数が定められている場合がありますので、注意してください。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
Participation	40 %	： 授業内課題に準備を含め積極的に取り組んでいるかにより総合的に判断する。その他課題の提出状況。
E-Learning	20 %	： E-Learningの課題を期限内に100%達成すること。

Quiz	:	毎週の単語小テストに取り組み、学期内トータル達成度を判断する。
10 %		
End-of-term Presentation	:	学期末に行うタスクにグループで取り組み、発表すること。ルーブリックに基いて評価する。
20 %		
Reflection report	:	期末に学期中の学びについて省察し、英語300字のレポートにまとめる。ルーブリックに基いて評価する。
10 %		

使用教科書

指定する

著者	タイトル	出版社	出版年
Scott Berlin & Megumi Kobayashi	・ World Adventures	・ Kinseido	・ 2021 年

参考文献等

ISBN: 978-4-7647-4133-1
本授業では、E-Learning教材であるぎゅっとeの年間使用契約をし、教材として使用します。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は平均すると毎回1時間の授業外学修が求められます。 特に授業内では協働学習を中心として進めるので、自らの貢献度を向上させるためにも、普段から社会における様々な事象をクリティカルな視点を持って眺め、自らインプットを求める積極性が求められます。英語はコミュニケーションを円滑に行うためのツールに過ぎず、そのツールを活かす原動力は自らの「人間力」であることを理解し、分野を限定することなく幅広く見聞を広めて下さい。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 初回授業で案内します。

場所： 西館２階　個研１

備考・注意事項： 相談がある場合はまずメールにてアポイントメントをとってください。

授業計画

		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**Orientation** 講義の進め方の説明 ぎゅっとeの説明 学修ポートフォリオの説明 CASEC/TOEICの説明と目標設定 単語テストの説明と語彙リストの配布 語彙サイズテスト（事前）実施 テキストの確認 宿題 指定図書①のリーディング	ぎゅっとe (Week 1)＆テキスト反転学習	1時間
第2回	**Unit 1: India (Contents comprehension)** 反転学習を前提にテキストの設問の解答チェック 本文内容確認 ビデオ教材視聴およびディスカッション 宿題 テキスト学習内容の復習 ポストリーディング課題 翌週のディスカッションについてのリサーチ	ぎゅっとe (Week 2)＆テキスト事後学習	1時間
第3回	**Unit1 : India (Groupwork)** グループに分かれてそれぞれリサーチしてきたことを共有 共同でグループワーク課題についてプレゼンを作成する クラス全体でお互いに紹介し合う ピアフィードバック	ぎゅっとe (Week 3)＆テキスト反転学習	1時間
第4回	**Unit 2: Philippines (Contents comprehension)** 反転学習を前提にテキストの設問の解答チェック 本文内容確認 ビデオ教材視聴およびディスカッション 宿題 テキスト学習内容の復習 ポストリーディング課題 翌週のディスカッションについてのリサーチ	ぎゅっとe (Week 4)＆テキスト事後学習	1時間
第5回	**Unit 2: Philippines (Groupwork)** グループに分かれてそれぞれリサーチしてきたことを共有 共同でグループワーク課題についてプレゼンを作成する クラス全体でお互いに紹介し合う ピアフィードバック	ぎゅっとe (Week 5)＆テキスト反転学習	1時間
第6回	**Unit 3: Thailand (Contents comprehension)** 反転学習を前提にテキストの設問の解答チェック 本文内容確認 ビデオ教材視聴およびディスカッション 宿題 テキスト学習内容の復習 ポストリーディング課題 翌週のディスカッションについてのリサーチ	ぎゅっとe (Week 6)＆テキスト事後学習	1時間
第7回	**Unit 3: Thailand (Groupwork)**	ぎゅっとe (Week 7)＆テキスト反転学習	1時間

	グループに分かれてそれぞれリサーチしてきたことを共有 共同でグループワーク課題についてプレゼンを作成する クラス全体でお互いに紹介し合う ピアフィードバック		
第8回	**Unit ４: Vietnam (Contents comprehension)** 反転学習を前提にテキストの設問の解答チェック 本文内容確認 ビデオ教材視聴およびディスカッション 宿題 テキスト学習内容の復習 ポストリーディング課題 翌週のディスカッションについてのリサーチ	ぎゅっとe (Week ８)＆テキスト事後学習	1時間
第9回	**Unit 4: Vietnam (Groupwork)** グループに分かれてそれぞれリサーチしてきたことを共有 共同でグループワーク課題についてプレゼンを作成する クラス全体でお互いに紹介し合う ピアフィードバック	ぎゅっとe (Week ９)＆テキスト反転学習	1時間
第10回	**Unit 5: Korea (Contents comprehension)** 反転学習を前提にテキストの設問の解答チェック 本文内容確認 ビデオ教材視聴およびディスカッション 宿題 テキスト学習内容の復習 ポストリーディング課題 翌週のディスカッションについてのリサーチ	ぎゅっとe (Week 10)＆テキスト事後学習	1時間
第11回	**Unit 5: Korea (Groupwork)** グループに分かれてそれぞれリサーチしてきたことを共有 共同でグループワーク課題についてプレゼンを作成する クラス全体でお互いに紹介し合う ピアフィードバック	ぎゅっとe (Week 11)＆テキスト反転学習	1時間
第12回	**Unit 6: France (Contents comprehension)** 反転学習を前提にテキストの設問の解答チェック 本文内容確認 ビデオ教材視聴およびディスカッション 宿題 テキスト学習内容の復習 ポストリーディング課題 翌週のディスカッションについてのリサーチ	ぎゅっとe (Week 12)＆テキスト事後学習	1時間
第13回	**Unit 6: France (Groupwork)** グループに分かれてそれぞれリサーチしてきたことを共有 共同でグループワーク課題についてプレゼンを作成する クラス全体でお互いに紹介し合う ピアフィードバック	ぎゅっとe (Week 13)＆期末パフォーマンステスト準備	1時間
第14回	**期末パフォーマンステスト＆振り返り** グループに分かれてプレゼンテーション ピアレビュー 語彙サイズテスト（事後） 振り返り	振り返りレポート	1時間

111

授業科目名	**英語基礎Ⅰ（教育）**				
担当教員名	石田雅子・湯浅桂・田原理恵・髙木浩志・Ｃ・レギュアー				
学年・コース等	1年	開講期間	前期	単位数	1
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の概要					

授業概要

本授業は、英語で他者とコミュニケーションをとるために、総合的な４技能（リスニング、リーディング、スピーキング、ライティング）を向上させることを目的とします。テーマについての知識や語彙だけでなく、英文から情報を読み取る・聞き取るスキルや、わかりやすく伝えるための文法や文章構成などについても学びます。「使える英語」の習得を目指して、場面に応じた会話練習や、英語でのスピーチ、プレンゼンテーション、文章作成などに取り組みます。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. 全学DP１.幅広い教養やスキル	他者とコミュニケーションを取るための英語力	4技能を用いて、英語で情報の発信・受信ができる。

汎用的な力	
1. 全学DP８.意思疎通	英語で他者との意思疎通ができる。
2. 全学DP10.忠恕の心	ペア、グループワークにおいて、他者を尊重しながら、自らの役割を遂行することができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)

・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)

・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

・実習や実技に対して個別にコメントします

・実技・実習後、全体に向けてコメントします

・提出物にコメント・評価をつけて返却します

・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

授業へは原則としてすべて出席してください。何らかの事情で欠席する場合は、シラバスや授業内での配布資料を参照し、自学により内容を確認し、必要な課題に取り組むようにしてください。なお、資格・免許取得に必要な科目は、単位修得に必要な授業時間数が定められている場合がありますので、注意してください。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
プレゼンテーション等のパフォーマンス課題	50 %	： 授業内に実施するパフォーマンス課題（学生が英語でアウトプットするもの）について、内容、発音、発表態度、積極的に参加できたか等を総合的に評価します。
授業課題、積極的な授業活動への参加	25 %	： 授業内および宿題として出された課題について、内容、分量等を評価します。
定期試験	25 %	： 14回の授業で学んだ、テキストや言語活動の内容に関して出題される筆記試験の結果で評価します。

使用教科書

指定する

著者	タイトル	出版社	出版年

Liz & John Soars・Paul Hancock	・Headway Elementary Student's Book (5th Edition, ISBN9780194524230)	・OXFORD UNIVERSITY PRESS	・2019 年

参考文献等

授業で指示します。

履修上の注意・備考・メッセージ

・原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ不可とする。
・教科書、ノート、辞書を持参すること。
・授業には、積極的・意欲的に取り組むこと。
・携帯電話、スマートフォンは指示した時以外は使用を禁じます。
・授業は予習を前提として行われます。また、授業後は丁寧に復習しておいてください。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 1回目の授業で連絡

場所： 教室等

備考・注意事項： 非常勤講師担当のクラスについては、授業の前後の時間に、教室や非常勤講師室で、また講義日以外はEメールで質問を受け付けます。

授業計画		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**オリエンテーション、コミュニケーション活動** 授業の進め方の説明、授業の約束事の確認、コミュニケーション活動	課題１の予習（語彙確認、リーディング、リスニング、ライティング、スピーキング課題など）	1時間
第2回	**授業課題１：Nice to meet you!!** 語彙、文法、リーディング、リスニング、ライティング、スピーキング活動	課題１の復習と課題2の予習（語彙確認、リーディング、リスニング、ライティング、スピーキング課題など）	1時間
第3回	**授業課題２：Work and family life** 語彙、文法、リーディング、リスニング、ライティング、スピーキング活動	課題2の復習と課題3の予習（語彙確認、リーディング、リスニング、ライティング、スピーキング課題など）	1時間
第4回	**授業課題３：Time off** 語彙、文法、リーディング、リスニング、ライティング、スピーキング活動	課題3の復習と課題4の予習（語彙確認、リーディング、リスニング、ライティング、スピーキング課題など）	1時間
第5回	**総復習（授業課題１－３）** 語彙、文法、リーディング、リスニング、ライティング、スピーキング活動	発表内容の準備	1時間
第6回	**パフォーマンス課題１：ミニプレゼンテーションの準備** 発表準備、発表（事前練習）	発表の準備／練習	1時間
第7回	**パフォーマンス課題１：ミニプレゼンテーション** 発表（本番）、分析、講評	ミニプレゼンテーションの振り返りと課題4の予習（語彙確認、リーディング、リスニング、ライティング、スピーキング課題など）	1時間
第8回	**授業課題４：House and home** 語彙、文法、リーディング、リスニング、ライティング、スピーキング活動	課題4の復習と課題5の予習（語彙確認、リーディング、リスニング、ライティング、スピーキング課題など）	1時間
第9回	**授業課題５：Super U!** 語彙、文法、リーディング、リスニング、ライティング、スピーキング活動	課題5の復習と課題6の予習（語彙確認、リーディング、リスニング、ライティング、スピーキング課題など）	1時間
第10回	**授業課題６：Lessons in life** 語彙、文法、リーディング、リスニング、ライティング、スピーキング活動	課題4-6の復習（語彙確認、リーディング、リスニング、ライティング、スピーキング課題など）	1時間
第11回	**総復習（授業課題4－6）** 語彙、文法、リーディング、リスニング、ライティング、スピーキング活動	発表内容の準備	1時間
第12回	**パフォーマンス課題２：プレゼンテーションの準備** 発表準備、発表（事前練習）	発表の準備／練習	1時間
第13回	**パフォーマンス課題２：プレゼンテーション** 発表、講評、まとめ	プレゼンテーションの振り返りと定期試験準備学習	1時間
第14回	**総復習（授業課題1-6）** 語彙、文法、リーディング、リスニング、ライティング、スピーキング活動	定期試験準備学習	1時間
			0時間

111

授業科目名	**英語基礎Ⅰ（看護）**				
担当教員名	日笠　ロウェナ				
学年・コース等	1年	開講期間	前期	単位数	1
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の概要					

授業概要

近年、外国人観光客や在留外国人の人口の増加に伴い、看護・医療現場での英語能力の必要性が高まっていることから、このコースにおいては、医療系英語の基礎を身に付けることを目的とする。具体的には、基礎医学および看護の実践で使われる機会の多い語彙、例えば解剖学的用語、症状や病名の用語などについて学修する。さらに、担当する患者さんや同僚とのコミュニケーションを英語で行うことができるように、授業のなかでは学生同士のロールプレイを通して、会話の練習を行う。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. 全学DP３.専門的知識・技能を実践で応用する力	授業のなかで導入された医療用語を理解し、それを自身で使いこなすことができるように練習する。	医療現場で、同僚ならびに患者さんとのコミュニケーションが、英語を使って円滑に行うことができるようになる。
汎用的な力		
1. 全学DP８.意思疎通		英語を使ってのコミュニケーション能力を身に付ける。
2. 全学DP４.課題発見		分からない医療用語や日常会話の表現に遭遇したら、すぐに調べて分かるようにし、それを意識的に自身で使うようにして身に付ける。
3. 全学DP10.忠恕の心		ロールプレイで会話の練習をしながら、将来の患者さんと会話していることを想定し、相手の状態を理解し、気持ちに寄り添いながら発言する。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)

・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)

・シミュレーション型学習(ロールプレイ、ゲーム型学習など)

課題や取組に対する評価・振り返り

・実習や実技に対して個別にコメントします

・実技・実習後、全体に向けてコメントします

・提出物にコメント・評価をつけて返却します

・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

授業へは原則としてすべて出席してください。何らかの事情で欠席する場合は、シラバスや授業内での配布資料を参照し、自学により内容を確認し、必要な課題に取り組むようにしてください。なお、資格・免許取得に必要な科目は、単位修得に必要な授業時間数が定められている場合がありますので、注意してください。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
授業中の活動における積極性	25 %	： 教師の問いかけや会話練習における自主発表の頻度 予習に対する取組みの様子
授業内課題の達成度	50 %	： 毎回の授業のなかで行う単語テストなどの成績
定期試験	25 %	： コース全体の学習の達成度を測る筆記試験の成績

使用教科書

指定する

著者	タイトル	出版社	出版年
山田千夏　山田貞子	・現場ですぐに役立つ！　実践メディカル英会話	・メディカ出版	・2011　年
ISBN：　9784840433563	・	・	・　年

参考文献等

看護英和辞典（医学書院）
ナース版ステッドマン医学辞典（メジカルビュー社）
看護英会話入門（医学書院）
看護師たまごの英語40日間トレーニングキット（アルク）

履修上の注意・備考・メッセージ

原則として毎回出席してください。
授業中は、自主発表をするなど、常に積極的な姿勢を見せてください。
毎回習った単語や表現の復習をしっかり行ってください。（毎回、授業の最初に小テストを行います）

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：　授業の前後

場所：　授業教室

授業計画		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第１回	**Course Introduction and Explanation** Introduction of the course, grading, syllabus explanation and warm up activity	授業で学習した語彙・表現を十分に復習すること。	1時間
第２回	**Unit 1 What department would you like to go to? 何科を受診なさいますか？** 総合案内 Vocabulary : Medical Departments 診察科 Exercise	授業で学習した語彙・表現を十分に復習すること。	1時間
第３回	**Unit 2 Fill out this form,please.　この用紙にご記入ください** 受付 Vocabulary: People and Occupations, Documents 人と職名、書類 Exercise	授業でで学習した語彙・表現を十分に復習すること。	1時間
第４回	**Unit 4 What's the matter? どうなさいましたか？ 現病歴** Vocabulary : Human Body 身体名部の名称 Exercise Unit 3 Column 1 What's wrong with you? 待合室で気分が悪くなる	授業で学習した語彙・表現を十分に復習すること。	1時間
第５回	**Unit 5 What symptoms do you have? どのような症状ですか？** 現病歴 Useful Expressions : Taking Common Symptoms 代用的な症状の尋ね方 Exercise	授業で学習した語彙・表現を十分に復習すること。	1時間
第６回	**Unit 6 How long have you had it? いつからその症状はありますか？** 現病歴 Useful Expressions: Taking the Present Health or History of the Present Illness 現病歴の尋ね方 Unit 7 Useful Expressions: Taking the Health History 健康歴の尋ね方	授業で学習した語彙・表現を十分に復習すること。	1時間
第７回	**Unit 8 Let me check your leg. 足（脚）を見せてください** 診察室～検査 Useful Expressions: Directions in the Consulting Room and Treatment Room診察室。処置室の掲示表現 Vocabulary : Medical Instruments and Supplies 医療機器と用品 Exercise	授業で学習した語彙・表現を十分に復習すること。	1時間
第８回	**Unit 9 You need to take a urine test. 尿検査をお願いします** Advanced Skit: Instructions of a Clinical Thermometer 体温計の説明 Exercise	授業で学習した語彙・表現を十分に復習すること。	1時間
第９回	**Unit 10 Where is the X-ray department?　X線検査室はどこですか？** Vocabulary : Hospital Facilities 病院内の設備 Exercise:	授業で学習した語彙・表現を十分に復習すること。	1時間
第10回	**Unit 11 When would you like to make a return appointment?　次回受診日のご希望はありますか？**	授業で学習した語彙・表現を十分に復習すること。	1時間

	Advanced Skit: Hospitalization Procedure 入院の手続き 外用薬の場 Exercise		
第11回	**Unit 13 Take 1 capsule 3 times a day, after each meal. 1回1カプセル、1日3回、食後にお飲みください** 薬 Advanced Skit: In Case of Medicine for External Use Vocabulary: Medications	授業で学習した語彙・表現を十分に復習すること。	1時間
第12回	**Unit 14 Does it have side effects? 副作用はありますか？** 薬 Useful Expressions:: Medications 薬に関する会話 Exercise	授業で学習した語彙・表現を十分に復習すること。	1時間
第13回	**Unit 15 I'd like to see Dr. Sasaki. 佐々木先生にお会いしたいのですが** 一般教養 Advanced Skit: On the Phone 電話対応 Exercise Useful Expressions Directions 道案内	授業で学習した語彙・表現を十分に復習すること。	1時間
第14回	**Review all units** Review and prepare for final test. 復讐	授業で学習した語彙・表現を十分に復習すること。	1時間

111

授業科目名	**英語基礎Ⅱ（国際観光）**				
担当教員名	デイヴィス恵美				
学年・コース等	1年	開講期間	後期	単位数	1
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	大手日系電機メーカーのイギリス現地法人において、ヨーロッパ圏内の販社営業を担当し、販売戦略などに関する資料作成やプレゼンテーションも担当した。				

授業概要

本授業では、良質のリーディング・ビデオ素材に触れることを通し、世界の様々な国の文化について多面的な視点を養うこと、及び批判的思考能力を育てることを重視します。他者と効果的に意思疎通を行うためには、まず自分を理解していなければなりません。そのためにはさまざまな状況において常に自らはどう考えるのかを意識しなければならず、その思考の原点となる幅広い教養を育むことは英語教育には欠かせない要素であると言えます。課題解決型学習の一環としてペアワークやグループワークを取り入れ、多文化共生社会における多様な価値観を受け入れ、他と協働できる国際的人材としてのベース作りを視野に入れた授業展開を行います。様々な国で話される英語を知ることを通して、英語に対する受容力を鍛え、英語基礎力を伸ばしていくことを目標とします。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. 全学DP１.幅広い教養やスキル	コミュニケーションに影響を与える国際的・文化的諸問題を多量のインプットにより知る。	トピックに関連してクリティカルに思考し、課題を発見できる。
汎用的な力		
1. 全学DP６.行動・実践		様々なグループの中で、必要に応じてリーダーシップを取ることができる。
2. 全学DP８.意思疎通		グループ活動をスムーズに行える英語コミュニケーション能力を身につける。
3. 全学DP９.役割理解・連携行動		協働学習の中で多様性を理解し、気配り、共感して受容する素養を育み、社会生活を営むにたる親和力を培う。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
・問答法・コメントを求める
・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
・eラーニング、反転授業
・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
・ディベート、討論
・シミュレーション型学習(ロールプレイ、ゲーム型学習など)
・課題解決学習(PBL)

課題や取組に対する評価・振り返り

・提出物にコメント・評価をつけて返却します
・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

授業へは原則としてすべて出席してください。何らかの事情で欠席する場合は、シラバスや授業内での配布資料を参照し、自学により内容を確認し、必要な課題に取り組むようにしてください。なお、資格・免許取得に必要な科目は、単位修得に必要な授業時間数が定められている場合がありますので、注意してください。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
Participation	40 %	： 授業内課題に準備を含め積極的に取り組んでいるかにより総合的に判断する。その他課題の提出状況。
E-Learning	20 %	： E-Learningの課題を期限内に100%達成すること。

Quiz	:	毎週の単語小テストに取り組み、学期内トータル達成度を判断する。
10 %		
End-of-term Presentation	:	学期末に行うタスクに個人で取り組み、発表すること。ルーブリックに基いて評価する。
20 %		
Reflection report	:	期末に学期中の学びについて省察し、英語400字のレポートにまとめる。ルーブリックに基いて評価する。
10 %		

使用教科書

指定する

著者	タイトル	出版社	出版年
Scott Berlin & Megumi Kobayashi	・ World Adventures	・ Kinseido	・ 2021 年

参考文献等

ISBN: 978-4-7647-4133-1
本授業では、E-Learning教材であるぎゅっとeの年間使用契約をし、教材として使用します。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は平均すると毎回1時間の授業外学修が求められます。 特に授業内では協働学習を中心として進めるので、自らの貢献度を向上させるためにも、普段から社会における様々な事象をクリティカルな視点を持って眺め、自らインプットを求める積極性が求められます。英語はコミュニケーションを円滑に行うためのツールに過ぎず、そのツールを活かす原動力は自らの「人間力」であることを理解し、分野を限定することなく幅広く見聞を広めて下さい。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 初回授業で案内します。

場所： 西館２階　個研１

備考・注意事項： 相談がある場合はまずメールにてアポイントメントをとってください。

授業計画

		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**Orientation** 講義の進め方の説明 後期課題の説明 語彙サイズテスト（事前）実施 前期の復習と夏休みの取り組みについてグループワーク	ぎゅっとe（Week 1)＆テキスト反転学習	1時間
第2回	**Unit 7: Italy (Contents comprehension)** 反転学習を前提にテキストの設問の解答チェック 本文内容確認 ビデオ教材視聴およびディスカッション 宿題 テキスト学習内容の復習 ポストリーディング課題 翌週のディスカッションについてのリサーチ	ぎゅっとe（Week 2)＆テキスト事後学習	1時間
第3回	**Unit 7: Italy (Groupwork)** グループに分かれてそれぞれリサーチしてきたことを共有 共同でグループワーク課題についてプレゼンを作成する クラス全体でお互いに紹介し合う ピアフィードバック	ぎゅっとe（Week 3)＆テキスト反転学習	1時間
第4回	**Unit 8: Denmark (Contents comprehension)** 反転学習を前提にテキストの設問の解答チェック 本文内容確認 ビデオ教材視聴およびディスカッション 宿題 テキスト学習内容の復習 ポストリーディング課題 翌週のディスカッションについてのリサーチ	ぎゅっとe（Week 4)＆テキスト事後学習	1時間
第5回	**Unit 8: Denmark (Groupwork)** グループに分かれてそれぞれリサーチしてきたことを共有 共同でグループワーク課題についてプレゼンを作成する クラス全体でお互いに紹介し合う ピアフィードバック	ぎゅっとe（Week 5)＆テキスト反転学習	1時間
第6回	**Unit 9: Portugal (Contents comprehension)** 反転学習を前提にテキストの設問の解答チェック 本文内容確認 ビデオ教材視聴およびディスカッション 宿題 テキスト学習内容の復習 ポストリーディング課題 翌週のディスカッションについてのリサーチ	ぎゅっとe（Week 6)＆テキスト事後学習	1時間
第7回	**Unit 9: Portugal (Groupwork)** グループに分かれてそれぞれリサーチしてきたことを共有 共同でグループワーク課題についてプレゼンを作成する クラス全体でお互いに紹介し合う ピアフィードバック	ぎゅっとe（Week ７)＆テキスト反転学習	1時間
第8回	**Unit 10: Turkey (Contents comprehension)**	ぎゅっとe（Week ８)＆テキスト事後学習	1時間

	反転学習を前提にテキストの設問の解答チェック 本文内容確認 ビデオ教材視聴およびディスカッション 宿題 テキスト学習内容の復習 ポストリーディング課題 翌週のディスカッションについてのリサーチ		
第9回	**Unit 10: Turkeyd (Groupwork)** グループに分かれてそれぞれリサーチしてきたことを共有 共同でグループワーク課題についてプレゼンを作成する クラス全体でお互いに紹介し合う ピアフィードバック	ぎゅっとe (Week 9)＆テキスト反転学習	1時間
第10回	**Unit 11: Egypt (Contents comprehension)** 反転学習を前提にテキストの設問の解答チェック 本文内容確認 ビデオ教材視聴およびディスカッション 宿題 テキスト学習内容の復習 ポストリーディング課題 翌週のディスカッションについてのリサーチ	ぎゅっとe (Week 10)＆テキスト事後学習	1時間
第11回	**Unit 11: Egypt (Groupwork)** グループに分かれてそれぞれリサーチしてきたことを共有 共同でグループワーク課題についてプレゼンを作成する クラス全体でお互いに紹介し合う ピアフィードバック	ぎゅっとe (Week 11)＆テキスト反転学習	1時間
第12回	**Unit 12: South Africa (Contents comprehension)** 反転学習を前提にテキストの設問の解答チェック 本文内容確認 ビデオ教材視聴およびディスカッション 宿題 テキスト学習内容の復習 ポストリーディング課題 翌週のディスカッションについてのリサーチ	ぎゅっとe (Week 12)＆テキスト事後学習	1時間
第13回	**Unit 12: South Africa (Groupwork)** グループに分かれてそれぞれリサーチしてきたことを共有 共同でグループワーク課題についてプレゼンを作成する クラス全体でお互いに紹介し合う ピアフィードバック	ぎゅっとe (Week 13)＆期末パフォーマンステスト準備	1時間
第14回	**期末パフォーマンステスト＆振り返り** 一人ずつプレゼンテーション ピアレビュー 語彙サイズテスト（事後） 振り返り	振り返りレポート	1時間

111

授業科目名	**英語基礎Ⅱ（教育）**				
担当教員名	片岡晴美・田原理恵・髙木浩志・石田雅子・C・レギュアー				
学年・コース等	1年	開講期間	後期	単位数	1
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の概要					

授業概要

本授業は、英語で他者とコミュニケーションをとるために、総合的な４技能（リスニング、リーディング、スピーキング、ライティング）を向上させることを目的とします。テーマについての知識や語彙だけでなく、英文から情報を読み取る・聞き取るスキルや、わかりやすく伝えるための文法や文章構成などについても学びます。「使える英語」の習得を目指して、場面に応じた会話練習や、英語でのスピーチ、プレンゼンテーション、文章作成などに取り組みます。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. 全学DP１.幅広い教養やスキル	他者とコミュニケーションを取るための英語力	4技能を用いて、英語で情報の発信・受信ができる。

汎用的な力	
1. 全学DP８.意思疎通	英語で他者との意思疎通ができる。
2. 全学DP10.忠恕の心	ペア、グループワークにおいて、他者を尊重しながら、自らの役割を遂行することができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)

・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)

・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

・実習や実技に対して個別にコメントします

・実技・実習後、全体に向けてコメントします

・提出物にコメント・評価をつけて返却します

・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

授業へは原則としてすべて出席してください。何らかの事情で欠席する場合は、シラバスや授業内での配布資料を参照し、自学により内容を確認し、必要な課題に取り組むようにしてください。なお、資格・免許取得に必要な科目は、単位修得に必要な授業時間数が定められている場合がありますので、注意してください。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
プレゼンテーション等のパフォーマンス課題	50 %	： 授業内に実施するパフォーマンス課題（学生が英語でアウトプットするもの）について、内容、発音、発表態度、積極的に参加できたか等を総合的に評価します。
授業課題、積極的な授業活動への参加	25 %	： 授業内および宿題として出された課題について、内容、分量等を評価します。
定期試験	25 %	： 14回の授業で学んだ、テキストや言語活動の内容に関して出題される筆記試験の結果で評価します。

使用教科書

指定する

著者	タイトル	出版社	出版年

Liz & John Soars・Paul Hancock	・Headway Elementary Student's Book (5th Edition, ISBN9780194524230)	・OXFORD UNIVERSITY PRESS	・2019 年

参考文献等

授業で指示します。

履修上の注意・備考・メッセージ

・原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ不可とする。
・教科書、ノート、辞書を持参すること。
・授業には、積極的・意欲的に取り組むこと。
・携帯電話、スマートフォンは指示した時以外は使用を禁じます。
・授業は予習を前提として行われます。また、授業後は丁寧に復習しておいてください。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 1回目の授業で連絡

場所： 教室等

備考・注意事項： 非常勤講師担当のクラスについては、授業の前後の時間に、教室や非常勤講師室で、また講義日以外はEメールで質問を受け付けます。

授業計画

		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**オリエンテーション、コミュニケーション活動** 授業の進め方の説明、授業の約束事の確認、コミュニケーション活動	課題7の予習（語彙確認、リーディング、リスニング、ライティング、スピーキング課題など）	1時間
第2回	**授業課題7: Remember when....** 語彙、文法、リーディング、リスニング、ライティング、スピーキング活動	課題7の復習と課題8の予習（語彙確認、リーディング、リスニング、ライティング、スピーキング課題など）	1時間
第3回	**授業課題８：Love it or hate it!** 語彙、文法、リーディング、リスニング、ライティング、スピーキング活動	課題8の復習と課題9の予習（語彙確認、リーディング、リスニング、ライティング、スピーキング課題など）	1時間
第4回	**授業課題９：Life in the city** 語彙、文法、リーディング、リスニング、ライティング、スピーキング活動	課題7-9の復習（語彙確認、リーディング、リスニング、ライティング、スピーキング課題など）	1時間
第5回	**総復習（授業課題7－9）** 語彙、文法、リーディング、リスニング、ライティング、スピーキング活動	発表内容の準備	1時間
第6回	**パフォーマンス課題１：ミニプレゼンテーションの準備** 発表準備、発表（事前練習）	発表の準備／練習	1時間
第7回	**パフォーマンス課題１：ミニプレゼンテーション** 発表（本番）、分析、講評	ミニプレゼンテーションの振り返りと課題10の予習課題（予習・復習課題（語彙確認、リーディング、リスニング、ライティング、スピーキング課題など）	1時間
第8回	**授業課題10: What are you up to?** 語彙、文法、リーディング、リスニング、ライティング、スピーキング活動	課題10の復習と課題11の予習（語彙確認、リーディング、リスニング、ライティング、スピーキング課題など）	1時間
第9回	**授業課題11: Going for it!** 語彙、文法、リーディング、リスニング、ライティング、スピーキング活動	課題11の復習と課題12の予習（語彙確認、リーディング、リスニング、ライティング、スピーキング課題など）	1時間
第10回	**授業課題12: Have you ever.....?** 語彙、文法、リーディング、リスニング、ライティング、スピーキング活動	課題10-12の復習（語彙確認、リーディング、リスニング、ライティング、スピーキング課題など）	1時間
第11回	**総復習（授業課題10-12）** 語彙、文法、リーディング、リスニング、ライティング、スピーキング活動	発表内容の準備	1時間
第12回	**パフォーマンス課題２：プレゼンテーションの準備** 発表準備、発表（事前練習）	発表の準備／練習	1時間
第13回	**パフォーマンス課題２：プレゼンテーション** 発表、講評、まとめ	プレゼンテーションの振り返りと定期試験準備学習	1時間
第14回	**総復習（課題7-12）** 語彙、文法、リーディング、リスニング、ライティング、スピーキング活動	定期試験準備学習	1時間
			0時間

111

授業科目名	**英語演習Ⅰ（経営・芸術・データサイエンス・看護）**				
担当教員名	伊藤由紀子・池名友・山﨑郁代・松山加奈子・小野壽子・武智美佳・谷川明代・呉亜矢・天羽美帆・長井絵美・安村友香・倉内利枝・Ｊ・エチャー				
学年・コース等	1年	開講期間	前期	単位数	1
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の概要					

授業概要

本授業は、英語で他者とコミュニケーションをとるために、総合的な４技能（リスニング、リーディング、スピーキング、ライティング）を向上させることを目的とします。テーマについての知識や語彙だけでなく、英文から情報を読み取る・聞き取るスキルや、わかりやすく伝えるための文法や文章構成などについても学びます。「使える英語」の習得を目指して、場面に応じた会話練習や、英語でのスピーチ、プレゼンテーション、文章作成などに取り組みます。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. 全学DP１.幅広い教養やスキル	他者とコミュニケーションを取るための英語力	4技能を用いて、英語で情報の発信・受信ができる。

汎用的な力	
1. 全学DP８.意思疎通	英語で他者との意思疎通ができる。
2. 全学DP10.忠恕の心	ペア、グループワークにおいて、他者を尊重しながら、自らの役割を遂行することができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

・実習や実技に対して個別にコメントします
・実技・実習後、全体に向けてコメントします
・提出物にコメント・評価をつけて返却します
・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

授業へは原則としてすべて出席してください。何らかの事情で欠席する場合は、シラバスや授業内での配布資料を参照し、自学により内容を確認し、必要な課題に取り組むようにしてください。なお、資格・免許取得に必要な科目は、単位修得に必要な授業時間数が定められている場合がありますので、注意してください。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準	
プレゼンテーション等のパフォーマンス課題	50 %	：	授業内に実施するパフォーマンス課題（学生が英語でアウトプットするもの）について、内容、発音、発表態度、積極的に参加できたか等を総合的に評価します。
授業課題、積極的な授業活動への参加	25 %	：	授業内および宿題として出された課題について、内容、分量等を評価します。
定期試験	25 %	：	14回の授業で学んだ、テキストや言語活動の内容に関して出題される試験の結果で評価します。

使用教科書

指定する

著者	タイトル	出版社	出版年

Ken Wilson	・Smart CHOICE FOURTH EDITION MULTI-PACK 1B	・OXFORD UNIVERSITY PRESS	・2020 年
	・ISBN : 9780194060974	・	・ 年

参考文献等

授業で指示します。

履修上の注意・備考・メッセージ

・教科書、ノート、辞書を持参すること。
・授業には、積極的・意欲的に取り組むこと。
・携帯電話、スマートフォンは指示した時以外は使用を禁じます。
・本科目は1単位の科目であるため、平均すると毎回1時間の授業外学修が求められます。「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 授業の前後

場所： 授業教室・研究室

備考・注意事項： 質問等は本授業の前後、またはメールでも構いません。件名に学籍番号、氏名を記入してください。

授業計画

		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**オリエンテーション　コミュニケーション活動　UNIT 7 Which one is cheaper?　Vocabulary** ・授業の進め方 ・授業の準備物、課題等について説明します 　この授業を受講する者は必ず当オリエンテーションに出席すること ・コミュニケーション活動 ・テキスト Useful Classroom Language, UNIT7 vocabulary	・コミュニケーション活動の復習　・Self-introduction準備	1時間
第2回	**UNIT 7　Which one is cheaper?　Conversation** ・テキスト Conversation ・ペアワーク、グループワーク ・Self-introduction ・UNIT7のテーマ、Clothesに関連したパフォーマンス課題の準備	・UNIT7の語彙　・パフォーマンス課題の準備	1時間
第3回	**UNIT 7　Which one is cheaper?　Language Practice and Listening** ・テキスト Language Practice and Listening ・Grammar Practice ・Listening活動 ・UNIT7のテーマ、Clothesに関連したパフォーマンス課題の準備	・UNIT7のワーク　・パフォーマンス課題の準備	1時間
第4回	**UNIT 7 Which one is cheaper?　Reading　パフォーマンス課題** ・テキスト Reading ・Reading活動 ・UNIT7 のテーマ、Clothesに関連したパフォーマンス活動を行う ・発表後には簡単な質疑応答を行う ・相互評価と振り返り（他者からの評価を参考にし、自己評価を行い、今後の改善点を考える）	・UNIT7の復習　・発表の振り返り	1時間
第5回	**UNIT 7　Which one is cheaper?　Writing and Speaking パフォーマンス課題** ・テキスト　Writing and Speaking ・Writing活動 ・Speaking活動 ・UNIT7 のテーマ、Clothesに関連したパフォーマンス活動を行う ・発表後には簡単な質疑応答を行う ・相互評価と振り返り（他者からの評価を参考にし、自己評価を行い、今後の改善点を考える）	・UNIT7のまとめワーク　・発表の振り返り	1時間
第6回	**UNIT 8　They are very friendly.　Vocabulary and Conversation** ・テキスト Vocabulary and Conversation ・ペアワーク、グループワーク ・UNIT8のテーマ、Appearance and personalityに関連したパフォーマンス課題の準備	・UNIT8の語彙・パフォーマンス課題の準備	1時間
第7回	**UNIT 8　They are very friendly.　Language Practice** ・テキスト Language Practice ・Grammar Practice ・UNIT8のテーマ、Appearance and personalityに関連したパフォーマンス課題の準備	・UNIT8のワーク　・パフォーマンス課題の準備	1時間
第8回	**UNIT 8　They are very friendly.　Listening　パフォーマンス課題** ・テキスト Listening ・Listening活動 ・UNIT8のテーマ、Appearance and personalityに関連したパフォーマンス課題の準備	・UNIT8のワーク　・パフォーマンス課題の準備	1時間
第9回	**UNIT 8　They are very friendly.　Reading　パフォーマンス課題**	・UNIT8の復習　・発表の振り返り	1時間

	・テキスト Reading ・Reading活動 ・UNIT8のテーマ、Appearance and personalityに関連したパフォーマンス活動を行う ・発表後には簡単な質疑応答を行う ・相互評価と振り返り（他者からの評価を参考にし、自己評価を行い、今後の改善点を考える）		
第10回	**UNIT 8　They are very friendly.　Writing and Speaking　パフォーマンス課題** ・テキスト　Writing and Speaking ・Writing活動 ・Speaking活動 ・UNIT8のテーマ、Appearance and personalityに関連したパフォーマンス活動を行う ・発表後には簡単な質疑応答を行う ・相互評価と振り返り（他者からの評価を参考にし、自己評価を行い、今後の改善点を考える）	・UNIT8のまとめワーク　・発表の振り返り	1時間
第11回	**UNIT 9 You can visit the zoo.　Vocabulary and Conversation** ・テキスト Vocabulary and Conversation ・ペアワーク、グループワーク ・UNIT9のテーマ、Local attractionsに関連したパフォーマンス課題の準備	・UNIT9の語彙　・パフォーマンス課題の準備	1時間
第12回	**UNIT 9 You can visit the zoo.　Language Practice and Listening　パフォーマンス課題** ・テキスト Language Practice and Listening ・Grammar Practice ・Listening活動 ・UNIT9のテーマ、Local attractionsに関連したパフォーマンス課題の準備	・UNIT9のワーク　・パフォーマンス課題の準備	1時間
第13回	**UNIT 9 You can visit the zoo.　Reading and Writing パフォーマンス課題** ・テキスト Reading and writing ・Reading活動 ・Writing活動 ・UNIT9のテーマ、Local attractionsに関連したパフォーマンス活動を行う ・発表後には簡単な質疑応答を行う ・相互評価と振り返り（他グループからの評価を参考にし、自己評価を行い、今後の改善点を考える）	・UNIT9の復習　・発表の振り返り	1時間
第14回	**UNIT 9 You can visit the zoo.　Speaking　パフォーマンス課題** ・テキスト Speaking ・Speaking活動 ・UNIT9のテーマ、Local attractionsに関連したパフォーマンス活動を行う ・発表後には簡単な質疑応答を行う ・相互評価と振り返り（他グループからの評価を参考にし、自己評価を行い、今後の改善点を考える） ・学期のまとめとリスニングテストを通して学習到達度を把握する ・定期試験について	・授業のまとめワーク　・期末試験に向けての学習	1時間

111

授業科目名	英語演習Ⅰ（国際観光）				
担当教員名	山川温				
学年・コース等	1年	開講期間	前期	単位数	1
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の概要					

授業概要

このクラスの目標は、基礎的なリスニング力とスピーキング力を身につけ、語彙力を増やすことである。具体的には、テキストを用いた演習を重ねる中で、基礎語彙を増やしながら英語音声の特徴についての理解を深め、日常会話や比較的身近なトピックに関する内容を正確に聞き取るリスニング力を養う。また、グループやペアでのコミュニケーション・トレーニングを取り入れた演習を通して、発音やリズム、理解されるための適切なスピードに注意しながらスピーキング力を養う。最終的には、発声や読解力の向上を図り、英語力のスコアアップを目指す。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. 全学DP１.幅広い教養やスキル	Students will be able to understand international cultural issues that affect communication, both positively and negatively.	They will be able to better understand holidays and celebrations, personal relations, professionalism, and family as it relates to English-speaking countries' culture.
汎用的な力		
1. 全学DP８.意思疎通		Students will be able to communicate their thoughts and intentions in English.

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)

・問答法・コメントを求める

・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)

・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)

・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)

・ディベート、討論

・シミュレーション型学習(ロールプレイ、ゲーム型学習など)

・その他(以下に概要を記述)

読解力トレーニングと読書スピード向上。軽いクラス対抗戦。クリティカルシンキングのチームワーク。

課題や取組に対する評価・振り返り

・実習や実技に対して個別にコメントします

・実技・実習後、全体に向けてコメントします

・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

授業へは原則としてすべて出席してください。何らかの事情で欠席する場合は、シラバスや授業内での配布資料を参照し、自学により内容を確認し、必要な課題に取り組むようにしてください。なお、資格・免許取得に必要な科目は、単位修得に必要な授業時間数が定められている場合がありますので、注意してください。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
Homework, Projects, Presentations	30 %	: Students will be evaluated on accuracy, timeliness, and/or effort depending on the task type. Projects will be assessed by using a rubric.
Class Participation, English Use	35 %	: Students are expected to participate in class in English, attend Kobetsu Shido activities, and contribute to an active learning environment.
Final Test		: Final test will cover the grammar, vocabulary, and sections from the units covered in class.

20 %

Weekly Quiz & Mid-Term Test : Quizzes will be based on vocabulary tasks or unit tests and given at the start of the class. Mid-Term will be a cumulative test to assess learning goals for the term.

15 %

使用教科書

指定する

著者	タイトル	出版社	出版年
Wilson, K	・Smart Choice Fourth Edition Level 1 Student Book with Online Practice (ISBN-13. 978-0194060998)	・Oxford University Press	・2020 年
Wilson, K	・Smart Choice Fourth Edition Level 1 Workbook (ISBN : 9780194061032)	・Oxford University Press	・2020 年
Wilson, K	・Smart Choice Fourth Edition Level 2 Student Book with Online Practice (ISBN:9780194061148)	・Oxford University Press	・2020 年

参考文献等

※使用教科書欄に入りきれなかった教科書
Wilson, K. (2020) Smart Choice Fourth Edition Level 2 Workbook (ISBN:9780194061186)
Tamura, Y., Wicking, P. (2023) Getting Things Done [Book 1] - Tasks for Connecting the Classroom with the Real World

【注意】
Smart Choiceのレベルはクラスによって異なるので、購入すべきレベルが分からなければ教授に相談しましょう。なお、どのクラスもGetting Things Doneは個別指導に使いますので、必ず購入しましょう。

参考文献は以下
Oxford Advanced Learner's Dictionary, available online at https://www.oxfordlearnersdictionaries.com/

Longman Dictionary of Contemporary English Online, available online at https://www.ldoceonline.com/

Swan, M. (2016) "Practical English Usage." Fourth Edition. Oxford University Press.

履修上の注意・備考・メッセージ

Students will participate in a wide range of activities, with plenty of opportunities to practice speaking and listening. Students will have formal and informal assessments, and speaking projects and presentations throughout the term. These projects and presentations may be individual or group-based. Students will be assessed in oral presentations based on their ability to
1. communicate clearly and effectively in a range of situations, showing their language skills and basic intercultural understanding
2. use appropriate language based on different cultural, situational, or interpersonal situations
3. understand and speak with accuracy and fluency in a variety of situations
4. organize and present their ideas logically
5. understand and respond to a variety of spoken texts
(Based on International Baccalaureate "Language B" expectations, available at https://www.sdgj.com/ckfinder/userfiles/files/c9029a01c2c3db7704b1eb12c356bdd4.pdf)

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： TBA

場所： TBA

備考・注意事項： Students will be notified of office hours during the first class.

授業計画		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**Orientation, Introduction and Unit 1: (A) Nice to meet you! / (B) How was your vacation?** Orientation / Classroom language / Google Classroom s et up / Being an independent learner Unit 1: (A) Nice to meet you! Unit 1: (B) How was your vacation?	(A)Vocabulary study(VS): Countries / (B)VS: Vacation activities	1時間
第2回	**Unit 1: (A) Nice to meet you! / (B) How was your vacation?** (A)Speaking: Where are you from? (B)Speaking: What did you do on vacation? Introduce: Presentation Project: Vacation (A/B) Discuss the presentation and expectations.	(A) Reading and writing (RW): Social media post / (B)RW: E-mail about a school project	1時間
第3回	**Unit 2: (A) What do you do? / (B) I think it's boring!** (A)Grammar: The simple present (B)Grammar: Adjectives ending in "-ing" and "-ed"	(A) VS: Jobs / (B) VS: Movies and music	1時間
	(A)Speaking: The world of work (B)Speaking: You and the movies		
第5回	**Unit 3: (A) Do you like noodles? / (B) Do it before you're 30!** (A)Grammar: The simple present questions with "do" (B)Grammar: The present perfect	(A)VS: Food / (B)VS: Extreme sports and activities	1時間
	(A)Speaking: Food from all over the world (B)Speaking: Find someone who has...		
第7回	**(A/B) Presentation Project: Vacation**	(A)RW: Tweet about streetfood / (B)RW: E-mail finding out about another country	1時間

	(A/B) Give a presentation about a vacation destination. Give your opinions about the destination. Use personal experience when possible.		
第8回	**Unit 4: (A) How often do you exercise? / (B) The best place in the world!** (A)Grammar: Frequency adverbs (B)Grammar: Superlative adjectives (A/B)Introduction to the Presentation Project on Cultural event	(A)VS: Sports / (B)VS: Natural features	1時間
	(A)Speaking: Do you like sports? (B)Speaking: Geography quiz!		
第10回	**Unit 5:(A) I'm listening to music / (B) Where's the party?** (A)Grammar: The present continuous (B)Grammar: Adverbial clauses: "before," "after," and "when"	(A)VS: Daily activities / (B)VS: Special events	1時間
	(A)Speaking: Who are you and who are you with? (B)Speaking: My favorite months		
第12回	**(A/B) Presentation Project: Cultural event** Give a presentation about a special cultural event outside of your own culture. Include reasons and explanations in a logical manner.	(A)RW: Messages from a friend / (B)RW: Description of a party	1時間
第13回	**Unit 6: (A) Where were you yesterday? / (B) You should try it!** (A)Grammar: The past tense of "be" (B)Grammar: "should" and "have to"	(A)VS: Problems / (B)VS: Healthy and unhealthy activities	1時間
第14回	**Unit 6: (A) Where were you yesterday? / (B) You should try it!** (A)Speaking: Where were you? (B)Speaking: Living a healthy lifestyle	(A/B) Final preparation	1時間

112

授業科目名	**英語演習Ⅰ（教育）**				
担当教員名	北村千絵・松本篤・湯浅桂				
学年・コース等	2年	開講期間	前期	単位数	1
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の概要					

授業概要

本授業は、英語で他者とコミュニケーションをとるために、総合的な４技能（リスニング、リーディング、スピーキング、ライティング）を向上させることを目的とします。テーマについての知識や語彙だけでなく、英文から情報を読み取る・聞き取るスキルや、わかりやすく伝えるための文法や文章構成などについても学びます。「使える英語」の習得を目指して、場面に応じた会話練習や、英語でのスピーチ、プレンゼンテーション、文章作成などに取り組みます。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. 全学DP１.幅広い教養やスキル	他者とコミュニケーションを取るための英語力	4技能を用いて、英語で情報の発信・受信ができる。

汎用的な力	
1. 全学DP８.意思疎通	英語で他者との意思疎通ができる。
2. 全学DP10.忠恕の心	ペア、グループワークにおいて、他者を尊重しながら、自らの役割を遂行することができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)

・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)

・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

・実習や実技に対して個別にコメントします

・実技・実習後、全体に向けてコメントします

・提出物にコメント・評価をつけて返却します

・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

授業へは原則としてすべて出席してください。何らかの事情で欠席する場合は、シラバスや授業内での配布資料を参照し、自学により内容を確認し、必要な課題に取り組むようにしてください。なお、資格・免許取得に必要な科目は、単位修得に必要な授業時間数が定められている場合がありますので、注意してください。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
プレゼンテーション等のパフォーマンス課題	50 %	： 授業内に実施するパフォーマンス課題（学生が英語でアウトプットするもの）について、内容、発音、発表態度、積極的に参加できたか等を総合的に評価します。
授業課題、積極的な授業活動への参加	25 %	： 授業内および宿題として出された課題について、内容、分量等を評価します。
定期試験	25 %	： 14回の授業で学んだ、テキストや言語活動の内容に関して出題される筆記試験の結果で評価します。

使用教科書

指定する

著者	タイトル	出版社	出版年

Liz & John Soars・Paul Hancock	・Headway Pre-Intermediate Student's Book (5th Edition、ISBN9780194527699)	・OXFORD UNIVERSITY PRESS	・2019 年

参考文献等

授業で指示します。

履修上の注意・備考・メッセージ

・原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ不可とする。
・教科書、ノート、辞書を持参すること。
・授業には、積極的・意欲的に取り組むこと。
・携帯電話、スマートフォンは指示した時以外は使用を禁じます。
・授業は予習を前提として行われます。また、授業後は丁寧に復習しておいてください。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 1回目の授業で連絡

場所： 個人研究室または教室

備考・注意事項： 非常勤講師担当のクラスについては、授業の前後の時間に、教室や非常勤講師室で、また講義日以外はEメールで質問を受け付けます。

授業計画

		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**オリエンテーション　コミュニケーション活動** ・授業の進め方 ・授業の準備物、課題等について説明します 　この授業を受講する者は必ず当オリエンテーションに出席すること ・コミュニケーション活動	課題1の予習（語彙、リーディング、リスニング、ライティング、スピーキング等の課題）	1時間
第2回	**授業課題１：Let's get together（１：内容理解）** ・内容理解（Reading and Listening） ・内容要約（Speaking and Writing）	課題１の授業の復習・予習（語彙、リーディング、リスニング、ライティング、スピーキング等の課題）	1時間
第3回	**授業課題１：Let's get together（２：発信演習）** ・内容に関する意見交換(Speaking) ・内容／テーマに関する(Writing)	課題１の授業の復習・課題２の予習（語彙、リーディング、リスニング、ライティング、スピーキング等の課題）	1時間
第4回	**授業課題２：Good news, bad news!（１：内容理解）** ・内容理解（Reading and Listening） ・内容要約（Speaking and Writing）	課題２の授業の復習・予習（語彙、リーディング、リスニング、ライティング、スピーキング等の課題）	1時間
第5回	**授業課題２：Good news, bad news!（２：発信演習）** ・内容に関する意見交換(Speaking) ・内容／テーマに関する(Writing) ・パフォーマンス課題（１）の説明と準備	パフォーマンス課題の準備	1時間
第6回	**パフォーマンス課題（１）** ・第２－５回目の授業の内容に関連したパフォーマンス活動を行う ・発表後には簡単な質疑応答を行う ・相互評価と振り返り（他者からの評価を参考にし、自己評価を行い、今後の改善点を考える）	課題３の予習（語彙、リーディング、リスニング、ライティング、スピーキング等の課題	1時間
第7回	**授業課題３：Food for thought（１：内容理解）** ・内容理解（Reading and Listening） ・内容要約（Speaking and Writing）	課題３の復習・予習（語彙、リーディング、リスニング、ライティング、スピーキング等の課題）	1時間
第8回	**授業課題３：Food for thought（２：発信演習）** ・内容に関する意見交換(Speaking) ・内容／テーマに関する(Writing)	課題３の復習と課題４の予習（語彙、リーディング、リスニング、ライティング、スピーキング等の課題）	1時間
第9回	**授業課題４：The future's in your hands（１：内容理解）** ・内容理解（Reading and Listening） ・内容要約（Speaking and Writing）	課題４の授業の復習・予習（語彙、リーディング、リスニング、ライティング、スピーキング等の課題）	1時間
第10回	**授業課題４：The future's in your hands（２：発信演習）** ・内容に関する意見交換(Speaking) ・内容／テーマに関する(Writing) ・パフォーマンス課題（２）の説明と準備	パフォーマンス課題（２）の準備	1時間
第11回	**パフォーマンス課題（２）** ・第７－10回目の授業の内容に関連したパフォーマンス活動を行う ・発表後には簡単な質疑応答を行う ・相互評価と振り返り（他者からの評価を参考にし、自己評価を行い、今後の改善点を考える）	課題５の予習（語彙、リーディング、リスニング、ライティング、スピーキング等の課題）	1時間
第12回	**授業課題５：History repeats itself（１：内容理解）**	課題５の復習・予習（語彙、リーディング、リスニング、ライティング、スピーキング等の課題）	1時間

	・内容理解（Reading and Listening） ・内容要約（Speaking and Writing）		
第13回	**授業課題５： History repeats itself（２：発信演習）** ・内容に関する意見交換(Speaking) ・内容／テーマに関する(Writing) ・パフォーマンス課題（３）の説明と準備	パフォーマンス課題（３）の準備	1時間
第14回	**パフォーマンス課題（3）** ・第1－13回目の授業の内容に関連したパフォーマンス活動を行う ・発表後には簡単な質疑応答を行う ・相互評価と振り返り（他者からの評価を参考にし、自己評価を行い、今後の改善点を考える）	発表の振り返り・定期試験に向けての学習	1時間
			0時間

111

授業科目名	英語演習Ⅱ（経営・芸術・データサイエンス）				
担当教員名	伊藤由紀子・池名友・山﨑郁代・谷川明代・松山加奈子・小野壽子・武智美佳・呉亜矢・天羽美帆・長井絵美・安村友香・倉内利枝・Ｊ・エチャー				
学年・コース等	1年	開講期間	後期	単位数	1
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の概要					

授業概要

本授業は、英語で他者とコミュニケーションをとるために、総合的な４技能（リスニング、リーディング、スピーキング、ライティング）を向上させることを目的とします。テーマについての知識や語彙だけでなく、英文から情報を読み取る・聞き取るスキルや、わかりやすく伝えるための文法や文章構成などについても学びます。「使える英語」の習得を目指して、場面に応じた会話練習や、英語でのスピーチ、プレゼンテーション、文章作成などに取り組みます。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. 全学DP１.幅広い教養やスキル	他者とコミュニケーションを取るための英語力	4技能を用いて、英語で情報の発信・受信ができる。

汎用的な力	
1. 全学DP８.意思疎通	英語で他者との意思疎通ができる。
2. 全学DP10.忠恕の心	ペア、グループワークにおいて、他者を尊重しながら、自らの役割を遂行することができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

・実習や実技に対して個別にコメントします
・実技・実習後、全体に向けてコメントします
・提出物にコメント・評価をつけて返却します
・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

授業へは原則としてすべて出席してください。何らかの事情で欠席する場合は、シラバスや授業内での配布資料を参照し、自学により内容を確認し、必要な課題に取り組むようにしてください。なお、資格・免許取得に必要な科目は、単位修得に必要な授業時間数が定められている場合がありますので、注意してください。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準	
プレゼンテーション等のパフォーマンス課題	50 %	:	授業内に実施するパフォーマンス課題（学生が英語でアウトプットするもの）について、内容、発音、発表態度、積極的に参加できたか等を総合的に評価します。
授業課題、積極的な授業活動への参加	25 %	:	授業内および宿題として出された課題について、内容、分量等を評価します。
定期試験	25 %	:	14回の授業で学んだ、テキストや言語活動の内容に関して出題される筆記試験の結果で評価します。

使用教科書

指定する

著者	タイトル	出版社	出版年

Ken Wilson	・Smart CHOICE FOURTH EDITION MULTI-PACK 1B	・OXFORD UNIVERSITY PRESS	・2020 年
	・ISBN : 9780194060974	・	・ 年

参考文献等

授業で指示します。

履修上の注意・備考・メッセージ

・教科書、ノート、辞書を持参すること。
・授業には、積極的・意欲的に取り組むこと。
・携帯電話、スマートフォンは指示した時以外は使用を禁じます。
・本科目は1単位の科目であるため、平均すると毎回1時間の授業外学修が求められます。「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：　授業の前後

場所：　授業教室・研究室

備考・注意事項：　質問等は本授業の前後、またはメールでも構いません。件名に学籍番号、氏名を記入してください。

授業計画		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**オリエンテーション　コミュニケーション活動　UNIT 10 Is there a coffee shop? Vocabulary** ・授業の進め方 ・授業の準備物、課題等について説明します。 　この授業を受講する者は必ず当オリエンテーションに出席すること。 ・コミュニケーション活動 ・テキスト　Vocabulary	・コミュニケーション活動の復習　・課題に対する学習	1時間
第2回	**UNIT 10 Is there a coffee shop? Conversation** ・テキスト Conversation ・ペアワーク、グループワーク ・Unit10のテーマplaces around townに関連したパフォーマンス課題の準備	・UNIT10の語彙　・パフォーマンス課題の準備	1時間
第3回	**UNIT 10 Is there a coffee shop? Language Practice and Listening** ・テキスト Language Practice and Listening ・Grammar Practice ・Listening活動 ・Unit10のテーマPlaces around townに関連したパフォーマンス課題の準備	・UNIT10のワーク　・パフォーマンス課題の準備	1時間
第4回	**UNIT 10 Is there a coffee shop?　Reading　パフォーマンス課題** ・テキスト Reading ・Reading活動 ・Unit10のテーマPlaces around townに関連したパフォーマンス活動を行う ・発表後には簡単な質疑応答を行う ・相互評価と振り返り（他者からの評価を参考にし、自己評価を行い、今後の改善点を考える）	・UNIT10の復習　・発表の振り返り	1時間
第5回	**UNIT 10 Is there a coffee shop?　Writing and Speaking　パフォーマンス課題** ・テキスト Writing and Speaking ・Writing活動 ・Speaking活動 ・Unit10のテーマPlaces around townに関連したパフォーマンス活動を行う ・発表後には簡単な質疑応答を行う ・相互評価と振り返り（他者からの評価を参考にし、自己評価を行い、今後の改善点を考える）	・UNIT10のまとめワーク・発表の振り返り	1時間
第6回	**UNIT 11　I had a good time.　Vocabulary and Conversation** ・テキスト Vocabulary and Conversation ・ペアワーク、グループワーク ・Unit11のテーマVacation activitiesに関連したパフォーマンス課題の準備	・UNIT11の語彙・パフォーマンス課題の準備	1時間
第7回	**UNIT 11　I had a good time.　Language Practice** ・テキスト　Language Practice ・Grammar Practice ・Unit11のテーマVacation activitiesに関連したパフォーマンス課題の準備	・UNIT11のワーク　・パフォーマンス課題の準備	1時間
第８回	**UNIT 11　I had a good time.　Listening** ・テキスト Listening ・Listening活動 ・Unit11のテーマVacation activitiesに関連したパフォーマンス課題の準備	・UNIT11のワーク　・パフォーマンス課題の準備	1時間
第９回	**UNIT 11　I had a good time.　Reading　パフォーマンス課題** ・テキスト Reading ・Reading活動 ・Unit11のテーマVacation activitiesに関連したパフォーマンス活動を行う ・発表後には簡単な質疑応答を行う ・相互評価と振り返り（他者からの評価を参考にし、自己評価を行い、今後の改善点を考える）	・UNIT11の復習　・発表の振り返り	1時間

第10回	**UNIT 11　I had a good time.　Writing and Speaking パフォーマンス課題** ・テキスト Writing and Speaking ・Writing活動 ・Speaking活動 ・Unit11のテーマVacation activitiesに関連したパフォーマンス活動を行う ・発表後には簡単な質疑応答を行う ・相互評価と振り返り（他者からの評価を参考にし、自己評価を行い、今後の改善点を考える）	・UNIT11のまとめワーク　・発表の振り返り	1時間
第11回	**・UNIT12 I'm going to go by car. Vocabulary and Conversation** ・テキスト Vocabulary and Conversation ・ペアワーク、グループワーク ・Unit12のテーマTransportationに関連したパフォーマンス課題の準備	・UNIT12の語彙・パフォーマンス課題の準備	1時間
第12回	**UNIT 12 I'm going to go by car. Language Practice and Listening** ・テキスト　Language Practice and Listening ・Grammar Practice ・Listening活動 ・Unit12のテーマTransportationに関連したパフォーマンス課題の準備	・UNIT12のワーク　・パフォーマンス課題の準備	1時間
第13回	**UNIT 12 I'm going to go by car.　Reading and Writing パフォーマンス課題** ・テキスト Reading and Writing ・Reading活動 ・Writing活動 ・Unit12のテーマTransportationに関連したパフォーマンス活動を行う ・発表後には簡単な質疑応答を行う ・相互評価と振り返り（他者からの評価を参考にし、自己評価を行い、今後の改善点を考える）	・UNIT12のまとめワーク　・発表の振り返り	1時間
第14回	**UNIT 12 I'm going to go by car. Speaking　パフォーマンス課題** ・テキストSpeaking ・Speaking活動 ・Unit12のテーマTransportationに関連したパフォーマンス活動を行う ・発表後には簡単な質疑応答を行う ・相互評価と振り返り（他者からの評価を参考にし、自己評価を行い、今後の改善点を考える） ・学期の総復習とリスニングテストにより、学習の到達度を確認 ・定期試験に向けての課題の指示	・授業全体の復習　・期末試験に向けての学習	1時間

111

授業科目名	**英語演習Ⅱ（国際観光）**				
担当教員名	山川温				
学年・コース等	1年	開講期間	後期	単位数	1
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の概要					

授業概要

本授業は、リスニングとスピーキングの基礎的な能力の修得を目標とする。具体的には、テキストを用いて多くの演習に取り組むなかで、基本的語彙を増やしながら英語の音声の特徴についての理解を深め、日常的な発話や比較的身近なテーマに関する内容について正確に聞き取ることのできるリスニング能力を育てていく。また、グループやペアでのコミュニケーショントレーニングを取り入れて、理解される発音、リズム、適切なスピードに気をつけて演習を行うことでスピーキング能力を育てていく。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. 全学DP１.幅広い教養やスキル	Students will be able to understand international cultural issues that affect communication, both positively and negatively.	They will be able to better understand holidays and celebrations, personal relations, professionalism, and family as it relates to English-speaking countries' culture.
汎用的な力		
1. 全学DP８.意思疎通		Students will be able to communicate their thoughts and intentions in English.

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)

・問答法・コメントを求める

・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)

・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)

・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)

・ディベート、討論

・シミュレーション型学習(ロールプレイ、ゲーム型学習など)

・その他(以下に概要を記述)

Recitation contest

課題や取組に対する評価・振り返り

・実習や実技に対して個別にコメントします

・実技・実習後、全体に向けてコメントします

・提出物にコメント・評価をつけて返却します

・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

授業へは原則としてすべて出席してください。何らかの事情で欠席する場合は、シラバスや授業内での配布資料を参照し、自学により内容を確認し、必要な課題に取り組むようにしてください。なお、資格・免許取得に必要な科目は、単位修得に必要な授業時間数が定められている場合がありますので、注意してください。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
Homework, Projects, Presentations	30 %	: Students will be evaluated on accuracy, timeliness, and/or effort depending on the task type. Projects will be assessed by using a rubric.
Class Participation, English Use	35 %	: Students are expected to participate in class in English, attend Kobetsu Shido activities, and contribute to an active learning environment.
Final test		: Final test will cover the grammar, vocabulary, and reading sections from the units

covered in class.

20 %

Weekly Quiz & Mid-Term Test : Quizzes will be based on vocabulary tasks or unit tests and given at the start of the class. Mid-Term will be a cumulative test to assess learning goals for the term.

15 %

使用教科書

指定する

著者	タイトル	出版社	出版年
Wilson, K	・Smart Choice Fourth Edition Level 1 Student Book with Online PracticeSmart Choice Fourth Edition Level 1 Student Book with Online Practice (ISBN-13. 978-0194060998)	・Oxford University Press	・2020 年
Wilson, K	・Smart Choice Fourth Edition Level 1 Workbook (ISBN : 9780194061032)	・Oxford University Press	・2020 年
Wilson, K	・Smart Choice Fourth Edition Level 2 Student Book with Online Practice(ISBN:9780194061148)	・Oxford University Press	・2020 年

参考文献等

※使用教科書欄に入りきれなかった教科書
Wilson, K. (2020) Smart Choice Fourth Edition Level 2 Workbook (ISBN:9780194061186)
Tamura, Y., Wicking, P. (2023) Getting Things Done [Book 1] - Tasks for Connecting the Classroom with the Real World

【注意】
Smart Choiceのレベルはクラスによって異なるので、購入すべきレベルが分からなければ教授に相談しましょう。なお、どのクラスもGetting Things Doneは個別指導に使いますので、必ず購入しましょう。

参考文献は以下

Oxford Advanced Learner’s Dictionary, available online at https://www.oxfordlearnersdictionaries.com/

Longman Dictionary of Contemporary English Online, available online at https://www.ldoceonline.com/

Swan, M. (2016) "Practical English Usage." Fourth Edition. Oxford University Press.

履修上の注意・備考・メッセージ

Students will participate in a wide range of activities, with plenty of opportunities to practice speaking and listening. Students will have formal and informal assessments, and speaking projects and presentations throughout the term. These projects and presentations may be individual or group-based. Students will be assessed in oral presentations based on their ability to
1. communicate clearly and effectively in a range of situations, showing their language skills and basic intercultural understanding
2. use appropriate language based on different cultural, situational, or interpersonal situations
3. understand and speak with accuracy and fluency in a variety of situations
4. organize and present their ideas logically
5. understand and respond to a variety of spoken texts
(Based on International Baccalaureate “Language B” expectations, available at https://www.sdgj.com/ckfinder/userfiles/files/c9029a01c2c3db7704b1eb12c356bdd4.pdf)

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： TBA

場所： TBA

備考・注意事項： Students will be notified of office hours during the first class.

授業計画

		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**Orientation & Unit 7: (A)Which one is cheaper? / (B)There are too many stores!** Orientation / Classroom language / Being an independent learner	(A)Vocabulary study(VS): Clothes / (B)VS: Things to buy	1時間
第2回	**Unit 7: (A)Which one is cheaper? / (B)There are too many stores!** (A)Speaking: Are clothes important? (B)Speaking: A shopping game Introduce: Presentation Project: International Itinerary (A/B) Expectations and rubric	(A)Reading and writing (RW): A message about clothes / (B)RW: A blog about your favorite place to shop	1時間
第3回	**Unit 8: (A) They’re very friendly / (B) Wanted: People who can sing** (A)Grammar: “Be like” and “look like” (B)Grammar: Defining relative clauses	(A)VS: Appearance and personality / (B)VS: Describing personality	1時間
	(A)Speaking: What’s important to you? (B)Speaking: The most important thing to me		
第5回	**Unit 9: (A) You can visit the zoo / (B) What were you doing?** (A)Grammar: “Can” and “can’t” (B)Grammar: The past continuous	(A.)VS: Local attractions (B)VS: Accidents and injuries	1時間
	(A)Speaking: Come visit us! (B)Speaking: Have you ever ...?		

第7回	**Presentation Project: International Itinerary (A/B)** (A/B) Give a presentation about an international vacation destination. Give your opinions about the destination. Use personal experience if possible, or make up your own experience.	(A)RW: Beyond Brussels / (B)RW: A paragraph about something that happened to you	1時間
第8回	**Unit 10: (A) Is there a coffee shop? / (B) I used to sing** (A)Grammar: “There is” and “there are” (B)Grammar: “used to” Introduce: Presentation Project: Cultural event (A/B) Expectations and rubric	(A)VS: Places around town / (B)VS: School activities and clubs	1時間
	(A)Speaking: Come to my city! (B)Speaking: Find someone who use to...		
第10回	**Unit 11: (A) I had a good time / (B) You’ll save money if...** (A)Grammar: The simple past (B)Grammar: zero and first conditionals	(A)VS: Vacation activities / (B)VS: Recycling	1時間
	(A)Speaking: My best vacation ever! (B)Speaking: How green are you?		
第12回	**(A/B) Presentation Project: Cultural event** Give a presentation about a special cultural event from your own culture. Include reasons and explanations in a logical manner that someone from a foreign culture would understand.	(A)RW: Tips on visiting London / (B)RW: E-mail about a local environmental problem	1時間
第13回	**Unit 12: (A) I’m going to go by car / (B) You could be a lifeguard** (A)Grammar: “Be going to” + verb (B)Grammar: Modals for possibility, speculation, and deduction	(A)VS: Transport / (B)VS: Vacation jobs	1時間
	(A)Speaking: How do you get around town? (B)Speaking: What next?		

112

授業科目名	**英語演習Ⅱ（教育）**				
担当教員名	**北村千絵・松本篤・湯浅桂**				
学年・コース等	2年	開講期間	後期	単位数	1
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の概要					

授業概要

本授業は、英語で他者とコミュニケーションをとるために、総合的な４技能（リスニング、リーディング、スピーキング、ライティング）を向上させることを目的とします。テーマについての知識や語彙だけでなく、英文から情報を読み取る・聞き取るスキルや、わかりやすく伝えるための文法や文章構成などについても学びます。「使える英語」の習得を目指して、場面に応じた会話練習や、英語でのスピーチ、プレンゼンテーション、文章作成などに取り組みます。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. 全学DP１.幅広い教養やスキル	他者とコミュニケーションを取るための英語力	4技能を用いて、英語で情報の発信・受信ができる。

汎用的な力	
1. 全学DP８.意思疎通	英語で他者との意思疎通ができる。
2. 全学DP10.忠恕の心	ペア、グループワークにおいて、他者を尊重しながら、自らの役割を遂行することができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)

・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)

・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

・実習や実技に対して個別にコメントします

・実技・実習後、全体に向けてコメントします

・提出物にコメント・評価をつけて返却します

・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

授業へは原則としてすべて出席してください。何らかの事情で欠席する場合は、シラバスや授業内での配布資料を参照し、自学により内容を確認し、必要な課題に取り組むようにしてください。なお、資格・免許取得に必要な科目は、単位修得に必要な授業時間数が定められている場合がありますので、注意してください。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
プレゼンテーション等のパフォーマンス課題	50 %	： 授業内に実施するパフォーマンス課題（学生が英語でアウトプットするもの）について、内容、発音、発表態度、積極的に参加できたか等を総合的に評価します。
授業課題、積極的な授業活動への参加	25 %	： 授業内および宿題として出された課題について、内容、分量等を評価します。
定期試験	25 %	： 14回の授業で学んだ、テキストや言語活動の内容に関して出題される筆記試験の結果で評価します。

使用教科書

指定する

著者	タイトル	出版社	出版年

Liz & John Soars・Paul Hancock	・Headway Pre-Intermediate Student's Book (5th Edition, ISBN9780194527699)	・OXFORD UNIVERSITY PRESS	・2019 年

参考文献等

授業で指示します。

履修上の注意・備考・メッセージ

・原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ不可とする。
・教科書、ノート、辞書を持参すること。
・授業には、積極的・意欲的に取り組むこと。
・携帯電話、スマートフォンは指示した時以外は使用を禁じます。
・授業は予習を前提として行われます。また、授業後は丁寧に復習しておいてください。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 1回目の授業で連絡

場所： 個人研究室または教室

備考・注意事項： 非常勤講師担当のクラスについては、授業の前後の時間に、教室や非常勤講師室で、また講義日以外はEメールで質問を受け付けます。

授業計画

	授業計画	学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**オリエンテーション　コミュニケーション活動** ・授業の進め方 ・授業の準備物、課題等について説明します 　この授業を受講する者は必ず当オリエンテーションに出席すること ・コミュニケーション活動	課題６の予習（語彙、リーディング、リスニング、ライティング、スピーキング等の課題）	1時間
第2回	**課題6: Simply the best（１：内容理解）** ・内容理解（Reading and Listening） ・内容要約（Speaking and Writing）	課題６の復習・予習（語彙、リーディング、リスニング、ライティング、スピーキング等の課題）	1時間
第3回	**課題６: Simply the best（２：発信演習）** ・内容に関する意見交換(Speaking) ・内容／テーマに関する(Writing)	課題６の復習・課題７の予習（語彙、リーディング、リスニング、ライティング、スピーキング等の課題）	1時間
第4回	**課題7: Living dangerously（１：内容理解）** ・内容理解（Reading and Listening） ・内容要約（Speaking and Writing）	課題7の復習・予習（語彙、リーディング、リスニング、ライティング、スピーキング等の課題）	1時間
第5回	**課題７: Living dangerously（２：発信演習）** ・内容に関する意見交換(Speaking) ・内容／テーマに関する(Writing) ・パフォーマンス課題（１）の説明と準備	パフォーマンス課題の準備	1時間
第6回	**パフォーマンス課題（１）** ・第２－５回目の授業の内容に関連したパフォーマンス活動を行う ・発表後には簡単な質疑応答を行う ・相互評価と振り返り（他者からの評価を参考にし、自己評価を行い、今後の改善点を考える）	発表の振り返りと課題８の予習（語彙、リーディング、リスニング、ライティング、スピーキング等の課題）	1時間
第7回	**課題８:What a story!（１：内容理解）** ・内容理解（Reading and Listening） ・内容要約（Speaking and Writing）	課題８の復習・予習（語彙、リーディング、リスニング、ライティング、スピーキング等の課題）	1時間
第8回	**課題８: What a story!（２：発信演習）** ・内容に関する意見交換(Speaking) ・内容／テーマに関する(Writing)	課題８の復習・課題９の予習（語彙、リーディング、リスニング、ライティング、スピーキング等の課題）	1時間
第9回	**課題９: All-time greats（１：内容理解）** ・内容理解（Reading and Listening） ・内容要約（Speaking and Writing）	課題９の復習・予習（語彙、リーディング、リスニング、ライティング、スピーキング等の課題）	1時間
第10回	**課題９: All-time greats（2：発信演習）** ・内容に関する意見交換(Speaking) ・内容／テーマに関する(Writing) ・パフォーマンス課題（２）の説明と準備	パフォーマンス課題（２）の準備	1時間
第11回	**パフォーマンス課題（２）** ・第７－10回目の授業の内容に関連したパフォーマンス活動を行う ・発表後には簡単な質疑応答を行う ・相互評価と振り返り（他者からの評価を参考にし、自己評価を行い、今後の改善点を考える）	発表の振り返りと課題10の予習課題（語彙、リーディング、リスニング、ライティング、スピーキング等の課題）	1時間
第12回	**課題10：People with a passion（１：内容理解）**	課題１０の復習・予習（語彙、リーディング、リスニング、ライティング、スピーキング等の課題）	1時間

	・内容理解（Reading and Listening） ・内容要約（Speaking and Writing）		
第13回	**課題10：People with a passion（２：発信演習）** ・内容に関する意見交換(Speaking) ・内容／テーマに関する(Writing) ・パフォーマンス課題（３）の説明と準備	パフォーマンス課題（３）の準備	1時間
第14回	**パフォーマンス課題（3）** ・第12－13回目の授業の内容に関連したパフォーマンス活動を行う ・発表後には簡単な質疑応答を行う ・相互評価と振り返り（他者からの評価を参考にし、自己評価を行い、今後の改善点を考える）	・発表の振り返りと定期試験に向けての学習	1時間
			0時間

112

授業科目名	**英語演習Ⅲ（経営）**				
担当教員名	谷川明代・竹野内倫子・松山加奈子・小野壽子・ｽﾄﾘｯｸﾗﾝﾄﾞ ﾋﾟｱｽ				
学年・コース等	2年	開講期間	前期	単位数	1
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の概要					

授業概要

本授業は、英語で他者とコミュニケーションをとるために、総合的な４技能（リスニング、リーディング、スピーキング、ライティング）を向上させることを目的とします。テーマについての知識や語彙だけでなく、英文から情報を読み取る・聞き取るスキルや、わかりやすく伝えるための文法や文章構成などについても学びます。「使える英語」の習得を目指して、場面に応じた会話練習や、英語でのスピーチ、プレゼンテーション、文章作成などに取り組みます。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. 全学DP１.幅広い教養やスキル	他者とコミュニケーションを取るための英語力	4技能を用いて、英語で情報の発信・受信ができる。

汎用的な力	
1. 全学DP８.意思疎通	英語で他者との意思疎通ができる。
2. 全学DP10.忠恕の心	ペア、グループワークにおいて、他者を尊重しながら、自らの役割を遂行することができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

・実習や実技に対して個別にコメントします
・実技・実習後、全体に向けてコメントします
・提出物にコメント・評価をつけて返却します
・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

授業へは原則としてすべて出席してください。何らかの事情で欠席する場合は、シラバスや授業内での配布資料を参照し、自学により内容を確認し、必要な課題に取り組むようにしてください。なお、資格・免許取得に必要な科目は、単位修得に必要な授業時間数が定められている場合がありますので、注意してください。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準	
プレゼンテーション等のパフォーマンス課題	50 %	:	授業内に3回実施するパフォーマンス課題（学生が英語でアウトプットするもの）について、内容、発音、発表態度、積極的に参加できたか等を総合的に評価します。
授業課題、積極的な授業活動への参加	25 %	:	授業内および宿題として出された課題について、内容、分量等を評価します。
定期試験	25 %	:	14回の授業で学んだ、テキストや言語活動の内容に関して出題される試験の結果で評価します。

使用教科書

指定する

著者	タイトル	出版社	出版年

Ken Wilson	・Smart CHOICE FOURTH EDITION MULTI-PACK 2A	・OXFORD UNIVERSITY PRESS	・2020 年
	・ISBN:9780194061100	・	・ 年

参考文献等

授業で指示します。

履修上の注意・備考・メッセージ

・教科書、ノート、辞書を持参すること。
・授業には、積極的・意欲的に取り組むこと。
・携帯電話、スマートフォンは指示した時以外は使用を禁じます。
・本授業は1単位の科目であるため、平均すると毎回1時間の授業外学修が求められます。「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 授業の前後

場所： 授業教室

備考・注意事項： 質問等は授業教室にて対応します。

授業計画

		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**オリエンテーション　コミュニケーション活動　UNIT 1 How was your vacation?　Vocabulary** ・授業の進め方 ・授業の準備物、課題等について説明します 　この授業を受講する者は必ず当オリエンテーションに出席すること ・コミュニケーション活動 ・テキスト Useful Classroom Language, vocabulary	・コミュニケーション活動の復習　・課題に対する学習	1時間
第2回	**UNIT 1　How was your vacation?　Conversation** ・テキスト Conversation: Talking about vacations ・ペアワーク、グループワーク ・UNIT1のテーマ、Vacation activitiesに関連したパフォーマンス課題の準備	・UNIT1の語彙　・パフォーマンス課題の準備	1時間
第3回	**UNIT 1　How was your vacation?　Language Practice and Listening** ・テキスト Language Practice and Listening ・Grammar Practice ・Listening活動 ・UNIT1のテーマ、Vacation activitiesに関連したパフォーマンス課題の準備	・UNIT1のワーク　・パフォーマンス課題の準備	1時間
第4回	**UNIT 1　How was your vacation?　Reading　パフォーマンス課題** ・テキスト Reading ・Reading活動 ・UNIT1のテーマ、Vacation activitiesに関連したパフォーマンス活動を行う ・発表後には簡単な質疑応答を行う ・相互評価と振り返り（他者からの評価を参考にし、自己評価を行い、今後の改善点を考える）	・UNIT1の復習　・パフォーマンス課題の準備	1時間
第5回	**UNIT 1　How was your vacation?　Writing and Speaking パフォーマンス課題** ・テキスト　Writing and Speaking ・Writing活動 ・Speaking活動 ・UNIT1のテーマ、Vacation activitiesに関連した活動を行う ・発表後には簡単な質疑応答を行う ・相互評価と振り返り（他者からの評価を参考にし、自己評価を行い、今後の改善点を考える）	・UNIT1のまとめワーク　・課題に対する学習	1時間
第6回	**UNIT 2　I think　it's boring!　Vocabulary and Conversation** ・テキスト Vocabulary and Conversation ・ペアワーク、グループワーク ・UNIT2のテーマ、Movies and musicに関連したパフォーマンス課題の準備	・UNIT2の語彙・パフォーマンス課題の準備	1時間
第7回	**UNIT 2　I think　it's boring!　Language Practice** ・テキスト Language Practice ・Grammar Practice ・UNIT2のテーマ、Movies and musicに関連したパフォーマンス課題の準備	・UNIT2のワーク　・パフォーマンス課題の準備	1時間
第8回	**UNIT 2　I think　it's boring!　Listening** ・テキスト Listening ・Listening活動 ・UNIT2のテーマ、Movies and musicに関連したパフォーマンス課題の準備	・UNIT2のワーク　・パフォーマンス課題の準備	1時間
第9回	**UNIT 2　I think　it's boring!　Reading　パフォーマンス課題** ・テキスト Reading ・Reading活動 ・UNIT2のテーマ、Movies and musicに関連したパフォーマンス活動を行う ・発表後には簡単な質疑応答を行う ・相互評価と振り返り（他者からの評価を参考にし、自己評価を行い、今後の改善点を考える）	・UNIT2の復習　・パフォーマンス課題の準備	1時間

第10回	**UNIT 2 I think it's boring! Writing and Speaking パフォーマンス課題** ・テキスト writing and Speaking ・Writing活動 ・Speaking活動 ・UNIT2のテーマ、Movies and musicに関連したパフォーマンス活動を行う ・発表後には簡単な質疑応答を行う ・相互評価と振り返り（他者からの評価を参考にし、自己評価を行い、今後の改善点を考える）	・UNIT2のまとめワーク ・課題に対する学習	1時間
第11回	**UNIT 3 Do it before you're 30! Vocabulary and Conversation** ・テキスト Vocabulary and Conversation ・ペアワーク、グループワーク ・UNIT3のテーマ、Extreme sports and activitiesに関連したパフォーマンス課題の準備	・UNIT3の語彙 ・パフォーマンス課題の準備	1時間
第12回	**UNIT 3 Do it before you're 30! Language Practice and Listening** ・テキスト Language Practice and Listening ・Grammar Practice ・Listening活動 ・UNIT3のテーマ、Extreme sports and activitiesに関連したパフォーマンス課題の準備	・UNIT3のワーク ・パフォーマンス課題の準備	1時間
第13回	**UNIT 3 Do it before you're 30! Reading and Writing パフォーマンス課題** ・テキスト Reading and Writing ・Reading活動 ・Writing活動 ・UNIT3のテーマ、Extreme sports and activitiesに関連したパフォーマンスを行う ・発表後には簡単な質疑応答を行う ・相互評価と振り返り（他グループからの評価を参考にし、自己評価を行い、今後の改善点を考える）	・UNIT3のまとめワーク ・パフォーマンス課題の準備	1時間
第14回	**UNIT 3 Do it before you're 30! Speaking パフォーマンス課題** ・テキスト Speaking ・Speaking活動 ・UNIT3のテーマ、Extreme sports and activitiesに関連したパフォーマンス活動を行う ・発表後には簡単な質疑応答を行う ・相互評価と振り返り（他グループからの評価を参考にし、自己評価を行い、今後の改善点を考える） ・学期の総復習とリスニングテストにより、学習の到達度を確認 ・定期試験に向けての課題の指示	・英語演習Ⅲ全体の復習 ・期末試験に向けての学習	1時間

授業科目名	**英語演習Ⅲ（国際観光）**				
担当教員名	坂井純子				
学年・コース等	2年	開講期間	前期	単位数	1
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の概要					

授業概要

本授業は、将来の進路やキャリアにつながるTOEICスコアアップも視野に入れて、Eラーニングと復習活動、教員からの定期的なフィードバックを通して英語力の強化を図ります。また、一部を英語教育センターの個別指導とリンクさせ、英語教育センター教員による会話実践力の養成を目指します。自主学習においては、継続的に自己の取り組みを記録し、次のステップに上がるために必要な学習方略を検討し、自己調整ができる自律した学習者となることを目標とします。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. 全学DP２.専門的知識・技能、職業理解	幅広い語彙の習得、強固な英語基礎力、目標達成のための学習習慣の獲得。	自己学習について自己分析に基づいた学習法略を身につけ、英語力を確実に向上させる。
汎用的な力		
1. 全学DP４.課題発見		英語学習において自分の強みと弱点を認識する。
2. 全学DP５.計画・立案力		課題の克服のためにまず自分がどのように変わらなければならないのかについて分析し、できることを見つけて取り組む。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)

・問答法・コメントを求める

・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)

・eラーニング、反転授業

・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

・提出物にコメント・評価をつけて返却します

・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

授業へは原則としてすべて出席してください。何らかの事情で欠席する場合は、シラバスや授業内での配布資料を参照し、自学により内容を確認し、必要な課題に取り組むようにしてください。なお、資格・免許取得に必要な科目は、単位修得に必要な授業時間数が定められている場合がありますので、注意してください。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準	
授業課題への取り組み	30 %	:	各課題の意味と目標を理解したうえで自己向上を目指して真剣に取り組んでいる。期日までに提出できている。
個別指導	30 %	:	指定された個別指導において積極的に会話運用力の向上に努めている。
E-Learning（ぎゅっとe）	20 %	:	週ごとにアサインされているE-Learning課題を期限内に取り組んでいる。
英語能力判定試験受験（TOEIC & CASEC）	10 %	:	TOEICおよびCASEC試験においてそれぞれ目標スコアに到達している。
期末テスト	10 %	:	面接試験により学習成果を内容と英語Speaking力の両面から評価する。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

本授業では、E-Learning教材であるぎゅっとeの年間使用契約をし、教材として使用します。
本授業では、ReallyEnglishが提供するオンライン模試（１回分）の使用契約をし、教材として使用します。

履修上の注意・備考・メッセージ

2年生次における英語学習はこれまで以上に自律した取り組みが必要となってきます。まずは自分のできるところ、できないところをしっかりと把握することが大切ですので、年度の初めに自己分析、及び目標設定をしっかりと行って1年間の取り組みの基礎としてください。全ての英語教員は皆さんが頼ってくれることをいつでも待っています。地道な努力がきっと大きく実を結びます。こまめにセルフチェックを欠かさず、迷ったらまずは相談してください。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 初回授業で説明します。

場所： 初回授業で説明します。

備考・注意事項： 相談がある場合はまずメールにてアポイントメントをとってください。

授業計画

		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**Orientation・個別指導1** 授業の進め方の説明 教材の説明 自己学習の進め方の説明 自己評価シートの作成 目標設定シートの作成 個別指導 特別講義「TOEICとキャリアについて」	ぎゅっとe（レベルチェックテスト）、特別講演振り返りシート	1時間
第2回	**Unit 1・個別指導2** ぎゅっとe Unit 1 個別指導 課題①の準備	ぎゅっとe（復習）、学習計画シート	1時間
第3回	**Unit 2・個別指導3** ぎゅっとe Unit 2 個別指導 課題①の完成と提出	ぎゅっとe（復習）	1時間
第4回	**Unit 3 ・個別指導4** ぎゅっとe Unit 3 個別指導 課題②の準備	ぎゅっとe（復習）	1時間
第5回	**Unit 4・個別指導5** ぎゅっとe Unit 4 個別指導 課題②の完成と提出	ぎゅっとe（復習）	1時間
第6回	**Unit 5 ・個別指導6** ぎゅっとe Unit 5 個別指導 課題③の準備	ぎゅっとe（復習）、テスト勉強	1時間
第7回	**Unit 6・個別指導7（Mid-term Speaking Test）** ぎゅっとe Unit 6 個別指導（Mid-term Speaking Test） 課題③の完成と提出	ぎゅっとe（復習）、テスト振り返り	1時間
第8回	**Unit 7・個別指導8** ぎゅっとe Unit 7 個別指導 後半の学習計画	ぎゅっとe（復習）	1時間
第9回	**Unit 8・個別指導9** ぎゅっとe Unit 8 個別指導 課題④の準備	ぎゅっとe（復習）	1時間
第10回	**Unit 9・個別指導10** ぎゅっとe Unit 9 個別指導 課題④の完成と提出	ぎゅっとe（復習）	1時間
第11回	**TOEIC模試・個別指導11** TOEIC模試の受験と確認 個別指導	模試の復習と学習計画の調整	1時間
第12回	**Unit 10・個別指導12** ぎゅっとe Unit 10 個別指導 課題⑤の準備 グループ面談（１）	ぎゅっとe（復習）	1時間
第13回	**Unit 11・個別指導13**	ぎゅっとe（復習）、テスト勉強	1時間

	ぎゅっとe Unit 11 個別指導 課題⑤の完成と提出 グループ面談（２）		
第14回	**Unit 12・個別指導14 （End-of-term speaking test）** Bぎゅっとe Unit 12 個別指導（End-of-term speaking test） 全体評価 グループ面談（３）	ぎゅっとe（復習）、テスト勉強	1時間

授業科目名	英語演習Ⅲ（データサイエンス）				
担当教員名	朱琳				
学年・コース等	2年	開講期間	前期	単位数	1
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の概要					

授業概要

本授業は、英語で他者とコミュニケーションをとるために、総合的な４技能（リスニング、リーディング、スピーキング、ライティング）を向上させることを目的とします。テーマについての知識や語彙だけでなく、英文から情報を読み取る・聞き取るスキルや、わかりやすく伝えるための文法や文章構成などについても学びます。「使える英語」の習得を目指して、場面に応じた会話練習や、英語でのスピーチ、プレンゼンテーション、文章作成などに取り組みます。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. 全学DP１.幅広い教養やスキル	他者とコミュニケーションを取るための英語力	4技能を用いて、英語で情報の発信・受信ができる。

汎用的な力	
1. 全学DP８.意思疎通	英語で他者との意思疎通ができる。
2. 全学DP10.忠恕の心	ペア、グループワークにおいて、他者を尊重しながら、自らの役割を遂行することができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

・実習や実技に対して個別にコメントします
・実技・実習後、全体に向けてコメントします
・提出物にコメント・評価をつけて返却します
・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

授業へは原則としてすべて出席してください。何らかの事情で欠席する場合は、シラバスや授業内での配布資料を参照し、自学により内容を確認し、必要な課題に取り組むようにしてください。なお、資格・免許取得に必要な科目は、単位修得に必要な授業時間数が定められている場合がありますので、注意してください。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準	
プレゼンテーション等のパフォーマンス課題	50 %	:	授業内に実施するパフォーマンス課題（学生が英語でアウトプットするもの）について、内容、発音、発表態度、積極的に参加できたか等を総合的に評価します。
授業課題、積極的な授業活動への参加	25 %	:	授業内および宿題として出された課題について、内容、分量等を評価します。
定期試験	25 %	:	14回の授業で学んだ、テキストや言語活動の内容に関して出題される筆記試験の結果で評価します。

使用教科書

指定する

著者	タイトル	出版社	出版年

村尾純子 / 深山晶子 / 野口ジュディー	・VOAで学ぶ最先端技術とPBL基礎演習　VOA Science & Technology Report	・SEIBIDO 9784791972067	・2020　年

参考文献等

授業で指示します。

履修上の注意・備考・メッセージ

・教科書、ノート、辞書を持参すること。　　・授業には、積極的・意欲的に取り組むこと。
・携帯電話、スマートフォンは指示した時以外は使用を禁じます。
・本科目は1単位の科目であるため、平均すると毎回1時間の授業外学修が求められます。「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：　授業の前後

場所：　授業教室

備考・注意事項：　質問等は本授業の前後に受け付けます。

授業計画

		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**オリエンテーション　コミュニケーション活動　UNIT 11 Is a Nap after Lunch Good or Bad?** ・授業の進め方、授業の準備物、課題等について説明します 　この授業を受講する者は必ず当オリエンテーションに出席すること ・コミュニケーション活動　　・テキスト Warming-up ・パフォーマンス課題の準備	・UNIT11の語彙　・パフォーマンス課題の準備	1時間
第2回	**UNIT 11 Is a Nap after Lunch Good or Bad?** ・テキスト Reading　　・ペアワーク、グループワーク ・パフォーマンス課題の準備	UNIT11の復習　・パフォーマンス課題の準備	1時間
第3回	**UNIT　11 Is a Nap after Lunch Good or Bad?　パフォーマンス課題** ・テキスト Challenge　　・パフォーマンス活動を行う ・発表後には簡単な質疑応答を行う ・相互評価と振り返り（他者からの評価を参考にし、自己評価を行い、今後の改善点を考える）	UNIT11のまとめ　・パフォーマンス課題の準備	1時間
第4回	**UNIT 12 Smart Mirrors Show What You Would Look Like Wearing Those Earrings　パフォーマンス課題** ・テキスト Warming-up　・パフォーマンス活動を行う ・発表後には簡単な質疑応答を行う ・相互評価と振り返り（他者からの評価を参考にし、自己評価を行い、今後の改善点を考える）	・UNIT12 の語彙　・発表の振り返り	1時間
第5回	**UNIT 12 Smart Mirrors Show What You Would Look Like Wearing Those Earrings** ・テキストReading　　・ペアワーク、グループワーク	・UNIT12の復習	1時間
	・テキスト Challenge　　・ペアワーク、グループワーク ・パフォーマンス課題の準備		
第7回	**UNIT 13 Glowing Cancer Cells Easier to Find and Remove** ・テキスト Warming-up　・ペアワーク、グループワーク ・パフォーマンス課題の準備	・UNIT13の語彙　・パフォーマンス課題の準備	1時間
第8回	**UNIT 13 Glowing Cancer Cells Easier to Find and Remove　パフォーマンス課題** ・テキスト Reading　・ペアワーク、グループワーク ・パフォーマンス活動を行う ・発表後には簡単な質疑応答を行う ・相互評価と振り返り（他者からの評価を参考にし、自己評価を行い、今後の改善点を考える）	・UNIT13の復習　・発表の振り返り	1時間
	・テキスト Challenge　・ペアワーク、グループワーク ・パフォーマンス活動を行う ・発表後には簡単な質疑応答を行う ・相互評価と振り返り（他者からの評価を参考にし、自己評価を行い、今後の改善点を考える）		
第10回	**UNIT 14 Meet CIMON, a 'Floating' Space Assistant for Astronauts** ・テキスト　Warming-up, Reading　　・ペアワーク、グループワーク	・UNIT14の語彙	1時間
	・テキスト Challenge　　・ペアワーク、グループワーク ・パフォーマンス課題の準備		
第12回	**UNIT 15 Do Bats Hold the Secret to Long Life?** ・テキスト Warming-up, Reading　　・ペアワーク、グループワーク ・パフォーマンス課題の準備	・UNIT15の語彙　・パフォーマンス課題の準備	1時間
第13回	**UNIT 15 Do Bats Hold the Secret to Long Life?　パフォーマンス課題** ・テキスト Challenge　　・パフォーマンス活動を行う ・発表後には簡単な質疑応答を行う ・相互評価と振り返り（他者からの評価を参考にし、自己評価を行い、今後の改善点を考える）	・UNIT15のまとめ　・発表の振り返り	1時間

第14回	**UNIT 11－15 まとめ　パフォーマンス課題** ・テキスト 11-15のまとめ　　・パフォーマンス活動を行う ・発表後には簡単な質疑応答を行う ・相互評価と振り返り（他者からの評価を参考にし、自己評価を行い、今後の改善点を考える） ・学期のまとめとリスニングテストを通して学習到達度を把握する　　・定期試験について	・授業のまとめ ・発表の振り返り・期末試験に向けての学習	1時間

112

授業科目名	英語演習Ⅳ（経営）				
担当教員名	谷川明代・竹野内倫子・松山加奈子・小野壽子・ｽﾄﾘｯｸﾗﾝﾄﾞ ﾋﾟｱｽ				
学年・コース等	2年	開講期間	後期	単位数	1
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の概要					

授業概要

本授業は、英語で他者とコミュニケーションをとるために、総合的な４技能（リスニング、リーディング、スピーキング、ライティング）を向上させることを目的とします。テーマについての知識や語彙だけでなく、英文から情報を読み取る・聞き取るスキルや、わかりやすく伝えるための文法や文章構成などについても学びます。「使える英語」の習得を目指して、場面に応じた会話練習や、英語でのスピーチ、プレンゼンテーション、文章作成などに取り組みます。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. 全学DP１.幅広い教養やスキル	他者とコミュニケーションを取るための英語力	4技能を用いて、英語で情報の発信・受信ができる。

汎用的な力	
1. 全学DP８.意思疎通	英語で他者との意思疎通ができる。
2. 全学DP10.忠恕の心	ペア、グループワークにおいて、他者を尊重しながら、自らの役割を遂行することができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

・実習や実技に対して個別にコメントします
・実技・実習後、全体に向けてコメントします
・提出物にコメント・評価をつけて返却します
・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

授業へは原則としてすべて出席してください。何らかの事情で欠席する場合は、シラバスや授業内での配布資料を参照し、自学により内容を確認し、必要な課題に取り組むようにしてください。なお、資格・免許取得に必要な科目は、単位修得に必要な授業時間数が定められている場合がありますので、注意してください。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準	
プレゼンテーション等のパフォーマンス課題	50 %	:	授業内に実施するパフォーマンス課題（学生が英語でアウトプットするもの）について、内容、発音、発表態度、積極的に参加できたか等を総合的に評価します。
授業課題、積極的な授業活動への参加	25 %	:	授業内および宿題として出された課題について、内容、分量等を評価します。
定期試験	25 %	:	14回の授業で学んだ、テキストや言語活動の内容に関して出題される試験の結果で評価します。

使用教科書

指定する

著者	タイトル	出版社	出版年

Ken Wilson	・Smart CHOICE FOURTH EDITION MULTI-PACK 2A	・OXFORD UNIVERSITY PRESS	・2020 年
	・ISBN:9780194061100	・	・ 年

参考文献等

授業で指示します。

履修上の注意・備考・メッセージ

・教科書、ノート、辞書を持参すること。
・授業には、積極的・意欲的に取り組むこと。
・携帯電話、スマートフォンは指示した時以外は使用を禁じます。
・本科目は1単位の科目であるため、毎回1時間の授業外学修が求められます。「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 授業の前後

場所： 授業教室

備考・注意事項： 質問等は授業教室にて対応します。

授業計画

		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**オリエンテーション　コミュニケーション活動　UNIT 4 The best place in the world!　Vocabulary** ・授業の進め方 ・授業の準備物、課題等について説明します 　この授業を受講する者は必ず当オリエンテーションに出席すること ・コミュニケーション活動 ・テキスト Useful Classroom Language, vocabulary	・コミュニケーション活動の復習　・課題に対する学習	1時間
第2回	**UNIT 4　The best place in the world!　Conversation** ・テキスト Conversation ・ペアワーク、グループワーク ・UNIT4のテーマ、Natural featuresに関連したパフォーマンス課題の準備	・UNIT4の語彙　・パフォーマンス課題の準備	1時間
第3回	**UNIT 4　The best place in the world!　Language Practice and Listening** ・テキスト Language Practice and Listening ・Grammar Practice ・Listening活動 ・UNIT4のテーマ、Natural featuresに関連したパフォーマンス課題の準備	・UNIT4のワーク　・パフォーマンス課題の準備	1時間
第4回	**UNIT 4　The best place in the world!　Reading　パフォーマンス課題** ・テキスト Reading ・Reading活動 ・UNIT4のテーマ、Natural featuresに関連したパフォーマンス活動を行う ・発表後には簡単な質疑応答を行う ・相互評価と振り返り（他者からの評価を参考にし、自己評価を行い、今後の改善点を考える）	・UNIT4の復習　・発表の振り返り	1時間
第5回	**UNIT 4　The best place in the world!　writing and Speaking　パフォーマンス課題** ・テキスト　Writing and Speaking ・Writing活動 ・Speaking活動 ・UNIT4のテーマ、Natural featuresに関連したパフォーマンス活動を行う ・発表後には簡単な質疑応答を行う ・相互評価と振り返り（他者からの評価を参考にし、自己評価を行い、今後の改善点を考える）	・UNIT4のまとめワーク　・発表の振り返り	1時間
第6回	**UNIT 5　Where's the party?　Vocabulary and Conversation** ・テキスト Vocabulary and Conversation ・ペアワーク、グループワーク ・UNIT5のテーマ、Special eventsに関連したパフォーマンス課題の準備	・UNIT5のワーク　・パフォーマンス課題の準備	1時間
第7回	**UNIT 5　Where's the party?　Language Practice** ・テキスト Language Practice ・Grammar Practice ・UNIT5のテーマ、Special eventsに関連したパフォーマンス課題の準備	・UNIT5の語彙　・パフォーマンス課題の準備	1時間
第8回	**UNIT 5　Where's the party?　Listening** ・テキスト Listening ・Listening活動 ・UNIT5のテーマ、Special eventsに関連したパフォーマンス課題の準備	・UNIT5のワーク　・パフォーマンス課題の準備	1時間
第9回	**UNIT 5　Where's the party?　Reading　パフォーマンス課題** ・テキスト Reading ・Reading活動 ・UNIT5のテーマ、Special eventsに関連したパフォーマンス活動を行う ・発表後には簡単な質疑応答を行う ・相互評価と振り返り（他者からの評価を参考にし、自己評価を行い、今後の改善点を考える）	・UNIT5の復習　・発表の振り返り	1時間

第10回	**UNIT 5 Where's the party? Writing and Speaking パフォーマンス課題** ・テキスト writing and Speaking ・Writing活動 ・Speaking活動 ・UNIT5のテーマ、Special eventsに関連したパフォーマンス活動を行う ・発表後には簡単な質疑応答を行う ・相互評価と振り返り（他者からの評価を参考にし、自己評価を行い、今後の改善点を考える）	・UNIT5のまとめワーク ・発表の振り返り	1時間
第11回	**UNIT 6 You should try it! Vocabulary and Conversation** ・テキスト Vocabulary and Conversation ・ペアワーク、グループワーク ・UNIT6のテーマ、Healthy and unhealthy activitiesに関連したパフォーマンス課題の準備	・UNIT6の語彙・パフォーマンス課題の準備	1時間
第12回	**UNIT 6 You should try it! Language Practice and Listening** ・テキスト Language Practice and Listening ・Grammar Practice ・Listening活動 ・UNIT6のテーマ、Healthy and unhealthy activitiesに関連したパフォーマンス課題の準備	・UNIT6のワーク ・パフォーマンス課題の準備	1時間
第13回	**UNIT 6 You should try it! Reading and Writing パフォーマンス課題** ・テキスト Reading and Writing ・Reading活動 ・Writing活動 ・UNIT6のテーマ、Healthy and unhealthy activitiesに関連したパフォーマンス活動を行う ・発表後には簡単な質疑応答を行う ・相互評価と振り返り（他グループからの評価を参考にし、自己評価を行い、今後の改善点を考える）	・UNIT6のまとめワーク ・発表の振り返り	1時間
第14回	**UNIT 6 You should try it! Speaking パフォーマンス課題** ・テキスト Speaking ・Speaking活動 ・UNIT6のテーマ、Healthy and unhealthy activitiesに関連したパフォーマンス活動を行う ・発表後には簡単な質疑応答を行う ・相互評価と振り返り（他グループからの評価を参考にし、自己評価を行い、今後の改善点を考える） ・学期の総復習とリスニングテストにより、学習の到達度を確認 ・定期試験に向けての課題の指示	・英語演習IV全体の復習 ・期末試験に向けての学習	1時間

授業科目名	英語演習Ⅳ（国際観光）				
担当教員名	坂井純子				
学年・コース等	2年	開講期間	後期	単位数	1
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の概要					

授業概要

本授業は、将来の進路やキャリアにつながるTOEICスコアアップも視野に入れて、Eラーニングと復習活動、教員からの定期的なフィードバックを通して英語力の強化を図ります。また、一部を英語教育センターの個別指導とリンクさせ、英語教育センター教員による会話実践力の養成を目指します。自主学習においては、継続的に自己の取り組みを記録し、次のステップに上がるために必要な学習方略を検討し、自己調整ができる自律した学習者としてさらに成長することを目標とします。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. 全学DP２.専門的知識・技能、職業理解	幅広い語彙の習得、強固な英語基礎力、目標達成のための学習習慣の獲得。	自己学習について自己分析に基づいた学習法略を身につけ、英語力を確実に向上させる。
汎用的な力		
1. 全学DP４.課題発見		英語学習において自分の強みと弱点を認識する。
2. 全学DP５.計画・立案力		課題の克服のためにまず自分がどのように変わらなければならないのかについて分析し、できることを見つけて取り組む。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)

・問答法・コメントを求める

・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)

・eラーニング、反転授業

・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

・提出物にコメント・評価をつけて返却します

・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

授業へは原則としてすべて出席してください。何らかの事情で欠席する場合は、シラバスや授業内での配布資料を参照し、自学により内容を確認し、必要な課題に取り組むようにしてください。なお、資格・免許取得に必要な科目は、単位修得に必要な授業時間数が定められている場合がありますので、注意してください。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準	
授業課題への取り組み	30 %	:	各課題の意味と目標を理解したうえで自己向上を目指して真剣に取り組んでいる。期日までに提出できている。
個別指導	30 %	:	指定された個別指導において積極的に会話運用力の向上に努めている。
E-Learning（ぎゅっとe）	20 %	:	週ごとにアサインされているE-Learning課題を期限内に取り組んでいる。
英語能力判定試験受験（TOEIC & CASEC）	10 %	:	TOEICおよびCASEC試験においてそれぞれ目標スコアに到達している。
期末テスト	10 %	:	面接試験により学習成果を内容と英語Speaking力の両面から評価する。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

本授業では、E-Learning教材であるぎゅっとeの年間使用契約をし、教材として使用します。
本授業では、ReallyEnglishが提供するオンライン模試（１回分）の使用契約をし、教材として使用します。

履修上の注意・備考・メッセージ

2年生次における英語学習はこれまで以上に自律した取り組みが必要となってきます。まずは自分のできるところ、できないところをしっかりと把握することが大切ですので、学期の初めに自己分析、及び目標設定をしっかりと行って取り組みの基礎としてください。全ての英語教員は皆さんが頼ってくれることをいつでも待っています。地道な努力がきっと大きく実を結びます。こまめにセルフチェックを欠かさず、迷ったらまずは相談してください。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 初回授業で説明します。

場所： 初回授業で説明します。

備考・注意事項： 相談がある場合はまずメールにてアポイントメントをとってください。

授業計画		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**Orientation・個別指導1** 授業の進め方の説明 教材の説明 自己学習の進め方の説明 自己評価シートの作成 目標設定シートの作成 個別指導 各自の目標の発表	ぎゅっとe（レベルチェックテスト）、目標シートの完成	1時間
第2回	**Unit 11・個別指導2** ぎゅっとe Unit 11 個別指導 課題①の準備	ぎゅっとe（復習）、学習計画シート	1時間
第3回	**Unit 12・個別指導3** ぎゅっとe Unit 12 個別指導 課題①の完成と提出	ぎゅっとe（復習）	1時間
第4回	**Unit 13 ・個別指導4** ぎゅっとe Unit 13 個別指導 課題②の準備	ぎゅっとe（復習）	1時間
第5回	**Unit 14・個別指導5** ぎゅっとe Unit 14 個別指導 課題②の完成と提出	ぎゅっとe（復習）	1時間
第6回	**Unit 15 ・個別指導6** ぎゅっとe Unit 15 個別指導 課題③の準備	ぎゅっとe（復習）、テスト勉強	1時間
第7回	**Unit 16・個別指導7（Mid-term Speaking Test）** ぎゅっとe Unit 16 個別指導（Mid-term Speaking Test） 課題③の完成と提出	ぎゅっとe（復習）、テスト振り返り	1時間
第8回	**Unit 17・個別指導8** ぎゅっとe Unit 17 個別指導 後半の学習計画	ぎゅっとe（復習）	1時間
第9回	**Unit 18・個別指導9** ぎゅっとe Unit 18 個別指導 課題④の準備	ぎゅっとe（復習）	1時間
第10回	**Unit 19・個別指導10** ぎゅっとe Unit 19 個別指導 課題④の完成と提出	ぎゅっとe（復習）	1時間
第11回	**TOEIC模試・個別指導11** TOEIC模試の受験と確認 個別指導	模試の復習と学習計画の調整	1時間
第12回	**Unit 20・個別指導12** ぎゅっとe Unit 20 個別指導 課題⑤の準備 グループ面談（１）	ぎゅっとe（復習）	1時間

第13回	**Unit 21・個別指導13** ぎゅっとe Unit 21 個別指導 課題⑤の完成と提出 グループ面談（2）	ぎゅっとe（復習）、テスト勉強	1時間
第14回	**Unit 22・個別指導14 （End-of-term speaking test）** Bぎゅっとe Unit 22 個別指導（End-of-term speaking test） 全体評価 グループ面談（3）	ぎゅっとe（復習）、テスト勉強	1時間

授業科目名	英語演習Ⅳ（データサイエンス）				
担当教員名	朱琳				
学年・コース等	2年	開講期間	後期	単位数	1
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の概要					

授業概要

本授業は、英語で他者とコミュニケーションをとるために、総合的な４技能（リスニング、リーディング、スピーキング、ライティング）を向上させることを目的とします。テーマについての知識や語彙だけでなく、英文から情報を読み取る・聞き取るスキルや、わかりやすく伝えるための文法や文章構成などについても学びます。「使える英語」の習得を目指して、場面に応じた会話練習や、英語でのスピーチ、プレゼンテーション、文章作成などに取り組みます。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. 全学DP１.幅広い教養やスキル	他者とコミュニケーションを取るための英語力	4技能を用いて、英語で情報の発信・受信ができる。

汎用的な力	
1. 全学DP８.意思疎通	英語で他者との意思疎通ができる。
2. 全学DP10.忠恕の心	ペア、グループワークにおいて、他者を尊重しながら、自らの役割を遂行することができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

・実習や実技に対して個別にコメントします
・実技・実習後、全体に向けてコメントします
・提出物にコメント・評価をつけて返却します
・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

授業へは原則としてすべて出席してください。何らかの事情で欠席する場合は、シラバスや授業内での配布資料を参照し、自学により内容を確認し、必要な課題に取り組むようにしてください。なお、資格・免許取得に必要な科目は、単位修得に必要な授業時間数が定められている場合がありますので、注意してください。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準	
プレゼンテーション等のパフォーマンス課題	50 %	:	授業内に実施するパフォーマンス課題（学生が英語でアウトプットするもの）について、内容、発音、発表態度、積極的に参加できたか等を総合的に評価します。
授業課題、積極的な授業活動への参加	25 %	:	授業内および宿題として出された課題について、内容、分量等を評価します。
定期試験	25 %	:	14回の授業で学んだ、テキストや言語活動の内容に関して出題される筆記試験の結果で評価します。

使用教科書

指定する

著者	タイトル	出版社	出版年

村尾純子 / 深山晶子 / 野口ジュディー	・VOAで学ぶ最先端技術とPBL基礎演習　VOA Science & Technology Report	・SEIBIDO 9784791972067	・2020　年

参考文献等

授業で指示します。

履修上の注意・備考・メッセージ

・教科書、ノート、辞書を持参すること。　・授業には、積極的・意欲的に取り組むこと。
・携帯電話、スマートフォンは指示した時以外は使用を禁じます。
・本科目は1単位の科目であるため、平均すると毎回1時間の授業外学修が求められます。「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：　授業の前後

場所：　授業教室

備考・注意事項：　質問等は本授業の前後に受け付けます。

授業計画		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**オリエンテーション　コミュニケーション活動　UNIT 16 New Battery-Free Cellphone Is Powered by Radio Signals** ・授業の進め方、授業の準備物、課題等について説明します 　この授業を受講する者は必ず当オリエンテーションに出席すること ・コミュニケーション活動　・テキスト Warming-up ・パフォーマンス課題の準備	UNIT16の語彙　・パフォーマンス課題の準備	1時間
第2回	**UNIT 16 New Battery-Free Cellphone Is Powered by Radio Signals** ・テキスト Reading　・ペアワーク、グループワーク ・パフォーマンス課題の準備	UNIT16の復習　・パフォーマンス課題の準備	1時間
第3回	**UNIT 16 New Battery-Free Cellphone Is Powered by Radio Signals　パフォーマンス課題** ・テキスト Challenge ・パフォーマンス活動を行う ・発表後には簡単な質疑応答を行う ・相互評価と振り返り（他者からの評価を参考にし、自己評価を行い、今後の改善点を考える）	UNIT16のまとめ　・パフォーマンス課題の準備	1時間
第4回	**UNIT 17 Distant Star Refuses to Die　パフォーマンス課題** ・テキスト Warming-up ・パフォーマンス活動を行う ・発表後には簡単な質疑応答を行う ・相互評価と振り返り（他者からの評価を参考にし、自己評価を行い、今後の改善点を考える）	UNIT17の語彙　・発表の振り返り	1時間
第5回	**UNIT 17 Distant Star Refuses to Die** テキストReading　・ペアワーク、グループワーク	UNIT17の復習	1時間
第6回	**UNIT17 Distant Star Refuses to Die** ・テキスト Challenge ・ペアワーク、グループワーク ・パフォーマンス課題の準備	UNIT17のまとめ　・パフォーマンス課題の準備	1時間
第7回	**UNIT 18 Coffee to Help Power London's Busses** ・テキスト Warming-up　・ペアワーク、グループワーク ・パフォーマンス課題の準備	UNIT18の語彙　・パフォーマンス課題の準備	1時間
第8回	**UNIT 18 Coffee to Help Power London's Busses　パフォーマンス課題** ・テキスト Reading　・ペアワーク、グループワーク ・パフォーマンス活動を行う ・発表後には簡単な質疑応答を行う ・相互評価と振り返り（他者からの評価を参考にし、自己評価を行い、今後の改善点を考える）	UNIT18の復習　・発表の振り返り	1時間
第9回	**UNIT 18 Coffee to Help Power London's Busses　パフォーマンス課題** ・テキスト Challenge　・ペアワーク、グループワーク ・パフォーマンス活動を行う ・発表後には簡単な質疑応答を行う ・相互評価と振り返り（他者からの評価を参考にし、自己評価を行い、今後の改善点を考える）	UNIT18のまとめ　・発表の振り返り	1時間
第10回	**UNIT 19 British Start-Up Uses Feathers to Make Building Materials** ・テキスト　Warming-up, Reading ・ペアワーク、グループワーク	UNIT19の語彙	1時間
	・テキスト Challenge　・ペアワーク、グループワーク ・パフォーマンス課題の準備		
第12回	**UNIT 20 Scientists Praise Developments in Small Technology** ・テキスト Warming-up, Reading　・ペアワーク、グループワーク ・パフォーマンス課題の準備	UNIT20の語彙　・パフォーマンス課題の準備	1時間

第13回	**UNIT 20 Scientists Praise Developments in Small Technology. パフォーマンス課題** ・テキスト Challenge ・パフォーマンス活動を行う ・発表後には簡単な質疑応答を行う ・相互評価と振り返り（他者からの評価を参考にし、自己評価を行い、今後の改善点を考える）	UNIT20のまとめ ・発表の振り返り	1時間
第14回	**UNIT 16－20 まとめ　パフォーマンス課題** ・テキスト 16-20のまとめ ・パフォーマンス活動を行う ・発表後には簡単な質疑応答を行う ・相互評価と振り返り（他者からの評価を参考にし、自己評価を行い、今後の改善点を考える） ・学期のまとめとリスニングテストを通して学習到達度を把握する　・定期試験について	授業のまとめ ・発表の振り返り・期末試験に向けての学習	1時間

111

授業科目名	**英語表現Ⅰ（経営）**				
担当教員名	ﾋﾟｱｽ・ｽﾄﾘｯｸﾗﾝﾄﾞ、ｱｼｭﾘｰ・ｽﾃｨｰﾌﾞﾝｽ、ｲﾘ・ｴﾁｬｰ、ｲｱﾝ・ｱﾚﾝｽﾞﾜｰｽ、ｼｪｰﾝ・ﾏｯｺｰｴﾝ				
学年・コース等	1年	開講期間	前期	単位数	1
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の概要					

授業概要

この授業では、学生に英語でのコミュニケーションに対する経験と自信を与えることを目的としています。スピーキング、リスニング、リーディング、ライティングの練習を通して、様々なテーマについて自分の考えや意見を述べることを学びます。また、授業内容に関連するプレゼンテーションは授業全体で3回行われます。興味や生活に関連するテーマについてのプレゼンテーションを計画し、実行することを通して、自身の英語への興味を高めることを目指しています。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. 全学DP１.幅広い教養やスキル	英語運用力の向上	4技能を用いて、英語で情報の発信・受信ができる。
汎用的な力		
1. 全学DP８.意思疎通		英語で他者との意思疎通ができる。ペア・グループワークにおいて他者を尊重しながら自らの役割を遂行することができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)

・eラーニング、反転授業

・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)

・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)

・シミュレーション型学習(ロールプレイ、ゲーム型学習など)

・その他(以下に概要を記述)

すべての課題はGoogleClassroomに投稿され、週ごとに整理されます。 課題は、Googleドキュメント、スライド、フォームを使用します。

課題や取組に対する評価・振り返り

・実習や実技に対して個別にコメントします

・実技・実習後、全体に向けてコメントします

・提出物にコメント・評価をつけて返却します

・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

授業へは原則としてすべて出席してください。何らかの事情で欠席する場合は、シラバスや授業内での配布資料を参照し、自学により内容を確認し、必要な課題に取り組むようにしてください。なお、資格・免許取得に必要な科目は、単位修得に必要な授業時間数が定められている場合がありますので、注意してください。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
授業における課題と宿題	25 %	： 授業における課題、宿題の完了、授業における積極的な発言、グループワーク、ペアワークによる積極的な態度を評価します。
Presentations	50 %	： 3回のプレゼンテーションは、文法と英語表現、発音と声、プレゼンテーションの流れ、グループの協力および個々の努力によって評価します。プレゼンテーション原稿もライティング課題として評価します。
定期試験	25 %	： 授業内で学んだ表現について筆記テストを行います。

使用教科書

指定する

著者	タイトル	出版社	出版年
Marc Helgesen, John Wiltshier, Steven Brown	・ English Firsthand Access 5th Edition Student Book with MyMobileWorld	・ Pearson Education	・ 2018 年
	・ ISBN: 9789813132757	・	・ 年

参考文献等

授業で指示します。

履修上の注意・備考・メッセージ

教科書、ノート、文房具と辞書（または電子辞書）を持参すること。授業には積極的・意欲的に取り組むこと。「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。
＊＊教科書にはオンラインワークブックコードが付属しており、オンラインコンテンツにアクセスしなければならないため、各学生は教科書を必ず購入する必要があります。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 授業の前後

場所： 授業の教室

備考・注意事項： 質問等は本授業の前後、またはメールでも構いません。件名に学籍番号、氏名を記入してください。

授業計画

		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第１回	**Class Orientation, Unit 1: Hobbies and Free-Time Activities** ・オリエンテーション ・Unit 1: コミュニケーション活動 *この授業を受講する者は必ず出席すること	授業の復習(Unit 1)・授業で指示された課題	1時間
第2回	**Unit 1: Hobbies and Free-Time Activities, プレゼンテーション１の準備** ・Unit 1: 語彙、リスニングと会話 ・プレゼンテーション１の指導と準備	プレゼンテーション１の準備	1時間
第3回	**プレゼンテーション 1、Unit 2: Do You Understand?** ・プレゼンテーション１, クラスメイトのプレゼンテーション評価 ・Unit 2: 語彙、リスニングと会話	授業の復習(Unit 2)・授業で指示された課題	1時間
第4回	**Unit 2: Do You Understand?** ・Unit 2: コミュニケーション活動、表現と文法、リーディング	授業の復習(Unit 2)・授業で指示された課題	1時間
第5回	**Unit 3: This is My Room** ・Unit 3: 語彙、リスニングと会話	授業の復習(Unit 3)・授業で指示された課題	1時間
	・Unit 3: コミュニケーション活動、表現と文法、リーディング		
第7回	**Unit 4: When Do You Get Up?** ・Unit 4: 語彙、リスニングと会話	授業の復習(Unit 4)・ 授業で指示された課題	1時間
	・Unit 4: コミュニケーション活動、表現と文法、リーディング ・プレゼンテーション 2の指導と準備		
第9回	**プレゼンテーション 2** ・プレゼンテーション 2, クラスメイトのプレゼンテーション評価 ・特別活動	授業の復習・授業で指示された課題	1時間
第10回	**Unit 5: Who's That?** ・Unit 5: 語彙、リスニングと会話	授業の復習(Unit 5)・授業で指示された課題	1時間
	・Unit 5: コミュニケーション活動、表現と文法、リーディング		
第12回	**Unit 6: That's a Great Shirt!** ・Unit 6: 語彙、リスニングと会話	授業の復習(Unit 6)・授業で指示された課題	1時間
	・Unit 6: コミュニケーション活動、表現と文法、リーディング ・プレゼンテーション 3の指導と準備		
第14回	**プレゼンテーション 3、英語表現Ｉのまとめ** ・プレゼンテーション３, クラスメイトのプレゼンテーション評価 ・定期試験に向けての学習 ・授業全体のまとめ	授業の復習・ 定期試験に向けての学習	1時間

111

授業科目名	**英語表現Ⅰ（国際観光）**				
担当教員名	デイヴィス恵美				
学年・コース等	1年	開講期間	前期	単位数	1
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の概要					

授業概要

本授業は、実践的なビジネス英語を学び、TOEIC500点を達成できるレベルの英語力を身に着けることを目標としています。授業は担当教員の指導のもと、ビジネス英語／TOEIC指導に長けた外部講師が授業を行う形で進めます。TOEICに類似したリスニング問題演習を行い、基礎的な聴解力を養います。文法については、リスニング、リーディングの即解力の基礎となる文法知識をつけ、口頭練習を通して、基礎的な文法力の定着を図ります。語彙については、翌授業において前回既習箇所の小テストを行うのでしっかりと復習をすることが必要です。また、授業中にはペアやグループでの活動を積極的に取り入れ、協働学習による目標達成への連帯感と動機付けを図りつつ、英語コミュニケーション力の育成と、TOEICや英検などの英語検定にも対応できる力を培います。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. 全学DP１.幅広い教養やスキル	ビジネスの基礎となる英語力の育成	ビジネスシーンで用いられる会話における基本的な英語の語彙や表現が正しく理解できるようになる。
2. 全学DP２.専門的知識・技能、職業理解	英語コミュニケーション力の育成	よくあるビジネスシーンにおいて、英語でやりとりができる（会話やメール）。
汎用的な力		
1. 全学DP５.計画・立案力		英語検定試験等に向けて自ら学習計画を立て、それに従って自律的に学習を進めることができる。
2. 全学DP９.役割理解・連携行動		協働学習において積極的に関わり、互いに学びあうことができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)

・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

授業へは原則としてすべて出席してください。何らかの事情で欠席する場合は、シラバスや授業内での配布資料を参照し、自学により内容を確認し、必要な課題に取り組むようにしてください。なお、資格・免許取得に必要な科目は、単位修得に必要な授業時間数が定められている場合がありますので、注意してください。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
期末定期試験	30 %	： 試験の得点で評価します。
小テスト	40 %	： 小テストでは前回の授業内容の理解度を評価します。
参加度	30 %	： 質問や自分の考え・意見の発表に、積極的に取り組んでいるかを評価します。

使用教科書

指定する

著者	タイトル	出版社	出版年
ECC総合教育研究所	・English Skill Builder Ⅰα Listening	・ECC	・2018 年
ECC総合教育研究所	・English Skill Builder Ⅰα Grammar	・ECC	・2018 年

TEX加藤	・ TOEIC® L&R TEST 出る単特急 銀のフレーズ	・ 朝日新聞出版	・ 年

参考文献等

使用教材　ISBN番号は以下の通りです。
・English Skill Builder Ⅰα　Listening（ISBN番号はありません。）
・English Skill Builder Ⅰα　Grammar（ISBN番号はありません。）
・TOEIC® L&R TEST 出る単特急 銀のフレーズ（ISBN番号9784023316843）

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は1単位の科目であるため、平均すると毎回1時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。
●毎回、授業内に小テストを実施します。
●毎回、授業終了時に宿題が出されます。
●第1回目の授業で示されるルールを守って受講してください。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 初回授業で説明します。

場所： 初回授業で説明します。

備考・注意事項： 本授業は担当教員との連携の元、TOEIC指導に優れた講師によるティーチングを行います。
質問等があれば、osaka.seikei@ecc.co.jpまでメールにてご連絡ください。

授業計画

		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**初回オリエンテーション** イントロダクション、自己紹介 授業の進め方とシラバスの確認 TOEIC®テストの概要について紹介する 将来のキャリアにおいて必要なビジネス英語のスキルについて理解を深める	授業時に学んだ語句・表現を反復練習する。	1時間
第2回	**Listening: Unit1 Reading Habits** 読書の習慣をテーマにしたトークのリスニング素材を用い、会話の核となる情報の抽出を行う。 また、トピックを自分の状況に置き換えて会話の練習を行う。	授業時に学んだ語句・表現を反復練習する。	1時間
第3回	**Grammar: Unit1 be動詞ー現在形** be動詞の現在形についての理解を深める。	授業時に学んだ語句・表現を反復練習する。	1時間
第4回	**Listening: Unit2 Japanese: An International Language** 和製英語をテーマにしたトークのリスニング素材を用い、会話の核となる情報の抽出を行う。 また、トピックを自分の状況に置き換えて会話の練習を行う。	授業時に学んだ語句・表現を反復練習する。	1時間
第5回	**Grammar: Unit2 一般動詞ー現在形** 一般動詞の現在形についての理解を深める。	授業時に学んだ語句・表現を反復練習する。	1時間
第6回	**Listening: Unit3 Fast, Convenient Food** ファーストフード、コンビニをテーマにしたトークのリスニング素材を用い、会話の核となる情報の抽出を行う。 また、トピックを自分の状況に置き換えて会話の練習を行う。	授業時に学んだ語句・表現を反復練習する。	1時間
第7回	**Grammar: Unit3 be動詞ー過去形** be動詞の過去形についての理解を深める。	授業時に学んだ語句・表現を反復練習する。	1時間
第8回	**Listening: Unit4 I'm So Sorry.** 様々な謝罪をテーマにしたトークのリスニング素材を用い、会話の核となる情報の抽出を行う。 また、トピックを自分の状況に置き換えて会話の練習を行う。	授業時に学んだ語句・表現を反復練習する。	1時間
第9回	**Grammar: Unit4 一般動詞ー過去形** 一般動詞の過去形についての理解を深める。	授業時に学んだ語句・表現を反復練習する。	1時間
第10回	**Listening: Unit5: Have a Nice Trip** 旅行をテーマにしたトークのリスニング素材を用い、会話の核となる情報の抽出を行う。 また、トピックを自分の状況に置き換えて会話の練習を行う。	授業時に学んだ語句・表現を反復練習する。	1時間
第11回	**Grammar: Unit5 疑問詞を含む疑問文ー現在形・過去形** 疑問詞を含む現在形・過去形の疑問文についての理解を深める。	授業時に学んだ語句・表現を反復練習する。	1時間
第12回	**Listening: Unit6 American Dogs Are Living the Good Life** ペット犬をテーマにしたトークのリスニング素材を用い、会話の核となる情報の抽出を行う。 また、トピックを自分の状況に置き換えて会話の練習を行う。	授業時に学んだ語句・表現を反復練習する。	1時間
第13回	**Grammar: Unit6 未来を表す表現（be going to）** 未来を表す表現についての理解を深める。	授業時に学んだ語句・表現を反復練習する。	1時間
第14回	**前期の既習事項の復習** 前期の既習事項の復習 前期に習った重要語句・表現・文法事項について総復習する。	授業時に学んだ語句・表現を反復練習する。	1時間

授業科目名	英語表現Ⅰ（国際観光）				
担当教員名	澤泰人				
学年・コース等	1年	開講期間	前期	単位数	1
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の概要					

授業概要

本授業は、日常生活やビジネスの基礎となる英語の語彙や表現を正しく理解し、リスニングとリーディングの両面で日常生活やビジネス的な内容に対して慣れ親しむことを目標とする。様々な演習問題に取り組むことを通じて、英語学修の意義や楽しさに気づき、自律的な学習態度の基礎を確立できるよう授業を展開する。また、授業中にはペアやグループでの活動を積極的に取り入れ、協働学習による目標達成への連帯感と動機付けを図りつつ、英語コミュニケーション力の育成と、TOEICや英検などの英語検定にも対応できる力を培う。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. 全学DP１.幅広い教養やスキル	ビジネスの基礎となる英語力の育成	ビジネスシーンで用いられる会話における基本的な英語の語彙や表現が正しく理解できるようになる
2. 全学DP２.専門的知識・技能、職業理解	英語コミュニケーション力の育成	よくあるビジネスシーンにおいて、英語でやりとりができる（会話やメール）
汎用的な力		
1. 全学DP５.計画・立案力		TOEIC等に向けて自ら学習計画を立て、それに従って自律的に学習を進めることができる
2. 全学DP９.役割理解・連携行動		協働学習において積極的に関わり、互いに学びあうことができる

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)

・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

・提出物にコメント・評価をつけて返却します

成績評価

注意事項等

授業へは原則としてすべて出席してください。何らかの事情で欠席する場合は、シラバスや授業内での配布資料を参照し、自学により内容を確認し、必要な課題に取り組むようにしてください。なお、資格・免許取得に必要な科目は、単位修得に必要な授業時間数が定められている場合がありますので、注意してください。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
課題	35 %	： 宿題や課題への取り組みや完成度を評価します。
参加と小テスト	35 %	： 質問や自分の考え・意見の発表に、また課題の完成に向けてどれだけ積極的に取り組んでいるかを評価します。小テストでは前回の授業内容の理解度を評価します。
定期試験	30 %	： 試験の得点で評価します。

使用教科書

指定する

著者	タイトル	出版社	出版年
Robert Hickling	・First Try for the TOEIC L&R Test (ISBN: 978-4-7647-4182-9)	・金星堂	・2023 年

参考文献等

English Grammar In Use, Second Edition (Cambridge University Press) 1994
TOEICテスト英単語・熟語マスタリー2000（旺文社） 2016

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は1単位の科目であるため、平均すると毎回1時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。
●毎回、授業内に小テストを実施します。
●毎回、授業終了時に宿題が出されます。
●授業では、教科書を使用するほか、必要に応じてハンドアウト等を配布します。
●第1回目の授業で示されるルールを守って受講してください。

＊使用教科書ISBN: 978-4-7647-4182-9

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 初回授業で案内します。

場所： 初回授業で案内します。

授業計画

		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**イントロダクション、自己紹介と写真描写** 簡単な英語を使って、短い自己紹介をする。 さまざまな場面の写真を見て、平易な英語で説明する。	授業時に学んだ語句・表現を反復練習する。	1時間
第2回	**Unit 1 “Shopping” - Listening & Speaking** “Shopping” （買い物）① 買い物に関する語句・表現を学び、それをテーマにしたリスニングに取り組む。スピーキングの練習も行う。	授業時に学んだ語句・表現を反復練習する。	1時間
第3回	**Unit 1 “Shopping” - Reading & Writing** “Shopping” （買い物）② 買い物に関する語句・表現を使って作文練習を行う。また、それをテーマにしたリーディングに取り組む。	授業時に学んだ語句・表現を反復練習する。	1時間
第4回	**Unit 2 “Dining Out” - Listening & Speaking** “Dining Out” （外食）① 外食に関する語句・表現を学び、それをテーマにしたリスニングに取り組む。スピーキングの練習も行う。	授業時に学んだ語句・表現を反復練習する。	1時間
第5回	**Unit 2 “Dining Out” - Reading & Writing** “Dining Out” （外食）② 外食に関する語句・表現を使って作文練習を行う。また、それをテーマにしたリーディングに取り組む。	授業時に学んだ語句・表現を反復練習する。	1時間
第6回	**Unit 3 “Daily Life” - Listening & Speaking** “Daily Life” （日常生活）① 日常生活全般に関する語句・表現を学び、それをテーマにしたリスニングに取り組む。スピーキングの練習も行う。	授業時に学んだ語句・表現を反復練習する。	1時間
第7回	**Unit 3 “Daily Life” - Reading & Writing** “Daily Life” （日常生活）② 日常生活全般に関する語句・表現を使って作文練習を行う。また、それをテーマにしたリーディングに取り組む。	授業時に学んだ語句・表現を反復練習する。	1時間
第8回	**第1回～第7回までの総まとめと表現演習** 第1回～第7回まで学んだ語句や表現を総復習をする。 また、各種問題に取り組むことで、それらの習熟度や到達度を測り、評価する。	授業時に学んだ語句・表現を反復練習する。	1時間
第9回	**Unit 4 “Travel” - Listening & Speaking** “Travel” （旅行）① 旅行に関する語句・表現を学び、それをテーマにしたリスニングに取り組む。スピーキングの練習も行う。	授業時に学んだ語句・表現を反復練習する。	1時間
第10回	**Unit 4 “Travel” - Reading & Writing** “Travel” （旅行）② 旅行に関する語句・表現を使って作文練習を行う。また、それをテーマにしたリーディングに取り組む。	授業時に学んだ語句・表現を反復練習する。	1時間
第11回	**Unit 5 “Entertainment” - Listening & Speaking** “Entertainment” （趣味・娯楽）① 趣味や娯楽に関する語句・表現を学び、それをテーマにしたリスニングに取り組む。スピーキングの練習も行う。	授業時に学んだ語句・表現を反復練習する。	1時間
第12回	**Unit 5 “Entertainment” - Reading & Writing** “Entertainment” （趣味・娯楽）② 趣味や娯楽に関する語句・表現を使って作文練習を行う。 また、それをテーマにしたリーディングに取り組む。	授業時に学んだ語句・表現を反復練習する。	1時間
第13回	**Unit 6 “News and Media” - Listening & Speaking** “News and Media” （報道とメディア）① 報道とメディアに関する語句・表現を学び、それをテーマにしたリスニングに取り組む。スピーキングの練習も行う。	授業時に学んだ語句・表現を反復練習する。	1時間
第14回	**Unit 6 “News and Media” - Reading & Writing** “News and Media” （報道とメディア）② 報道とメディアに関する関する語句・表現を使って作文練習を行う。また、それをテーマにしたリーディングに取り組む。	授業時に学んだ語句・表現を反復練習する。	1時間

113

授業科目名	**英語表現Ⅰ（教育）**				
担当教員名	北村千絵				
学年・コース等	3年	開講期間	前期	単位数	1
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の概要					

授業概要

本授業では、語彙、文法、発音および4技能5領域（リーディング、リスニング、ライティング、スピーキング（やり取り・発表））の全般的な向上を図ることにより、CEFR B2レベルの英語コミュニケーション能力を身に付けることを目指します。授業内では、ペアワーク、グループワーク、ミニプレゼンテーション、グループプレゼンテーション、ディスカッション、エッセイライティングなどの活動を行ない、多様な背景を持った人々と交流するために必要な英語力を獲得します。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. 全学DP１.幅広い教養やスキル	他者とコミュニケーションを取るための英語力	4技能(5領域）を用いて、英語で情報の発信・受信ができる。
汎用的な力		
1. 全学DP８.意思疎通		英語で他者との意思疎通ができる。
2. 全学DP10.忠恕の心		ペア、グループワークにおいて、他者を尊重しながら、自らの役割を遂行することができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

・実習や実技に対して個別にコメントします
・実技・実習後、全体に向けてコメントします
・提出物にコメント・評価をつけて返却します
・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

授業へは原則としてすべて出席してください。何らかの事情で欠席する場合は、シラバスや授業内での配布資料を参照し、自学により内容を確認し、必要な課題に取り組むようにしてください。なお、資格・免許取得に必要な科目は、単位修得に必要な授業時間数が定められている場合がありますので、注意してください。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準	
プレゼンテーション等のパフォーマンス課題	50 %	:	授業内に実施するパフォーマンス課題（学生が英語でアウトプットするもの）について、内容、発音、発表態度、積極的に参加できたか等を総合的に評価します。
授業課題、積極的な授業活動への参加	25 %	:	授業内および宿題として出された課題について、内容、分量等を評価します。
定期試験	25 %	:	14回の授業で学んだ、テキストや言語活動の内容に関して出題される試験の結果で評価します。

使用教科書

指定する

著者	タイトル	出版社	出版年

Latham-Koenig, Christina et al.	・American English File 3 (Third Edition、ISBN9780194906632 3)	・Oxford University Press	・2021 年

参考文献等

授業で指示します。

履修上の注意・備考・メッセージ

・教科書、ノート、辞書を持参すること。
・授業には、積極的・意欲的に取り組むこと。
・携帯電話、スマートフォンは指示した時以外は使用を禁じます。
・授業は予習を前提として行われます。また、授業後は丁寧に復習しておいてください。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 授業の前後

場所： 授業の教室

備考・注意事項： 他の時間で対応可能な場合は、初回の授業で案内します。

授業計画		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**オリエンテーション、コミュニケーション活動** ・授業の進め方、準備、課題、約束事等について説明する ・コミュニケーション活動の例を体験する	授業の復習（語彙、発音、文法、リスニング、リーディング、スピーキング）	1時間
第2回	**Unit 1A　Eating in...and out** ・grammar: simple present and continuous, action and nonaction verbs ・vocabulary: food and cooking ・pronunciation: vowel sounds ・listening, reading and speaking: eating	授業の準備と復習（語彙、発音、文法、リスニング、リーディング、スピーキング）	1時間
第3回	**Unit 1B　Modern Families** ・grammar: future forms ・vocabulary: family, adjectives of personality ・pronunciation: sentence stress, word stress ・listening, reading, speaking and writing: family	授業の準備と復習（語彙、発音、文法、リスニング、リーディング、スピーキング、ライティング）	1時間
第4回	**Unit 2A　Spending money** ・grammar: present perfect and simple past ・vocabulary: money ・pronunciation: o and or ・listening, reading and speaking: money	授業の準備と復習（語彙、発音、文法、リスニング、リーディング、スピーキング）	1時間
第5回	**Unit 2B　Changing lives** ・grammar: present perfect+for/since, present perfect continuous ・vocabulary: strong adjectives ・pronunciation: sentence stress ・listening, reading, speaking and writing: life ・パフォーマンス課題（1）の説明	授業の準備と復習（語彙、発音、文法、リスニング、リーディング、スピーキング、ライティング）	1時間
第6回	**パフォーマンス課題（1）** ・第1-5回の授業の内容に関連したパフォーマンス活動を行う ・発表後には簡単な質疑応答を行う ・相互評価と振り返り（他者からの評価を参考にし、自己評価を行い、今後の改善点を考える）	パフォーマンス課題の準備と振り返り	1時間
第7回	**Unit 3A　Survive the drive** ・grammar: comparatives and superlatives ・vocabulary: transportation ・pronunciation: affricates, linking ・listening, reading, speaking and writing: driving	授業の準備と復習（語彙、発音、文法、リスニング、リーディング、スピーキング、ライティング）	1時間
第8回	**Unit 3B　Men, women, and children** ・grammar: articles ・vocabulary: collocation ・pronunciation: schwa, the ・listening, reading and speaking: gender	授業の準備と復習（語彙、発音、文法、リスニング、リーディング、スピーキング）	1時間
第9回	**Unit 4A　Bad manners?** ・grammar: have to, must, should ・vocabulary: phone language ・pronunciation: silent consonants ・listening, reading and speaking: manners	授業の準備と復習（語彙、発音、文法、リスニング、リーディング、スピーキング）	1時間
第10回	**Unit 4B　Yes, I can!** ・grammar: cab, could, be able to ・vocabulary: -ed/-ing adjectives ・pronunciation: present stress ・listening, reading, and speaking: ability and possibility ・パフォーマンス課題（2）の説明	授業の準備と復習（語彙、発音、文法、リスニング、リーディング、スピーキング）	1時間

第11回	**パフォーマンス課題（2）** ・第7-10回の授業の内容に関連したパフォーマンス活動を行う ・発表後には簡単な質疑応答を行う ・相互評価と振り返り（他者からの評価を参考にし、自己評価を行い、今後の改善点を考える）	パフォーマンス課題の準備と振り返り	1時間
第12回	**Unit 5A　Sporting superstitions** ・grammar: past tenses ・vocabulary: sports ・pronunciation: r-diphthongs ・listening, reading, speaking and writing: sports	授業の準備と復習（語彙、発音、文法、リスニング、リーディング、スピーキング、ライティング）	1時間
第13回	**Unit 5B　#thewaywemet** ・grammar: past and present habits and states ・vocabulary: relationships ・pronunciation: the letter s, used to ・listening, reading and speaking: relationships ・パフォーマンス課題（3）の説明	授業の準備と復習（語彙、発音、文法、リスニング、リーディング、スピーキング）	1時間
第14回	**パフォーマンス課題（3）** ・第12―13回の授業の内容に関連したパフォーマンス活動を行う ・発表後には簡単な質疑応答を行う ・相互評価と振り返り（他者からの評価を参考にし、自己評価を行い、今後の改善点を考える）	パフォーマンス課題の準備と振り返り、定期試験の準備	1時間

111

授業科目名	英語表現Ⅰ（データサイエンス）				
担当教員名	日笠ロウェナ				
学年・コース等	1年	開講期間	前期	単位数	1
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の概要					

授業概要

Students need to talk about various topics such as origins, habits, and part-time jobs using simple English. Students are expected to participate actively in pairs and group work. They will study basic grammar and will listen to Audio. They will also practice presentation skills and lead activities in a group. 様々なトピックについて、ペア、グループにおける会話やリスニング、プレゼンテーションを通して英語を使う。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. 全学DP１.幅広い教養やスキル	英語運用力	簡単な英語や英語会話を理解し、簡単な英語で身の回りのことを表現できる。最終的には英語が好きになり、楽しく英語を話すことができる。
汎用的な力		
1. 全学DP８.意思疎通		ペア・グループにおいて、自分の意見や思いを英語で表現できる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)

・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)

・シミュレーション型学習(ロールプレイ、ゲーム型学習など)

課題や取組に対する評価・振り返り

・提出物にコメント・評価をつけて返却します

成績評価

注意事項等

授業へは原則としてすべて出席してください。何らかの事情で欠席する場合は、シラバスや授業内での配布資料を参照し、自学により内容を確認し、必要な課題に取り組むようにしてください。なお、資格・免許取得に必要な科目は、単位修得に必要な授業時間数が定められている場合がありますので、注意してください。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
Class Participation 授業参加	30 %	: 積極的に授業に参加しているかを評価します。
Homework & Written Classwork 課題と作文	20 %	: 授業で課された課題および作文について、期限内に提出されたものに限り、内容や分量を総合的に評価します。
Speaking test 口頭テスト	20 %	: 口頭テストで、英会話力を総合的に評価します。
Short Quiz & Listening Tasks 小テストと聞取の課題	10 %	: 小テストとリスニングテストを評価します。
Final Exam 期末試験	20 %	: 授業で学んだ内容に関する問題が中心です。（Vocabulary and Conversation語彙と会話60%, Writing and Listening Part書く課題とリスニングテスト40%）

使用教科書

指定する

著者	タイトル	出版社	出版年

Stephen Richmond / Bruno Vannieu	・Conversations in Class A2 Book 1 ISBN-978-4905343424	・Alma Publishing	・2024 年
Jerry Talandis Jr., and Saki Ishii	・	・	・ 年

参考文献等

特になし

履修上の注意・備考・メッセージ

「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 授業の前後

場所： 授業の教室

備考・注意事項： 質問等があればいつでも来てください。

授業計画		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**Course Introduction コースの説明 self-introduction 課題** Goals,rules,tasks,grading Textbook: Orientation Golden Rules 課題、成績; 教科書：ゴールデンルール	Work Assignment: Write a self-introduction課題: 自己紹介を書く	2時間
第2回	**Unit 1 Origins** Point 1 Where are you from? 1 . Toolbox 2. Expression 3. Pair Practice Point 2 Do you know where Sakata is ? 1. Variations 2. Interview Conversation 1. Listening 2. Dialog	U1 Review and prepare for the next lesson 授業の復習と準備をする	2時間
第3回	**Unit 2 Your Lifestyle** Point 1 Do you live alone? 1 . Toolbox 2. Expression 3. Pair Practice Point 2 Do you cook for yourself? 1. Variations 2. Interview Conversation 1. Listening 2. Dialog	U2 Review and prepare for the next lesson 授業の復習と準備をする	2時間
第4回	**Unit 3 Routines** Point 1 What time do you usually get up? 1 . Toolbox 2. Expression 3. Pair Practice Point 2 How long does it take you to get to campus? 1. Variations 2. Interview Conversation 1. Listening 2. Dialog	U3 Review and prepare for the next lesson 授業の復習と準備をする	2時間
第5回	**Unit 4 Habits** Point 1 How often do you eat out? 1 . Toolbox 2. Expression 3. Pair Practice Point 2 Do you ever fall asleep on the train ? 1. Variations 2. Interview Conversation 1. Listening 2. Dialog	U4 Review and prepare for the next lesson 授業の復習と準備をする	2時間
第6回	**Unit 5 Your Studies** Point 1 What are you majoring in ? 1 . Toolbox 2. Expression 3. Pair Practice Point 2 What's your favorite subject? 1. Variations 2. Interview Conversation 1. Listening 2. Dialog	U5 Review and prepare for the next lesson 授業の復習と準備をする	2時間
第7回	**Unit 6 Your Clubs**	prepare for speaking test or / 会話テスト・発表準備	2時間

	Point 1　Are you in any clubs　now ? 1 .　Toolbox 2.　Expression 3. Pair Practice Point 2　Why did you join that club? 1. Variations 2. Interview Conversation 1.　Listening 2.　Dialog		
第8回	**Speaking Test・ Presentations** Speaking Test/ Presentations 会話テスト/発表	Review and prepare for the next lesson　授業の復習と準備をする	2時間
第9回	**Unit 7　Part-time Jobs** Point 1　Do you have a part-time job　? 1 .　Toolbox 2.　Expression 3. Pair Practice Point 2　What is it like working in a cram school? 1. Variations 2. Interview Conversation 1.　Listening 2.　Dialog	U7 Review and prepare for the next lesson　授業の復習と準備をする	2時間
第10回	**Unit 8　Future Jobs** Point 1　What kind of job would you like to do　? 1 .　Toolbox 2.　Expression 3. Pair Practice Point 2　What is important for you in a job? 1. Variations 2. Interview Conversation 1.　Listening 2.　Dialog	U8 Review and prepare for the next lesson　授業の復習と準備をする	2時間
第11回	**Unit 9 Your Money** Point 1　What do you spend your money on　? 1 .　Toolbox 2.　Expression 3. Pair Practice Point 2　How much money do you spend on clothes a mon th? 1. Variations 2. Interview Conversation 1.　Listening 2.　Dialog	U9 Review and prepare for the next lesson　授業の復習と準備をする	2時間
第12回	**Unit 10　Going Out** Point 1　What's your favorite place to buy clothes ? 1 .　Toolbox 2.　Expression 3. Pair Practice Point 2　What do you like to do when you go out? 1. Variations 2. Interview Conversation 1.　Listening 2.　Dialog	U10 Review and prepare for the next lesson 授業の復習と準備をする	2時間
第13回	**Unit 11 Hobbies** Point 1　Do you play any sports　? 1 .　Toolbox 2.　Expression 3. Pair Practice Point 2　How long did you play the piano? 1. Variations 2. Interview Conversation 1.　Listening 2.　Dialog	U11 Review and prepare for the next lesson 授業の復習と準備をする	2時間
第14回	**Unit 12 Time Off　/　Review Units 7-12** Point 1　What have you been doing recently　? 1 .　Toolbox 2.　Expression 3. Pair Practice Point 2　Do you have any plans for the weekend? 1. Variations 2. Interview Conversation 1.　Listening 2.　Dialog	U12 Review and study　振り返りと試験の準備	2時間

111

授業科目名	**英語表現Ⅱ（経営）**				
担当教員名	ﾋﾟｱｽ・ｽﾄﾘｯｸﾗﾝﾄﾞ、ｱｼｭﾘｰ・ｽﾃｨｰﾌﾞﾝｽ、ｲﾘ・ｴﾁｬｰ、ｲｱﾝ・ｱﾚﾝｽﾞﾜｰｽ、ｼｪｰﾝ・ﾏｯｺｰｴﾝ				
学年・コース等	1年	開講期間	後期	単位数	1
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の概要					

授業概要

この授業では、学生に英語でのコミュニケーションに対する経験と自信を与えることを目的としています。スピーキング、リスニング、リーディング、ライティングの練習を通して、様々なテーマについて自分の考えや意見を述べることを学びます。授業内容に関連するプレゼンテーションが授業全体で3回行われます。興味や生活に関連するテーマについてのプレゼンテーションを計画し、実行しながら学生の英語への興味を高めることを目指しています。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. 全学DP１.幅広い教養やスキル	他者とコミュニケーションを取るための英語運用力の向上	4技能を用いて、英語で情報の発信・受信ができる。
汎用的な力		
1. 全学DP８.意思疎通		英語で他者との意思疎通ができる。ペア・グループワークにおいて他者を尊重しながら自らの役割を遂行することができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)

・eラーニング、反転授業

・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)

・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)

・シミュレーション型学習(ロールプレイ、ゲーム型学習など)

すべての課題はGoogleClassroomに投稿され、週ごとに整理されます。 課題は、Googleドキュメント、スライド、フォームを使用します。

課題や取組に対する評価・振り返り

・実習や実技に対して個別にコメントします

・実技・実習後、全体に向けてコメントします

・提出物にコメント・評価をつけて返却します

・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

授業へは原則としてすべて出席してください。何らかの事情で欠席する場合は、シラバスや授業内での配布資料を参照し、自学により内容を確認し、必要な課題に取り組むようにしてください。なお、資格・免許取得に必要な科目は、単位修得に必要な授業時間数が定められている場合がありますので、注意してください。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
授業における課題と宿題	25 %	： 授業における課題、宿題の完了、授業における積極的な発言、グループワーク、ペアワークによる積極的な態度を評価します。
Presentations	50 %	： 3回のプレゼンテーションは、文法と英語表現、発音と声、プレゼンテーションの流れ、グループの協力および個々の努力によって評価します。プレゼンテーション原稿もライティング課題として評価します。
定期試験	25 %	： 授業内で学んだ表現について筆記テストを行います。

使用教科書

指定する

著者	タイトル	出版社	出版年
Marc Helgesen, John Wiltshier, Steven Brown	・English Firsthand Access 5th Edition Student Book with MyMobileWorld	・Pearson Education	・2018 年
	・ ISBN: 9789813132757	・	・ 年

参考文献等

授業で指示します。

履修上の注意・備考・メッセージ

教科書、ノート、文房具と辞書（または電子辞書）を持参すること。授業には積極的な・意欲的に取り組むこと。「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。
＊＊教科書にはオンラインワークブックコードが付属しており、オンラインコンテンツにアクセスしなければならないため、各学生は教科書を必ず購入する必要があります。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 授業の前後

場所： 授業の教室

備考・注意事項： 質問等は本授業の前後、またはメールでも構いません。件名に学籍番号、氏名を記入してください。

授業計画

		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**Class Orientation and Class Overview, Unit 7: I Really Enjoy It!** ・オリエンテーション ・Unit 7: 語彙、リスニングと会話 *この授業を受講する者は必ず出席すること	授業の復習(Unit 7)・ 授業で指示された課題	1時間
第2回	**Unit 7: I Really Enjoy It!, プレゼンテーション1の準備** ・Unit 7: コミュニケーション活動, リーディング ・プレゼンテーション１の指導と準備	プレゼンテーション １の準備	1時間
第3回	**プレゼンテーション１、Unit 8: Let's Eat!** ・プレゼンテーション１, クラスメイトのプレゼンテーション評価 ・Unit 8: 語彙、リスニングと会話	授業の復習(Unit 8)・授業で指示された課題	1時間
第4回	**Unit 8: Let's Eat!** ・Unit 8: コミュニケーション活動, リーディング	授業の復習(Unit 8)・授業で指示された課題	1時間
第5回	**Unit 9: I Really Enjoy It!** ・Unit 9: 語彙、リスニングと会話	授業の復習(Unit 9)・授業で指示された課題	1時間
	・Unit 9: コミュニケーション活動, リーディング		
第7回	**Unit 10: Welcome to My Home** ・Unit 10: 語彙、リスニングと会話	授業の復習(Unit 10)・授業で指示された課題	1時間
第8回	**Unit 10: Welcome to My Home, プレゼンテーション2の準備** ・Unit 10: コミュニケーション活動, リーディング ・プレゼンテーション２の指導と準備	プレゼンテーション2の準備	1時間
第9回	**プレゼンテーション 2** ・プレゼンテーション ２, クラスメイトのプレゼンテーション評価 ・特別活動	授業で指示された課題	1時間
第10回	**Unit 11: Where Did You Go?** ・Unit 11: 語彙、リスニングと会話	授業の復習(Unit 11)・授業で指示された課題	1時間
	・Unit 11: コミュニケーション活動, リーディング		
第12回	**Unit 12: Will I Be Famous?** ・Unit 12: 語彙、リスニングと会話	授業の復習(Unit 12)・授業で指示された課題	1時間
第13回	**Unit 12: Will I Be Famous?、プレゼンテーション3の準備** ・Unit 11: コミュニケーション活動, リーディング ・プレゼンテーション3の指導と準備	プレゼンテーション3の準備	1時間
第14回	**プレゼンテーション 3、英語表現Ⅱのまとめ** ・プレゼンテーション３, クラスメイトのプレゼンテーション評価 ・定期試験に向けての学習 ・授業全体のまとめ	授業の復習・ 定期試験に向けての学習	1時間

111

授業科目名	**英語表現Ⅱ（国際観光）**				
担当教員名	澤泰人				
学年・コース等	1年	開講期間	後期	単位数	1
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の概要					

授業概要

本授業は、日常生活やビジネスの基礎となる英語の語彙や表現を正しく理解し、リスニングとリーディングの両面で日常生活やビジネス的な内容に対して慣れ親しむことを目標とする。様々な演習問題に取り組むことを通じて、英語学修の意義や楽しさに気づき、自律的な学習態度の基礎を確立できるよう授業を展開する。また、授業中にはペアやグループでの活動を積極的に取り入れ、協働学習による目標達成への連帯感と動機付けを図りつつ、英語コミュニケーション力の育成と、TOEICや英検などの英語検定にも対応できる力を培う。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. 全学DP１.幅広い教養やスキル	ビジネスの基礎となる英語力の育成	ビジネスシーンで用いられる会話における基本的な英語の語彙や表現が正しく理解できるようになる
2. 全学DP２.専門的知識・技能、職業理解	英語コミュニケーション力の育成	よくあるビジネスシーンにおいて、英語でやりとりができる（会話やメール）
汎用的な力		
1. 全学DP５.計画・立案力		TOEIC等に向けて自ら学習計画を立て、それに従って自律的に学習を進めることができる
2. 全学DP９.役割理解・連携行動		協働学習において積極的に関わり、互いに学びあうことができる

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)

・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

・提出物にコメント・評価をつけて返却します

成績評価

注意事項等

授業へは原則としてすべて出席してください。何らかの事情で欠席する場合は、シラバスや授業内での配布資料を参照し、自学により内容を確認し、必要な課題に取り組むようにしてください。なお、資格・免許取得に必要な科目は、単位修得に必要な授業時間数が定められている場合がありますので、注意してください。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
課題	35 %	： 宿題や課題への取り組みや完成度を評価します。
参加と小テスト	35 %	： 質問や自分の考え・意見の発表に、また課題の完成に向けてどれだけ積極的に取り組んでいるかを評価します。小テストでは前回の授業内容の理解度を評価します。
定期試験	30 %	： 試験の得点で評価します。

使用教科書

指定する

著者	タイトル	出版社	出版年
Robert Hickling	・First Try for the TOEIC L&R Test (ISBN: 978-4-7647-4182-9)	・金星堂	・2023 年

参考文献等

English Grammar In Use, Second Edition (Cambridge University Press) 1994
TOEICテスト英単語・熟語マスタリー2000（旺文社） 2016

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は1単位の科目であるため、平均すると毎回1時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。
●毎回、授業内に小テストを実施します。
●毎回、授業終了時に宿題が出されます。
●授業では、教科書を使用するほか、必要に応じてハンドアウト等を配布します。
●第1回目の授業で示されるルールを守って受講してください。

＊使用教科書ISBN: 978-4-7647-4182-9

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 初回授業で案内します。

場所： 初回授業で案内します。

授業計画

		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**イントロダクション、出来事の説明と写真描写** 簡単な英語を使って、自分が体験した過去の出来事を説明する。 さまざまな場面の写真を見て、平易な英語で説明する。	授業時に学んだ語句・表現を反復練習する。	1時間
第2回	**Unit 7 “Housing” - Listening & Speaking** “Housing” （住居）① 住居に関する語句・表現を学び、それをテーマにしたリスニングに取り組む。スピーキングの練習も行う。	授業時に学んだ語句・表現を反復練習する。	1時間
第3回	**Unit 7 “Housing” - Reading & Writing** “Housing” （住居）② 住居に関する語句・表現を使って作文練習を行う。また、それをテーマにしたリーディングに取り組む。	授業時に学んだ語句・表現を反復練習する。	1時間
第4回	**Unit 8 “Office 1” - Listening & Speaking** “Office 1” （オフィス・１）① オフィスに関する語句・表現を学び、それをテーマにしたリスニングに取り組む。スピーキングの練習も行う。	授業時に学んだ語句・表現を反復練習する。	1時間
第5回	**Unit 8 “Office 1” - Reading & Writing** “Office 1” （オフィス・１）② オフィスに関する語句・表現を使って作文練習を行う。また、それをテーマにしたリーディングに取り組む。	授業時に学んだ語句・表現を反復練習する。	1時間
第6回	**Unit 9 “Employment” - Listening & Speaking** “Employment” （就職・求人）① 就職・求人に関する語句・表現を学び、それをテーマにしたリスニングに取り組む。スピーキングの練習も行う。	授業時に学んだ語句・表現を反復練習する。	1時間
第7回	**Unit 9 “Employment” - Reading & Writing** “Employment” （就職・求人）② 就職・求人に関する語句・表現を使って作文練習を行う。また、それをテーマにしたリーディングに取り組む。	授業時に学んだ語句・表現を反復練習する。	1時間
第8回	**第1回～第7回までの総まとめと表現演習** 第1回～第7回まで学んだ語句や表現を総復習をする。 また、各種問題に取り組むことで、それらの習熟度や到達度を測り、評価する。	授業時に学んだ語句・表現を反復練習する。	1時間
第9回	**Unit 10 “Meetings” - Listening & Speaking** “Meetings” （会議・打ち合わせ）① 会議・打ち合わせに関する語句・表現を学び、それをテーマにしたリスニングに取り組む。スピーキングの練習も行う。	授業時に学んだ語句・表現を反復練習する。	1時間
第10回	**Unit 10 “Meetings” - Reading & Writing** “Meetings” （会議・打ち合わせ）② 会議・打ち合わせに関する語句・表現を使って作文練習を行う。また、それをテーマにしたリーディングに取り組む。	授業時に学んだ語句・表現を反復練習する。	1時間
第11回	**Unit 11 “Clients” - Listening & Speaking** “Clients” （顧客・取引先）① 顧客・取引先に関する語句・表現を学び、それをテーマにしたリスニングに取り組む。スピーキングの練習も行う。	授業時に学んだ語句・表現を反復練習する。	1時間
第12回	**Unit 11 “Clients” - Reading & Writing** “Clients” （顧客・取引先）② 顧客・取引先に関する語句・表現を使って作文練習を行う。また、それをテーマにしたリーディングに取り組む。	授業時に学んだ語句・表現を反復練習する。	1時間
第13回	**Unit 12 “Office 2” - Listening & Speaking** “Office 2” （オフィス・２）① オフィスに関する語句・表現をさらに学び、それをテーマにしたリスニングに取り組む。スピーキングの練習も行う。	授業時に学んだ語句・表現を反復練習する。	1時間
第14回	**Unit 12 “Office 2” - Reading & Writing** “Office 2” （オフィス・２）② オフィスに関する語句・表現をさらに使って作文練習を行う。また、それをテーマにしたリーディングに取り組む。	授業時に学んだ語句・表現を反復練習する。	1時間

授業科目名	英語表現Ⅱ（国際観光）				
担当教員名	デイヴィス恵美				
学年・コース等	1年	開講期間	後期	単位数	1
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の概要					

授業概要

本授業は、実践的なビジネス英語を学び、TOEIC500点を達成できるレベルの英語力を身に着けることを目標としています。授業は担当教員の指導のもと、ビジネス英語／TOEIC指導に長けた外部講師が授業を行う形で進めます。TOEICに類似したリスニング問題演習を行い、基礎的な聴解力を養います。文法については、リスニング、リーディングの即解力の基礎となる文法知識をつけ、口頭練習を通して、基礎的な文法力の定着を図ります。語彙については、翌授業において前回既習箇所の小テストを行うのでしっかりと復習をすることが必要です。また、授業中にはペアやグループでの活動を積極的に取り入れ、協働学習による目標達成への連帯感と動機付けを図りつつ、英語コミュニケーション力の育成と、TOEICや英検などの英語検定にも対応できる力を培います。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. 全学DP１.幅広い教養やスキル	ビジネスの基礎となる英語力の育成	ビジネスシーンで用いられる会話における基本的な英語の語彙や表現が正しく理解できるようになる。
2. 全学DP２.専門的知識・技能、職業理解	英語コミュニケーション力の育成	よくあるビジネスシーンにおいて、英語でやりとりができる（会話やメール）。
汎用的な力		
1. 全学DP５.計画・立案力		英語検定試験等に向けて自ら学習計画を立て、それに従っ。て自律的に学習を進めることができる
2. 全学DP９.役割理解・連携行動		協働学習において積極的に関わり、互いに学びあうことができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)

・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

・提出物にコメント・評価をつけて返却します

成績評価

注意事項等

授業へは原則としてすべて出席してください。何らかの事情で欠席する場合は、シラバスや授業内での配布資料を参照し、自学により内容を確認し、必要な課題に取り組むようにしてください。なお、資格・免許取得に必要な科目は、単位修得に必要な授業時間数が定められている場合がありますので、注意してください。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
期末定期試験	30 %	： 試験の得点で評価します。
小テスト	40 %	： 小テストでは前回の授業内容の理解度を評価します。
参加度	30 %	： 質問や自分の考え・意見の発表に、積極的に取り組んでいるかを評価します。

使用教科書

指定する

著者	タイトル	出版社	出版年
ECC総合教育研究所	・English Skill Builder Ⅰα Listening	・ECC	・ 年
ECC総合教育研究所	・English Skill Builder Ⅰα Grammar	・ECC	・ 年

TEX加藤	・ TOEIC® L&R TEST 出る単特急 銀のフレーズ	・ 朝日新聞出版	・ 年

参考文献等

使用教材　ISBN番号は以下の通りです。
・English Skill Builder Ⅰα　Listening（ISBN番号はありません。）
・English Skill Builder Ⅰα　Grammar（ISBN番号はありません。）
・TOEIC® L&R TEST 出る単特急 銀のフレーズ（ISBN番号9784023316843）

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は1単位の科目であるため、平均すると毎回1時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。
●毎回、授業内に小テストを実施します。
●毎回、授業終了時に宿題が出されます。
●第1回目の授業で示されるルールを守って受講してください。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 初回授業で説明します。

場所： 初回授業で説明します。

備考・注意事項： 本授業は担当教員との連携の元、TOEIC指導に優れた講師によるティーチングを行います。
質問等があれば、osaka.seikei@ecc.co.jpまでメールにてご連絡ください。

授業計画

		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**オリエンテーション・Grammar: Unit7 助動詞** 助動詞についての理解を深める。	授業時に学んだ語句・表現を反復練習する。	1時間
第2回	**Listening: Unit7 Healthy Eating** 食生活テーマにしたトークのリスニング素材を用い、会話の核となる情報の抽出を行う。 また、トピックを自分の状況に置き換えて会話の練習を行う。	授業時に学んだ語句・表現を反復練習する。	1時間
第3回	**Grammar: Unit8 可算名詞・不可算名詞** 可算名詞・不可算名詞についての理解を深める。	授業時に学んだ語句・表現を反復練習する。	1時間
第4回	**Listening: Unit8 It's Really Hot!** 天候をテーマにしたトークのリスニング素材を用い、会話の核となる情報の抽出を行う。 また、トピックを自分の状況に置き換えて会話の練習を行う。	授業時に学んだ語句・表現を反復練習する。	1時間
第5回	**Grammar: Unit9 定冠詞・不定冠詞** 定冠詞・不定冠詞についての理解を深める。	授業時に学んだ語句・表現を反復練習する。	1時間
第6回	**Listening: Unit9 When I Grow Up** 幼少期や学校をテーマにしたトークのリスニング素材を用い、会話の核となる情報の抽出を行う。 また、トピックを自分の状況に置き換えて会話の練習を行う。	授業時に学んだ語句・表現を反復練習する。	1時間
第7回	**Grammar: Unit10 代名詞** 代名詞についての理解を深める。	授業時に学んだ語句・表現を反復練習する。	1時間
第8回	**Listening: Unit10 New Year's Is Coming!** お正月をテーマにしたトークのリスニング素材を用い、会話の核となる情報の抽出を行う。 また、トピックを自分の状況に置き換えて会話の練習を行う。	授業時に学んだ語句・表現を反復練習する。	1時間
第9回	**Grammar: Unit11 前置詞** 前置詞についての理解を深める。	授業時に学んだ語句・表現を反復練習する。	1時間
第10回	**Listening: Unit11 Which Is Better?** 様々な比較をテーマにしたトークのリスニング素材を用い、会話の核となる情報の抽出を行う。 また、トピックを自分の状況に置き換えて会話の練習を行う。	授業時に学んだ語句・表現を反復練習する。	1時間
第11回	**Grammar: Unit12 接続詞** 接続詞についての理解を深める。	授業時に学んだ語句・表現を反復練習する。	1時間
第12回	**Listening: Unit12 Everybody Loves Cherry Blossoms** 春をテーマにしたトークのリスニング素材を用い、会話の核となる情報の抽出を行う。 また、トピックを自分の状況に置き換えて会話の練習を行う。	授業時に学んだ語句・表現を反復練習する。	1時間
第13回	**Grammar: Unit13 形容詞・副詞** 形容詞・副詞についての理解を深める。	授業時に学んだ語句・表現を反復練習する。	1時間
第14回	**後期の既習事項の復習** 後期に習った重要語句・表現・文法事項について総復習する。	授業時に学んだ語句・表現を反復練習する。	1時間

113

授業科目名	**英語表現Ⅱ（教育）**				
担当教員名	**湯浅桂**				
学年・コース等	3年	開講期間	後期	単位数	1
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の概要					

授業概要

本授業では、「英語表現Ⅰ」に続いて、語彙、文法、発音および4技能5領域（リーディング、リスニング、ライティング、スピーキング（やり取り・発表））の全般的な向上を図ることにより、CEFR B2レベルの英語コミュニケーション能力を身に付けることを目指します。授業内では、ペアワーク、グループワーク、ミニプレゼンテーション、グループプレゼンテーション、ディスカッション、エッセイライティングなどの活動を行ない、多様な背景を持った人々と交流するために必要な英語力を獲得します。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. 全学DP１.幅広い教養やスキル	他者とコミュニケーションを取るための英語力	4技能(5領域）を用いて、英語で情報の発信・受信ができる。
汎用的な力		
1. 全学DP８.意思疎通		英語で他者との意思疎通ができる。
2. 全学DP10.忠恕の心		ペア、グループワークにおいて、他者を尊重しながら、自らの役割を遂行することができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

・実習や実技に対して個別にコメントします
・実技・実習後、全体に向けてコメントします
・提出物にコメント・評価をつけて返却します
・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

授業へは原則としてすべて出席してください。何らかの事情で欠席する場合は、シラバスや授業内での配布資料を参照し、自学により内容を確認し、必要な課題に取り組むようにしてください。なお、資格・免許取得に必要な科目は、単位修得に必要な授業時間数が定められている場合がありますので、注意してください。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
プレゼンテーション等のパフォーマンス課題	50 %	： 授業内に実施するパフォーマンス課題（学生が英語でアウトプットするもの）について、内容、発音、発表態度、積極的に参加できたか等を総合的に評価します。
授業課題、積極的な授業活動への参加	25 %	： 授業内および宿題として出された課題について、内容、分量等を評価します。
定期試験	25 %	： 14回の授業で学んだ、テキストや言語活動の内容に関して出題される試験の結果で評価します。

使用教科書

指定する

著者	タイトル	出版社	出版年

Latham-Koenig, Christina et al.	・American English File 3 (Third Edition、ISBN9780194906632 3)	・Oxford University Press	・2021 年

参考文献等

授業で指示します。

履修上の注意・備考・メッセージ

・教科書、ノート、辞書を持参すること。
・授業には、積極的・意欲的に取り組むこと。
・携帯電話、スマートフォンは指示した時以外は使用を禁じます。
・授業は予習を前提として行われます。また、授業後は丁寧に復習しておいてください。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：　授業の前後

場所：　授業の教室

備考・注意事項：　他の時間で対応可能な場合は、初回の授業で案内します。

授業計画		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**オリエンテーション、コミュニケーション活動** ・授業の進め方、準備、課題、約束事等について説明する ・コミュニケーション活動の例を体験する	授業の復習（語彙、発音、文法、リスニング、リーディング、スピーキング）	1時間
第2回	**Unit 6A　Behind the scenes** ・grammar: passive ・vocabulary: movies ・pronunciation: past participles ・listening, reading, speaking and writing: movies	授業の準備と復習（語彙、発音、文法、リスニング、リーディング、スピーキング、ライティング）	1時間
第3回	**Unit 6B　Every picture tells a story** ・grammar: modals of dedction ・vocabulary: the body ・pronunciation: diphthongs ・listening, reading and speaking: profiles	授業の準備と復習（語彙、発音、文法、リスニング、リーディング、スピーキング）	1時間
第4回	**Unit 7A　Live and learn** ・grammar: first conditional etc. ・vocabulary: education ・pronunciation: the letter u ・listening, reading and speaking: education	授業の準備と復習（語彙、発音、文法、リスニング、リーディング、スピーキング）	1時間
第5回	**Unit 7B　The hotel of Mom and Dad** ・grammar: second conditional ・vocabulary: houses ・pronunciation: sentence stress, the letter c ・listening, reading, speaking and writing: houses ・パフォーマンス課題（1）の説明	授業の準備と復習（語彙、発音、文法、リスニング、リーディング、スピーキング、ライティング）	1時間
第6回	**パフォーマンス課題（1）** ・第1-5回の授業の内容に関連したパフォーマンス活動を行う ・発表後には簡単な質疑応答を行う ・相互評価と振り返り（他者からの評価を参考にし、自己評価を行い、今後の改善点を考える）	パフォーマンス課題の準備と振り返り	1時間
第7回	**Unit 8A　The right job for you** ・grammar: gerunds and infinitives ・vocabulary: work ・pronunciation: word stress ・listening, reading, speaking and writing: jobs	授業の準備と復習（語彙、発音、文法、リスニング、リーディング、スピーキング、ライティング）	1時間
第8回	**Unit 8B　Have a nice day!** ・grammar: reported speech ・vocabulary: shopping ・pronunciation: the letter ai ・listening, reading, speaking and writing: customer service	授業の準備と復習（語彙、発音、文法、リスニング、リーディング、スピーキング、ライティング）	1時間
第9回	**Unit 9A　Lucky encounters** ・grammar: third conditional ・vocabulary: making adjectives and adverbs ・pronunciation: sentence rhythms etc. ・listening, reading and speaking: luck	授業の準備と復習（語彙、発音、文法、リスニング、リーディング、スピーキング）	1時間
第10回	**Unit 9B　Digital detox**	授業の準備と復習（語彙、発音、文法、リスニング、リーディング、スピーキング、ライティング）	1時間

	・grammar: quantifiers ・vocabulary: electronic devices ・pronunciation: linking etc. ・listening, reading, speaking and writing: digital life ・パフォーマンス課題（２）の説明		
第11回	**パフォーマンス課題（２）** ・第7-10回の授業の内容に関連したパフォーマンス活動を行う ・発表後には簡単な質疑応答を行う ・相互評価と振り返り（他者からの評価を参考にし、自己評価を行い、今後の改善点を考える）	パフォーマンス課題の準備と振り返り	1時間
第12回	**Unit 10A　Idols and icons** ・grammar: relative clauses etc. ・vocabulary: compound nouns ・pronunciation: word stress ・listening, reading, speaking and writing: idols	授業の準備と復習（語彙、発音、文法、リスニング、リーディング、スピーキング）	1時間
第13回	**Unit 10B　And the murder is...** ・grammar: tag questions ・vocabulary: crime ・pronunciation: intonation in tag questions ・listening, reading and speaking: crime ・パフォーマンス課題（３）の説明	授業の準備と復習（語彙、発音、文法、リスニング、リーディング、スピーキング）	1時間
第14回	**パフォーマンス課題（３）** ・第12―13回の授業の内容に関連したパフォーマンス活動を行う ・発表後には簡単な質疑応答を行う ・相互評価と振り返り（他者からの評価を参考にし、自己評価を行い、今後の改善点を考える）	パフォーマンス課題の準備と振り返り、定期試験の準備	1時間

111

授業科目名	英語表現Ⅱ（データサイエンス）				
担当教員名	日笠ロウェナ				
学年・コース等	1年	開講期間	後期	単位数	1
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の概要					

授業概要

Students need to talk about various topics such as travels , hometowns, and seasons or events using simple English.Students are expected to participate actively in pairs and group work.They will study basic grammar and will listen to Audio conversations. They will also practice presentation skills and lead activities in a group. 様々なトピックについて、ペア、グループにおける会話やリスニング、プレゼンテーションを通して英語を使う。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. 全学DP１.幅広い教養やスキル	英語運用力	簡単な英語や英語会話を理解し、簡単な英語で身の回りのことを表現できる。最終的には英語が好きになり、楽しく英語を話すことができる。
汎用的な力		
1. 全学DP８.意思疎通		ペア・グループにおいて、自分の意見や思いを英語で表現できる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)

・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)

・シミュレーション型学習(ロールプレイ、ゲーム型学習など)

課題や取組に対する評価・振り返り

・提出物にコメント・評価をつけて返却します

成績評価

注意事項等

授業へは原則としてすべて出席してください。何らかの事情で欠席する場合は、シラバスや授業内での配布資料を参照し、自学により内容を確認し、必要な課題に取り組むようにしてください。なお、資格・免許取得に必要な科目は、単位修得に必要な授業時間数が定められている場合がありますので、注意してください。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
Class Participation 授業参加	30 %	： 積極的に授業に参加しているかを評価します。
Homework & Written Classwork 課題と作文	20 %	： 授業で課された課題および作文について、期限内に提出されたものに限り、内容や分量を総合的に評価します。
Speaking test 口頭テスト	20 %	： 口頭テストで、英会話力を総合的に評価します。
Short Quiz & Listening Tasks 小テストと聞取の課題	10 %	： 小テストとリスニングテストを評価します。
Final Exam 期末試験	20 %	： 授業で学んだ内容に関する問題が中心です。（Vocabulary and Conversation語彙と会話60%, Writing and Listening Part書く課題とリスニングテスト40%）

使用教科書

指定する

著者	タイトル	出版社	出版年
Stephen Richmond / Bruno Vannieu	・Conversations in Class A2 Book 2 ISBN-978-4905343431	・Alma Publishing	・2024 年
Jerry Talandis Jr., and Saki Ishii	・	・	・ 年

参考文献等

特になし

履修上の注意・備考・メッセージ

「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 授業の前後

場所： 授業の教室

備考・注意事項： 質問等があればいつでも来てください。

授業計画

		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**Course Introduction コースの説明 self-introduction 課題** Goals,rules,tasks,grading Textbook: Orientation Golden Rules 課題、成績; 教科書：オリエンテーション ゴールデンルール	Work Assignment: Write a self-introduction課題: 自己紹介を書く	2時間
第2回	**Unit 1 Travels** Point 1 Have you ever been abroad ? 1 . Toolbox 2. Expression 3. Pair Practice Point 2 How was your trip to Hokkaido ? 1. Variations 2. Interview Conversation 1. Listening 2. Dialog	U1 Review and prepare for the next lesson 授業の復習と準備をする	2時間
第3回	**Unit 2 Entertainment** Point 1 What kind of music do you like ? 1 . Toolbox 2. Expression 3. Pair Practice Point 2 Who's your favorite actress ? 1. Variations 2. Interview Conversation 1. Listening 2. Dialog	U2 Review and prepare for the next lesson 授業の復習と準備をする	2時間
第4回	**Unit 3 Movies and Books** Point 1 Have you seen any good movies recently? 1 . Toolbox 2. Expression 3. Pair Practice Point 2 What did you like about One Piece ? 1. Variations 2. Interview Conversation 1. Listening 2. Dialog	U3 Review and prepare for the next lesson 授業の復習と準備をする	2時間
第5回	**Unit 4 Skills and Abilities** Point 1 What are your strengths? 1 . Toolbox 2. Expression 3. Pair Practice Point 2 What would you like to get better at ? 1. Variations 2. Interview Conversation 1. Listening 2. Dialog	U4 Review and prepare for the next lesson 授業の復習と準備をする	2時間
第6回	**Unit 5 Your Meals** Point 1 What did you have for breakfast ? 1 . Toolbox 2. Expression 3. Pair Practice Point 2 Do you prefer tea or coffee? 1. Variations 2. Interview Conversation 1. Listening 2. Dialog	U5 Review and prepare for the next lesson 授業の復習と準備をする	2時間
第7回	**Unit 6 Family and Pets**	Prepare for presentations or speaking test	2時間

	Point 1　Do you have a large family ? 1 .　Toolbox 2.　Expression 3. Pair Practice Point 2　Which member of your family are you most si milar to? 1. Variations 2. Interview Conversation 1.　Listening 2.　Dialog		
第8回	**Review Units 1-6　Speaking Test / Presentations** Speaking Test or Presentations 会話テスト / 発表	U1-6 Review and prepare for the next lesson 授業の復習と準備をする	2時間
第9回	**Unit 7　Childhood and the Past** Point 1　What was your favorite TV show when you wer e a kid ? 1 .　Toolbox 2.　Expression 3. Pair Practice Point 2　Have you changed much since you were younge r ? 1. Variations 2. Interview Conversation 1.　Listening 2.　Dialog	U7 Review and prepare for the next lesson　授業の復習と準備をする	2時間
第10回	**Unit 8　Your Hometown** Point 1　What's your hometown famous for ? 1 .　Toolbox 2.　Expression 3. Pair Practice Point 2　What's the best way to get to your hometown ? 1. Variations 2. Interview Conversation 1.　Listening 2.　Dialog	U8 Review and prepare for the next lesson　授業の復習と準備をする	2時間
第11回	**Unit 9 A Place to Live** Point 1　What do you like about your hometown ? 1 .　Toolbox 2.　Expression 3. Pair Practice Point 2　Would you rather live in the city or live i n the country? 1. Variations 2. Interview Conversation 1.　Listening 2.　Dialog	U9 Review and prepare for the next lesson　授業の復習と準備をする	2時間
第12回	**Unit 10　Seasons and Events** Point 1　What's your favorite time of the year ? 1 .　Toolbox 2.　Expression 3. Pair Practice Point 2　What do you do for New Year's ? 1. Variations 2. Interview Conversation 1.　Listening 2.　Dialog	U10 Review and prepare for the next lesson 授業の復習と準備をする	2時間
第13回	**Unit 11 Marriage and Family** Point 1　Would you like to get married someday ? 1 .　Toolbox 2.　Expression 3. Pair Practice Point 2　What do you think is a good age to get marri ed? 1. Variations 2. Interview Conversation 1.　Listening 2.　Dialog	U11 Review and prepare for the next lesson 授業の復習と準備をする	2時間
第14回	**Unit 12　Dreams　/　Review Units 7-12** Point 1　What would your dream house be like ? 1 .　Toolbox 2.　Expression 3. Pair Practice Point 2　What would you do if you won the lottery? 1. Variations 2. Interview Conversation 1.　Listening 2.　Dialog	U12 Review and study　振り返りと試験の準備	2時間

112

授業科目名	**英語表現Ⅲ**				
担当教員名	佐々木緑・工藤律子・池名友・樫本英之				
学年・コース等	1年	開講期間	前期	単位数	1
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の概要					

授業概要

本授業は、英語集中プログラム(Intensive Course of English)の１科目です。英語集中プログラムでは学期中に２つの授業(前期：英語表現Ⅲと総合英語A、後期：英語表現Ⅳと総合英語B) および集中講座２つ（夏期：総合英語C、春期：総合英語D)を連動させる、授業内外での徹底した学習を重ねることで、TOEIC(500-550点) などの英語試験にも対応できる力を培うことを目的としています。本授業では、語彙力および英語のリスニング力向上に重点を置きながら、英語で読んだり聞いたりした内容を要約し英語で伝えることができる力、自分の考えを英語でまとめて伝えることができる力を養成します。授業中にはペアやグループでの活動を積極的に取り入れ、協働学習による目標達成への連帯感と動機付けを図ります。様々な学習活動に取り組むことによって、英語学修の意義や楽しさに気づき、自律的な学習態度の基礎を確立できるよう授業を展開します。また、AIやアプリなどを使った様々な英語学習法を紹介するとともに、授業内外の課題としてe-learning学習に取り組むことで、自主学習の習慣を身につけ、英語力の向上を図ります。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. 全学DP１.幅広い教養やスキル	英語運用能力を強化する。	英語で情報のやり取りができる。
汎用的な力		
1. 全学DP８.意思疎通		英語で他者との意思疎通ができる。
2. 全学DP10.忠恕の心		ペア、グループワークにおいて、他者を尊重しながら、自らの役割を遂行することができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)

・問答法・コメントを求める

・eラーニング、反転授業

・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

・実習や実技に対して個別にコメントします

・実技・実習後、全体に向けてコメントします

・提出物にコメント・評価をつけて返却します

・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

授業へは原則としてすべて出席してください。何らかの事情で欠席する場合は、シラバスや授業内での配布資料を参照し、自学により内容を確認し、必要な課題に取り組むようにしてください。なお、資格・免許取得に必要な科目は、単位修得に必要な授業時間数が定められている場合がありますので、注意してください。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
小テスト	30 %	： 授業前課題や復習内容に関する小テストを実施し、点数で評価します。
授業前（外）課題（宿題）	10 %	： e-learning教材を使った授業前（外）課題の取り組み状況（実施時間、実施割合等）を評価します。
授業活動への積極的な参加	30 %	： 授業活動への積極的な参加、課題の提出状況を30点満点で評価します。
総復習テスト	10 %	： 授業および授業課題の理解度を測定する試験を実施し、点数で評価します。

中間発表　：　中間発表を、事前に示すルーブリックに従い１０点満点で評価します。

10　%

最終課題　：　授業の最後に行う最終発表を修正し提出したものを、事前に示すルーブリックに従い１０点満点で評価します。

10　%

使用教科書

指定する

著者	タイトル	出版社	出版年
株式会社リクルート	・スタディ　サプリ　TOEICベーシックコース	・株式会社リクルート	・　年
Garry Person他	・GLOBAL ISSUES (ISBN:9784791972258)	・成美堂	・2021　年

参考文献等

必要に応じて適宜授業で紹介します。

履修上の注意・備考・メッセージ

・本授業は主に国際観光学部および教育学部英語教育コースの１年生を対象とする英語集中プログラム（Intensive Course of English)の中の１科目です。対象コース以外の受講希望者は事前に教務課に相談してください。
・原則として毎回出席してください。規定回数以上の出席がなければ不可となります。
・必ず授業前課題に取り組んでから授業に参加するようにしてください。
・授業には、積極的・意欲的に取り組んでください。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：　1回目の授業で連絡します。

場所：　研究室、教室等

備考・注意事項：　非常勤講師担当のクラスについては、授業の前後の時間に、教室や非常勤講師室で、また講義日以外はEメールで質問を受け付けます。

授業計画

		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**オリエンテーション、コミュニケーションゲーム** ①オリエンテーション：授業概要、計画の確認、学習目標の設定、授業内外の学習課題の確認、成果測定のためのテストの形式・構成の理解。 ②アイスブレイキング活動：英語でのコミュニケーション活動を通して協働学習のための関係づくりをします。	①リスニング課題：Part Ⅰ 写真描写問題、語彙の確認、ディクテーション、シャドーイング	1時間
第2回	**リスニング演習：(TOEIC公式HPのサンプル問題)写真描写問題、学習法(1)：語彙学習法、言語活動TOPIC1(1) Brainstorming** ①小テスト：前回の学習内容および予習範囲について確認テストを行います。 ②リスニングテスト演習：写真描写問題(Part Ⅰ)：一部の語句だけでなく、全て聞き取ることで正しく聞き取り、理解する演習を行います。 ③学習法(1)語彙学習法：様々な語彙の学習法について演習形式で学び、効果的な語彙学習の方法を身につけます。 ④教科書を用いた言語活動：TOPIC1(1)　Brainstorming トピックについて知っている知識について話し合い、話されている（書かれている）内容を事前に想像した上で、英語を聞き取る（読み取る）演習を行います。	①リスニング課題：Part Ⅱ 対話応答問題、語彙の確認、ディクテーション、シャドーイング	1時間
第3回	**リスニング演習：(TOEIC公式HPのサンプル問題)応答問題、学習法(2)：　リスニング、スピーキング練習法、言語活動：TOPIC1(2) Understanding main ideas** ①小テスト：前回の学習内容および予習範囲について確認テストを行います。 ②リスニングテスト演習：対話応答問題(Part Ⅱ)：一部の語句だけでなく、全て聞き取ることで正しく聞き取り、相手の意図を理解した上で相応しい応答ができるようになるための演習を行います。 ③学習法(2) リスニング、スピーキング練習法：様々なリスニング、スピーキング練習法について演習形式で学び、効果的な練習方法を身につけます。 ④教科書を用いた言語活動：TOPIC1(2) Understanding main ideas 話されている（書かれている）内容の概要を理解する演習を行います。	①リスニング課題：Part Ⅱ Ⅰ会話聞き取り問題、語彙の確認、ディクテーション、シャドーイング	1時間
第4回	**リスニング演習：(TOEIC公式HPのサンプル問題)会話問題、学習法(3)　：到達目標設定、言語活動：TOPIC1(3) Understanding main ideas（前半）** ①小テスト：前回の学習内容および予習範囲について確認テストを行います。 ②リスニングテスト演習：会話問題(Part Ⅲ)：誰がどのような場面でどのようなトピックで話しているのかなど大まかな内容を聞き取る演習と、問題に応えるために必要な詳細情報の聞き取りの演習を行います。 ③学習法(3)　：学習目標設定 成果測定テスト（リスニングパート）について理解し、自分の到達目標、学習計画を立てます。 ④教科書を用いた言語活動：TOPIC1(3) Understanding main ideas（前半） 一文一文細かく解読しながら、話されている（書かれている）内容を理解する演習を行います。	①リスニング課題：(TOEIC公式HPのサンプル問題)Part Ⅳ説明文聞き取り問題、語彙の確認、ディクテーション、シャドーイング	1時間

第5回	**リスニング演習：会話問題、学習法(4) ：自主学習教材の確認、言語活動：TOPIC1(4) Understanding main ideas (後半)** ①小テスト：前回の学習内容および予習範囲について確認テストを行います。 ②リスニングテスト演習：説明文問題(Part IV)：話されているトピックと大まかな内容を聞き取る演習をした後、問題に応えるために必要な詳細情報の聞き取りの演習を行います。 ③学習法(4) ：自主学習教材の確認 自主学習教材の登録をします。授業の宿題として取り組む範囲、自主学習として取り組む範囲を確認し、計画的に学習を進めていきます。Part Iの問題に取り組みながら、使い方を確認します。 ④教科書を用いた言語活動：TOPIC1(4) Understanding main ideas (後半) 一文一文細かく解読しながら、話されている（書かれている）内容を理解する演習を行います。	①リスニング課題：自主学習アプリ（スタディサプリ）Part I例題２、例題３（聞き取り問題、語彙の確認、ディクテーション、シャドーイング） ②語彙学習：自主学習アプリ100-200語	1時間
第6回	**リスニング演習：写真描写問題、単語学習、言語活動：TOPIC1(5) Summary Report** ①小テスト：前回の学習内容および予習範囲について確認テストを行います。 ②リスニングテスト演習：写真描写問題(Part I)：一部の語句だけでなく、全て聞き取ることで正しく聞き取り、理解する演習を行います。 ③単語学習 ：宿題の範囲の語彙の理解度の確認とその語彙を使ったペアワークで語彙を使用する力をつけます。 ④教科書を用いた言語活動：TOPIC1(5) Summary Report 理解した話されている（書かれている）内容を自分の言葉まとめて伝える演習、またそれについての自分の考えを簡単に述べる演習を行います。	①リスニング課題：自主学習アプリ（スタディサプリPart II例題２、例題３（聞き取り問題、語彙の確認、ディクテーション、シャドーイング） ②語彙学習：自主学習アプリ201-250語 ③中間発表（ライティング）練習	1時間
第7回	**リスニング演習：対話応答問題、単語学習、言語活動：TOPIC1(6)中間発表** ①小テスト：前回の学習内容および予習範囲について確認テストを行います。 ②リスニングテスト演習：対話応答問題(Part II)：一部の語句だけでなく、全て聞き取ることで正しく聞き取り、相手の意図を理解した上で相応しい応答ができるようになるための演習を行います。 ③単語学習 ：宿題の範囲の語彙の理解度の確認とその語彙を使ったペアワークで語彙を使用する力をつけます。 ④教科書を用いた言語活動：中間発表 指定された時間内で、ここまで聞いたり、読んだりしたTOPICについて、自分の考えたことを100-150語程度の英語で書いてもらいます。読み手に理解してもらうために必要な情報(5W1Hに関する情報）を全て含んでいることを重視します。	①リスニング課題：自主学習アプリ（スタディサプリPart III例題1（聞き取り問題、語彙の確認、ディクテーション、シャドーイング） ②語彙学習：自主学習アプリ251-300語	1時間
第8回	**リスニング演習：会話問題、単語学習、言語活動：TOPIC3(1) Brainstorming** ①小テスト：前回の学習内容および予習範囲について確認テストを行います。 ②リスニングテスト演習：会話問題(Part III)：誰がどのような場面でどのようなトピックで話しているのかなど大まかな内容を聞き取る演習と、問題に応えるために必要な詳細情報の聞き取りの演習を行います。 ③単語学習 ：宿題の範囲の語彙の理解度の確認とその語彙を使ったペアワークで語彙を使用する力をつけます。 ④教科書を用いた言語活動：TOPIC3(1) Brainstorming トピックについて知っている知識について話し合い、話されている（書かれている）内容を事前に想像した上で、英語を聞き取る（読み取る）演習を行います。	①リスニング課題：自主学習アプリ（スタディサプリPart III例題２（聞き取り問題、語彙の確認、ディクテーション、シャドーイング） ②語彙学習：自主学習アプリ301-350語	1時間
第9回	**リスニング演習：会話文問題、単語学習、言語活動：TOPIC3(2) Understanding main ideas** ①小テスト：前回の学習内容および予習範囲について確認テストを行います。 ②リスニングテスト演習：会話問題(Part III)：誰がどのような場面でどのようなトピックで話しているのかなど大まかな内容を聞き取る演習と、問題に応えるために必要な詳細情報の聞き取りの演習を行います。 ③単語学習 ：宿題の範囲の語彙の理解度の確認とその語彙を使ったペアワークで語彙を使用する力をつけます。 ④教科書を用いた言語活動：TOPIC3(2) Understanding main ideas 話されている（書かれている）内容の概要を理解する演習を行います。	①リスニング課題：自主学習アプリ（スタディサプリPart III例題３（聞き取り問題、語彙の確認、ディクテーション、シャドーイング） ②語彙学習：自主学習アプリ351-400語	1時間
第10回	**リスニング演習：会話文問題、単語学習、言語活動：TOPIC3(3) Understanding main ideas (前半)**	①リスニング課題：自主学習アプリ（スタディサプリPart IV例題１（聞き取り問題、語彙の確認、ディクテーション、シャドーイング） ②語彙学習：自主学習アプリ401-450語	1時間

	①小テスト：前回の学習内容および予習範囲について確認テストを行います。 ②リスニングテスト演習：会話問題(Part III)：誰がどのような場面でどのようなトピックで話しているのかなど大まかな内容を聞き取る演習と、問題に応えるために必要な詳細情報の聞き取りの演習を行います。 ③単語学習　：宿題の範囲の語彙の理解度の確認とその語彙を使ったペアワークで語彙を使用する力をつけます。 ④教科書を用いた言語活動：TOPIC3(3) Understanding main ideas（前半） 一文一文細かく解読しながら、話されている（書かれている）内容を理解する演習を行います。		
第11回	**リスニング演習：説明文問題、単語学習、言語活動：TOPIC3(4) Understanding main ideas（後半）** ①小テスト：前回の学習内容および予習範囲について確認テストを行います。 ②リスニングテスト演習：説明文問題(Part IV)：話されているトピックと大まかな内容を聞き取る演習をした後、問題に応えるために必要な詳細情報の聞き取りの演習を行います。 ③単語学習　：宿題の範囲の語彙の理解度の確認とその語彙を使ったペアワークで語彙を使用する力をつけます。 ④教科書を用いた言語活動：TOPIC3(4) Understanding main ideas（後半） 一文一文細かく解読しながら、話されている（書かれている）内容を理解する演習を行います。	①リスニング課題：自主学習アプリPart IV例題２（聞き取り問題、語彙の確認、ディクテーション、シャドーイング）　②語彙学習：自主学習アプリ451-500語	1時間
第12回	**リスニング演習：説明文問題、単語学習、言語活動：TOPIC3(5) Summary Report** ①小テスト：前回の学習内容および予習範囲について確認テストを行います。 ②リスニングテスト演習：説明文問題(Part IV)：話されているトピックと大まかな内容を聞き取る演習をした後、問題に応えるために必要な詳細情報の聞き取りの演習を行います。 ③単語学習　：宿題の範囲の語彙の理解度の確認とその語彙を使ったペアワークで語彙を使用する力をつけます。 ④教科書を用いた言語活動：TOPIC3(5) Summary Report 理解した話されている（書かれている）内容を自分の言葉まとめて伝える演習、またそれについての自分の考えを簡単に述べる演習を行います。	①リスニング課題：自主学習アプリ（スタディサプリPart IV例題３（聞き取り問題、語彙の確認、ディクテーション、シャドーイング）　②語彙学習：自主学習アプリ501-550語	1時間
第13回	**リスニング演習：説明文問題、単語学習、言語活動：TOPIC3(6)最終発表準備** ①小テスト：前回の学習内容および予習範囲について確認テストを行います。 ②リスニングテスト演習：説明文問題(Part IV)：話されているトピックと大まかな内容を聞き取る演習をした後、問題に応えるために必要な詳細情報の聞き取りの演習を行います。 ③単語学習　：宿題の範囲の語彙の理解度の確認とその語彙を使ったペアワークで語彙を使用する力をつけます。 ④教科書を用いた言語活動：最終発表準備 ここまで聞いたり、読んだりしたTOPICについて、自分の考えたことを一人1分程度の英語で口頭発表をする準備をします。	①総復習テストのための学習 ②最終発表の練習	1時間
第14回	**総復習、最終発表** ①総復習テスト(30分程度)　：成果確認テスト（リスニングパート）と同じ形式でのミニテストを実施し、英語力の伸びを測定します。 ②教科書を用いた言語活動：発表 ここまで聞いたり、読んだりしたTOPICについて、自分の考えたことを一人1分程度の英語で口頭発表します。 授業でのピアフィードバックをもとに内容を修正し録画したものを最終課題として提出してください。動画録画の際には、原稿を読み上げてはいけません。	①最終課題の動画作成	1時間
			0時間

112

授業科目名	英語表現Ⅳ				
担当教員名	佐々木緑・工藤律子・天羽美帆・樫本英之				
学年・コース等	1年	開講期間	後期	単位数	1
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の概要					

授業概要

本授業は、英語集中プログラム(Intensive Course of English)の１科目です。英語集中プログラムでは学期中に２つの授業(前期：英語表現Ⅲと総合英語A、後期：英語表現Ⅳと総合英語B) および集中講座２つ（夏期：総合英語C、春期：総合英語D)を連動させ、授業内外での徹底した学習を重ねることで、TOEIC(500-550点) などの英語試験にも対応できる力を培うことを目的としています。本授業では、語彙力および英語のリスニング力向上に重点を置きながら、英語で読んだり聞いたりした内容を要約し英語で伝えることができる力、自分の考えを英語でまとめて伝えることができる力を養成します。授業中にはペアやグループでの活動を積極的に取り入れ、協働学習による目標達成への連帯感と動機付けを図ります。様々な学習活動に取り組むことによって、英語学修の意義や楽しさに気づき、自律的な学習態度の基礎を確立できるよう授業を展開します。また、AIやアプリなどを使った様々な英語学習法を紹介するとともに、授業内外の課題としてe-learning学習に取り組むことで、自主学習の習慣を身につけ、英語力の向上を図ります。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. 全学DP１.幅広い教養やスキル	英語運用能力を強化する。	英語で情報のやり取りができる。
汎用的な力		
1. 全学DP８.意思疎通		英語で他者との意思疎通ができる。
2. 全学DP10.忠恕の心		ペア、グループワークにおいて、他者を尊重しながら、自らの役割を遂行することができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)

・問答法・コメントを求める

・eラーニング、反転授業

・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

・実習や実技に対して個別にコメントします

・実技・実習後、全体に向けてコメントします

・提出物にコメント・評価をつけて返却します

・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

授業へは原則としてすべて出席してください。何らかの事情で欠席する場合は、シラバスや授業内での配布資料を参照し、自学により内容を確認し、必要な課題に取り組むようにしてください。なお、資格・免許取得に必要な科目は、単位修得に必要な授業時間数が定められている場合がありますので、注意してください。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
小テスト	30 %	： 授業前課題や復習内容に関する小テストを実施し、点数で評価します。
授業前（外）課題（宿題）	10 %	： e-learning教材を使った授業前（外）課題の取り組み状況（実施時間、実施割合等）を評価します。
授業活動への積極的な参加	30 %	： 授業活動への積極的な参加、課題の提出状況を30点満点で評価します。
総復習テスト	10 %	： 授業および授業課題の理解度を測定する試験を実施し、点数で評価します。

中間発表 : 中間発表を、事前に示すルーブリックに従い１０点満点で評価します。

10 %

最終課題 : 授業の最後に行う最終発表を修正し提出したものを、事前に示すルーブリックに従い１０点満点で評価します。

10 %

使用教科書

指定する

著者	タイトル	出版社	出版年
株式会社リクルート	・スタディ サプリ TOEICベーシックコース	・株式会社リクルート	・ 年
Garry Person他	・GLOBAL ISSUES (ISBN:9784791972258)	・成美堂	・2021 年

参考文献等

必要に応じて適宜授業で紹介します。

履修上の注意・備考・メッセージ

・本授業は主に国際観光学部および教育学部英語教育コースの１年生を対象とする英語集中プログラム（Intensive Course of English)の中の１科目です。対象コース以外の受講希望者は事前に教務課に相談してください。
・原則として毎回出席してください。規定回数以上の出席がなければ不可となります。
・必ず授業前課題に取り組んでから授業に参加するようにしてください。
・授業には、積極的・意欲的に取り組んでください。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 1回目の授業で連絡します。

場所： 研究室、教室等

備考・注意事項： 非常勤講師担当のクラスについては、授業の前後の時間に、教室や非常勤講師室で、また講義日以外はEメールで質問を受け付けます。

授業計画

		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**オリエンテーション、リスニング演習：写真描写問題、単語学習** ①オリエンテーション：授業概要、計画の確認、全学期の振り返りと学習目標の設定、授業内外の学習課題の確認、暗唱大会の説明（概要、スケジュール）。 ②リスニングテスト演習：写真描写問題(Part I)：一部の語句だけでなく、全て聞き取ることで正しく聞き取り、理解する演習を行います。 ③単語学習 ：自主学習アプリ551-600の範囲の語彙の理解度の確認とその語彙を使ったペアワークで語彙を使用する力をつけます。	①リスニング課題：自主学習アプリ（スタディサプリ）Part I例題4、例題5（聞き取り問題、語彙の確認、ディクテーション、シャドーイング） ②語彙学習：自主学習アプリ601-650語	1時間
第2回	**リスニング演習：写真描写問題、単語学習、暗唱：モデル音声とメッセージ** ①小テスト：前回の学習内容および予習範囲について確認テストを行います。 ②リスニングテスト演習：写真描写問題(Part I)：一部の語句だけでなく、全て聞き取ることで正しく聞き取り、理解する演習を行います。 ③単語学習 ：宿題の範囲の語彙の理解度の確認とその語彙を使ったペアワークで語彙を使用する力をつけます。 ④暗唱：モデルの音声を聞いて、スピーチのメッセージを理解します。	①リスニング課題：自主学習アプリ（スタディサプリ）Part II例題３、例題4、例題5（聞き取り問題、語彙の確認、ディクテーション、シャドーイング） ②語彙学習：自主学習アプリ651-700語	1時間
第3回	**リスニング演習：応答問題、単語学習、暗唱：発音法確認** ①小テスト：前回の学習内容および予習範囲について確認テストを行います。 ②リスニングテスト演習：対話応答問題(Part II)：一部の語句だけでなく、全て聞き取ることで正しく聞き取り、相手の意図を理解した上で相応しい応答ができるようになるための演習を行います。 ③単語学習 ：宿題の範囲の語彙の理解度の確認とその語彙を使ったペアワークで語彙を使用する力をつけます。 ④暗唱：単語が繋がって起きる音声変化について理解します。また、スピーカーの意図を理解して、モデルの音声を聞きながらポーズの取り方、アクセントの付け方、イントネーションの変化のさせ方について理解します。	①リスニング課題：自主学習アプリ（スタディサプリ）Part III例題4（聞き取り問題、語彙の確認、ディクテーション、シャドーイング） ②語彙学習：自主学習アプリ701-750語	1時間
第4回	**リスニング演習：会話問題、単語学習、暗唱：発音演習**	①リスニング課題：自主学習アプリ（スタディサプリ）Part III例題5（聞き取り問題、語彙の確認、ディクテーション、シャドーイング） ②語彙学習：自主学習アプリ751-800語	1時間

	①小テスト：前回の学習内容および予習範囲について確認テストを行います。 ②リスニングテスト演習：会話問題(Part III)：誰がどのような場面でどのようなトピックで話しているのかなど大まかな内容を聞き取る演習と、問題に応えるために必要な詳細情報の聞き取りの演習を行います。 ③単語学習　：宿題の範囲の語彙の理解度の確認とその語彙を使ったペアワークで語彙を使用する力をつけます。 ④暗唱：音声変化および、スピーカーの意図を理解して、モデルの音声を聞きながらポーズの取り方、アクセントの付け方、イントネーションの変化のさせ方を気をつけながら、発音練習をします。		
第5回	**リスニング演習：会話問題、単語学習、暗唱：発表準備** ①小テスト：前回の学習内容および予習範囲について確認テストを行います。 ②リスニングテスト演習：会話問題(Part III)：誰がどのような場面でどのようなトピックで話しているのかなど大まかな内容を聞き取る演習と、問題に応えるために必要な詳細情報の聞き取りの演習を行います。 ③単語学習　：宿題の範囲の語彙の理解度の確認とその語彙を使ったペアワークで語彙を使用する力をつけます。 ④暗唱：発表に向けての練習をします。	①リスニング課題：自主学習アプリ（スタディサプリ）Part III例題6（聞き取り問題、語彙の確認、ディクテーション、シャドーイング）　②語彙学習：自主学習アプリ801-850語 ③暗唱発表の練習	1時間
第6回	**リスニング演習：会話問題、単語学習、暗唱：発表** ①小テスト：前回の学習内容および予習範囲について確認テストを行います。 ②リスニングテスト演習：会話問題(Part III)：誰がどのような場面でどのようなトピックで話しているのかなど大まかな内容を聞き取る演習と、問題に応えるために必要な詳細情報の聞き取りの演習を行います。 ③単語学習　：宿題の範囲の語彙の理解度の確認とその語彙を使ったペアワークで語彙を使用する力をつけます。 ④暗唱：発表をし（ビデ）フィードバックをもとに修正し、練習します。	①リスニング課題：自主学習アプリPart III例題7（聞き取り問題、語彙の確認、ディクテーション、シャドーイング）　②語彙学習：自主学習アプリ851-900語 ③暗唱発表の練習	1時間
第7回	**リスニング演習：会話問題、単語学習、暗唱：発表録画** ①小テスト：前回の学習内容および予習範囲について確認テストを行います。 ②リスニングテスト演習：会話問題(Part III)：誰がどのような場面でどのようなトピックで話しているのかなど大まかな内容を聞き取る演習と、問題に応えるために必要な詳細情報の聞き取りの演習を行います。 ③単語学習　：宿題の範囲の語彙の理解度の確認とその語彙を使ったペアワークで語彙を使用する力をつけます。 ④暗唱：前回行った発表を、さらに良いものにして発表し、録画して提出します。	①リスニング課題：自主学習アプリ（スタディサプリ）Part III例題8（聞き取り問題、語彙の確認、ディクテーション、シャドーイング）　②語彙学習：自主学習アプリ901-950語	1時間
第8回	**リスニング演習：会話問題、単語学習、言語活動：TOPIC5(1)　Brainstorming** ①小テスト：前回の学習内容および予習範囲について確認テストを行います。 ②リスニングテスト演習：会話問題(Part III)：誰がどのような場面でどのようなトピックで話しているのかなど大まかな内容を聞き取る演習と、問題に応えるために必要な詳細情報の聞き取りの演習を行います。 ③単語学習　：宿題の範囲の語彙の理解度の確認とその語彙を使ったペアワークで語彙を使用する力をつけます。 ④教科書を用いた言語活動：TOPIC5(1)　Brainstorming トピックについて知っている知識について話し合い、話されている（書かれている）内容を事前に想像した上で、英語を聞き取る（読み取る）演習を行います。	①リスニング課題：自主学習アプリ（スタディサプリ）Part IV例題4（聞き取り問題、語彙の確認、ディクテーション、シャドーイング）　②語彙学習：自主学習アプリ951-1000語	1時間
第9回	**リスニング演習：説明文問題、単語学習、言語活動：TOPIC５(2) Understanding main ideas** ①小テスト：前回の学習内容および予習範囲について確認テストを行います。 ②リスニングテスト演習：説明文問題(Part IV)：話されているトピックと大まかな内容を聞き取る演習をした後、問題に応えるために必要な詳細情報の聞き取りの演習を行います。 ③単語学習　：宿題の範囲の語彙の理解度の確認とその語彙を使ったペアワークで語彙を使用する力をつけます。 ④教科書を用いた言語活動：TOPIC5(2) Understanding main ideas 話されている（書かれている）内容の概要を理解する演習を行います。	①リスニング課題：自主学習アプリ（スタディサプリ）Part IV例題5（聞き取り問題、語彙の確認、ディクテーション、シャドーイング）　②語彙学習：自主学習アプリ1001-1050語	1時間
第10回	**リスニング演習：説明文問題、単語学習、言語活動：TOPIC5(3) Understanding main ideas（前半）**	①リスニング課題：自主学習アプリ（スタディサプリ）Part IV例題6（聞き取り問題、語彙の確認、ディクテーション、シャドーイング）　②語彙学習：自主学習アプリ1051-1100語	1時間

	①小テスト：前回の学習内容および予習範囲について確認テストを行います。 ②リスニングテスト演習：説明文問題(Part IV)：話されているトピックと大まかな内容を聞き取る演習をした後、問題に応えるために必要な詳細情報の聞き取りの演習を行います。 ③単語学習　：宿題の範囲の語彙の理解度の確認とその語彙を使ったペアワークで語彙を使用する力をつけます。 ④教科書を用いた言語活動：TOPIC5(3) Understanding main ideas（前半） 一文一文細かく解読しながら、話されている（書かれている）内容を理解する演習を行います。		
第11回	**リスニング演習：説明文問題、単語学習、言語活動：TOPIC5(4) Understanding main ideas（後半）** ①小テスト：前回の学習内容および予習範囲について確認テストを行います。 ②リスニングテスト演習：説明文問題(Part IV)：話されているトピックと大まかな内容を聞き取る演習をした後、問題に応えるために必要な詳細情報の聞き取りの演習を行います。 ③単語学習　：宿題の範囲の語彙の理解度の確認とその語彙を使ったペアワークで語彙を使用する力をつけます。 ④教科書を用いた言語活動：TOPIC3(4) Understanding main ideas（後半） 一文一文細かく解読しながら、話されている（書かれている）内容を理解する演習を行います。	①リスニング課題：自主学習アプリ（スタディサプリ）Part IV例題7（聞き取り問題、語彙の確認、ディクテーション、シャドーイング）　②語彙学習：自主学習アプリ1101-1150語	1時間
第12回	**リスニング演習：説明文問題、単語学習、言語活動：TOPIC5(5) Summary Report** ①小テスト：前回の学習内容および予習範囲について確認テストを行います。 ②リスニングテスト演習：説明文問題(Part IV)：話されているトピックと大まかな内容を聞き取る演習をした後、問題に応えるために必要な詳細情報の聞き取りの演習を行います。 ③単語学習　：宿題の範囲の語彙の理解度の確認とその語彙を使ったペアワークで語彙を使用する力をつけます。 ④教科書を用いた言語活動：TOPIC5(5) Summary Report 理解した話されている（書かれている）内容を自分の言葉まとめて伝える演習、またそれについての自分の考えを簡単に述べる演習を行います。	①リスニング課題：自主学習アプリ（スタディサプリ）Part IV例題8（聞き取り問題、語彙の確認、ディクテーション、シャドーイング）　②語彙学習：自主学習アプリ1151-1210語（聞き取り問題、語彙の確認、ディクテーション、シャドーイング）　②語彙学習：自主学習アプリ501-550語	1時間
第13回	**リスニング演習：説明文問題、単語学習、言語活動：TOPIC5(6)最終発表準備** ①小テスト：前回の学習内容および予習範囲について確認テストを行います。 ②リスニングテスト演習：説明文問題(Part IV)：話されているトピックと大まかな内容を聞き取る演習をした後、問題に応えるために必要な詳細情報の聞き取りの演習を行います。 ③単語学習　：宿題の範囲の語彙の理解度の確認とその語彙を使ったペアワークで語彙を使用する力をつけます。 ④教科書を用いた言語活動：最終発表 ここまで聞いたり、読んだりしたTOPICについて、自分の考えたことを一人1分程度の英語で口頭発表をする準備をします。	①総復習テストのための学習 ②最終発表（ライティング）の練習	1時間
第14回	**総復習、最終発表** ①総復習テスト(30分程度)　：成果確認テスト（リスニングパート）と同じ形式でのミニテストを実施し、英語力の伸びを測定します。 ②教科書を用いた言語活動：最終発表 指定された時間内で、ここまで聞いたり、読んだりしたTOPICについて、自分の考えたことを200-２50語程度の英語で書いてもらいます。TOPICの要点をまとめた上で、自分の考えたことについてその根拠を論理的に示しながら書けることを重視します。	①最終発表を自分で添削したのもを提出	1時間
			0時間

113

授業科目名	**総合英語Ａ**				
担当教員名	**坂井純子・麻畠徳子・工藤律子**				
学年・コース等	1年	開講期間	前期	単位数	1
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の概要					

授業概要

本授業は、英語集中プログラム(Intensive Course of English)の１科目です。英語集中プログラムでは学期中に２つの授業(前期：英語表現Ⅲと総合英語A、後期：英語表現Ⅳと総合英語B) および集中講座２つ（夏期：総合英語C、春期：総合英語D)を連動させ、授業内外での徹底した学習を重ねることで、TOEIC(500-550点) などの英語試験にも対応できる力を培うことを目的としています。本授業では、文法および英語のリーディング力向上に重点を置きながら、英語で読んだり聞いたりした内容を要約し英語で伝えることができる力、自分の考えを英語でまとめて伝えることができる力を養成します。授業中にはペアやグループでの活動を積極的に取り入れ、協働学習による目標達成への連帯感と動機付けを図ります。様々な学習活動に取り組むことによって、英語学修の意義や楽しさに気づき、自律的な学習態度の基礎を確立できるよう授業を展開します。また、AIやアプリなどを使った様々な英語学習法を紹介するとともに、授業内外の課題としてe-learning学習に取り組むことで、自主学習の習慣を身につけ、英語力の向上を図ります。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. 全学DP１.幅広い教養やスキル	英語運用能力を強化する。	英語で情報のやり取りができる。
汎用的な力		
1. 全学DP８.意思疎通		英語で他者との意思疎通ができる。
2. 全学DP10.忠恕の心		ペア、グループワークにおいて、他者を尊重しながら、自らの役割を遂行することができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)

・問答法・コメントを求める

・eラーニング、反転授業

・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

・実習や実技に対して個別にコメントします

・実技・実習後、全体に向けてコメントします

・提出物にコメント・評価をつけて返却します

・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

授業へは原則としてすべて出席してください。何らかの事情で欠席する場合は、シラバスや授業内での配布資料を参照し、自学により内容を確認し、必要な課題に取り組むようにしてください。なお、資格・免許取得に必要な科目は、単位修得に必要な授業時間数が定められている場合がありますので、注意してください。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
小テスト	30 %	： 授業前課題や復習内容に関する小テストを実施し、点数で評価します。
授業前（外）課題（宿題）	10 %	： e-learning教材を使った授業前（外）課題の取り組み状況（実施時間、実施割合等）を評価します。
授業活動への積極的な参加	30 %	： 授業活動への積極的な参加、課題の提出状況を30点満点で評価します。
総復習テスト	10 %	： 授業および授業課題の理解度を測定する試験を実施し、点数で評価します。

中間発表　：　中間発表を、事前に示すルーブリックに従い１０点満点で評価します。

10　%

最終課題　：　授業の最後に行う最終発表を修正し提出したものを、事前に示すルーブリックに従い１０点満点で評価します。

10　%

使用教科書

指定する

著者	タイトル	出版社	出版年
株式会社リクルート	・スタディ　サプリ　TOEICベーシックコース	・株式会社リクルート	・　年
Garry Person他	・GLOBAL ISSUES (ISBN:9784791972258)	・成美堂	・2021　年

参考文献等

必要に応じて適宜授業で紹介します。

履修上の注意・備考・メッセージ

・本授業は主に国際観光学部および教育学部英語教育コースの１年生を対象とする英語集中プログラム（Intensive Course of English)の中の１科目です。対象コース以外の受講希望者は事前に教務課に相談してください。
・原則として毎回出席してください。規定回数以上の出席がなければ不可となります。
・必ず授業前課題に取り組んでから授業に参加するようにしてください。
・授業には、積極的・意欲的に取り組んでください。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：　1回目の授業で連絡します。

場所：　研究室、教室等

備考・注意事項：　非常勤講師担当のクラスについては、授業の前後の時間に、教室や非常勤講師室で、また講義日以外はEメールで質問を受け付けます。

授業計画

		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**オリエンテーション、コミュニケーションゲーム** ①オリエンテーション：授業概要、計画の確認、学習目標の設定、授業内外の学習課題の確認、成果測定のためのテストの形式・構成の理解。 ②アイスブレイキング活動：英語でのコミュニケーション活動を通して協働学習のための関係づくりをします。	①文法問題課題：(TOEIC公式HPのサンプル問題)文法問題(Part V)、語彙確認、文法の確認	1時間
第2回	**文法本題演習、学習法(1)：文法学習法、言語活動 TOPIC2(1)　Brainstorming** ①小テスト：前回の学習内容および予習範囲について確認テストを行います。 ②文法テスト演習：空所に埋めるだけなく、語の意味、文全体の構造を理解し、正しい文が作れるための演習を行います。 ③学習法(1)文法学習法：様々な文法の学習法について演習形式で学び、効果的な語彙学習の方法を身につけます。 ④教科書を用いた言語活動：TOPIC2(1)　Brainstorming トピックについて知っている知識について話し合い、話されている（書かれている）内容を事前に想像した上で、英語を聞き取る（読み取る）演習を行います。	①リーディング課題：(TOEIC公式HPのサンプル問題)短文書読解問題(Part IV)、精読、語彙、文法確認	1時間
第3回	**リーディング演習：短文、学習法(2)：　リーディング、ライティング練習法、言語活動：TOPIC2(2) Understanding main ideas** ①小テスト：前回の学習内容および予習範囲について確認テストを行います。 ②リーディングテスト演習：比較的短い文書を語の意味、文の構造をしっかり理解しながら精読していく力を身につけます。 ③学習法(2) リーディング、ライティング練習法：様々なリーディング、ライティング練習法について演習形式で学び、効果的な練習方法を身につけます。 ④教科書を用いた言語活動：TOPIC2(2) Understanding main ideas 話されている（書かれている）内容の概要を理解する演習を行います。	①リーディング課題：(TOEIC公式HPのサンプル問題)単文書読解問題(Part V-1)、精読、語彙、文法確認	1時間
第4回	**リーディング演習：単文書、学習法(3)　：到達目標設定、言語活動：TOPIC2(3) Understanding main ideas（前半）** ①小テスト：前回の学習内容および予習範囲について確認テストを行います。 ②リーディングテスト演習：文書を語の意味、文の構造をしっかり理解しながら精読していく力を身につけます。またスキミング（重要なポイントを理解する）、スキャニング（必要な情報を探しながら読む）などの演習も行います。 ③学習法(3)　：学習目標設定 成果測定テスト(リーディングパート）について理解し、自分の到達目標、学習計画を立てます。 ④教科書を用いた言語活動：TOPIC2(3) Understanding main ideas（前半） 一文一文細かく解読しながら、話されている（書かれている）内容を理解する演習を行います。	①リーディング課題：(TOEIC公式HPのサンプル問題)複数文書読解問題(Part V-2)、精読、語彙、文法確認	1時間

第5回	**リーディング演習：複文書、学習法(4) ：自主学習教材の確認、言語活動：TOPIC2(4) Understanding main ideas (後半)** ①小テスト：前回の学習内容および予習範囲について確認テストを行います。 ②リーディングテスト演習：文書を語の意味、文の構造をしっかり理解しながら精読していく力を身につけます。複数の文書にまたがって関連している箇所を見つけ出し、その情報を統合して直接書かれていないことも理解できるようになる演習を行います。 ③学習法(4) ：自主学習教材の確認 自主学習教材の登録をします。授業の宿題として取り組む範囲、自主学習として取り組む範囲を確認し、計画的に学習を進めていきます。Part Iの問題に取り組みながら、使い方を確認します。 ④教科書を用いた言語活動：TOPIC2(4) Understanding main ideas (後半) 一文一文細かく解読しながら、話されている（書かれている）内容を理解する演習を行います。	①リーディング課題：自主学習アプリ（スタディサプリ）PartV 例題5,6,7,8,9（語彙確認、文法の確認） ②文法学習：自主学習アプリ「名詞」	1時間
第6回	**文法問題演習、文法学習：名詞、言語活動：TOPIC2(5) Summary Report** ①小テスト：前回の学習内容および予習範囲について確認テストを行います。 ②文法テスト演習：文法テスト演習：空所に埋めるだけなく、語の意味、文全体の構造を理解し、正しい文が作れるための演習を行います。 ③文法学習 ：宿題で復習してきた文法項目について、その使用法を理解し、文の中で正しく使えるようになるためのペアワークを行います。 ④教科書を用いた言語活動：TOPIC2(5) Summary Report 理解した話されている（書かれている）内容を自分の言葉まとめて伝える演習、またそれについての自分の考えを簡単に述べる演習を行います。	①リーディング課題：自主学習アプリ（スタディサプリ）PartV 例題10,11,12,13,14（語彙確認、文法の確認） ②文法学習：自主学習アプリ「形容詞」 ③中間発表（ライティング）練習	1時間
第7回	**文法問題演習、文法学習：形容詞、言語活動：TOPIC2(6) 中間発表** ①小テスト：前回の学習内容および予習範囲について確認テストを行います。 ②文法テスト演習：空所に埋めるだけなく、語の意味、文全体の構造を理解し、正しい文が作れるための演習を行います。 ③文法学習 ：宿題で復習してきた文法項目について、その使用法を理解し、文の中で正しく使えるようになるためのペアワークを行います。 ④教科書を用いた言語活動：中間発表 指定された時間内で、ここまで聞いたり、読んだりしたTOPICについて、自分の考えたことを100-150語程度の英語で書いてもらいます。読み手に理解してもらうために必要な情報(5W1Hに関する情報）を全て含んでいることを重視します。	①リーディング課題：自主学習アプリ（スタディサプリ）PartVI 例題1（読解問題、精読、語彙確認、文法の確認） ②文法学習：自主学習アプリ「副詞」	1時間
第8回	**リーディング問題演習：短文、文法学習：副詞、言語活動：TOPIC4(1) Brainstorming** ①小テスト：前回の学習内容および予習範囲について確認テストを行います。 ②リーディングテスト演習：比較的短い文書を語の意味、文の構造をしっかり理解しながら精読していく力を身につけます。 ③文法学習 ：宿題で復習してきた文法項目について、その使用法を理解し、文の中で正しく使えるようになるためのペアワークを行います。 ④教科書を用いた言語活動：TOPIC4(1) Brainstorming トピックについて知っている知識について話し合い、話されている（書かれている）内容を事前に想像した上で、英語を聞き取る（読み取る）演習を行います	①リーディング課題：自主学習アプリ（スタディサプリ）PartVI 演習1-3（読解問題、精読、語彙確認、文法の確認） ②文法学習：自主学習アプリ「前置詞」	1時間
第9回	**リーディング問題演習：短文、文法学習：前置詞、言語活動：TOPIC4(2) Understanding main ideas** ①小テスト：前回の学習内容および予習範囲について確認テストを行います。 ②リーディングテスト演習：比較的短い文書を語の意味、文の構造をしっかり理解しながら精読していく力を身につけます。 ③文法学習 ：宿題で復習してきた文法項目について、その使用法を理解し、文の中で正しく使えるようになるためのペアワークを行います。 ④教科書を用いた言語活動：TOPIC4(2) Understanding main ideas 話されている（書かれている）内容の概要を理解する演習を行います。	①リーディング課題：自主学習アプリ（スタディサプリ）PartVI 演習2-1（読解問題、精読、語彙確認、文法の確認） ②文法学習：自主学習アプリ「接続詞」	1時間
第10回	**リーディング問題演習：短文、文法学習：接続詞、言語活動：TOPIC4(3) Understanding main ideas（前半）**	①リーディング課題：自主学習アプリ（スタディサプリ）PartVI 演習2-3（読解問題、精読、語彙確認、文法の確認） ②文法学習：自主学習アプリ「動詞①」	1時間

	①小テスト：前回の学習内容および予習範囲について確認テストを行います。 ②リーディングテスト演習：比較的短い文書を語の意味、文の構造をしっかり理解しながら精読していく力を身につけます。 ③文法学習　：宿題で復習してきた文法項目について、その使用法を理解し、文の中で正しく使えるようになるためのペアワークを行います。 ④教科書を用いた言語活動：TOPIC4(3) Understanding main ideas（前半） 一文一文細かく解読しながら、話されている（書かれている）内容を理解する演習を行います。		
第11回	**リーディング問題演習：短文、文法学習：動詞①、、言語活動：TOPIC4(4) Understanding main ideas（後半）** ①小テスト：前回の学習内容および予習範囲について確認テストを行います。 ②リーディングテスト演習：比較的短い文書を語の意味、文の構造をしっかり理解しながら精読していく力を身につけます。 ③文法学習　：宿題で復習してきた文法項目について、その使用法を理解し、文の中で正しく使えるようになるためのペアワークを行います。 ④教科書を用いた言語活動：TOPIC4(4) Understanding main ideas（後半） 一文一文細かく解読しながら、話されている（書かれている）内容を理解する演習を行います。	①リーディング課題：自主学習アプリ（スタディサプリ）PartVII 例題１（読解問題、精読、語彙確認、文法の確認）　②文法学習：自主学習アプリ「動詞②」	1時間
第12回	**リーディング問題演習：単文書、文法学習：動詞②、、言語活動：TOPIC４(5) Summary Report** ①小テスト：前回の学習内容および予習範囲について確認テストを行います。 ②リーディングテスト演習：文書を語の意味、文の構造をしっかり理解しながら精読していく力を身につけます。またスキミング（重要なポイントを理解する）、スキャニング（必要な情報を探しながら読む）などの演習も行います。 ③文法学習　：宿題で復習してきた文法項目について、その使用法を理解し、文の中で正しく使えるようになるためのペアワークを行います。 ④教科書を用いた言語活動：TOPIC4(5) Summary Report 理解した話されている（書かれている）内容を自分の言葉まとめて伝える演習、またそれについての自分の考えを簡単に述べる演習を行います。	①リーディング課題：自主学習アプリ（スタディサプリ）PartVII 演習１-2（読解問題、精読、語彙確認、文法の確認）　②文法学習：自主学習アプリ「時制①」	1時間
第13回	**リーディング問題演習：単文書、文法学習：時制①、言語活動：TOPIC4(6)最終発表準備** ①小テスト：前回の学習内容および予習範囲について確認テストを行います。 ②リーディングテスト演習：文書を語の意味、文の構造をしっかり理解しながら精読していく力を身につけます。またスキミング（重要なポイントを理解する）、スキャニング（必要な情報を探しながら読む）などの演習も行います。 ③文法学習　：宿題で復習してきた文法項目について、その使用法を理解し、文の中で正しく使えるようになるためのペアワークを行います。 ④教科書を用いた言語活動：最終発表 ここまで聞いたり、読んだりしたTOPICについて、自分の考えたことを一人1分程度の英語で口頭発表をする準備をします。	①総復習テストのための学習 ②最終発表の練習	1時間
第14回	**総復習、最終発表** ①総復習テスト(30分程度)　：成果確認テスト（リーディングパート）同じ形式でのミニテストを実施し、英語力の伸びを測定します。 ②教科書を用いた言語活動：発表 ここまで聞いたり、読んだりしたTOPICについて、自分の考えたことを一人1分程度の英語で口頭発表します。 授業でのピアフィードバックをもとに内容を修正し録画したものを最終課題として提出してください。動画録画の際には、原稿を読み上げてはいけません。	①最終課題の動画作成	1時間
			0時間

113

授業科目名	**総合英語Ｂ**				
担当教員名	**坂井純子・工藤律子・麻畠徳子**				
学年・コース等	1年	開講期間	後期	単位数	1
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の概要					

授業概要

本授業は、英語集中プログラム(Intensive Course of English)の１科目です。英語集中プログラムでは学期中に２つの授業(前期：英語表現Ⅲと総合英語A、後期：英語表現Ⅳと総合英語B) および集中講座２つ（夏期：総合英語C、春期：総合英語D)を連動させ、授業内外での徹底した学習を重ねることで、TOEIC(500-550点) などの英語試験にも対応できる力を培うことを目的としています。本授業では、文法および英語のリーディング力向上に重点を置きながら、英語で読んだり聞いたりした内容を要約し英語で伝えることができる力、自分の考えを英語でまとめて伝えることができる力を養成します。授業中にはペアやグループでの活動を積極的に取り入れ、協働学習による目標達成への連帯感と動機付けを図ります。様々な学習活動に取り組むことによって、英語学修の意義や楽しさに気づき、自律的な学習態度の基礎を確立できるよう授業を展開します。また、AIやアプリなどを使った様々な英語学習法を紹介するとともに、授業内外の課題としてe-learning学習に取り組むことで、自主学習の習慣を身につけ、英語力の向上を図ります。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. 全学DP１.幅広い教養やスキル	英語運用能力を強化する。	英語で情報のやり取りができる。
汎用的な力		
1. 全学DP８.意思疎通		英語で他者との意思疎通ができる。
2. 全学DP10.忠恕の心		ペア、グループワークにおいて、他者を尊重しながら、自らの役割を遂行することができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)

・問答法・コメントを求める

・eラーニング、反転授業

・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

・実習や実技に対して個別にコメントします

・実技・実習後、全体に向けてコメントします

・提出物にコメント・評価をつけて返却します

・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

授業へは原則としてすべて出席してください。何らかの事情で欠席する場合は、シラバスや授業内での配布資料を参照し、自学により内容を確認し、必要な課題に取り組むようにしてください。なお、資格・免許取得に必要な科目は、単位修得に必要な授業時間数が定められている場合がありますので、注意してください。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
小テスト	30 %	： 授業前課題や復習内容に関する小テストを実施し、点数で評価します。
授業前（外）課題（宿題）	10 %	： e-learning教材を使った授業前（外）課題の取り組み状況（実施時間、実施割合等）を評価します。
授業活動への積極的な参加	30 %	： 授業活動への積極的な参加、課題の提出状況を30点満点で評価します。
総復習テスト	10 %	： 授業および授業課題の理解度を測定する試験を実施し、点数で評価します。

中間発表　：　中間発表を、事前に示すルーブリックに従い１０点満点で評価します。

10　%

最終課題　：　授業の最後に行う最終発表を修正し提出したものを、事前に示すルーブリックに従い１０点満点で評価します。

10　%

使用教科書

指定する

著者	タイトル	出版社	出版年
株式会社リクルート	・スタディ　サプリ　TOEICベーシックコース	・株式会社リクルート	・　年
Garry Person他	・GLOBAL ISSUES (ISBN:9784791972258)	・成美堂	・2021　年

参考文献等

必要に応じて適宜授業で紹介します。

履修上の注意・備考・メッセージ

・本授業は主に国際観光学部および教育学部英語教育コースの１年生を対象とする英語集中プログラム（Intensive Course of English)の中の１科目です。対象コース以外の受講希望者は事前に教務課に相談してください。
・原則として毎回出席してください。規定回数以上の出席がなければ不可となります。
・必ず授業前課題に取り組んでから授業に参加するようにしてください。
・授業には、積極的・意欲的に取り組んでください。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：　1回目の授業で連絡します。

場所：　研究室、教室等

備考・注意事項：　非常勤講師担当のクラスについては、授業の前後の時間に、教室や非常勤講師室で、また講義日以外はEメールで質問を受け付けます。

授業計画

		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**オリエンテーション、リーディング演習：短文読解、単語学習** ①オリエンテーション：授業概要、計画の確認、全学期の振り返りと学習目標の設定、授業内外の学習課題の確認、暗唱大会の説明（評価基準について）。 ②リーディングテスト演習：比較的短い文書を語の意味、文の構造をしっかり理解しながら精読していく力を身につけます。 ③文法学習　：自主学習アプリ「時制②」の文法項目について、その使用法を理解し、文の中で正しく使えるようになるためのペアワークを行います。	①リーディング課題：自主学習アプリ（スタディサプリ）PartVI 例題3（精読、語彙確認、文法の確認）　②文法学習：自主学習アプリ「時制③」	1時間
第2回	**リーディング演習：短文読解、文法学習：時制③、暗唱：スピーチの背景理解** ①小テスト：前回の学習内容および予習範囲について確認テストを行います。 ②リーディングテスト演習：比較的短い文書を語の意味、文の構造をしっかり理解しながら精読していく力を身につけます。 ③文法学習　：宿題で復習してきた文法項目について、その使用法を理解し、文の中で正しく使えるようになるためのペアワークを行います。 ④暗唱：スピーチの背景を知る（どのような状況で、どのような経験をした人が、どのような人に向けて行っているいるか）ことで、スピーチのメッセージを理解します。	①リーディング課題：自主学習アプリ（スタディサプリ）PartVI 演習3-3（精読、語彙確認、文法の確認）　②文法学習：自主学習アプリ「助動詞」	1時間
第3回	**リーディング演習：短文読解、文法学習：助動詞、暗唱：内容理解（リライト原稿）** ①小テスト：前回の学習内容および予習範囲について確認テストを行います。 ②リーディングテスト演習：比較的短い文書を語の意味、文の構造をしっかり理解しながら精読していく力を身につけます。 ③文法学習　：宿題で復習してきた文法項目について、その使用法を理解し、文の中で正しく使えるようになるためのペアワークを行います。 ④暗唱：AIを使ってスピーチの原文をわかりやすい英語に書き換え、それを精読しながら内容を理解します。	①リーディング課題：自主学習アプリ（スタディサプリ）PartVII 例題２（精読、語彙確認、文法の確認）　②文法学習：自主学習アプリ「能動隊と受動態」	1時間
第4回	**リーディング演習：単文書、文法学習：助動詞、暗唱：内容理解（オリジナル原稿）**	①リーディング課題：自主学習アプリ（スタディサプリ）PartVII 演習2-2（精読、語彙確認、文法の確認）　②文法学習：自主学習アプリ「不定詞（基礎編）」	1時間

	①小テスト：前回の学習内容および予習範囲について確認テストを行います。 ②リーディングテスト演習：文書を語の意味、文の構造をしっかり理解しながら精読していく力を身につけます。またスキミング（重要なポイントを理解する）、スキャニング（必要な情報を探しながら読む）などの演習も行います。 ③文法学習　：宿題で復習してきた文法項目について、その使用法を理解し、文の中で正しく使えるようになるためのペアワークを行います。 ④暗唱：AIを使ってわかりやすく書き換えた英語と比較しながら、オリジナルのスピーチの原稿を精読しながら内容を理解します。		
第5回	**リーディング演習：単文書、文法学習：不定詞（基礎編）、暗唱：内容要約準備** ①小テスト：前回の学習内容および予習範囲について確認テストを行います。 ②リーディングテスト演習：文書を語の意味、文の構造をしっかり理解しながら精読していく力を身につけます。またスキミング（重要なポイントを理解する）、スキャニング（必要な情報を探しながら読む）などの演習も行います。 ③文法学習　：宿題で復習してきた文法項目について、その使用法を理解し、文の中で正しく使えるようになるためのペアワークを行います。 ④暗唱：スピーチの内容の要点を整理して、自分の言葉で内容を要約する準備として、重要なポイントを書き出します。	①リーディング課題：自主学習アプリ（スタディサプリ）PartVII 例題３（精読、語彙確認、文法の確認）　②文法学習：自主学習アプリ「不定詞（応用編）」	1時間
第6回	**リーディング演習：単文書、文法学習：不定詞（応用編）、暗唱：内容要約** ①小テスト：前回の学習内容および予習範囲について確認テストを行います。 ②リーディングテスト演習：文書を語の意味、文の構造をしっかり理解しながら精読していく力を身につけます。またスキミング（重要なポイントを理解する）、スキャニング（必要な情報を探しながら読む）などの演習も行います。 ③文法学習　：宿題で復習してきた文法項目について、その使用法を理解し、文の中で正しく使えるようになるためのペアワークを行います。 ④暗唱：スピーチの内容の要約の下書きを作り、他の人のものと比べることで、修正のポイントを確認します。	①リーディング課題：自主学習アプリ（スタディサプリ）PartVII 演習3-2（精読、語彙確認、文法の確認）　②文法学習：自主学習アプリ「動名詞」	1時間
第7回	**リーディング演習：単文書、文法学習：動名詞、暗唱：内容要約作成** ①小テスト：前回の学習内容および予習範囲について確認テストを行います。 ②リーディングテスト演習：文書を語の意味、文の構造をしっかり理解しながら精読していく力を身につけます。またスキミング（重要なポイントを理解する）、スキャニング（必要な情報を探しながら読む）などの演習も行います。 ③文法学習　：宿題で復習してきた文法項目について、その使用法を理解し、文の中で正しく使えるようになるためのペアワークを行います。 ④暗唱：与えられた時間の中で、スピーチの内容の要約作成します。(100-150字程度)	①リーディング課題：自主学習アプリ（スタディサプリ）PartVII 例題４（精読、語彙確認、文法の確認）　②文法学習：自主学習アプリ「分詞」	1時間
第8回	**リーディング演習：単文書、文法学習：分詞、言語活動：TOPIC6(1)　Brainstorming** ①小テスト：前回の学習内容および予習範囲について確認テストを行います。 ②リーディングテスト演習：文書を語の意味、文の構造をしっかり理解しながら精読していく力を身につけます。またスキミング（重要なポイントを理解する）、スキャニング（必要な情報を探しながら読む）などの演習も行います。 ③文法学習　：宿題で復習してきた文法項目について、その使用法を理解し、文の中で正しく使えるようになるためのペアワークを行います。 ④教科書を用いた言語活動：TOPIC6(1)　Brainstorming トピックについて知っている知識について話し合い、話されている（書かれている）内容を事前に想像した上で、英語を聞き取る（読み取る）演習を行います。	①リーディング課題：自主学習アプリ（スタディサプリ）PartVII 演習4-2（精読、語彙確認、文法の確認）　②文法学習：自主学習アプリ「代名詞」	1時間
第9回	**リーディング演習：単文書、文法学習：代名詞、言語活動：TOPIC6(2) Understanding main ideas** ①小テスト：前回の学習内容および予習範囲について確認テストを行います。 ②リーディングテスト演習：文書を語の意味、文の構造をしっかり理解しながら精読していく力を身につけます。またスキミング（重要なポイントを理解する）、スキャニング（必要な情報を探しながら読む）などの演習も行います。 ③文法学習　：宿題で復習してきた文法項目について、その使用法を理解し、文の中で正しく使えるようになるためのペアワークを行います。 ④教科書を用いた言語活動：TOPIC6(2) Understanding main ideas 話されている（書かれている）内容の概要を理解する演習を行います。	①リーディング課題：自主学習アプリ（スタディサプリ）PartVII 例題５（精読、語彙確認、文法の確認）　②文法学習：自主学習アプリ「比較」	1時間
第10回	**リーディング演習：複文書、文法学習：比較、言語活動：TOPIC6(3) Understanding main ideas（前半）**	①リーディング課題：自主学習アプリPartVII 演習5-2（精読、語彙確認、文法の確認）　②文法学習：自主学習アプリ「関係代名詞」	1時間

	①小テスト：前回の学習内容および予習範囲について確認テストを行います。 ②リーディングテスト演習：文書を語の意味、文の構造をしっかり理解しながら精読していく力を身につけます。複数の文書にまたがって関連している箇所を見つけ出し、その情報を統合して直接書かれていないことも理解できるようになる演習を行います。 ③文法学習　：宿題で復習してきた文法項目について、その使用法を理解し、文の中で正しく使えるようになるためのペアワークを行います。 ④教科書を用いた言語活動：TOPIC6(3) Understanding main ideas（前半） 一文一文細かく解読しながら、話されている（書かれている）内容を理解する演習を行います。		
第11回	**リーディング演習：複文書、文法学習：関係代名詞、言語活動：TOPIC5(4) Understanding main ideas（後半）** ①小テスト：前回の学習内容および予習範囲について確認テストを行います。 ②リーディングテスト演習：文書を語の意味、文の構造をしっかり理解しながら精読していく力を身につけます。複数の文書にまたがって関連している箇所を見つけ出し、その情報を統合して直接書かれていないことも理解できるようになる演習を行います。 ③文法学習　：宿題で復習してきた文法項目について、その使用法を理解し、文の中で正しく使えるようになるためのペアワークを行います。 ④教科書を用いた言語活動：TOPIC6(4) Understanding main ideas（後半） 一文一文細かく解読しながら、話されている（書かれている）内容を理解する演習を行います。	①リーディング課題：自主学習アプリ（スタディサプリ）PartVII 例題６（精読、語彙確認、文法の確認）　②文法学習：自主学習アプリ「仮定法」	1時間
第12回	**リーディング演習：複文書、文法学習：仮定法、言語活動：TOPIC5(5) Summary Report** ①小テスト：前回の学習内容および予習範囲について確認テストを行います。 ②リーディングテスト演習：文書を語の意味、文の構造をしっかり理解しながら精読していく力を身につけます。複数の文書にまたがって関連している箇所を見つけ出し、その情報を統合して直接書かれていないことも理解できるようになる演習を行います。 ③教科書を用いた言語活動：TOPIC6(5) Summary Report 理解した話されている（書かれている）内容を自分の言葉まとめて伝える演習、またそれについての自分の考えを簡単に述べる演習を行います。	①リーディング課題：自主学習アプリ（スタディサプリ）PartVII 演習6-2（精読、語彙確認、文法の確認）　②文法学習：自主学習アプリ「文型」	1時間
第13回	**リーディング演習：複文書、文法学習：文型、言語活動：TOPIC5(6)最終発表準備** ①小テスト：前回の学習内容および予習範囲について確認テストを行います。 ②リーディングテスト演習：文書を語の意味、文の構造をしっかり理解しながら精読していく力を身につけます。複数の文書にまたがって関連している箇所を見つけ出し、その情報を統合して直接書かれていないことも理解できるようになる演習を行います。 ③教科書を用いた言語活動：最終発表準備 ここまで聞いたり、読んだりしたTOPICについて、自分の考えたことを一人1分程度の英語で口頭発表をする準備をします。	①総復習テストのための学習 ②最終発表の練習	1時間
第14回	**総復習、最終発表** ①総復習テスト(30分程度)　：成果確認テスト（リーディングパート）同じ形式でのミニテストを実施し、英語力の伸びを測定します。 ②教科書を用いた言語活動：発表 ここまで聞いたり、読んだりしたTOPICについて、自分の考えたことを一人1分30秒程度の英語で口頭発表します。 授業でのピアフィードバックをもとに内容を修正し録画したものを最終課題として提出してください。動画録画の際には、原稿を読み上げてはいけません。	①最終課題の動画撮影	1時間
			0時間

授業科目名	総合英語Ｃ				
担当教員名	池名友・佐久間涼子				
学年・コース等	1年	開講期間	後期	単位数	1
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の概要					

授業概要

本授業は、英語集中プログラム(Intensive Course of English)の１科目です。英語集中プログラムでは学期中に２つの授業(前期：英語表現Ⅲと総合英語A、後期：英語表現Ⅳと総合英語B) および集中講座２つ（夏期：総合英語C、春期：総合英語D)を連動させ、授業内外での徹底した学習を重ねることで、TOEICなどの英語試験にも対応できる力を培うことを目的としています。本授業では、TOEIC600点以上、または450点を目指すクラスに分け、集中的に実践問題演習に取り組みます。授業は、語彙および文法力の向上、リスニング、リーディング力の向上を目指した演習が中心で、毎回の小テストで学習内容の定着を図ります。授業中にはペアやグループでの活動を積極的に取り入れ、協働学習による目標達成への連帯感と動機付けを図りつつ、後半では自主学習課題に取り組みながら、自律的に学習態度を養成することも目的としています。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. 全学DP１.幅広い教養やスキル	英語運用能力を強化する。	英語で情報のやり取りができる。
汎用的な力		
1. 全学DP８.意思疎通		英語で他者との意思疎通ができる。
2. 全学DP10.忠恕の心		ペア、グループワークにおいて、他者を尊重しながら、自らの役割を遂行することができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)

・問答法・コメントを求める

・eラーニング、反転授業

・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

・実習や実技に対して個別にコメントします

・実技・実習後、全体に向けてコメントします

・提出物にコメント・評価をつけて返却します

・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

授業へは原則としてすべて出席してください。何らかの事情で欠席する場合は、シラバスや授業内での配布資料を参照し、自学により内容を確認し、必要な課題に取り組むようにしてください。なお、資格・免許取得に必要な科目は、単位修得に必要な授業時間数が定められている場合がありますので、注意してください。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
授業活動への参加	10 %	： 授業活動への積極的な参加を評価します。
小テスト	40 %	： 授業中の小テストの結果を合計して40点成績に参入します。
オンデマンド課題	40 %	： オンデマンドでの課題を1課題10点満点で評価します。
最終課題	10 %	： 授業の理解度を測定する課題を10点満点で評価します。

使用教科書

指定する

著者	タイトル	出版社	出版年
国際ビジネスコミュニケーション協会	・公式TOEIC Listening & Reading 問題集 7　ISBN：978-4-906033-61-4	・国際ビジネスコミュニケーション協会	・2020　年

参考文献等

必要に応じて適宜授業で紹介します。

履修上の注意・備考・メッセージ

・本授業は主に国際観光学部および教育学部英語教育コースの１年生を対象とする英語集中プログラム（Intensive Course of English)の中の１科目です。対象コース以外の受講希望者は事前に教務課に相談してください。
・原則として毎回出席してください。規定回数以上の出席がなければ不可となります。
・必ず授業前課題に取り組んでから授業に参加するようにしてください。
・授業には、積極的・意欲的に取り組んでください。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：　1回目の授業で連絡します。

場所：　研究室、教室等

備考・注意事項：　非常勤講師担当のクラスについては、授業の前後の時間に、教室や非常勤講師室で、また講義日以外はEメールで質問を受け付けます。

授業計画		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**オリエンテーション、リスニング演習（写真描写、応答問題）** ・シラバス確認、授業の進め方の説明 ・リスニング演習（写真の描写問題(PartⅠ）、応答問題（PartⅡ））：リスニング、語彙、文法確認、ディクテーション、シャドーイング 意味を理解した後で、全て聞き取れるようになるまで繰り返し練習することで、リスニング力を向上させます。	リスニング課題復習	1時間
第2回	**文法問題演習** ・文法問題演習　文法問題演習（PartⅤ)：語彙、文法確認、精読 空所に入る語のみを考えるのではなく、文の構造を語彙の意味も理解した上で、自分で解説できるようになる演習を行くことで、文法の理解力を高めます。	文法復習	1時間
第3回	**リスニング演習（会話問題）** ・小テスト（１回目の学習内容） ・リスニング演習（会話問題（PartⅢ前半））：リスニング、語彙、文法確認、ディクテーション どのような場面で、どのような関係の人物が、どのようなやり取りをしているのかを理解した上で、すべてのやり取りが理解できるようになるまで繰り返しリスニングの練習をします。	リスニング課題（シャドーイング、復習）	1時間
第4回	**リーディング演習（空所補充問題）** ・小テスト（2回目の学習内容） ・リーディング演習　空所補充リーディング問題演習（PartⅥ前半)：語彙、文法確認、精読 適切に空所に入る語や文を選べるように、文法構造や、前後の部分とのつながりを理解しながら読む練習をします。	リーディング課題復習	1時間
第5回	**リスニング演習（説明文問題）** ・小テスト（３回目の学習内容） ・リスニング演習：会話問題（PartⅢ後半：図表付き）：リスニング、語彙、文法確認、ディクテーション どのような場面で、どのような関係の人物が、どのようなやり取りをしているのかを理解した上で、すべてのやり取りが理解できるようになるまで繰り返しリスニングの練習をします。	リスニング課題復習	1時間
第6回	**リーディング演習（短文読解問題）** ・小テスト（４回目の学習内容） ・リーディング演習　リーディング問題演習（PartⅥ後半）：語彙、文法確認、精読 英文をしっかり読めるようになることに加えて、求められている情報を読み取る（スキャニング）の練習をします。	リーディング課題復習	1時間
第7回	**リスニング演習（説明文）前半** ・小テスト（5回目の学習内容） ・リスニング演習：説明文問題（PartⅣ前半)：リスニング、語彙、文法確認、ディクテーション、シャドーイング ナレーションを聞き、要点を理解する練習をします。	リスニング課題復習	1時間
第8回	**リーディング演習（長文：単文書）** ・小テスト（6回目の学習内容） ・リーディング演習：長文（単文書）リーディング問題演習（PartⅦ)：語彙、文法確認、精読 １つの文書を読み、要点を理解する練習をします。また、求められている情報を探しながら読む練習も行います。	リーディング課題復習	1時間

第9回	**リスニング演習（説明文）後半** ・小テスト（7回目の学習内容） ・リスニング演習：説明文問題（PartⅣ後半：図表付き）：リスニング、語彙、文法確認、ディクテーション、シャドーイング 図表を見ながら、それについて話しているナレーションを聞きとり、求められている必要な情報を理解する練習をします。	リスニング課題復習	1時間
第10回	**リーディング演習（長文：複数文書）** ・小テスト（8回目の学習内容） ・リーディング演習　長文（複数文書）読解問題演習（PartⅦ後半）：語彙、文法確認、精読 複数の文書を読み、それぞれがどのように関連しているのかを理解しながら読みんでいく練習をします。	リーディング課題復習	1時間
第11回	**オンデマンド課題：リスニング課題（写真描写）・文法課題** ・リスニング演習課題：写真描写問題 PartⅠ（ディクテーション、語彙確認、シャドーイング） ・文法演習課題：文法PartⅤ（語彙、文法解説） 実践問題を解き、その解答を自分で説明できるようになるための演習問題に取り組みます。	課題の提出（リスニング・文法）	1時間
第12回	**オンデマンド課題：リスニング課題（応答問題）・リーディング課題（空所補充、短文）** ・リスニング演習課題：応答問題 PartⅡ（ディクテーション、語彙確認、シャドーイング） ・文法演習課題：空所補充、短文読解問題　PartⅥ（意味理解、文法・語彙理解） 実践問題を解き、その解答を自分で説明できるようになるための演習問題に取り組みます。	課題の提出（リスニング・リーディング）	1時間
第13回	**オンデマンド課題：リスニング課題（会話問題）・リーディング課題（長文（単文書））** ・リスニング演習課題：会話問題 PartⅢ（ディクテーション、語彙確認、シャドーイング） ・文法演習課題：長文（単文書）読解問題　PartⅦ（意味理解、文法・語彙理解） 実践問題を解き、その解答を自分で説明できるようになるための演習問題に取り組みます。	課題の提出（リスニング・リーディング）	1時間
第14回	**オンデマンド課題：リスニング課題（説明文問題）・リーデング課題（長文読解問題）** ・リスニング演習課題：説明文問題 PartⅣ（ディクテーション、語彙確認、シャドーイング） ・文法演習課題：長文（複文書）読解問題　PartⅦ（意味理解、文法・語彙理解） ・最終課題提示 実践問題を解き、その解答を自分で説明できるようになるための演習問題に取り組みます。	課題の提出（リスニング・リーディング）、最終課題	1時間
			0時間

授業科目名	**総合英語Ｄ**				
担当教員名	天羽美帆・佐久間涼子				
学年・コース等	1年	開講期間	後期	単位数	1
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の概要					

授業概要

本授業は、英語集中プログラム(Intensive Course of English)の１科目です。英語集中プログラムでは学期中に２つの授業(前期：英語表現Ⅲと総合英語A、後期：英語表現Ⅳと総合英語B) および集中講座２つ（夏期：総合英語C、春期：総合英語D)を連動させ、授業内外での徹底した学習を重ねることで、TOEICなどの英語試験にも対応できる力を培うことを目的としています。本授業では、TOEIC650点以上、または500点を目指すクラスに分け、集中的に実践問題演習に取り組みます。授業は、語彙および文法力の向上、リスニング、リーディング力の向上を目指した演習が中心で、毎回の小テストで学習内容の定着を図ります。授業中にはペアやグループでの活動を積極的に取り入れ、協働学習による目標達成への連帯感と動機付けを図りつつ、後半では自主学習課題に取り組みながら、自律的に学習態度を養成することも目的としています。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. 全学DP１.幅広い教養やスキル	英語運用能力を強化する。	英語で情報のやり取りができる。
汎用的な力		
1. 全学DP８.意思疎通		英語で他者との意思疎通ができる。
2. 全学DP10.忠恕の心		ペア、グループワークにおいて、他者を尊重しながら、自らの役割を遂行することができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)

・問答法・コメントを求める

・eラーニング、反転授業

・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

・実習や実技に対して個別にコメントします

・実技・実習後、全体に向けてコメントします

・提出物にコメント・評価をつけて返却します

・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

授業へは原則としてすべて出席してください。何らかの事情で欠席する場合は、シラバスや授業内での配布資料を参照し、自学により内容を確認し、必要な課題に取り組むようにしてください。なお、資格・免許取得に必要な科目は、単位修得に必要な授業時間数が定められている場合がありますので、注意してください。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
授業活動への参加	10 %	： 授業活動への積極的な参加を評価します。
小テスト	40 %	： 授業中の小テストの結果を合計して40点成績に参入します。
オンデマンド課題	40 %	： オンデマンドでの課題を1課題10点満点で評価します。
最終課題	10 %	： 授業の理解度を測定する課題を10点満点で評価します。

使用教科書

指定する

著者	タイトル	出版社	出版年
国際ビジネスコミュニケーション協会	・公式TOEIC Listening & Reading 問題集 7　ISBN：978-4-906033-61-4	・国際ビジネスコミュニケーション協会	・2020　年

参考文献等

必要に応じて適宜授業で紹介します。

履修上の注意・備考・メッセージ

・本授業は主に国際観光学部および教育学部英語教育コースの１年生を対象とする英語集中プログラム（Intensive Course of English)の中の１科目です。対象コース以外の受講希望者は事前に教務課に相談してください。
・原則として毎回出席してください。規定回数以上の出席がなければ不可となります。
・必ず授業前課題に取り組んでから授業に参加するようにしてください。
・授業には、積極的・意欲的に取り組んでください。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：　1回目の授業で連絡します。

場所：　研究室、教室等

備考・注意事項：　非常勤講師担当のクラスについては、授業の前後の時間に、教室や非常勤講師室で、また講義日以外はEメールで質問を受け付けます。

授業計画		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**オリエンテーション、リスニング演習（写真描写、応答問題）** ・シラバス確認、授業の進め方の説明 ・リスニング演習（写真の描写問題(PartⅠ）、応答問題（PartⅡ））：リスニング、語彙、文法確認、ディクテーション、シャドーイング 意味を理解した後で、全て聞き取れるようになるまで繰り返し練習することで、リスニング力を向上させます。	リスニング課題復習	1時間
第2回	**文法問題演習** ・文法問題演習　文法問題演習（PartⅤ)：語彙、文法確認、精読 空所に入る語のみを考えるのではなく、文の構造を語彙の意味も理解した上で、自分で解説できるようになる演習を行くことで、文法の理解力を高めます。	文法復習	1時間
第3回	**リスニング演習（会話問題）** ・小テスト（１回目の学習内容） ・リスニング演習（会話問題（PartⅢ前半））：リスニング、語彙、文法確認、ディクテーション どのような場面で、どのような関係の人物が、どのようなやり取りをしているのかを理解した上で、すべてのやり取りが理解できるようになるまで繰り返しリスニングの練習をします。	リスニング課題（シャドーイング、復習）	1時間
第4回	**リーディング演習（空所補充問題）** ・小テスト（2回目の学習内容） ・リーディング演習　空所補充リーディング問題演習（PartⅥ前半)：語彙、文法確認、精読 適切に空所に入る語や文を選べるように、文法構造や、前後の部分とのつながりを理解しながら読む練習をします。	リーディング課題復習	1時間
第5回	**リスニング演習（説明文問題）** ・小テスト（３回目の学習内容） ・リスニング演習：会話問題（PartⅢ後半：図表付き）：リスニング、語彙、文法確認、ディクテーション どのような場面で、どのような関係の人物が、どのようなやり取りをしているのかを理解した上で、すべてのやり取りが理解できるようになるまで繰り返しリスニングの練習をします。	リスニング課題復習	1時間
第6回	**リーディング演習（短文読解問題）** ・小テスト（４回目の学習内容） ・リーディング演習　リーディング問題演習（PartⅥ後半）：語彙、文法確認、精読 英文をしっかり読めるようになることに加えて、求められている情報を読み取る（スキャニング）の練習をします。	リーディング課題復習	1時間
第7回	**リスニング演習（説明文）前半** ・小テスト（5回目の学習内容） ・リスニング演習：説明文問題（PartⅣ前半)：リスニング、語彙、文法確認、ディクテーション、シャドーイング ナレーションを聞き、要点を理解する練習をします。	リスニング課題復習	1時間
第8回	**リーディング演習（長文：単文書）** ・小テスト（6回目の学習内容） ・リーディング演習：長文（単文書）リーディング問題演習（PartⅦ)：語彙、文法確認、精読 １つの文書を読み、要点を理解する練習をします。また、求められている情報を探しながら読む練習も行います。	リーディング課題復習	1時間

第9回	**リスニング演習（説明文）後半** ・小テスト（7回目の学習内容） ・リスニング演習：説明文問題（PartⅣ後半：図表付き）：リスニング、語彙、文法確認、ディクテーション、シャドーイング 図表を見ながら、それについて話しているナレーションを聞きとり、求められている必要な情報を理解する練習をします。	リスニング課題復習	1時間
第10回	**リーディング演習（長文：複数文書）** ・小テスト（8回目の学習内容） ・リーディング演習　長文（複数文書）読解問題演習（PartⅦ後半）：語彙、文法確認、精読 複数の文書を読み、それぞれがどのように関連しているのかを理解しながら読みんでいく練習をします。	リーディング課題復習	1時間
第11回	**オンデマンド課題：リスニング課題（写真描写）・文法課題** ・リスニング演習課題：写真描写問題 PartⅠ（ディクテーション、語彙確認、シャドーイング） ・文法演習課題：文法PartⅤ（語彙、文法解説） 実践問題を解き、その解答を自分で説明できるようになるための演習問題に取り組みます。	課題の提出（リスニング・文法）	1時間
第12回	**オンデマンド課題：リスニング課題（応答問題）・リーディング課題（空所補充、短文）** ・リスニング演習課題：応答問題 PartⅡ（ディクテーション、語彙確認、シャドーイング） ・文法演習課題：空所補充、短文読解問題　PartⅥ（意味理解、文法・語彙理解） 実践問題を解き、その解答を自分で説明できるようになるための演習問題に取り組みます。	課題の提出（リスニング・リーディング）	1時間
第13回	**オンデマンド課題：リスニング課題（会話問題）・リーディング課題（長文（単文書））** ・リスニング演習課題：会話問題 PartⅢ（ディクテーション、語彙確認、シャドーイング） ・文法演習課題：長文（単文書）読解問題　PartⅦ（意味理解、文法・語彙理解） 実践問題を解き、その解答を自分で説明できるようになるための演習問題に取り組みます。	課題の提出（リスニング・リーディング）	1時間
第14回	**オンデマンド課題：リスニング課題（説明文問題）・リーデング課題（長文読解問題）** ・リスニング演習課題：説明文問題 PartⅣ（ディクテーション、語彙確認、シャドーイング） ・文法演習課題：長文（複文書）読解問題　PartⅦ（意味理解、文法・語彙理解） ・最終課題提示 実践問題を解き、その解答を自分で説明できるようになるための演習問題に取り組みます。	課題の提出（リスニング・リーディング）、最終課題	1時間
			0時間

111

授業科目名	中国語入門Ⅰ				
担当教員名	鄭惠芳				
学年・コース等	1～4年	開講期間	前期/後期	単位数	1
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の概要					

授業概要

初心者にとって、中国語の学習は文法を理解した上で、一字一字の発音を正確に練習することによって、中国語の美しい音色を体得し、その上、コミュニケーションの喜びを覚えます。文法の理解と正確な発音を修得するために簡単な会話を通じて、自分のことを発信して中国語を楽しく学びます。「言葉は文化交流の第一歩」です。
この授業は、はじめて中国語を学ぶには「分かりやすく覚えやすい」初級レベルの中国語会話が中心の授業です。学習効果を高めるため事前予習が必要です。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. 全学DP１.幅広い教養やスキル	語学力を高めていくこと	語学力を高める、専門的知識を習得することにより、さらに視野を広げることができる。
汎用的な力		
1. 全学DP８.意思疎通		積極性および創造力を養う よりよい社会性とコミュニケーションすることができる

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
・問答法・コメントを求める
・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
・シミュレーション型学習(ロールプレイ、ゲーム型学習など)

課題や取組に対する評価・振り返り

・実習や実技に対して個別にコメントします
・提出物にコメント・評価をつけて返却します
・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

授業へは原則としてすべて出席してください。何らかの事情で欠席する場合は、シラバスや授業内での配布資料を参照し、自学により内容を確認し、必要な課題に取り組むようにしてください。なお、資格・免許取得に必要な科目は、単位修得に必要な授業時間数が定められている場合がありますので、注意してください。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
授業への積極的参加度	30 %	： 授業態度：教師の指示に従い、積極的に活動をする。グループ、ペアで協力しながら活動するなどの項目において、５段階で評価する
授業内テストおよび課題の提出	35 %	： 授業内テスト：毎回授業のあとに行う１０問の小テスト。 課題提出：指示された範囲の教科書内のスキットを書き写す。
中間試験(２回)および期末試験	35 %	： 中間試験：復習するために筆記試験（100点満点）＋自己紹介の発表 期末試験：所定した範囲の筆記試験（100点満点）＋各課本文の読み(発音なし)

使用教科書

指定する

著者	タイトル	出版社	出版年
本間史　・　孟広学	・ 中国語ポイント42	・ 白水社	・ 2023　年

参考文献等

授業中に提示する

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は１単位の科目であるため、平均すると毎回１時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：　初回の授業で案内する

場所：　初回の授業で案内する

授業計画

		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**中国語のアプローチ（中国概要）** 中国語を学ぶには、まず近代の中国の変化と発展を知る必要があります。 さらに、日本の漢字と違ういわゆる「簡体字」は今、中国では一般的に使われていることや同じ漢字でも日本と意味がまったく違うことを勉強します。 「何事も最初のひと踏ん張り！」が大事です。	授業した内容を復習する	1時間
第2回	**発音篇Ⅰ　母音と声調を組み合わせ練習** 声調：日本と違って漢字の一字一字には「抑揚頓挫」（高さ）があります。文章で読むと自然にイントネーションが作られて、まるでメロディーのように美しく感じられます。最初は少し不慣もしれないが、回を重ねていけば結構楽しいリズムです。 母音：７つの単母音から互いに組み合わせて２重、３重と変化して全部が３７個の母音を正しく発音してから声調にのせて発音練習。 第２回から授業の最後に１０問の小テストを行います。	授業した内容を復習と教科書の音声練習	1時間
第3回	**発音篇Ⅱ　子音と声調の組み合わせ** 子音：２１個の子音を声調の高さをのせて発音練習しながら「子音＋母音」タイプの発音（一文字ずつ）練習。そのうえ、中国語の発音に関するルールも紹介。ルールに基づいて正しい発音を練習 します。 授業内テストを行います。	授業した内容を復習と発音ルールを暗記する	1時間
第4回	**発音篇Ⅲ　さまざまな発音ルールや発音の変化を練習＆日常のあいさつ** 中国語の発音の中、３７個の母音（単独に使える）と２１個の子音が存在しています。 子音は単独に使えません。子音は必ず母音と一緒に組み合わせて言葉になる。 授業内テストを行います。	次回の復習テストのため次回の復習テストのために概要、発音ルールと家族表と子音一覧を暗記	1時間
第5回	**復習テスト＆声調の組み合わせ、日常のあいさつ** 中間試験後、P. 11とP. 13の単語、日常あいさつ用語を練習。そして言葉を覚える最初の一歩は単語です。単語を覚えることにつれて発音練習も楽しく練習できる。 次週に課題提出（P. 11とP. 13を書き写し＋各日本語訳も書く）	次週課題提出（P. 11とP. 13＋各日本語訳もつける）	1時間
第6回	**第１課　名詞述語文「私は学生です」** 名詞文の特徴や使い方、文型を使って置き換え練習します。 会話文を練習⇒２人ペアを組んでロールプレイ練習。 チャレンジの練習を講師といっしょに練習します。 授業内テストを行います。	次週課題提出　第１課（P. 14～17書き写し＆練習問題）	1時間
第7回	**第２課　動詞述語文　「ごはんを食べる、あなたは何をのみますか？」** 第２課のポイントを逐一に解説、練習します。 １．ご飯を食べる､コーヒーを飲む…動詞述語文 ２．あれは辞書ではありません…指示代名詞文 ３．これは誰の本ですか…疑問詞文 ４．これは父のメガネです…所有を表す｢的｣を解説＆練習。 初歩的中国語文法は案外と日本語に似ているが、発音は別だと実感！ 授業内テストを行います。	授業内容を復習する	1時間
第8回	**第２課　スキット「あなたは何がすきですか」**	次週課題提出（第2課P. 18~21を書き写す＆練習問題）	1時間

	動詞文の特徴や使い方を復習しながら、文型を使って置き換え練習していきます。 会話文を練習してから２人ペアを組んでロールプレイします。 授業内テストを行います。 来週は中間試験（１）をします。範囲は、P.11～P.21まで		
第9回	**中間試験（１）筆記＆ 第３課　形容詞述語文「今日は忙しいですか」** 中間試験（１）筆記テストを行います。 形容詞述語文の特徴と他のポイントを解説し、練習します。	授業内容を復習し、第３課のスキットを予習する	1時間
第10回	**第３課スキット「今日は忙しいですか」&自己紹介** 第３課スキット（本文）を解説、練習、ロールプレイします。 自己紹介を練習 授業内テストを行います。	次週課題提出　第３課（P.22.23.24.25）の書き写し＆練習問題	1時間
第11回	**自己紹介の練習& 第４課「あなたはどこに住んでいる？」** 先週つづき、自己紹介を練習し、次回の中間試験（２）の時に暗記発表します。 今まで習ったところを見直しして、積極的にロールプレイをします。 第４課のポイントを解説＆置き換え練習してから、スキットの本文に進みます。 授業内テストを行います。 ＊来週中間試験（２）筆記試験（範囲は授業中に指示）＆自己紹介の暗記発表があります	次週課題提出　第４課（P.26,27,28,29）の書き写し＆練習問題	1時間
第12回	**中間試験（２）＆自己紹介の暗記発表** 中間試験（２）筆記試験＆自己紹介　暗記発表 第１課～第４課のおさらい	授業内容を復習する	1時間
第13回	**第５課　数の数え方および物の数え方&疑問詞「この辞書はいくらですか？」** 第５課のポイントを解説、練習してからスキットの本文に進みます。 本文を２人ペアを組んでロールプレイします。 授業内テストを行います。	次週課題提出　第５課（P.30.31.32.33）を書き写し＆練習問題	1時間
第14回	**第６課のポイント ＆ 総復習** 第６課のポイントを解説、練習してから第１課～第５課のスキットを読む練習。 中国語の学習の中に、会話によく使うさまざまな決まり文句が教科書にも出ていますので、しっかりと覚えると、けっこう楽しいです。	総復習	1時間

111

授業科目名	中国語入門Ⅰ				
担当教員名	劉燕子				
学年・コース等	1～4年	開講期間	後期	単位数	1
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の概要					

授業概要

授業で勉強する中国語は北京語を基礎とした普通語と呼ばれる共通語です。国際化とともに中国の歴史、文化、観光に触れる機会も多くなります。中国語は漢字で日本語と共通し、他の外国語より親しみやすいです。中高校で学んだ漢詩との「比較対照」など、これまでの知識を有効に活用します。発音が違うので「ピンイン」というローマ字表記を用い、「声調」という音の高低によって意味を区別します。文字を見て、音を聞き、手で書くなど複数のルートでよりよく記憶するという視覚と聴覚と手作業を組み合わせた相乗効果で学びます。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. 全学DP１.幅広い教養やスキル	中国語の初級レベルの語学力	中国語で挨拶、自己紹介、名前や道を尋ねる、買い物をすることなどに必要な基礎的な会話と読み書き計算の実践力を養う

汎用的な力	
1. 全学DP８.意思疎通	教養としての異文化理解、異文化コミュニケーション

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・問答法・コメントを求める

・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)

・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)

・その他(以下に概要を記述)

ネイティブ・スピーカーとコミュニケーションをとる機会などを通して中国語学習のモティベーションを高める。

課題や取組に対する評価・振り返り

・その他(以下に概要を記述)

授業中の質問、教科書の練習、トレーニングの回答に即してコメントします。

成績評価

注意事項等

授業へは原則としてすべて出席してください。何らかの事情で欠席する場合は、シラバスや授業内での配布資料を参照し、自学により内容を確認し、必要な課題に取り組むようにしてください。なお、資格・免許取得に必要な科目は、単位修得に必要な授業時間数が定められている場合がありますので、注意してください。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
授業でのワーク	20 %	： 音読、書写、練習やトレーニングに積極的に取り組んでいるか、指導を的確に理解しているかを評価します。
中間の小テスト	20 %	： 教科書の指定された範囲を的確に理解しているかを評価します。
期末試験	60 %	： 教科書の指定された範囲を的確に理解しているかを評価します。

使用教科書

指定する

著者	タイトル	出版社	出版年
佐藤晴彦監修、徐送迎著	・たのしくできる We Can! 中国語 初級 改訂版	・朝日出版社	・2016 年

参考文献等

相原茂, 石田知子, 戸沼市子 共著『Why?にこたえるはじめての中国語の文法書』新訂版、同学社、2016年
（ISBN:9784810203271）

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は１単位の科目であるため、平均すると毎回１時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。
積極的に聞き、発音し、ノートをとりましょう。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 授業終了後やメールで質問を受け付けます。

場所： 教室、及びYanzi@mta.biglobe.ne.jp

授業計画

		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**中国語の発音（１）ピンイン、声調（四声）** 日本の漢字と中国語の簡体字の比較、ピンイン、声調（四声）の初歩的理解	教科書の発音編の１を復習する。予習・復習では、自分の声を録音し、模範朗読と比較させ、発音の向上と暗誦の一石二鳥にします。溌剌と声を出し、生き生きとした雰囲気でアクティブに中国語を学びましょう。以下同様。	1時間
第2回	**中国語の発音（２）軽声、短母音、子音** 軽声、短母音、子音の基礎的理解と活用	教科書の発音編の２、３、４を復習する	1時間
第3回	**中国語の発音（３）複母音、鼻母音** 複母音、鼻母音の基礎的理解と活用	教科書の発音編の５、６を復習する	1時間
第4回	**中国語の発音（４）声調の変化** 声調の変化などの基礎的理解と活用	教科書の発音編の７、８を復習する	1時間
第5回	**中国語の語彙と文法（１）挨拶、人称代名詞、疑問文** 挨拶、人称代名詞、疑問文など	教科書の第一課を復習する	1時間
第6回	**語彙と文法（２）基本的な語順、省略疑問文** 中国語の基本的な語順、省略疑問文など	教科書の第二課を復習する	1時間
第7回	**語彙と文法（３）疑問詞疑問文、動詞「在」** 疑問詞疑問文、動詞「在」など	教科書の第三課を復習する	1時間
第8回	**語彙と文法（４）所有を表す「有」、連動文及び中間の総復習、到達度の評価** 所有を表す「有」、連動文など、これまでの総復習と中間の小テストおよび解説	教科書の第四課までを復習する	1時間
第9回	**語彙と文法（５）形容詞述語文** 形容詞述語文など	教科書の第五課を復習する	1時間
第10回	**語彙と文法（６）存在を表す「有」、数量詞** 存在を表す「有」、数量詞など	教科書の第六課を復習する	1時間
第11回	**語彙と文法（７）指示代名詞、名詞述語文** 指示代名詞、名詞述語文など	教科書の第七課を復習する	1時間
第12回	**語彙と文法（８）語気助詞、比較文** 語気助詞、比較文など	教科書の第八課を復習する	1時間
第13回	**語彙と文法（９）介詞、反復疑問文** 介詞、反復疑問文など	教科書の第九、十課を復習する	1時間
第14回	**語彙と文法（１０）動態助詞、否定を表す副詞、助動詞、動詞の重ね型** 動態助詞、否定を表す副詞、助動詞、動詞の重ね型など	教科書の第十,十一課を復習する	1時間

111

授業科目名	中国語入門Ⅰ				
担当教員名	和泉ひとみ				
学年・コース等	1年	開講期間	前期	単位数	1
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の概要					

授業概要

初めて中国語を学ぶ学生を対象として、基礎的な中国語の運用能力の養成を目的とします。今学期は中国語の音声、初歩的な文法を習得することに重点をおき、簡単な文章が読め、日常生活に必要な最低限の表現を覚えることを目標にします。テキストには練習問題がたくさん設けてありますので、それをこなせば簡単な中国語ができるようになります。授業は文法の解説、例文の日本語訳、練習問題を使った作文の練習、本文の解釈、音声の練習という順に行い、単元が終わるごとに必ず小テストを実施します。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. 全学DP１.幅広い教養やスキル	中国語の発音記号のルールを知る。会話に必要な文法のルールを知る。	中国語の発音記号が正確に読め、日常的に使うあいさつ表現や、動詞や形容詞を使った簡単な表現が言えたり書けたりする。
汎用的な力		
1. 全学DP８.意思疎通		中国語で自己紹介ができる。中国語で簡単な意思表示ができる。中国語圏の人に場所や時間、交通手段などを教えてあげられる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)

・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)

・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)

・シミュレーション型学習(ロールプレイ、ゲーム型学習など)

課題や取組に対する評価・振り返り

・提出物にコメント・評価をつけて返却します

・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

授業へは原則としてすべて出席してください。何らかの事情で欠席する場合は、シラバスや授業内での配布資料を参照し、自学により内容を確認し、必要な課題に取り組むようにしてください。なお、資格・免許取得に必要な科目は、単位修得に必要な授業時間数が定められている場合がありますので、注意してください。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
定期試験	50 %	： 中国語の発音記号が覚えられているか、基本的な文法を理解し日本語に訳したり中国語で書いたりできるか、よく使う単語や表現が覚えられているか、簡単な中国語を聴いて中国語で書いたり、日本語に訳したりできるか。
小テスト	20 %	： 学習した単元の単語や表現が覚えられているか。
課題	30 %	： テキストに載っている例文を日本語に訳せるか、練習問題ができているか。本文の発音練習をして正確に言えるようになったか。

使用教科書

指定する

著者	タイトル	出版社	出版年
本間史・孟広学	・ 中国語ポイント４２	・ 白水社	・ 2023 年

参考文献等

ISBN 9784560069080

東京外国語大学　中国語モジュール　http://www.coelang.tufs.ac.jp/mt/zh/

weblio中国語辞典　https://cjjc.weblio.jp

コトバンク　小学館　中日辞典　https://kotobank.jp/dictionary/cj03

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は1単位の科目であるため、平均すると毎回1時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

授業中に行う課題や小テストは全て学期末の成績の一部となるので、休まずに出席して下さい。
言語を覚えるのに才能は関係ありません。時間をかけて勉強すれば必ずだれでも習得できますので、自分の将来の武器にできるよう頑張りましょう。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

場所： メール

備考・注意事項： メールアドレス：izumi-h@g.osaka-seikei.ac.jp
課題や小テストの用紙に質問事項を書いてもらってもかまいません。

授業計画

		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**中国語のアプローチ（中国概要）** 中国語を学ぶに当たって、その特徴や知っておいてほしいことについて話します。 さらに、中国の略字「簡体字」や発音記号などについて紹介します。	授業内容を復習する	1時間
第2回	**発音篇Ⅰ　母音と声調を組み合わせ練習** 声調：日本と違って漢字の一字一字には「抑揚頓挫」（音の高低)があります。文章で読むと自然にイントネーションが作られて、まるでメロディーのように美しく感じられます。 母音：７つの単母音、それが組み合わさった２重、３重母音について話します。３７個の母音を正しく発音してから声調にのせて発音練習。	発音動画の作成	1時間
第3回	**発音篇Ⅱ　子音と声調の組み合わせ** 子音：２１個の子音に声調をつけて発音練習。「子音＋母音」の発音練習。中国語の発音に関するルールも紹介。ルールに基づいて正しい発音を練習します。	発音動画の作成	1時間
第4回	**発音篇Ⅲ　さまざまな発音ルールや発音の変化を練習＆日常のあいさつ** 中国語の発音には３７個の母音（単独に使える）と２１個の子音があります。 子音は単独では使いません。子音は必ず母音と一緒に組み合わさって単語を形成します。	発音動画の作成	1時間
第5回	**復習テスト＆声調の組み合わせ、日常のあいさつ** 復習テスト実施後、P.11とP.13の単語、日常あいさつ用語を練習。言葉を覚える最初の一歩は単語です。単語を覚えることにつれて発音練習も楽しくなります。	発音動画の作成	1時間
第6回	**第１課　「私は学生です」** 動詞「是」の特徴や使い方、文型を使って置き換え練習します。 会話文を練習⇒２人ペアを組んでロールプレイ練習。 チャレンジの練習を講師といっしょに練習します。	日本語訳、発音動画の作成	1時間
第7回	**第２課　動詞述語文　「ごはんを食べる、あなたは何をのみますか？」** 第２課のポイントを逐一解説、練習します。 １．ご飯を食べる､コーヒーを飲む…動詞述語文 ２．あれは辞書ではありません…指示代名詞文 ３．これは誰の本ですか…疑問詞文 ４．これは父のメガネです…所有を表す｢的｣を解説＆練習。	日本語訳、発音動画の作成	1時間
第8回	**第２課　スキット「あなたは何がすきですか」** 動詞文の特徴や使い方を復習しながら、文型を使って置き換え練習していきます。 会話文を練習してから２人ペアを組んでロールプレイトレーニングをします。	日本語訳、発音動画の作成	1時間
第9回	**中間試験（１）筆記＆ 第３課　形容詞述語文「今日は忙しいですか」** 中間試験（１）筆記テストを行います。 形容詞述語文の特徴と他のポイントを解説し、練習します。	日本語訳、発音動画の作成	1時間
第10回	**第３課スキット「今日は忙しいですか」&自己紹介** 第３課スキット（本文）を解説、練習、ロールプレイトレーニングをします。 自己紹介の練習	日本語訳、発音動画の作成	1時間
第11回	**自己紹介の練習& 第４課「あなたはどこに住んでいる？」**	日本語訳、発音動画の作成	1時間

	前週につづき、自己紹介を練習し、次回の中間試験（２）の時に発表してもらいます。 すでに習ったところを見直し、ロールプレイトレーニングをします。 第４課のポイントを解説＆置き換え練習してから、スキットの本文に進みます。		
第12回	**中間試験（２）＆自己紹介の発表** 中間試験（２）筆記試験＆自己紹介発表 第１課～第４課のおさらい	練習問題	1時間
第13回	**第５課　数の数え方および物の数え方＆疑問詞「この辞書はいくらですか？」** 第５課のポイントを解説、練習してからスキットの本文に進みます。 本文を２人ペアを組んでロールプレイトレーニングをします。	日本語訳、発音動画の作成	1時間
第14回	**第６課のポイント ＆ 総復習** 第６課のポイントを解説、練習してから第１課～第５課のスキットを読む練習。 会話によく使うさまざまな決まり文句が教科書に出ていますので、しっかりと覚えましょう。	総復習	1時間

111

授業科目名	**中国語入門Ⅱ**				
担当教員名	和泉ひとみ				
学年・コース等	1～4年	開講期間	後期	単位数	1
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の概要					

授業概要

前期までの中国語（１）を習得済みであること。
「相手を知ることこそ、共存共栄ができる」のが目標とします。
１３億の人口をもつ中国と中国以外の中国語圏の人々とのコミュニケーションを通じて、互いに手をとり共存共栄が実現できます。
この授業の最初の４回は、以前習った中国語の発音や発音に関する様々なルールを確認しながら練習し、第１課から第４課は復習の範囲とし、第５課より進み、日常会話のレベルアップを目指します。
また、実践できるために、授業内での暗記発表や文章を作る発表する機会を増やしていきます。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. 全学DP１.幅広い教養やスキル	語学力を高めていくこと	語学力を高める、専門的知識を習得することにより、さらに視野を広げることができる。
汎用的な力		
1. 全学DP８.意思疎通		積極性および創造力を養う よりよい社会性とコミュニケーション力をもつことができる

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
・問答法・コメントを求める
・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
・シミュレーション型学習(ロールプレイ、ゲーム型学習など)

課題や取組に対する評価・振り返り

・実習や実技に対して個別にコメントします
・提出物にコメント・評価をつけて返却します
・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

授業へは原則としてすべて出席してください。何らかの事情で欠席する場合は、シラバスや授業内での配布資料を参照し、自学により内容を確認し、必要な課題に取り組むようにしてください。なお、資格・免許取得に必要な科目は、単位修得に必要な授業時間数が定められている場合がありますので、注意してください。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
授業への積極的参加度	30 %	： 授業態度：教師の指示に従い、積極的に活動をする。グループ、ペアで協力しながら活動するなどの項目において、５段階で評価する
授業内テストおよび課題の提出	35 %	： 授業内テスト：毎回授業のあとに行う１０問の小テスト。 課題提出：指示された範囲の教科書内のスキットを書き写す。
中間試験(２回)および期末試験	35 %	： 中間試験：復習するための筆記試験（100点満点）＋自己紹介の発表 期末試験：指定した範囲の筆記試験（100点満点）＋各課本文の読み

使用教科書

指定する

著者	タイトル	出版社	出版年
本間史 ・ 孟広学	・ 中国語ポイント42	・ 白水社	・ 2023 年

参考文献等

ISBN 9784560069080

履修上の注意・備考・メッセージ

本授業は1単位の科目であるため、平均すると毎回１時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：　初回授業で案内します

場所：　初回授業で案内します

授業計画

		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**発音の復習＆練習** 授業前に授業範囲を必ず予習してきてください。 発音ルールを確認しながら声調と組み合わせて積極的に声を出して練習する。 授業範囲：P.8〜P.13 授業内テスト（筆記）を行います。	学習した内容を復習し、単語部分（P.11&P.13）を暗記し、次回に発表する	1時間
第2回	**第１課〜第２課の復習** 全員P.11とP.13を口頭で発表します。 第１課〜第２課の文法ポイントを復習し、学生1人１人ポイントの文型に文章を作ってみる。 そして本文を読んだあと、ペアを組んでロールプレイします。 授業内テストを行います。（出てきた単語の漢字、発音記号と意味を書く）	第１〜２課のスキットを熟読 ＆ 第３課を予習	1時間
第3回	**第３課の復習** 第１課と第２課のスキットを全員暗唱発表 第３課の文法ポイントを復習し、学生１人１人ポイントの文型に文章を作ってみる。 そして本文を読んだあと、ペアを組んでロールプレイします。 授業内テストを行います。（第２回授業と同じ方式）	第３課スキットを熟読＆ 第４課を予習	1時間
第4回	**第４課の復習** 第３課のスキットを全員発表 第４課の文法ポイントを復習し、学生１人１人ポイントの文型を文章作ってみる。 そして本文を読んだあと、ペアを組んでロールプレイします。 プリントを配布「自己紹介」を練習し暗記する。 ＊第４回からルーズリブで教科書の内容を書き写します（書き方は授業中に指示する）。	次週に課題提出　第４課（P.26.27.28.29） &第４課スキット暗記する	1時間
第5回	**自己紹介の発表＆おさらい** 「自己紹介」の発表 第４課のスキット発表。 授業内テストを行います。 ＊来週は復習筆記テスト（リスニングも含む）をします。 範囲：今まで授業した部分。	授業した内容を復習する	1時間
第6回	**第５課　「この辞書はいくらですか？」** 第５課の文法ポイントを復習したあと、学生１人１人ポイントの文型に文章を作ってみる。 そしてスキットを解説、練習したあとペアを組んでロールプレイします。 授業内テストを行います。	次週に課題提出第5 課（P.30.31の２ページ） &第５課スキット熟読する	2時間
第7回	**第５課発表・第６課** 第５課の本文を全員発表。 第６課　ポイント解説してからいっしょに練習を考えます。 授業内テストを行います。	授業内容を復習する ＆第６課のスキットを予習	2時間
第8回	**第６課　スキット「あなたの誕生日はいつ？」** 第６課のスキットを解説、練習のあとはペアを組んでロールプレイします。 「数の応用」で遊ぼう！　学生全員参加しますーーー 　たとえば、A:あなたの誕生日はいつ？/ B:答える。/ C:聞き取る。 また、今日は何月何日、何曜日？　あなたの電話番号の最後４桁は何番ですか？、、、 授業内テストを行う。	次週課題提出第６課のチャレンジと本文（P.36.37）	2時間
第9回	**第７課**	次回の中間試験のために勉強する	2時間

	第７課ポイントを解説、練習、チャレンジの練習問題をいっしょに考えましょう。 スキットに進みます。 授業内テストを行います。 ＊次週は中間試験のため、テスト勉強してください。（範囲は授業中指示する）		
第10回	**中間試験（１） ＆ 第７課のスキット** 中間試験（１）筆記試験（リスニングを含む） 第７課スキットを解説、練習したあと、ペアを組んでロールプレイします。 次週課題を提出する。	次週提出第７課のチャレンジ＆本文（P.40、41)を書く&スキットを熟読する。	2時間
第11回	**第８課　リスニング** 第７課のスキット（本文）を１人１人読みます。 第８課のポイントを解説、練習、チャレンジの練習をいっしょに考えましょう。 リスニングの練習（１）最初は単語から。 授業内テストを行います。	第８課のスキット予習する	2時間
第12回	**第８課　スキット「あなたの発音はすごくいい！」** 第８課のスキットを解説、練習のあと、ペアを組んでロールプレイします。 短かい文章のリスニング練習。	次週提出第８課のチャレンジ、本文を書く（P.44.45)＆第8課本文熟読する	2時間
第13回	**第６課～第８課おさらい** 第８課のスキットを１人１人読む発表。 第６課～第８課まで各課のポイントと本文を読む練習する。 短かい文章をリスニングを練習する。	授業した内容を復習する＆次週は第５課～第８課の文章を読む発表	2時間
第14回	**総復習＆本文の読む発表** 本文を読む発表（第５課～第８課） 総復習 ＊期末試験（筆記ーー授業中提示する）を準備	次回の期末発表のための総復習をする。	2時間

111

授業科目名	フランス語入門Ⅰ				
担当教員名	東出加奈子・渋谷直樹・黒田恵梨子				
学年・コース等	1～4年	開講期間	前期／後期	単位数	1
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の概要					

授業概要

はじめてのフランス語
はじめてフランス語を学ぶ人を対象とした授業。「クールジャパン」をテーマにした教科書を用い、ビデオを見ながら生きたフランス語を学習します。授業ではフランス語の発音、挨拶の仕方、初歩的な語彙や文法を学習するとともに、簡単な聞き取りや口頭練習なども行います。また随時、プリントやＣＤ、ＤＶＤなどを用いて、フランスの文化や歴史、芸術、さらにフランス人の生活についての紹介も行ない、フランス文化についての理解も深めていきます。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. 全学DP１.幅広い教養やスキル	語学力：フランス語、フランスの社会・文化に関する初歩的な知識を身につける.	初歩的な発音、語彙、文法、フランスの歴史・地理、日常の生活習慣や文化に触れ、国際的な感覚を養う.
汎用的な力		
1. 全学DP８.意思疎通		外国語修得において言語コミュニケーションスキルを身につけることができる.
2. 全学DP10.忠恕の心		道徳と思いやりを持ち、真剣に取り組む姿勢を身につけることができる.

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・実験、実技、実習
・問答法・コメントを求める
・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

・実習や実技に対して個別にコメントします
・実技・実習後、全体に向けてコメントします

成績評価

注意事項等

授業へは原則としてすべて出席してください。何らかの事情で欠席する場合は、シラバスや授業内での配布資料を参照し、自学により内容を確認し、必要な課題に取り組むようにしてください。なお、資格・免許取得に必要な科目は、単位修得に必要な授業時間数が定められている場合がありますので、注意してください。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
到達確認前半テスト	30 %	綴りと発音との関係、基本的な挨拶、基礎的な語彙や文法などを正確に理解し、また表現できるかどうか
到達確認後半テスト	30 %	綴りと発音との関係、基本的な挨拶、基礎的な語彙や文法などを文字で、また音声で正確に理解し、また表現できるかどうか
授業内の小テストや口頭での演習	20 %	継続的に予習、復習を重ねて、各回の授業内を着実に身につけているかどうかを筆記および口頭で確認する
期末レポート	20 %	15回の授業終了後に授業を振り返り、基礎的な文法を理解しているかどうか、レポートにまとめることにより、到達度を確認する

使用教科書

指定する

著者	タイトル	出版社	出版年
藤田裕二	・『パリのクール・ジャパン』	・朝日出版社	・2011　年

参考文献等

授業内で必要に応じて適宜指示します。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は１単位の科目であるため、平均すると毎回１時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

フランス語は初習の外国語なので、授業に規則的に出席し、また授業外の時間にしっかり復習を行うことが絶対条件となります。フランス語の音に慣れ親しむために、日頃から教科書付属のＣＤを活用しましょう。また、フランス語の映画や音楽を積極的に見聞きしましょう。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 東出　水曜３時限

場所： 東出研究室（西館４階）

備考・注意事項： 東出担当クラス：水曜4限　研究室（西館４階）
黒田担当クラス：初回授業時にお知らせします
渋谷担当クラス：初回授業時にお知らせします

授業計画

		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**第０課　フランス語の音と文字** 授業の説明 フランス語のアルファベットと発音の基本、初歩的なあいさつなどについて学びます。	教科書pp. 2～5　アルファベットと綴りを覚えてください	1時間
第2回	**第１課　二人の出会い（第１課・前半）** 主語人称代名詞、動詞 etre（～です）の活用について学びます。	教科書pp. 6～7の練習問題をしてください	1時間
第3回	**第１課　二人の出会い（第１課・後半）** 国籍の言い方について学びます。 第１課の練習問題に取り組みます。	第１課　復習用配布プリントで理解を深めてください	1時間
第4回	**第２課　自己紹介をする（第２課・前半）** 規則動詞の活用、形容詞について学びます。 会話の練習をします。	教科書pp. 10～11の練習問題をしてください	1時間
第5回	**第２課　自己紹介をする（第２課・後半）** 名前の言い方について学びます。 第２課の練習問題に取り組みます。	第２課　復習用配布プリントで理解を深めてください	1時間
第6回	**第３課　好きなものを言う（第３課・前半）** 名詞の性・数と定冠詞、疑問文の作り方について学びます。 会話文を作成し、会話の練習をします。	教科書pp. 14～17の練習問題をしてください	1時間
第7回	**第３課　好きなものを言う（第３課・後半）** 自分の好みの言い方、聞き方について学びます。 第３課の練習問題に取り組みます。	第３課　復習用配布プリントで理解を深めてください	1時間
第8回	**スランス語の性・数について　前半の到達度確認テストと解説** 男性名詞・女性名詞による動詞の活用と形容詞の特徴を理解します。学期前半の学習の到達度をワークシート演習により確認します。その解説を聞き、授業全体を振り返ることで、学習内容を確実に身につけます。	前半の復習（教科書p17まで）で理解度を確認してください	1時間
第9回	**第４課　これは何ですか？（第４課・前半）** 疑問代名詞、不定冠詞と指示代名詞について学びます。 日常よく使う物の用いて会話の練習をします。	教科書pp. 18～21の練習問題をしてください	1時間
第10回	**第４課　これは何ですか？（第４課・後半）** 目の前にあるものについて尋ねたり、答えたりする方法について学びます。 第４課の練習問題に取り組みます。	第４課　復習用配布プリントで理解を深めてください	1時間
第11回	**第５課　ここはどこ？（第５課・前半）** 否定文、場所の尋ね方、位置表現について学びます。 会話の練習をします。	第５課　復習用配布プリントで理解を深めてください	1時間
第12回	**第５課　ここはどこ？（第５課・後半）　第６課　年齢の話（第６課・前半）** 疑問副詞について学びます。第５課の練習問題に取り組みます。 動詞 avoir（持っている）の活用、職業を表す名詞について学びます。	教科書pp. 22～29の練習問題をしてください	1時間
第13回	**第６課　年齢の話（第６課・後半）** 年齢の言い方、疑問形容詞について学びます。 第６課の練習問題に取り組みます。	第６課　復習用配布プリントで理解を深めてください	1時間
第14回	**後半の到達度確認テストと解説　DVDによる聞き取り演習**	学期の総復習を行い課題を作成してください	1時間

学習の到達度を確認します。解説を聞き、授業全体を振り返ることで、学習内容を確実に身につけます。DVDを通して発音と聞き取りの理解度を確認し、リスニング力を高めます。		

111

授業科目名	フランス語入門Ⅱ				
担当教員名	東出加奈子				
学年・コース等	1～4年	開講期間	前期	単位数	1
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の概要					

授業概要

初級のフランス語
「フランス語入門１」の単位修得者を対象としたクラスです。ビデオ教材も活用しつつフランス語による生きたコミュニケーションのための基礎を固めていきます。授業では、聞き取りや口頭練習なども取り入れ、一歩進んだ語彙、文法などを確実に身につけていきます。実用フランス語技能検定（５級）に合格するレベルを目指します。また随時、プリントやＣＤ、ＤＶＤなどを用いて、フランスの文化や歴史、芸術、さらにフランス人の生活についての紹介も行ない、フランス文化についての理解も深めていきます。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. 全学DP１.幅広い教養やスキル	語学力：フランス語、フランスの社会と文化に関する初歩的な知識を身につける.	初歩的な発音、語彙、文法、フランスの歴史・地理、日常の生活習慣や文化に触れ、国際的な感覚を養う.
汎用的な力		
1. 全学DP８.意思疎通		外国語修得において言語コミュニケーションスキルを身につけることができる.
2. 全学DP10.忠恕の心		道徳と思いやりを持ち、真剣に取り組む姿勢を身につけることができる.

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・実験、実技、実習

・問答法・コメントを求める

・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

・実習や実技に対して個別にコメントします

・実技・実習後、全体に向けてコメントします

成績評価

注意事項等

授業へは原則としてすべて出席してください。何らかの事情で欠席する場合は、シラバスや授業内での配布資料を参照し、自学により内容を確認し、必要な課題に取り組むようにしてください。なお、資格・免許取得に必要な科目は、単位修得に必要な授業時間数が定められている場合がありますので、注意してください。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
到達度確認前半テスト	30 %	： 綴りと発音との関係、基本的な挨拶、基礎的な語彙や文法などを正確に理解し、また表現できるかどうか
到達度確認後半テスト	30 %	： 綴りと発音との関係、基本的な挨拶、基礎的な語彙や文法などを文字で、また音声で正確に理解し、また表現できるかどうか
授業内の小テストや口頭での演習	20 %	： 継続的に予習、復習を重ねて、各回の授業内を着実に身につけているかどうかを筆記および口頭で確認する
期末レポート	20 %	： 15回の授業終了後に、授業全体を振り返り、基礎的な文法を理解しているかどうか、レポートにまとめることにより、到達度を確認する

使用教科書

指定する

著者	タイトル	出版社	出版年
藤田裕二	・『パリのクールジャパン』	・朝日出版社	・2011　年

参考文献等

授業内で必要に応じて適宜指示します。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は１単位の科目であるため、平均すると毎回1時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

「フランス語入門１」単位修得者を対象としたクラスです。フランス語の音に慣れ親しむために、日頃から教科書付属のＣＤを活用しましょう。また、フランス語の映画や音楽を積極的に見聞きしましょう。授業では、最小限必要な文法事項の解説やテキストの訳読も行いますが、可能な限り、発音練習、音声の聞き取り、音読など、口頭での身体的なトレーニングに十分時間を割きたいと思います。継続的な学習によってのみ語学力はアップします。受講者には日常的なフランス語学習を義務づけます。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 水曜　２限

場所： 研究室（西館４階）

備考・注意事項： Google ClassroomのGmail にていつでもお送りください。

授業計画		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	Introduction Lecon 0　あいさつ　フランス語入門Ｉの能力の現状を確認します フランス語の発音を確認します。聞き取りで語彙を学びます。	教科書pp. ３～４の発音練習をしてください	1時間
第2回	第１課　第２課　第3課　フランス語初歩のおさらい（１）　Lecon 1-3 国籍を言う、元気かどうかを聞く、アルファベ、数字（１～10）を確認します。 自己紹介します。聞き取りで語彙を学びます。 規則動詞の活用を確認します。不定冠詞と指示代名詞を確認します。 聞き取りで語彙を学びます。	教科書pp. 6～16の発音練習をしてください	1時間
第3回	第４課　第５課　第６課　フランス語初歩のおさらい（２）　Lecon 4-6 職業、住んでいるところについて言う、数字（11～30）を、年齢を確認します。 聞き取りで語彙を学びます。 否定形、疑問副詞、～がある、の表現を確認します。	教科書pp. 18～28の発音練習をしてください	1時間
第4回	第７課　日本料理店に行く（第７課・前半） Lecon 7 - Tu n'as pas faim? 冠詞の種類を理解し、部分冠詞と定冠詞を学びます。	教科書pp. 30～31の練習問題をしてください	1時間
第5回	第７課　日本料理店に行く（第７課・後半） 食べ物と飲み物の語彙を学びます。日本料理店、フランス料理店での会話を練習します。 第７課の練習問題に取り組みます。	第７課　復習用配布プリントで練習問題をしてください	1時間
第6回	フランス旅行を想定した会話　到達度確認前半テスト 口頭表現による会話の達成度を確認します。学期前半の学習の到達度を確認します。その解説を聞き、授業全体を振り返ることで、学習内容を確実に身につけます。	教科書p. 33までの理解度を確認してください	1時間
第7回	第８課　布団が好き Lecon 8 - Ma soeur dort dans un futon. 所有形容詞を学びます。 第８課の練習問題に取り組みます。	教科書pp. 34～36の練習問題をしてください	1時間
第8回	第９課　店で買い物をする Lecon 9 - Je voudrais acheter ～. 疑問副詞 combien. 指示形容詞、名詞の性・数による変化を学びます。 日用品の語彙を学び、買い物の会話を学びます。	教科書pp. 38～40の練習問題をしてください	1時間
第9回	第10課　私は行きたい Lecon 10 - Tu ne veux pas y aller? 中世代名詞 y　を学びます。月、曜日を学びます。 第10課の練習問題に取り組みます。	教科書pp. 42～44の練習問題をしてください	1時間
第10回	第11課　天候の話 Lecon 11 - Il fait chaud! 非人称構文を学びます。天候、時刻の表現を学びます。 第11課の練習問題に取り組みます。	教科書pp. 46～48の練習問題をしてください	1時間
第11回	第12課　美術館に行く Lecon 12 - C'est magnifique, cet ukiyo-e! 美術館での会話を学びます。色の形容詞、複合過去形?を学びます。 第12課の練習問題に取り組みます。	教科書pp. 50～52の発音を練習してください	1時間
第12回	第13課　バカンス Lecon 13 - Beaucoup de gens sont partis en vacances. パリのバカンス中での会話を学びます。複合過去形?、疑問副詞を学びます。 第13課の練習問題に取り組みます。	教科書pp. 54～56の発音を練習してください	1時間

第13回	**第14課　ユミの帰国** Lecon 14 - Je rentrerai au Japon. フランスから日本に帰国する会話を学びます。感嘆文を学びます。 第14課の練習問題に取り組みます。	教科書pp. 58～60の発音を練習してください	1時間
第14回	**後半の到達度確認テストと解説　フランス語でプレゼンテーション** フランス語でプレゼンテーション・会話を行うことにより達成度を確認します。学習の達成度を確認テストにより確認します。解説を聞き、授業全体を振り返ることで、学習内容を確実に身につけます。	学期の総復習を行いレポートを作成してください	1時間

111

授業科目名	韓国語入門Ⅰ				
担当教員名	李炫淨				
学年・コース等	1～4年	開講期間	前期／後期	単位数	1
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の概要					

授業概要

本科目では、韓国語を初めて学ぶ学生を対象に、韓国語の読み、書き、聞き、話すための基礎的な運用能力を身につけることを目標とします。まず、文字と発音の学習から始まり、基礎的な語彙と文法の学習へと進みます。口頭での反復練習を中心に、基礎的な会話を学んでいきます。最終的には韓国語であいさつや簡単な自己紹介、旅行などで韓国に行ったとき簡単な会話ができるようになることを目指します。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. 全学DP１.幅広い教養やスキル	韓国語の文字であるハングルの読み、書きに関しての勉強。	韓国語の文字であるハングルの読み、書きができるようになる。
汎用的な力		
1. 全学DP８.意思疎通		韓国語であいさつや簡単な自己紹介ができるようになる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)

・シミュレーション型学習(ロールプレイ、ゲーム型学習など)

課題や取組に対する評価・振り返り

・提出物にコメント・評価をつけて返却します

成績評価

注意事項等

授業へは原則としてすべて出席してください。何らかの事情で欠席する場合は、シラバスや授業内での配布資料を参照し、自学により内容を確認し、必要な課題に取り組むようにしてください。なお、資格・免許取得に必要な科目は、単位修得に必要な授業時間数が定められている場合がありますので、注意してください。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
期末テスト	40 %	： 14回行った授業の内容を基にテストを行う。その結果で評価する。
中間テスト	40 %	： 教科書の内容を基にテストを行う。その結果で評価する。
課題及び授業態度	20 %	： 課題の完成度と授業態度をもって評価する。

使用教科書

指定する

著者	タイトル	出版社	出版年
金京子／喜多恵美子	・パランセ韓国語　初級　改定版	・朝日出版社	・2021　年

参考文献等

特に無し。
韓日・日韓辞書があれば準備すること。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は1単位の科目であるため、平均すると毎回1時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：　1回目の授業時に説明します。

場所：　授業の教室

授業計画		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**オリエンテーション及び母音字[1] [2]の習得** ・授業の流れと韓国語や韓国の文字について簡単な説明をする。 ・基本母音字14個を勉強する。	教科書pp. 6~11までの授業内容の復習、及び練習問題を解いてみること。	1時間
第2回	**子音字[1] [2]の習得** ・母音字の復習及び子音字9個を勉強する。	教科書pp. 12~15までの授業内容の復習、及び練習問題を解いてみること。	1時間
第3回	**子音字[3] [4]の習得** ・子音字、主に平音、激音、濃音を中心に勉強する。	教科書pp. 18~21までの授業内容の復習、及び練習問題を解いてみること。	1時間
第4回	**母音字[3]の習得** ・合成母音字7個を勉強する。	教科書pp. 22~25までの授業内容の復習、及び練習問題を解いてみること。	1時間
第5回	**テスト①及び「有声音化パッチム及び無声音化パッチム」の習得** ・単語テストを行う。 ・音節末の子音(4種類のパッチム)について勉強する。	教科書pp. 26~30までの授業内容の復習、及び練習問題を解いてみること。	1時間
第6回	**発音のルール（連音化・濃音化・激音化・鼻音化）の習得** ・発音規則、主に連音化、濃音化、激音化、鼻音化について勉強する。	教科書pp. 31~33までの授業内容の復習、及び練習問題を解いてみること。	1時間
第7回	**発音のルール及び文字のハングル表記** 発音規則の復習及び日本の地名、人名をハングルで書く練習をする。	教科書pp. 31~35までの授業内容の復習、及び練習問題を解いてみること。	1時間
第8回	**テスト②及び第1課の「AはBですか？」「AはBです」表現を勉強する。** ・単語テストを行う。 ・「AはBですか？」、「AはBです」表現を学び、その表現を用いて会話練習をする。	教科書pp. 40~43までの授業内容の復習、及び練習問題を解いてみること。	1時間
第9回	**第2課の「～ではありません」「～ではなく」表現を勉強する。** ・「～ではありません」、「～ではなく」表現を学び、その表現を用いて会話練習をする。	教科書pp. 44~49までの授業内容の復習、及び練習問題を解いてみること。	1時間
第10回	**第1課と第2課の復習** 第1課と第2課の内容を復習する。	教科書pp. 40~49までの授業内容の復習、及び練習問題を解いてみること。	1時間
第11回	**テスト③及び第3課の「漢数字」「～しています」表現を勉強する。** ・中間テスト(第1課と第2課)を行う。 ・「漢数字」、「～しています」表現を学び、その表現を用いて会話練習をする。	教科書pp. 50~53までの授業内容の復習、及び練習問題を解いてみること。	1時間
第12回	**第4課の「ハムニダ体」「存在詞」について勉強する。** ・「ハムニダ体」、「存在詞」について学び、その表現を用いて会話練習をする。	教科書pp. 54~59までの授業内容の復習、及び練習問題を解いてみること。	1時間
第13回	**第5課の「年月日の言い方」について勉強する。** ・「年月日の言い方」について学び、その表現を用いて会話練習をする。	教科書pp. 60~63までの授業内容の復習、及び練習問題を解いてみること。	1時間
第14回	**第3課と第5課の復習及び前期のまとめ。** ・第3課と第5課の内容を復習する。	期末テストに備えて勉強すること。	1時間

111

授業科目名	韓国語入門Ⅰ				
担当教員名	金蘭正				
学年・コース等	1～4年	開講期間	前期	単位数	1
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の概要					

授業概要

本講義では、韓国語を初めて学ぶ学生を対象に、韓国語の会話、文法、単語&表現、読む、話すという総合的能力を高めていくことに重点を置いて講義し、学習者同士がペアワークを通じて会話能力を修得できるようにします。各課ごとにリスニング練習を行うと共にリスニング能力の向上のため講義における使用言語の1/3は韓国語で行います。最終的には韓国語であいさつや簡単な自己紹介、旅行などで韓国に行ったときの簡単な会話ができるようになることを目指します。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. 全学DP１.幅広い教養やスキル	韓国語の文字であるハングルの読み、書きに関しての勉強。	韓国語の文字であるハングルの読み、書きができるようになる。
汎用的な力		
1. 全学DP８.意思疎通		韓国語であいさつや簡単な自己紹介ができるようになる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)

・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

授業へは原則としてすべて出席してください。何らかの事情で欠席する場合は、シラバスや授業内での配布資料を参照し、自学により内容を確認し、必要な課題に取り組むようにしてください。なお、資格・免許取得に必要な科目は、単位修得に必要な授業時間数が定められている場合がありますので、注意してください。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
課題・受講態度	30 %	： 評価の基準；課題の完成度と授業態度で評価する。
中間テスト	30 %	： １．授業で学んだ韓国語の基礎に対する理解度を「読む・書く・聴く・話す」という観点から評価する。２．授業で学んだ韓国語の表現を自分のものとして活用できるか、その達成程度を評価する。
期末テスト	40 %	： １．授業で学んだ韓国語の基礎に対する理解度を「読む・書く・聴く・話す」という観点から評価する。２．授業で学んだ韓国語の表現を自分のものとして活用できるか、その達成程度を評価する。

使用教科書

指定する

著者	タイトル	出版社	出版年
鄭勛燮・申昌鉉	・ アクティビティな韓国語	・ 朝日出版社	・ 2013 年

参考文献等

適宜提示する。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は1単位の科目であるため、平均すると毎回1時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 火曜日3限

場所： 研究室（西館2階）

備考・注意事項： 質問は授業の前後にも答えるが、メールでも対応する。
アドレス：kim-r@g.osaka-seikei.ac.jp
メールには必ず氏名と学籍番号を書くこと。

授業計画

		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**ガイダンス・韓国の基礎知識** 学習内容や評価方法、受講においての注意事項などについて説明したうえで、韓国の基礎知識を確認する。	事前にシラバスを熟読し、授業についての見通しを持つ。	1時間
第2回	**ハングル文字の仕組み** ハングルの構成を理解し、母音と子音を覚える。	子音と母音について復習する。	1時間
第3回	**ハンブル文字仕組みの応用および挨拶表現** 自分の名前をハングルで書いてみる。基本的な挨拶について触れる。	ハングルでの自分の名前を覚える。	1時間
第4回	**第１課　～は、～です、～ですか** 日本語の助詞「～は」と「名刺＋です、ですか」に相当する韓国語表現について学ぶ。	「名詞＋です」の表現を覚える。	1時間
第5回	**第2課　～です/ですか、誰？** 日本語の「～です/ですか」のやわらかい表現と「誰？」に相当する韓国語表現について学ぶ。	「名詞+ですか？」の表現を覚える。	1時間
第6回	**第3課　～と申します/～と言います** 日本語の「～と申します/～と言います」に相当する韓国語表現について学ぶ。	「名前+と申します」の表現を覚える。	1時間
第7回	**第４課　～ではありません** 日本語の「名詞+ではありません」、「名詞+ではありませんか」に相当する韓国語「ハムニダ体」表現について学ぶ。	「名詞+ではありません」の「ハムニダ体」を覚える。	1時間
第8回	**第5課　～です、～ます、～ですか、～ますか** 日本語の「～です、～ます」と「～ですか、ますか」に相当する韓国語表現について学ぶ。	動詞・形容詞の語幹に付いて、かしこまった場で使う丁寧な表現であることを覚える。	1時間
第9回	**Reviewと中間テスト** 今迄の授業内容を振り返り、中間テストを実施する。	現在までの授業ノートを取りまとめる。	1時間
第10回	**映像による韓国語の学び。** 映像をみながら、韓国語に触れてみる。	映像で聞き取れた韓国語を覚えてる。	1時間
第11回	**第６課　～が、私、（この、その、あの、どの）** 日本語の「～が」に相当する韓国語表現と名詞の前に付いて、その名詞を指し示す役割をする指示代名詞について学ぶ。	「この、その、あの、どの、＋名詞」を覚える。	1時間
第12回	**第7課　（いる、ある）、（いない、ない）、いらっしゃる** 日本語の「いる、ある」に相当する韓国語表現とその否定形・尊敬語について学ぶ。	「いる、ある」の表現を覚える。	1時間
第13回	**第8課　～へ行く、（～にある・いる）** 進行の方向を表す助詞と場所を表す指示代名詞、方向を表す指示代名詞について学ぶ。	場所や方向を表す指示代名詞を覚える。	1時間
第14回	**第9課　～られます、お～になります、動詞の活用** 動詞や形容詞の語幹に付く尊敬表現と動詞の不規則活用について学ぶ。	動詞や形容詞の尊敬表現を覚える。	1時間

111

授業科目名	**韓国語入門Ⅰ**				
担当教員名	李貞淵				
学年・コース等	1～4年	開講期間	前期／後期	単位数	1
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の概要					

授業概要

本授業では、韓国語を初めて学ぶ学生を対象に、韓国語を読み、書き、聞き、話すための基礎的な運用能力を身につけることを目標とします。まず、文字と発音の学習から始まり、基礎的な語彙と文法の学習へと進みます。口頭での反復練習を中心に、基礎的な会話を学んでいきます。最終的には韓国語であいさつや簡単な自己紹介、旅行などで韓国に行ったとき簡単な会話ができるようになることを目指します。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. 全学DP１.幅広い教養やスキル	韓国語の文字であるハングルの読み、書きに関しての勉強。	韓国語の文字であるハングルの読み、書きができるようになる。
汎用的な力		
1. 全学DP８.意思疎通		韓国語であいさつや簡単な自己紹介ができるようになる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)

・シミュレーション型学習(ロールプレイ、ゲーム型学習など)

課題や取組に対する評価・振り返り

・提出物にコメント・評価をつけて返却します

成績評価

注意事項等

授業へは原則としてすべて出席してください。何らかの事情で欠席する場合は、シラバスや授業内での配布資料を参照し、自学により内容を確認し、必要な課題に取り組むようにしてください。なお、資格・免許取得に必要な科目は、単位修得に必要な授業時間数が定められている場合がありますので、注意してください。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
期末テスト	40 %	： 14回行った授業の内容を基にテストを行う。その結果で評価する。
小テスト	40 %	： 教科書の内容を基に小テストを行う。その結果で評価する。
課題及び授業態度	20 %	： 課題の完成度と授業態度をもって評価する。

使用教科書

指定する

著者	タイトル	出版社	出版年
金京子／喜多恵美子	・ パランセ韓国語　初級　三訂版	・ 朝日出版社	・ 2021　年

参考文献等

特に無し。
韓日・日韓辞書があれば準備すること。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は一単位の科目であるため、平均すると毎回1時間の授業外学修が求められる。「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 一回目の授業の時に説明します。

場所： 授業の教室

授業計画		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**韓国語とは何か。** 授業の流れと韓国語や韓国語の文字について簡単な説明をする。 また、韓国語の基本母音字について勉強する。	教科書pp. 8~11までの授業内容の復習、及び練習問題を解いてみること。	1時間
第2回	**子音字の習得①－平音を中心に** 韓国語の基本母音字復習及び韓国語の子音字について勉強する。	教科書pp. 12~17までの授業内容の復習、及び練習問題を解いてみること。	1時間
第3回	**小テスト及び子音字の習得②－激音・濃音を中心に** 韓国語の子音字、主に激音と濃音について勉強する。	教科書pp. 18~21までの授業内容の復習、及び練習問題を解いてみること。	1時間
第4回	**合成母音字の習得** 合成母音字及びすべての母音を復習する。	教科書pp. 22~25までの授業内容の復習、及び練習問題を解いてみること。	1時間
第5回	**小テスト及び音節末の子音(パッチム)の習得①** 音節末の一文字子音(パッチム)について勉強する	教科書pp. 26~29までの授業内容の復習、及び練習問題を解いてみること。	1時間
第6回	**音節末の子音(パッチム)の復習②** 音節末の二文字子音(パッチム)について勉強する。	教科書pp. 26~30までの授業内容の復習、及び練習問題を解いてみること。	1時間
第7回	**発音規則①－連音化・ㅎの弱化など** 発音規則、主に、連音化、ㅎの弱化について勉強する。	教科書pp. 31~32までの授業内容の復習、及び練習問題を解いてみること。	1時間
第8回	**発音規則②－激音化・鼻音化など** 発音規則、主に、激音化、鼻音化などについて勉強する。	教科書pp. 33~37までの授業内容の復習、及び練習問題を解いてみること。	1時間
第9回	**小テスト及び第1課の表現の習得** 「AはBですか？」、「AはBです」表現を学び、その表現を用いて会話練習をする。	教科書pp. 40~43までの授業内容の復習、及び練習問題を解いてみること。	1時間
第10回	**第2課の表現の習得** 第2課の「～ではありません」、「～ではなく」表現を勉強する。	教科書pp. 44~45までの授業内容の復習、及び練習問題を解いてみること。	1時間
第11回	**第3課の表現の習得** 第2課の会話練習及び第3課の「漢数字」、「～しています」表現を勉強する。	教科書pp46~50までの授業内容の復習、及び練習問題を解いてみること。	1時間
第12回	**第4課の表現の習得①** 第3課の会話練習及び第4課の「ハムニダ体」について勉強する。	教科書pp. 52~54までの授業内容の復習、及び練習問題を解いてみること。	1時間
第13回	**第4課の表現の習得②** 「存在詞」について学び、第3課の表現を用いて会話練習をする。	教科書pp. 55~57までの授業内容の復習、及び練習問題を解いてみること。	1時間
第14回	**小テスト及び全体のまとめ** 第1課から第4課までの内容を復習する	期末テストに備えて勉強すること。	1時間

111

授業科目名	韓国語入門Ⅱ				
担当教員名	李炫淨				
学年・コース等	1～4年	開講期間	前期	単位数	1
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の概要					

授業概要

この授業は、主に韓国語入門1を履修した学生を対象に、韓国語を読み、書き、聞き、話すための基礎的な運用能力を身につけることを目標とします。まずは文字と発音の学習から始まり、基礎的な語彙と文法の学習へと進みます。口頭での反復練習を中心に、基礎的な会話を学んでいきます。最終的には韓国語であいさつや簡単な自己紹介、旅行などで韓国に行ったとき簡単な会話ができるようになることを目指します。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. 全学DP１.幅広い教養やスキル	韓国語の文字であるハングルを読み、書くことができるようにする。	あいさつや簡単な自己紹介ができるようになることを目指す。
汎用的な力		
1. 全学DP８.意思疎通		受講者が韓国語で簡単なコミュニケーションができるようになることを目指す。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)

・シミュレーション型学習(ロールプレイ、ゲーム型学習など)

課題や取組に対する評価・振り返り

・提出物にコメント・評価をつけて返却します

成績評価

注意事項等

授業へは原則としてすべて出席してください。何らかの事情で欠席する場合は、シラバスや授業内での配布資料を参照し、自学により内容を確認し、必要な課題に取り組むようにしてください。なお、資格・免許取得に必要な科目は、単位修得に必要な授業時間数が定められている場合がありますので、注意してください。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
期末テスト	40 %	： 14回行った授業の内容を基にテストを行う。その結果で評価する。
中間テスト	40 %	： 教科書の内容を基にテストを行う。その結果で評価する。
課題及び授業態度	20 %	： 課題の完成度と授業態度をもって評価する。

使用教科書

指定する

著者	タイトル	出版社	出版年
金京子／喜多恵美子	・ パランセ韓国語初級（三訂版）	・ 朝日出版社	・ 2021 年

参考文献等

特に無し。

履修上の注意・備考・メッセージ

1. 本科目は１単位の科目であるため、平均すると毎回1時間の授業外学修が求められる。
2. 「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。
3. 教科書がないと受講できない。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 1回目の授業の時に説明します。

場所： 授業の教室

授業計画		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**オリエンテーション及びハングルの読みテストを行う。** ・オリエンテーション及びハングルの読みテストを行う。 ・前期のまとめ(第1課～第5課)。	韓国語入門1で学んだ授業内容(第１課～第5課)を復習しておくこと。	2時間
第2回	**前期のまとめ(第1課～第5課)。** ・韓国語入門1で学んだ授業内容(第1課～第5課)を復習しておくこと。	教科書pp. 40~63までの授業内容の復習すること。	2時間
第3回	**第6課：私より2歳年下です。** ・「固有数詞」と「用言の否定形」について勉強する。	教科書pp. 64~67までの授業内容の復習、及び練習問題を解いてみること。	1時間
第4回	**第7課：授業は何時に終わりますか？** ・「～時～分」の言い方と「～しましょうか」の表現について勉強する。	教科書pp. 70~73までの授業内容の復習、及び練習問題を解いてみること。	1時間
第5回	**第8課：日本語学校には行かないのです。** ・用言の否定形と意志や推量を表す表現について勉強する。	教科書pp. 74~77までの授業内容の復習、及び練習問題を解いてみること。	1時間
第6回	**第6課～第8課の復習** ・第6課から第8課までの内容を復習する。	教科書pp. 64~79までの授業内容の復習、及び練習問題を解いてみること。	1時間
第7回	**中間テスト①及び第9課：「マンドゥ」がお好きですか？** ・中間テスト①を行う。 ・尊敬形に作り方について勉強する。	教科書pp. 80~83までの授業内容の復習、及び練習問題を解いてみること。	1時間
第8回	**第10課：民秀と一緒に一度来てください。** ・ヘヨ体の終結語尾について勉強する。	教科書pp. 84~89までの授業内容の復習、及び、練習問題を解いてみること。	1時間
第9回	**第11課：来年の春にまた来たいです。** ・ハダ用言のヘヨ体の終結語尾と「～したい」の表現について勉強する。	教科書pp. 90~93までの授業内容の復習、及び、練習問題を解いてみること。	1時間
第10回	**第9課～第11課の復習** ・第9課から第11課までの内容を復習する。	教科書pp. 80~93までの授業内容の復習すること。	1時間
第11回	**中間テスト②及び第12課：ひとついくらですか？** ・中間テスト②を行う。 ・指定詞のヘヨ体と「～してください」の表現について勉強する。	教科書pp. 94~99までの授業内容の復習、及び、練習問題を解いてみること。	1時間
第12回	**第13課：ご両親へのお土産は買いましたか？** ・用言の過去形について勉強する。	教科書pp. 100~103までの授業内容の復習、及び、練習問題を解いてみること。	1時間
第13回	**第14課：昨日地下鉄に乗っていました。** ・指定詞の過去形と「～しましょう」の表現について勉強する。	教科書pp. 104~107までの授業内容の復習、及び、練習問題を解いてみること。	1時間
第14回	**第12課～第14課の復習** ・第12課から第14課までの内容を復習する。	期末テストに備えて勉強すること。	1時間

111

授業科目名	韓国語入門Ⅰ				
担当教員名	金素辰				
学年・コース等	1～4年	開講期間	前期	単位数	1
授業形態	講習				
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の概要					

授業概要

本授業は韓国語を全く知らない学習者が基礎からしっかり学び、韓国の生活や文化を理解しながら基本的な日常会話ができることを目標としています。文字である「ハングル」や発音の修得からはじめ、基本文型や文法を学びながら「スピーキング、リスニング、リーディング、ライティング」の領域をバランスよく学習していきます。特に映像など様々な資料を用いて、初心者が韓国語を身近に感じ、より楽しく身につけることを目指します。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. 全学DP２.専門的知識・技能、職業理解	韓国語に関する知識(文字・語彙・文法・文型)	韓国語の文字・語彙・文法・文型などの知識を修得すると同時に、言語と文化的背景への理解ができる。
2. 全学DP３.専門的知識・技能を実践で応用する力	韓国語の表現技能(話す・聞く・読む・書く)	韓国語の表現技能(話す・聞く・読む・書く)を学び、実践的な場で適切なコミュニケーションができる。
汎用的な力		
1. 全学DP７.完遂		学習した単語や構文を指定した条件に適切に応用しながら課題を完成させることができる。
2. 全学DP８.意思疎通		韓国語を通じて異文化を理解し、違いと多様性を認め合い、互いを尊重するコミュニケーション能力が修得できる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
・問答法・コメントを求める
・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
・シミュレーション型学習(ロールプレイ、ゲーム型学習など)

課題や取組に対する評価・振り返り

・提出物にコメント・評価をつけて返却します
・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします
・その他(以下に概要を記述)

文字の学習の段階では毎回振り返りシートを使用し、学生相互で習得度を確認していく。

成績評価

注意事項等

授業へは原則としてすべて出席してください。何らかの事情で欠席する場合は、シラバスや授業内での配布資料を参照し、自学により内容を確認し、必要な課題に取り組むようにしてください。なお、資格・免許取得に必要な科目は、単位修得に必要な授業時間数が定められている場合がありますので、注意してください。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
定期試験(筆記)	30 %	： 前期の学習内容(韓国語に関する知識である文字・語彙・文型・文法など)の理解度・修得度を基準に評価します。
授業内小テスト(筆記)	30 %	： 確認のテストを3回行い、学習内容の理解度・修得度を基準に評価します。
授業内ワーク		： 授業でアクティブラーニング活動(単元の内容を中心とした書きや問答、読み、発表、ペアワークの会話、ゲーム型学習など)を行います。その結果の理解度・参加度・応用度などを基準に評価します。

20　%

課題物　：　学習内容の定着のための課題を出します。提出の可否と内容の完成度を基準に評価します。

20　%

使用教科書

指定する

著者	タイトル	出版社	出版年
西江(sogang)大学韓国語教育院	・New 西江韓国語 (SogangKorean)1A[日本語版]	・西江(sogang)大学国際文化教育院出版部	・2022　年

参考文献等

・『標準韓国語文法辞典』韓国国立国語院、アルク出版社、2012
・『どんどん身につく韓国語 語彙(単語)マスター編(日本語版)』オ・スンウン、多楽院、2014
・『New 西江韓国語(SogangKorean) 1A　Workbook』西江(sogang)大学韓国語教育院、西江(sogang)大学国際文化教育院出版部、2022

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は入門の段階であるだけに、文字を丁寧に書くこと、発音を正確にすること、対話練習に積極的に参加することに心がけてください。又本科目は1単位の科目であるため、平均すると毎回1時間以上の授業外学修が求められます。「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をしてください。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：　授業の前後

場所：　授業の教室

備考・注意事項：　授業の前後またはメールで対応します。
Ｅメール：haianksj@naver.com
学籍番号と氏名は必ず入れること。

授業計画

		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**【韓国語(ハングル)の紹介】、【ハングル第1課】(1)「母音1」と「挨拶表現」** ①韓国語(ハングル)の紹介ーハングルの起源や構造を理解していく。 ②基本母音６個と単語を学ぶ。 ③挨拶表現－初めて会った時の挨拶や日常会話の中の基本的な挨拶について学ぶ。 1.復習:「母音1」と単語を発音しながら書き、覚える(プリント)。『挨拶表現』を読みながら覚える。2.予習:次回の「子音1」(P16-17)を発音しながら書いてみる。	1.復習:「母音1」と単語を発音しながら書き、覚える(プリント)。『挨拶表現』を読みながら 覚える。2.予習:次回の「子音1」(P16-17)を発 音しながら書いてみる。	1時間
第2回	**【ハングル第1課】(2)「子音1」と「自己紹介の表現」** ①子音４個と単語を学ぶ。母音と子音の組み合わせを学ぶ。 ②自己紹介表現－初対面での挨拶や自己紹介でよく使われる文型を学び、実際に使えるように練習していく。 1.復習:「子音1」と単語を発音しながら書き、覚える(プリント)。『自己紹介表現』を読みながら覚える。2.予習:次回の「母音2」(P18)を発音しながら書いてみる。	1.復習:「子音1」と単語を発音しながら書き、覚える(プリント)。『自己紹介表現』を読みな がら覚える。2.予習:次回の「母音2」(P18)を発 音しながら書いてみる。	1時間
第3回	**【ハングル第2課】(1)「母音2」と「疑問表現1」** ①二重母音5個と単語を学ぶ。 ②事物について聞く「何ですか」の韓国語文型を学び、実際に使えるように練習していく。 ③名前のハングル表記について学び、自分と友達の名前をハングルで書き、読めるようにする。 1.復習:「母音2」と単語を発音しながら書き、覚える(プリント)。『疑問表現1』を読みながら覚える。2.予習:次回の「子音2・パッチム1」(P18-19)を発音しながら書いてみる。	1.復習:「母音2」と単語を発音しながら書き、覚える(プリント)。『疑問表現1』を読みながら 覚える。2.予習:次回の「子音2・パッチム1」 (P18-19)を発音しながら書いてみる。	1時間
第4回	**【ハングル第2課】(2)「子音2・パッチム1」と「疑問表現2」** ①子音5個・パッチム4個と単語を学ぶ。 ②場所について聞く「どこですか」の韓国語文型を学び、実際の場面で使えるように練習していく。 1.復習:「子音2・パッチム1」と単語を発音しながら書き、覚える(プリント)。『疑問表現2』を読みながら覚える。2.予習:次回の「母音3」(P20)を発音しながら書いてみる。	1.復習:「子音2・パッチム1」と単語を発音しながら書き、覚える(プリント)。『疑問表現2』を 読みながら覚える。2.予習:次回の「母音3」 (P20)を発音しながら書いてみる。	1時間
第5回	**【ハングル第3課】(1)「母音3」と「存在表現1」** ①二重母音5個と単語を学ぶ。 ②存在の有無を表す表現として「ーがいますか・いませんか」「ーがありますか・ありませんか」の韓国語文型を学び、実際の場面で使えるように練習していく。 1.復習:「母音3」と単語を発音しながら書き、覚える(プリント)。『存在表現1』を読みながら覚える。2.予習:次回の「子音3・パッチム2」(P20-21)を発音しながら書いてみる。	1.復習:「母音3」と単語を発音しながら書き、覚える(プリント)。『存在表現1』を読みながら 覚える。2.予習:次回の「子音3・パッチム2」 (P20-21)を発音しながら書いてみる。	1時間

第6回	**【ハングル第3課】(2)「子音3・パッチム2」と「存在表現2」** ①子音(激音)5個・パッチム5個と単語を学ぶ。 ②存在する場所や位置を聞く「どこにいますか・ありますか」などの韓国語文型を学び、実際の場面で使えるように練習していく。 1.復習:「子音3・パッチム2」と単語を発音しながら書き、覚える(プリント)。『存在表現2』を読みながら覚える。2.予習:次回の「母音4」(P22)を発音しながら書いてみる。	1.復習:「子音3・パッチム2」と単語を発音しながら書き、覚える(プリント)。『存在表現2』を 読みながら覚える。2.予習:次回の「母音4」 (P22)を発音しながら書いてみる。	1時間
第7回	**【ハングル第4課】(1)「母音4」と「漢数詞(電話番号)」** ①二重母音5個と単語を学ぶ。 ②漢数詞の韓国語表記や読みを覚え、韓国語で電話番号が言えるように練習していく。 1.復習:「母音4」と単語を発音しながら書き、覚える(プリント)。『漢数詞』を読みながら覚える。2.予習:次回の「子音4」(P22-23)を発音しながら書いてみる。	1.復習:「母音4」と単語を発音しながら書き、覚える(プリント)。『漢数詞』を読みながら覚 える。2.予習:次回の「子音4」(P22-23)を発音 しながら書いてみる。	1時間
第8回	**【ハングル第4課】(2)「子音4・パッチム3」と「固有数詞(単位)」** ①子音(濃音)5個・パッチム10個と単語を学ぶ。 ②固有数詞の韓国語表記や読みを覚え、韓国語でものが数えるように練習していく。 1.復習:「子音4・パッチム3」と単語を発音しながら書き、覚える(プリント)。『固有数詞』を読みながら覚える。	1.復習:「子音4・パッチム3」と単語を発音しながら書き、覚える(プリント)。『固有数詞』を 読みながら覚える。	1時間
第9回	**【ハングルの総復習】、【韓国語と日本語の比較】** ①母音21個、子音19個、総40個で構成されているハングル文字を全体的に復習し、完全に身につけるようにする。 ②韓国語と日本語の共通点や差を比較しながらまとめ、今後文型や文法を学んでいく上でのベースを構築しておく。 1.復習:ハングルが完全に自分のものになるように繰り返して覚える(プリント)。2.予習:次回の単語や会話を読んでくる(P26-27)。	1.復習:ハングルが完全に自分のものになるように繰り返して覚える(プリント)。2.予習:次回の 単語や会話を読んでくる(P26-27)。	1時間
第10回	**【準備1課】『お会いできてうれしいです』** ①[文法]－基本語尾「－です」、疑問詞「何、どの」、主題助詞「-は」に当る韓国語を学ぶ。 ②[会話1]－初対面の場で相手の名前と国籍を尋ねたり、自分の名前と国籍を答えたりする場面での会話を練習する。 [会話2]－初対面の場で相手の職業を尋ねたり、自分の職業を答えたりする場面での会話を練習する。 1.復習:自己紹介の文型(p25-27)、語彙(国名・職業名、p29)を読み書きしながら覚える。2.予習:次回の単語や会話を読んでくる(P34-35)。	1.復習:自己紹介の文型(p25-27)、語彙(国名・職業名、p29)を読み書きしながら覚える。2.予 習:次回の単語や会話を読んでくる(P34-35)。	1時間
第11回	**【準備2課】 『これは何ですか』** ①[文法]－指示代名詞「これ/それ/あれ」、疑問詞「誰」、所有格助詞「－の」に当る韓国語について学ぶ。 ②[会話1]－ものの名前を尋ねたり答えたりする場面での会話を練習する。 [会話2]－ものの所有者について尋ねたり答えたりする場面での会話を練習する。 1.復習:疑問表現(p31-35)、語彙(事物、p37)を読み書きしながら覚える。2.予習:次回の単語や会話を読んでくる(P42-43)。	1.復習:疑問表現(p31-35)、語彙(事物、p37)を読み書きしながら覚える。2.予習:次回の単語や 会話を読んでくる(P42-43)。	1時間
第12回	**【準備３課】 『コーヒーください』** ①[文法]－存在を表す「あります・ありません」文型、固有数詞「ひとつ、ふたつ...」、単位名詞「名、個、瓶、冊など」について学ぶ。 ②[会話1]－物の有無を聞いて注文する場面での会話を練習する。 [会話2]－物の有無やその数量を聞いて注文する場面での会話を練習する。 1.復習:存在表現(p40-43)、語彙(固有数詞、飲料p45)を読み書きしながら覚える。2.予習:次回の単語や会話を読んでくる(P50-51)。	1.復習:存在表現(p40-43)、語彙(固有数詞、飲料p45)を読み書きしながら覚える。2.予習:次回 の単語や会話を読んでくる(P50-51)。	1時間
第13回	**【準備４課】 『どこにありますか』** ①[文法]－主格助詞「－が」、[場所＋にあります・います]文型、場所につく助詞[－に]、疑問詞「どこ」について学ぶ。 ②[会話1]－人がいる場所を尋ねたり答えたりする場面での会話を練習する。 [会話2]－ある場所の位置を尋ねたり答えたりする場面での会話を練習する。 1.復習:存在する場所を言う表現(p49-51)、語彙(場所名p53)を読み書きしながら覚える。準備1～4までの文型をまとめる(プリント)。	1.復習:存在する場所を言う表現(p49-51)、語彙(場所名p53)を読み書きしながら覚える。準備1 ～4までの文型をまとめる(プリント)。	1時間
第14回	**【韓国文化とのふれあい】、【前期内容のまとめ】**	1.復習:前期に学習した語彙、文法、文型などをまとめて整理する(プリント)。	1時間

①前期に学習した語彙、文法、文型などを確認する。 ②韓国の文化とのふれあいを通じて異文化を理解し、分かち合う楽しさを味わいながら、互いを尊重するグローバル的なマインドの重要性について考えてみる。 1.復習:前期に学習した語彙、文法、文型などをまとめて整理する(プリント)。		

111

授業科目名	**韓国語入門Ⅱ**				
担当教員名	金素辰				
学年・コース等	1～4年	開講期間	後期	単位数	1
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の概要					

授業概要

本授業は「ハングル」や基本文法を学んだ学習者を対象に基本文型や文法をレベルアップし、日常的な韓国語コミュニケーション能力を向上することを目標としています。「スピーキング、リスニング、リーディング、ライティング」をバランスよく学習しつつ、実際に接する場面を重点的に取り上げ、自然で生きた韓国語を楽しく身につけていくことを目指します。又学習者の活動を増やし、知っている言語ではなく実際に使える言語に発展させていきます。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. 全学DP２.専門的知識・技能、職業理解	韓国語に関する知識(語彙・文法・文型)	韓国語に関する知識である語彙・文法・文型を修得し、基本的な日常会話ができる。
2. 全学DP３.専門的知識・技能を実践で応用する力	韓国語の表現技能(話す・聞く・読む・書く)	韓国語の表現技能(話す・聞く・読む・書く)を身につけ、実践的な場で適切なコミュニケーションができる。
汎用的な力		
1. 全学DP７.完遂		学習した単語や構文などを指定した条件に適切に応用しながら課題を完成させることができる。
2. 全学DP８.意思疎通		韓国語を通じて異文化を理解し、違いと多様性を認め合い、互いを尊重するコミュニケーション能力が修得できる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)

・問答法・コメントを求める

・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)

・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)

・シミュレーション型学習(ロールプレイ、ゲーム型学習など)

課題や取組に対する評価・振り返り

・提出物にコメント・評価をつけて返却します

・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

授業へは原則としてすべて出席してください。何らかの事情で欠席する場合は、シラバスや授業内での配布資料を参照し、自学により内容を確認し、必要な課題に取り組むようにしてください。なお、資格・免許取得に必要な科目は、単位修得に必要な授業時間数が定められている場合がありますので、注意してください。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
定期試験(筆記)	30 %	： 後期の学習内容(韓国語に関する知識である語彙・文型・文法など)の理解度・修得度を基準に評価します。
授業内小テスト(筆記)	30 %	： 確認のテストを3回行い、学習内容の理解度・修得度を基準に評価します。
授業内ワーク	20 %	： 授業でアクティブラーニング活動(単元の内容を中心とした書きや問答、読み、発表、ペアワークの会話、ゲーム型学習など)を行います。その結果の理解度・参加度・応用度などを基準に評価します。
課題物	20 %	： 学習内容の定着のための課題を出します。提出の可否と内容の完成度を基準に評価します。

使用教科書

指定する

著者	タイトル	出版社	出版年
西江(sogang)大学韓国語教育院	・New 西江韓国語 (SogangKorean)1A[日本語版]	・西江(sogang)大学国際文化教育院出版部	・2022 年

参考文献等

・『標準韓国語文法辞典』韓国国立国語院、アルク出版社、2012
・『どんどん身につく韓国語 語彙(単語)マスター編(日本語版)』オ・スンウン、多楽院、2014
・『New 西江韓国語(SogangKorean)1A Workbook』西江(sogang)大学韓国語教育院、西江(sogang)大学国際文化教育院出版部、2022

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は入門の段階であるだけに、文字を丁寧に書くこと、発音を正確にすること、対話練習に積極的に参加することに心がけてください。又本科目は1単位の科目であるため、平均すると毎回1時間以上の授業外学修が求められます。「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をしてください。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：　授業の前後

場所：　授業の教室

備考・注意事項：　授業の前後またはメールで対応します。
Eメール：haianksj@naver.com
学籍番号と氏名は必ず入れること。

授業計画

		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**【第1課 『電話番号が何番ですか』】(1)「文法」と「会話1・2」** ①[文法]－漢数詞、電話番号の読み書き方、日付(年月日)、疑問詞「何番、いつ、いくら」に当る韓国語について学ぶ。 ②[会話1]－電話番号を尋ねたり答えたりする場面での会話を練習する。 [会話2]－誕生日を尋ねたり答えたり、祝ったりする場面での会話を練習する。 1.復習：文型や本文(p56-59)、語彙(漢数詞p69)を読み書きしながら覚える。2.予習：次回の単語や本文を読んでくる(P62-63)。	1.復習：文型や本文(p56-59)、語彙(漢数詞p69)を読み書きしながら覚える。2.予習：次回の単 語や本文を読んでくる(P62-63)。	1時間
第2回	**【第1課『電話番号が何番ですか』】(2)「会話3」と「リーディング(読解)」** ①[会話3]－ものの値段を聞いて買い物する場面での会話を練習する。 ②[リーディング]－「家の電話番号が705-7189です」:電話番号を含んだ自己紹介文を読み、内容を理解する。 1.復習：文型や本文(p62-63),語彙(読解関連p69)をを読み書きしながら覚える。2.予習：次回の単語や本文を読んでくる(P67-69)。	1.復習：文型や本文(p62-63),語彙(読解関連p69)をを読み書きしながら覚える。2.予習：次 回の単語や本文を読んでくる(P67-69)。	1時間
第3回	**【第1課『電話番号が何番ですか』】(3)「リスニング(聴解)」,「第1課のまとめ」** ①[リスニング]－「5月26日が私の誕生日です」:電話をし、電話番号や誕生日を尋ねる会話を聞いて内容を理解する。 ②第1課の文法や文型をまとめて整理する。 1.復習：文型や本文(スクリプト)、語彙(聴解関連p69)を読み書きしながら覚える。2.予習：次回の単語や本文を読んでくる(P76-77)。	1.復習：文型や本文(スクリプト)、語彙(聴解関連p69)を読み書きしながら覚える。2.予習：次 回の単語や本文を読んでくる(P76-77)。	1時間
第4回	**【第2課『どこに行きますか』】(1)「文法1・2」と「会話1・2」** ①[文法1、2]－固有数詞：時間「時、分」,疑問詞「何時」,「場所+に行く」に当る韓国語について学ぶ。 ②[会話1]－午前・午後の日程を尋ねたり答えたりする場面での会話を練習する。 [会話2]－「場所+に行く」の文型を用いて行先を尋ねたり答えたりする場面での会話を練習する。 1.復習：文型や本文(p72-73、76-77)、語彙(時間関連p87)を読み書きしながら覚える。2.予習：次回の単語や本文を読んでくる(P74-75、78)。	1.復習：文型や本文(p72-73、76-77)、語彙(時間関連p87)を読み書きしながら覚える。2.予 習：次回の単語や本文を読んでくる(P74-75、 78)。	1時間
第5回	**【第2課『どこに行きますか』】(2)「文法3・4」と「会話3」,「リーディング(読解)」** ①[文法3, 4]－現在平叙形語尾「－ます形1」,「時間+に」に当る韓国語について学ぶ。 ②[会話3]－一日の日程を尋ねたり答えたりする場面での会話を練習する。 ③[リーディング]－「ソウルは朝7時です」:「時間+に～する」が含まれた日程文を読み、内容を理解する。 1.復習：文型や本文(p81)、語彙(読解関連p87)を読み書きしながら覚える。2.予習：次回の単語や本文を読んでくる(P85-86)。	1.復習：文型や本文(p81)、語彙(読解関連p87)を読み書きしながら覚える。2.予習：次回の単 語や本文を読んでくる(P85-86)。	1時間
第6回	**【第2課『どこに行きますか』】(3) 「リスニング(聴解)」,「第2課のまとめ」**	1.復習：文型や本文(スクリプト)、語彙(聴解関連p87)を読み書きしながら覚える。2.予習：次 回の単語や本文を読んでくる(P94-95)。	1時間

	①[リスニング]－「1時に時間がありますか」:電話で約束を決める会話を聞いて内容を理解する。 ②第2課の文法や文型をまとめて整理する。 1.復習：文型や本文(スクリプト)、語彙(聴解関連p87)を読み書きしながら覚える。2.予習：次回の単語や本文を読んでくる(P94-95)。		
第7回	**【第3課『劇場で映画を見ます』】(1) 「文法1・2」と「会話1・2」** ①[文法1, 2]－目的格助詞「－を」,現在平叙形語尾「－ます形2」,「何しますか」に当る韓国語について学ぶ。 ②[会話1]－「週末に何しますか」:週末の計画(予定)を尋ねたり答えたりする場面での会話を練習していく。 [会話2]－「映画を見ます」:一日の計画(予定)を尋ねたり答えたりする場面での会話を練習していく。 1.復習：文型や本文(p90-91、94-95)、語彙(動詞p92)を読み書きしながら覚える。2.予習：次回の単語や本文を読んでくる(P93、96)。	1.復習：文型や本文(p90-91、94-95)、語彙(動詞p92)を読み書きしながら覚える。2.予習：次 回の単語や本文を読んでくる(P93、96)。	1時間
第8回	**【第3課『劇場で映画を見ます』】(2)「文法3」と「会話3」** ①[文法3]－行動が行われる場所を表す助詞「－で」,「場所+－ます形」,「曜日」に当る韓国語について学ぶ。 ②[会話3]－「体育館で運動します」:曜日別の計画(予定)を尋ねたり答えたりする場面での会話を練習する。 1.復習：文型や本文(p93、96)、語彙(行動、曜日p105)を読み書きしながら覚える。2.予習：次回の単語や本文を読んでくる(P99-100)。	1.復習：文型や本文(p93、96)、語彙(行動、曜日p105)を読み書きしながら覚える。2.予習：次 回の単語や本文を読んでくる(P99-100)。	1時間
第9回	**【第3課『劇場で映画を見ます』】(3)「リーディング(読解)」** ①[リーディング]－「学校でテコンドを習います」:「場所+で～する」が含まれた曜日別の日程文を読み、内容を理解する。 ②[作文]－曜日別の計画(予定)を書く。 1.復習：文型や本文(p99)、語彙(読解関連p105)を読み書きしながら覚える。2.予習：次回の単語や本文を読んでくる(P103-104)。	1.復習：文型や本文(p99)、語彙(読解関連p105)を読み書きしながら覚える。2.予習：次回の単 語や本文を読んでくる(P103-104)。	1時間
第10回	**【第3課『劇場で映画を見ます』】(4)「リスニング(聴解)」,「第3課のまとめ」** ①[リスニング]－「私も映画が好きです」：映画を見に行く約束を決める会話を聞いて内容を理解する。 ②第3課の文法や文型をまとめて整理する。 1.復習：文型や本文(スクリプト)、語彙(聴解関連p105)を読み書きしながら覚える。2.予習：次回の単語や本文を読んでくる(P112-113)。	1.復習：文型や本文(スクリプト)、語彙(聴解関連p105)を読み書きしながら覚える。2.予習：次 回の単語や本文を読んでくる(P112-113)。	1時間
第11回	**【第4課『昨日学校に行きませんでした』】(1)「文法1・3・4」と「会話1・3」** ①[文法1, 3, 4]－過去平叙形語尾「－ました」,時間関連用語,助詞「－も」に当る韓国語について学ぶ。 ②[会話1]－「3日前に買いました」:過去形を用いて、買い物をしたことを話す場面での会話を練習する。 [会話3]－「料理もしました」:過去形を用いて、昨日したことについて話す場面での会話を練習する。 1.復習：文型や本文(p108、110-112、114)、語彙(時間関連、行動p123)を読み書きしながら覚える。2.予習：次回の単語や本文を読んでくる(P117-118)。	1.復習：文型や本文(p108、110-112、114)、語彙(時間関連、行動p123)を読み書きしながら覚 える。2.予習：次回の単語や本文を読んでくる(P117-118)。	1時間
第12回	**【第4課『昨日学校に行きませんでした』】(2)「文法2」と「会話2」,「リーディング(読解)」** ①[文法2]－動詞や形容詞の否定形「－しない、－くない」について学ぶ。 ②[会話2]－「学校に行きませんでした」：否定過去形を用いてできなかったことやその理由を話す場面での会話を練習する。 ③[リーディング]－「パーティーが11時に終わりました」:パーティーでの行動や状況が書かれている文を読み、内容を理解する。 1.復習：文型や本文(p113、117)、語彙(読解関連p105)を読み書きしながら覚える。2.予習：次回の単語や本文を読んでくる(P121-122)。	1.復習：文型や本文(p113、117)、語彙(読解関連p105)を読み書きしながら覚える。2.予習：次 回の単語や本文を読んでくる(P121-122)。	1時間
第13回	**【第4課『学校に行きませんでした』】(3)「リスニング(聴解)」** ①[リスニング]－「なぜ約束の場所に来ませんでしたか」：約束したのに会えなかった状況で、その理由を尋ねたり答えたりする会話を聞いて内容を理解する。 ②第4課の文法や文型をまとめて整理する。 1.復習：文型や本文(スクリプト)、語彙(聴解関連p105)を読み書きしながら覚える。第1～4課までの文型をまとめる(プリント)。	1.復習：文型や本文(スクリプト)、語彙(聴解関連p105)を読み書きしながら覚える。第1～4課ま での文型をまとめる(プリント)。	1時間
第14回	**【韓国文化とのふれあい】,【後期内容のまとめ】** ①後期に学習した語彙、文法、文型などを確認する。 ②韓国の文化とのふれあいを通じて異文化を理解し、分かち合う楽しさを味わいながら、互いを尊重するグローバル的なマインドの重要性について考えてみる。 後期に学習した語彙、文法、文型などをまとめて整理する(プリント)	後期に学習した語彙、文法、文型などをまとめて整理する(プリント)	1時間

111

授業科目名	**海外短期語学研修 / 海外英語研修**				
担当教員名	伊藤由紀子				
学年・コース等	1～4年	開講期間	後期	単位数	2
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	大阪市立中学校英語教諭として、その後教育センター研究員として24年間勤務。 英語教育、国際理解教育、異文化コミュニケーションの授業提案等に関わる経験。（第1～5、14回）				

授業概要

本授業では、海外（オーストラリア他）でのホームステイを通して海外の生活を体験しながら他国の人々との異文化コミュニケーションを学びます。実際の交流を通して、言葉や文化、生活が違う者同士がお互いに理解し、伝え合う態度の育成を目指します。また、日本と違う国で、世界遺産などの自然や文化等について学ぶ機会を提供します。また、本授業に参加することで、他国の文化、生活と比較して日本文化、生活を対比できる貴重な機会になります。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. 全学DP１.幅広い教養やスキル	実際のコミュニケーションに関わる英語運用能力を身に付ける。	3週間の滞在を通して、英語だけで生活し、相手の話の内容を理解し、適切な対応ができる。また、自分の意思を相手に伝えることができる。
汎用的な力		
1. 全学DP10.忠恕の心		信頼関係を築くために、人に立場に立って考え、行動することの重要性に気づくことができる。
2. 全学DP６.行動・実践		主体的に行動し、自分の行動に責任を持つことができる。

学外連携学修

有り(連携先：現地語学学校)

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)

・問答法・コメントを求める

・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)

・eラーニング、反転授業

・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)

・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)

・ディベート、討論

・シミュレーション型学習(ロールプレイ、ゲーム型学習など)

・見学、フィールドワーク

・その他(以下に概要を記述)

海外の語学学校に３週間通学し、主体的に学び、行動に責任を持つ体験をします。それに向けての事前指導と事後の報告レポート提出、および報告会に必ず参加すること。

課題や取組に対する評価・振り返り

・実習や実技に対して個別にコメントします

・実技・実習後、全体に向けてコメントします

成績評価

注意事項等

授業へは原則としてすべて出席してください。何らかの事情で欠席する場合は、シラバスや授業内での配布資料を参照し、自学により内容を確認し、必要な課題に取り組むようにしてください。なお、資格・免許取得に必要な科目は、単位修得に必要な授業時間数が定められている場合がありますので、注意してください。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
現地校での成績報告	:	現地校での授業に対して、主体的に責任ある行動で学んだかという観点と、３週間での変化について、10段階で総合的に評価する。
60 %		
事前指導の提出課題	:	自己紹介文、渡航先についての調査、日本文化ポスター、研修日誌の目標設定、渡航先の国の文化、リスニング課題、日常の英語の会話などの内容を質、量で、5段階で評価する。（10点）。

10　%

事後プレゼンテーション　：　事後発表会（15点）の内容について、質、量について、設定したルーブリックに基づいて、10段階で評価する。

15　%

事後報告レポート　：　授業後のまとめと振り返りとして事後報告レポート（15点）を課し、自らの学びについてまとめたものを評価する。

15　%

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

特に指定しない

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、授業内外合わせて90時間の学修が求められる。なお、海外研修中には1日5時間の授業に加えて、平均すると1日あたり4時間の授業外学修を行うこと。「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：　木曜4限

場所：　伊藤研究室

備考・注意事項：　教員に連絡をとりたい場合はメールしてください。
件名に学籍番号、氏名を記載してください。

授業計画

		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**オリエンテーション、渡航先の国、世界遺産について学ぶ** ・仲間づくり ・海外での生活、授業の概観（渡航先について、その国の歴史的、 文化的背景について世界遺産について） ・自己紹介を含め、日本や家族のことを伝える方略を学ぶ ・リスニング学習	留学先の国・地域について様々な視点から調べる	4時間
第2回	**異文化を学ぶ、ホームステイについて知る** ・留学する国・地域について様々な方面から学ぶ ・ホームステイの心得 ・日常会話の練習（ステイ先、学校での自己紹介など） ・留学の目標を確認 ・リスニング学習	日本文化ポスターの作成	4時間
第3回	**日本の伝統文化・伝統工芸を英語で伝える** ・日本文化ポスターを使ったミニプレゼンテーション ・日常会話の練習（初めて家に行った時、おみやげを渡す時など） ・リスニング学習 ・海外旅行保険の案内 ・日常生活に必要な情報を得る方法について	留学に当たっての目標設定	4時間
第4回	**留学の目的を確認する** ・留学の目的についての確認 ・日常会話の練習（具合が悪くなった時など） ・リスニング学習 ・VISAなど重要書類の登録 ・滞在中の研修日誌作成に関する注意事項	研修日誌の出発前課題	4時間
第5回	**語学研修を成功させるために** ・滞在中の研修日誌の事前作成部分の完成 ・さまざまな事前登録の確認 ・危機管理 ・出発を控えた最終段階での注意事項 ・準備について	事前登録書類の完成と渡航準備	4時間
第6回	**現地校でのオリエンテーション1　People, Lifestyle in Australia** 滞在都市の見学 滞在都市で生活する人々の暮らしについて知る 滞在先の国の歴史的遺産について知る 日本との文化的差異について考える機会を持つ	現地校での課題、研修日誌	4時間
第7回	**現地校でのオリエンテーション2　Communication skills** 語学学校の位置確認 受講クラスの決定、受講の注意点、 教員との面談 授業予定の連絡等	現地校での課題、研修日誌	4時間
第8回	**英語集中トレーニング1 Communication skills, Pronunciation** １日６時間の英語集中トレーニング コミュニケーション活動 発音トレーニング 課外活動	現地校での課題、研修日誌	4時間
第9回	**英語集中トレーニング2　Pronunciation, Listening, Speaking, Interaction**	現地校での課題	4時間

	１日６時間の英語集中トレーニング リスニング活動 スピーキング活動、やり取り 課外活動		
第10回	**他国の人々との異文化コミュニケーション Intercultural Communication** ホームステイ先のファミリー、語学学校での学生らと意思疎通する大切さを学ぶ 自国文化の紹介プレゼンテーション 課外活動	現地校での課題、研修日誌	4時間
第11回	**英語集中トレーニング3　Reading, Writing** １日６時間の英語集中トレーニング リーディング活動 ライティング活動 中間テスト 課外活動	現地校での課題、研修日誌	4時間
第12回	**英語集中トレーニング4　Academic Skills, Presentation** １日６時間の英語集中トレーニング アカデミックライティング プレゼンテーション 課外活動	現地校での課題、研修日誌に基づいた報告パワーポイント作成	4時間
第13回	**渡航先の世界遺産や文化遺産を知る　World Heritage** 渡航先の世界遺産や文化遺産等について学ぶ 体験的活動 課外活動	現地校での課題、研修日誌に基づいた報告パワーポイント作成	4時間
第14回	**異文化体験の振り返りと報告プレゼンテーション資料作成** 3週間の研修の振り返りについて、「目標と成果」「新しい自分の発見」の2つの テーマについて作成した事後報告パワーポイントを用いてプレゼンテーションを行う。 研修日誌の完成 授業後に、まとめと振り返りとしてレポートを作成し提出する。	プレゼンテーション資料の提出、報告レポートの提出	4時間

111

授業科目名	**日本語演習１**				
担当教員名	浅野法子				
学年・コース等	1年	開講期間	前期	単位数	1
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の概要					

授業概要

日本語の発音（拍、アクセント、母音の無声化）を中心に学習する。また、演習形式も取り入れて日本語能力試験N1合格を目指す。N1合格に必要なのは聴解力と読解力だが、本学では聴解力が合格ラインに達していない受験者は少ないので本講義では読解力の養成に重点をおく。また、読解力の獲得で重要なのは、思考力、「一般知識」、文字・語彙・文法の知識の獲得だが、本講義では思考力（筆者の意図や主張を丁寧に正確に把握し、筋道を立てて選択肢を吟味する力）の獲得を重視する。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. 全学DP１.幅広い教養やスキル	身近な話題について書かれた平易な文章を読んで、その主旨を理解することができる。	日本語能力試験N1において80点を獲得することを目指す。
汎用的な力		
1. 全学DP６.行動・実践		自己の学習過程を第三者的な視点から客観的に評価し、それに基づいて次の課題を積極的に自らに課し、主体的かつ自律的に学習を深めていくことができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)

・実験、実技、実習

・問答法・コメントを求める

課題や取組に対する評価・振り返り

・実習や実技に対して個別にコメントします

・実技・実習後、全体に向けてコメントします

・提出物にコメント・評価をつけて返却します

・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

授業へは原則としてすべて出席してください。何らかの事情で欠席する場合は、シラバスや授業内での配布資料を参照し、自学により内容を確認し、必要な課題に取り組むようにしてください。なお、資格・免許取得に必要な科目は、単位修得に必要な授業時間数が定められている場合がありますので、注意してください。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
小テストの自己採点	25 %	： 正確に採点できているか、誰が見ても分かりやすく採点してあるか、間違いが直してあるか等の観点から5回×5点／回＝25点満点で評価する。
自習ノート	25 %	： 毎週4ページ以上学習しているか、辞書や参考書を活用しているか、自己の目標や興味に合わせ自主的に課題を設定し取り組んでいるか等の観点から5点／回×5回＝25点満点で評価する。
毎回の授業への取り組み状況	40 %	： ワークシートを用いながら各回授業への積極的参加や授業態度を独自のルーブリックを基に総合的に評価する。
試験（期末レポート）	10 %	： 14回の授業で学んだことを独自の視点から整理・要約した上で、そのうち最も興味を持ったテーマを一つ設定して調べ、整理・要約し、考察し、結論を導き出す（1600字）。独創性5点＋形式5点＝合計10点で評価する。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

特に指定しません。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は1単位の科目であるため、平均すると毎回2時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。
授業中に誤答の訂正をしてもらうことがあるので、必ず赤ペンを持参すること（蛍光ペン等のマーカーは不可）。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 木曜3限

場所： 浅野研究室（西館5階）

授業計画		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**オリエンテーション：日本語の力を伸ばす方法とは** みなさんは日本語学校や専門学校でこれまでどのように日本語を勉強してきましたか。今学期はN1を受験しますか。受ける人は何点を目指しますか。受けない人はいつ受けますか。この機会に自分の学習方法を見直し、前期の学習計画を立ててみましょう。	A4版ノート（ルーズリーフ不可）に今回の授業で（あるいはそれ以外の機会に）学んだ語彙や表現や文法事項をまとめてください。その際、必ず辞書や参考書を活用すること。毎週4ページ以上書くこと。キーワード：格助詞（対象）。	2時間
第2回	**親子間の識別能力について書かれた文章を読む** 赤ちゃんには自分の母親を識別する能力があります。母親にも自分の赤ちゃんを識別する能力があります。では父親には……。今回は親子間の識別能力について書かれた文章をみんなで読み進めることを通じて読解力の向上を図ります。	A4版ノート（ルーズリーフ不可）に今回の授業で（あるいはそれ以外の機会に）学んだ語彙や表現や文法事項をまとめてください。その際、必ず辞書や参考書を活用すること。毎週4ページ以上書くこと。キーワード：格助詞（状況）。	2時間
第3回	**上達の法則について書かれた文章を読む** スポーツ等の世界では、自分より下のランクの人からも何かを学び取ることができるかどうかが上級者と中級者の境目であるといわれています。いったいなぜでしょうか。今回は上達の法則について書かれた文章をみんなで読み進めることを通じて読解力の向上を図ります。	A4版ノート（ルーズリーフ不可）に今回の授業で（あるいはそれ以外の機会に）学んだ語彙や表現や文法事項をまとめてください。その際、必ず辞書や参考書を活用すること。毎週4ページ以上書くこと。キーワード：並列助詞。	2時間
第4回	**新聞購読の国際比較について書かれた文章を読む** 日刊の新聞が日本ほど購読されている国は世界にほとんどありません。いったいなぜでしょうか。今回は新聞購読の国際比較について書かれた文章をみんなで読み進めることを通じて読解力の向上を図ります。	A4版ノート（ルーズリーフ不可）に今回の授業で（あるいはそれ以外の機会に）学んだ語彙や表現や文法事項をまとめてください。その際、必ず辞書や参考書を活用すること。毎週4ページ以上書くこと。キーワード：時間を表す表現（アスペクト）。	2時間
第5回	**人間の感覚について書かれた文章を読む** 人間には五感があるといわれています。視覚、味覚、触覚……あとの2つがいえますか。いずれにせよ、それらの五感は大きく2つに分類できるそうです。今回は人間の感覚について書かれた文章をみんなで読み進めることを通じて読解力の向上を図ります。	A4版ノート（ルーズリーフ不可）に今回の授業で（あるいはそれ以外の機会に）学んだ語彙や表現や文法事項をまとめてください。その際、必ず辞書や参考書を活用すること。毎週4ページ以上書くこと。キーワード：立場を表す表現（間接的な影響を表す表現）。	2時間
第6回	**新しい世界との出会い方について書かれた文章を読む** 新しい世界と出会うために若者は旅立ちます。みなさんもそうして日本に来たのではないでしょうか。でもどうですか。新しい世界と出会うことができましたか。今回は新しい世界との出会い方について書かれた文章をみんなで読み進めることを通じて読解力の向上を図ります。	A4版ノート（ルーズリーフ不可）に今回の授業で（あるいはそれ以外の機会に）学んだ語彙や表現や文法事項をまとめてください。その際、必ず辞書や参考書を活用すること。毎週4ページ以上書くこと。キーワード：自動詞と他動詞。	2時間
第7回	**ロボットについて書かれた文章を読む** 溶接ロボットをテレビで見たことがある人は少なくないと思います。では清掃ロボットは見たことがありますか。今回はロボットについて書かれた文章をみんなで読み進めることを通じて読解力の向上を図ります。	A4版ノート（ルーズリーフ不可）に今回の授業で（あるいはそれ以外の機会に）学んだ語彙や表現や文法事項をまとめてください。その際、必ず辞書や参考書を活用すること。毎週4ページ以上書くこと。キーワード：可能と難易の表現。	2時間

第8回	**案内状について書かれた文章を読む** みなさんは日本語で書かれた案内状を見たことがありますか。参加資格、申込方法等の情報をそこから素早く読み取ることが出来ますか。今回は案内状について書かれた文章をみんなで読み進めることを通じて読解力の向上を図ります。	A4版ノート（ルーズリーフ不可）に今回の授業で（あるいはそれ以外の機会に）学んだ語彙や表現や文法事項をまとめてください。その際、必ず辞書や参考書を活用すること。毎週4ページ以上書くこと。キーワード：比較の表現。	2時間
第9回	**動物の人口論について書かれた文章を読む** シマウマを食べるライオンはシマウマにとって敵です。でもそんなライオンがシマウマの絶滅を防いでいるといったらみなさんは信じてくれますか。今回は動物の人口論について書かれた文章をみんなで読み進めることを通じて読解力の向上を図ります。	A4版ノート（ルーズリーフ不可）に今回の授業で（あるいはそれ以外の機会に）学んだ語彙や表現や文法事項をまとめてください。その際、必ず辞書や参考書を活用すること。毎週4ページ以上書くこと。キーワード：話し手の気持ちを表す表現（義務・勧め・許可・禁止など）。	2時間
第10回	**日本語の特殊拍（長音・促音・撥音）について** 英語（えいご）の「い」とエジプトの「エ」の発音が同じだって知ってましたか。また「切って下さい」と「来て下さい」をきちんと区別して発音できますか。「女子」と「上司」の区別はどうでしょう。今回は日本語の特殊拍とその表記について学びます。	長音・促音・撥音がどのように発音・表記されるのか、復習しておこう。	2時間
第11回	**アクセントについて** 「亀を飼う」と「甕を買う」の発音の違い、説明できますか。「切って下さい」と「切手下さい」の違いについてはどうですか。実は「歯が生える」と「葉が生える」の違いも日本語話者ならほとんどの場合聞き分けることができます。今回はアクセントについて学びます。	アクセントの3つの型、アクセント核について、復習しておこう。	2時間
第12回	**母音の無声化について** 口（くち）の「く」と組（くみ）の「く」は発音が異なります。「すみませんです」の最初の「す」と最後の「す」も実は発音が異なります。では、どのようなの条件のときにこうした違いが生じるのか、説明できますか。今回は母音の無声化について学びます。	母音の無声化が起こる条件について、復習しておこう。	2時間
第13回	**熟語における促音化について** 学習の「学」と学校の「学」は発音が異なります。一位の「一」と一致の「一」も発音が異なります。では、どのようなの条件のときにこうした違いが生じるのか、説明できますか。今回は熟語における促音化について学びます。	熟語における促音化の原則について、復習しておこう。	2時間
第14回	**日本語の発音のまとめ** これまで4回にわたり学習してきた日本語の拍とアクセントと母音の無声化について復習します。これらが上手に使いこなせるかが日本人みたいな発音で日本語が話せるかどうかを決める決定的な要素です。しっかり取り組みマスターするようにしましょう。	拍とアクセントと母音の無声化について、復習しておこう。	2時間

111

授業科目名	日本語演習２				
担当教員名	浅野法子				
学年・コース等	1年	開講期間	後期	単位数	1
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の概要					

授業概要

日本語の表記（ひらがな、カタカナ、漢字、ローマ字、算用数字、記号）を中心に学習する。また、演習形式も取り入れて日本語能力試験N1合格を目指す。N1合格に必要なのは聴解力と読解力だが、本学では聴解力が合格ラインに達していない受験者は少ないので本講義では読解力の養成に重点をおく。また、読解力の獲得で重要なのは、思考力、「一般知識」、文字・語彙・文法の知識の獲得だが、本講義では思考力（筆者の意図や主張を丁寧に正確に把握し、筋道を立てて選択肢を吟味する力）の獲得を重視する。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. 全学DP１.幅広い教養やスキル	身近な話題について書かれた平易な文章を読んで、その主旨を理解することができる。	日本語能力試験N1において90点を獲得することを目指す。
汎用的な力		
1. 全学DP６.行動・実践		自己の学習過程を第三者的な視点から客観的に評価し、それに基づいて次の課題を積極的に自らに課し、主体的かつ自律的に学習を深めていくことができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)

・実験、実技、実習

・問答法・コメントを求める

課題や取組に対する評価・振り返り

・実習や実技に対して個別にコメントします

・実技・実習後、全体に向けてコメントします

・提出物にコメント・評価をつけて返却します

・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

授業へは原則としてすべて出席してください。何らかの事情で欠席する場合は、シラバスや授業内での配布資料を参照し、自学により内容を確認し、必要な課題に取り組むようにしてください。なお、資格・免許取得に必要な科目は、単位修得に必要な授業時間数が定められている場合がありますので、注意してください。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
小テストの自己採点	25 %	： 正確に採点できているか、誰が見ても分かりやすく採点してあるか、間違いが直してあるか等の観点から5回×5点／回＝25点満点で評価する。
自習ノート	25 %	： 毎週4ページ以上学習しているか、辞書や参考書を活用しているか、自己の目標や興味に合わせ自主的に課題を設定し取り組んでいるか等の観点から5点／回×5回＝25点満点で評価する。
毎回の授業への取り組み状況	40 %	： ワークシートを用いながら各回授業への積極的参加や授業態度を独自のルーブリックを基に総合的に評価する。
試験（期末レポート）	10 %	： 14回の授業で学んだことを独自の視点から整理・要約した上で、そのうち最も興味を持ったテーマを一つ設定して調べ、整理・要約し、考察し、結論を導き出す（1600字）。独創性5点＋形式5点＝合計10点で評価する。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

特に指定しません。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は1単位の科目であるため、平均すると毎回2時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。
授業中に誤答の訂正をしてもらうことがあるので、必ず赤ペンを持参すること（蛍光ペン等のマーカーは不可）。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 木曜3限

場所： 浅野研究室（西館5階）

授業計画		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**オリエンテーション：日本語の力を伸ばす方法とは** 夏休み中は何をしましたか。日本語を勉強しましたか。どのくらい勉強しましたか。どのような教材で勉強しましたか。この機会に自分の学習方法を見直し、後期の学習計画を立ててみましょう。	A4版ノート（ルーズリーフ不可）に今回の授業で（あるいはそれ以外の機会に）学んだ語彙や表現や文法事項をまとめてください。その際、必ず辞書や参考書を活用すること。毎週4ページ以上書くこと。キーワード：否定と疑問の表現。	2時間
第2回	**害虫の駆除方法について書かれた文章を読む** 農業を営む人々にとって作物に被害をおよぼす害虫は大きな悩みです。害虫駆除の方法には、殺してしまう、寄せ付けないの他にもう一つとても有効な方法があります。今回は害虫の駆除方法について書かれた文章をみんなで読み進めることを通じて読解力の向上を図ります。	A4版ノート（ルーズリーフ不可）に今回の授業で（あるいはそれ以外の機会に）学んだ語彙や表現や文法事項をまとめてください。その際、必ず辞書や参考書を活用すること。毎週4ページ以上書くこと。キーワード：とりたて（主題、対比）。	2時間
第3回	**インターネットについて書かれた文章を読む** インターネットが普及して異なる価値観をもつ人どうしが交流する機会が増えましたが、そのことによるトラブルも増えています。今回はインターネットについて書かれた文章をみんなで読み進めることを通じて読解力の向上を図ります。	A4版ノート（ルーズリーフ不可）に今回の授業で（あるいはそれ以外の機会に）学んだ語彙や表現や文法事項をまとめてください。その際、必ず辞書や参考書を活用すること。毎週4ページ以上書くこと。キーワード：とりたて（評価）。	2時間
第4回	**科学と技術の違いについて書かれた文章を読む** よく一口に「科学技術」といいますが、科学と技術に実は大きな違いがあることを知ってますか。今回は科学と技術の違いについて書かれた文章をみんなで読み進めることを通じて読解力の向上を図ります。	A4版ノート（ルーズリーフ不可）に今回の授業で（あるいはそれ以外の機会に）学んだ語彙や表現や文法事項をまとめてください。その際、必ず辞書や参考書を活用すること。毎週4ページ以上書くこと。キーワード：複文（条件）。	2時間
第5回	**思い込みの恐ろしさについて書かれた文章を読む** 見たいと思っているものは見えるけど、見たくないと思っていることは見えない――そんな経験、ありませんか。科学者も同じです。今回は思い込みの恐ろしさについて書かれた文章をみんなで読み進めることを通じて読解力の向上を図ります。	A4版ノート（ルーズリーフ不可）に今回の授業で（あるいはそれ以外の機会に）学んだ語彙や表現や文法事項をまとめてください。その際、必ず辞書や参考書を活用すること。毎週4ページ以上書くこと。キーワード：複文（逆接・対比）。	2時間
第6回	**イベント参加者募集について書かれた文章を読む** みなさんは学内のイベントに参加したことがありますか。募集案内を見て、参加方法、参加費用、集合場所等の情報を素早く読み取ることができますか。今回はイベント参加者募集について書かれた文章をみんなで読み進めることを通じて読解力の向上を図ります。	A4版ノート（ルーズリーフ不可）に今回の授業で（あるいはそれ以外の機会に）学んだ語彙や表現や文法事項をまとめてください。その際、必ず辞書や参考書を活用すること。毎週4ページ以上書くこと。キーワード：複文（時間）。	2時間
第7回	**専門書と啓蒙書の違いについて書かれた文章を読む** 良い専門書であり良い啓蒙書でもある――そのような本を読んだ経験はありますか。そもそも、そのような本を書ける人なんているのでしょうか。今回は専門書と啓蒙書の違いについて書かれた文章をみんなで読み進めることを通じて読解力の向上を図ります。	A4版ノート（ルーズリーフ不可）に今回の授業で（あるいはそれ以外の機会に）学んだ語彙や表現や文法事項をまとめてください。その際、必ず辞書や参考書を活用すること。毎週4ページ以上書くこと。キーワード：待遇表現。	2時間

第8回	**社会人について書かれた文章を読む** 「社会人」というのはどういう人たちのことをいうのでしょう。働いている人のことですか。では無職の老人や無職の資産家は社会人ではないのでしょうか。今回は社会人について書かれた文章をみんなで読み進めることを通じて読解力の向上を図ります。	A4版ノート（ルーズリーフ不可）に今回の授業で（あるいはそれ以外の機会に）学んだ語彙や表現や文法事項をまとめてください。その際、必ず辞書や参考書を活用すること。毎週4ページ以上書くこと。キーワード：省略（名詞句の省略・助詞の省略）。	2時間
第9回	**個人と国家について書かれた文章を読む** 「個」と「私」はそれぞれ「公」とどのように結びついているのでしょうか。また、どう結びつくべきなのでしょうか。今回は個人と国家について書かれた文章をみんなで読み進めることを通じて読解力の向上を図ります。	A4版ノート（ルーズリーフ不可）に今回の授業で（あるいはそれ以外の機会に）学んだ語彙や表現や文法事項をまとめてください。その際、必ず辞書や参考書を活用すること。毎週4ページ以上書くこと。キーワード：名詞・代名詞。	2時間
第10回	**呉音と漢音について** 日本語の漢字は読み方がたくさんあって面倒だと思ったことはありませんか。例えば「正直」と「正解」の「正」は読み方が異なります。「人間」と「人物」の「人」も読み方が異なります。なぜ異なるのでしょうか。どのような法則があるのでしょうか。今回は呉音と漢音について学びます。	呉音と漢音について、具体的な事例を集め、分類してみよう。	2時間
第11回	**唐宋音と慣用音について** 漢字の音読みには呉音と漢音の他に唐宋音と慣用音があります。唐宋音の例としては「南京豆」の「京」や「椅子」の「子」があります。慣用の例としては「成立」の「立」や「洗濯」の「洗」があります。今回は唐宋音と慣用音について学びます。	唐宋音と慣用音について、具体的な事例を集め、分類してみよう。	2時間
第12回	**日本語のローマ字表記とキーボード入力について** キーボードで「デュアルディスプレイをセットアップする」と入力することができるでしょうか。やってみると意外と難しいものです。手も足も出ないという人もいると思います。でもこれが打てないと就職したとき絶対困ります。今回は日本語のローマ字表記とキーボード入力について学びます。	「デュ」「ヂ」「ツォ」「ティ」の入力方法について、考えてみよう。	2時間
第13回	**書き間違えやすい文字について** みなさんは「ゆ」「ふ」「ん」「が」などの平仮名が正しく書けますか。「角」「収」「写」などの漢字はどうですか。「ン」と「ソ」、「ツ」と「シ」、「ワ」と「ク」、「9」と「g」、「1」と「7」、「b」と「6」の書き分けは……。今回は書き間違えやすい文字について学びます。	書き間違いやすいひらがな、カタカナ、漢字、ローマ字、算用数字、記号にはどのようなものがあるか、リストアップしてみよう。	2時間
第14回	**日本語の表記のまとめ** これまで4回にわたり学習してきた漢字、仮名、ローマ字、算用数字、記号の読み方や書き方（入力方法を含む）について復習します。「こんな文章ですら打てないのか」「あなたの字は読めない」といわれないよう、しっかり取り組みマスターするようにしましょう。	漢字の様々な読み方、日本語のローマ字表記、書き間違いやすい文字について、復習しておこう。	2時間

112

授業科目名	日本語演習３				
担当教員名	浅野法子				
学年・コース等	2年	開講期間	前期	単位数	1
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の概要					

授業概要

日本語の文法を中心に学習する。特に、動詞や助動詞について体系的に学習する。また、演習形式も取り入れて日本語能力試験N1合格を目指す。N1合格に必要なのは聴解力と読解力だが、本学では聴解力が合格ラインに達していない受験者は少ないので本講義では読解力の養成に重点をおく。また、読解力の獲得で重要なのは、思考力、「一般知識」、文字・語彙・文法の知識の獲得だが、本講義では思考力（筆者の意図や主張を丁寧に正確に把握し、筋道を立てて選択肢を吟味する力）の獲得を重視する。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. 全学DP１.幅広い教養やスキル	馴染みのない話題について書かれたやや複雑な文章を読んで、その論旨の展開や表現の意図を理解することができる。	日本語能力試験N1において100点を獲得することを目指す。
汎用的な力		
1. 全学DP６.行動・実践		自己の学習過程を第三者的な視点から客観的に評価し、それに基づいて次の課題を積極的に自らに課し、主体的かつ自律的に学習を深めていくことができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)

・実験、実技、実習

・問答法・コメントを求める

課題や取組に対する評価・振り返り

・実習や実技に対して個別にコメントします

・実技・実習後、全体に向けてコメントします

・提出物にコメント・評価をつけて返却します

・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

授業へは原則としてすべて出席してください。何らかの事情で欠席する場合は、シラバスや授業内での配布資料を参照し、自学により内容を確認し、必要な課題に取り組むようにしてください。なお、資格・免許取得に必要な科目は、単位修得に必要な授業時間数が定められている場合がありますので、注意してください。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
小テストの自己採点	25 %	： 正確に採点できているか、誰が見ても分かりやすく採点してあるか、間違いが直してあるか等の観点から5回×5点／回＝25点満点で評価する。
自習ノート	25 %	： 毎週4ページ以上学習しているか、辞書や参考書を活用しているか、自己の目標や興味に合わせ自主的に課題を設定し取り組んでいるか等の観点から5点／回×5回＝25点満点で評価する。
毎回の授業への取り組み状況	40 %	： ワークシートを用いながら各回授業への積極的参加や授業態度を独自のルーブリックを基に総合的に評価する。
試験（期末レポート）	10 %	： 14回の授業で学んだことを独自の視点から整理・要約した上で、そのうち最も興味を持ったテーマを一つ設定して調べ、整理・要約し、考察し、結論を導き出す（1600字）。独創性5点＋形式5点＝合計10点で評価する。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

特に指定しません。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は1単位の科目であるため、平均すると毎回2時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。
授業中に誤答の訂正をしてもらうことがあるので、必ず赤ペンを持参すること（蛍光ペン等のマーカーは不可）。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 木曜3限

場所： 浅野研究室（西館5階）

授業計画

		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**オリエンテーション：日本語の力を伸ばす方法とは** 春休み中は日本語を勉強しましたか。どのように日本語を勉強しましたか。今学期はN1を受験しますか。受ける人は何点を目指しますか。受けない人はいつ受けますか。この機会に自分の学習方法を見直し、前期の学習計画を立ててみましょう。	A4版ノート（ルーズリーフ不可）に今回の授業で（あるいはそれ以外の機会に）学んだ語彙や表現や文法事項をまとめてください。その際、必ず辞書や参考書を活用すること。毎週4ページ以上書くこと。キーワード：格助詞。	2時間
第2回	**学びについて書かれた文章を読む** 学ぶとはいったいどのような活動のことをいうのでしょうか。知識を得てそれを記憶するのも学びの一つですが、それだけでは深く学んだことにはなりません。今回は学びについて書かれた文章をみんなで読み進めることを通じて読解力の向上を図ります。	A4版ノート（ルーズリーフ不可）に今回の授業で（あるいはそれ以外の機会に）学んだ語彙や表現や文法事項をまとめてください。その際、必ず辞書や参考書を活用すること。毎週4ページ以上書くこと。キーワード：存在・所有を表す表現。	2時間
第3回	**リスクやコストをめぐる動物たちのかけひきについて書かれた文章を読む** 鮮やかな色をした動物には往々にして毒があり、捕食者たちはこれらの動物を食べようとはしません。今回はリスクやコストをめぐる動物たちのかけひきについて書かれた文章をみんなで読み進めることを通じて読解力の向上を図ります。	A4版ノート（ルーズリーフ不可）に今回の授業で（あるいはそれ以外の機会に）学んだ語彙や表現や文法事項をまとめてください。その際、必ず辞書や参考書を活用すること。毎週4ページ以上書くこと。キーワード：可能を表す表現。	2時間
第4回	**免疫について書かれた文章を読む** 免疫力が高い人は病気になりにくいといわれています。では免疫力を高めるにはどうしたらいいか知ってますか。今回は免疫について書かれた文章をみんなで読み進めることを通じて読解力の向上を図ります。	A4版ノート（ルーズリーフ不可）に今回の授業で（あるいはそれ以外の機会に）学んだ語彙や表現や文法事項をまとめてください。その際、必ず辞書や参考書を活用すること。毎週4ページ以上書くこと。キーワード：「～ていく・～てくる」。	2時間
第5回	**二分法的な思考法の危うさについて書かれた文章を読む** ダイコトミー（ディコトミー）という言葉を知っていますか。これは何でもかんでも1か0かで考えるデジタルな思考様式のことで二分法とも呼ばれています。今回は二分法的な思考法の危うさについて書かれた文章をみんなで読み進めることを通じて読解力の向上を図ります。	A4版ノート（ルーズリーフ不可）に今回の授業で（あるいはそれ以外の機会に）学んだ語彙や表現や文法事項をまとめてください。その際、必ず辞書や参考書を活用すること。毎週4ページ以上書くこと。キーワード：話し手の気持ちを表す表現（意志・願望）。	2時間
第6回	**最近の言葉の「みだれ」について書かれた文章を読む** 「やり・もらい」「やる・あげる・さしあげる」などの学習で悩んだ人は多いと思います。でも実は日本人もそれらを適切に使用しているとはいえません。今回は最近の言葉の「みだれ」について書かれた文章をみんなで読み進めることを通じて読解力の向上を図ります。	A4版ノート（ルーズリーフ不可）に今回の授業で（あるいはそれ以外の機会に）学んだ語彙や表現や文法事項をまとめてください。その際、必ず辞書や参考書を活用すること。毎週4ページ以上書くこと。キーワード：比較（二つを比較するとき・三つを比較するとき）。	2時間
第7回	**親の役割について書かれた文章を読む**	A4版ノート（ルーズリーフ不可）に今回の授業で（あるいはそれ以外の機会に）学んだ語彙や表現や文法事項をまとめてください。その際、必ず辞書や参考書を活用すること。毎週4ページ以上書くこと。キーワード：名詞修飾。	2時間

	子どもの教育で大切なことはいったい何でしょうか。答えを教えることでしょうか。練習を積ませることでしょうか。上達のコツを教えることでしょうか。今回は親の役割について書かれた文章をみんなで読み進めることを通じて読解力の向上を図ります。		
第8回	**どうしたら「好きなこと」が長続きするかについて書かれた文章を読む** みなさんは何をするのが好きですか。いつ頃どのような経緯でそれが好きになったのか覚えていますか。今回はどうしたら「好きなこと」が長続きするかについて書かれた文章をみんなで読み進めることを通じて読解力の向上を図ります。	A4版ノート（ルーズリーフ不可）に今回の授業で（あるいはそれ以外の機会に）学んだ語彙や表現や文法事項をまとめてください。その際、必ず辞書や参考書を活用すること。毎週4ページ以上書くこと。キーワード：複文と接続詞（時間）。	2時間
第9回	**動植物の共生について書かれた文章を読む** 植物と昆虫がときとして共生関係にあるということはみなさんもご存じだと思います。レンゲソウとミツバチなどがその具体例ですね。今回は動植物の共生について書かれた文章をみんなで読み進めることを通じて読解力の向上を図ります。	A4版ノート（ルーズリーフ不可）に今回の授業で（あるいはそれ以外の機会に）学んだ語彙や表現や文法事項をまとめてください。その際、必ず辞書や参考書を活用すること。毎週4ページ以上書くこと。キーワード：複文と接続詞（条件）。	2時間
第10回	**テンスについて** 「朝ごはん食べましたか」に対する返事として正しいのは「1)いいえ、食べませんでした」と「2)いいえ、まだ食べていません」のどちらでしょうか――答えは「状況による」です。では、どのような状況のときは1)が正しくて、どのような状況のときは2)が正しいのでしょうか。今回はテンスについて学びます。	テンスとは何か、ネットで詳しく調べ、整理してみよう。	2時間
第11回	**アスペクトについて** 「1)すでに勉強している」と「2)いま勉強している」の「ている」はそれぞれ意味が異なります。では「犬が死んでいる」「犬が吠えている」「雪が降っている」「池が凍っている」の「ている」は、それぞれ1)と2)のどちらに分類されるでしょうか。今回はアスペクトについて学びます。	アスペクトとは何か、ネットで詳しく調べ、整理してみよう。	2時間
第12回	**ヴォイスについて** 「その仕事、ぜひ私どもにやらせて下さい」「飲まされるのが嫌だったので先に帰らせてもらった」「いま課長に辞められたらこのプロジェクトは終わりですよ」など、ヴォイスが使いこなせるようになると、表現の幅がぐっと広がります。今回はアスペクトについて学びます。	ヴォイスとは何か、ネットで詳しく調べ、整理してみよう。	2時間
第13回	**自動詞と他動詞について** 「お金がためて、旅行に行きたいです」「お金をもうかって、家を建てました」――どこか変ですね。どこが変だか説明できますか。自動詞と他動詞の使い分けは本当に面倒ですが、これが区別できなようでは日本語ができるようになったとはいえません。今回は自動詞と他動詞について学びます。	自動詞と他動詞のペアを10個以上書き出してみよう。	2時間
第14回	**授受動詞について** “He gave me an apple, so I gave him an orange.” を日本語に直すと「彼がリンゴをくれたので、私はミカンをあげた」となりますが、「くれた」と「あげた」の違いは何なのでしょう。なぜ‘gave’が「くれた」と訳されたり「あげた」と訳されたりするのでしょう。今回は授受動詞について学びます。	「あげる」「もらう」「くれる」の違いについて調べてみよう。	2時間

112

授業科目名	日本語演習４				
担当教員名	浅野法子				
学年・コース等	2年	開講期間	後期	単位数	1
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の概要					

授業概要

日本語の文法を中心に学習する。特に、助詞や形式名詞について体系的に学習する。また、演習形式も取り入れて日本語能力試験N1合格を目指す。N1合格に必要なのは聴解力と読解力だが、本学では聴解力が合格ラインに達していない受験者は少ないので本講義では読解力の養成に重点をおく。また、読解力の獲得で重要なのは、思考力、「一般知識」、文字・語彙・文法の知識の獲得だが、本講義では思考力（筆者の意図や主張を丁寧に正確に把握し、筋道を立てて選択肢を吟味する力）の獲得を重視する。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. 全学DP１.幅広い教養やスキル	馴染みのない話題について書かれたやや複雑な文章を読んで、その論旨の展開や表現の意図を理解することができる。	日本語能力試験N1において110点を獲得することを目指す。
汎用的な力		
1. 全学DP６.行動・実践		自己の学習過程を第三者的な視点から客観的に評価し、それに基づいて次の課題を積極的に自らに課し、主体的かつ自律的に学習を深めていくことができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)

・実験、実技、実習

・問答法・コメントを求める

課題や取組に対する評価・振り返り

・実習や実技に対して個別にコメントします

・実技・実習後、全体に向けてコメントします

・提出物にコメント・評価をつけて返却します

・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

授業へは原則としてすべて出席してください。何らかの事情で欠席する場合は、シラバスや授業内での配布資料を参照し、自学により内容を確認し、必要な課題に取り組むようにしてください。なお、資格・免許取得に必要な科目は、単位修得に必要な授業時間数が定められている場合がありますので、注意してください。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
小テストの自己採点	25 %	： 正確に採点できているか、誰が見ても分かりやすく採点してあるか、間違いが直してあるか等の観点から5回×5点／回＝25点満点で評価する。
自習ノート	25 %	： 毎週4ページ以上学習しているか、辞書や参考書を活用しているか、自己の目標や興味に合わせ自主的に課題を設定し取り組んでいるか等の観点から5点／回×5回＝25点満点で評価する。
毎回の授業への取り組み状況	40 %	： ワークシートを用いながら各回授業への積極的参加や授業態度を独自のルーブリックを基に総合的に評価する。
試験（期末レポート）	10 %	： 14回の授業で学んだことを独自の視点から整理・要約した上で、そのうち最も興味を持ったテーマを一つ設定して調べ、整理・要約し、考察し、結論を導き出す（1600字）。独創性5点＋形式5点＝合計10点で評価する。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

特に指定しません。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は1単位の科目であるため、平均すると毎回2時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。
授業中に誤答の訂正をしてもらうことがあるので、必ず赤ペンを持参すること（蛍光ペン等のマーカーは不可）。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 木曜3限

場所： 浅野研究室（西館5階）

授業計画

		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**オリエンテーション：日本語の力を伸ばす方法とは** 夏休み中は何をしましたか。日本語を勉強しましたか。どのくらい勉強しましたか。どのような教材で勉強しましたか。この機会に自分の学習方法を見直し、後期の学習計画を立ててみましょう。	A4版ノート（ルーズリーフ不可）に今回の授業で（あるいはそれ以外の機会に）学んだ語彙や表現や文法事項をまとめてください。その際、必ず辞書や参考書を活用すること。毎週4ページ以上書くこと。キーワード：関連づけ（のだ・のです・のだろう・のかもしれない）。	2時間
第2回	**読書と想像力について書かれた文章を読む** この世にもし辞書がなかったら、読書はもっと「スリリング」なものになるに違いない。分からない単語や言葉が出てくるからこそ想像力が鍛えられるのだ——今回は読書と想像力について書かれた文章をみんなで読み進めることを通じて読解力の向上を図ります。	A4版ノート（ルーズリーフ不可）に今回の授業で（あるいはそれ以外の機会に）学んだ語彙や表現や文法事項をまとめてください。その際、必ず辞書や参考書を活用すること。毎週4ページ以上書くこと。キーワード：立場を表す表現（ヴォイス：受け身・使役・使役受け身）。	2時間
第3回	**民法について書かれた文章を読む** 経済活動のどの側面に注目するのかは、経済学と法学で大きく異なっています。経済学なら需要と供給の変動が価格をどう変動させるかに注目するはずです。では法学は……。今回は民法について書かれた文章をみんなで読み進めることを通じて読解力の向上を図ります。	A4版ノート（ルーズリーフ不可）に今回の授業で（あるいはそれ以外の機会に）学んだ語彙や表現や文法事項をまとめてください。その際、必ず辞書や参考書を活用すること。毎週4ページ以上書くこと。キーワード：敬語（素材敬語と対者敬語）。	2時間
第4回	**都市の魅力について書かれた文章を読む** 「ストリートライフ」という言葉を聞いたことはありますか。路上で生活するという意味ではありません。単なる景観でもありません。今回は都市の魅力について書かれた文章をみんなで読み進めることを通じて読解力の向上を図ります。	A4版ノート（ルーズリーフ不可）に今回の授業で（あるいはそれ以外の機会に）学んだ語彙や表現や文法事項をまとめてください。その際、必ず辞書や参考書を活用すること。毎週4ページ以上書くこと。キーワード：活用（語幹と活用、不規則な活用をする形容詞）。	2時間
第5回	**動物の利他的行動について書かれた文章を読む** 人はみな助け合って生きています。見返りを期待して相手を助けることもあります。では動物はどうでしょうか。今回は動物の利他的行動について書かれた文章をみんなで読み進めることを通じて読解力の向上を図ります。	A4版ノート（ルーズリーフ不可）に今回の授業で（あるいはそれ以外の機会に）学んだ語彙や表現や文法事項をまとめてください。その際、必ず辞書や参考書を活用すること。毎週4ページ以上書くこと。キーワード：動詞（方向性・状態性・意志性）。	2時間
第6回	**二酸化炭素について書かれた文章を読む** 二酸化炭素が温室効果ガスであることはみなさんも知っているでしょう。では大気中に放出された二酸化炭素がその後どこへ行くか知ってますか。今回は二酸化炭素について書かれた文章をみんなで読み進めることを通じて読解力の向上を図ります。	A4版ノート（ルーズリーフ不可）に今回の授業で（あるいはそれ以外の機会に）学んだ語彙や表現や文法事項をまとめてください。その際、必ず辞書や参考書を活用すること。毎週4ページ以上書くこと。キーワード：副詞（陳述副詞・程度副詞・様態副詞）。	2時間
第7回	**家族とプライバシーについて書かれた文章を読む**	A4版ノート（ルーズリーフ不可）に今回の授業で（あるいはそれ以外の機会に）学んだ語彙や表現や文法事項をまとめてください。その際、必ず辞書や参考書を活用すること。毎週4ページ以上書くこと。キーワード：接辞（～らしい、～っぽい、～まる・める）。	2時間

	みなさんはどのような間取りの家で育ちましたか。目的や機能別に仕切られた小さな部屋が多い家でしたか。今回は家族とプライバシーについて書かれた文章をみんなで読み進めることを通じて読解力の向上を図ります。		
第8回	**「ある恐ろしい実験」について書かれた文章を読む** あることが好きだからあることをする――これが内発的な動機による行動です。ではその行動を賞罰と結びつけた場合、いったいどのようなことが起こるでしょうか。今回は「ある恐ろしい実験」について書かれた文章をみんなで読み進めることを通じて読解力の向上を図ります。	A4版ノート（ルーズリーフ不可）に今回の授業で（あるいはそれ以外の機会に）学んだ語彙や表現や文法事項をまとめてください。その際、必ず辞書や参考書を活用すること。毎週4ページ以上書くこと。格助詞（手段・原因・根拠・情報源）	2時間
第9回	**鳥類の卵について書かれた文章を読む** 鳥類の卵はどんな色をしていますか。白、茶色、青、緑……。ではそれらの色が何に由来しているか知ってますか。今回は鳥類の卵について書かれた文章をみんなで読み進めることを通じて読解力の向上を図ります。	A4版ノート（ルーズリーフ不可）に今回の授業で（あるいはそれ以外の機会に）学んだ語彙や表現や文法事項をまとめてください。その際、必ず辞書や参考書を活用すること。毎週4ページ以上書くこと。格助詞（複合格助詞）	2時間
第10回	**対象を表す複合助詞について** 「日本語は私にたいして難しい言語です」「今日は年金問題をめぐって説明します」――これらの文のどこがどう間違っているか、分かりますか。複合格助詞にはそれが用いられるのにふさわしい条件がありますが、今回は手段などを表す複合格助詞について学びます。	「にたいして」「をめぐって」「にかかわる」等について復習しておこう。	2時間
第11回	**手段などを表す複合助詞について** 「寝坊によって授業を休みました」「昼休みとあって道が空いている」――これらの文のどこがどう間違っているか、分かりますか。複合格助詞にはそれが用いられるのにふさわしい条件がありますが、今回は手段などを表す複合格助詞について学びます。	「によって」「とあって」「によると」「に即して」等について復習しておこう。	2時間
第12回	**状況を表す複合助詞について** 「テストの結果いかんで進学先を決めます」「5月にわたって雨がほとんど降らなかった」――これらの文のどこがどう間違っているか、分かりますか。複合格助詞にはそれが用いられるのにふさわしい条件がありますが、今回は手段などを表す複合格助詞について学びます。	「において」「にわたって」「いかんで」「をとわず」等について復習しておこう。	2時間
第13回	**形式名詞について** 名詞本来の意味が抽象化されて文法的機能をもつようになった成分を形式名詞といいます。「いま準備しているところです」「もう少しで死ぬところでした」の「ところ」、「よくここで遊んだものだ」「こんなときは素直に礼をいうものだ」の「もの」などがそれに当たります。今回は形式名詞について学びます。	「こと」「もの」「ところ」等の使い方を整理してみよう。	2時間
第14回	**まとめ：２年間の振り返り** 2年間にわたり日本語を学習してきましたが、みなさんの日本語力はどれだけ向上したでしょうか。今回は2年間の学習内容を振り返るとともに、簡単なテストを実施することを通じてみなさんの日本語力がどれだけ向上したのかを検証し、今後2年間の学習計画を立ててもらおうと思います。	大学入学後、自分の日本語力がどれだけ向上したのか確認するとともに、今後の日本語の学習計画を立ててみよう。	2時間

111

授業科目名	**人間と文学**				
担当教員名	藤田大雪				
学年・コース等	１～４年	開講期間	前期／後期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の概要					

授業概要

優れた文学は、私たちに新しいものの見方を与えてくれるものです。この授業では異質な他者を理解し、共感する力を培いながら、最終的に一本の短編小説を完成させることを目指します。そのために、前半は物語の構造を理解し、人物、性格、心情、情景などを描写する技法を学びます。後半では、前半に学んだ創作の技法を生かしてフランツ・カフカの小説『変身』を分析し、カフカの他者を見るまなざしの深さを感じ取ってもらいます。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. 全学DP１.幅広い教養やスキル	優れた観察力と表現力	鋭い感性を持ち、見たことや感じたことを文学的に表現できるようになる
汎用的な力		
1. 全学DP10.忠恕の心		寛容な心を持ち、異なる立場にいる他者の視点から物事を見られるようになる

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)

・問答法・コメントを求める

・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)

・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

・提出物にコメント・評価をつけて返却します

・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

授業へは原則としてすべて出席してください。何らかの事情で欠席する場合は、シラバスや授業内での配布資料を参照し、自学により内容を確認し、必要な課題に取り組むようにしてください。なお、資格・免許取得に必要な科目は、単位修得に必要な授業時間数が定められている場合がありますので、注意してください。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
授業内課題	20 %	： ワークシートの取り組み状況に基づき評価する
授業外課題	40 %	： ①授業内容を踏まえているか、②文章表現として優れているか、を基準に評価する
中間課題（人生相談の創作）	10 %	： ①授業内容を踏まえているか、②文章表現として優れているか、を基準に評価する
定期試験（短編小説の執筆）	30 %	： 短編小説について、①ストーリーに破綻がないか、②登場人物の行動に一貫性があるか、③描写は正確か、④表現にオリジナリティーがあるか、を基準に評価する

使用教科書

指定する

著者	タイトル	出版社	出版年
フランツ・カフカ（著）、丘沢静也（訳）	・ 変身,掟の前で 他2編	・ 光文社	・ 2007 年

参考文献等

使用教科書は必須です。その他の文献については、授業中に適宜、指示します

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められます。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をしてください。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 授業の前後

場所： 研究室にて実施します

備考・注意事項： 詳細は初回の授業時に指示します

授業計画		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**文学と言語表現** ・著名な作家による食体験の描写を通して文学的表現の何たるかを学ぶ ・食レポの実践を通じて、言語による描写の能力を鍛える	最近食べた美味しいものについて、その美味しさが伝わる文章を書いてください	4時間
第2回	**文学とは何か** ・文学史を概観し、さまざまなジャンルの文学作品が共有する「文学の本質」は何かを考える ・ロシア・フォルマリズムの思想を批判的に学び、文学における表現と形式の関係を考える	授業の要点を自分の言葉でまとめて、感想や学んだことを付け加える	4時間
第3回	**〈ストーリー〉の構造** ・アリストテレスの『詩学』を学び、〈ストーリー〉の基本構造を構成するのが人間の行為であることを理解する ・〈ストーリー〉の基本構造をとらえ、人はなぜストーリーを求めるのかを哲学的に考察する	授業の要点を自分の言葉でまとめて、感想や学んだことを付け加えてください	4時間
第4回	**小説の本質** ・物語と小説の違いを理解する ・小説のリアリズムに着目し、描写が小説にとって重要な要素であることを学ぶ ・小説がどのように時代の制約を受けるのかを学ぶ	現代的なキャラクターを分析し、その時代性を考察する	4時間
第5回	**小説における筋** ・芥川龍之介と谷崎潤一郎の間で行なわれた「小説の筋」論争を学ぶ ・論争を通して、ストーリーにおいて真実の歪曲や単純化が行われうることを学ぶ	授業の内容を要約したうえで、「小説の筋」論争を踏まえて考えたことを書いてください	4時間
第6回	**キャラクターの描写** ・キャラクターに焦点を当て、その性格や価値観をどのように表現するかを学ぶ ・性格や価値観のさまざまなタイプを学び、実際に表現する	所与の設定を踏まえ、キャラクターが次にどのような行動をとるかを考えてください	4時間
第7回	**キャラクターの造形** ・魅力的なキャラクターについて学び、読者にキャラクターを「感じさせる」 ことの重要性を理解する ・ステレオタイプの科学を学び、それを通して深いキャラクターを創出するための方法を模索する	中間課題：ダメ人間になりきって人生相談を書いてください	4時間
第8回	**心理描写** ・感情をどのように表現するかを学ぶ ・さまざまな感情のタイプを学び、実際に表現する ・視点の取り方による心理描写の違いを学ぶ	百人一首の短歌をノベライズしてキャラクターの心情を表現してください	4時間
第9回	**〈無意識〉の表現** ・20世紀前半に、小説において新しい表現形式が求められた背景を学ぶ ・「意識の流れ」の手法について学び、その現代的な有効性を考える	授業の要点を自分の言葉でまとめて、感想や学んだことを付け加えてください	4時間
第10回	**情景描写** ・情景描写の役割を理解し、情景描写がもたらす印象について考える ・著名な作家による情景描写を読み、実際に自分で情景を描写する	自分の体験をもとに、感動が伝わるような情景描写を行ってください	4時間
第11回	**カフカの『変身』（その１）―作品の背景** ・『変身』の著者であるカフカの生い立ちや思想を学ぶ ・『変身』で描かれる家族関係やストーリーの構成を分析し、それがさまざまな現代的問題の比喩としても読めることを学ぶ	『変身』を読み、カフカの表現上の工夫を読み解いてください	4時間
第12回	**カフカの『変身』（その２）―第１部を読む**	グレーゴルと妹のグレーテはどんな人間か。あなたが読み取ったことを書いてください	4時間

	・『変身』の登場人物 に焦点を当て、それぞれのキャラクターの性格や価値観を考える ・第１部のストーリーから重要な場面を読み解き、その意義を考える		
第13回	**カフカの『変身』（その３）―第２部を読む** ・妹（グレーテ）の言動に焦点を当ててストーリーを読み解く ・「信頼できない語り手」の概念を学び、作品の深層を分析する手法を身につける	『変身』の第２部から学んだことを書いてください	4時間
第14回	**カフカの『変身』を読む（その４）―第３部を読む** ・これまでに学んだ概念や方法を踏まえ、自分自身で第３部を分析する ・『変身』で描かれる家族関係の中に普遍的な人間性を見いだし、自分自身のあり方を見つめ直す	最終レポートの準備をしてください	4時間

111

授業科目名	**人間と宗教**				
担当教員名	**森山徹**				
学年・コース等	1～4年	開講期間	前期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	平成22年4月～平成30年3月 中学高等学校にて「宗教科」教員として指導				

授業概要

世界にはいろいろな「宗教」があり、今もなお多くの人々を惹きつけている。それは時に苦しみの中にある人々の救いとなり、また権力と結びついて争いの原因ともなってきた。現代に生きる私たちもまた、信じるか否かに関わらず、すでに「宗教」と様々な形で関係し、否応なく巻き込まれている。
本講義では、この「宗教」の基盤となっている各宗教の始祖たちの思想の断片に焦点を当て、それらを歴史的思想史的に理解するだけでなく、「今」「ここ」に生きている「わたし」との関わりにおいて再解釈する。このような作業によって、一方で「宗教」が持つ力とそれを意識化する視点を獲得し、他方で授業に参加する一人ひとりが「わたし」を通して深く人間を理解する機会を提供することが本科目の目的である。
また、Google Classroomや毎回の授業へのコメント・シートを活用し、受講生の考えや疑問を共有・検討するアクティブラーニングもとりいれる。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. 全学DP１.幅広い教養やスキル	現存する世界の主要な宗教に関する知識を歴史的思想史的に学ぶ。	主要な宗教の特徴を理解し、説明することができる。
2. 全学DP３.専門的知識・技能を実践で応用する力	諸宗教の中心思想を内在的に把握し、反省的に解釈する。	諸宗教の中心的思想を内在的に理解し、自己の経験と象徴的に結びつけることができる。
汎用的な力		
1. 全学DP４.課題発見		宗教的知識や思想を深く理解し、検討できる。
2. 全学DP10.忠恕の心		倫理的道徳的徳価値観を深め、広げることができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
・問答法・コメントを求める
・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

授業へは原則としてすべて出席してください。何らかの事情で欠席する場合は、シラバスや授業内での配布資料を参照し、自学により内容を確認し、必要な課題に取り組むようにしてください。なお、資格・免許取得に必要な科目は、単位修得に必要な授業時間数が定められている場合がありますので、注意してください。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
毎回の小レポート	50 %	： 内容の妥当性・論理性・説得性について独自のルーブリックに基づいて5段階で評価します。
学期末レポート	50 %	： 内容の妥当性・論理性・説得性について独自のルーブリックに基づいて評価します。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

・リチャード・ホロウェイ、上杉隼人・片桐恵理訳、『若い読者のための宗教史（Yale University Press Little Histories)』　(すばる社　2019年
ISBN：｢978-4799108048)
その他の参考文献については、適宜授業時に紹介する。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は２単位の科目であるため、授業および授業外学修時間（毎回約4時間）が、合計90時間求められる。
それなので、授業外での学修課題に取り組むことに加え、毎回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習すること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：　授業の前後（オンデマンド授業の場合は備考を参照）

場所：　授業の前後（オンデマンド授業の場合は備考を参照）

備考・注意事項：　授業時のコメントや授業前後以外で質問したい場合は、メールにて受け付ける（tmoriyama820@gmail.com）。メールには必ず氏名と所属を明記すること。

授業計画		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	ガイダンスとイントロダクション　「人間と宗教」について ・授業の目的、課題、評価、注意点等を説明。 ・「宗教」の様々な側面を「人間」との関係から概観。 ・「宗教religion」の語源となっている「再び結びつける」という意味を「わたし」という視点から解釈。 ・授業内容を的確に理解し、自分の考えと経験を反省的に書き起こす	・授業内容の主題を反芻し、その視点から折に触れて反省的に自己の経験を再解釈する。・その際に生まれた視点やアイデアや疑問をノートにまとめ、コメントやレポート作成時に活用する。	4時間
第2回	わたしとガウタマ・シッダールタ　「苦しみ」について ・授業のコメントを共有、前回の補足や質問への応答 ・授業の目的、課題、評価、注意点等を再度説明 ・シッダールタが誕生した地理的歴史的状況を確認 ・シッダールタの前半生を概観 ・四門出遊の出来事とその解説 ・「苦しみ」の個別性と普遍性に焦点を当てて解釈 ・授業内容を的確に理解し、自分の考えと経験を反省的に書き起こす	・授業内容の主題を反芻し、その視点から折に触れて反省的に自己の経験を再解釈する。・その際に生まれた視点やアイデアや疑問をノートにまとめ、コメントやレポート作成時に活用する。	4時間
第3回	わたしとガウタマ・シッダールタ　「つながり」について ・授業のコメントを共有、前回の補足や質問への応答 ・シッダールタの後半生1を概観 ・悟りの出来事とその後の歩みについて解説 ・「縁起」を解釈 ・授業内容を的確に理解し、自分の考えと経験を反省的に書き起こす	・授業内容の主題を反芻し、その視点から折に触れて反省的に自己の経験を再解釈する。・その際に生まれた視点やアイデアや疑問をノートにまとめ、コメントやレポート作成時に活用する。	4時間
第4回	わたしと孔子　「天命」について ・授業のコメントを共有、前回の補足や質問への応答 ・孔子が生まれた地理的歴史的状況を確認 ・孔子の前半生を概観 ・大司寇失脚の出来事とその解説 ・「五十にして天命を知る」という語の解釈 ・授業内容を的確に理解し、自分の考えと経験を反省的に書き起こす	・授業内の主題を反芻し、その視点から折に触れて反省的に自己の経験を再解釈する。・その際に生まれた視点やアイデアや疑問をノートにまとめ、コメントやレポート作成時に活用する。	4時間
第5回	わたしと孔子　「仁と礼」について ・授業のコメントを共有、前回の補足や質問への応答 ・孔子の後半生および死後を概観 ・礼と仁、および徳治主義の解説 ・「礼と仁」の解釈 ・授業内容を的確に理解し、自分の考えと経験を反省的に書き起こす	・授業内の主題を反芻し、その視点から折に触れて反省的に自己の経験を再解釈する。・その際に生まれた視点やアイデアや疑問をノートにまとめ、コメントやレポート作成時に活用する。	4時間
第6回	わたしとソクラテス　「自分を知ること」について ・授業のコメントを共有、前回の補足や質問への応答 ・ソクラテスが生まれた地理的歴史的状況を確認 ・ソクラテスの前半生を概観 ・デルフォイの神託の出来事とその解説 ・「汝自身を知れ」という語の解釈 ・授業内容を的確に理解し、自分の考えと経験を反省的に書き起こす	・授業内の主題を反芻し、その視点から折に触れて反省的に自己の経験を再解釈する。・その際に生まれた視点やアイデアや疑問をノートにまとめ、コメントやレポート作成時に活用する。	4時間
第7回	わたしとソクラテス　「法と正義」について ・授業のコメントを共有、前回の補足や質問への応答 ・ソクラテスの後半生を概観 ・ソクラテスの裁判の解説 ・「法と正義」の解釈 ・授業内容を的確に理解し、自分の考えと経験を反省的に書き起こす	・授業内の主題を反芻し、その視点から折に触れて反省的に自己の経験を再解釈する。・その際に生まれた視点やアイデアや疑問をノートにまとめ、コメントやレポート作成時に活用する。	4時間
第8回	わたしとモーセ　「召命」について	・授業内の主題を反芻し、その視点から折に触れて反省的に自己の経験を再解釈する。・その際に生まれた視点やアイデアや疑問をノートにまとめ、コメントやレポート作成時に活用する。	4時間

	・授業のコメントを共有、前回の補足や質問への応答 ・モーセが生まれた地理的歴史的状況を確認 ・モーセの前半生を概観 ・シナイ山での召命およびエジプトへの帰還の出来事とその解説 ・「召命」についての解釈 ・授業内容を的確に理解し、自分の考えと経験を反省的に書き起こす		
第9回	**わたしとモーセ　「律法」について** ・授業のコメントを共有、前回の補足や質問への応答 ・モーセの後半生を概観 ・週エジプトおよびシナイ山での十戒授与の出来事とその解説 ・「律法」の解釈 ・授業内容を的確に理解し、自分の考えと経験を反省的に書き起こす	・授業内の主題を反芻し、その視点から折に触れて反省的に自己の経験を再解釈する。・その際に生まれた視点やアイデアや疑問をノートにまとめ、コメントやレポート作成時に活用する。	4時間
第10回	**わたしとイエス　「敵を愛すること」について** ・授業のコメントを共有、前回の補足や質問への応答 ・イエスが生まれた地理的歴史的状況を確認 ・イエスの前半生を概観 ・律法学者や祭司たちとの論争の出来事とその解説 ・「敵を愛せ」という語の解釈 ・授業内容を的確に理解し、自分の考えと経験を反省的に書き起こす	・授業内の主題を反芻し、その視点から折に触れて反省的に自己の経験を再解釈する。・その際に生まれた視点やアイデアや疑問をノートにまとめ、コメントやレポート作成時に活用する。	4時間
第11回	**わたしとイエス　「ゆるし」について** ・授業のコメントを共有、前回の補足や質問への応答 ・イエスの後半生を概観 ・十字架刑での死とイエスの復活を告げ始める弟子たちの解説 ・「ゆるし」についての解釈 ・授業内容を的確に理解し、自分の考えと経験を反省的に書き起こす	・授業内の主題を反芻し、その視点から折に触れて反省的に自己の経験を再解釈する。・その際に生まれた視点やアイデアや疑問をノートにまとめ、コメントやレポート作成時に活用する。	4時間
第12回	**わたしとムハンマド　「一なる神」について** ・授業のコメントを共有、前回の補足や質問への応答 ・ムハンマドが生まれた地理的歴史的状況を確認 ・ムハンマドの前半生を概観 ・ムハンマドが受けた啓示の出来事とその解説 ・「一なる神」についての解釈 ・授業内容を的確に理解し、自分の考えと経験を反省的に書き起こす	・授業内の主題を反芻し、その視点から折に触れて反省的に自己の経験を再解釈する。・その際に生まれた視点やアイデアや疑問をノートにまとめ、コメントやレポート作成時に活用する。	4時間
第13回	**わたしとムハンマド　「平等」について** ・授業のコメントを共有、前回の補足や質問への応答 ・ムハンマドの後半生を概観 ・ムハンマドの闘争と人々の改宗の出来事についての解説 ・「平等」についての解釈 ・授業内容を的確に理解し、自分の考えと経験を反省的に書き起こす	・授業内の主題を反芻し、その視点から折に触れて反省的に自己の経験を再解釈する。・その際に生まれた視点やアイデアや疑問をノートにまとめ、コメントやレポート作成時に活用する。	4時間
第14回	**わたしと現代　「グローバル社会で生きること」について** ・授業のコメントを共有、前回の補足や質問への応答 ・私たちが生きる現代の状況を確認 ・グローバル社会と宗教との関わりについて解説 ・宗教を学ぶ意義について解釈 ・授業内容を的確に理解し、自分の考えと経験を反省的に書き起こす	・授業内の主題を反芻し、その視点から折に触れて反省的に自己の経験を再解釈する。・その際に生まれた視点やアイデアや疑問をノートにまとめ、コメントやレポート作成時に活用する。	4時間

111

授業科目名	**人間と哲学**				
担当教員名	藤田大雪				
学年・コース等	1～4年	開講期間	後期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の概要					

授業概要

哲学とは、日々の生活で意識されない基礎的問題をあえて反省し、考えぬこうとする営みです。この授業では、「幸福」「正義」「自由」「美」という4つのテーマを通して、人間とは何かを考察します。
受講者には、これらのテーマについて自ら問いを立て、思索を深めながら、自分の意見を根拠とともに説明できるようになることが求められます。それにより人間社会のあり方や、自分自身の生き方について反省的に考える力を培うのが授業の目標です。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. 全学DP１.幅広い教養やスキル	哲学に関する基礎的知識	哲学に関する基礎的知識を自分自身の言葉で説明できる
汎用的な力		
1. 全学DP４.課題発見		哲学上の立場に関して課題を発見し説明することができる
2. 全学DP８.意思疎通		相手の意見を傾聴するとともに、自身の意見を的確に伝えることができる

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
・問答法・コメントを求める
・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

・提出物にコメント・評価をつけて返却します
・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

授業へは原則としてすべて出席してください。何らかの事情で欠席する場合は、シラバスや授業内での配布資料を参照し、自学により内容を確認し、必要な課題に取り組むようにしてください。なお、資格・免許取得に必要な科目は、単位修得に必要な授業時間数が定められている場合がありますので、注意してください。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
授業内課題	20 %	： ワークシートの記入内容を取組状況に応じて評価する
授業外課題	40 %	： 毎回の授業のふりかえりと意見・感想を求める。①授業内容を理解し的確に紹介できているか、②自分の意見を論理的に展開できているか、③意見にオリジナリティーがあるか、に基づき４段階で評価する
定期試験（ミニテスト）	10 %	： 授業で紹介した哲学者の人物と思想に関する基本的な知識を問う
定期試験（ミニレポート）	30 %	： ①授業内容を理解し的確に紹介できているか、②自分の意見を論理的に展開できているか、③意見にオリジナリティーがあるか、に基づき評価する

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

授業中に適宜、指示します。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められます。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をしてください。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：　授業の前後

場所：　研究室にて実施します

授業計画

		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**哲学とは何か** ・「哲学とは何か」という根源的な問いに触れ、日常に潜む「当たり前」を疑う姿勢を学ぶ ・哲学が扱う問いの本質を理解する ・なぜ今、哲学を学ぶ必要があるのか、哲学が自分にとってどのような意味を持つのかを考察する	授業の要点を自分の言葉でまとめて、感想や意見を付け加えてください	4時間
第2回	**幸福について（1）―「幸福」の多義性** ・「幸福」という言葉の多義性を認識する ・快楽と幸福の違いを分析し、真の幸福とは何かを考える	講義内容を要約する	4時間
第3回	**幸福について（2）―幸福は快楽の総量であるのか** ・近世イギリスの哲学者ジェレミー・ベンサムの幸福＝快楽説を学ぶ ・ポジティブ心理学を学び、快楽や幸福がどのように計測されうるかを考察する	授業の要点を自分の言葉でまとめて、感想や意見を付け加えてください	4時間
第4回	**幸福について（3）―幸福は人生の開花であるのか** ・古代ギリシアの哲学者アリストテレスの幸福論（エウダイモニア説）を学ぶ ・ベンサムとアリストテレスの議論を比較検討し、快楽と幸福の関係性を自分自身で考える	講義の内容を要約し、快楽と幸福の関係性について論じる	4時間
第5回	**正義について（1）―公正としての正義** ・現代アメリカの哲学者ロールズの『正義論』を導きに、公正としての正義の概念を理解する ・ロールズの正義を決定する手続きを現実の問題に応用する	授業の要点を自分の言葉でまとめて、感想や意見を付け加えてください	4時間
第6回	**正義について（2）―正義と愛の関係性** ・公正としての正義の実現にAIが寄与できるのかを考える ・正義」と「愛」の本質を分析し、正義と愛の関係性を考察する	講義の内容を要約する	4時間
第7回	**正義について（3）―他ならぬこの私にとってなぜ正義が重要なのか** ・古代ギリシアの哲学者プラトンの『ゴルギアス』を読み、なぜ正義が存在するのかを考える ・他ならぬこの私にとって、なぜ正義が重要であるのかを考える	授業の要点を自分の言葉でまとめて、感想や意見を付け加えてください	4時間
第8回	**自由について（1）―物心二元論** ・近世フランスの哲学者デカルトの思索を導きに、世界が数学的な法則に支配される物体と延長を持たない精神の二つの異なる実体から成るとする物心二元論の考え方を学ぶ ・物心二元論の問題点を考える	講義の内容を要約する	4時間
第9回	**自由について（2）―自由意志は存在するか** ・大岡昇平の『俘虜記』を読み、行為の自由について考える ・「自己」とは何なのか、私たちの行為がどこまで自由なのか、自由意志は存在するのかを考える	授業の要点を自分の言葉でまとめて、感想や意見を付け加えてください	4時間
第10回	**自由について（3）―なぜ行為の責任が問えるのか** ・哲学者・國分功一郎の『中動態の哲学』を導きに、自然科学と両立可能な「自由」の概念を模索する ・そこから、私たちが行為の責任を問えるのはなぜなのかを考察する	授業の要点を自分の言葉でまとめて、感想や意見を付け加えてください	4時間
第11回	**美について（1）―美とは何か** ・近代ドイツの哲学者カントによる美的判断の定義を学ぶ ・カントの美学に基づき、「動物は美を感じられるのか」という問いを考える	カントの議論を要約し、それについての意見を述べる	4時間
第12回	**美について（2）―美は何の役に立つか** ・カントによる美の理解をもとにショーペンハウアーの美学を学び、芸術と美は何の役に立つのかを考える ・カントとショーペンハウアーを批判した近代ドイツの哲学者ニーチェの議論を読解し、検討する	２人の対立を要約し、それについての意見を述べる	4時間

第13回	**美について（3）―美の階梯** ・プラトンの『饗宴』を導きに、美の認識の発達について考える ・美的認識の発達の枠組みの中で、動物が感じる美と人間的な美の違いを考える	授業の要点を自分の言葉でまとめて、感想や意見を付け加えてください	4時間
第14回	**まとめとふりかえり** ・13回分の授業をふりかえり、自己の幸福について内省を行い、他者とともに公正な社会を築き、自己自身を構成し、快苦を超える次元に美を見出そうとする人間という存在について理解を深める	これまでの授業資料を見直して、定期試験の準備をしてください	4時間

111

授業科目名	**人間と哲学**				
担当教員名	成瀬尚志				
学年・コース等	1～4年	開講期間	後期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の概要					

授業概要

哲学は、私たちが世界をどのように理解し、知識を得て、自由に行動できるのかといった根本的な問題に取り組む学問です。本授業では、哲学的な思考方法を学びながら、人間の認識や行為のあり方について考察します。

この授業では、物事を深く理解し、論理的に考える力を養うことを目的としています。そのために、3つのユニットを通じて異なる哲学的なテーマを学び、それぞれの問題を掘り下げながら考えます。 哲学の学びにおいては、しっかりと知識を身につけるとともに、一つの問題を粘り強く考え抜くことが重要です。

また、本授業では、考えを整理し、論理的に展開する力を養うため、ノートの作成、コメントシート（毎回400字程度）、レポート（1,600字程度）を課しています。文章を書くことを通じて、以下の力を高めることを目指します。

文章表現力：自分の考えを他者に伝わる形で表現する力を養います。自分では理解できているつもりでも、それを言葉にするのは意外と難しいものです。
批判的思考力：一つの問題を深く考え、論理的に整理しながら検討する力を身につけます。
本授業を通じて、哲学的な知識をしっかりと身につけるとともに、思考力を鍛え、問題に粘り強く取り組む姿勢を養うことを目指します。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. 全学DP１.幅広い教養やスキル	哲学に関する基礎的知識	哲学に関する基礎的知識を自分自身の言葉で説明できる
汎用的な力		
1. 全学DP４.課題発見		哲学上の立場に関して課題を発見し説明することができる
2. 全学DP８.意思疎通		他者の意見を傾聴するとともに、自身の意見を的確に伝えることができる

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
・問答法・コメントを求める
・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

・提出物にコメント・評価をつけて返却します
・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

授業へは原則としてすべて出席してください。何らかの事情で欠席する場合は、シラバスや授業内での配布資料を参照し、自学により内容を確認し、必要な課題に取り組むようにしてください。なお、資格・免許取得に必要な科目は、単位修得に必要な授業時間数が定められている場合がありますので、注意してください。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
コメントシート	70 %	： 各回の授業でコメントシート（400字以上）の提出を求めます。授業内容を理解しているかどうかで評価します。
最終レポート	30 %	： 授業内容を理解しているか、また、自身の意見を吟味できているかどうかに関して評価します。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

伊藤邦武『物語　哲学の歴史―自分と世界を考えるために』中公新書、2012、ISBN4121021878
野矢茂樹『哲学の謎』講談社現代新書、1996、 ISBN-13 ： 978-4061492868

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 月曜日　3限

場所： 研究室（西館4F）

授業計画		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**哲学とは何か** 哲学とはどのような学問であるかについて考えます。また、この授業でどのような問題に取り組むかについて解説します。	授業内容について復習し、コメントシートをまとめる。	4時間
第2回	**（ユニット1）本質とは何か？1：なぜ異なるものが「同じ」と認識されるのか？** 普遍の概念をめぐる問題を導入し、「なぜ異なるものを同じと認識するのか？」という問いを考察する。具体例を通じて、普遍性の問題が日常的な認識にどのように関わるかを検討する。	授業内容を復習し、コメントシートをまとめる。また、ユニット1のレポートの準備をする。	4時間
第3回	**（ユニット1）本質とは何か？2：プラトンのイデア論** プラトンのイデア論を取り上げ、現実の個別の事物とは別に、それらの理想的な形（イデア）が存在するという考え方を学ぶ。イデアがどのように共通性を説明するのかを考える。	授業内容を復習し、コメントシートをまとめる。また、ユニット1のレポートの準備をする。	4時間
第4回	**（ユニット1）本質とは何か？3：アリストテレスの形相と質料** アリストテレスの形相・質料論を学び、プラトンのイデア論とは異なる視点から共通性を説明する考え方を検討する。形相（本質）はどこにあるのかを問い直す。	授業内容を復習し、コメントシートをまとめる。また、ユニット1のレポートの準備をする。	4時間
第5回	**（ユニット1）本質とは何か？（まとめ・中世の普遍論争）** これまでの議論を整理し、プラトンとアリストテレスの立場の違いを比較する。また、中世の普遍論争について学び、普遍の実在について、自分の考えをまとめる。	授業内容を復習し、コメントシートをまとめる。また、ユニット1のレポートの準備をする。	4時間
第6回	**（ユニット2）　知識とは何か？1（知るとはどういうことか）** 「知っている」とはどういうことかを考える。知識がどのように成立するのか、信念や真理との関係を踏まえて検討する。	授業内容を復習し、コメントシートをまとめる。また、ユニット2のレポートの準備をする。	4時間
第7回	**（ユニット2）知識とは何か？2（経験主義と合理主義）** 知識の起源について、経験主義（知識は経験から得られる）と合理主義（知識は理性から生まれる）という二つの立場を比較する。	授業内容を復習し、コメントシートをまとめる。また、ユニット2のレポートの準備をする。	4時間
第8回	**（ユニット2）知識とは何か？3（経験による知識の限界）** 経験に依存する知識にはどのような限界があるのかを考察し、ヒュームの因果関係に対する批判を検討する。	授業内容を復習し、コメントシートをまとめる。また、ユニット2のレポートの準備をする。	4時間
第9回	**（ユニット2）知識とは何か？4（まとめ・カントの認識論）** 経験主義と合理主義の対立を整理するとともに、カントの認識論について学び、知識の構造について検討する。	授業内容を復習し、コメントシートをまとめる。また、ユニット2のレポートの準備をする。	4時間
第10回	**（ユニット3）自由とは何か？1―行為とは？** 自由の問題について考えるために、行為と行為でないものをどのように区別できるのかについて検討します。	授業内容を復習し、コメントシートをまとめる。また、ユニット3のレポートの準備をする。	4時間
第11回	**（ユニット3）自由とは何か？2―自由意志** 自由の問題について考えるために、自由意志とは何かについて検討します。	授業内容を復習し、コメントシートをまとめる。また、ユニット3のレポートの準備をする。	4時間
第12回	**（ユニット3）自由とは何か？3―因果律** 自由の問題について考えるために、因果律を取り上げ、心物因果について検討します。	授業内容を復習し、コメントシートをまとめる。また、ユニット3のレポートの準備をする。	4時間
第13回	**（ユニット3）自由とは何か？4―自由に関するジレンマ** 私たちが自由であるかについて、決定論を取り上げ、自由に関してどのようなジレンマがあるかについて検討します。	授業内容を復習し、コメントシートをまとめる。また、ユニット3のレポートの準備をする。	4時間
第14回	**（ユニット3）自由とは何か？5―心とは？**	授業内容を復習し、コメントシートをまとめる。また、ユニット3のレポートの準備をする。	4時間

ユニット3を振り返り、自由の問題を通して私たちの心とは何かについて検討します。また、この授業全体を振り返り、これまで学んだことを整理します。		

111

授業科目名	人間と芸術				
担当教員名	遠藤太良				
学年・コース等	1年～4年	開講期間	前期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の概要					

授業概要

芸術と人間や社会との関わりを考えるための授業です。
この授業では、絵画や音楽といった典型的な芸術ジャンルだけでなく、漫画やアニメ、SNSなどもを分析し、現代につながる発想や工夫を考えていきます。同時に、そうした展開の背後にある社会的な状況を知り、芸術と人間や社会との関わりについて理解を深めていきます。
こうした学びを通じて、受講生はそれぞれの関心に応じて自分自身の専門的な学修課題との接点を発見し、独自のものの見方を養うことができます。

前もって必要となる知識は特にありません。授業を通じて自然と身につけていきましょう。この授業から、自分の生活を豊かにするためのヒントを見つけたり、創作に生かすことのできる知識を身に着けてもらえたらと思います。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. 全学DP１.幅広い教養やスキル	人間や社会と芸術の関わりについての知識と理解	人間や社会と芸術の関わりについて、歴史的な具体例や様々なジャンルの具体例を通して理解する。
2. 全学DP３.専門的知識・技能を実践で応用する力	人間や社会と芸術の関わりについての知識と実践	人間社会と芸術の関わりについて授業を通して得た知識を、現代社会に応用できるようになる。
汎用的な力		
1. 全学DP４.課題発見		授業で紹介する具体的事例を通した考察から着想を得て、自ら現代社会の問題に気づけるようになる。
2. 全学DP６.行動・実践		授業内容を着想源として活用し、自ら発見した課題の解決に役立てることができるようになる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)

・問答法・コメントを求める

・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

授業へは原則としてすべて出席してください。何らかの事情で欠席する場合は、シラバスや授業内での配布資料を参照し、自学により内容を確認し、必要な課題に取り組むようにしてください。なお、資格・免許取得に必要な科目は、単位修得に必要な授業時間数が定められている場合がありますので、注意してください。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
授業内課題	50 %	： 毎回提出してもらう授業内課題によって、授業への能動的な参加態度、学習内容の理解度を評価する。
試験（レポート）	50 %	： 14回の授業終了後、授業内容に基づくレポート試験を課す。授業内容を自分なりに消化して自分自身の実践に活かす態度が身についているかどうかを評価する。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

池上英洋『西洋美術史入門』（ISBN-13 ： 978-4480688767）
岡田暁生『西洋音楽史――「クラシック」の黄昏』（ISBN-13 ： 978-4121018168）
細馬宏通『ミッキーはなぜ口笛を吹くのか――アニメーションの表現史』（ISBN-13 ： 978-4106037351）
石岡良治『視覚文化「超」講義』（ISBN-13 ： 978-4845914302）
レフ・マノヴィッチほか『インスタグラムと現代視覚文化論』（ISBN-13 ： 978-4802511018）

その他、授業中に指示します。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回5時間程度の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

授業の中では、多くの人名や専門的な用語が出てきます。わからない用語は自主的に調べることで、毎回の授業内容を自分なりに消化し、普段の実践に活用する姿勢を持ってください。授業ではその都度参考文献を紹介しますので、たくさん読んで、主体的に学んでください。

また、美術館やアートイベント等に積極的に出かけることで、授業で得た知識を応用してください。実際に作品を見ることによって、現代社会における芸術の役割についての関心が高まります。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：　随時対応します

場所：　メールでの対応

備考・注意事項：　担当者は非常勤講師のため、主にメールで対応します。

授業計画

		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**人間と芸術（ガイダンス）** これまで芸術が、人間や社会といかに関わってきたのか。そのことを俯瞰する意義について考えます。各回の概要を伝え、この講義についてのイメージを持つとともに、目的を確認します。	人間と芸術（ガイダンス）の配布資料とノートによる該当箇所の復習	5時間
第2回	**絵画** 絵画の見方や歴史を学びます。何が描かれているのかだけではなく、どのような技法で描かれたのか、なぜその時代や地域で描かれたのか、社会や思想とのつながりに注目します。より深く絵画について考えることができるようになりましょう。	絵画についての配布資料とノートによる該当箇所の復習	5時間
第3回	**彫刻** 彫刻の見方や歴史を学びます。何が表現されているのかだけでなく、どのように制作されているのか、なぜその時代や地域で制作されたのか、社会や思想とのつながりに注目します。より深く彫刻について考えることができるようになりましょう。	彫刻についての配布資料とノートによる該当箇所の復習	5時間
第4回	**写真** 初期の写真について学びます。写真が発明されたのは19世紀ですが、当時の人々は写真をどのように使用したのでしょうか。私たちが普段撮っている写真との意外な共通点が見つかるかもしれません。	写真についての配布資料とノートによる該当箇所の復習	5時間
第5回	**現代アート** 現代アートというと難解な印象を受けるかもしれませんが、その歴史を紐解くことで、なぜ現代アートが難解に思えるのかが理解できます。前提となる歴史や社会情勢などを踏まえつつ、現代アートがどのようなものであったのかを確認していきましょう。	現代アートについての配布資料とノートによる該当箇所の復習	5時間
第6回	**美術館** 美術館の歴史について学びます。美術館と似たような施設は古代から存在したと言われていますが、今日私たちが知る美術館が開館したのは18世紀になってからです。美術館の歴史を辿ることで、私たちが訪れる美術館がどのような経緯のもと成立することになったのかについて理解することを目指します。	美術館についての配布資料とノートによる該当箇所の復習	5時間
第7回	**音楽** クラシック音楽の聴き方や歴史を学びます。クラシック音楽と聴くと身構えるかもしれませんが、音楽の歴史や曲の構造を理解すれば誰でも楽しむことができます。より深く音楽について考えることができるようになりましょう	音楽についての配布資料とノートによる該当箇所の復習	5時間
第8回	**映画** 映画についての研究は多く存在します。講義を通じて学んだことを、実際の作品に当てはめて、分析をしてもらいます。好きな映画の新たな側面が発見できるかもしれません。	映画についての配布資料とノートによる該当箇所の復習	5時間
第9回	**文学** 文学作品もまた芸術のジャンルの一つです。文学作品は文字を使って表現するため、抽象的になりがちではありますが、その分表現できる内容の幅も広いです。日本の近代の小説作品を取りあげ、作家たちがどのような問題意識で表現を工夫していたのかについて考えていきましょう。	文学についての配布資料とノートによる該当箇所の復習	5時間

第10回	**漫画とアニメ** 漫画やアニメも独自の形式をもつジャンルとして、多くの研究がなされています。講義を通じて学んだことを、実際の作品に当てはめて、分析をしてもらいます。好きな漫画やアニメの魅力を再発見しましょう。	漫画とアニメについての配布資料とノートによる該当箇所の復習	5時間
第11回	**嗅覚と芸術** 伝統的な芸術は視覚や聴覚を使って鑑賞しますが、近年では嗅覚、すなわち香りも鑑賞体験に組み込まれている場合があります。香りがもたらす効果を、作品の分析を通して考えていきましょう。	嗅覚と芸術についての配布資料とノートによる該当箇所の復習	5時間
第12回	**デザイン** 日常の生活の中で触れるものの中には、機能性と美しさの両方を追求してデザインされているものが多くあります。日本の近代のデザインを中心に学び、社会の中でデザインというものが果たしてきた役割について学んでいきましょう。	デザインについての配布資料とノートによる該当箇所の復習	5時間
第13回	**暮らしの中の芸術** 芸術は何も美術館に陳列されているものに限定されているわけではありません。日常の暮らしで用いるもの、例えば食器などの中にも、立派な芸術と呼べるものがあります。そうした視点を日本で初めて取り入れた民芸運動を中心に取り上げ、生活と芸術の関わりについて考えていきましょう。	暮らしの中の芸術についての配布資料とノートによる該当箇所の復習	5時間
第14回	**SNS** 映える写真や短い動画を手軽に投稿でき、それが話題になる時代。SNSの発展とともに、人々の感じ方や美の感覚はどのように変化したのか、Instagramを例に考えます。皆さん自身、意識しないうちに感性が変化しているかもしれません。	SNSを用いた芸術についての配布資料とノートによる該当箇所の復習	5時間

111

授業科目名	**人間と芸術**				
担当教員名	足立恵理子				
学年・コース等	1年～4年	開講期間	後期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の概要					

授業概要

この授業では、人間や社会と芸術の関わりについて考えます。
普段、何気なく使っている「芸術」という言葉の成り立ちを知ることから出発し、芸術だけでなく日常の暮らしの中にある身近なものへと考察を広げてゆきます。それと同時に、それぞれの事象に潜む歴史的背景を知り、人間および社会と芸術の関わりについて理解を深めていきます。
この授業を通して、受講生はそれぞれの関心に応じて自分自身の専門的な学修課題との接点を発見し、独自のものの見方を養うことができます。
前提知識は特に必要ありません。授業を受けながら身につけていきましょう。
この授業から、日々の生活や創作に生かすことのできるヒントや知識を身に着けてもらえたらと思います。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. 全学DP１.幅広い教養やスキル	人間や社会と芸術の関わりについての知識と理解	人間や社会と芸術の関わりについて、歴史的な具体例や様々なジャンルの具体例を通して理解する。
2. 全学DP３.専門的知識・技能を実践で応用する力	人間や社会と芸術の関わりについての知識と実践	人間社会と芸術の関わりについて授業を通して得た知識を、現代社会に応用できるようになる。
汎用的な力		
1. 全学DP４.課題発見		授業で紹介する具体的事例を通した考察から着想を得て、自ら現代社会の問題に気づけるようになる。
2. 全学DP６.行動・実践		授業内容を着想源として活用し、自ら発見した課題の解決に役立てることができるようになる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)

・問答法・コメントを求める

・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

授業へは原則としてすべて出席してください。何らかの事情で欠席する場合は、シラバスや授業内での配布資料を参照し、自学により内容を確認し、必要な課題に取り組むようにしてください。なお、資格・免許取得に必要な科目は、単位修得に必要な授業時間数が定められている場合がありますので、注意してください。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
授業内課題	50 %	： 毎回提出してもらう授業内課題によって、授業への能動的な参加態度、学習内容の理解度を評価する。
試験（レポート）	50 %	： 14回の授業終了後、授業内容に基づくレポート試験を課す。授業内容を自分なりに消化して自分自身の実践に活かす態度が身についているかどうかを評価する。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

授業内で指示します。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回5時間程度の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

授業の中では、多くの人名や専門的な用語が出てきます。わからない用語は自主的に調べることで、毎回の授業内容を自分なりに消化し、普段の実践に活用する姿勢を持ってください。授業ではその都度参考文献を紹介しますので、関心のあるものを読んで、主体的に学んでください。

また、美術館やアートイベント等に積極的に出かけることで、授業で得た知識を応用してください。実際に作品を見ることによって、現代社会における芸術の役割についての関心が高まります。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：　随時対応します

場所：　メールでの対応

備考・注意事項：　担当者は非常勤講師のため、主にメールで対応します。

授業計画		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**人間と芸術** これまで芸術が、人間や社会といかに関わってきたのか。そのことを俯瞰する意義について考えます。各回の概要を伝え、この講義についてのイメージを持つとともに、目的を確認します。	配布資料とノートによる該当箇所の復習	5時間
第2回	**さまざまな「芸術」** 私たちが何気なく使っている「芸術」という言葉の成り立ちについて学びます。絵画・彫刻・建築・音楽・詩など各ジャンルと「芸術」という言葉の対応関係から紐解いてみましょう。	配布資料とノートによる該当箇所の復習	5時間
第3回	**「芸術」概念の成立** 前回に引き続き、「芸術」の成り立ちについて理解を深め、現代の私たちの「芸術」への理解と比較してみましょう。「芸術」という言葉が確立した時代に、「芸術」がどのようなものとして考えられていたか学びます。	配布資料とノートによる該当箇所の復習	5時間
第4回	**「芸術」にまつわる諸概念** 前回に引き続き、「芸術」について取り上げます。この言葉が確立した時代の重要概念である「崇高」や「天才」についても学びます。	配布資料とノートによる該当箇所の復習	5時間
第5回	**西洋美術史概観　「様式」という観点から** ここまで学んできた「芸術」への理解を踏まえつつ、「様式」という観点から西洋美術史を概観します。	配布資料とノートによる該当箇所の復習	5時間
第6回	**イコノロジー** 前回に引き続き、美術史について学びます。今回は「イコノロジー」を取り上げ、絵画を見る視点について学びましょう。	配布資料とノートによる該当箇所の復習	5時間
第7回	**現代アート 分析美学の視点から** デュシャンの「泉」を出発点に、現代アートの成り立ちについて学びます。見方のわからないことの多い現代アートについて理解を深め、自身の鑑賞に役立てましょう。	配布資料とノートによる該当箇所の復習	5時間
第8回	**古代における芸術1：プラトンの「芸術」観** 2000年以上前の古代の人が「芸術」についてどう考えていたのか。今回はプラトンの思想を取り上げます。私たちの「芸術」についての理解と比較・考察してみましょう。	配布資料とノートによる該当箇所の復習	5時間
第9回	**古代における芸術2：プラトンの考える「美しさ」** 前回に引き続き、プラトンについて学びます。今回は「美しさ」についてです。	配布資料とノートによる該当箇所の復習	5時間
第10回	**古代における芸術3：アリストテレス** 前回に引き続き、古代における「芸術」について学びます。今回はアリストテレスの思想を取り上げます。私たちの「芸術」についての理解と比較・考察してみましょう。	配布資料とノートによる該当箇所の復習	5時間
第11回	**古代における芸術4：プロティノス** 前回に引き続き、古代における「芸術」について学びます。今回はプロティノスの思想を取り上げます。私たちの考える「芸術」についての理解と比較・考察してみましょう。	配布資料とノートによる該当箇所の復習	5時間
第12回	**日常美学の試み** 今回と次回で、私たちの暮らしの中での美について目を向けます。今回は身近な美しいものに目をむける「日常美学」について学びます。	配布資料とノートによる該当箇所の復習	5時間
第13回	**生活と芸術 民藝運動** ここまで学んできた「芸術」に対抗する形で展開された「民藝運動」について学びます。ここまでの内容を振り返りつつ、日々の暮らしの中の美しいものに目をむける「民藝」への理解から私たちの暮らしへと目を向けましょう。	配布資料とノートによる該当箇所の復習	5時間
第14回	**まとめ** 「美」「感性」「芸術」という三つの視点からこれまでの内容を振り返ります。	配布資料とノートによる該当箇所の復習	5時間

111

授業科目名	**教育学入門**				
担当教員名	市川和也				
学年・コース等	1～4年	開講期間	後期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の概要					

授業概要

教育とは何か。人間が大人になり、社会で活躍するためにはどのような教育が必要なのか。また学校で学ぶということはどのような視点を大事に見ていかねばならないのだろうか。こうした問いは、さまざまな教育問題が生起する現在においては避けられないものとなっている。本講義ではこうした問いを深めるために、現在の教育問題の論点について検討する。さらに教育問題への理解にとどまらず、「人を育てる教育とはどうあるべきか」という視点を持ちながら、よりよい教育像を追求するために何が必要かという点についても検討していきたい。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. 全学DP１.幅広い教養やスキル	教職志望者だけではなく、人を育てるという広義において教育の意義について知り、自分自身にひきつけて考える。	教育の意義を捉えるとともに、現代的な教育問題に関心をもち、知識を踏まえた自らの意見を持つことができる。
汎用的な力		
1. 全学DP４.課題発見		これまでの教育体験を踏まえつつも教育学的知見から自らの体験を相対化し、現代の教育問題に対して自らの意見を持つことができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)

・問答法・コメントを求める

・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)

・課題解決学習(PBL)

課題や取組に対する評価・振り返り

・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

授業へは原則としてすべて出席してください。何らかの事情で欠席する場合は、シラバスや授業内での配布資料を参照し、自学により内容を確認し、必要な課題に取り組むようにしてください。なお、資格・免許取得に必要な科目は、単位修得に必要な授業時間数が定められている場合がありますので、注意してください。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
期末レポート	70 %	： 授業内容の理解および問題意識に基づいた論述の内容及び学術レポートに相応しいかどうかを評価します。
毎回の授業課題	30 %	： 授業のキーワードに関して自らの意見を述べ、論理的に自らの考えや疑問が示されていれば2点、許容範囲の誤りが見られるものは1点、内容が授業にそぐわないか根本的な誤りを含んでいるものは0点とします。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

・広田照幸『教育問題はなぜまちがって語られるのか？ 』日本図書センター、2010年（9784284304429）

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。

「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

備考・注意事項： 初回授業時に連絡します

授業計画		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**オリエンテーション―学校教育の普及と教育問題** 本講義の概要やスケジュール、評価方法などを確認します。 また、本講義を通じて持って欲しい問いを確認し、変化が求められている教育、教育学を学ぶ意味の重要性について理解します。	教育に興味を持ったきっかけや動機を整理する。自らの教育体験で印象に残った出来事を振り返る。	4時間
第2回	**現代の教育問題（1）いじめ・不登校** 社会問題化しているいじめ・不登校の問題について、具体的な事例を交えながら支援方法を検討する。 また、その背景にあるスクールカーストや集団の力について、吟味する。	いじめや不登校に関する資料をよみ、まとめる。	4時間
第3回	**現代の教育問題（2）貧困と教育** 現代的な教育問題の一つである、貧困と教育の関係性を知る。 その際に、日本の社会保障に言及しながら、子どもの貧困が社会構造上の問題であることを確認し、現状の学校において何ができるかを検討する。	貧困に関する資料をよみ、まとめる。	4時間
第4回	**現代の教育問題（3）特別なニーズを持つ子どもへの支援** 特別なニーズをもつ子どもたちの支援の方法を検討する一方で、校則や学校文化などで求められる「当たり前」が「当たり前」なのかという点について授業で批判的に検討する。	自身の教育体験の中で特別なニーズをもつ子どもがどのような状況にあったかを振り返りながら、関連文献を読み、まとめる。	4時間
第5回	**現代の教育問題（4）災害と学校** 「災害」をいかに子どもたちに教え、伝えることができるか（果たしてそれをしてもよいのか）という点を、岩手県釜石市の事例をもとに検討する。	入試に関する自らの体験を振り返り、入試の体験で感じた疑問点を挙げる。入試に関する関連文献を読み、まとめる。	4時間
第6回	**現代の教育問題（5）入試** 入試改革の問題を整理するだけではなく、入試における基本的な論点を整理・検討することによって入試を教育学的に検討する。	どのような学力が重要と感じるか、その理由も含めて整理する。	4時間
第7回	**「授業」を問い直す（1）学力とは何か** 「学力」は社会や国際情勢の趨勢に伴って変化してきた。今回の授業では「学力」の歴史的変遷や「学力」の中身に影響を及ぼす政治的・経済的・社会的要因も確認する。	該当のテキスト部分を読んで、まとめる。自分の理想とする授業像についてまとめ、共有できるように準備する。	4時間
第8回	**「授業」を問い直す（2）「教え」から「学び」へ？** 教育現場では子どもの主体的な「学び」が重要視されるとともに「アクティブ・ラーニング」がキーワードとして定着しているが、一方で「教え」の役割が見過ごされる傾向にもある。 「学び」に対する批判的な検討を行うとともに、「教え」にいかなる可能性が残されているか検討する。	興味を持っているテーマを一つ選び、考えをまとめる。	4時間
第9回	**大学で教育問題を考えるために（1）教育問題を語る** 事前に準備したテーマについて、授業で解説するポイントを踏まえ、ミニレポートを作成する。	ミニレポートを作成して感じられた課題を振り返る。	4時間
第10回	**大学で教育問題を考えるために（2）語りを吟味する** ミニレポートをもとに教育の論じ方を検討する。	小集団や授業で指摘された点を踏まえ、自分の考えを再検討し、修正・改善する。	4時間
第11回	**これからの教育？（1）どんな教師が必要か？** 教師の職能として何が求められているかという点を整理する。 また教師のライフヒストリーやライフコースに注目することによって、教師の発達を包括的に捉える。	教師論に関する文献を読み、まとめる。	4時間
第12回	**これからの教育？（2）一斉授業から個別化・個性化へ？** 「アクティブ・ラーニング」と平行して語られる「個別化・個性化」への方向性に関して、その背景における言説を検討し、意義と課題を吟味したい。	授業の「個別化・個性化」を可能にする具体的方策について文献を読み、まとめる。	4時間
第13回	**これからの教育？（3）ICTは教育を救うのか？** 「個別化・個性化」「アクティブ・ラーニング」を可能にするメディアとしてICTが注目されている。 ICT導入の経緯やそれに対する議論を検討することによって、その可能性や課題に関して検討する。	第14回の文献を読み、まとめる。	4時間

第14回	**これからの教育？（4）教育問題をどのように考えるか** グローバル化、格差の拡大などによって多様化する子どもたちに対して、学校はどのような対応をすることが求められているかという点についてこれまでの授業をまとめながら検討する。	定期レポートの作成、改訂。	4時間
			時間

111

授業科目名	現代倫理				
担当教員名	成瀬尚志				
学年・コース等	1～4年	開講期間	前期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の概要					

授業概要

この授業では倫理学上の問題を考える上で基礎となる立場について概説します。さまざまな倫理学上の立場を学ぶことで、倫理学の基礎的知識を習得するとともに、現代の倫理学的な問題について自分自身の意見を持つことができるようになることを目標とします。
また、この授業では毎回の授業で400字程度のコメントシートと1,000字程度の中間レポートと1,600字程度の最終レポートを求めます。たくさん文章を書くことで考える力を養います。
授業で学んだことをふまえ、自分自身で現代の倫理的問題を見いだし、その問題を授業で学んだ立場から説明できるようになることを目指します。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. 全学DP１.幅広い教養やスキル	・倫理学に関する基礎的知識 ・現代社会における問題の倫理学的分析	・倫理学に関する基礎的知識を自分自身の言葉で説明できる ・現代社会における問題を倫理学的観点から分析し、自分自身の意見を持つことができる
汎用的な力		
1. 全学DP４.課題発見		現代社会における諸問題に関して倫理学的な観点から課題を発見し説明することができる
2. 全学DP８.意思疎通		他者の意見を傾聴するとともに、自身の意見を的確に伝えることができる

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)

・問答法・コメントを求める

・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)

・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

・提出物にコメント・評価をつけて返却します

・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

授業へは原則としてすべて出席してください。何らかの事情で欠席する場合は、シラバスや授業内での配布資料を参照し、自学により内容を確認し、必要な課題に取り組むようにしてください。なお、資格・免許取得に必要な科目は、単位修得に必要な授業時間数が定められている場合がありますので、注意してください。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
コメントシート	60 %	： 各回の授業でコメントシート（400字以上）の提出を求めます。授業内容を理解しているかどうかで評価します。
レポート	40 %	： 授業内容を理解しているか、また、自身の意見を吟味できているかどうかに関して評価します。 10点（中間レポート）＋30点（最終レポート）＝40点

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

マイケル・サンデル『これからの「正義」の話をしよう』早川書房、2011年、ISBN4150503761

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 月曜日　3限

場所： 研究室（西館4F）

授業計画		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**倫理とは何か？倫理に関する3つの立場** 倫理的な問題を考えるための3つの基本的な立場（功利主義、自由重視、美徳重視）を導入し、それぞれの特徴や考え方について概観します。	授業内容について復習し、コメントシートをまとめる。	4時間
第2回	**功利主義1―禁欲主義と功利主義** 現代倫理を考えるに当たって、私たちのニーズと倫理との関係を考えるために禁欲主義と功利主義の立場について見ていきます。	授業内容を復習し、コメントシートをまとめる。 また、中間レポートの準備をする。	4時間
第3回	**功利主義2―長期的な視点** 功利主義が短期的な快楽だけでなく、長期的な視点を持つ必要があることを検討し、どのように倫理的判断を行うかを考えます。	授業内容を復習し、コメントシートをまとめる。 また、中間レポートの準備をする。	4時間
第4回	**功利主義3―功利主義の問題点** 功利主義の限界や批判について考え、幸福の最大化だけでは解決できない倫理的問題について議論します。	授業内容を復習し、コメントシートをまとめる。 また、中間レポートの準備をする。	4時間
第5回	**功利主義4―配慮の対象** 功利主義の枠組みの中で、配慮の対象がどこまで広がるべきか（動物や未来世代を含むべきか）について検討します。	授業内容を復習し、コメントシートをまとめる。 また、中間レポートの準備をする。	4時間
第6回	**功利主義5―ニーズと倫理** 個人のニーズと倫理的判断がどのように関係するのかを考え、功利主義的な視点でのニーズの扱いについて分析します。中間レポートをまとめて提出します。	授業内容を復習し、コメントシートをまとめる。 また、中間レポートの準備を完成させる。	4時間
第7回	**自由1―私は私のものか** 個人の自由と権利について考え、「私は私のものか？」という問いを通じてリバタリアニズムの立場を学びます。	授業内容を復習し、コメントシートをまとめる。 また、最終レポートの準備をする。	4時間
第8回	**自由2―自己責任論の問題点** 自己責任論がどのように機能し、どのような問題を抱えているのかを検討し、自由と責任の関係について考えます。	授業内容を復習し、コメントシートをまとめる。 また、最終レポートの準備をする。	4時間
第9回	**美徳1―コミュニタリアニズムと共通善** 個人の「善」だけでなく、コミュニティ全体の「共通善」を重視するコミュニタリアニズムの立場について学びます。共通善を追求することが、個人の自由や権利とどのように関係し、時に対立するのかを検討します。	授業内容を復習し、コメントシートをまとめる。 また、最終レポートの準備をする。	4時間
第10回	**美徳2―コミュニタリアニズムの課題と限界** 共通善の考え方が社会制度やルールの形成にどのように影響を与えるのかを考えます。また、コミュニタリアニズムの問題点として、個人の価値観と社会の価値観が対立する場合にどのような倫理的課題が生じるのかを議論します。	授業内容を復習し、コメントシートをまとめる。 また、最終レポートの準備をする。	4時間
第11回	**3つの立場のまとめ** 功利主義、自由重視、美徳重視の3つの立場を総合的に比較し、それぞれの特性や適用可能性について整理します。	授業内容を復習し、コメントシートをまとめる。 また、最終レポートの準備をする。	4時間
第12回	**自由3―欲求と理性：カントの自由概念** 「欲求に従うことは自由なのか？」という問いを通じて、カントの義務論を学びます。カントは、単なる欲求の充足ではなく、理性に基づいて自律的に選択することこそが真の自由であると主張します。この立場を通して、私たちが「自由」だと感じる行動が、本当に自由なのかを考えます。	授業内容を復習し、コメントシートをまとめる。 また、最終レポートの準備をする。	4時間
第13回	**自由4―道徳法則と自律：カントの義務論** カント倫理学における定言命法と自由の関係を深く掘り下げます。「私たちは自律的に道徳的判断ができるのか？」という問題を中心に、定言命法が道徳法則としてどのように機能するのかを検討し、カントの自由概念をより具体的に考察します。	授業内容を復習し、コメントシートをまとめる。 また、最終レポートの準備をする。	4時間
第14回	**ニーズから考える倫理について**	授業内容を復習し、コメントシートをまとめる。 また、最終レポートを完成させる。	4時間

授業全体をふりかえり、あらためてニーズと倫理の関係について考えます。また、最終レポートの提出に向けて、倫理的問題をどのように分析すべきかを確認します。		

111

授業科目名	心理学概論				
担当教員名	羽野ゆつ子				
学年・コース等	1～4年	開講期間	前期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の概要					

授業概要

心理学入門として、心のしくみについて基礎的な内容を学びます。身体を動かすこと、見たり聞いたりすること、ものをつくったり考えたりすること、人と関わること。私たちが日常の中で行っているいとなみについて、その基礎となる心理メカニズムを学びます。また、生を受けて誕生し、子どもから大人になって、老いていき、死を迎えるという、人の一生を視野に入れて、人が人と交わり、自分を育てていく、その心理メカニズムの基礎も学びます。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. 全学DP１.幅広い教養やスキル	人間の心のしくみについての知識	人間の心のしくみについて、心理学の知見にもとづいて理解できる。
汎用的な力		
1. 全学DP４.課題発見		日常の出来事を心理学の知見と結びつけてとらえることができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)

・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)

・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

・提出物にコメント・評価をつけて返却します

・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

授業へは原則としてすべて出席してください。何らかの事情で欠席する場合は、シラバスや授業内での配布資料を参照し、自学により内容を確認し、必要な課題に取り組むようにしてください。なお、資格・免許取得に必要な科目は、単位修得に必要な授業時間数が定められている場合がありますので、注意してください。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
シャトルシートと授業内ワークシート	70 %	： 毎授業ごとにシャトルシートの提出を求め、評価の対象とします。シャトルシートは、授業内容が的確にまとめられているか、授業内容に対する自分の意見が記述できているかを評価します。
中間課題	10 %	： 心理学で学んだことを日常生活に結びつけて考える課題です。心理学の基礎知識を正しく理解しているかどうかという観点から評価します。
後半課題	10 %	： 心理学の基礎知識を用いて自身の意見を述べる課題に取り組みます。心理学の基礎知識を正しく理解し、日常生活と結びつけて考察しているかという観点から評価します。
期末レポート（まとめ）	10 %	： 心理学の学習内容についてふりかえります。

使用教科書

指定する

著者	タイトル	出版社	出版年
羽野ゆつ子・竹原卓真	・ あなたとわたしの心理学	・ ナカニシヤ出版	・ 2021 年

参考文献等

授業中に紹介する。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

場所：　研究室　中央館２階研究室80

備考・注意事項：　初回授業時に伝える。

授業計画

		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**オリエンテーション　―心へのアプローチ** 19世紀後半から20世紀初頭に、物理学や生理学などに学び、科学として始まった心理学研究を紹介します。	授業の内容をふりかえり、受講の目的を明確にする。	4時間
第2回	**知覚のしくみ（1）　目でものを見ること** 知覚の中でも「目でものを見ること」すなわち「視覚」に関する研究から、「知覚」が心の働きの出発点であることを紹介します。	授業の内容を復習し、錯視図形を探す。	4時間
第3回	**知覚のしくみ（2）　味わうということ** 知覚の中でも「味わうということ」すなわち「味覚」に関する研究から、「味覚」に「味覚」以外の知覚が働いていることを紹介します。	授業の内容を復習し、日常の学習や生活に活用する。	4時間
第4回	**認知（1）　認知と感情** 考えたり選んだりといった私たちの認知に感情が関わっていることを紹介します。	ここまでの授業の内容を復習し、心理学と日常場面のつながりを探す。	4時間
第5回	**認知（2）　記憶のしくみ** 新しいことを覚えること、覚えていることを思い出すこと。どちらにも人のエラーはつきものです。このような「人間の記憶」について、心理学の研究で明らかになってきた特徴を紹介します。	授業の内容を復習し、日常場面の出来事に照らす。なぞなぞを探す。	4時間
第6回	**認知（3）　思考の方法** コミュニケーションの手段であると同時に、私たちが世界についての理解を拡げたり、新しい理解を生み出したりする思考方法について考えます。	授業の内容を復習し、日常の中にあるメタファーを探す。	4時間
第7回	**心理学の視点から自分を見つめる：第１～6回のふりかえり** 第1回から第６回までの学習内容をふりかえり、自分の日常生活についてみつめます。	第1回から第6回までの復習と定着	4時間
第8回	**発達（1）　赤ちゃんから小学生まで** 乳児から児童にみられる、人の心の発達について考えます。	授業の内容を復習し、乳幼児期・児童期の発達について理解を深める。	4時間
第9回	**発達（2）　若者から大人へ** 思春期・青年期から成人初期にみられる、人の心の発達について考えます。	授業の内容を復習し、青年期・成人期初期の発達について理解を深める。	4時間
第10回	**発達（3）　中年から高齢者へ** 人生の後半と言われる中年期から老年期にみられる、人の心の発達について考えます。	授業の内容を復習し、中年期・老年期の発達について理解を深める。	4時間
第11回	**社会（1）　社会の中で人をどのようにとらえるか** 社会心理学の研究で明らかにされてきた、パーソナリティについて紹介します。	授業の内容を復習し、パーソナリティについて理解を深める。	4時間
第12回	**社会（2）　社会の中でのコミュニケーション** 社会心理学の研究で明らかにされてきた、対人コミュニケーションについて紹介します。	授業の内容を復習し、対人コミュニケーションについて理解を深める。	4時間
第13回	**臨床　心の不調をどう理解するか** 心の不調について、ストレスを中心に、どのような手だてをとることができるのかという理解と、心の不調のもつ意味について紹介します。	授業の内容を復習し、自己を見つめる。	4時間
第14回	**心についてみつめる** 第7回から第13回までの学習内容をふりかえり、自分の日常生活についてみつめます。	授業の内容を復習し、人間の心についての理解を深める。	4時間

111

授業科目名	**心理学概論**				
担当教員名	水谷聡秀				
学年・コース等	1～4年	開講期間	前期／後期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	公益財団法人の研究センターでデータ分析の業務委託を請け負う（第1回）				

授業概要

心理学入門として、心のしくみについて基礎的な内容を学びます。身体を動かすこと、見たり聞いたりすること、ものをつくったり考えたりすること、人と関わること。私たちが日常の中で行っているいとなみについてその基礎となる心理メカニズムを学びます。また、生を受けて誕生し、子供から大人になって、老いていき、死を迎えるという、人の一生を視野に入れて、人が人と関わり、自分を育てていく、その心理メカニズムの基礎も学びます。
なお、Google Classroomで授業を行い、原則的に毎回ウェブ上で小レポートを記入してもらい、意見の共有などを行います。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. 全学DP１.幅広い教養やスキル	心理学の幅広い領域から学ぶ。	心理学の知識を問われときには答えられ、日常や社会にどのように応用できるか述べることができる。
2. 全学DP２.専門的知識・技能、職業理解	心理学の中心的領域の概要と基礎理論を学ぶ。	心理学の中心的領域の概要と基礎理論を学んだことについて問われた場合には正確に答えることができる。
汎用的な力		
1. 全学DP４.課題発見		日常や社会（家族、地域、企業、芸術、国際関係など）の生活（人間関係、仕事の効率化、教育など）に関連づけて述べられる。
2. 全学DP８.意思疎通		授業で学んだことを分かりやすく説明できる。
3. 全学DP10.忠恕の心		日常や社会の生活において徳（愛情、親切、向上心、知恵など）が備わるよう適切に努力できる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・問答法・コメントを求める
・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
・eラーニング、反転授業
・ディベート、討論
・その他(以下に概要を記述)
　・調査、アセスメントなどを実施して測定を体験をする。

課題や取組に対する評価・振り返り

・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします
・その他(以下に概要を記述)
　提出後の授業で、全体的な傾向あるいは特定の学生の小レポート等を取り上げてコメントする。

成績評価

注意事項等

授業へは原則としてすべて出席してください。何らかの事情で欠席する場合は、シラバスや授業内での配布資料を参照し、自学により内容を確認し、必要な課題に取り組むようにしてください。なお、資格・免許取得に必要な科目は、単位修得に必要な授業時間数が定められている場合がありますので、注意してください。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
振り返り・小レポート提出	42 %	： 毎回、小レポート等を記述して時間内、あるいは期日までに提出したもので評価する。
小テスト（電子上）	48 %	： 心理学の基礎知識と応用力で判断する。
期末テスト（レポート提出）		： 授業で学んだこと活かして十分に論じていることができているかで判断する。

10　%

使用教科書

指定する

著者	タイトル	出版社	出版年
サトウタツヤ・渡邊芳之	・心理学・入門 - 心理学はこんなに面白い　改訂版	・有斐閣	・2019　年

参考文献等

岡市廣成、鈴木 直人(監修) 『心理学概論　第2版』 ナカニシヤ出版、2020年　ISBN:978-4779508301
その他の参考文献については必要に応じて授業中に紹介する。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：　授業時間の前後

場所：　Google Classroom

授業計画

		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**オリエンテーション・心へのアプローチ** 授業の進め方などを確認し、心理学では心がどのように研究されているかを学びます。	教科書や配布資料などを熟読し、心へのアプローチについて予習・復習する。	4時間
第2回	**知覚のしくみ（1）目でものを見ること** 恒常性、立体視、錯視などの現象に加えて、網膜や脳から解明されつつある視覚機能を学びます。	教科書や配布資料などを熟読し、視覚について予習・復習する。	4時間
第3回	**知覚のしくみ（2）味わうということ** 音の高さや大きさ、味の知覚などの視覚以外の知覚機能について幅広く学びます。	教科書や配布資料などを熟読し、視覚以外の知覚について予習・復習する。	4時間
第4回	**認知（1）身体と認知** 身体の感覚と運動、アフォーダンス、表情などについて学びます。	教科書や配布資料などを熟読し、身体と認知について予習・復習する。	4時間
第5回	**認知（2）記憶の仕組み** 短期記憶、長期記憶、記憶の種類について学びます。	教科書や配布資料などを熟読し、記憶の仕組みについて予習・復習する。	4時間
第6回	**認知（3）思考の方法** 認知バイアス、ヒューリスティックスについて学びます。	教科書や配布資料などを熟読し、思考の方法について予習・復習する。	4時間
第7回	**心理学の視点から自分をみつめる** 自己認知（自己概念、自尊心）、性格（知能検査、性格検査、遺伝と環境）について学びます。	教科書や配布資料などを熟読し、自己認知について予習・復習する。	4時間
第8回	**発達（1）新生児期・乳児期** 赤ちゃんが認識する顔、声、言葉の発達などについて学びます。	教科書や配布資料などを熟読し、赤ちゃんの心について予習・復習する。	4時間
第9回	**発達（2）幼児期・児童期** 幼児や児童の言葉の発達、親子関係、友人関係について学びます。	教科書や配布資料などを熟読し、幼児から児童の心について予習・復習する。	4時間
第10回	**発達（3）青年期以降** 青年期のアイデンティティ、高齢期の心理などについて学びます。	教科書や配布資料などを熟読し、青年期以降の心について予習・復習する。	4時間
第11回	**社会（1）社会の中での人をどのようにとらえるか** 社会認知、集団、群衆について学びます。	教科書や配布資料などを熟読し、社会認知や集団について予習・復習する。	4時間
第12回	**社会（2）社会の中でのコミュニケーション** 非言語コミュニケーション、対人感情、援助行動、攻撃行動について学びます。	教科書や配布資料などを熟読し、他者との相互作用について予習・復習する。	4時間
第13回	**臨床（1）心の不調をどう理解するか** 心の不調について検査や面談で診断が行われることや、さまざまな療法があることを学びます。	教科書や配布資料などを熟読し、心の不調について予習・復習する。	4時間
第14回	**臨床（2）心についてみつめる** 精神分析学、マズローの欲求五段階説、ポジティブ心理学などについて幅広く学びます。	教科書や配布資料などを熟読し、臨床から心について予習・復習する。	4時間

111

授業科目名	**心理学概論**				
担当教員名	宮原朋子				
学年・コース等	1～4年	開講期間	前期／後期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の概要					

授業概要

心理学入門として、心のしくみについて基礎的な内容を学びます。身体を動かすこと、見たり聞いたりすること、ものをつくったり考えたりすること、人と関わること。私たちが日常の中で行っているいとなみについてその基礎となる心理メカニズムを学びます。また、生を受けて誕生し、子供から大人になって、老いていき、死を迎えるという、人の一生を視野に入れて、人が人と関わり、自分を育てていく、その心理メカニズムの基礎も学びます。
なお、Google Classroomで授業を行い、原則的に毎回ウェブ上で小レポートを記入してもらい、意見の共有などを行います。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. 全学DP１.幅広い教養やスキル	心理学の幅広い領域から学ぶ。	心理学の知識を問われときには答えられ、日常や社会にどのように応用できるか述べられる。
2. 全学DP２.専門的知識・技能、職業理解	心理学の中心的領域の概要と基礎理論を学ぶ。	心理学の中心的領域の概要と基礎理論を学んだことについて問われた場合には正確に答えられる。
汎用的な力		
1. 全学DP４.課題発見		日常や社会（家族、地域、企業、芸術、国際関係など）の生活（人間関係、仕事の効率化、教育など）に関連づけて述べられる。
2. 全学DP８.意思疎通		授業で学んだことを分かりやすく説明できる。
3. 全学DP10.忠恕の心		日常や社会の生活において徳（愛情、親切、向上心、知恵など）が備わるよう適切に努力できる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・問答法・コメントを求める
・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
・eラーニング、反転授業
・ディベート、討論
・その他(以下に概要を記述)
　・調査、アセスメントなどを実施して測定の体験をする。

課題や取組に対する評価・振り返り

・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします
・その他(以下に概要を記述)
　提出後の授業で、全体的な傾向あるいは特定の学生の小レポート等を取り上げてコメントします。

成績評価

注意事項等

授業へは原則としてすべて出席してください。何らかの事情で欠席する場合は、シラバスや授業内での配布資料を参照し、自学により内容を確認し、必要な課題に取り組むようにしてください。なお、資格・免許取得に必要な科目は、単位修得に必要な授業時間数が定められている場合がありますので、注意してください。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
振り返り・小レポート提出	70 %	： 毎回、小レポート等を記述して、期日までに提出したもので評価する。
小テスト（電子上）	10 %	： 心理学の基礎知識と応用力で判断する。
期末テスト（レポート提出）	10 %	： 授業で学んだこと活かして十分に論じることができているかで判断する。

ディスカッションへの参加 : 授業の内容を理解し、内容に関連した自分の意見を述べることができているかで判断する。

10 %

使用教科書

指定する

著者	タイトル	出版社	出版年
サトウタツヤ・渡邊芳之	・心理学・入門 - 心理学はこんなに面白い 改訂版	・有斐閣	・2019 年

参考文献等

横田 正夫（監修）『心理学大図鑑（Newton大図鑑シリーズ）』ニュートンプレス 2021年 ISBN:978-4315524550
岡市廣成、鈴木 直人（監修）『心理学概論 第2版』 ナカニシヤ出版 2020年 ISBN:978-4779508301
その他の参考文献については必要に応じて授業中に紹介する。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 授業時間の前後

場所： Google Classroom

授業計画

		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**オリエンテーション・心へのアプローチ** 授業の進め方などを確認し、心理学では心がどのように研究されているかを学びます。	教科書や配布資料などを熟読し、心へのアプローチについて予習・復習する。	4時間
第2回	**知覚のしくみ（1）目でものを見ること** 恒常性、立体視、錯視などの現象に加えて、網膜や脳から解明されつつある視覚機能を学びます。	教科書や配布資料などを熟読し、視覚について予習・復習する。	4時間
第3回	**知覚のしくみ（2）味わうということ** 音の高さや大きさ、味の知覚などの視覚以外の知覚機能について幅広く学びます。	教科書や配布資料などを熟読し、視覚以外の知覚について予習・復習する。	4時間
第4回	**発達（1）新生児期・乳児期** 赤ちゃんが認識する顔、声、言葉の発達などについて学びます。	教科書や配布資料などを熟読し、赤ちゃんの心について予習・復習する。	4時間
第5回	**発達（2）幼児期・児童期** 幼児や児童の言葉の発達、親子関係、友人関係について学びます。	教科書や配布資料などを熟読し、幼児から児童の心について予習・復習する。	4時間
第6回	**発達（3）青年期以降** 青年期のアイデンティティ、高齢期の心理などについて学びます。	教科書や配布資料などを熟読し、青年期以降の心について予習・復習する。	4時間
第7回	**心理学の視点から自分をみつめる** 自己認知（自己概念、自尊心）、性格（知能検査、性格検査、遺伝と環境）について学びます。	教科書や配布資料などを熟読し、自己認知について予習・復習する。	4時間
第8回	**認知(1)身体と認知** 身体の感覚と運動、表情、ミラーニューロン、アフォーダンスなどについて学びます。	教科書や配布資料などを熟読し、身体と認知について予習・復習する。	4時間
第9回	**認知(2)記憶の仕組み** 短期記憶・長期記憶、記憶の種類などについて学びます。	教科書や配布資料などを熟読し、記憶の仕組みについて予習・復習する。	4時間
第10回	**認知(3)思考の方法** さまざまな認知バイアスについて学びます。	教科書や配布資料などを熟読し、認知バイアスについて予習・復習する。	4時間
第11回	**社会（1）社会の中での人をどのようにとらえるか** 社会認知、集団、群衆について学びます。	教科書や配布資料などを熟読し、社会認知や集団について予習・復習する。	4時間
第12回	**社会（2）社会の中でのコミュニケーション** 非言語コミュニケーション、対人感情、援助行動、攻撃行動について学びます。	教科書や配布資料などを熟読し、他者との相互作用について予習・復習する。	4時間
第13回	**臨床（1）心の不調をどう理解するか** 心の不調について検査や面談で診断が行われることや、さまざまな療法があることを学びます。	教科書や配布資料などを熟読し、心の不調について予習・復習する。	4時間

第14回	**臨床（2）心についてみつめる** フロイトの精神分析学やユングの集合的無意識、アドラー心理学やマズローの欲求階層説について学びます。	教科書や配布資料などを熟読し、臨床から心について予習・復習する。	4時間

111

授業科目名	**考古学**				
担当教員名	**渡邊貴亮**				
学年・コース等	1～4年	開講期間	前期／後期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の概要					

授業概要

「考古学」、聞いたことのある言葉だが具体的にどのような学問なのであろうか。考古学者とは、人類が残したあらゆる痕跡を手掛かりとして、生活していたヒトの暮らしや社会、環境を知ろうとする。時として遺跡を発掘調査し、そこから掘り出されたものを様々な手段を用いて分析する。本講義では、まず考古学がどのような学問であるのかを概観し、次に実際に発掘調査で得られる「石器」や「土器」といった資料の扱い方と、そこからいかに情報を引き出し、研究するのかといった方法を学ぶ。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. 全学DP１.幅広い教養やスキル	人類の歴史とその発展の理解	人類の歴史とその発展の経過を、学問的手順を経て理解することができる。
2. 全学DP２.専門的知識・技能、職業理解	考古学の理解	考古学とはどのような学問なのかを理解することができる。考古資料の取り扱い方法を身につける。
汎用的な力		
1. 全学DP４.課題発見		考古学的な調査方法研究から、課題発見とその解決のための自己目標設定を学ぶことができる。
2. 全学DP10.忠恕の心		授業を通じて集団で実施する調査・研究の方法を学び、他者の立場にたった思考を身につける。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)

・問答法・コメントを求める

・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)

授業内において、身近な「モノ」に触れる機会を設けることで、より深く考古資料の取り扱いを学ぶ。それらの資料について受講生に図化や写真化の機会を用意しコメントを求めることによって、考古学的な資料の観察方法や資料化方法などを学ぶ。

課題や取組に対する評価・振り返り

・実技・実習後、全体に向けてコメントします

・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

授業へは原則としてすべて出席してください。何らかの事情で欠席する場合は、シラバスや授業内での配布資料を参照し、自学により内容を確認し、必要な課題に取り組むようにしてください。なお、資格・免許取得に必要な科目は、単位修得に必要な授業時間数が定められている場合がありますので、注意してください。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
平常点	30 %	： 講義内で短いコメントや簡単な設問への回答を求め、「授業の内容を理解し、自身の言葉で簡潔にまとめることができているか」という観点から評価する。また、質問などの講義への積極性についても評価する。
中間課題	20 %	： 第1回から第6回までの範囲について、「授業内容を正しく理解しているか」第4回の「図・写真の資料化とその重要性を理解しているか」という観点から評価する。
期末試験(レポート)	50 %	： 全14回の授業を通じて「授業内容を正しく理解できているか」「学問的な思考方法を身につけられているか」「学問的な手順を経てレポートを作成できているか」という観点から評価する。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

山本孝文･青木 敬･城倉正祥･寺前直人･浜田晋介 著『考古学概論』ミネルヴァ書房 2022年
一瀬和夫著『考古学の研究法』学生社　2013年(ISBN9784311300868)
松藤和人・門田誠一編著『よくわかる考古学』ミネルヴァ書房　2010年(ISBN9784623055630)
コリン・レンフルー　ポール・バーン著『考古学―理論・方法・実践』東洋書林　2007年(ISBN9784887217157)
近藤義郎ほか編著『岩波講座　日本考古学＜1＞研究の方法』岩波書店　1991年(ISBN9784000102612)

その他の参考文献については講義の単元ごとに適宜紹介する。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間程度の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。
シラバスに記載の参考文献の他にも授業の単元ごとに参考文献等を紹介するため、それらを用いて予復習するとより効果的な学習となる。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 月曜日1限

場所： Google Classroom

備考・注意事項： 遠隔授業のため、基本的にはGoogle Classroomでのコメント・限定公開コメントで質問を受け付けています。質問用のトピックも設けてありますので適宜利用してください。時間は上記の限りではありません。
メールで質問する場合は
watanabe-t@g.osaka-seikei.ac.jp
にて受け付けています。メールには必ず「件名」「所属」「氏名」を明記するようお願いします。

授業計画		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**考古学とは何か** この講義の流れや出席の取り方、成績評価の方法などをガイダンスする。また、この授業では何を学び、何を身に着けることを目標とするのかを説明する。また、本講義は遠隔授業での開講が想定されているため、G suite for Education を用いてどのように講義を進めていくのか、どのように受講していくのかを詳細に説明する。 ガイダンス後、考古学とはどのようなものかを概説するとともに、今後講義内で頻出する専門用語などを説明する。	講義の内容を配布資料および参考文献等で復習する。また、これから学ぶ「考古学」が今まで受講生各自が持っていたイメージとどのように異なるのかを考える。用語について復習しておくことによって次回からの講義の理解が深まる。	4時間
第2回	**考古学とはどのような学問なのか** 初回の概説を踏まえ、より詳細に「考古学がどのような学問なのか」を学ぶ。世間一般に普及している「考古学」のイメージと、実際にこれから講義で学んでいく「考古学」については乖離がある。これらの違いについて学ぶとともに、考古学の基本理念や目的、方法について学ぶ。	講義の内容を配布資料および参考文献等で復習する。これまで自身がもっていた「考古学」のイメージと今回学んだ「考古学」とがどのように異なっていたのか、またなぜそうなっているのかを、受講生自身の体験に基づいて考えることにより、より現代考古学についての理解が深まる。	4時間
第3回	**考古学の歴史** 日本における考古学がどのような歴史をたどってきたのかを概説する。また、日本(東アジア)における考古学の扱いと欧米における考古学の扱いについてどのように異なるかを説明する。	講義の内容を配布資料および参考文献等で復習する。日本考古学はどのようにして持ち込まれ、どのように発展してきたのかについて理解を深める。講義内で取り上げた人物について受講生自身で調べることによって、その時代背景をより深く理解することができる。	4時間
第4回	**考古学の方法(1) - 考古学における図・写真 -** 考古学では「図」や「写真」といった資料化された情報がとても重要になる。これらが「何故重要なのか」や、考古学における図や写真の「資料化の方法」や資料化されたものの「読み解き方」などを中心に学ぶ。	講義の内容を配布資料および参考文献等で復習する。特に図や写真の見方や意味について理解を深める。考古学に関する図や写真を調べてみて、そこから何が読み取れるのかを実践することにより、図や写真の有用性をより深く理解することができる。	4時間
第5回	**考古学の方法(2) - 発掘調査について -** 考古学では時として「発掘調査」という手法を用いる。「発掘調査」とはどのような意味があり何を目的として行うものなのか。どのようなルールが定められているのか。これらの内容について授業担当者の実際の経験を踏まえて学ぶ。	講義の内容を配布資料および参考文献等で復習する。発掘調査のメリット・デメリットについて理解する。また、「遺跡」にはどのような法律や法令が適用されるのかについて理解を深める。自身の興味のある土地が「遺跡」なのかどうかを調べてみることで、より深く理解することができる。	4時間
第6回	**考古学の方法(3) - 年代の推定について -**	講義の内容を配布資料および参考文献等で復習する。考古学における資料の新旧関係や年代の推定方法について理解を深める。特に自然科学的な手法と人文科学的な手法との違いについて理解を深める。	4時間

	考古学を学んでいくと「どちらが新しいモノなのか」という問題につきあたる。考古学ではどのようにして遺跡や資料の「新旧」を決めているのか、具体的な年代が発表されているものについてはどのようにその年代を推定(決定)しているのかを学ぶ。		
第7回	**「デザイン」を用いた研究** 考古学では人類が残した痕跡を手掛かりとして、様々な研究をおこなう。考古資料には、その資料の製作や使用にかかわった人が残した「デザイン」を留めるものがある。これらの資料に残された「デザイン」を手掛かりとする研究方法について学ぶ。	講義の内容を配布資料および参考文献等で復習する。考古学の方法論について理解を深める。特に「デザイン」を手掛かりとする「形式」「型式」「様式」についての理解を深める。課題にとりあげたような身近なものに置き換えて考えることによって、この方法論をより深く理解することができる。	4時間
第8回	**石器を用いた研究** 「石器」とは人類がこれまでにもっとも長く使い続けている道具の一つである。「石器研究」とはどのようなものであり、なぜ石器を用いて研究するのかを学ぶ。	講義の内容を配布資料および参考文献等で復習する。石器研究のメリット・デメリットについて理解を深める。石器とはどのような資料であるのか理解を深める。身の回りの「石」と石器がどのように異なるのかを、自身で実感することでより深く理解することができるようになる。	4時間
第9回	**土器を用いた研究** 「土器」とは人類のみが用いる道具であり、人類の進化の上でも大きな変化の一つである。「土器研究」とはどのようなものであり、なぜ土器を用いて研究するのかを学ぶ。	講義の内容を配布資料および参考文献等で復習する。土器の性質や研究の方法について理解を深める。身の回りにある「土器」について、改めて考えてみることで「土器」についてのより深く理解することができる。	4時間
第10回	**遺構を用いた研究** 「遺構」とは人類が残した不動産的な痕跡をあらわす。昔の人々が残した「持ち運びできない資料」とはどのようなもので、それらを用いた研究とはどのようにしておこなわれるのかを学ぶ。	講義の内容を配布資料および参考文献等で復習する。「遺構」とは「遺跡」や「遺物」と何が異なるのかについて理解を深める。また、人々が地面に残した痕跡からどのようにして情報を読み解くのかについて理解を深める。現在の人間の営みが、将来的にどのような「遺構」となるのかを想像することで「遺構」についてより深く理解することができる。	4時間
第11回	**博物館・資料館における考古資料について** 現代社会において、考古資料は博物館や資料館で目にする機会が多い。博物館における考古資料とはどのようなものなのか。また、博物館の資料とはどのようにして観覧者に届けられるのか。考古学が博物館・資料館において担う役割について学ぶ。	講義の内容を配布資料および参考文献等で復習する。博物館における考古学の役割について理解を深める。実際に博物館や資料館へ行くことでより深く理解することができる。	4時間
第12回	**博物館における考古資料の実際** これまで学んできた考古資料というものが、実際の博物館においてどのように扱われているのか、どのように活用されているのかを学ぶ。また、実際の博物館内で撮影した講義資料を用いて、講義担当者の解説をふまえながら博物館における考古資料について学ぶ。	これまで博物館で実際に目にした資料について、自身で調べて理解を深める。講義内で扱った考古資料の役割について、これまで受講生各自が訪れた館園とどのように異なるのかを考えてみる。	4時間
第13回	**現代社会における遺跡の活用方法** 過去の人々が残した「遺産」であり「財産」でもある遺跡を、現代社会においてどのように扱うべきなのか、今後遺跡はどのようにして残されていくのかを学ぶ。近年頻繁に目にする「世界遺産」や「文化遺産」、「日本遺産」とはどういったものなのか。そのメリット・デメリットについて学ぶ。	講義の内容を配布資料および参考文献等で復習する。世界遺産に指定されることのメリット・デメリットについて理解を深める。現代社会における遺跡のあり方について理解を深める。身の回りの「遺跡」や「遺産」について改めて調べることにより、より深く理解することができる。	4時間
第14回	**これからの考古学** 現在、考古学ではどのような研究がおこなわれているのか。授業担当者がおこなっている研究を含め、新聞発表や報道などがおこなわれていない最新の研究状況を知ることで、より深く現在の考古学の在り方について学ぶ。それらをふまえて、これからの考古学がどのように変化していくのかを考える。 最後に、本講義をふり返り、考古学ひいては歴史学という学問が現代社会にとってどのような意味を持つものであるのかを考えるとともに、期末試験に向けたまとめとする。	これまでの講義の内容を配布資料および参考文献等で復習する。教科書やマスメディアに取り上げられていない研究とはどのようなものなのかを考えることで、より深く理解することができる。また、第1回目の講義テーマである「考古学とは何か」について、これまでの講義をふり返りながら受講生各自の答えを見つけ出す。	4時間

111

授業科目名	**日本史概説**				
担当教員名	松本望				
学年・コース等	1～4年	開講期間	後期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	近世大坂における教育や出版について研究している。また地域史料を収集・調査し、史料集や雑誌を刊行する機関に勤務している。				

授業概要

本授業では、古代から近現代に至る日本史を網羅するが、学生に歴史を身近に感じてもらうため、大学の所在地である大阪をフィールドの中心として取り上げる。各時代において大阪は、為政者から重要な地域と位置付けられ、政治・経済・文化の拠点となった。各回の授業では、大阪に残されてきた史跡・文化財を取り上げ、それがこれまで学習してきた日本史における出来事とどう関わるのかを講義する。毎回内容を示した資料を配付し、具体例を紹介するが、概説的な内容となる場合が多いため、復習等の参考として適宜文献や関連作品を紹介する。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. 全学DP１.幅広い教養やスキル	日本史・日本文化に関する知識	日本史・日本文化に関する基本的な知識を正しく理解できる。
2. 全学DP３.専門的知識・技能を実践で応用する力	日本史・日本文化に関する知識の利用	授業を通じて得た日本史・日本文化に関する知識を自分の専門分野に取り入れることができる。
汎用的な力		
1. 全学DP４.課題発見		日本史・日本文化に対して広く関心を持ち、文献を読んだり、史跡や博物館等の施設を見学したりすることによって、大阪の歴史・文化に対する独自の観点を育むことができる。
2. 全学DP８.意思疎通		日本史・日本文化に関する知識を自分の言葉で説明できる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)

・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)

・見学、フィールドワーク

授業中、視聴覚教材を鑑賞したり、江戸時代の和本や引札を実際に読む機会を設けます。その際400字程度の感想を求めるので主体的に取り組むこと。また各回の授業内容に関連した史跡や博物館等を紹介するので、自身が興味・関心を持った場所に積極的に見学に行くこと。

課題や取組に対する評価・振り返り

・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

希望者は、各回の授業の中で興味を持ったテーマについて、400字程度で論述し、提出すること。①内容が適切にまとめられているか、②学生固有の見解が述べられているか、などの観点から添削し、返却します。

成績評価

注意事項等

授業へは原則としてすべて出席してください。何らかの事情で欠席する場合は、シラバスや授業内での配布資料を参照し、自学により内容を確認し、必要な課題に取り組むようにしてください。なお、資格・免許取得に必要な科目は、単位修得に必要な授業時間数が定められている場合がありますので、注意してください。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
学期末レポート	35 %	： 授業の内容に即した課題について、800～1200字程度の小論文を求める。内容描写に加えて、独自の観点が加わった論述を積極的に評価する。
中間レポート（1）	25 %	： 授業で取り上げた視聴覚教材に関して、400字程度の感想文を求める。内容描写に加えて、独自の観点が加わった論述を積極的に評価する。
中間レポート（2）	30 %	： 授業に関連する歴史小説に関して、800字程度の感想文を求める。内容描写に加えて、独自の観点が加わった論述を積極的に評価する。
授業内小レポート		： 授業の内容に即したアンケートを求める。自身の生活や経験による素直な記述を積極的に評価する。

10　%

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

・大阪市史編纂所編『大阪市の歴史』創元社　1999年(ISBN-10 ： 4422201387,ISBN-13 :『 978-4422201382)。その他の参考文献は授業中に随時紹介する。

履修上の注意・備考・メッセージ

・本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

・現代社会と歴史の関わりを様々な形で言及するため、各種のメディアを通じて、時事問題を常に追いかけていることが望ましい。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：　月曜日2限

場所：　GoogleClassroom

授業計画		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**日本史や日本文化を学ぶということ** 日本史や日本文化を学び、現代の生活にどのように生かすかを考える。	配付資料と講義で得た知識をもとに、ノートを作成する。またテーマに関わる文献を読んだり、史跡・文化財に触れたりすることにより、知識を深めること。理解のためのキーワード：高校日本史の教科書に見える大阪	4時間
第2回	**飛鳥時代の宗教と政治** 古代の大阪を代表する史跡である四天王寺と、建立した厩戸王（聖徳太子）について、学習する。	配付資料と講義で得た知識をもとに、ノートを作成する。またテーマに関わる文献を読んだり、史跡・文化財に触れたりすることにより、知識を深めること。理解のためのキーワード：厩戸王（聖徳太子）の事績、仏教の受容をめぐる対立	4時間
第3回	**飛鳥~奈良時代の遷都** 古代大阪に遷都された難波宮について、特徴と遷都に至る経緯を学習する。	配付資料と講義で得た知識をもとに、ノートを作成する。またテーマに関わる文献を読んだり、史跡・文化財に触れたりすることにより、知識を深めること。理解のためのキーワード：大化の改新、聖武天皇	4時間
第4回	**平安～鎌倉時代** 皇族・貴族の四天王寺や住吉への寺社参詣や源平合戦と大阪について、学習する。	配付資料と講義で得た知識をもとに、ノートを作成する。またテーマに関わる文献を読んだり、史跡・文化財に触れたりすることにより、知識を深めること。理解のためのキーワード：西行、江口君、渡辺党	4時間
第5回	**南北朝～室町時代** 南北朝期に活躍した楠木正成について学習する。また室町幕府の成立と大阪についても言及する。	配付資料と講義で得た知識をもとに、ノートを作成する。またテーマに関わる文献を読んだり、史跡・文化財に触れたりすることにより、知識を深めること。理解のためのキーワード：承久の乱、楠木正成、室町幕府	4時間
第6回	**江戸時代の政治** 豊臣秀吉が築城した大坂城は大坂夏の陣により落城する。その後江戸幕府が行った再築工事について学習する。また、江戸幕府にとって大坂城がどのような役割を果たしたのかについて学習する。	配付資料と講義で得た知識をもとに、ノートを作成する。またテーマに関わる文献を読んだり、史跡・文化財に触れたりすることにより、知識を深めること。理解のためのキーワード：豊臣期の大坂城、徳川期の大坂城、幕藩体制、幕府直轄領、大坂城代	4時間
第7回	**江戸時代の学問と出版文化** 江戸時代の大坂における教育活動と出版文化について学習する。江戸時代の書物（和本）やちらし（引札）を考察する。	配付資料と講義で得た知識をもとに、ノートを作成する。またテーマに関わる文献を読んだり、史跡・文化財に触れたりすることにより、知識を深めること。理解のためのキーワード：懐徳堂、泊園書院、適塾	4時間
第8回	**幕末期における内憂外患** 幕末期、異国船の来航により、様相が一変した天保山について、学習する。	配付資料と講義で得た知識をもとに、ノートを作成する。またテーマに関わる文献を読んだり、史跡・文化財に触れたりすることにより、知識を深めること。理解のためのキーワード：ロシア船ディアナ号、プチャーチン	4時間

第9回	**明治維新期の政治と経済** 明治政府による政策と大阪に与えた影響について学習する。特に大久保利通と五代友厚の動向を中心に学習する。	配付資料と講義で得た知識をもとに、ノートを作成する。またテーマに関わる文献を読んだり、史跡・文化財に触れたりすることにより、知識を深めること。理解のためのキーワード：大久保利通、五代友厚、大阪商法会議所、大阪会議	4時間
第10回	**日清・日露戦争** 日本が初めて経験した近代戦争である日清・日露戦争と、不平等条約の改正について学習する。また日露戦争への反戦詩を発表した与謝野晶子についても言及する。	配付資料と講義で得た知識をもとに、ノートを作成する。またテーマに関わる文献を読んだり、史跡・文化財に触れたりすることにより、知識を深めること。理解のためのキーワード：治外法権、関税自主権、与謝野晶子	4時間
第11回	**明治政府による殖産興業政策** 大阪で開催され、最後にして最大と称された第五回内国勧業博覧会と、閉幕後建設された通天閣について、学習する。	配付資料と講義で得た知識をもとに、ノートを作成する。またテーマに関わる文献を読んだり、史跡・文化財に触れたりすることにより、知識を深めること。理解のためのキーワード：内国勧業博覧会、新世界ルナパーク、通天閣	4時間
第12回	**大正～昭和初期の都市整備と洋風建築** 第七代大阪市長・関一が進めた都市整備と、大阪が「大大阪」と称された時期に建設された、洋風建築について、学習する。	配付資料と講義で得た知識をもとに、ノートを作成する。またテーマに関わる文献を読んだり、史跡・文化財に触れたりすることにより、知識を深めること。理解のためのキーワード：第二次市域拡張、御堂筋、地下鉄、大阪市中央公会堂、大阪府立中之島図書館	4時間
第13回	**太平洋戦争** 太平洋戦争では、東京や大阪、名古屋など200を超える都市が空襲で焼き尽くされた。このうち大阪で8度にも及んだ「大阪大空襲」について学習する。	配付資料と講義で得た知識をもとに、ノートを作成する。またテーマに関わる文献を読んだり、史跡・文化財に触れたりすることにより、知識を深めること。理解のためのキーワード：第1回大阪大空襲、救難列車	4時間
第14回	**高度経済成長期の日本** 日本万国博覧会（大阪万博）について学習し、大阪府が目指している2025年国際博覧会（万博）誘致について考える。	配付資料と講義で得た知識をもとに、ノートを作成する。またテーマに関わる文献を読んだり、史跡・文化財に触れたりすることにより、知識を深めること。理解のためのキーワード：日本万国博覧会（大阪万博）、国際花と緑の博覧会（花博）、2025年万博誘致	4時間

111

授業科目名	外国史概説				
担当教員名	東出加奈子				
学年・コース等	1～4年	開講期間	前期／後期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の概要					

授業概要

本講義では、外国史ならびに国際関係について、幅広い教養を身に付けます。諸外国の歴史は、地理的境界線や民族、言語、宗教などから独自の文化が形成され、相互の関わりによって展開されてきました。ヨーロッパの歴史を中心にアジアとの関係をふまえつつ、政治、文化、社会を取り上げながら、古代から現代に至るまでを学びます。歴史的知識を覚えるだけではなく、諸外国との関係に視野を広げながら論じることができるようになることを目指します。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. 全学DP１.幅広い教養やスキル	世界史ならびに国際関係の全般的な知識	今日の国や社会がどのような経緯を経て成立したのか概略を理解する
汎用的な力		
1. 全学DP４.課題発見		今日の世界情勢を把握するための分析力、ならびに比較史的な視野を会得できる。
2. 全学DP８.意思疎通		世界の歴史を学んだ知識について、自分の言葉で伝えることができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)

・問答法・コメントを求める

・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

・提出物にコメント・評価をつけて返却します

・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

授業へは原則としてすべて出席してください。何らかの事情で欠席する場合は、シラバスや授業内での配布資料を参照し、自学により内容を確認し、必要な課題に取り組むようにしてください。なお、資格・免許取得に必要な科目は、単位修得に必要な授業時間数が定められている場合がありますので、注意してください。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
定期試験	60 %	： 授業内容の正確な把握、ならびに自らの考えを正確かつ簡潔に表現する能力。
小テスト	20 %	： 授業内容とその重要な点の正確な把握。
授業内レポート	20 %	： 授業に取り組む姿勢、ならびに内容の理解。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

『詳説世界史研究』木村靖二・岸本美緒・小松久男編、山川出版社、2017年（ISBN：978-4-634-03088-6）。
そのほか関連文献については随時紹介します。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められます。「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習してください。また授業中の私語は慎んでください。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 前期：水曜２限　後期：水曜3限

場所： 研究室（西館４階）

備考・注意事項： Google Classroom　や Gmailでいつでも連絡してください。

授業計画		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**外国史をどのように学ぶのか** 授業の概要と目的について説明します。なんのために歴史を学ぶのか考えます。 外国史における時代区分を理解します。	世界地図で海外諸国の地理を確認し、世界史の概要を調べてください	4時間
第2回	**古代文明（1）オリエントと地中海** 古代文明の起源と史的背景について学びます。メソポタミア文明とエジプト文明の成立とその特徴を理解します。地中海世界の形成と独自の文明を築いた過程を理解します。	古代オリエント文明について調べてください	4時間
第3回	**古代文明（2）アジア** アジアで生まれた古代文明の背景を学びます。都市文明の成立とアジア諸地域の特色を捉えます。古代文明の盛衰とその後の影響について理解します。	アジアの古代文明の特徴を調べてください	4時間
第4回	**イスラーム世界の形成** イスラーム教の誕生からイスラーム文明が発展した過程を捉えます。イスラーム文明は宗教信仰にとどまることなく公的な領域や政治にも影響を及ぼし、人文主義や啓蒙思想が成立していった社会を理解します。	宗教と歴史の関係について調べてください	4時間
第5回	**ヨーロッパ世界の形成と発展、大航海時代** 中世のヨーロッパの形成と発展を理解します。西ヨーロッパと東ヨーロッパの成立について知識を深め、世界の交易ネットワークの規模が拡大していった大航海時代について学びます。	中世ヨーロッパの形成と大航海時代における東インド会社について調べてください	4時間
第6回	**フランス・イギリスの植民地時代** 重商主義期のヨーロッパ各地が発展するなか海外貿易が進み、海外植民地が広がっていった過程を理解します。フランス、イギリス、スペインが海外との繋がりを背景に成長していく具体的な動きを把握します。	ヨーロッパの植民地について調べてください	4時間
第7回	**ヨーロッパ近世から近代化へ** 近世におけるヨーロッパと非ヨーロッパとの繋がりから啓蒙思想が広がっていったことを理解し、政治や経済政策にも影響を与えることになった背景を把握します。一方、ヨーロッパが自然界の研究の発展により科学革命の時代と称された社会を把握します。	重商主義と啓蒙専制主義を調べてください	4時間
第8回	**産業革命** イギリスに始まった産業革命の概要を把握します。巨大な製品市場が出現し、技術革新によって資本主義とよばれる生産システムが誕生した背景を理解し、現代への影響を考えます。	産業革命の経緯と成果について調べてください	4時間
第9回	**アメリカ合衆国の成立と拡大** イギリス本国とのあいだで植民地の独立をめぐる戦争を経て、連邦共和国が創出された過程について知識を深めます。南北戦争に至った経緯とその後のアメリカの政治・経済について理解します。	アメリカ合衆国の成立と発展について調べてください	4時間
第10回	**フランス革命とナポレオン** 絶対王政によるアンシャン・レジームの封建的特権に対して不満が勃発し、社会全体が混乱するなかで革命が起こった過程を把握します。近代市民社会が誕生した経緯を理解します。	フランス革命がもたらした近代社会について調べてください	4時間
第11回	**ナショナリズムの発展** 欧米における近代国民国家の発展の動向を把握します。ウィーン体制における国民または民族の共同体を重視・尊重する思想や動きから、統一国家が形成される過程を学びます。	「国民国家」が生まれる背景とそれが残した影響を調べてください	4時間
第12回	**ヨーロッパとアジアの変革** ヨーロッパ諸国が経済的にも政治的にも発展し対外進出を進めるなか、アジア諸国が変容していった過程について理解します。世界の列強国が衝突しあう帝国主義時代への移り変わりを把握します。	ヨーロッパ諸国がアジア進出を展開した時代について調べてください	4時間
第13回	**二つの世界大戦** 第一次世界大戦から第二次世界大戦までの世界的な社会情勢と過程を理解します。 両大戦が世界に与えた影響について外国史の視点から考えます。	世界大戦と大戦後の世界について調べてください	4時間

第14回	**グローバリゼーション　まとめ** 冷戦時代を経て成立した現代の国際社会について知識を深めます。 外国史を振り返り、地域紛争の激化や、格差を背景とした地域・宗教戦争や国際テロ活動の多発など、世界の現状と課題について考えます。	現代における世界情勢と課題について調べてください	4時間

111

授業科目名	カウンセリング理論				
担当教員名	永井和香				
学年・コース等	1年・看護学部	開講期間	前期	単位数	1
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	児童養護施設にて心理療法 他。大学の学生相談室カウンセラーとして勤務。 臨床心理士・公認心理師				

授業概要

カウンセリングの基礎となる理論とコミュニケーションスキルを学び、
実際の場面で適切なコミュニケーションができる基礎を作ることを目的とする。
またカウンセリングは、臨床心理学の考え方を基盤にして、他者をどのように理解し、
いかに関わるのかを吟味し行われるもので、この学習を通して看護における
心理的援助のあり方について考え、看護師としてどのようにカウンセリングを
用いることができるかについて考える。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. 全学DP１.幅広い教養やスキル	適切なコミュニケーションに必要なカウンセリングの理論・技法	心理的援助における基本的態度・姿勢、傾聴、基礎的な面接技法について理解できる
2. 全学DP２.専門的知識・技能、職業理解	全人的理解に基づいた、対象理解、心理的援助の理論・方法	心理アセスメント・心理療法・患者の心理やストレスについて、基礎的なことを理解できる
汎用的な力		
1. 全学DP６.行動・実践		学んできたことを振り返り、看護における心理的援助のあり方について考える
2. 全学DP10.忠恕の心		他者の心の世界に関心を持ち、共感的に理解する姿勢を養う

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)

・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

授業へは原則としてすべて出席してください。何らかの事情で欠席する場合は、
シラバスや授業内での配布資料を参照し、自学により内容を確認し、必要な課題
に取り組むようにしてください。なお、資格・免許取得に必要な科目は、単位修
得に必要な授業時間数が定められている場合がありますので、注意してください。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
授業内課題　（振り返りシート）	42　％	：　・自己評価と共に、授業の学びを的確に示しているかについて評価する（3点） ・授業の内容を踏まえて、主体的に考える姿勢がうかがえるものを評価する（3点）
期末試験（レポート）	58　％	：　・実際の場面において適切なコミュニケーションを行う為の基礎的理解に達しているかを判断する ・看護における心理的援助のあり方について自身の意見が記述されているか、内容の適切さも踏まえて評価する

使用教科書

指定する

著者	タイトル	出版社	出版年
吉武光世編著	・ 新はじめて学ぶメンタルヘルスと心理学(ISBN9784762026980)	・ 学文社	・ 2017　年

参考文献等

伊藤良子編著「一番はじめに読む心理学の本①　臨床心理学－全体的存在として人間を理解する－」（2011）
授業中に適宜紹介する。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は１単位の科目で、7回の授業であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 授業後

場所： 授業の教室

授業計画		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第１回	**カウンセリングってどんなもの？　ー臨床心理学の視点からー** 臨床心理学からカウンセリングの基礎的な考え方（定義・対象・目標など）について学ぶ。 カウンセリングにおいて「聴く」とはどのようなことか理解する。 他者を全人的に理解するとはどのようなことか学ぶ。	臨床心理学の概要について調べる。全人的理解とはどのようなことか調べる。	4時間
第２回	**心理アセスメント** 心理アセスメントに必要な情報収集の方法や倫理について学ぶ。 代表的な心理検査について知り、各検査の長所や短所などを理解する。 対象者の心理を適切に理解するための基本的な姿勢や態度について考える。	情報収集の方法について復習する。	4時間
第３回	**心理療法** 心理療法とはどのようなものか学ぶ。 代表的な心理療法（精神分析的心理療法・認知行動療法など） の歴史、理論、方法などについて知る。	代表的な心理療法についてまとめる。自身が気になった心理療法について調べる。	4時間
第4回	**面接技法Ⅰ（傾聴・非言語的コミュニケーション）** カウンセリングの基本的な考え方や方法（関係形成・傾聴など）について 来談者中心療法の理論から学ぶ。 基本的な面接技法（非言語的コミュニケーション）について理解する。	カウンセリングの概要についてまとめる。	4時間
第５回	**面接技法Ⅱ　（傾聴・言語的コミュニケーション）** 基本的な面接技法（言語的コミュニケーション）について理解する。 事例を読んで、傾聴において大切な態度・姿勢・技法とはどのようなものか理解を深める。	基本的な面接技法（言語・非言語的コミュニケーション）についてまとめる	4時間
第６回	**医療領域における臨床心理学Ⅰ：患者の心理について** 患者となった人の体験や、病いを抱えて生きるとはどのようなことか学ぶ。 カウンセリング的な人間関係とはどのようなものか考える。	病の苦悩と心のプロセスについてまとめる。病いを抱えて生きる患者とのかかわりについて復習する。	4時間
第７回	**医療領域における臨床心理学Ⅱ：患者のストレスについて　／　まとめ** ストレスとはどのようなものか、その仕組みや心理学的ストレス理論、 対処法などについて学ぶ。 患者となった人のストレスについて学ぶ。 これまでを振り返り、悩みや苦しみを持つ人の個別的、具体的な状況に対して、 どのような姿勢・態度を持ち、どのように対話を重ねることができるか考える。	ストレスについてまとめる。自分の中の感じに目を向けて自分と対話してみる。	4時間

111

授業科目名	**日本国憲法**				
担当教員名	則武立樹				
学年・コース等	1～4年	開講期間	前期／後期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の概要					

授業概要

≪授業形態≫全回オンデマンド配信

「日本国憲法」と聞くと、何か難解で理解しづらい「法」のように思えるかもしれない。しかし、日本という国家の構造上、法の中でも一番強い力を持つものが日本国憲法なのである。では、憲法が私たちにしてくれていること、逆に私たちの行動を制限していることって何なのか？憲法はどういう形でこの社会に溶け込んでいるのか？こうした今まで深く考えてこなかったであろう「憲法」に真正面から向き合い、次世代を担う皆さんが「憲法」を理解できるよう、様々な生活の中でのエピソードを交えつつ授業を展開します。
また、下記の授業方法の欄にもあるように、講義動画視聴を中心として授業を進行しますが、Google Classroomや課題（コメント）の提出を活用し、受講生の疑問等を共有するアクティブラーニングも取り入れます。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. 全学DP２.専門的知識・技能、職業理解	日本国憲法の基本構造や理念に関する知識の習得。	日本国憲法とはどんな法であるのかについて、自らの考えを述べることができる。
汎用的な力		
1. 全学DP４.課題発見		日本国憲法の理念、法解釈を正しく理解した上で、日本社会の抱える現代的課題について、事実概要を整理し、批判的に検討することができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)

・その他(以下に概要を記述)

≪映像教材配布＋異時双方向型≫
授業の流れ（初回）
・音声付きパワーポイント講義動画視聴（60分程度）→配布PDFファイルを用いた「振り返り」（20分程度）→課題（コメント）/Google Classroom上での質問の作成と提出（20分程度）
授業の流れ（2回目以降）
・課題（コメント）/質問に対するフィードバック（10分程度）→音声付きパワーポイント講義動画視聴（50分程度）→配布PDFファイルを用いた「振り返り」（20分程度）→課題（コメント）/Google Classroom上での質問の作成と提出（20分程度）

課題や取組に対する評価・振り返り

・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

授業へは原則としてすべて出席してください。何らかの事情で欠席する場合は、シラバスや授業内での配布資料を参照し、自学により内容を確認し、必要な課題に取り組むようにしてください。なお、資格・免許取得に必要な科目は、単位修得に必要な授業時間数が定められている場合がありますので、注意してください。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
授業への参加度	30 %	： 次回授業日前日（23時59分）までに提出を求める課題（コメント）/質問等について、科目独自のルーブリックによって評価します。
期末レポート試験	70 %	： 日本国憲法の構造、理念、法解釈などについて正しく理解をしているか、そして、自らの意見を論理的に述べられるかという観点から評価します。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

『保育と日本国憲法』橋本勇人編（みらい、2018年） ISBN 978-4-86015-460-8
『憲法第8版』、芦部信喜著、高橋和之補訂（岩波書店、2023年） ISBN 978-4-00-061607-2
『教職課程のための憲法入門（第3版）』、西原博史、斎藤一久編著（弘文堂、2024年） ISBN 978-4-335-35979-8

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は２単位の科目であるため、平均すると毎回４時間の授業外学修が求められます。まず予習として、該当するテーマについてインターネット等を用いて調査すること。そして、受講後には当該授業内容の復習を行うこと。
この講義は、日本国憲法や法学の初学者を含め、教職を目指す者、一般常識として憲法を学びたいと考える者、講義内容に関心を持つ者を広く対象とします。そもそも、なぜ私たちは憲法を「学ぶ（必要がある）」のか？次世代を担う学生の皆さんのふとした疑問に答えられる授業を展開していきます。なお、授業運営の説明を行うので第1回目の授業動画は必ず視聴すること。また日常の心構えとして、「憲法」のキ―ワードの出てくる新聞記事やニュ―スなどを注意深く見ておくこと。そして、自分なりに「何が問題となっているのか」について考えてみることを勧めます。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 授業の前後

場所： Google Classroom上

備考・注意事項： 授業に関する質問がある場合には、Google Classroomにて受け付けます。

授業計画		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**ガイダンスーなぜ私たちは憲法を学ぶ（必要がある）のか？ー** 教職を選ぶ者にとっては必修科目とされる「日本国憲法」であるが、なぜ学ぶ必要があるのか？また、一般常識としてなぜ憲法を知っておかなければならないのか。次世代を担う学生の皆さんが今ここで真正面から「日本国憲法」を学ぶ意義を示す。	予習として以下のキーワードの意味を調べること。 １：基本的人権、２：国家権力、３：主権者。また、授業後には講義内容を自分の言葉で再整理すること。	4時間
第2回	**人権総論ー憲法が保障する「人権」とは何か？ー** 人権とは「誰のもの」であるのか。そして、人権は国家権力によって「制限」されてもよいのかについて概説する。	予習として以下のキーワードの意味を調べること。１：外国人の人権、２：国民の定義、３：国籍の取得。また、授業後には講義内容を自分の言葉で再整理すること。	4時間
第3回	**法の下の平等 ―こども、女性、LGBTQ＋を巡る差別に対して憲法はどう挑むことができるのか？―** 未だ平等が完全に保障されたとは言えない日本の中で、憲法がどのように立ち向かうことが出来るのかを知る。	予習として以下のキーワードの意味を調べること。 １：包括的基本権、２：機会の平等/結果の平等、３：尊属殺人（親子関係に基づく差別）、４：非嫡出子（子どもに対する差別）、５：同性婚。また、授業後には講義内容を自分の言葉で再整理すること。	4時間
第4回	**精神的自由権 ―思想・良心の自由、信教の自由（「心」の自由を保障する）、表現の自由（「行動」の自由を保障する）―** 誰にも縛られるはずのない私たちの「心」、「行動」が、どのようにして侵害されるのかについて学ぶ。	予習として以下のキーワードの意味を調べること。１：思想･良心の自由、２：信教の自由、３：政教分離、４：目的効果基準、５：表現内容/表現内容中立規制。また、授業後には講義内容を自分の言葉で再整理すること。	4時間
第5回	**経済的自由権 ― 職業選択の自由、営業の自由（「経済活動」の自由を保障する）、社会権（生存権）―** 経済的自由権に対する国家の法規制はどこまで許されるのか。そして、「健康で文化的な最低限度の生活」をうたう憲法25条がどこまで保障されているのか。判例を通じてその法解釈を学ぶ。	予習として以下のキーワードの意味を調べること。１：職業選択の自由、２：二重の基準論、３：規制目的二分論、４：生存権。また、授業後には講義内容を自分の言葉で再整理すること。	4時間
第6回	**現代の憲法問題① 居住移転の自由（部落差別を素材に）―** 日本社会で連綿と続く部落差別。その差別構造と差別の誕生経緯、そして憲法上の解決策を探る。	予習として以下のキーワードの意味を調べること。１：部落、２：居住移転の自由。また、授業後には講義内容を自分の言葉で再整理すること。	4時間
第7回	**現代の憲法問題② 死刑存廃問題①（日欧の差異）―** 死刑廃止国が世界の3分の2を占める現在。死刑制度のあり方を日欧の差から学ぶ。	予習として以下のキーワードの意味を調べること。１：死刑制度、２：罪刑法定主義。また、授業後には講義内容を自分の言葉で再整理すること。	4時間
第8回	**現代の憲法問題③ 死刑存廃問題②（死刑制度の合憲性）―** 死刑制度を存置し続けることは果たして憲法に合致しているのか。その整合性を探る。	予習として以下のキーワードの意味を調べること。１：憲法31条、２：憲法36条、３：仮釈放。また、授業後には講義内容を自分の言葉で再整理すること。	4時間
第9回	**統治機構総論 ―いかにして国家権力を抑制するのか？ ―** 強大な国家権力を前にしては脆弱な国民はなすすべを持たない。それゆえ生み出された統治機構について学ぶ。	予習として以下のキーワードの意味を調べること。１：権力分立、２：法の支配。また、授業後には講義内容を自分の言葉で再整理すること。	4時間
第10回	**国会 ―「立法」という国家権力を考える ―** 国会と呼ばれる国家機関のあり方とその権能を学ぶ。	予習として以下のキーワードの意味を調べること。１：立法、２：国政調査権。また、授業後には講義内容を自分の言葉で再整理すること。	4時間

第11回	**内閣 ―「行政」という国家権力を考える―** 内閣と呼ばれる国家機関のあり方とその権能を学ぶ。	予習として以下のキーワードの意味を調べること。１：行政、２：衆議院の解散権。また、授業後には講義内容を自分の言葉で再整理すること。	4時間
第12回	**裁判所 ―「司法」という国家権力を考える ―** 裁判所と呼ばれる国家機関のあり方とその権能を学ぶ。	予習として以下のキーワードの意味を調べること。１：司法、２：違憲立法審査権。また、授業後には講義内容を自分の言葉で再整理すること。	4時間
第13回	**地方自治 ―地方の政治はここに住む私たちが決めるべき―** 日本の政治を東京に一極集中させてしまえば、地方は軽視され、衰退の一途を辿ってしまうだろう。そこで設けられた制度である「地方自治」について、どのように地域住民たちの意思が反映されているのか、地方公共団体の役割を読み解く。	予習として以下のキーワードの意味を調べること。１：地方自治の本旨、２：条例。また、授業後には講義内容を自分の言葉で再整理すること。	4時間
第14回	**憲法改正 ― 私たちの未来を決定する「憲法」はどうあるべきか？―** 憲法の性質を総括するとともに、憲法改正の手順、そして現在盛んに議論されている憲法改正の争点について学ぶ。	予習として以下のキーワードの意味を調べること。 １：最高法規性、２：硬性憲法、３：憲法改正。また、授業後には講義内容を自分の言葉で再整理すること。	4時間

111

授業科目名	国際関係論				
担当教員名	平賀富一				
学年・コース等	1年～4年	開講期間	前期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	大手損保企業にて国際事業戦略・海外でのM&A等、外務省にて政府開発援助（ODA)、調査機関（シンクタンク）にて各国の政治経済分析、格付会社にて世界各国、世銀等国際機関や大手企業の格付等、本授業に関連する各種の業務を担当（全14回）。				

授業概要

国際情勢や国際関係は大きな転換期を迎えており、私たちの日々の暮らしや将来のあり方も、国際的な状況と密接に関連しています。経営学部生や国際観光学部生にとっては言うまでもありませんが、教育学部生にとっても外国籍の生徒の増加傾向、芸術学部生にとってのアニメ・ゲームの国際化の進展、など多くの事例があります。この授業では、国際政治経済を中心に、社会の変化も含め、分かりやすいテキストを用いて、世界の主要地域、国家、国際機関などの概要や国際的に重要な諸課題についての基本的な情報・知識を学び理解します。各学部・学科・コースの受講生がどのような分野に進んでも、世界や国際的な問題を理解し考える基礎となるよう、重要な事項や視点身近な事例も紹介しつつ分かりやすく説明し、受講生一人一人に興味を持って授業に参画してもらえるように努めます。教室での対面授業を基本にしますが、知識・情報の理解の定着、充実した内容のビデオ教材の視聴などに有効なオンデマンド授業を月１回程度併用する予定です。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. 全学DP１.幅広い教養やスキル	国際関係に関連する事項の重要事項、理論、論点を理解する。	国際関係に関する重要事項、理論、論点について理解し説明できる。
汎用的な力		
1. 全学DP４.課題発見		国際関係に関わる重要な問題を、自分なりの見解やアイディアで発見・理解し考えることができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・問答法・コメントを求める

・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)

・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)

・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)

授業方法はクラスの規模等により適宜変更する。

課題や取組に対する評価・振り返り

・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

授業へは原則としてすべて出席してください。何らかの事情で欠席する場合は、シラバスや授業内での配布資料を参照し、自学により内容を確認し、必要な課題に取り組むようにしてください。なお、資格・免許取得に必要な科目は、単位修得に必要な授業時間数が定められている場合がありますので、注意してください。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
小レポート（リアクションペーパー、各回）	30 %	： 授業内容を踏まえた記述を評価対象にします。授業内容に関係のない記述や極端に少ない記述の場合は0点とします。授業日から1週間の期限後の提出は原則として認めません。
授業内クイズ	20 %	： 国際政治経済に関連する基本的な事項を質問し、各授業時間内で回答いただきます。
期末試験	50 %	： 国際政治経済に関連する重要事項を問う問題を出題し、その理解度と、的確な記述や説明ができているかを基準にして評価します。

使用教科書

指定する

著者	タイトル	出版社	出版年

眞淳平	・地図で読む「国際関係」入門』地図で読む「国際関係」ISBN978-4-480-68943-6	・筑摩書房	・2015　年

参考文献等

渡友哲・信夫隆司・柑本英雄（2018）『国際関係論（第3版）』弘文堂 ISBN:978-4-335-00233-5
澤喜司郎（2018）『世界を読む国際政治経済額入門（２訂版）』成山堂書店 ISBN:978-4-425-98253-0
野林健・大芝亮・納屋政嗣・山田敦・長尾悟（2007）『国際政治経済学入門（第3版）』有斐閣 ISBN 978-4-641-12333-5

その他は適宜紹介します。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められます。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。授業時間内にも伝達しますが、本講義の内容を深く理解する上で、国際政治・国際経済・国際社会などの動きに関心を持つことが重要です。新聞・雑誌・テレビやインターネット等の記事・ニュースに注目するよう心掛けてください。Google Classroomの本講義の項で、授業の情報・資料を掲示し、毎回の授業後のリアクションペーパーや課題等の掲示・提出を行います。その他は第1回目の授業で説明します。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：　水曜日3限

場所：　西館3階44研究室

授業計画		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**ガイダンス、国際関係論とは何か** 国際関係論、中でも国際政治経済とはどのようなものか、それを学ぶ上での基本事項や理論、視点などについて学びます。	テキストの目次を見て国際関係の中で興味を持った事項を読んで授業に臨み、授業の終了後は、その復習と次回分のテキストの予習をして下さい。	4時間
第2回	**日本と国際関係** 日本が抱える国際的な重要課題と、国際社会における日本のポジションや役割、変化などについて学びます（テキスト第1章）。	日本が抱える国際課題の復習と次回講義のテキストの予習を行ってください。	4時間
第3回	**アメリカ** 世界的な超大国であるアメリカの政治経済の状況や主要な課題について学びます（テキスト第2章）。	アメリカの政治経済や課題の重要点を復習し、次回講義のテキストの予習を行ってください。	4時間
第4回	**新興国（概論）** 新興国とは何か、その発展や世界における位置付けの変化・増大化、多くの新興諸国に共通する課題などについて学びます（テキスト第3章）。	新興国に係る重要点を復習し、次回講義のテキストの予習を行ってください。	4時間
第5回	**中国** 急速な経済発展により世界第二の経済大国となり、国際的な影響力も増している中国の政治経済の状況や主要課題について学びます（テキスト第3章）。	中国の政治経済の重要点や課題を復習し、次回講義のテキストの予習を行ってください。	4時間
第6回	**インド** 近い将来に中国を抜き世界最大の人口大国となると見られているインドの政治経済の状況や主要な課題について学びます(テキスト第3章）。	インドの政治経済の重要点や課題を復習し、次回講義のテキストの予習を行ってください。	4時間
第7回	**ロシア・ブラジル** 中国、インドと共に、いわゆるBRICsの一角を占め、その発展や動向が注目される重要新興国であるロシア、ブラジルの政治経済の状況や主要な課題について学びます（テキスト第3章）。	ロシア・ブラジルの政治経済の重要点や課題を復習し、次回講義のテキストの予習を行ってください。	4時間
第8回	**東南アジア諸国とアセアン(東南アジア諸国連合)** 貿易・投資、人材交流など様々な局面で我が国との関係が深く、経済発展を遂げている東南アジア諸国の政治経済の状況や主要な課題、それら諸国による重要な地域機構であるアセアン（東南アジア諸国連合）について学びます（テキスト第3章）。	東南アジアの諸国の政治経済の重要点や課題、およびアセアンについて復習し、次回講義のテキストの予習を行ってください。	4時間
第9回	**EU（欧州連合）** 米国、アジアと共に、世界の3極の一つとして重要な位置づけにあるEUについて、歴史、組織・機構と役割を含む重要点・課題を学びます（テキスト第4章）。	EUの概要や重要点・課題を復習し、次回講義のテキストの予習を行ってください。	4時間
第10回	**英国・ドイツ・フランス** 欧州を代表する主要国である英国・ドイツ・フランスについて政治経済の状況や主要な課題について学びます（テキスト第4章）。	欧州3ヵ国の政治経済の重要点や課題を復習し、次回講義のテキストの予習を行ってください。	4時間
第11回	**発展途上国の重要課題** 発展途上国（開発途上国）の発展のあり方、貧困問題および国際的な援助などの問題について学びます（テキスト第5章）。	発展途上国の重要課題について復習し、次回講義のテキストの予習を行ってください。	4時間

第12回	**グローバリゼーション** 自由貿易協定、地域統合、金融自由化などグローバル化の動向と、それに反する自国中心主義の動きなどについて学びます（テキスト第6章）。	グローバリゼーションや自国中心主義の重要点について復習し、次回講義のテキストの予習を行ってください。	4時間
第13回	**国際機関と非政府組織** 国際連合やその他の主要国際機関の概要と役割、非政府組織（NGO）などについて学びます（テキスト第7章）。	主要な国際機関と非政府組織の概要について復習し、次回講義のテキストの予習を行ってください。	4時間
第14回	**国際社会における新たな重要課題と講義全体のまとめ** 人口問題、宗教対立や環境問題やSDGs（持続的な開発目標）など近年注目される重要課題について学び（テキスト第8章）、その後講義全体のまとめを行います。	今回の講義の内容を含め、本講義で学んだ重要事項を復習してください。	4時間

111

授業科目名	**人権と社会**				
担当教員名	榎井縁				
学年・コース等	1～4年	開講期間	前期／後期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の概要					

授業概要

民主主義社会は何よりも人権重視の社会でなければならないが、十分実現されていないのが現実である。こうした現状を少しでも変えていくためには、個人として社会としての「人権」への十分な認識を持つことが大切である。本講義では、社会思想や歴史的な観点から人類にとての人権の基本的認識を得た上で、現代社会の国際人権から、マイノリティ人権をはじめとする具体的人権問題についてグローカル（グローバル／ローカル）な視点で考え、自分事として捉えられるようにする。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. 全学DP１.幅広い教養やスキル	「人権」とは何かを歴史的文脈を踏まえて理解できる。国際人権の中で擁護されている「マイノリティの人権」を理解できる。	「人権」を歴史を踏まえた上で、国際的な視点から捉えることができる

汎用的な力	
1. 全学DP４.課題発見	現代社会の諸課題を人権の視点で捉えることができる
2. 全学DP６.行動・実践	社会的に構築されたマイノリティの人権課題解決のため具体的態度や行動に結びつけることができる

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)

・問答法・コメントを求める

・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)

・eラーニング、反転授業

・課題解決学習(PBL)

課題や取組に対する評価・振り返り

・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

授業へは原則としてすべて出席してください。何らかの事情で欠席する場合は、シラバスや授業内での配布資料を参照し、自学により内容を確認し、必要な課題に取り組むようにしてください。なお、資格・免許取得に必要な科目は、単位修得に必要な授業時間数が定められている場合がありますので、注意してください。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
毎回の課題の提出	70 %	： 授業内容について理解しているか、また自分自身の問題として理解を深めようとしているか、毎回の課題について出席と共にその理解度について評価する。
最終レポートの提出	30 %	： 授業修了後に自分で課題を選択して最終レポートとして提出されたものを評価する。

使用教科書

指定する

著者	タイトル	出版社	出版年
横藤田誠、中坂恵美子	・ 人権入門　憲法/人権/マイノリティ〔第４版〕	・ 法律文化社	・ 2021　年

参考文献等

現代社会と人権　安部頼孝　梓出版社　2009年　ISBN4-87262-206-5 C3036¥4000E
ヘイトをのりこえる教室　ともに生きるためのレッスン　風巻浩・金迅野　大月書店　2023年　ISBN-978-4-272-33112-3 C0036|1700E

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は２単位の科目であるため、平均すると毎回４時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 授業初日に指定、通知する

場所： メールにて

備考・注意事項： classroomの中で対応します。

授業計画

		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**授業ガイダンス・オリエンテーション** 授業のテーマ、到達目標を知ると同時に授業を受けるにあたっての姿勢、注意などを理解する	シラバスを熟読し、教科書全体に何が書かれているかを把握してくる	4時間
第2回	**「人権」に関する意識の共有** 自分がこれまで学んできた「人権」について振り返ってみると同時に、他の人が学んできた「人権」について聞き、その共通点と相違点について整理する	各人が今まで学校教育その他の体験を通して自分の中で培われてきた「人権」を振り返る	4時間
第3回	**民主主義の原理と人権思想の発展①立憲主義の思想** ヨーロッパ市民社会の誕生の中で生まれてきた人権思想について歴史的に学ぶ	テキスト第１講を熟読する。イギリスのホッブズ、ロックとフランスのルソーの社会契約説について、調べる	4時間
第4回	**民主主義の原理と人権思想の発展②自由権から社会権への発展** 国家権力に対して生まれた人権の歴史が自由権から社会権へと発展していった過程について学ぶ	配付資料の第1章を熟読する。資本主義の発展の中で生まれてきた社会権（生存権）について、調べる	4時間
第5回	**日本における人権の歴史①明治憲法の内実** 明治以降、日本の近代化の中で大日本帝国憲法がどのように成立しどのような性質を持っていたのかを歴史的に学ぶ	テキスト第２講を熟読してくる。日本における明治以降の自由民権運動から大日本帝国憲法時代まで人権の流れについて、調べる	4時間
第6回	**日本における人権の歴史②昭和前期の超国家主義** 日本が戦争突入する中で、明治憲法成立過程の思想が利用されたことや”抑圧の移譲”が起きていたことなどを学ぶ	配付資料の第3章を熟読する。戦争を加速させていくような法が次々と成立していった過程について調べる	4時間
第7回	**日本国憲法の誕生・国際人権の誕生とその影** 敗戦後の日本で目指された２つのＤ(Demilitarization,Democratization)の中で二歩国憲法が基本的人権をどのように定めたのかを知るとともに、日本の民主化から取り残された地域の現代につながる課題についても学ぶ	テキスト第2講を熟読する。沖縄における米軍基地問題に関して調べてくる	4時間
第8回	**世界人権宣言** 国際人権保障について学び、世界人権宣言の内容とその意義について理解する	テキスト第4講を熟読する。世界人権宣言の内容について調べる	4時間
第9回	**女と男：セックスとジェンダーをめぐる人権** 女性の権利に関する歴史的変遷とジェンダーについて、また性の多様性について理解する	テキスト第11講を熟読する。性の多様性の内容について調べてくる	4時間
第10回	**子どもの権利** 子どもの権利条約の内容を理解し、現代社会における権利の主体としての子どもについてどのような課題があるかを考える	テキスト第12講を熟読する。子どもの権利条約を読み、子どもの権利と関係するようなニュース（記事）をピックアップしてくる	4時間
第11回	**障害者権利宣言(nothing about us without us!)** 障害者差別、障害者の権利宣言について学ぶ。特にnothing about us without usというスローガンが出された経緯について知る	テキスト第13講を熟読する。障害者の権利宣言の内容について調べてみる。	4時間
第12回	**障がい者の権利について考える** マスメディアにとりあげられる障害者について、当事者側からの視点を入れ批判的に読み解いてみる（動画のテキストから）	マスメディアに登場する障害者（ドキュメンタリーやドラマ、映画など）にどのような傾向があるのか調べてみる	4時間
第13回	**人種差別と日本** 人種差別撤廃条約の内容を理解し、世界で起きている移民排斥や日本でのヘイトスピーチと人権について考える	人種差別撤廃条約の成立の経緯と、その内容について調べる	4時間
第14回	**わたしにとっての BLACK LIVES MATTER**	BLACKLIVESMATTERについて自分なりに調べてみる	4時間

BLACK LIVES MATTER を通して、人類が直面している人種差別の根源を考える。また、自分との関係を振り返ってみる		

111

授業科目名	**社会学概論**				
担当教員名	西徳宏				
学年・コース等	1～4年	開講期間	前期／後期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の概要					

授業概要

この授業では，社会学の基礎概念や独特の「社会学的なものの見方」について理解することを目的とし，他の社会諸科学との理論的学問的特徴の違いを明らかにする。具体的には，社会学の基礎概念を体型的に習得するため，家族，地域，職場・労働，社会集団などで具体的なテーマを取り上げ，関連づけて解説する。社会学の基礎理論を学ぶことで，身の回りに起こっている様々な社会現象を読み解く有効な基礎知識を習得することが目標である。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. 全学DP１.幅広い教養やスキル	グローバル化する現代社会の諸問題を理解し，理論と知識を持ってその解決に向けて自ら考え，取り組む姿勢を身につけている。	社会学の基礎理論について，それが誕生した時代背景も踏まえ理解している。
汎用的な力		
1. 全学DP４.課題発見		身近な社会問題への感受性を高めるとともに，論理的な思考力を身につける。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・問答法・コメントを求める

・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

授業へは原則としてすべて出席してください。何らかの事情で欠席する場合は、シラバスや授業内での配布資料を参照し、自学により内容を確認し、必要な課題に取り組むようにしてください。なお、資格・免許取得に必要な科目は、単位修得に必要な授業時間数が定められている場合がありますので、注意してください。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
授業中のリアクションペーパー	50 %	： 授業の内容について基本的な事柄を理解することができている。 自分の意見について言及している。
定期試験（筆記試験）	50 %	： これまでの授業で得た知識を応用して、自らの主張を展開し、適切に論述することができている。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

特になし

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回2時間の授業外学習が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 授業終了後30分程度

場所：　講義室

授業計画		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**オリエンテーション　社会学とは** 社会学とはいかなる学問なのかを紹介し，各界の授業のテーマとその概要，授業の目標，方法，成績評価などについて説明する。	配布資料をもとに復習すること。	4時間
第2回	**社会学の誕生　コント** 社会学は近代社会の成立とともに生まれた新しい学問である。第2回講義では，それまで空気のような「当たり前」の存在であった「社会」に関心が向けられ，学問としての構想が練られていった背景を理解すべく，オーギュスト・コントに着目する。	配布資料をもとに復習すること。	4時間
第3回	**社会と個人の関係をどう見るか1　デュルケム** 目に見えない「社会」をどのようにとらえたらいいのだろうか。ここではのちの社会学に大きな影響力を与えた学者のうち，デュルケムに着目し，その方法論について学ぶ。	配布資料をもとに復習すること。	4時間
第4回	**社会と個人の関係をどう見るか　ウェーバー** 目に見えない「社会」をどのようにとらえたらいいのだろうか。ここではのちの社会学に大きな影響力を与えた学者のうち，ウェーバーに着目し，その方法論について学ぶ。	配布資料をもとに復習すること。	4時間
第5回	**社会はどのように秩序立っているのか　パーソンズとマートン** 1億二千万人が暮らす日本社会。これだけ多くの人々がある程度秩序立って生きる背景には，どのような社会的構造があるのか。この点を捉えるためにパーソンズとマートンの理論を学んでいく。	特になし	4時間
第6回	**資本主義社会とはどのような社会なのか　マルクス** 私たちが生きる資本主義社会にはどのような問題があるのか，マルクスの理論をもとに学ぶ。	配布資料をもとに復習すること。	4時間
第7回	**監視カメラに囲まれた社会を考える　フーコーの権力論** 駅や商店街を歩くといたるところで目にする監視カメラ。使うことが当たり前になったポイントカードやICカード。ここでは人々が監視され，個人情報が管理される「当たり前」の社会を捉えなおすために，フーコーの権力論を学んでいく。	配布資料をもとに復習すること。	4時間
第8回	**自分らしい生き方の背後にある選択原理　ブルデューの社会学** 自分らしい服装や習い事，お金の使い方，音楽の趣味などは，自分一人で選んだ結果である。しかし，本当にそうなのか？ここではそういった常識的なものの見方をくつがえすべく，ブルデューの社会学を学ぶ。	特になし	4時間
第9回	**後期近代の理論　リスク社会** 私たちが今生きている現代は，18世紀以降に訪れた近代社会が成熟し，進展した段階にある後期近代として位置付けられる。第9回から第10回では後期近代の理論を取り扱う。第9回では，ベックの議論を取り上げる。	配布資料をもとに復習すること。	4時間
第10回	**後期近代の理論　個人化・液状化** 第10回ではギデンズとバウマンの議論に基づきながら，現代社会におけるアイデンティティの特徴や，個人化が進展した結果生じる諸問題について学んでいく。	特になし	4時間
第11回	**男として，女としての生きづらさを考える　ジェンダー論** 日本は「ジェンダー格差指数」では世界でも低位に位置づいており，世界の国々の中でもとりわけ男女間の格差が大きい国となっている。そしてこの格差はなかなか改善されないままにいる。ここではこうした日本社会を捉えなおす視覚を獲得すべく，ジェンダー論者の議論を摂取し，学んでいく。	配布資料をもとに復習すること。	4時間
第12回	**国際社会とエスニシティ** 近年，日本社会の国際化が急激に進んでいる。第11回では国際社会と多様化するエスニシティの現状をもとに，今後の日本社会がどのように変化していくのかを考えていく。	配布資料をもとに復習すること。	4時間
第13回	**新たな社会の構築に向けて　市民社会を考える1** 自分たちが暮らす社会をより良いものに変えていくことは可能なのか。第13回と第14回では新たな社会を紡ぎあげていく方法について学ぶ。	配布資料をもとに復習すること。	4時間
第14回	**新たな社会の構築に向けて　市民社会を考える2** 自分たちが暮らす社会をより良いものに変えていくことは可能なのか。第13回と第14回では新たな社会を紡ぎあげていく方法について学ぶ。また，第1から第14回までの講義内容をまとめ，総括を行う。そして現代社会を取り巻く様々な事象に対してこれまで学んだ理論の数々をどのように応用して理解していけるのかを考えていく。	配布資料をもとに復習すること。	4時間

111

授業科目名	**多文化共生社会**				
担当教員名	聶蕙菁				
学年・コース等	1～4年	開講期間	前期／後期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の概要					

授業概要

日本における多文化な社会とはどのような状況なのか、また多様なエスニシティが共生する社会とはどのような社会なのかについて、歴史的背景とともに多文化共生社会の現状と課題を把握していく。
多様な文化的背景を有する人々が、社会のなかでいかにして共に生きているのか、また生きていけるのか、学校教育における多文化共生を主に取り上げて考えていく。
毎回の授業では、授業内容に関わるワークシートの記入を求める。次の授業回で受講生の代表的な意見を紹介する。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. 全学DP１.幅広い教養やスキル	多文化共生社会に関する知識理解	日本における多文化共生社会の現状や課題について理解できる。 多様なマイノリティの存在や価値観を認識し、自己の価値観を捉え直すことができる。
汎用的な力		
1. 全学DP４.課題発見		多文化共生社会の課題について自らの意見をもつことができる。
2. 全学DP６.行動・実践		多文化共生社会の課題やその課題の改善点についてまとめることができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・問答法・コメントを求める

・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

授業へは原則としてすべて出席してください。何らかの事情で欠席する場合は、シラバスや授業内での配布資料を参照し、自学により内容を確認し、必要な課題に取り組むようにしてください。なお、資格・免許取得に必要な科目は、単位修得に必要な授業時間数が定められている場合がありますので、注意してください。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
授業内小レポート	45 %	： 毎回授業に関わる課題を提示し、それに対する自身の考えや意見についてまとめる。授業内活動についても、小レポートの内容によって評価する。
期末レポート	55 %	： 評価については、以下の2点を重視する。 ①「学んだ内容を活かしながら、さらに情報を収集したり、発展的な考えに至っているか」 ②「誤字脱字や形式など、提出するに足りるルールやマナーを遵守しているか」

使用教科書

指定する

著者	タイトル	出版社	出版年
額賀美紗子・芝野淳一・三浦綾希子	・移民から教育を考える　子どもたちをとりまくグローバル時代の課題	・ナカニシヤ出版	・2019　年

参考文献等

本授業で指定した教科書を中心として、授業内で適宜指示する。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。
本授業は、Google classrommを用いた遠隔の方式で実施します。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 授業の前後

場所： メールにて

備考・注意事項： 本授業は遠隔実施のため、授業に関する質問などがあればメールでの連絡をお願いします。

授業計画		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**多文化共生社会とは** 多文化共生社会が遠いものではなく、身近な社会的課題であることを受講生の間で共有する。	配布資料を復習し、授業の進め方や成績評価について疑問点がないか確認しておくこと。自分なりの「多文化共生社会」をイメージしておくこと。	4時間
第2回	**多文化共生の社会とは（歴史編）** アメリカやオーストラリアといった移民国家を例に、多文化が共生する社会の成立背景について理解する。	次回授業に向けて教科書の該当箇所を読んでおくこと。「多文化」という状態をイメージしておくこと。授業内小レポートの内容にそって、授業内容を復習しておくこと。	4時間
第3回	**日本における多文化共生①（歴史編：近代以前）** アイヌの文化や琉球の文化を取り上げ、歴史的に日本が単一民族国家ではなかったことを理解する。	次回授業に向けて教科書の該当箇所を読んでおくこと。授業内小レポートの内容にそって、授業内容を復習しておくこと。	4時間
第4回	**日本における多文化共生②（歴史編：近代以降）** 戦前戦後の外国人労働者をテーマにし、近代日本における多文化共生の歴史的背景について理解する。	次回授業に向けて教科書の該当箇所を読んでおくこと。授業内小レポートの内容にそって、授業内容を復習しておくこと。	4時間
第5回	**教育における多文化共生（理念編）** 欧米における多文化教育の理念を中心に取り上げ、教育における多文化共生の方策について理解する。	次回授業に向けて教科書の該当箇所を読んでおくこと。授業内小レポートの内容にそって、授業内容を復習しておくこと。	4時間
第6回	**多文化共生の教育①（オールドカマー）** 在日朝鮮人教育を取り上げ、多文化共生の教育には差別と闘争の歴史的背景が伴っていることを理解する。	次回授業に向けて教科書の該当箇所を読んでおくこと。授業内小レポートの内容にそって、授業内容を復習しておくこと。	4時間
第7回	**多文化共生の教育②（ニューカマー）** いわゆるニューカマーとよばれる、1980年代以降増加した外国人児童生徒への教育問題について理解する。	次回授業に向けて教科書の該当箇所を読んでおくこと。授業内小レポートの内容にそって、授業内容を復習しておくこと。	4時間
第8回	**多文化共生の教育③（外国人学校）** 外国人学校を取り上げ、教育における多様な選択の機会が日本においてもみられることをその課題とともに理解する。	次回授業に向けて教科書の該当箇所を読んでおくこと。授業内小レポートの内容にそって、授業内容を復習しておくこと。	4時間
第9回	**多文化共生の実践①（現状編：小学校）** 主に小学校における多文化共生に向けた具体的な取り組みを紹介する。そのうえで、小学校における多文化共生に向けた取り組みの方策や課題点を考えることができる。	次回授業に向けて教科書の該当箇所を読んでおくこと。授業内小レポートの内容にそって、授業内容を復習しておくこと。	4時間
第10回	**多文化共生の実践②（現状編：中学校）** 主に中学校における多文化共生に向けた具体的な取り組みを紹介する。そのうえで、中学校における多文化共生に向けた取り組みの方策や課題点を考えることができる。	次回授業に向けて教科書の該当箇所を読んでおくこと。授業内小レポートの内容にそって、授業内容を復習しておくこと。	4時間
第11回	**多文化共生の実践③（現状編：高等学校）** 大阪府における外国人生徒を公立高校に受け入れている特別入試枠校を取り上げ、高校段階における多文化共生に向けた取り組みや課題について考えることができる。	次回授業に向けて教科書の該当箇所を読んでおくこと。授業内小レポートの内容にそって、授業内容を復習しておくこと。	4時間
第12回	**多文化共生の社会①（海外帰国生）** 日本における海外帰国生の現状と課題について取り上げ、多文化共生の社会について理解を深める。	次回授業に向けて教科書の該当箇所を読んでおくこと。授業内小レポートの内容にそって、授業内容を復習しておくこと。	4時間
第13回	**多文化共生の社会②（留学生・地域における支援）**	次回授業に向けて教科書の該当箇所を読んでおくこと。授業内小レポートの内容にそって、授業内容を復習しておくこと。	4時間

	日本における留学生の受入れ状況を把握し、留学生のおかれている課題について理解する。また、多文化が共生する社会の実現に向けた地域社会のあり方について考えを深める。		
第14回	**振り返りとまとめ** 授業を通してのまとめを行う。	これまでの授業で扱った個々のテーマについて復習し、その関係性を検討してくる。	4時間

111

授業科目名	**現代と社会福祉**				
担当教員名	潮谷光人				
学年・コース等	1～4年	開講期間	前期／後期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の概要					

授業概要

この授業は、その時々で問題となっている様々な社会福祉の現状をトピックとして取り上げ、現代の社会福祉をめぐる現状と課題について理解を深めるものである。また、社会福祉課題の背景となっている制度、地域実情、歴史、構造などについても考えていきたい。社会福祉とは、対応すべきニーズに対し、問題解決のために様々な社会資源を結びつける活動である。この授業でも問題解決の視点を重視し、積極的な学生の自己学習や意見交換などを通して、自分なりの社会福祉への関心、問題意識を醸成していくことを大事にしていきたい。webでの授業及び課題の提出となるため、提出遅れのないようお願いしたい。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. 全学DP２.専門的知識・技能、職業理解	社会福祉を理解するうえで基礎的知識を身につけ、今日的課題を説明できる。また、社会福祉に関わる社会資源や専門職の支援を理解し、その実際について説明できる。	

汎用的な力	
1. 全学DP４.課題発見	社会福祉に関する法制度や社会資源の現状を理解し、課題について整理することができる。
2. 全学DP６.行動・実践	福祉に関わる社会資源の存在と機能を理解し、説明できる。また積極的に地域にある社会資源との関係性を構築する。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)

・ディベート、討論

・見学、フィールドワーク

課題や取組に対する評価・振り返り

・提出物にコメント・評価をつけて返却します

成績評価

注意事項等

授業へは原則としてすべて出席してください。何らかの事情で欠席する場合は、シラバスや授業内での配布資料を参照し、自学により内容を確認し、必要な課題に取り組むようにしてください。なお、資格・免許取得に必要な科目は、単位修得に必要な授業時間数が定められている場合がありますので、注意してください。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
講義内提出物	80 %	： 毎回の授業を踏まえた課題提出がある。提出課題の内容の妥当性と論理的構成について評価します。
期末レポート課題	20 %	： １４回の授業を踏まえた課題の設定の妥当性と問題解決への論理的構成について評価します。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

子ども家庭福祉　（共著）浦田　雅夫　保育出版
わたしたちの暮らしとソーシャルワーク２－相談援助の理論と方法－　（編著）高井由紀子　教育情報出版

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。

「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 授業開始前後。

場所： 授業教室。

授業計画		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**社会福祉の基本的考え方** 社会福祉の基本的理解を行っていく。社会福祉の概念について、個人及び社会におけるニーズとは何か、社会資源とは何かについて理解を行い、それらを結び付けていく活動が社会福祉であることを理解する。キーワードは、顕在的ニーズ、潜在的ニーズ、社会資源の適合・不適合、岡村重夫の社会福祉ニーズ。	社会福祉の基本的概念理解を理解する。ニーズの発見と社会資源との適合について理解し、それらを実際の生活で想像できるようにする。	4時間
第2回	**社会福祉を取り巻く状況を理解する** 様々な社会福祉領域における課題を抽出し、その現状について検討を行う。幅広い社会福祉の多少領域を知るとともに、今身近に起きている福祉課題について、把握を行う。キーワードは、高齢社会、障がい者の権利、児童虐待、社会保障費。	様々な社会福祉領域を理解し、それらの現状や課題を知るため、新聞やニュースに目を通し理解を深める。	4時間
第3回	**社会福祉の実施体制と人Ⅰ～子ども家庭福祉分野～** 様々な社会福祉の実施体制を紹介し、地域実態について把握を行っていく。児童分野を中心に新たに施策として動いている子育て支援の社会資源について理解し、虐待や発達への支援としてどのような機能を有しているか理解する。	授業で把握した地域の子育て支援の現場に足を運び見学し、その活動を理解する。また理解したことをレポートとしてまとめる。	4時間
第4回	**社会福祉の実施体制と人Ⅱ～障がい者分野～** 様々な社会福祉の実施体制を紹介し、地域実態について把握を行っていく。障がい者分野を中心に障がい者総合支援法や障がい者雇用の社会資源について理解する。	授業で把握した地域の障がい者施設など支援の現場に足を運び見学し、その活動を理解する。また理解したことをレポートとしてまとめる。	4時間
第5回	**社会福祉の実施体制と人Ⅲ～高齢者分野～** 様々な社会福祉の実施体制を紹介し、地域実態について把握を行っていく。高齢者分野を中心に地域包括支援センターや介護の社会資源について理解する。	授業で把握した地域の高齢者支援の現場に足を運び見学し、その活動を理解する。また理解したことをレポートとしてまとめる。	4時間
第6回	**社会福祉の実施体制と人ⅳ～家族支援～** 様々な社会福祉の実施体制を紹介し、地域実態について把握を行っていく。家族支援の分野を中心にＤＶの課題や社会手当、生活保護制度などについて理解する。	家族支援と実際の自分生活との関連性について考え、これまで利用してきた制度や支援について考察する。	4時間
第7回	**児童虐待の現状と対応Ⅰ　～実態と対応の枠組み～** 児童虐待の実態と法的な枠組みについて理解をする。現在問題となっている児童虐待がどのような社会背景から生じ、制度や地域における機能がどのような課題を有しているのかについて学ぶ	児童虐待の法的な枠組みについて理解する	4時間
第8回	**児童虐待の現状と対応Ⅱ～事例から虐待の状況を把握する～** 児童虐待やＤＶの事例を通して、虐待の傾向や対応上の課題について把握する。児童虐待の要因として、どのような家族機能や社会の課題を有しているのかについて学ぶ。また、事例における対応の可能性についても検討を行っていく。	様々な児童虐待の要因について理解をする。児童虐待のニュースについて目を通しておく。	4時間
第9回	**児童虐待の現状と対応Ⅲ～大阪で起こった虐待死の事例について考える～** 大阪で起きた2人の子どもが虐待によって餓死した事例を取り上げ、児童虐待の課題について把握する。事例から学ぶべき課題、マスコミや報道の問題についても検討を行っていく。	様々な児童虐待の要因について理解をする。児童虐待のニュースについて目を通しておく。授業内レポートについて提出できない場合は、授業外学修課題とする。	4時間
第10回	**障がい者福祉の現状と対応Ⅰ～障がい者の生活について考える～** 障がい者の生活と基本的な法制度について理解をする。より身近な存在として障がいを感じ、現在の日本における課題について理解をしていく。	配布物を通して障がい者の生活上の困難や社会における問題について理解する。	4時間
第11回	**障がい者福祉の現状と対応Ⅱ～ノーマライゼーションの広がり～** 障がい者福祉の基本的理念となるノーマライゼーションの思想の背景を理解する。また、ノーマライゼーションから派生した様々な思想について把握をしていく。理念と日本の現状を比較しながら、今後の障がい者福祉のあり方を検討する。	配布物を通して障がい者福祉の基本的理念について理解する。	4時間
第12回	**高齢者福祉の現状と対応Ⅰ～高齢者社会の現状と課題について考える～** 高齢者の生活と基本的な法制度について理解をする。介護保険についての理解を行い、その現状について考える。	配布物や授業を通して高齢者の生活上の困難や社会における問題について理解する。	4時間

第13回	**高齢者福祉の現状と対応Ⅱ～高齢者の生活について考える～** 高齢者の生活と基本的な介護や家族での関わり、認知症などについて理解をする。	高齢者の生活と地域の関わりについて理解する。	4時間
第14回	**現代社会と福祉の関係性について考察する** これまでの授業内容を総括し、自分自身が興味のあるテーマを設定して、課題やその対応方法について検討を行う。社会福祉における様々な領域について振り返りを行い、自己理解の確認をする。社会福祉における貧困への支援について考える。特に生活保護制度やひとり親家庭への支援、子どもへの支援について、法的な支援と実態について理解をしていく。	現代社会と社会福祉の関係性について整理する	4時間

111

授業科目名	ジェンダー論				
担当教員名	堀江有里				
学年・コース等	1～4年	開講期間	前期／後期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の概要					

授業概要

わたしたちの生きる社会は、「女性」「男性」という性別（ジェンダー／社会的・文化的性別）が様々な場面に張りめぐらされている。本講義では性別にかかわる「常識」がいかにして社会構造として維持・再生産されてきたのか、いくつかの事例を取り上げながら考察する。ジェンダーがつくりだすのは、「女らしさ」「男らしさ」という性別役割のみならず、人間関係のあり方でもある。家族、恋愛、結婚、パートナーシップなど、異性間のみの関係が前提とされてきた社会の問題についても検討する。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. 全学DP１.幅広い教養やスキル	ジェンダー／セクシュアリティ関する基礎知識	①フェミニズム（女性解放の思想と実践）の基本的な発想を身につける。 ②性別二元論・異性愛主義という社会規範の諸現象を知る。 ③ジェンダーに関する諸問題について日常のなかで立ち止まり、考える力を養う。
汎用的な力		
1. 全学DP４.課題発見		ジェンダー／セクシュアリティ関する応用力を身につける。 自分や周囲の人びとのモノの考え方が社会的に構築されていることに気づく。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・問答法・コメントを求める

・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

授業へは原則としてすべて出席してください。何らかの事情で欠席する場合は、シラバスや授業内での配布資料を参照し、自学により内容を確認し、必要な課題に取り組むようにしてください。なお、資格・免許取得に必要な科目は、単位修得に必要な授業時間数が定められている場合がありますので、注意してください。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
期末レポート	70 %	： 概念説明を含む論述形式。採点基準は後日講義内で紹介する。
毎回の講義後、コメントの提出を求める。	30 %	：

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

おもな参考書は以下のとおり。
菊地夏野・堀江有里・飯野由里子編『クィア・スタディーズをひらく１：アイデンティティ，コミュニティ，スペース』（晃洋書房，2019年）（ISBN-13 ： 978-4771032002）
加藤秀一『はじめてのジェンダー論』（有斐閣，2017年）（ISBN-13 ： 978-4641150393）
石田仁 『はじめて学ぶLGBT ――基礎からトレンドまで』（ナツメ社，2019年）（ISBN-13 ： 978-4816365829）
堀江有里『レズビアン・アイデンティティーズ』（洛北出版，2015年）（ISBN-13 ： 978-4903127224）
ほか，講義内で紹介する.

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回5時間程度の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。
なお、毎年、オンデマンド教材を毎週きちんと確認しない受講生が多いが、自主的に確認することができない者、自習のための時間を作れない者は受講登録をしないこと。〆切超過の提出物については応答しない。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： コメントシートに記載のこと。

場所： 適宜

備考・注意事項： 必要に応じて次回以降の講義振り返り時にリプライする。

授業計画		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**イントロダクション――「ジェンダー」とは何か** 講義内容や進め方、成績評価についてのガイダンス。 ジェンダー（社会的・文化的性別）という概念が使われるようになった背景を知る。	日常生活のなかにある性別について考える。新聞やテレビニュース、インターネットなどで性別に関する問題を見つけてみる。	4時間
第2回	**ジェンダーの視点を学ぶ（1）：　ステレオタイプと性規範** 性別によって振り分けられるイメージと偏見について検討する。 イメージにつくられた思い込みをほぐしていく。	日常生活のなかにある性別のステレオタイプに立ち止まってみる。	4時間
第3回	**ジェンダーの視点を学ぶ（2）：　性の多様性と重層性** 「ジェンダー」に加え、性別の重層的な概念を考える。国連で議論されるSOGI（性別自認と性的指向）をめぐる課題について学ぶ。	いくつかの概念を繰り返し検討し、混同しないようにしっかりと覚える。できれば、日常のなかでの混同事例をみつけ、まちがいを正せる説明を考えてみる。	4時間
第4回	**フェミニズムの思想と実践（1）：　女性解放運動とあゆみ** 人権という考え方はどこからやってきたのか。法律や制度のなかに埋め込まれた女性差別の現実や、それらを克服してもなお継続した意識慣習のなかの女性差別を知る。	わたしたちの生きる現代社会がどのような道筋でつくられてきたかに思いを馳せる。日常のなかにその痕跡を見つける。	4時間
第5回	**性暴力の諸問題（1）：　軍隊「慰安婦」問題** 太平洋戦争時に日本軍によってつくられた「慰安婦」制度について、歴史的な資料とともに国連での議論を説明する。	インターネットに溢れるフェイクニュースを見極め、ファクトチェックができるにはどうすればよいのか、考える。	4時間
第6回	**性暴力の諸問題（2）：　米軍基地とジェンダー** 沖縄に集中する米軍基地の歴史を踏まえ、レイプが多発している軍隊の状況について説明する。	インターネットに溢れるフェイクニュースを見極め、ファクトチェックができるにはどうすればよいのか、考える。	4時間
第7回	**クィア・スタディーズの現在 ――「セクシュアリティ」とは何か** 性別二元論、異性愛主義というふたつの社会規範について検討し、規範を問う理論と実践についての歴史を学ぶ。	LGBTについての差別や人権問題について、新聞やテレビなどでの情報を探る。	4時間
第8回	**性別二元論を問う（1）：　性自認とトランスジェンダー（性別越境）** 性別自認についての課題をいくつかの事例から考える。とくに性別自認と身体の性別が一致している人たちがもつ特権について考える。	トランスジェンダーについての正しい理解を身につけること。また、性別二元論が、日常のなかにどのように現れているか事例を集める。	4時間
第9回	**性別二元論を問う（2）：　トランスジェンダーと医療制度** トランスジェンダーの医療が日本で合法化されてきたあゆみや、そこで生じる問題について、具体的な事例から考える。	トランスジェンダーについての正しい理解を身につけること。また、性別二元論が、日常のなかにどのように現れているか事例を集める。	4時間
第10回	**性別二元論を問う（3）：　トランスジェンダーと法制度** トランスジェンダーをめぐる法制度が日本でどのようにつくられてきたのか、また、そこで生じる問題について、具体的な事例から考える。	トランスジェンダーについての正しい理解を身につけること。また、性別二元論が、日常のなかにどのように現れているか事例を集める。	4時間
第11回	**異性愛主義を問う（1）：　性的指向と同性愛者の人権** 性別自認と区別して、性的指向の概念を学ぶ。とくにその概念が広がることとなった同性愛者の権利獲得運動について学ぶ。	異性愛主義の規範が、日常生活のなかでどのようにあらわれているのか事例を集める。	4時間
第12回	**異性愛主義を問う（2）：　カミングアウトとクローゼット** マイノリティの属性を語ることが社会的にどのような意味を持つのか。異性愛主義という社会規範の問題について検討する。	異性愛主義の規範が、日常生活のなかでどのようにあらわれているのか事例を集める。	4時間
第13回	**異性愛主義を問う（3）：　さまざまな家族のかたち**	日常生活のなかで、どのような家族の多様性が表現されているのか、事例を集めて検討する。	4時間

	国家が想定する「父・母・子」というかたちの近代家族の”あたりまえ”を問い、さまざまな家族の可能性について考える。		
第14回	**ふりかえりとまとめ** 講義で扱ってきたテーマをまとめ、レポート作成に向けての最終確認をおこなう。	講義内容の復習をおこない、わからなかった点を図書館などで調べる。	5時間

111

授業科目名	ジェンダー論				
担当教員名	朝香知己				
学年・コース等	1～4年	開講期間	前期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の概要					

授業概要

本科目は、「ジェンダー」という視点から現代社会の諸問題を読み解くことを試みるものである。人間の「性」に関わる事柄は、しばしば「当り前」で、「自然」なものと思われているかもしれないが、男らしさや女らしさ、性別による役割分業などは、社会によってつくられたものである。ジェンダー論は、このように社会的につくられた「性」の諸問題を問うものである。本科目では、その基礎的態度を修得することを目的とし、基本的な用語・概念を解説することと共に、現代社会における「性」にかかわる具体的な主題を取り上げ、検討する。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. 全学DP１.幅広い教養やスキル	ジェンダーやセクシュアリティに関する基礎知識	ジェンダーの基本概念を理解し、説明することができる。
汎用的な力		
1. 全学DP４.課題発見		ジェンダーの視点から現代社会の様々な課題に気付き、それらを自らの生と関係付けて思考することができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)

・問答法・コメントを求める

・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

授業へは原則としてすべて出席してください。何らかの事情で欠席する場合は、シラバスや授業内での配布資料を参照し、自学により内容を確認し、必要な課題に取り組むようにしてください。なお、資格・免許取得に必要な科目は、単位修得に必要な授業時間数が定められている場合がありますので、注意してください。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
毎回の課題	70 %	： 講義内容をもとに用語・概念等が理解できているかを評価する。
期末レポート	30 %	： ジェンダーの視点を踏まえた考察ができているかを評価する。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

授業内で適宜紹介する。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 各回の課題提出期間内

場所： 各回の課題内

備考・注意事項： 各回に提出が求められる課題に設定されるコメント欄に記載すること。

授業計画		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**授業の概要と導入** ・授業の目的、進め方、評価方法等の説明 ・社会的につくられた「性」という視点を知る	授業テーマに関する文献を読むほか、ニュースや新聞などにも注意して幅広い知識を得ると共に、自分の経験に照らし合わせて考えるように努める。	4時間
第2回	**ジェンダー論の基礎用語（1）セックスとジェンダー** ・セックス、ジェンダーという概念について学ぶ	授業テーマに関する文献を読むほか、ニュースや新聞などにも注意して幅広い知識を得ると共に、自分の経験に照らし合わせて考えるように努める。	4時間
第3回	**ジェンダー論の基礎用語（2）セクシュアリティ** ・セクシュアリティ、性的指向という概念について学ぶ	授業テーマに関する文献を読むほか、ニュースや新聞などにも注意して幅広い知識を得ると共に、自分の経験に照らし合わせて考えるように努める。	4時間
第4回	**フェミニズムの歴史（1）第一波フェミニズム** ・「フェミニズム」以前および第一波フェミニズムについて学ぶ	授業テーマに関する文献を読むほか、ニュースや新聞などにも注意して幅広い知識を得ると共に、自分の経験に照らし合わせて考えるように努める。	4時間
第5回	**フェミニズムの歴史（2）第二波フェミニズム** ・第二波フェミニズムについて学ぶ	授業テーマに関する文献を読むほか、ニュースや新聞などにも注意して幅広い知識を得ると共に、自分の経験に照らし合わせて考えるように努める。	4時間
第6回	**教育の諸問題** ・進学における格差や隠れたカリキュラムについて学ぶ	授業テーマに関する文献を読むほか、ニュースや新聞などにも注意して幅広い知識を得ると共に、自分の経験に照らし合わせて考えるように努める。	4時間
第7回	**労働の諸問題（1）賃金格差** ・男女雇用機会均等法、賃金格差の現状およびその背景について学ぶ	授業テーマに関する文献を読むほか、ニュースや新聞などにも注意して幅広い知識を得ると共に、自分の経験に照らし合わせて考えるように努める。	4時間
第8回	**労働の諸問題（2）仕事と家庭の両立** ・M字型ライフコース、育児休業の現状について学ぶ	授業テーマに関する文献を読むほか、ニュースや新聞などにも注意して幅広い知識を得ると共に、自分の経験に照らし合わせて考えるように努める。	4時間
第9回	**労働の諸問題（3）セクシュアル・ハラスメント、セックスワーク** ・セクシュアル・ハラスメント、セックスワークについて学ぶ	授業テーマに関する文献を読むほか、ニュースや新聞などにも注意して幅広い知識を得ると共に、自分の経験に照らし合わせて考えるように努める。	4時間
第10回	**結婚と家族の諸問題（1）家族形態の歴史的変遷** ・家族、結婚の形態の歴史的変遷、ひとり親世帯の状況、夫婦別姓の議論について学ぶ	授業テーマに関する文献を読むほか、ニュースや新聞などにも注意して幅広い知識を得ると共に、自分の経験に照らし合わせて考えるように努める。	4時間
第11回	**結婚と家族の諸問題（2）同性婚** ・同性婚、パートナーシップ制度について学ぶ	授業テーマに関する文献を読むほか、ニュースや新聞などにも注意して幅広い知識を得ると共に、自分の経験に照らし合わせて考えるように努める。	4時間
第12回	**結婚と家族の諸問題（3）生殖への介入** ・人工妊娠中絶、生殖補助医療について学ぶ	授業テーマに関する文献を読むほか、ニュースや新聞などにも注意して幅広い知識を得ると共に、自分の経験に照らし合わせて考えるように努める。	4時間
第13回	**性暴力の諸問題** ・性犯罪、ドメスティック・バイオレンスについて学ぶ	授業テーマに関する文献を読むほか、ニュースや新聞などにも注意して幅広い知識を得ると共に、自分の経験に照らし合わせて考えるように努める。	4時間
第14回	**授業の振り返りとまとめ**	授業テーマに関する文献を読むほか、ニュースや新聞などにも注意して幅広い知識を得ると共に、自分の経験に照らし合わせて考えるように努める。	4時間

・これまでの授業内容を振り返り、レポート作成に向けて要点をまとめる		

111

授業科目名	大阪の風土と文化				
担当教員名	彦坂真一郎				
学年・コース等	1～4年	開講期間	前期／後期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の概要					

授業概要

伝統芸能である「落語」を教材に、滑稽なストーリーの底流にある大阪の歴史や文化の実相を探究する。落語に登場する地名や人名、出来事は、歴史的な事実を踏まえた内容を含んでおり、それらのゆかりの場所を訪ねた記録を基に解説することで、大阪の歴史に親しむ。落語の舞台は、江戸時代～昭和初期の風俗を描くが、ゆかりの地には古代から戦国時代の歴史につながるエピソードを見つけることができ、滑稽話を契機に様々な側面に興味を持たせることも狙いとする。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. 全学DP１.幅広い教養やスキル	伝統芸能の中に織り込まれた大阪の文化、歴史の諸相を読み解き、「笑い」の文化が多角的な教養に支えられていることを理解できる。	日常的に接する「街並み」の中に埋もれた歴史エピソードに気付き、大阪の歴史、文化を理解できる。
汎用的な力		
1. 全学DP10.忠恕の心		一人で何役も演じ分ける落語を聴き、理解、追体験することで、様々な立場を理解できる人間性を養う。
2. 全学DP４.課題発見		身近に存在する伝承や史跡に気付き、郷土の風土を理解する。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)

・問答法・コメントを求める

・eラーニング、反転授業

課題や取組に対する評価・振り返り

・提出物にコメント・評価をつけて返却します

・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

授業へは原則としてすべて出席してください。何らかの事情で欠席する場合は、シラバスや授業内での配布資料を参照し、自学により内容を確認し、必要な課題に取り組むようにしてください。なお、資格・免許取得に必要な科目は、単位修得に必要な授業時間数が定められている場合がありますので、注意してください。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
各講義の理解を確かめる選択形式の課題	40 %	： 毎回の授業を視聴して、テキストを参考に回答できる課題を出題する。
定期試験　学期末のレポート提出	60 %	： 授業の内容について、最も関心のある演目をあげ、自身でさらに深めた内容や感想をレポートとする。

使用教科書

指定する

著者	タイトル	出版社	出版年
狐狸窟彦兵衛	・笑福亭純瓶と行く　落語散策そぞろ歩き　改訂版	・浪速社	・2024　年

参考文献等

桂米朝著 米朝ばなし　上方落語地図　（講談社文庫）２００２年 9784061833654
本渡章著 大阪名所むかし案内　絵とき「摂津名所図会」（創元社）２００６年 9784422250465

本渡章著 大阪古地図むかし案内:読み解き大坂大絵図　（創元社）　２０１０年 9784422250571
本渡章著 続・大阪古地図むかし案内―明治～昭和初期編　（創元社）２０１１年 9784422250601
本渡章著 続々・大阪古地図むかし案内:戦中~昭和中期編　（創元社）２０１３年 9784422250762
本渡章著 図典「摂津名所図会」を読む――大阪名所むかし案内（創元社）２０２０年 9784422250908
喜田川守貞著　宇佐美英機校訂「近世風俗志」（一）～（五）２００２年 9784002010946
牧村史陽編　大阪ことば事典　（講談社学術文庫）１９８７年 9784061586581
四代目旭堂南陵著　事典にない大阪弁　絶滅危惧種の大阪ことば増補改訂版（浪速社）２０１９年 9784888544788
橋爪節也編著　原寸復刻「浪花百景」集成（創元社）２０２０年　9784422710204
安楽庵策伝著　宮尾興男訳注　醒睡笑　全訳注（講談社学術文庫）２０１８年　9784062922173
薮田貫著　武士の町　大坂　（講談社学術文庫）２０２０年　9784065198957
関山和夫著「落語風俗町」（白水社）1991年　9784560073155
岩崎均史著「落語博物誌　江戸の文化を読む」（吉川弘文館）　9784642055710
水原紫苑著「百人一首うたものがたり」（講談社現代新書）　978406527909
他

履修上の注意・備考・メッセージ

授業で取り上げる全演目をテキストに収録しているので、映像や参考資料と共にテキストを適宜参照してください。AIで生成した内容をそのままレポートとして提出していると推定されるレポートが散見されます。授業内容と全く異なるストーリーや、登場人物の名前が教材と全く異なる場合、授業を視聴していないと判断し、得点を与えません。注意してください。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：　メールで受け付ける。

場所：　Google　classroomを活用する

備考・注意事項：　Google　classroomを活用する。

授業計画		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**「時うどん」江戸時代の時間とお金について** 授業ガイダンスで、なぜ落語を教材とするかを説明し、古典芸能の「笑い」と「歴史」の関係を解説する。その後「時うどん」の映像を視聴し、江戸時代の時間や貨幣価値について説明する。	授業を復習する。滑稽話の中に含まれる史実を読み解き、経済や生活の変遷を理解する。	4時間
第2回	**「ちはやふる」庶民の教養と娯楽** 落語映像「ちはやふる」を視聴し、百人一首を楽しんだ庶民の娯楽を考える。また、物語に登場する相撲や花街の賑わいを通して、江戸時代の大坂の繁栄と影の部分を考察する。	授業を復習する。滑稽話の中に含まれる史実を読み解き、経済や生活の変遷を理解する。	4時間
第3回	**「初天神」天神信仰と菅原道真の足跡** 落語映像「初天神」を視聴し、菅原道真の足跡と「天神信仰」について解説する。もと難波宮の守護神だった「大将軍社」の存在に触れ、「神社」の信仰の意味の変遷をたどる。また、庶民に開放されていた「城の馬場」について解説する。	授業を復習する。季節感や年中行事について考察する。	4時間
第4回	**「雁風呂」淀屋の闕所と豪商の出現** 落語「雁風呂」を聞き、江戸時代初めの豪商が形成される過程を理解し、米市場の開設や淀屋橋架橋など、「商人の町大坂」の基盤を作りながら「闕所（取り潰し）」となった淀屋の興亡と、鴻池や炭路もの勃興など天下の財政を握っていく商人の富の蓄積について考える。	授業を復習する。史実とされる淀屋の興亡や、水戸光圀の事績と物語の水戸黄門の違いを考察する。	4時間
第5回	**「天神山」葛葉伝説と人形浄瑠璃を取り入れた笑いの世界** 落語映像「天神山」を視聴する。幽霊や狐が活躍する荒唐無稽な話だが、人形浄瑠璃にもなった「葛葉伝説」が下敷きになっている。パロディが形成される文化的な背景などについて解説する。また舞台の一心寺、安居神社が大阪の陣の古戦場としてさまざまな伝承があることを解説する。	授業を復習する。文楽「蘆屋道満大内鑑」を下敷きにした滑稽話について、民間伝承を含めて落語にどのように反映されているかを考察する。	4時間
第6回	**「野崎詣り」水郷地帯だった河内の歴史と風土** 落語映像「野崎詣り」を視聴し、かつて大和川が生駒山西麓を北上し、水郷地帯を形成していた歴史を振り返り、新田開発などによって干拓され、街づくりが行われた歴史を考える。また「お染久松の悲恋」の演劇化した「新版歌祭文」に触れ、と江戸時代の情報媒体「歌祭文」と演劇の関係を紹介する。	授業を復習する。河内地方の地理的特色について考察する。民間伝承や地域の風土について理解を深める。	4時間
第7回	**「あみだ池」難波の堀江の物語** 落語映像「あみだ池」を視聴し、善光寺の縁起にある伝承の地「難波の堀江」と、和光寺の「あみだ池」の関係を解説する。仏教伝来の古代史にさかのぼる伝承と史実の違いなどを考察する。また大阪市西部の埋め立てと市街地形成などの推移を検討する。また、メディアリテラシーについて言及する。	授業を復習する。大阪の市街地形成の歴史をたどり、古代史と伝承の関連を考察する。	4時間
第8回	**「いらち俥」大大阪時代とは何か** 落語映像「いらち俥」を視聴し、「人力車」の活躍した時代の大阪の近代化を読み解く。人力車、路面電車、巡航船など近代の交通機関の変遷を追いながら、「大大阪時代」と呼ばれた大阪の市域拡大と町の変遷を考える。	授業を復習する。「近代」に焦点を当て、大阪の都市の変遷について考察する。	4時間
第9回	**「へっつい幽霊」庶民の暮らしを考える**	授業を復習する。江戸時代の庶民生活について考察する。日用品の名称や用法などについて理解する。	4時間

	落語映像「へっつい幽霊」を視聴、長屋の構造や身分社会について解説する。「貧乏長屋」と「豪商」「家主（いえぬし）」など落語主人公たちの人間関係を解明する。さらに江戸時代の社会がリサイクル社会であったことなど庶民の暮らしのあり方を考察する。		
第10回	**「天王寺詣り」崇仏論争にさかのぼる四天王寺の歴史** 落語映像「天王寺詣り」を視聴し、ストーリーに沿って伽藍配置などを解説。創建の由来、浄土信仰とのかかわりなどを解説する。四天王寺の本来の正門は南大門だが、浄土思想の伸展にともない西門（さいもん）が重要な意味を持つようになる。夕日礼拝の聖地としての上町台地の地理的、歴史的意味を検討する。	授業を復習する。古典芸能に描かれ、「観光地」でもあった「四天王寺」が、再三の火災や災害にも乗り越えて復興されてきた歴史と伝統について考察する。	4時間
第11回	**「佐々木裁き」奉行所はどこにあったか** 落語映像「佐々木裁き」を視聴し、江戸時代の行政、司法の長だった町奉行の役割や、商人の町大阪における「侍」の姿を考察する。また、江戸幕府瓦解の遠因となったとされる大塩平八郎の乱についても考察する。	授業を復習する。滑稽話の中に含まれる史実を読み解き、経済や生活の変遷を理解する。町人の町であると同時に「武士」も様々にかかわった様子を理解する。	4時間
第12回	**「池田の猪買い」大阪から池田は「旅」だった** 落語「池田の猪買い」を聴き、能勢街道を往来した文物を検討する。古代から近現代にかけての淀川の風景の変遷や古代における大陸からの文化伝承などを考察する。	授業を復習する。昔の「旅」の実像をしり、大阪と周辺地域の関係などについて考察する。また当時の交通手段、街道の分布などを考察する。	4時間
第13回	**「蔵丁稚」赤穂事件は忠臣蔵になった** 落語映像「蔵丁稚」を視聴し、芝居の町道頓堀の形成史を考える。大坂の陣の後の徳川氏による大阪復興の歴史を振り返る。史実の赤穂事件と、演劇となった「忠臣蔵」を比較、大衆芸能がどのように「事件」を伝えたかを考察する。	授業を復習する。江戸城中の刃傷事件の実相と庶民文化の中で脚色される過程を考える	4時間
第14回	**「船弁慶」水の都大川の納涼風景** 落語映像「船弁慶」を視聴し、大川(淀川)で繰り広げられた納涼風景を追体験する。また、ストーリーに取り込まれた歌舞伎や能の「船弁慶」に言及し、かつて庶民も嗜んだ古典芸能の「深み」を味わう。淀川治水の歴史や沿岸風景の変遷についても言及する。	授業を復習する。滑稽話の中に含まれる「古典」や「史実」を読み解く。また人々の生活の変遷を理解する。	4時間

111

授業科目名	**京都の文化と芸術**				
担当教員名	原山詠子				
学年・コース等	1～4年	開講期間	後期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	美術館学芸員として勤務。日本美術史を専門とし、展覧会の企画や研究、作品の管理を担当。（全14回）				

授業概要

京都は千年の歴史がはぐくんだ様々な文化遺産を有する都市です。京都の文化遺産の伝統と創造のありようを再確認し、現代に残された文化や芸術を知ること目指します。美術、宗教、文学などの諸分野、それらが複合的に見られる場としての社寺や美術館などについて、毎回テーマを定めて講義を進めます。対象に直接ふれる機会として、授業で取り上げる複数の社寺・美術館のうちの一つの見学を期末レポートの課題（指定された見学先の中から一つを自分で選び、各自で見学、レポートを提出）とします。
本科目は全授業をGoogle Classroom（オンデマンドの遠隔授業形式）で行います。授業ファイルを閲覧しながら毎回の授業で求めるコメントのやりとりを活用し、受講生の考えや経験を共有・検討するアクティブラーニングもとりいれます。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. 全学DP１.幅広い教養やスキル	京都と深くかかわる伝統文化、諸芸術などについて基礎知識を習得し、それらを楽しむヒントを得る。	京都についてより親しみと理解を深め、基礎的な事項が説明できる。
汎用的な力		
1. 全学DP４.課題発見		京都で成立・発展した文化と芸術についての諸課題を、自らの経験に基づいて捉えることができる。
2. 全学DP６.行動・実践		京都で成立・発展した文化と芸術について、具体的な文化財や事例を挙げながらまとめることができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)

・問答法・コメントを求める

・見学、フィールドワーク

課題や取組に対する評価・振り返り

・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

授業へは原則としてすべて出席してください。何らかの事情で欠席する場合は、シラバスや授業内での配布資料を参照し、自学により内容を確認し、必要な課題に取り組むようにしてください。なお、資格・免許取得に必要な科目は、単位修得に必要な授業時間数が定められている場合がありますので、注意してください。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
平常点	10 %	： 授業テーマに関する設問に対して毎回コメントを求め、内容の妥当性や自分の言葉でまとめられているかなどを、独自のルーブリックに基づいて評価します。質問なども積極的な授業への参加として評価します。
授業内課題	40 %	： 毎回小テストを実施し、講義内容の理解度などを独自のルーブリックに基づいて評価します。
期末レポート	50 %	： 指定された見学先の中から一つを選び、各自で見学をしてレポートを作成すること。課題の条件を満たしているか、見学で得た知見が充分に反映されているかなどを独自のルーブリックに基づいて評価します。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

毎回、テーマに沿った参考文献を授業内で紹介します。

履修上の注意・備考・メッセージ

・本科目は全14回の授業をGoogle Classroom（オンデマンドの遠隔授業形式）で行います。
・本科目は２単位の科目であるため、平均すると毎回5時間程度の授業外学修が求められます。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。
・講義では、多くの文化財、作品、資料を紹介します。より深い理解と知識獲得のために、配布資料や講義で紹介した参考文献などを適宜利用し、最終課題である期末レポートにおいて、その復習の成果を反映できるように努めてください。
・日頃から関連ニュースに注目したり展覧会に出かけるなど、積極的に文化財に親しむよう心がけてください。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 月曜日１～2時限

場所： Google Classroom、Gmail

備考・注意事項： Google Classroom上、またはGmailで受け付けます。返信は基本的に授業期間中の月曜日1～2時限とその授業前後に行います。

授業計画

		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**授業の進め方と目標（ガイダンス）** ・授業の進め方とシラバスの確認：Google Classroomにおける授業の進め方、出欠の取り方、成績評価などについて確認します。 ・授業の目標と意義：この授業で何を学び、何を身につけることが目標なのか確認します。	配布資料をもとに、今後の授業の進め方や諸注意事項、授業の目標などについてよく確認しておく。 次回の授業テーマについて調べ、自分なりのイメージを持っておく。【キーワード：平安貴族の文化、国風文化、源氏物語】	5時間
第2回	**源氏物語と平安貴族** ・平安貴族の文化：平安時代の京都において、文化の担い手は平安貴族たちでした。彼らの価値観や文化・風俗がどのように変化したか学びます。 ・『源氏物語』の中の平安貴族：『源氏物語』から平安貴族の美の価値観を読み取り、関連作品を味わいましょう。	配布資料をもとに今回のテーマを自分なりに整理し、関連する文化財を挙げながら自分の言葉で説明できるように復習しておく。また、他の受講生の前回のコメントを読み、自分のコメントと比較しながら考えを補強する。 次回の授業テーマについて調べ、自分なりのイメージを持っておく。【キーワード：京都の年中行事、五節句、祇園祭】	5時間
第3回	**京都の年中行事と祭礼** ・京都を彩る年中行事と五節句：古来より京都で行われてきた五節句の行事と、その由来や意味について学びます。 ・祇園祭：京都三大祭の一つである祇園祭の歴史や縁起を学び、実際の祭の様子を確認します。	配布資料をもとに今回のテーマを自分なりに整理し、関連する文化財を挙げながら自分の言葉で説明できるように復習しておく。また、他の受講生の前回のコメントを読み、自分のコメントと比較しながら考えを補強する。 次回の授業テーマについて調べ、自分なりのイメージを持っておく。【キーワード：平等院鳳凰堂、末法思想、浄土信仰】	5時間
第4回	**平等院鳳凰堂と阿弥陀信仰** ・☆平等院鳳凰堂（見学対象の一つ）の歴史：京都の宇治にある平等院鳳凰堂について、成立の歴史的背景を学びます。 ・阿弥陀信仰：阿弥陀信仰とはどのような信仰なのか、流行した社会背景を踏まえながら、当時の人々にとっての生と死に対する考え方を学びます。	配布資料をもとに今回のテーマを自分なりに整理し、関連する文化財を挙げながら自分の言葉で説明できるように復習しておく。また、他の受講生の前回のコメントを読み、自分のコメントと比較しながら考えを補強する。 次回の授業テーマについて調べ、自分なりのイメージを持っておく。【キーワード：三十三間堂、千手観音菩薩、仏像の分類】	5時間
第5回	**三十三間堂と仏像の基礎知識** ・☆三十三間堂（見学対象の一つ）の歴史：三十三間堂の創建以来の歴史を確認し、所蔵されている文化財の数々について学びます。 ・仏像鑑賞の基礎知識：三十三間堂には国宝「千手観音像」をはじめ、多くの仏像が安置されています。仏像を鑑賞するための基礎知識を学びましょう。	配布資料をもとに今回のテーマを自分なりに整理し、関連する文化財を挙げながら自分の言葉で説明できるように復習しておく。また、他の受講生の前回のコメントを読み、自分のコメントと比較しながら考えを補強する。 次回の授業テーマについて調べ、自分なりのイメージを持っておく。【キーワード：室町文化、会所と唐物、禅林美術】	5時間
第6回	**室町文化と禅宗**	配布資料をもとに今回のテーマを自分なりに整理し、関連する文化財を挙げながら自分の言葉で説明できるように復習しておく。また、他の受講生の前回のコメントを読み、自分のコメントと比較しながら考えを補強する。 次回の授業テーマについて調べ、自分なりのイメージを持っておく。【キーワード：二条城二の丸御殿の障壁画、狩野探幽、後水尾天皇の二条城行幸】	5時間

	・足利将軍と室町文化（☆銀閣寺は見学対象の一つ）：三代将軍義満と八代将軍義政を中心に成立した室町文化は、その後の日本美術の規範にもなっています。これらの文化の成立過程を確認しましょう。 ・禅宗の美術：日本中世における禅宗の歴史と、禅宗寺院において生み出された禅林美術について学びます。		
第7回	**二条城と徳川政権** ・京都における徳川将軍の居城「二条城」（☆二条城は見学対象の一つ）：京都において徳川幕府の繁栄と終焉を見届けた城郭、二条城について学びます。特に、国宝「二の丸御殿」の構造と障壁画の役割、狩野派と狩野探幽、後水尾天皇の行幸について注目しましょう。	配布資料をもとに今回のテーマを自分なりに整理し、関連する文化財を挙げながら自分の言葉で説明できるように復習しておく。また、他の受講生の前回のコメントを読み、自分のコメントと比較しながら考えを補強する。 次回の授業テーマについて調べ、自分なりのイメージを持っておく。 【キーワード：東京奠都（とうきょうてんと）、番組小学校、辰野金吾】	5時間
第8回	**明治時代の京都** ・近代京都の産業と教育（☆京都市学校歴史博物館は見学対象の一つ）：明治維新を迎えると、京都は都市としての衰退の危機に直面します。この局面から立ち直るための鍵となった、京都の近代産業と教育について学びます。 ・京都の近代建築：京都の都市としての復興に伴い、近代京都の街並は西洋建築化が進みます。京都の代表的な近代建築物について確認しましょう。	配布資料をもとに今回のテーマを自分なりに整理し、関連する文化財を挙げながら自分の言葉で説明できるように復習しておく。また、他の受講生の前回のコメントを読み、自分のコメントと比較しながら考えを補強する。 次回の授業テーマについて調べ、自分なりのイメージを持っておく。 【キーワード：洛、屏風の仕組み、舟木本】 学期末レポートについて、見学先を決定する。	5時間
第9回	**洛中洛外図にみる京都** ・「洛中」と「洛外」：「洛中洛外図」とは京都の景観を描いた絵のことです。「洛」とは何なのか、京都の歴史を踏まえながら、「洛中」と「洛外」について学びます。 ・「洛中洛外図屏風」：「洛中」と「洛外」の様子を屏風に描いた「洛中洛外図屏風」は百数十点が現存しています。特に優れた作品である国宝「舟木本」を味わいましょう。	配布資料をもとに今回のテーマを自分なりに整理し、関連する文化財を挙げながら自分の言葉で説明できるように復習しておく。また、他の受講生の前回のコメントを読み、自分のコメントと比較しながら考えを補強する。 次回の授業テーマについて調べ、自分なりのイメージを持っておく。 【キーワード：わび茶、千利休、利休好みの茶道具】 学期末レポートの準備・作成を進める。	5時間
第10回	**京都と茶の湯** ・茶の湯の歴史：中国宋時代に主流であった喫茶文化は、日本に伝わり京都を中心に発展しました。日本を代表する文化、茶の湯の歴史を学びます。 ・利休の茶の湯：茶聖ともよばれる千利休は、卓越した感性で現在の茶の湯のかたちをつくりあげ、その精神は現在にまで受け継がれています。利休の茶室や茶道具を味わいましょう。	配布資料をもとに今回のテーマを自分なりに整理し、関連する文化財を挙げながら自分の言葉で説明できるように復習しておく。また、他の受講生の前回のコメントを読み、自分のコメントと比較しながら考えを補強する。 次回の授業テーマについて調べ、自分なりのイメージを持っておく。 【キーワード：尾形光琳、円山応挙、呉春】 学期末レポートの準備・作成を進める。	5時間
第11回	**近世の京都画壇** ・琳派芸術について：本阿弥光悦・俵屋宗達 から、尾形光琳と尾形乾山、そして江戸と大坂の琳派へと継承された琳派芸術を学びましょう。 ・円山四条派の誕生と発展：18世紀後半頃、京都の絵画を大きく変化させた円山応挙と、応挙に学んだ呉春を筆頭とする円山四条派について確認します。	配布資料をもとに今回のテーマを自分なりに整理し、関連する文化財を挙げながら自分の言葉で説明できるように復習しておく。また、他の受講生の前回のコメントを読み、自分のコメントと比較しながら考えを補強する。 次回の授業テーマについて調べ、自分なりのイメージを持っておく。 【キーワード：如雲社、幸野楳嶺、竹内栖鳳】 学期末レポートの準備・作成を進める。	5時間
第12回	**近代の京都画壇** ・維新後の京都画壇と近代化：明治維新後、廃業の危機にさらされた当時の画家たちの様子と、近代化する画壇の中で成立した組織について。 ・竹内栖鳳と同時代の画家たち：京都画壇の中心で近代化を進め、後進を育てた竹内栖鳳。彼と同時代に活躍した画家たちの活躍にも注目しましょう。	配布資料をもとに今回のテーマを自分なりに整理し、関連する文化財を挙げながら自分の言葉で説明できるように復習しておく。また、他の受講生の前回のコメントを読み、自分のコメントと比較しながら考えを補強する。 次回の授業テーマについて調べ、自分なりのイメージを持っておく。 【キーワード：出雲の阿国、和事と荒事、時代物と世話物】 学期末レポートの準備・作成を進める。	5時間

第13回	**京都と歌舞伎** ・歌舞伎の歴史：京都で誕生した歌舞伎は、上方と江戸でそれぞれ独自の発展を遂げました。歌舞伎成立の歴史を確認し、現代の歌舞伎にどうつながっているのかを学びます。	配布資料をもとに今回のテーマを自分なりに整理し、関連する文化財を挙げながら自分の言葉で説明できるように復習しておく。また、他の受講生の前回のコメントを読み、自分のコメントと比較しながら考えを補強する。 次回の授業テーマについて調べ、自分なりのイメージを持っておく。 【キーワード：京都の花街、舞妓と芸妓、舞妓をテーマにした作品】 学期末レポートの準備・作成を進める。	5時間
第14回	**京都の花街** ・花街と舞妓：京都には花街と呼ばれる場所があり、今もなお伝統が受け継がれています。花街と、そこに生きる舞妓と芸妓について学びます。 ・絵画に見る舞妓イメージ：舞妓は明治時代中頃から絵画の画題として本格的に描かれはじめました。舞妓のイメージがどのように捉えられたか、作品を通じて確認しましょう。	配布資料をもとに今回のテーマを自分なりに整理し、関連する文化財を挙げながら自分の言葉で説明できるように復習しておく。また、他の受講生の前回のコメントを読み、自分のコメントと比較しながら考えを補強する。学期末レポートの準備・作成を進める。	5時間

111

授業科目名	Cross-cultural understanding：Cool Japan				
担当教員名	佐伯瑠璃子				
学年・コース等	1～4年	開講期間	後期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の概要					

授業概要

This course explores Japanese popular culture, traditions, and social phenomena while developing cross-cultural understanding. Through interactive discussions, group work, and individual projects, students will analyze both traditional and modern aspects of Japanese culture while considering different cultural perspectives.　Note that this course will be conducted in English only. Check it.

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. 全学DP１.幅広い教養やスキル	To understand key aspects of Japanese popular culture and their global impact.	To develop the ability to understand key aspects of Japanese popular culture and their global impact.
2. 全学DP１.幅広い教養やスキル	To develop a multifaceted understanding of Japanese culture and analyze its interpretation through international perspectives.	To develop skills to apply rediscovered perspectives on Japanese culture that can be utilized in future international tourism and cross-cultural business operations.
汎用的な力		
1. 全学DP８.意思疎通		To devevelop the ability to enhance English communication skills through discussion and presentation.
2. 全学DP５.計画・立案力		To develop planning and presentation skills through project development and group presentations.

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・問答法・コメントを求める

・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)

・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

① As a 2-credit course, this class requires approximately 4 hours of independent study per session. In addition to completing the assigned coursework, thoroughly review the content of each class and prepare for upcoming sessions.
② Please attend all classes as a general rule. If you must be absent for any reason, refer to the syllabus and any materials distributed in class, and make sure to check the content on your own and work on the necessary assignments. Note that for subjects required for qualification or licensing, there may be a set number of class hours needed to earn credits, so please be careful.

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
Class Assignments	40 %	: Students will be evaluated based on their active participation in group work and completing worksheets according to the assessment criteria provided during the orientation session.
Presentations	30 %	: Presentations conducted in weeks 13 and 14 will be evaluated using a rubric-based assessment system.
Final Report	30 %	: The final examination report will be evaluated using a rubric-based assessment system.

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

References and reading materials will be introduced during class sessions as needed.

履修上の注意・備考・メッセージ

As a 2-credit course, this class requires approximately 4 hours of independent study per session. In addition to completing the assigned coursework, thoroughly review the content of each class and prepare for upcoming sessions.

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：　Friday, Before and after class hours

場所：　Classroom

授業計画

		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**Course Introduction, What is Culture?** In this session, the following items will be lectured and discussed： - Course Overview - What is culture? - Visible and invisible culture - Cultural frameworks	Review the content covered in the orientation session.	4時間
第2回	**Understanding Cool Japan** In this session, the following items will be lectured and discussed： - Concept of Cool Japan - Japanese architecture and space utilization - Traditional and modern spatial design - Compact living solutions	Review the distributed materials and look up any unfamiliar vocabulary in the dictionary. Complete all assigned tasks. Review the class content and conduct further research on topics of personal interest through the Internet and literature.	4時間
第3回	**Japanese Food Culture** In this session, the following items will be lectured and discussed： - Evolution of Japanese cuisine - Ramen research case study - Global influence of Japanese food - Cultural significance of food	Review the distributed materials and look up any unfamiliar vocabulary in the dictionary. Complete all assigned tasks. Review the class content and conduct further research on topics of personal interest through the Internet and literature.	4時間
第4回	**Omotenashi Culture and Tourism** In this session, the following items will be lectured and discussed： - Japanese hospitality concepts - Service quality and attention to detail - Tourism development - Cultural exchange through tourism	Review the distributed materials and look up any unfamiliar vocabulary in the dictionary. Complete all assigned tasks. Review the class content and conduct further research on topics of personal interest through the Internet and literature.	4時間
第5回	**Manga and Anime Culture I: History and Development** In this session, the following items will be lectured and discussed - History and development - Global Impact - Gaming culture integration - Media mix strategy	Review the distributed materials and look up any unfamiliar vocabulary in the dictionary. Complete all assigned tasks. Review the class content and conduct further research on topics of personal interest through the Internet and literature.	4時間
第6回	**Manga and Anime Culture II: Several Phenomena** In this session, the following items will be lectured and discussed: - Cosplay phenomenon - VTuber culture - Character design and marketing - Gaming communities	Review the distributed materials and look up any unfamiliar vocabulary in the dictionary. Complete all assigned tasks. Review the class content and conduct further research on topics of personal interest through the Internet and literature.	4時間
第7回	**Seasonal Culture**	Review the distributed materials and look up any unfamiliar vocabulary in the dictionary. Complete all assigned tasks. Review the class content and conduct further research on topics of personal interest through the Internet and literature.	4時間

	In this session, the following items will be lectured and discussed: - Traditional seasonal events - Modern seasonal products - Cultural sensitivity to seasons - Seasonal traditions in daily life		
第8回	**Technology and Tradition** In this session, the following items will be lectured and discussed: - Digital transformation of traditions - Traditional crafts and innovation - Smart solutions in daily life - Balancing old and new	Review the distributed materials and look up any unfamiliar vocabulary in the dictionary. Complete all assigned tasks. Review the class content and conduct further research on topics of personal interest through the Internet and literature.	4時間
第9回	**Japanese Values and Ways of Life** In this session, the following items will be lectured and discussed: - Japanese value systems - Work-life perspectives - Concepts of living meaningfully - Generational changes in values - Modern lifestyle choices - Social and individual values - Balance in life and work	Review the distributed materials and look up any unfamiliar vocabulary in the dictionary. Complete all assigned tasks. Review the class content and conduct further research on topics of personal interest through the Internet and literature.	4時間
第10回	**Innovative Japanese Culture** In this session, the following items will be lectured and discussed: - Stationery culture - Uniform culture - Train station melodies - Creative adaptations	Review the distributed materials and look up any unfamiliar vocabulary in the dictionary. Complete all assigned tasks. Review the class content and conduct further research on topics of personal interest through the Internet and literature.	4時間
第11回	**Understanding Foreign Perspectives** In this session, the following items will be lectured and discussed: - Cross-cultural communication - Cultural differences and similarities - Building cultural bridges - Future of cultural exchange	Review the distributed materials and look up any unfamiliar vocabulary in the dictionary. Complete all assigned tasks. Review the class content and conduct further research on topics of personal interest through the Internet and literature.	4時間
第12回	**Presentation Preparation** In this session, students will consider how to apply their acquired knowledge of Japanese culture and cult ural perspectives in intercultural exchanges. - Course review - Theme development - Presentation skills workshop - Group work time	Review the distributed materials and look up any unfamiliar vocabulary in the dictionary. Complete all assigned tasks. Review the class content and conduct further research on topics of personal interest through the Internet and literature. Presentation Preparation	4時間
第13回	**Group Presentations I : Presentation "Re-discovering Japan"** Students present their research on a topic set by the group. - Student presentations (5 groups) - Q&A sessions - Peer feedback	Prepare feedback for other groups, presentations	4時間
第14回	**Group Presentations II : Presentation "Re-discovering Japan"** Students present their research on a topic set by the group. - Student presentations (5 groups) - Q&A sessions - Peer feedback	Prepare feedback for other groups, presentations	4時間

111

授業科目名	**現代社会と政治**				
担当教員名	兒玉圭司				
学年・コース等	1年～4年	開講期間	後期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の概要					

授業概要

本科目は「政治」を扱う教養科目であり、民主的な社会生活の維持・発展に果たす政治の役割を学び、理解することを目的とします。日本の政治体制やその特徴について理解を深めてもらった上で、国際政治についても基礎的な知識を修得してもらえればと考えています。
また、時々の出来事（ニュース）を踏まえながら、それらの解説を交えることで、現在の日本政治・国際政治についても関心を寄せてもらうとともに、現在起きている問題についてどのように向き合えばよいか、皆さん自身に考えてもらいたいと思います。
政治には私たち自身が主人公として参加していますので、私たちの行動によって社会を変える道がひらかれています。「よりよい政治」を実現するためどうすればよいか、一緒に考えていきましょう。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. 全学DP１.幅広い教養やスキル	現代社会の中で「政治」が果たしている機能、仕組みを理解するための基礎的知識を修得し、政治に参加する主体としての判断力を養う。	現代社会における「政治」に関わる現象を理解し説明できる。また、それらを多角的に捉え、考えることができる。
汎用的な力		
1. 全学DP４.課題発見		現代社会における様々な現象や課題について、本科目で学んだ内容を踏まえて理解し、説明することができる。
2. 全学DP５.計画・立案力		現代社会における様々な現象や課題について、どのような解決策がありうるか、また、どのような道筋でその解決を図ればよいか、自ら考え、説明することができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)

・問答法・コメントを求める

・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

授業へは原則としてすべて出席してください。何らかの事情で欠席する場合は、シラバスや授業内での配布資料を参照し、自学により内容を確認し、必要な課題に取り組むようにしてください。なお、資格・免許取得に必要な科目は、単位修得に必要な授業時間数が定められている場合がありますので、注意してください。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
定期試験	40 %	： 「授業概要」や「養うべき力と到達目標」に記された各項目の内容を満たしているか否かを問います。
レポート・小課題	10 %	： 講義で扱った内容について、調べる・考える・説明する能力や理解度、理解の妥当性・論理性を確認します。
リアクションペーパー等	50 %	： 講義への質問や、興味深かった点などを記してもらうことで、主体的な参加度合いや理解の深さを確認します。また、講義内容の理解度について、簡単な到達度確認を行います。

使用教科書

指定する

著者	タイトル	出版社	出版年

上神貴佳ほか　・日本政治の第一歩〔新版〕　・有斐閣　・2023　年

参考文献等

(1)高校時代に利用した「公共」や「政治経済」・「現代社会」の教科書。
(2)山崎広明編『もういちど読む山川政治経済[新版]』（山川出版社、2018年、ISBN：978-4-634-59107-3）
(3)砂原庸介『政治学の第一歩[新版]』（有斐閣、2020年、ISBN 978-4-641-15078-2）
などで余復習をしていただければと思います。
そのほか、講義中に適宜、参考文献を示します。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められます。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をしてください。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：　月曜日昼休み

場所：　非常勤講師室

備考・注意事項：　上記時間帯以外のご質問・ご相談は、メールでご連絡ください。

授業計画		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**ガイダンス－日本政治の課題と、私たちの役割** 本講義の進め方について説明した上で、現在の日本政治の課題と、その解決策について履修者の関心の所在をたずねます。また、「政治学」という学問の意義や目標についてお話します。	関心のある政治的課題と、その問題をどのようにして解決すればよいか、考えてきてください。	4時間
第2回	**政治参加** 日本における選挙制度と、日本人の投票行動の傾向などについて学びます。	教科書の第2章を読んで、各自で理解を深めておいてください。	4時間
第3回	**団体政治・自発的結社** 日本の政治に影響を及ぼしている利益集団を取り上げ、その団体の意義や役割、活動内容などを紹介します。	教科書の第3章を読んで、各自で理解を深めておいてください。	4時間
第4回	**政党と政治家** どのような人々が政治家になるのか、どういった活動をするのか、また、彼らの多くが所属する政党とはどのような役割を持っているのか、学びます。	教科書の第4章を読んで、各自で理解を深めておいてください。	4時間
第5回	**議院内閣制と首相** 日本の政治制度を形作っている議院内閣制や二院制について学んだうえで、そうした制度のもとにあって、首相はどのような形で政権運営を行ってきたのかを論じます。	教科書の第5章を読んで、各自で理解を深めておいてください。	4時間
第6回	**国会** 選出された政治家が立法権を担う国会の立場から、改めて議院内閣制や二院制に触れます。また、彼らの権能である立法過程を紹介するとともに、日本の「国会」の課題についても言及します。	教科書の第6章を読んで、各自で理解を深めておいてください。	4時間
第7回	**官僚・政官関係** 行政を担う官僚という存在について概論的に紹介したのち、彼らが政策の立案・遂行にどのような形で関わっているのかを捉えます。	教科書の第7章を読んで、各自で理解を深めておいてください。	4時間
第8回	**メディア** 「第4の権力」とも言われるメディアが果たす役割について述べるとともに、近年顕著になってきたメディアに対する批判や、その問題点についても考えてみます。	教科書の第8章を読んで、各自で理解を深めておいてください。	4時間
第9回	**政策過程** 日本の政治によって決定・遂行される政策が、誰によって形作られているのか、その過程や諸相を眺めてみたいと思います。	教科書の第9章を読んで、各自で理解を深めておいてください。	4時間
第10回	**地方自治** 日本における地方自治とはどのような形であり、その特色はどこにあるのか、住民がどのように関与しているのか、などを確認します。	教科書の第10章を読んで、各自で理解を深めておいてください。	4時間
第11回	**戦後日本の政治史** 戦後日本の政治史を概観します。特に、戦後の福祉レジームに着目して論じてみたいと思います。	教科書の第11章を読んで、各自で理解を深めておいてください。	4時間
第12回	**国民国家と共生** 現在のような国家の形がつくられた過程や、私たち「市民」やその権利が歴史上どのように展開してきたかについて触れてみたいと思います。	教科書の第12章を読んで、各自で理解を深めておいてください。	4時間

第13回	**変化する国際政治・経済** 戦後の世界を取り巻く政治・経済情勢がどのように展開してきたか、現在はどのような問題がクローズアップされているか、概説します。	高校時代の「公共」や「政治・経済」・「現代社会」の教科書中、世界の政治・経済について記された部分を読んでおいてください。	4時間
第14回	**現代日本を取り巻く諸課題** 講義でこれまでに扱ってきた内容を踏まえ、近年の時事問題に対して、どのような見方や動きがあるかを紹介します。合わせて、履修者自身がこれらの問題にどのように向き合うか、考えるきっかけにしてもらえたらと思います。（なお、国政選挙や大きな国内・国際情勢の変化が生じたときには、そのタイミングに合わせてこの回の取り組みを実施する予定です）	近時の時事問題について、新聞やニュース、インターネットを活用して情報を集めてもらいます。特に、自分と異なる意見・見方も含めた、多角的な情報を収集してみてください。	4時間

111

授業科目名	**現代社会と政治**				
担当教員名	西直美				
学年・コース等	1～4年	開講期間	前期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の概要					

授業概要

この講義は、おもに政治学で扱われてきた内容を中心として、現代社会と政治について考えるための視点を学ぶことを目的としています。そもそも国家とは何なのか、国家を動かす仕組みである民主主義という体制はどのようなものなのか、後半ではジェンダーや宗教、国際政治の捉え方についても学んでいく予定です。社会における政治の役割を、学問的な観点をふまえて理解するだけでなく、さまざまなテーマを通して自らの政治観についても知ることができるようになることを目指します。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. 全学DP１.幅広い教養やスキル	現代社会において政治が果たしている役割を理解するための基礎的な知識を身に付ける。	政治学的な観点もふまえて、現代社会における政治の役割について自らの言葉で語ることができるようになる。
汎用的な力		
1. 全学DP４.課題発見		現代社会における政治をめぐって、何が問題なのかを発見する力を身に付ける。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)

・問答法・コメントを求める

・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

授業へは原則としてすべて出席してください。何らかの事情で欠席する場合は、シラバスや授業内での配布資料を参照し、自学により内容を確認し、必要な課題に取り組むようにしてください。なお、資格・免許取得に必要な科目は、単位修得に必要な授業時間数が定められている場合がありますので、注意してください。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
平常点	30 %	： 講義を受け、課題を提出したかどうか。
小レポート（リアクションペーパー）	70 %	： 質問に答えているか、自分なりの意見が根拠をもって説明されているか。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

砂原庸介、碑田健志、多湖淳、『政治学の第一歩（新版）』（2020）有斐閣ストゥディア ISBN978-4641150782

履修上の注意・備考・メッセージ

講義の進め方や内容については、受講者の人数や関心に応じて変更する可能性があります。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 月曜午前中

場所： メール

備考・注意事項： この講義は、オンライン（オンデマンド型）講義です。
月曜日に講義資料や課題を提示する予定です。
メールの対応は、月曜日の午前中に行います。メールアドレスについては講義開始後にお知らせします。

授業計画		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第１回	**政治とはなにか** 講義の進め方、成績評価基準、スケジュールを確認するとともに、政治（学）とは何かについて考えます。	事前：政治と聞いたときに自分がイメージするものについて考えておく。事後：講義を復習し、与えられた課題に取り組む。	4時間
第２回	**国家とはなにか** 私たちが暮らす世界における政治は、国家が前提となっています。そもそも国家とは、どういった特徴をもつ存在なのか考えます。	事前：国家という用語について新聞やインターネットなどで調べる。事後：講義を復習し、与えられた課題に取り組む。	4時間
第3回	**民主主義は「よい」政治体制なのか** 民主主義はよい政治体制だと思われていますが、どうしてなのか、理由を考えたことがあるでしょうか。民主主義体制の特徴、そして民主主義体制がもつ問題点についても考えます。	事前：民主主義という用語について新聞やインターネットなどで調べる。事後：講義を復習し、与えられた課題に取り組む。	4時間
第４回	**全体主義と権威主義** 世界の半分以上は、じつは民主主義の国ではありません。民主主義ではない政治体制には、どのような特徴があるのかについて全体主義と権威主義という言葉を通して考えます。	事前：全体主義、権威主義という用語について新聞やインターネットなどで調べる。事後：講義を復習し、与えられた課題に取り組む。	4時間
第５回	**選挙と投票** 民主主義の大切な条件の一つが、選挙が行われているかどうかという点です。選挙にはさまざまな方法があり、各国の民主主義体制の違いに結びついています。この講義では、政治に参加することの意味ついても考えていきます。	事前：選挙、投票という用語について新聞やインターネットなどで調べる。事後：講義を復習し、与えられた課題に取り組む。	4時間
第６回	**政党が果たす役割** 民主主義にとってもう一つの重要なポイントとなるのは、政党が複数あり、それぞれが競争できているかという点です。政党の役割とはどのようなものなのかについて学ぶことを通して、民主主義について考えていきます。	事事前：日本にどのような政党があるのかについて新聞やインターネットなどで調べる。事後：講義を復習し、与えられた課題に取り組む。	4時間
第７回	**執政・立法・司法** 大統領と首相の違いとは何か、議会はどのような仕組みで動いているのか、裁判所が政治において果たす役割とはどのようなものか。こういった点を通して、国家権力の働きについて考えていきます。	事前：大統領制、議院内閣制、国会、最高裁判所という用語について新聞やインターネットなどで調べる。事後：講義を復習し、与えられた課題に取り組む。	4時間
第８回	**官僚の役割** 政策を作っているのは、政治家だけではありません。官僚とはいったい誰で、政策を作るプロセスにどのように関わっているのか、また民主的に選ばれた政治家と専門家である官僚とのあるべき関係とはどのようなものなのかという点についても考えます。	事前：官僚という用語について新聞やインターネットなどで調べる。事後：講義を復習し、与えられた課題に取り組む。	4時間
第９回	**ジェンダー** SDGsやジェンダー平等という言葉をよく聞くようになりました。日本では、女性の政治家の数は先進国のなかでも最下位です。政治参加における男女平等に向けた試みを通して、ジェンダー平等が私たちが生きやすい社会をつくることにどのようにつながるのかを考えてみます。	事前：ジェンダーという用語について新聞やインターネットなどで調べる。事後：講義を復習し、与えられた課題に取り組む。	4時間
第10回	**宗教と政治** 宗教は政治と切り離されるべきだと考えられています。しかし宗教は政治に影響を与えていないといえるでしょうか。この講義では、政教分離や世俗化といった言葉を通して、宗教と政治の距離に関する問題を考えていきます。	事前：政教分離という用語について新聞やインターネットなどで調べる。事後：講義を復習し、与えられた課題に取り組む。	4時間
第11回	**連邦制と地方政府** 一つの国に一つの政府がある訳ではありません。連邦制と呼ばれる制度を採用している国では、地方の政府が一つの国並みの権限を持っています。この講義では、中央と地方という異なるレベルの政府の役割を通して、国家とは何かについて改めて考えていきます。	事前：連邦制という用語について新聞やインターネットなどで調べる。事後：講義を復習し、与えられた課題に取り組む。	4時間

第12回	**国際政治の特徴** 国内政治ではできて、国際政治ではできないこととは何でしょうか。この講義では、国と国との間の関係から成り立つ国際政治がもつ特徴について学びます。	事前：主権国家という用語について新聞やインターネットなどで調べる。事後：講義を復習し、与えられた課題に取り組む。	4時間
第13回	**安全保障** 国家どうしはそれぞれが平等で、自国に危機が及んだ場合は、守る権利があると考えられています。戦争はいったいどのような時に生じてしまうのか、国家にとっての危機は戦争だけなのか「安全保障」という言葉を通して考えます。	事前：安全保障という用語について新聞やインターネットなどで調べる。事後：講義を復習し、与えられた課題に取り組む。	4時間
第14回	**グローバル化** 私たちが生きる世界はグローバル化が進んだ世界だと言われています。グローバル化とはそもそも何なのか、私たちはどのような時代を生きているのかという点について、経済的な相互依存関係という点から考えていきます。	事前：グローバル化という用語について新聞やインターネットなどで調べる。事後：講義を復習し、与えられた課題に取り組む。	4時間

111

授業科目名	**現代社会と経済**				
担当教員名	藤森梓				
学年・コース等	1～4年	開講期間	前期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の概要					

授業概要

この講義では、初学者を対象として経済学の基本的な概念を学んだ上で、私たちの日常生活や社会の諸問題について経済学という視点から考察します。皆さんは経済学について、難解かつ抽象的な学問というイメージをお持ちかも知れません。しかし、経済学的思考を身に付けることができれば、世の中の諸現象について、非常に論理的なものの見方ができるようになります。この講義では、できるだけ平易かつ具体的に経済学のエッセンスについて解説します。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. 全学DP１.幅広い教養やスキル	経済学の基本概念を習得する。経済に関するテクニカル・タームを正しく理解する。	世の中の経済現象の本質を正しく理解し、自分なりの見解を持つことができるようになる。
汎用的な力		
1. 全学DP４.課題発見		自らの専門分野（各自が所属する学部/学科の学び）に関連した問題を経済学的視点から分析できるようになる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)

・問答法・コメントを求める

・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

・実技・実習後、全体に向けてコメントします

・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

授業へは原則としてすべて出席してください。何らかの事情で欠席する場合は、シラバスや授業内での配布資料を参照し、自学により内容を確認し、必要な課題に取り組むようにしてください。なお、資格・免許取得に必要な科目は、単位修得に必要な授業時間数が定められている場合がありますので、注意してください。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
期末試験	70 %	： 世の中の経済の動きについて基本的な知識を有し、かつ本質的な問題点をきちんと理解しているかどうかを評価します。
小レポート	30 %	： 原則、毎回の授業で提出を求めます。授業内容を踏まえた上で、きちんと内容が記述されているかを評価します。

使用教科書

指定する

著者	タイトル	出版社	出版年
南波浩史・水ノ上智邦・藤森梓	・ 日本経済と公共部門のダイナミクス：データで読み解く現代社会（ISBN:9784771035942）	・ 晃洋書房	・ 2022 年

参考文献等

初回の授業でリーディングリストを配布します。また、講義内でも適宜紹介します。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められます。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をして下さい。
本講義では、現実社会の問題を取り上げるために、時事問題に関する知識は必須です。そのために、新聞購読、ニュースを見る習慣を身に付けて下さい。
授業の資料等はGoogle Classroomで配布します。登録については初回の授業でガイダンスを行います。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 水曜日3限

場所： 個人研究室（西館4階）

備考・注意事項： 授業に関する質問は、授業の前後、または研究室でのオフィスアワー（水曜日3限）にて受け付けます。

授業計画

		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**ガイダンス～経済学への導入～** 講義に関するガイダンス、大学で経済学を学ぶ意味について考えます。	講義内で配布する、復習ノートに取り組む。（社会科学における経済学の位置づけを理解する）	4時間
第2回	**経済学の基礎（1）～経済学はどのような学問なのか～** 経済学的なものの見方、考え方について学びます。	講義内で配布する、復習ノートに取り組む。（経済学の究極の目標とは何なのかを理解する）	4時間
第3回	**経済学の基礎（2）～ 経済活動と市場～** 私たちの日常生活と市場の役割について学びます。	講義内で配布する、復習ノートに取り組む。（市場原理がなぜ合理的なシステムと言えるのか、その要因を考える）	4時間
第4回	**経済学の基礎（3）～市場原理と価格決定のしくみ～** 市場原理について、特に価格調整メカニズムを中心に学びます。	講義内で配布する、復習ノートに取り組む。（価格調整メカニズムについて理解する）	4時間
第5回	**経済学の基礎（4）～市場の失敗～** 市場原理の限界について、市場の失敗という概念について学びます。	講義内で配布する、復習ノートに取り組む。（市場原理がうまく機能しない要因について考える）	4時間
第6回	**経済学の基礎（5）～経済活動と金融のしくみ～** 金融のしくみ、各金融機関の役割について学びます。	講義内で配布する、復習ノートに取り組む。（金融仲介機能及び中央銀行の役割について考える）	4時間
第7回	**日本経済の現状と課題（1）～日本経済のしくみ～** 日本における経済・産業政策と産業発展について学びます。	講義内で配布する、復習ノートに取り組む。（明治以降の日本の産業政策について、経済学的な視点から分析する）	4時間
第8回	**日本経済の現状と課題（2）～失業について考える～** マクロ経済の観点から失業問題について考えます	講義内で配布する、復習ノートに取り組む。（なぜ失業が生じるのかを考える）	4時間
第9回	**日本経済の現状と課題（3）～日本経済と景気変動～** 景気循環が発生する要因、および戦後の日本経済と景気循環について学びます。	講義内で配布する、復習ノートに取り組む。（景気変動の要因について考える）	4時間
第10回	**日本経済の現状と課題（4）～日本経済と財政政策～** 財政政策のしくみについて理解する。財政政策の効果について学びます。	講義内で配布する、復習ノートに取り組む。（財政政策のしくみについて理解を深める）	4時間
第11回	**日本経済の現状と課題（5）～日本経済と金融政策～** 金融政策のしくみについておよび中央銀行の役割について学びます。	講義内で配布する、復習ノートに取り組む。（金融政策のしくみについて理解を深める）	4時間
第12回	**日本経済の現状と課題（6）～日本の財政問題～** 日本の財政状況および財政赤字の問題について学びます。	講義内で配布する、復習ノートに取り組む。（日本の財政状況を改善させる施策を考える）	4時間
第13回	**日本経済の現状と課題（7）～失われた30年と日本経済の再興～** 失われた30年の概要と現代日本経済の抱える問題点について学びます。	講義内で配布する、復習ノートに取り組む。（日本経済が直面する問題と将来の展望について理解を深め、その成果を検証する）	4時間
第14回	**まとめ** 講義全体を振り返り、重要なポイントについて復習します。	講義内で配布する、復習ノートに取り組む。（講義全体を振り返る）	4時間

111

授業科目名	**現代社会と経済**				
担当教員名	本間哲也				
学年・コース等	1～4年	開講期間	後期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の概要					

授業概要

大学初年次学生が身につけておくべき「経済」および「経済学」の知識，そして「経済学の考え方」を学ぶ。具体的には，高等学校で学んだ「現代社会」あるいは「政治・経済」「ビジネス経済」の内容を踏まえ，そこにさらに高度な科学的根拠を与えてゆく。
それにより，生活者・家庭人・職業人として直面する日常の諸事象や，日ごろマスメディアで見聞する時事問題や政策を科学的な思考で理解・評価し，責任ある社会人・市民として意思決定できる素地を養う。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. 全学DP１.幅広い教養やスキル	経済活動が社会の基本的な営みであること，個々の生活者や企業，そして施政者の意思決定の多くには経済的な背景があることを認識する。	経済活動，経済社会，経済体制とはどのような概念なのかを説明できる。
2. 全学DP２.専門的知識・技能、職業理解	経営や市場に関わる諸現象を捉える際に有効な，経済学的分析概念の知識を得る。	消費者行動・経営活動・企業行動・政府の政策の基礎的な原理やメカニズムを経済学的概念や用語を用いて説明できる。
汎用的な力		
1. 全学DP４.課題発見		経済学の考え方や接近方法を自らが関わる具体的場面に援用し，適切な現状理解ができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)

・問答法・コメントを求める

・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)

・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

・提出物にコメント・評価をつけて返却します

・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

授業へは原則としてすべて出席してください。何らかの事情で欠席する場合は、シラバスや授業内での配布資料を参照し、自学により内容を確認し、必要な課題に取り組むようにしてください。なお、資格・免許取得に必要な科目は、単位修得に必要な授業時間数が定められている場合がありますので、注意してください。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
試験	40 %	： 学習内容の理解， 適切な説明ができる文章力。 ※表面的な用語知識よりも概念やメカニズムの理解を重視する。
課題	40 %	： 授業内容の理解， 諸事例に対する応用力。 ※提出資料の体裁や読みやすさも評価の対象。
授業への貢献	20 %	： 質問・発言などの「参加」状況。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

・N.グレゴリー＝マンキュー『マンキュー入門経済学』（最新は「第4版」）センゲージ・ラーニング（発売元：TKDラーニング/東京化学同人），2025年（第4版）ISBN 978-4-807-91811-9。
・中谷武・中村保（編著）『1からの経済学』碩学社，2010年，ISBN 978-4-502-68080-9。
・岩田規久男『経済学への招待』新世社，2007年，ISBN 978-4-88384-112-7。
・高校時代に学習した「現代社会」「政治・経済」「ビジネス経済」の教科書・資料集は（手元に残っているようなら）有益なはず。
・その他，必要に応じ授業中に示す。

履修上の注意・備考・メッセージ

・本科目は２単位の科目であるため，平均すると毎回４時間の授業外学修が求められる。「授業外学修課題」に取り組むことに加え，その回の授業の内容を丁寧に復習し，次回の授業に向けて予習をすること。
・履修開始前の特段の予備知識は不要。ただ，「参考文献等」欄でも触れたように，高校の「現代社会」「政治・経済」「ビジネス経済」の教材（特に教科書と資料集）が残っていれば，参照できるよう手許に持っておくことを推奨する。
・授業中の発言・質問等の積極的な参加は高く評価する。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：　水曜３時限目

場所：　教員研究室（西館４階）

授業計画		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第１回	**授業ガイダンス・経済と経済学** 本科目の目的・内容・授業の進め方・評価方法など 「経済」という語の意味・使われ方 「経済学」の特徴・歴史，政治との関わり 財・サービスの概念，希少性，機会費用，比較優位と分業など，経済学独特の考え方	シラバスを読み直し，内容を確認する。復習用教材等を用いて授業内容を確認し，「経済」という語の意味や，経済学独特の基礎的諸概念を次回授業時に説明できるようにしておく。	4時間
第２回	**需要と供給(1)：消費者** 消費と効用，需要曲線など	復習用教材等を用い，授業内容（消費行動と効用など）を次回授業時に説明できるようにしておく。	4時間
第３回	**需要と供給(2)：企業** 企業，利潤，供給曲線など	復習用教材等を用い，授業内容（企業や利潤の概念など）を次回授業時に説明できるようにしておく。	4時間
第４回	**価格メカニズム** 市場均衡，均衡の安定性と効率性など	復習用教材等を用い，授業内容（需給調整のメカニズムなど）を次回授業時に説明できるようにしておく。	4時間
第５回	**市場と政府** 市場の失敗，政府の役割など	復習用教材等を用い，授業内容（「市場の失敗」の例など）を次回授業時に説明できるようにしておく。	4時間
第６回	**環境と経済** 「環境」と経済の関わり（川村客員教授による授業）：環境に関わる「市場の失敗」，環境問題への取組みとＣＳＲなど	復習用教材等を用いて授業内容の理解を確実にし，次回授業時に環境と経済の関わりを説明できるようにしておく。	4時間
第７回	**国民経済・ＧＤＰ** 国民経済計算体系，ＧＤＰなど	復習用教材等を用い，授業内容（ＧＤＰの意味と指標としての限界など）を次回授業時に説明できるようにしておく。	4時間
第８回	**経済成長・景気・物価** 経済成長，景気変動，インフレとデフレなど	復習用教材等を用い，授業内容（経済成長，景気，物価などの意味）を次回授業時に説明できるようにしておく。	4時間
第９回	**財政(1)：財政政策** 政府による景気対策の基礎理論と歴史，他	復習用教材等を用い，授業内容（裁量的財政政策の理論と実例など）を次回授業時に説明できるようにしておく。	4時間
第10回	**財政(2)：税制度・財政収支** 租税の原則，日本と世界の税体系，公債，財政収支の歴史と現状など	復習用教材等を用い，授業内容（各種税制度の特徴，日本の財政健全性など）を次回授業時に説明できるようにしておく。	4時間
第11回	**貨幣と金融** 貨幣の役割，金融と金融機関，信用創造，金利，中央銀行と金融政策など	復習用教材等を用い，授業内容（金融の特徴，金融政策の理論と現状など）を次回授業時に説明できるようにしておく。	4時間
第12回	**国際経済(1)：貿易・外国為替** 貿易，国際収支，外国為替など	復習用教材等を用い，授業内容（貿易の利点欠点，外国為替レートの決定要因など）を次回授業時に説明できるようにしておく。	4時間

第13回	**国際経済(2)：グローバル化と諸問題** 地域的経済統合，経済のグローバル化，南北問題など	復習用教材等を用い，授業内容（グローバル化進展の利点と問題点など）を次回授業時に説明できるようにしておく。	4時間
第14回	**まとめ** 授業の振り返りとまとめ，試験情報	定期試験準備：全14回の授業内容を総復習	4時間

111

授業科目名	**現代社会と法**				
担当教員名	椚座三千子				
学年・コース等	1～4年	開講期間	前期／後期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	法律事務所に所属し，弁護士として民事・家事事件を中心に取り扱っている				

授業概要

現代社会におけるさまざまな「法」にまつわる現象や事例をトピックとして、社会人になるための法的なものの見方、考え方を身につけることを目指す。具体的には、社会におけるさまざまな法律・ルールについて、1回につき1つのテーマを取り上げて通常の講義形式で紹介していく。テーマの順番と内容は、変更されることがある。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. 全学DP１.幅広い教養やスキル	現代社会の中で「法律」「ルール」が果たしている機能、しくみを理解するための基礎的な知識と教養を修得し、社会に参加する主体としての判断力をもつ。	現代社会における「法律・ルール」にかかわる現象を、「法学的に」理解して説明が出来るようになることを目指す。
汎用的な力		
1. 全学DP４.課題発見		現代社会におけるさまざまな現象や課題を「法的に」とらえて考えることができるようになる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

授業へは原則としてすべて出席してください。何らかの事情で欠席する場合は、シラバスや授業内での配布資料を参照し、自学により内容を確認し、必要な課題に取り組むようにしてください。なお、資格・免許取得に必要な科目は、単位修得に必要な授業時間数が定められている場合がありますので、注意してください。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
ミニッツペーパーの内容による	70 %	： 各回のテーマについて、理論的に考察し、自身の考えを整理し、表現できているかを評価する。
レポート	30 %	： 課題に関し、自身の考えを整理し、説得的に丁寧に文章化できているかを評価する。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

吉永一行・編『法学部入門〔第2版〕：はじめて法律を学ぶ人のための道案内』2017年、法律文化社、ISBN：978-4589038739

履修上の注意・備考・メッセージ

本講では、毎回、講義内容を前提とした課題を出します。
課題の回答は、結論とその理由の記載を求めるものが多く、結論よりもむしろ、なぜその結論になったのかという理由を書くことができるかを重視します。
結論に至った理由を整理し、整理した内容を文章にすることの訓練だと考えてください。
講義のテーマは、社会的に問題となったものが多いので、講義を通して社会問題へのアンテナを増やしてもらえればと思います。
なお、定期テストに代えて、レポートの提出を求める予定です。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：　授業の後

場所：　グーグル・クラスルームによる

授業計画		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**社会と紛争と法（1）（社会とは何か）** 社会とは何かについて説明します。	「社会」の定義を検討。	4時間
第2回	**社会と紛争と法（2）（社会における法とは）** 社会における「法」とは何かを検討します。	日本社会がなぜ安全だと言われるのかを検討。	4時間
第3回	**オウム・通り魔事件** 日本社会の安全神話をゆるがした事件の社会への具体的な影響を説明します。	日本社会がなぜ安全だと言われるのかを検討	4時間
第4回	**死刑判決と永山基準** 永山事件を通じて死刑判決の基準を考えます。	最近の死刑判決を調べる	4時間
第5回	**少年法改正** 少年による具体的事件を通じて、少年法改正に至る経緯を説明します。	少年法改正の議論について調べる	4時間
第6回	**冤罪事件** 具体的な冤罪事件を通じて、冤罪事件を生む構造を説明します。	冤罪事件に関する最近の動向を調べる	4時間
第7回	**痴漢冤罪事件判決** 実際の痴漢冤罪事件判決を踏まえて、痴漢冤罪事件特有の問題を検討します。	刑事事件における証拠収集について調べる	4時間
第8回	**〈男と女〉をめぐる近年の日本社会の動向** 男女平等をめぐる日本社会の動向を説明します。	日常生活における男女の差を検討する	4時間
第9回	**職場における男女平等** 職場における男女の立場を整理します。	社会における男女の差を検討する	4時間
第10回	**新しい家族観と伝統的な結婚観のゆらぎ** 夫婦別姓問題を通じて家族観、結婚観の移り変わりを説明します。	家族の在り方について調べる	4時間
第11回	**同性婚** 同性婚をめぐる国際情勢、国内の動向を整理します。	同性婚を扱った最近のニュースを調べる	4時間
第12回	**性同一性障害と戸籍上の性転換** 性同一性障害について検討する	性別とは何かを考える	4時間
第13回	**〈性と生〉をめぐる近年の動向（1）（バイオテクノロジーと自己決定）** バイオテクノロジー等と自己決定について説明します。また、代理母をめぐる倫理を説明します。	自己決定権とは何かを調べる	4時間
第14回	**〈性と生〉をめぐる近年の動向（2）（代理母出産の法的問題）** 代理出産によって生じた具体的な事件を通じ、代理母出産の法的問題を検討します。	代理出産によって生じるであろう問題を検討する	4時間

授業科目名	経営学入門（データサイエンス学部）				
担当教員名	菅文彦				
学年・コース等	1年	開講期間	前期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の概要					

授業概要

「マネジメント」とは何か,企業経営の全体像についての理解を行い,その上で,経営学とはどのような学問かについて考えます。次いで,経営学の基礎的な概念･知識として,企業･会社の種類や特徴･機能,企業と資本･労働の関わり,企業と製品・サービス市場の関わり,競争戦略,多角化,国際化,組織やリーダーシップなどの重要事項について,その基本を理解します。本講義の中で,現代において企業が果たしている役割と課題について考え,理解を深めます。講義の中では,具体的な企業の事例や最新の動向等を解説するとともに質問も行います。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. DP１.現代社会におけるマネジメントとビジネスの仕組みの理解	社会の様々な現象の中で、経営学に関わる現象を観察し、企業の役割や機能を理解する	社会を観察する際に、経営学の視点から物事を考えることができるようになる。
2. DP２.職務遂行に必要な専門知識・技能と問題解決に向けた応用	マネジメントや企業経営に関する基本的な知識・理論の理解	マネジメントや企業経営に関する基本的な事項や問題について、その主要なポイントや論点を理解し説明できる。
汎用的な力		
1. DP４.課題発見のための情報の収集・分析・活用		マネジメントや企業経営に関わる重要な問題を、自分なりの見方やアイディアで発見し、その解決案等を考えることができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)

・問答法・コメントを求める

・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)

・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)

・ディベート、討論

課題や取組に対する評価・振り返り

・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

授業へは原則としてすべて出席してください。何らかの事情で欠席する場合は、シラバスや授業内での配布資料を参照し、自学により内容を確認し、必要な課題に取り組むようにしてください。なお、資格・免許取得に必要な科目は、単位修得に必要な授業時間数が定められている場合がありますので、注意してください。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準	
振り返りレポート	50 %	:	独自のルーブリックで評価します。
講義内課題の取り組み	10 %	:	講義内で課した課題への取り組み状況を評価します。
最終レポート	40 %	:	講義全体の内容を適切に理解し、自身の言葉で表現できているか等、独自のルーブリックで評価します。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

藤田誠（2017）『経営学入門』中央経済社.ISBN：978-4-502-13391-6
榊原清則（2013）『経営学入門（上）』日本経済新聞出版社.ISBN：978-4-532-11282-0
榊原清則（2013）『経営学入門（下）』日本経済新聞出版社.ISBN：978-4-532-10854-0
加護野忠男,吉村典久（2021）『1からの経営学』碩学舎.ISBN：978-4-502-37521-7

その他は適宜紹介します。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められます。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：　火曜日1・2限（9：00～12：00）

場所：　授業教室の予定

備考・注意事項：　オフィスアワーに限らず、いつでも訪問可能です。

授業計画		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**経営学の全体像** 経営学とは何かについて、生活の中で身近な企業の例を交えながら経営学の全体像を理解します。	講義の内容や講義中の解説、参考資料(映像資料や配布資料を含む)で復習し、経営学とはどんな学問かに関する理解を深めます。	4時間
第2回	**企業と会社** 会社とは何か、その歴史、会社の種類、株式会社の特徴や重要点などについて学びます。	興味関心のある企業の歴史や概要について調べまとめる	4時間
第3回	**企業と金融資本・労働市場との関わり** 企業にとっての金融資本との関わり（借金や株式の上場など）、労働市場との関わり（採用・雇用・労働条件など）、それらの日本的な特徴点などについて学びます。	具体的に企業がどの様に資金・人材を調達しているのか調べること	4時間
第4回	**企業と製品・サービス市場との関わり** 経営戦略とは何か、事業レベルの戦略と全社レベルの戦略の違い、経営戦略の実行とは何かについて学びます。	具体的に企業がどの様な戦略をもって事業を行っているのか調べまとめること	4時間
第5回	**競争戦略のマネジメント（基本的な考え方）** 競争戦略とは何か、他社との違いの意義、自社にとって有利な違いをどうやって作るかなどの事項を学びます。	歴史ある企業はどの様にして生き残ってきたのか、調べてくること。	4時間
第6回	**競争戦略のマネジメント（3つの基本戦略）** 競争戦略の代表的な3つである、コストリーダーシップ戦略、差別化戦略、集中戦略のそれぞれについての特徴や重要点を学びます。	ヒット商品がなぜ生まれるのか、そのメカニズムについて考察してくること。	4時間
第7回	**多角化戦略のマネジメント** 多角化とは何か、M&A（合併・買収）と戦略的提携の基本事項や重要点について学びます。	合併・買収に関するニュースを読み、企業がなぜ合併・買収するのかについて考えてくること。	4時間
第8回	**国際化のマネジメント** 企業活動の国際化とは何か、なぜ国際化するのか、国際経営の重要点・課題などについて、典型的な国際企業の事例も挙げつつ学びます。	国際化・グローバル展開している企業を調べ、その概要をまとめてくること。	4時間
第9回	**マクロ組織のマネジメント** 組織の構造の考え方と種類、特別な種類の組織（タスクフォース、戦略的ビジネスユニット（SBU）、社内ベンチャーなど）についてその特徴と重要点を学びます。	自身が所属する組織、これまで所属していた組織の特徴を振り返っておくこと。	4時間
第10回	**ミクロ組織のマネジメント** 組織のメンバーの欲求とインセンティブ（報酬）、リーダーシップやリーダーのあり方などについて学びます。	組織メンバーの動機づけを高めるために、リーダーは何をしなければならないのか。まとめてくること。	4時間
第11回	**キャリアデザイン** キャリアデザインとは何か、採用・就職・転職などについて重要点を学びます。	自身のキャリアデザインについて、予めイメージしてくること。	4時間
第12回	**ファミリービジネスのマネジメント** ファミリービジネスとは何か、その概況、特徴、長所や課題などについて学びます。	ファミリービジネス、同族経営をキーワードにその概要をまとめてくること。	4時間
第13回	**非営利組織のマネジメント** 企業とは異なる「非営利組織」とは何か、病院などを事例としてその組織の特徴や重要点などを学びます。	”非営利”組織についてまとめて理解してくること。	4時間
第14回	**本講義のまとめ（マネジメントに関する重要事項の復習）**	これまでの講義の振返りを行っておくこと。	4時間

本講義で取り上げた重要項目について、各講義を振り返りながら、特に重要な点を再度解説し学びます。		

221

授業科目名	経営学入門（データサイエンス学部）				
担当教員名	児山俊行				
学年・コース等	1年	開講期間	前期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の概要					

授業概要

まず「経営学」とは何かについて基本的な理解をする。その上で、現代の企業経営の様々な活動の特徴とその裏にある仕組みについての基礎知識を習得していく。その際、現代的事例を取り扱うが、あくまで今まで発展してきた経営学の流れに沿って行う（経営理念、経営組織、経営戦略、マーケティング、生産、労働、日本的経営、ベンチャー・中小企業、イノベーション、サステナビリティ経営、ソーシャルビジネス等）。現代における企業や社会が直面する諸課題をマネジメント的に解決していく可能性について理解を深める。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. DP１.現代社会におけるマネジメントとビジネスの仕組みの理解	企業経営の具体的事例を通じての様々な動態の理解。 目標：　経営事象を考察する際に必要な基本的素養の習得。	経営事象を考察する際に必要な基本的素養の習得。
汎用的な力		
1. DP４.課題発見のための情報の収集・分析・活用		組織活動で生じる様々な矛盾とその解決。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・問答法・コメントを求める

・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

・提出物にコメント・評価をつけて返却します

・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

授業へは原則としてすべて出席してください。何らかの事情で欠席する場合は、シラバスや授業内での配布資料を参照し、自学により内容を確認し、必要な課題に取り組むようにしてください。なお、資格・免許取得に必要な科目は、単位修得に必要な授業時間数が定められている場合がありますので、注意してください。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
授業態度	10 %	：　授業への集中度や質疑応答などの積極性で評価する。
授業レポート	60 %	：　授業内容の基本的把握の度合いにより評価する。 授業外で参考文献を読んでのレポートも評価に加算する。
試験（筆記）	30 %	：　授業内容全体の理解度やそれを踏まえた考察度合いで評価する。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

必要に応じて、その都度紹介する。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は２単位の科目であるため、平均すると毎回４時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 水曜日以外の昼休み

場所： 研究室（西館３階）

備考・注意事項： メールでの質問はこちらまで（用件がわかるように件名などに明記すること）。
koyama_t@g.osaka-seikei.ac.jp

授業計画		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**オリエンテーション―大阪成蹊大学で経営学を学ぶ意義について** 「大阪」「成蹊」「大学」「経営学」のそれぞれの意味を理解し、この大学で経営学/マネジメントを学ぶ意義について確認する。	日独米での「経営学」の始まりについて調べ整理する。	4時間
第2回	**経営哲学・経営理念** 何のための企業経営かを考える。	「経営」と「経済」の違いを調べ明確にできる。	4時間
第3回	**「矛盾」のマネジメント～価格と品質をめぐって** 企業・経営活動で起こってくる「矛盾」をいかにマネジメントしていくかについて、「価格と品質」間の矛盾克服を事例を通して学ぶ。	授業での事例以外の低価格・高品質の製品・サービスを調べて、その理由を探る。	4時間
第4回	**企業競争に勝つために～「差別化」** 企業競争で自社の製品・サービスを選んでもらうために必要な「差別化」について学ぶ。	様々な業界での有名企業が競争に勝つためにとっている「差別化」について調べる。	4時間
第5回	**起業家精神とイノベーション** 「起業家精神」について事例を通して学ぶ。	有名企業の創業について調べ、その発展の要因を考える。	4時間
第6回	**環境変化への適応** 環境変化に対する企業の適応活動について事例を通じて学ぶ。	有名企業の事業変化の歴史を調べ、環境適応の内容について考える。	4時間
第7回	**環境適応から経営戦略へ** 開発商品がスムーズに売れて顧客を満足させる仕組みづくりを事例を通じて学ぶ。	有名企業の経営戦略ついて調べ、それを採る理由を考える。	4時間
第8回	**マーケティング①～商品開発** 「マーケティング」の基本を理解し、中核の活動である商品開発を通じてそのプロセスを学ぶ。	有名企業の「商品開発」のプロセスについて調べ、その基本的特徴を考える。	4時間
第9回	**マーケティング②～顧客満足** 「マーケティング」の商品開発の基本プロセスを理解した上で、最終目的である顧客満足を実現するためのポイントについて学ぶ。	「リピーター」の多い製品やサービスを調べ、顧客満足をいかに実現しているかを考える。	4時間
第10回	**イノベーション①～メイド・イン・ジャパンの発展と課題** 家電を中心とするメイド・イン・ジャパンの発展と近年の苦境からイノベーションのあり方を考える。	グローバル市場で支持される家電企業とその代表的製品の特徴を調べて、日本企業の今後のあり方について考える。	4時間
第11回	**イノベーション②～アップルの登場と発展** アップルと創業者のスティーブ・ジョブズを通じて、イノベーションのあり方について再考し、日本企業の今後について考えていく。	アップル社の製品の歴史について調べ、そのイノベーションの特徴を考える。	4時間
第12回	**企業の社会的責任（CSR）** 企業の果たすべき社会的責任について企業不祥事の事例を通じて学ぶ。	最近の企業不祥事の事例を調べ、その原因を整理してみる。	4時間
第13回	**ソーシャルビジネスと社会起業家** 行政と一般企業の狭間に置き去りにされている社会課題をビジネス的手法でもって解決しようとする「ソーシャルビジネス」とそれを起こす社会起業家について学ぶ。	有名な社会起業家とその事業について調べ、課題解決の有効性について考える。	4時間
第14回	**新しい金融の仕組み～クラウドファンディング** 様々な企業や個人のプロジェクトに対する共感から支援をネット上で募るクラウドファンディングの基本的特徴を学び、様々な実例を通じてその効果に考える。	様々なクラウドファンディングについて調べ、主な成功事例を挙げて、その理由を考える。	4時間

221

授業科目名	経営学入門（データサイエンス学部）				
担当教員名	古川拓也				
学年・コース等	1年	開講期間	前期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の概要					

授業概要

「マネジメント」とは何か,企業経営の全体像についての理解を行い,その上で,経営学とはどのような学問かについて考えます。次いで,経営学の基礎的な概念･知識として,企業･会社の種類や特徴･機能,企業と資本･労働の関わり,企業と製品・サービス市場の関わり,競争戦略,多角化,国際化,組織やリーダーシップなどの重要事項について,その基本を理解します。本講義の中で,現代において企業が果たしている役割と課題について考え,理解を深めます。講義の中では,具体的な企業の事例や最新の動向等を解説するとともに質問も行います。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. DP１.現代社会におけるマネジメントとビジネスの仕組みの理解	社会の様々な現象の中で、経営学に関わる現象を観察し、企業の役割や機能を理解する	社会を観察する際に、経営学の視点から物事を考えることができるようになる。
2. DP２.職務遂行に必要な専門知識・技能と問題解決に向けた応用	マネジメントや企業経営に関する基本的な知識・理論の理解	マネジメントや企業経営に関する基本的な事項や問題について、その主要なポイントや論点を理解し説明できる。
汎用的な力		
1. DP４.課題発見のための情報の収集・分析・活用		マネジメントや企業経営に関わる重要な問題を、自分なりの見方やアイディアで発見し、その解決案等を考えることができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)

・問答法・コメントを求める

・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)

・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)

・ディベート、討論

課題や取組に対する評価・振り返り

・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

授業へは原則としてすべて出席してください。何らかの事情で欠席する場合は、シラバスや授業内での配布資料を参照し、自学により内容を確認し、必要な課題に取り組むようにしてください。なお、資格・免許取得に必要な科目は、単位修得に必要な授業時間数が定められている場合がありますので、注意してください。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
振り返りレポート	50 %	： 独自のルーブリックで評価します。
講義内課題の取り組み	10 %	： 講義内で課した課題への取り組み状況を評価します。
最終レポート	40 %	： 講義全体の内容を適切に理解し、自身の言葉で表現できているか等、独自のルーブリックで評価します。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

藤田誠（2017）『経営学入門』中央経済社.ISBN：978-4-502-13391-6
榊原清則（2013）『経営学入門（上）』日本経済新聞出版社.ISBN：978-4-532-11282-0
榊原清則（2013）『経営学入門（下）』日本経済新聞出版社.ISBN：978-4-532-10854-0
加護野忠男,吉村典久（2021）『1からの経営学』碩学舎.ISBN：978-4-502-37521-7

その他は適宜紹介します。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められます。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：　火曜日1・2限（9：00～12：00）

場所：　授業教室の予定

備考・注意事項：　オフィスアワーに限らず、いつでも訪問可能です。

授業計画		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**経営学の全体像** 経営学とは何かについて、生活の中で身近な企業の例を交えながら経営学の全体像を理解します。	講義の内容や講義中の解説、参考資料(映像資料や配布資料を含む)で復習し、経営学とはどんな学問かに関する理解を深めます。	4時間
第2回	**企業と会社** 会社とは何か、その歴史、会社の種類、株式会社の特徴や重要点などについて学びます。	興味関心のある企業の歴史や概要について調べまとめる	4時間
第3回	**企業と金融資本・労働市場との関わり** 企業にとっての金融資本との関わり（借金や株式の上場など）、労働市場との関わり（採用・雇用・労働条件など）、それらの日本的な特徴点などについて学びます。	具体的に企業がどの様に資金・人材を調達しているのか調べること	4時間
第4回	**企業と製品・サービス市場との関わり** 経営戦略とは何か、事業レベルの戦略と全社レベルの戦略の違い、経営戦略の実行とは何かについて学びます。	具体的に企業がどの様な戦略をもって事業を行っているのか調べまとめること	4時間
第5回	**競争戦略のマネジメント（基本的な考え方）** 競争戦略とは何か、他社との違いの意義、自社にとって有利な違いをどうやって作るかなどの事項を学びます。	歴史ある企業はどの様にして生き残ってきたのか、調べてくること。	4時間
第6回	**競争戦略のマネジメント（3つの基本戦略）** 競争戦略の代表的な3つである、コストリーダーシップ戦略、差別化戦略、集中戦略のそれぞれについての特徴や重要点を学びます。	ヒット商品がなぜ生まれるのか、そのメカニズムについて考察してくること。	4時間
第7回	**多角化戦略のマネジメント** 多角化とは何か、M&A（合併・買収）と戦略的提携の基本事項や重要点について学びます。	合併・買収に関するニュースを読み、企業がなぜ合併・買収するのかについて考えてくること。	4時間
第8回	**国際化のマネジメント** 企業活動の国際化とは何か、なぜ国際化するのか、国際経営の重要点・課題などについて、典型的な国際企業の事例も挙げつつ学びます。	国際化・グローバル展開している企業を調べ、その概要をまとめてくること。	4時間
第9回	**マクロ組織のマネジメント** 組織の構造の考え方と種類、特別な種類の組織（タスクフォース、戦略的ビジネスユニット（SBU）、社内ベンチャーなど）についてその特徴と重要点を学びます。	自身が所属する組織、これまで所属していた組織の特徴を振り返っておくこと。	4時間
第10回	**ミクロ組織のマネジメント** 組織のメンバーの欲求とインセンティブ（報酬）、リーダーシップやリーダーのあり方などについて学びます。	組織メンバーの動機づけを高めるために、リーダーは何をしなければならないのか。まとめてくること。	4時間
第11回	**キャリアデザイン** キャリアデザインとは何か、採用・就職・転職などについて重要点を学びます。	自身のキャリアデザインについて、予めイメージしてくること。	4時間
第12回	**ファミリービジネスのマネジメント** ファミリービジネスとは何か、その概況、特徴、長所や課題などについて学びます。	ファミリービジネス、同族経営をキーワードにその概要をまとめてくること。	4時間
第13回	**非営利組織のマネジメント** 企業とは異なる「非営利組織」とは何か、病院などを事例としてその組織の特徴や重要点などを学びます。	”非営利”組織についてまとめて理解してくること。	4時間
第14回	**本講義のまとめ（マネジメントに関する重要事項の復習）**	これまでの講義の振返りを行っておくこと。	4時間

本講義で取り上げた重要項目について、各講義を振り返りながら、特に重要な点を再度解説し学びます。		

221

授業科目名	マーケティング入門（データサイエンス学部）				
担当教員名	李美花				
学年・コース等	1年	開講期間	後期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の概要					

授業概要

本講義では、マーケティングの基礎概念を中心に、企業の諸活動を取り上げながら紹介していく。製品(Product)、価格(Price)、流通(Place)、プロモーション(Promotion)の４つのPに沿って、実際にビジネス現場で活用されている最近のトピックスを用いて講義を進める。
なお、学術的理論や専門用語、概念は覚えているだけでは意味がない。使いこなしてこそ知的意義をもつ。授業外時間に設定した予習と復習課題に取り組むことで高い学習効果が期待できる。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. DP１.現代社会におけるマネジメントとビジネスの仕組みの理解	マーケティング概念や知識を学習する	４Psの応用能力を身に付ける
2. DP２.職務遂行に必要な専門知識・技能と問題解決に向けた応用	身の回りの事例を通じてマーケティング思考能力を身に付ける	マーケティング視点から論理的な思考力が養える
汎用的な力		
1. DP４.課題発見のための情報の収集・分析・活用		身近な物事の変化について論理的な理解ができる

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)

・問答法・コメントを求める

・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)

・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)

・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)

マーケティング活動に関わる基礎知識と具体的な企業事例も交えながら講義による解説の進行にあわせ、ケーススタディーについて、受講者への問いかけやレポート課題を組み合わせて進めていく。

課題や取組に対する評価・振り返り

・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

授業へは原則としてすべて出席してください。何らかの事情で欠席する場合は、シラバスや授業内での配布資料を参照し、自学により内容を確認し、必要な課題に取り組むようにしてください。なお、資格・免許取得に必要な科目は、単位修得に必要な授業時間数が定められている場合がありますので、注意してください。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
期末テスト	40 %	： 定期試験の期末筆記テスト（授業内容をきちんと理解できているかの程度を評価）
期末課題レポート	20 %	： 最後の期末レポート（自分の意見を論理的に述べているのか、簡潔に文章をまとめているのか、独自性があるのかより評価）
平常点	40 %	： 平常点（授業時の発言や発表・発言・グーグルクラスルームによる質問など積極的な授業参加を高く評価する

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

【参考書】講義中に適宜紹介する 。
池尾 恭一（共著）『マーケティング』有斐閣、2010年。
ISBN-10 ： 4641053731
ISBN-13 ： 978-4641053731

履修上の注意・備考・メッセージ

★本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。「授業外学修課題」に取り組むことに加え、毎回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。
★必ず、毎回の授業の出席状況を各自確認すること
★授業のお知らせや課題などは、グーグルクラスルームを活用する。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 月曜日、4時限

場所： 研究室、西館2階

授業計画		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**ガイダンス、自己紹介：マーケティングとは何か** 人が、「なぜ買うのか」また「なぜ買わないのか」、商品やサービスを選んだり、買ったりするのかはマーケティングの一つの大きな命である。授業では、実践的なマーケティング戦略について学習する	授業のまとめ、マーケティング・コンセプトについて調べる	4時間
第2回	**マーケティングの基礎概念:マーケティングの変遷・価値提言** マーケティング・コンセプトの変遷をはじめ、欲求、需要マーケティング・コンセプトの変遷をはじめ、欲求、需要、市場、製品について学習する、市場、製品について学習する	授業のまとめ、MZ世帯について調べる	4時間
第3回	**マーケティング演習：顧客ニーズを把握する。** 世帯別の消費者の嗜好の違いとその特徴について学習する。とりわけ、MZ世帯に焦点を当てて学習する。	授業のまとめ、マーケターの仕事について調べる	4時間
第4回	**セグメンテーション・ターゲティング・ポジショニング（STP）の事例** セグメンテーション・ターゲティング・ポジショニング。セグメンテーションの意義＆目的、同質化からの脱皮して差別化を図るためのセグメントを対象にターゲットを設定した事例を学習する	授業のまとめ、マーケターの仕事について調べる	4時間
第5回	**＃Case study：マーケターの仕事** USJを3年で復活 させた日本を代表とするスゴ腕マーケター「森岡毅」の事例を通じて、マーケティングの重要性について学習する マーケターとは、マーケティング理論や調査に専門的な知識を持つマーケティング戦略立案者	授業のまとめ、ブランドマーケティングとは何かについて調べる	4時間
第6回	**ブランドマーケティング戦略：ブランド連想・ブランドエクイティ** 製品開発とブランド構築の違い。ブランドマーケティングの概念の理解及びブランドエクイティ・ブランド連想について学習する #事例：ブランド戦略 ブランド基本戦略、ブランド・エクイティ（Brand Equity）について学習し、事例を取り上げながらブランド連想説明する。	授業のまとめ、五感マーケティングとは何かについて調べる	4時間
第7回	**顧客の心をつかむマーケティング「五感マーケティング」** 郷愁を誘うノスタルジア（nostalgia）消費について理解を深め、身近な小売店の五感マーケティング事例を取りあげながら五感マーケティングの有効性について学習する	授業のまとめ、五感マーケティング事例をまとめる	4時間
第8回	**Case study：五感に訴える戦略の事例「魅せて売る」** ＃事例「五感戦略：夏の集客」 ＃事例「魅せて売る！五感を刺激する売り場革命」 ＃受講生による「ノスタルジア消費」を刺激する事例まとめ→別途ファイルをご参照 ★特別授業開催：実践マーケティング（予定）	授業のまとめ、ストリーテリングとは何かについて調べる	4時間
第9回	**ストリーテリング(story telling)** ストーリーを活用した「レオパレス21」のケースを通じて、人の心を動かせる有効な最新マーケティング手法である「ストーリーテリング」について学ぶ 具体的には、どんなストーリーを用いて消費者に伝達し、結果的にはどんな効果をもたらすのかについて学習する	授業のまとめ、ペルソナについて調べる	4時間
第10回	**マーケティング演習：ペルソナを作ってみる** ペルソナ（英: persona）とは、カール・グスタフ・ユングの概念。ペルソナという言葉は、元来、古典劇において役者が用いた仮面のことであるが、ユングは人間の外的側面をペルソナと呼んだ	授業のまとめ、マーケティングミックスについて調べる	4時間
第11回	**マーケティング・ミックス４Ps：＃Case study製品** 製品ライフサイクル理論、「売れる仕組み」を作る事例として「俺のフレンチ」の事例を取りあげ製品の特長について学習する	授業のまとめ、４Psのうち、価格とは何かについて調べる	4時間

第12回	**マーケティング・ミックス４Ps：＃Case study価格** 消費者満足に関する仮設「期待・パフォーマンス仮設」をはじめ、価格戦略について学習する	授業のまとめ、４Psのうち、流通とは何かについて調べる	4時間
第13回	**マーケティング・ミックス４Ps：＃Case study流通** プレイスの概念、流通チャネルを自ら統率する流通経路の「系列化」について学習する	授業のまとめ、４Psのうち、販促とは何かについて調べる	4時間
第14回	**マーケティング・ミックス４Ps：＃Case study販促** ４Ps最後の「ツメ」であるプロモーションについて学習する	これまでの授業内容を振り返りとまとめ	4時間

221

授業科目名	マーケティング入門（データサイエンス学部）				
担当教員名	田村匡				
学年・コース等	1年	開講期間	前期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	広告会社にて25年間、企業や地域等のマーケティングにかかわり、調査、企画、提案等の作業を行ってきた。（全１４回）				

授業概要

経営学の一分野であるマーケティングについて、その初歩的な内容について学習する。教科書をもとに、マーケティングの基礎知識(マーケティングとは、顧客志向、3C分析、4Pと4C等)ならびに戦略立案の手法(SWOT分析、STP、PEST分析等)を授業の前半で実例をあげながら学ぶ。後半は4P(Product, Price, Place, Promotion)について、ブランド論やインターネットによる変化等を踏まえて一つずつ詳しく学ぶ。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. DP１.現代社会におけるマネジメントとビジネスの仕組みの理解	マーケティングの基本的考え方「消費者志向」を学ぶ。	お客様の立場にたった考え方を身につける。
2. DP２.職務遂行に必要な専門知識・技能と問題解決に向けた応用	マーケティング調査や基本戦略、4Pについて学ぶ	商品・サービスの販売に欠かせないマーケティングの技術、戦略、手法・ツールを理解する。
汎用的な力		
1. DP４.課題発見のための情報の収集・分析・活用		マーケティングの手法を使って企業・団体等の問題点や経営課題を発見することができる

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)

・問答法・コメントを求める

・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)

・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

・提出物にコメント・評価をつけて返却します

・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

授業へは原則としてすべて出席してください。何らかの事情で欠席する場合は、シラバスや授業内での配布資料を参照し、自学により内容を確認し、必要な課題に取り組むようにしてください。なお、資格・免許取得に必要な科目は、単位修得に必要な授業時間数が定められている場合がありますので、注意してください。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
小テスト	40 %	： 授業の内容を理解しているか。また自分で考えて論理的に説明できているか。
中間試験	30 %	： 授業の内容を理解しているか。また自分で考えて論理的に説明できているか。
期末試験	30 %	： 授業の内容を理解しているか。また自分で考えて論理的に説明できているか。

使用教科書

指定する

著者	タイトル	出版社	出版年
阿久津聡	・ サクッとわかるビジネス教養 マーケティング	・ 新星出版社	・ 2023 年

参考文献等

その都度、参考資料等を配布する。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は２単位の科目であるため、平均すると毎回４時間の授業外学修が求められる。「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 水曜日2限

場所： 個人研究室

備考・注意事項： オフィスにこられる場合はメールにて調整・予約してください。tamura-t@g.osaka-seikei.ac.jp。

授業計画

		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**マーケティング・イントロダクション** マーケティング入門の授業全体の構成や注意事項等を説明。またマーケティングの経営学全体の中での位置づけや一番重要な概念である「顧客志向」やドラッカーの企業の目的等について学ぶ。	教科書を読んで予習し、ネットや新聞等にて関係事項をチェックする	4時間
第2回	**マーケティングの基礎** マーケティングの基礎的な知識について学ぶ。マーケティングの定義、市場とは、マーケティング・コンセプトなど。	教科書を読んで予習し、ネットや新聞等にて関係事項をチェックする	4時間
第3回	**3C分析、4Pと4C** 市場の登場人物である、3Cの分析方法や、マーケティングのツールである4P、それを顧客側から見た4Cとその関係性等を学ぶ。	ネットや新聞・参考書等にて関係事項をチェックする	4時間
第4回	**SWOT分析について** マーケティング分析の重要手法「SWOT」について学習する。また、教員の指導に基づき、与えられた課題についてのSWOT分析を行う。まずは課題について全員で考え、次に個人個人で自分で深く考え分析し結果を提出する。	ネットや新聞・参考書等にて関係事項をチェックする	4時間
第5回	**STP** マーケティングの重要な手法であるSTPについて学習する。現実の企業やブランド等の実例を踏まえてSegmentationとTargetingについて学び、次に競合企業・ブランドとのPositioningについて学ぶ。さらに顧客満足度等について学ぶ	ネットや新聞・参考書等にて関係事項をチェックする	4時間
第6回	**市場シェア別事業戦略** 市場規模別に、リーダー、チャレンジャー、ニッチャー、フォロワー等の戦略を学ぶ。あわせて各規模別の事業目標の置き方、選択と集中の重要性等を実際の企業やブランドを実例として説明し、理解する。	ネットや新聞・参考書等にて関係事項をチェックする	4時間
第7回	**マーケティングの基礎を振り返る（中間まとめ）** これまでの授業について復習し、さらに追加した事項までを振り返り、マーケティングの基礎知識と基本的な分析、戦略等について中間時点でまとめ、学生の理解を深める。	これまでの授業内容について教科書等を振り返り、復習を行う	4時間
第8回	**AIDMAの法則、4Pについて** 購買行動の決定プロセスであるAIDMAの法則等と、マーケティングの具体的な手法である4Pについての概要、4Cとの対応関係等を学ぶ。これまでの基礎知識や戦略との関係についても理解する。	ネットや新聞・参考書等にて関係事項をチェックする	4時間
第9回	**Promotionについて** Promotionの重要な手法の「広告」「広報」について、そのメディアとなる新聞、雑誌、テレビ、ラジオ、OOHについて、歴史やビジネスモデル等について実例を元に学習する。また広報・パブリシティについても学習する。	ネットや新聞・参考書等にて関係事項をチェックする	4時間
第10回	**Productについて** Productについての基本的な事項(製品と商品、製品の分類、製品ライフサイクル等)やブランドについて学ぶ。ブランドの2つの側面について学習し、具体例をもって深く理解する。	ネットや新聞・参考書等にて関係事項をチェックする	4時間
第11回	**Priceについて** 価格のつけ方や新製品の価格戦略、割引等の価格対応、価格決定権者の主導権争い等についてこれまでの実例等をもとに説明、さらに自分たちで実例を思い出して論理的に記述し、理解する。	ネットや新聞・参考書等にて関係事項をチェックする	4時間
第12回	**Placeについて** 製品がメーカー等から消費者の手にはいるまでの流通チャネルについての概要を学ぶ。卸売業者が存在する理由、商品別の流通戦略、フランチャイズチェーン等について理解する。	ネットや新聞・参考書等にて関係事項をチェックする	4時間

第13回	**デジタル・マーケティング** 近年、著しく発達したデジタル・マーケティングについて、実例をもとに学ぶ。Promotionを中心としながらも4Pと顧客分析等が融合し、複雑化したマーケティングの状況を理解する。	ネットや新聞・参考書等にて関係事項をチェックする	4時間
第14回	**総まとめ** これまでのマーケティングの授業を振り返る。マーケティングの基礎的な用語や分析手法、経営戦略等から、4P、デジタル・マーケティングまで一連の流れを理解する。	ネットや新聞・参考書等にて関係事項をチェックする	4時間

111

授業科目名	生命と科学				
担当教員名	伴みずほ				
学年・コース等	1～4年	開講期間	前期／後期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の概要					

授業概要

DNAが発見されてきてから半世紀がたち、生命科学はさまざまなことを明らかにしてきました。また、生命科学の応用技術は、社会から大きな期待が寄せられていますが、遺伝子による差別や遺伝子操作の危険性など、新たに生まれる問題も指摘されています。この授業では、教科書に沿って各テーマ毎に、生命科学が明らかにしてきたこと、まだわからないこと、そして応用技術など、生命科学が生み出す倫理の問題とも関連させながら学びます。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. 全学DP１.幅広い教養やスキル	幅広い教養・品格	生命科学の技術について必要な情報を、収集・整理し、テーマに合わせ簡潔に説明することができる。
汎用的な力		
1. 全学DP10.忠恕の心		生命倫理についてのさまざまな問題点から自分や家族に置き換え考えることができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・その他(以下に概要を記述)

各回のテーマに関連した課題に対して自身の考えを指定文字数でまとめ提出します（課題レポート）。

課題や取組に対する評価・振り返り

・その他(以下に概要を記述)

点数をつけて返却します（5点満点）。

成績評価

注意事項等

授業へは原則としてすべて出席してください。何らかの事情で欠席する場合は、シラバスや授業内での配布資料を参照し、自学により内容を確認し、必要な課題に取り組むようにしてください。なお、資格・免許取得に必要な科目は、単位修得に必要な授業時間数が定められている場合がありますので、注意してください。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
課題レポート	50 %	： 内容の妥当性と論理的構成について生命倫理に関する課題を理解し適切にまとめられているか、課題や問題点を自分に置き換え考えることができているか、指示された文字数を満たしているかの点から授業で学んだキーワード等の理解度を評価します。
期末試験（期末レポート）	50 %	： 生命がどのように維持されているか、しくみの理解度を評価します。

使用教科書

指定する

著者	タイトル	出版社	出版年
嶋田正和　他　監修	・改訂版　フォトサイエンス生物図録	・数研出版	・2023　年

参考文献等

【参考図書】
畑山智充、小田達編著、はじめて学ぶ生命科学の基礎、化学同人【 ISBN 9784759814545 】

履修上の注意・備考・メッセージ

・本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。
・課題レポートは教科書や参考資料を引用し、テーマに合わせた自分の考えを述べてください。

・生命科学が生み出す問題に関連する記事や、映画などを積極的に鑑賞しておくことで、色々な考え方を知る機会を増やすようにしてください。
・授業の順番や内容を変更する場合があります。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：　前期水曜5時間目後期月曜5時間目

場所：　研究室（西館２階）

備考・注意事項：　質問は授業の前後でも応じますが、メール（ban-m@osaka-seikei.ac.jp）でも対応します。
＜タイトルには必ず氏名、学籍番号、学部名、学科名、コース名、を記入＞

授業計画		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**生命の特徴** 生命を持つものと生命を持たないものが何によって区別されるかを学ぶ	生物と非生物の違いを箇条書きでまとめておく	4時間
第2回	**生命の単位** 生命の基本となる細胞の構造と働きについて学ぶ	ミトコンドリアの働きについて調べる	4時間
第3回	**ヒトをかたちづくる細胞** 細胞の種類と、各種の細胞にはどのような形態的・機能的特徴がるのかを学ぶ	運動時の信号の伝わり方について調べる	4時間
第4回	**生命を構成する成分** 食品を構成する成分とヒトを構成する細胞の成分との違いを学ぶ	食品を構成する成分に期待する体内での働きについて調べる	4時間
第5回	**生命を維持するはたらき①＜成分＞** 生命を維持するための材料について学ぶ	ミトコンドリアの中で利用される材料について調べる	4時間
第6回	**生命を維持するはたらき②＜代謝＞** 生命を維持するために細胞の中で行われている合成と分解について学ぶ	ミトコンドリアの中で利用される材料について調べどのように異化されるのかを調べる	4時間
第7回	**生命を維持するはたらき③＜代謝異常＞** 合成と分解のバランスが崩れた場合に起こる病気について学ぶ	合成と分解のバランスが崩れた場合に起こりうる病気を１つ選び調べる	4時間
第8回	**生命の連続性①＜遺伝＞** 遺伝の決まりについて学ぶ	エンドウマメの遺伝例の復習を行う	4時間
第9回	**生命の連続性②＜特異性＞** DNAの構造と遺伝情報の記載のされ方について学ぶ	DNAの構造と遺伝情報の記載のされ方について復習する	4時間
第10回	**生命の連続性③＜変異＞** 遺伝情報のながれについて理解し、遺伝子の異常により引き起こされる（遺伝性）疾患について学ぶ また変異が起こりにくいと推奨されている食べ方を学ぶ	遺伝情報のながれ、特に遺伝子からタンパク質の生成までの過程を調べる。健康的な食べ方として推奨されている方法をネット検索しておく	4時間
第11回	**生命の連続性④＜生殖＞** 着床前診断の方法や目的を復習し、現状ならびに今後の法的・倫理的問題点について考える	着床前診断の方法についてインターネットで検索し最新の方法を調べる	4時間
第12回	**生命の連続性⑤＜移植＞** 細胞工学、遺伝子工学、ES細胞およびiPS細胞の用語と意味を理解し、これらを用いて現在どのようなことが行われているのかを理解する	iPS細胞に関する最近のニュースのネット検索をしておく	4時間
第13回	**生命を守るはたらき①＜恒常性＞** 体内の内部環境を一定に保つ仕組みにどのようなしくみがあるか学ぶ	運動時における体温上昇の抑えられ方を調べる	4時間
第14回	**生命を守るはたらき②＜免疫反応＞** 疫病（病気)を免れるしくみを免疫という。 風邪（異物侵入）を例に私たちのからだの防御システムについて学ぶ。 また、からだの防御システムが過剰に働くことでおこる食物アレルギーについて学ぶ	小学校の給食現場で起こりうる食物アレルギー関連事故についてネット検索しておく	4時間

111

授業科目名	**地球環境問題**				
担当教員名	山本元				
学年・コース等	1～4年	開講期間	前期／後期	単位数	2
授業形態	オンデマンド講義				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	山本　元（Yamamoto Hajime）：2012年よりNPO法人気候ネットワークにて、気候変動・エネルギー政策の調査研究・政策提言、環境訴訟の支援等に従事。				

授業概要

地球環境問題は、社会・経済システムと深く関わっており、多くの人々に影響を及ぼす重要な課題である。本講義では、人類が環境問題と向き合ってきた歴史的経緯を出発点とし、持続可能な社会の実現に向けた課題や取り組みについて学ぶ。特に、公害被害や気候変動問題を中心に、幅広い環境問題を扱う。
本講義では、知識の習得にとどまらず、受講生自身が環境問題に関心を持ち、解決策を考える力や、批判的思考を身につけることを目指す。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. 全学DP１.幅広い教養やスキル	地球環境問題、とりわけ気候変動問題と社会の関わりについて理解を深める。	社会問題、とりわけ地球環境問題に向き合う態度を身につける。
汎用的な力		
1. 全学DP10.忠恕の心		地球環境問題の被害を受けた人々の立場を理解することができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)

・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)

・その他(以下に概要を記述)

授業外学習として、地球環境問題に関連する新聞記事を選び、短いコメントを付して提出することなどが求められます。

課題や取組に対する評価・振り返り

・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

・その他(以下に概要を記述)

提出後の授業で、提出された課題や受講生からの質問に対して、フィードバックを行います。
必要に応じて、個別にコメントをすることもあります。

成績評価

注意事項等

授業へは原則としてすべて出席してください。何らかの事情で欠席する場合は、シラバスや授業内での配布資料を参照し、自学により内容を確認し、必要な課題に取り組むようにしてください。なお、資格・免許取得に必要な科目は、単位修得に必要な授業時間数が定められている場合がありますので、注意してください。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
学習レポート（講義レポート）	42　％	：　各講義への参加度を評価します。内容に対する意見や質問、授業外学習への取り組みを総合的に判断します。
期末レポート	58　％	：　出題された問いを的確に理解し、授業で取り上げた情報を踏まえた上で、論理的に本質的な回答をしたかどうかを評価します。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

日本環境教育学会ほか編『事典　持続可能な社会と教育』教育出版社、2019年。ISBN：9784316804842
小西雅子『地球温暖化は解決できるのか　パリ協定から未来へ！』岩波ジュニア新書、2016年。ISBN：9784005008377
江守正多『異常気象と人類の選択』角川SSC新書、2013年。ISBN：9784047316225
政野淳子『四大公害』中公新書、2013年。ISBN：9784121022370
クライメート・リアリティ・プロジェクト・ジャパン 編『気候変動を学ぼう - 変化の担い手になるために - 』合同出版、2023年。ISBN：　9784772615419

※その他、関連する文献を授業内で適宜紹介します。

履修上の注意・備考・メッセージ

●講義の受講環境は、各自で整えてください
講義動画が視聴できないなどの機器トラブルについては、対応できません。
トラブルが発生した場合は、大学の事務室へ問い合わせてください。

●単位取得に関する相談について
まれに「特別な課題を…」と申し出る方がいらっしゃいますが、対応には時間を要し、
講義の進行や他の学生への対応に支障をきたす可能性があるため、受け付けません。

●授業外学習に取り組むこと
授業の内容を復習し、次回の授業に向けて予習をするようにしてください。
本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学習が求められます。

●レポート等の課題提出について
・生成系AIツール（ChatGPT、Gemini等）を使用した講義コメント、レポート成果物は評価の対象となりません。
・大学水準の講義であるため、学習レポートや筆記試験においては、大学水準の内容が求められます。
よくあるものとして、学んだ知識の概要を論述したうえで、「環境問題は大変だと思った」、「一人ひとりが環境意識を持つことが大切だと思った」などと締め括るものがありますが、それでは不十分です。環境問題の何が、どのように、なぜ深刻なのか…あるいは、環境意識とは具体的にどのような意識のことなのか？なぜそれが大切なのか？一人ひとりが意識すれば解決する問題なのか？など、問いを重ねて、学びを深めていくことが重要です。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：　特に指定なし

場所：　Google Classroom

備考・注意事項：　学習レポートの中で質問してください。
連絡はメールで行ってください。その際、用件を的確に文章で伝えるようにしてください。
たとえば、欠席届の画像だけを突然送りつけ、対応を求めるといった行為は、社会的礼節に欠けるため控えてください。

メールアドレス：yamamoto-haj@g.osaka-seikei.ac.jp

授業計画

		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**授業ガイダンス・環境問題とは？** 環境問題の定義とはなにか？歴史的経緯を確認し、持続可能な社会への歩みについて学ぶ。 ＜キーワード：地球環境問題、公害、サステナビリティ＞	地球環境問題に関する新聞記事を1つ選び、自分なりにコメントできるようにすること。講義内容を復習すること。	4時間
第2回	**公害問題から地球環境問題へ** 四大公害を中心に学び直し、公害問題への理解を深める。 ＜キーワード：公害、水俣病、公害裁判、水俣条約＞	地球環境問題に関する新聞記事を1つ選び、自分なりにコメントできるようにすること。講義内容を復習すること。	4時間
第3回	**気候変動/地球温暖化問題の今** 気候変動の科学的知見について学び、現状を紹介する。 ＜キーワード：気候変動問題、IPCC＞	地球環境問題に関する新聞記事を1つ選び、自分なりにコメントできるようにすること。講義内容を復習すること。	4時間
第4回	**地球環境問題×国際条約** 気候変動枠組条約をはじめ、国際環境問題に関する条約について理解をする。 ＜キーワード：気候変動枠組条約、京都議定書、パリ協定＞	地球環境問題に関する新聞記事を1つ選び、自分なりにコメントできるようにすること。講義内容を復習すること。	4時間
第5回	**地球環境問題×エネルギー政策の問題** 環境問題とエネルギー政策の関わりについて紹介する。 ＜キーワード：エネルギー基本計画、化石燃料、原子力＞	地球環境問題に関する新聞記事を1つ選び、自分なりにコメントできるようにすること。講義内容を復習すること。	4時間
第6回	**地球環境問題×エネルギー政策の展望** 環境問題とエネルギー政策について、今後の望ましあり方を検討する。 ＜キーワード：エネルギー基本計画、再生可能エネルギー、GX（グリーントランスフォーメーション）＞	地球環境問題に関する新聞記事を1つ選び、自分なりにコメントできるようにすること。講義内容を復習すること。	4時間
第7回	**地球環境問題×地域での対策** 主に地域レベルでの地球温暖化対策について紹介し、現状と課題について論じる。 ＜キーワード：地球温暖化対策事項計画、条例＞	地球環境問題に関する新聞記事を1つ選び、自分なりにコメントできるようにすること。講義内容を復習すること。	4時間
第8回	**地球環境問題×交通政策** 地球温暖化対策として、交通分野における対策、まちづくりのあり方について論じる。 ＜キーワード：都市再生、公共交通、交通権＞	地球環境問題に関する新聞記事を1つ選び、自分なりにコメントできるようにすること。講義内容を復習すること。	4時間

第9回	**地球環境問題×SDGsと金融** 持続可能な開発目標（SDGs）の意義と課題について論じる。また、ESGなど新たな潮流についても紹介する。 ＜キーワード：SDGs、ESG投資、ダイベストメント、RE100＞	地球環境問題に関する新聞記事を1つ選び、自分なりにコメントできるようにすること。講義内容を復習すること。	4時間
第10回	**地球環境問題×住民参加** 環境問題と住民との関わりについて、環境アセスメント制度を中心に論じる。 ＜キーワード：環境基準、環境アセスメント、オーフス条約、環境訴訟＞	地球環境問題に関する新聞記事を1つ選び、自分なりにコメントできるようにすること。講義内容を復習すること。	4時間
第11回	**地球環境問題×気候正義** 気候変動問題における重要な概念である気候正義について論じる。 ＜キーワード：未来のための金曜日、グレタ・トゥーンベリ＞	地球環境問題に関する新聞記事を1つ選び、自分なりにコメントできるようにすること。講義内容を復習すること。	4時間
第12回	**地球環境問題×消費・生活** 環境問題と日常の消費、ライフスタイルについて論じる。 ＜キーワード：フードマイレージ、グリーンコンシューマー、エシカル消費＞	地球環境問題に関する新聞記事を1つ選び、自分なりにコメントできるようにすること。講義内容を復習すること。	4時間
第13回	**地球環境問題×生物多様性** 環境問題と生物多様性について論じる。 ＜キーワード：名古屋議定書、ラムサール条約、生物多様性条約＞	地球環境問題に関する新聞記事を1つ選び、自分なりにコメントできるようにすること。講義内容を復習すること。	4時間
第14回	**地球環境問題×市民社会の取り組み** これまでの講義の振り返りとともに、市民社会の取り組みについて論じる。 ＜キーワード：パワーシフト、署名キャンペーン＞	地球環境問題に関する新聞記事を1つ選び、自分なりにコメントできるようにすること。講義内容を復習すること。	4時間

111

授業科目名	**暮らしの科学**				
担当教員名	澤田玲子				
学年・コース等	1～4年	開講期間	前期／後期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の概要					

授業概要

食事は生涯を通じて重要な活動のひとつであり、身体の健康だけでなく、精神の健康を維持することにも大いに関わります。日々の暮らしの中で、あなたは何を・どのように食べていますか。またそれはなぜでしょうか。この授業では、自分自身の食行動や食生活に意識して目を向けるとともに、生化学や心理学の知見に基づいて「食」にかかわる人体のしくみや機能、また「食」に対する私たちの心理や行動について、基礎的な知識を身につけます。授業で学習したり、考察したりした内容を通じて、自分にとって、あるいは誰かにとって、心身ともに健康でおいしく楽しい「食」とのつきあい方を見つけることを目指しましょう。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. 全学DP２.専門的知識・技能、職業理解	生化学・心理学の知見に基づいて、食に関わる人体の仕組みや機能、ヒトの心理や行動を学ぶ。	代謝をはじめとした基礎的な生化学の知識と食物の認識や食行動に関する実験心理学の知識を身につけ、自分の言葉でそれらを説明・描写することができる。
2. 全学DP３.専門的知識・技能を実践で応用する力	科学的な知識を心身ともに健康な食生活の実現するために活用する。	本授業で学習した生化学・心理学の知見に基づいて、自分あるいは誰かにとって心身ともに健康な食生活とは何か、またその実現をサポートする方法を具体的に提案することができる。
汎用的な力		
1. 全学DP４.課題発見		授業内容と自分自身の暮らしとの関連性を見出し、実際の食生活の中にある疑問や課題を見つけることができる。
2. 全学DP５.計画・立案力		生理学・心理学の知見に基づいて、生活の中にある問題の原因を考察したり、改善する方法を具体的に提案したりすることができる。
3. 全学DP８.意思疎通		出題された課題や質疑応答会での発表(引用)を通じて、自分の考えを他の受講生と伝え合い、考えや学習内容の理解をさらに広げたり深めたりすることができる。
4. 全学DP８.意思疎通		授業の中で学習した実験心理学研究を目的・方法・結果・考察の各項目に分けて文章で要約することを通じて、学習した内容を自分の理解に基づいて文章で他者に伝えることができる。
5. 全学DP６.行動・実践		オンライン授業の受講を通じて、自主的なスケジュールの管理・授業内容理解のための取り組みができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)

・実験、実技、実習

・問答法・コメントを求める

・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)

この授業はオンライン授業です。授業はGoogleClassroomを用いて行います(履修登録後に招待されます)。授業は、主として授業解説動画と授業内容の理解を補助するための資料から構成されます。また、各回授業内課題・授業外学修課題が出題されます。原則、水曜13時より授業配信を開始し、日曜12時(正午)に課題提出の受付ず締切られます。このほか、論述課題(授業期間内に実施)、理解度テスト(第14回授業後に実施)が出題されます。各自でスケジュールを管理し、余裕をもって授業を受講してください。
授業を欠席した場合(つまり課題受付期限内に授業参加できなかった場合)でも、GoogleClassroome内に掲示された過去の授業回を視聴し、学習に遅れが生じることのないように努めることを求めます。

課題や取組に対する評価・振り返り

・実技・実習後、全体に向けてコメントします

・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

課題の中の一部の設問(特に正解がひとつである問題)については、各自に正解数をフィードバックします。誤った問題は翌授業回までに復習し、間違えたままにしないようにしましょう。また、必要に応じて翌授業回以降でそれまでの課題の振り返りや解説を行います。

成績評価

注意事項等

授業へは原則としてすべて出席してください。何らかの事情で欠席する場合は、

シラバスや授業内での配布資料を参照し、自学により内容を確認し、必要な課題に取り組むようにしてください。なお、資格・免許取得に必要な科目は、単位修得に必要な授業時間数が定められている場合がありますので、注意してください。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
授業に対する取り組み	60 %	: 各回の授業への取り組み姿勢や授業内容の理解度、到達目標の達成度に基づいて、総合的に評価します。
論述課題	15 %	: 授業期間内に論述課題を出題します。授業内容の理解度・到達目標の達成度に基づいて評価します。
理解度テスト	25 %	: 終講時に出題します。授業内容の理解度・到達目標の達成度に基づいて評価します。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

必要に応じて補足資料をGoogleClassroomに掲示します。補足資料は授業内容を書き留めるためのノートとして使用できることを念頭において作成します(ノートとしての使用を強制するものではありません)。閲覧あるいはプリントアウトするなどして、本授業の学習のために活用してください。
本授業の引用・参考文献は授業の中で適宜紹介します。

履修上の注意・備考・メッセージ

すべての授業回の解説動画の視聴を必須とします。欠席した場合には、自主学習としてその回の授業を視聴してから次の授業に臨んでください。
解説動画の視聴にあたっては、筆記用具とノート(と補足資料)を準備して、必ず各自でノートをとってください。到達目標の中にもあるように、各回の授業内容を自分の言葉で授業内容を要約してください。こうして各自で作成した授業ノートは、論述課題や理解度テストで参照することができます。
本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められます。授業外学修では、出題された課題に取り組むことに加え、その回(まで)の授業内容をおさらいし、次回の授業に向けて準備してください。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間: 授業(配信)前後

場所: GoogleClassroom上の「掲示板」

備考・注意事項: 各回、GoogleClassroom上に設定した「掲示板」で質問やコメントを受け付けます。
解説動画や課題ページの動作確認とトラブル報告を授業配信翌日(木曜)9時までに各自必ず行ってください。

授業計画

		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**「食」と科学** これから本授業で学習する内容を概観しながら、授業に対する準備を整えましょう。「暮らしの科学」では、生化学・心理学の科学的知見に基づいて、私たちと「食」との関わりを身体的あるいは精神的側面から学習します。「食」と生化学、「食」と心理学との関連について具体的に思い描きましょう。	課題に取り組む・授業内容を振り返ることで、生化学あるいは心理学と暮らしの中の「食」について自分なりの考えを深める。	4時間
第2回	**暮らしの中の「食」** 暮らしの中で「食」がどのようなはたらきをしているのかについて概説しながら、私たちが「食」に何を求めるのか、また実際に「食」によって何を得ているのかについて理解を深めましょう。また、課題を通じて、自分自身が何を・どのように食べているのか、またそれはどうしてなのか、あなた自身の食生活の実態を振り返ったり、記録したりすることで、自分自身の食生活を意識して見つめましょう。	授業内容と自分の生活を結び付けて考えるための手始めに、自分自身の食の記録をつける。ケータイやスマフォ、デジカメで食事を撮影して記録することによって、自分の食事に意識して注意を向けよう。	4時間
第3回	**食物摂取に関わる人体の仕組みと人体(1)　代謝** 摂取された食物は体内でどのような過程を経るのでしょうか。ここでは、代謝に関する生化学の基礎的な知識を学習します。摂取した食物を分解したり、体内で必要な物質を合成したりする過程を、生化学用語を用いて説明・描写できるようになりましょう。また、第３回と第４回の授業を通じて、人体に必要な栄養素の構造と性質に関する基礎的な知識も学習します。	授業内容を振り返り、生化学の用語をおさらいし、「代謝」を生化学用語を用いて自分で説明できるようになる。必要に応じて、生物や化学の関連項目を自主学習する。	4時間
第4回	**食物摂取に関わる人体の仕組みと人体(2)　人体を構成する栄養素** 第3回に続き、人体に必要な栄養素の構造と性質についてさらに学習を進め、食事から得られる栄養素は私たちの身体の中でどのように活用されるのかを理解しましょう。ここまで学習した生化学用語を整理してまとめるとともに、食べる行為があなた自身の身体的な健康にどのようにかかわっているかを具体的に思い描きましょう。	授業内容を振り返り、生化学の用語をおさらいし、「代謝」を生化学用語を用いて自分で説明できるようになる。必要に応じて、生物や化学の関連項目を自主学習する。	4時間

第5回	**やせ・肥満と健康リスク** 肥満や過度なやせは健康リスクを考えるうえで大切な指標の一つです。授業では、「国民健康・栄養調査」の結果を概観しながら、日本における肥満ややせの現状についての理解を深め、自分や社会において、「食」や体重の管理に関連したどのような問題が生じているか、またその原因は何であるかを考えましょう。	授業内容を振り返り、課題に取り組みながら食生活と健康リスクについて授業内容をまとめる。また、次回授業で学習する食物知覚に関する課題に取り組み、食物の認識と視覚との関わりについて自分自身の考えをまとめる。	4時間
第6回	**「食」にまつわる感覚：視覚に着目して「食」を深堀する** 私たちはさまざまな感覚を用いて「食」を「感じ」ます。授業では、五感を中心に「食」に関わる感覚について基礎的な知識を学習します。また、授業では、特に視覚に注目して、私たちが視覚を通じて食物からどのような情報を読み取り、その食物の認識や評価に活用しているか学習します。今回の授業から実験心理学研究に基づいた学習が始まります。心理学用語をまとめるとともに、紹介された研究の内容を、目的・方法・結果・考察に着目して要約するということにチャレンジしていきましょう。	授業で紹介された心理学用語や手法、実証データをおさらいする。また、自分の理解に基づいて授業内容を要約してまとめる。	4時間
第7回	**研究手法を学習する(1)　視覚的注意を調べる心理学課題** 学術研究を身近に感じてもらうことを目的として、実際に学術論文を読んでもらい、実験心理学研究で用いられる実験手法を学習しましょう。学術論文は、普段読んでいる文章に比べると、とっつきにくい難しいものだと感じるかもしれませんが、授業の中で読み方に関するヒントを示します。これを参考にしながら論文を読み進め、出題された課題に取り組んでみましょう。また、授業に慣れてきたこの時期に、ここまでの授業内容のおさらいをして、わからなかったところを明確にしましょう。	文献を読むことを通じて心理学研究の世界観を感じながら、文献から研究の手続きを読み取り理解する。また、これまでの授業の振り返りをして、わからなかったところ・疑問に思ったところを書き出す。	4時間
第8回	**「食」に向けられる視覚的注意・質疑応答会** 第7回の授業で読んだ文献から学習した「視覚探索課題」を用いた研究例から、食に向けられる視覚的注意や食の認知に関する実験心理学研究の内容を理解しましょう。また、第7回の課題で寄せられた受講生の皆さんの疑問・質問に基づいて、授業内容を補足する「質疑応答会」を実施します。この質疑応答会を通じて、自分の疑問だけでなく、他の受講生の疑問や考えに触れながら、授業内容への理解をさらに深めましょう(受講生からの質問に応じて第9回以降の授業でも適宜、質疑応答会を実施します)。	授業で紹介された心理学用語や手法、実証データをおさらいする。また、授業内容を要約してまとめる。他の受講生の質問を通じて、自分とは異なる視点から授業内容を再度概観・復習する。	4時間
第9回	**生理状態と「食」** 「空腹は最高のスパイス」といいますが、本当でしょうか。空腹・満腹といった生理状態が私たちの「食」に対する心理や行動をどのように変えるのか、実験心理学研究に基づいて学習します。さらに、授業前半で学習した生化学の知識も用いて、生理状態が私たちの「食」に対する心理や行動に及ぼす影響やその要因についても考察してみましょう。	授業で紹介された心理学用語や手法、実証データをおさらいし、授業内容を要約してまとめる。	4時間
第10回	**研究手法を学習する(2) 食行動を計測する** 食行動には個人差があることが知られており、個々の食行動の特徴を調べる質問紙調査が開発されています。授業では、こうした質問紙調査のひとつを体験しながら、自分自身の食行動の特徴を理解することで、今後の食生活への向き合い方を考え直したり、食生活の改善に活かす方法を提案したりすることを目指します。第10回では、まず食行動調査の「参加者」になって実際に質問紙調査を体験しましょう。次に、今度は「調査者」の立場になって、結果を得点化して算出しましょう。	日々の生活を振り返り、自分の食行動について振り返る。授業で算出したスコアに誤りがないか計算確認をおこない、次回授業のための準備を整える。	4時間
第11回	**研究手法を学習する(3) データを解釈する** 第11回では、第10回で体験した調査の結果を解釈して、調査結果から導かれたあなたの食行動の特徴を読み取りましょう。また、このようにして読み取った食行動の特徴は実際の食生活やBMIとどのようにかかわっているでしょうか。こうした考察を通じて、あなた自身の食行動の特徴を活かした食生活の改善・体重管理の方法を具体的に考えましょう。	授業で紹介された心理学用語や手法をおさらいする。また、授業内容を要約してまとめる。	4時間
第12回	**「食」に対する向き合い方** 普段、テレビを見ながら、ゲームをしながら、スマフォを操作しながら、食事していませんか。そんな「ながら食べ」をすることによって、知らず知らずのうちにあなたの食行動は変化しているかもしれません。授業では、食事以外のことをしながら食べることが食行動や食に対する認知に及ぼす影響を、実験心理学研究の知見から学びます。日々の生活の中での食事への向き合い方を改めて振り返りながら、食事に対する集中・注意の効果を学習します。	授業で紹介された心理学用語や手法、実証データをおさらいする。また、授業内容を要約してまとめる。	4時間
第13回	**「食」と人、社会**	授業で紹介された心理学用語や手法、実証データをおさらいして授業内容を要約してまとめる。また終講に向けてここまでの授業内容全体をおさらいする。	4時間

	食事は、自分と食物だけの関係で成り立つものではなく、「他者」の存在がかかせません。一人で食べる食事と誰かと一緒に食べる食事では私たちの食行動・食への認知はどのように変わるのでしょうか。近年のコロナ禍では、感染症予防の一環で、一人での食事を余儀なくされたという場面を経験したひとも多くいたのではないでしょうか。授業では、実験心理学研究の知見を学習しながら、食事場面における他者の存在が私たちの食事にどのような影響を及ぼし得るのかを学習します。自分の経験と合わせて考えることで、食事場面における社会的要因についての考察を深めましょう。		
第14回	**おいしいってなんだ?を真剣に考える** これまで、代謝をはじめとした基礎的な生化学の知識や、ヒトの食に対する心理と行動にかんする心理学の知見を学びました。授業で学習した知識や取り組んできた課題、授業期間を通じて考察してきたことを振り返り、整理しましょう。自分にとって、あるいは誰かにとって「心身ともにおいしくたのしい健康な食生活」とは何か、また日常の食生活の中にある問題をどのように改善できるのか、またそれを実現するために学習したことをどのように活かしていけるかを考えましょう。授業内課題のほかに、終講にあたって授業内容の理解度を問うテストを実施します。	これまでの授業内容を振り返り、生化学・心理学の知見や用語をまとめる。理解度テストに取り組む。	4時間

111

授業科目名	**暮らしの科学**				
担当教員名	村井章彦				
学年・コース等	1～4年	開講期間	前期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	総合電機メーカーの技術研究員として、先端材料の研究開発に従事。（全１４回）				

授業概要

本授業では暮らしの中に存在している物質を題材にして科学的知識および思考方法について言及します。
具体的には物質を構成している原子、イオン、原子内構造の知識を解説します。また、モル、アボガドロ数、エネルギー、酸・塩基、酸化・還元、濃度計算についても取り上げます。
さらに日常生活で広範囲に利用されている化粧品に含まれる化学物質や工業製品（発光ダイオード（LED）、ICチップ）を題材として解説します。
暮らしを支えている科学技術の基本的な理解を促します。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. 全学DP１.幅広い教養やスキル	暮らしの中にある自然現象そのものや資源物質を活用した製品（工業製品）に関する知識や基礎的な考え方	自然現象や自然現象および資源を活用した工業製品の知識を習得すること。
汎用的な力		
1. 全学DP４.課題発見		自然現象および科学技術に対して暮らしの中で直面する疑問を見出すことができること。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)

・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

授業へは原則としてすべて出席してください。何らかの事情で欠席する場合は、シラバスや授業内での配布資料を参照し、自学により内容を確認し、必要な課題に取り組むようにしてください。なお、資格・免許取得に必要な科目は、単位修得に必要な授業時間数が定められている場合がありますので、注意してください。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
レポート	50 %	： 本授業で取り上げた内容に関するレポート課題を出す。基準の語数に達しているか、基本的な理解が出来ているか、適切な考察がなされているか。
小テスト	50 %	： 毎回の授業で取り上げた内容について注意深く聴いて基本的な理解ができているか。

使用教科書

指定する

著者	タイトル	出版社	出版年
村井 章彦	・ 世にも不思議なクリスタル	・ ギャラクシーブックス	・ 2018 年

参考文献等

※使用教科書「世にも不思議なクリスタル」はAmazonで取り扱いされていますので各自購入をするようにしてください。

・参考文献　著者：松岡雅忠、タイトル：改訂 2版　まるわかり！基礎化学、出版社：南山堂、出版年：2021年、ISBN：978-4-525-05422-9

履修上の注意・備考・メッセージ

暮らしの中の随所に科学があふれています。本授業が受講生の科学的知識あるいは科学的思考の一助になることを願っています。毎回の授業内容に対して丁寧に取り組み課題を期限を守って提出することが必要です。

月間科学雑誌（Newton）（株式会社ニュートンプレス）や中学校や高校で使用した教科書や参考資料を読み返してみることも役立ちます。

授業計画		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**オリエンテーション、発明や発見** 授業内容全体および成績評価について説明する。 また暮らしを支える発明や発見について具体例を示して分かりやすく解説する。	授業内容の振り返り学習、小テストの実施と提出	4時間
第２回	**元素の科学** 物質を構成している元素について分かりやすく解説する。	授業内容の振り返り学習、小テストの実施と提出	4時間
第３回	**原子構造の科学** 原子の内部構造について解説する。 さらに高校までは学習してこなかった素粒子についても分かりやすく説明する。	授業内容の振り返り学習、小テストの実施と提出	4時間
第４回	**化学結合** 物質の化学結合について分かりやすく解説する。 結合について電子の役割に注目する。	授業内容の振り返り学習、小テストの実施と提出	4時間
第5回	**原子量と物質量** 原子や分子の重さ、数量について具体例を示して分かりやすく解説する。	授業内容の振り返り学習、小テストの実施と提出	4時間
第６回	**化学反応、濃度** 化学反応と濃度計算について具体例を示して分かりやすく解説する。	授業内容の振り返り学習、小テストの実施と提出	4時間
第7回	**酸、塩基** 酸と塩基について具体例を示して分かりやすく解説する。	授業内容の振り返り学習、小テストの実施と提出	4時間
第8回	**酸化、還元** 酸化と還元について具体例を示して分かりやすく解説する。	授業内容の振り返り学習、小テストの実施と提出	4時間
第9回	**熱、エネルギー** 熱とエネルギーについて具体例を示して分かりやすく解説する。	授業内容の振り返り学習、小テストの実施と提出	4時間
第10回	**有機化合物** 有機化合物について具体例を示して分かりやすく解説する。	授業内容の振り返り学習、小テストの実施と提出	4時間
第11回	**化粧品の科学** 化粧品に含まれる物質について具体例を示して分かりやすく解説する。	授業内容の振り返り学習、小テストの実施と提出	4時間
第12回	**結晶** 結晶について具体例を示して分かりやすく解説する。	授業内容の振り返り学習、小テストの実施と提出	4時間
第13回	**LED（発光ダイオード）** LED（発光ダイオード）について具体例を示して分かりやすく解説する。	授業内容の振り返り学習、小テストの実施と提出	4時間
第14回	**IC（半導体集積回路）とその応用** IC（半導体集積回路）とその応用について具体例を示して分かりやすく解説する。	授業内容の振り返り学習、小テストの実施と提出	4時間

111

授業科目名	**暮らしの科学**				
担当教員名	張野宏也				
学年・コース等	1～4年	開講期間	前期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	前職である環境科学研究所において、水質検査などを実施し、市民対応の仕事を行いました。				

授業概要

本授業では、身近なところから世界的で生じている環境問題を知り、その内容を理解することで、自分の専門と周辺の環境との関わり合いについて見出だすとともに、現在の環境を将来も持続させていく方法をさまざまな側面から考察して、しっかりとした自分の考えを構築できるようになることを目指します。このような訓練を繰り返すことで、現在多くの環境に関する情報がマスメディアで報じられていますが、それらの情報を正確に捉え、自分はそれに対してどのような意見や行動を起こせばよいのかを判断する能力をつけます。さらに、周辺に生活している人々や次世代を担う人々に、自信をもって得た知識を伝えることができるようになる人材を育成することが目的です。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. 全学DP１.幅広い教養やスキル	現在の環境問題に対する正確な知識を習得すると同時に、現在生じている環境問題に対してどのように対応しているかを学ぶ	環境問題に関する情報を得た時、その内容を正しく理解して、それに対して自分はどうすれば良いのかを判断できる知識を養う。
汎用的な力		
1. 全学DP４.課題発見		環境問題の現状に対する知識に基づき、今後の暮らしの中で生じる環境問題を予測することができるようになり、それが重大な問題とならないよう事前に生活スタイルを改善することができるようになる。
2. 全学DP６.行動・実践		環境に関する基礎知識を習得することができるため、就職した際にもその知識を生かし、環境改善に関する行動を行うことができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)

・問答法・コメントを求める

課題や取組に対する評価・振り返り

・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

授業へは原則としてすべて出席してください。何らかの事情で欠席する場合は、シラバスや授業内での配布資料を参照し、自学により内容を確認し、必要な課題に取り組むようにしてください。なお、資格・免許取得に必要な科目は、単位修得に必要な授業時間数が定められている場合がありますので、注意してください。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
小テストまたはレポート	50 %	： 授業の内容を問う小テストまたはレポートを行い、その点数で評価する。
期末テスト	50 %	： 義内容が身についているか、さらにこちらの問いかけに対する環境問題に対して自分の意見をしっかりと述べているかを評価する。

使用教科書

指定する

著者	タイトル	出版社	出版年
川合真一郎、張野宏也、山本義和	・環境科学入門　地球と人類の未来のために　第2版	・化学同人	・　年

参考文献等

オンデマンド授業なので、動画を何度をみることができます。テキストにおいて古いデータが記載されている場合は動画に新しいデータを載せておきますので、かならず確認してください。

履修上の注意・備考・メッセージ

この授業はオンデマンド方式なので、かならずテキストを観ながら聴講し、内容を理解してください。その後、授業に関する小テストまたはレポートを行います。小テストまたはレポートに関しては提出期限あるので、厳守でお願いします。質問はGoogleないではなく、以下のアドレスに送ってください。
harino@mail.kobe-c.ac.jp
よろしくお願いいたします。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

備考・注意事項：　連絡が必要な場合は以下のアドレスにおくっていただくようお願いします。
harino@mail.kobe-c.ac.jp
他のアドレスに送っていただくと対応が遅くなるまたは気が付かない可能性があります。
返信がない場合は、再度”harino@mail.kobe-c.ac.jp”に送っていただくようお願いします。

授業計画

		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**環境科学とは** 環境科学とは何を取扱う学問なのか、どうして環境問題が生じてきたのかを概説します。また、4大公害（第一、第二水俣病、四日市ぜんそく、イタイイタイ病）に焦点を当てて紹介するとともに、現在もそれらの問題が完全に解決していないことを知るとともに、それに対する対処方法について考えます	授業前にテキスト第1章人間活動と環境とのかかわりを熟読する。	4時間
第2回	**の回りでおこっている生態系の異常について見てみ よう。** 環境を考えるとき、生態系は非常に重要な要素を占めます。現在、世界各国で起こっている問題や、身の回りで現実に起こっている生態系の異変（外来種問題、希少種の保護等）を中心として詳細に概説します。	授業前にテキスト第2章環境変化に伴う異変を熟読する。	4時間
第3回	**地球の温暖化について詳しく知ろう。** 地球温暖化はなぜ生じているのか、それによりどのような影響を地球全体におよぼしているかについて概説します。そして、今後世界中の人々がこれまでの生活をするとどれくらいの速度で地球の気温が上昇するか、それを少しでも遅くするにはどのようなことをすればよいかを考えます。	授業前にテキスト第4章大気汚染特に地球の温暖化の部分を熟読する。	4時間
第4回	**地球温暖化以外の大気汚染にはどのようなものがある** 地球温暖化以外にも酸性雨、オゾン層破壊、光化学スモッグなどの地球規模での汚染やアスベスト問題等の局地的な規模の汚染などさまざまな大気汚染があることをその原因や影響について学びます。さらに、大気汚染から身を守るにはどのようなことに気をつければよいかを考えます。	授業前にテキスト第4章大気汚染特に地球の温暖化以外の部分を熟読する。	4時間
第5回	**池、川、海の汚れは改善されたのでしょうか？** 1970年の高度経済成長期はひじょうに池、川、海が汚れていたのですが、現在はかなり改善されました。なぜ、改善されたのかを池、川、海の汚れの原因のメカニズムから説明します。さらに、現在どのような問題がこれらの水域に残されているかについても考えます。	授業前にテキスト第5章水質汚染の部分を熟読する。	4時間
第6回	**農薬について考えてみましょう！** 農薬は農作物を作るのに必要不可欠のものです。過去から現在までどのような農薬が使用され、生物への影響を含めどのような環境汚染を引き起こしてきたのかを説明します。さらに現在はどのような農薬がどのようにして効率よく使用されているか説明するとともに、安全性についても考えます。	授業前にテキスト第7章化学物質による汚染の農薬の部分を熟読する。	4時間
第7回	**身の回りに使用されている化学物質について考えてみましょう！** さまざまな化学物質が身の回りの至るところに使用されています。これらが環境中に流出し、生物や人間生活に悪影響を及ぼしています。どのような影響を及ぼすのか、また、それを防ぐにはどのようにすればよいのかを考えます	授業前にテキスト第7章化学物質による汚染の農薬以外の部分を熟読する	4時間
第8回	**放射性物質による汚染とは？** 震災、つなみのみならず原発事故による放射性物質による汚染が東北地方の復興を遅らせています。放射性物質とはどのようなものなのかについて理解するとともに原発問題が生じ た経緯を説明します。さらに、原発事故が現在にも残す問題点について考えます。	授業前にテキスト第8章放射能を熟読する	4時間
第9回	**汚染物質の毒性および代謝について？** 化学物質の生態系への毒性の発現は物質により異なります。それらについて詳しく説明します。また、汚染物質が体内に入った時、どのような形になって排出されるのでしょうか。これは金属と有機物によって異なります。その排出のメカニズムについて化学的な観点から学びます。	授業前にテキスト第9章汚染物質の毒性と生体内での代謝を熟読する	4時間
第10回	**内分泌かく乱物質とはなにでしょうか？** 聞きなれない言葉かもしれませんが、内分泌かく乱物質と呼ばれる化学物質があります。内分泌かく乱物質とは環境汚染物質でありながら、生体内で生成するホルモンと同様の作用がある物質です。それらの物質は具体的にどのようなものであるか、また生態系に対してどのような影響を及ぼしているのかについて深く学びます。	授業前にテキスト第10章内分泌攪乱物質を熟読する	4時間

第11回	**アセスメント手法の重要性について** 環境関係でアセスメント手法は大きくわけて、環境アセスメントとリスクアセスメントがあります。環境アセスメントは土地を改変する際、それにより生態系に影響がないかを判断する評価方法で、リスクアセスメントとは、化学物質汚染の危険性を評価する手法です。これらの評価方法は具体的にどのような場合に使用されているのかについて概説します。	授業前にテキスト第11章アセスメント手法を熟読する	4時間
第12回	**水、食品は本当に安全なのでしょうか？** 安全な水や食品を得ることは人にとって重要なことです。世界的に安全な水や食品を供給している国はどの程度なのか、本当に日本は水の豊富な国なのかについて説明します。また、日本で供給されている水や食品は本当に安全なのか、それらの水を将来的にも供給することができるのかについて考えます。	授業前にテキスト第12章飲料水と食品に関する今後の課題を熟読する	4時間
第13回	**ごみと廃棄物はどうすれば良いのか？** ごみや廃棄物は増えるいっぽうです。現在年間でどの程度どのような廃棄物が排出されているのかについて説明します。さらにどうして分別収集をしているのか、また、これらはどのような方法で再利用されているのかを学びます。また、ごみの量を減らすにはどのような点に注意すれば良いのかを考えます。	授業前にテキスト第13章ごみと廃棄物を熟読する	4時間
第14回	**これからのエネルギー問題について考える。** 石油、石炭が枯渇するに変わり、新エネルギーが提案されています。どのようなエネルギーを使用しようとしているのか、その長所、短所について考え、最終的には現在のエネルギー事情を鑑み、原発は必要なのかについても考えます。また、将来も環境を維持していくために、これから我々はどうすれば良いのかについても考えます。	授業前にテキスト第14章エネルギー資源と環境問題を熟読する	4時間

111

授業科目名	**現代と科学**				
担当教員名	本田隆行				
学年・コース等	1～4年	開講期間	後期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	国内では稀有な「フリーランスの科学コミュニケーター」として、国内の研究機関、教育機関、科学館・博物館や行政、各種メディアなどの様々な相手と連携し、手法やジャンルを問わない幅広い科学コミュニケーション活動を実施しています。				

授業概要

私たちの日常生活や経済活動など、現代社会の様々な場面において科学・技術は不可欠なものとなっています。しかし多くの人々にとって科学や技術というものは専門的なものというイメージが広く持たれており、どうしても身近な話題としては扱いにくいと感じている人も少なくありません。
この講義では、そんな科学や技術と私たちの生活、社会とのつながりについて、いくつかの身近な話題を通じて感じてもらいたいと思っています。また、話を聞くだけではなく、各人に出来るだけ参加してもらいながら対話形式で講義を進める予定です。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. 全学DP１.幅広い教養やスキル	科学的なトピックスと社会とのつながり	知識基盤社会における現代科学の素養を身に着けることができる。
汎用的な力		
1. 全学DP４.課題発見		現代科学と社会との関わりに内在する課題を見出すことができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)

・問答法・コメントを求める

課題や取組に対する評価・振り返り

・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

授業へは原則としてすべて出席してください。何らかの事情で欠席する場合は、シラバスや授業内での配布資料を参照し、自学により内容を確認し、必要な課題に取り組むようにしてください。なお、資格・免許取得に必要な科目は、単位修得に必要な授業時間数が定められている場合がありますので、注意してください。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
課題レポート	50 %	： 課題に対してしっかりと自分なりの考えを持ち、的確で明瞭なレポートが書かれていること。
授業内で出す問いに関するコメント	10 %	： 自分の言葉で、自分の考えを述べられているか。積極的に講義へ参加しているか。
期末レポート	40 %	： 課題に対してしっかりと自分なりの考えを持ち、的確で明瞭なレポートが書かれていること。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

授業内で紹介する

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は２単位の科目であるため、平均すると毎回４時間の授業外学修が求められる。
本授業は現代科学の現状に触れるものであるので、新聞やテレビなどでの現代科学のトピックスを扱った記事やドキュメンタリー番組に関心を持ち学びを深めること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 初回授業時に連絡します。

場所： google classroom上にて

備考・注意事項： メールなどの、オンラインシステムを用いて、質問を受け付けたのち適宜回答します。

授業計画		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**暑い寒いは誰のせい？（前編）～温暖化って何？～** 地球温暖化問題を軸に、都市化の問題や環境と人間との関係などについて取り上げます。	授業内で取り上げるトピックに関連する書籍やウェブページ、ニュースなどを参考にすることで、授業内容の理解を深めます。	4時間
第2回	**暑い寒いは誰のせい？（後編）～温暖化の原因に迫る～** 地球温暖化問題を軸に、前回の講義よりも大きなスケールで問題を俯瞰します。	授業内で取り上げるトピックに関連する書籍やウェブページ、ニュースなどを参考にすることで、授業内容の理解を深めます。	4時間
第3回	**ねつ、はな、のどには何が効く？（前編）～それは風邪ですか？～** 感染症の代表例である風邪とインフルエンザの違いについて取り上げます。	授業内のレジュメや紹介する書籍・ホームページなどを参考にすることで、授業内容の理解を深めます。	4時間
第4回	**ねつ、はな、のどには何が効く？（後編）～感染症と、社会～** 感染症とその原因、対策と、人間社会との関わりについて取り上げます。	授業内で取り上げるトピックに関連する書籍やウェブページ、ニュースなどを参考にすることで、授業内容の理解を深めます。	4時間
第5回	**あなたは、どこ生まれ？（前編）** 生命史と生物の進化・淘汰、生命の起源について取り上げます。	授業内で取り上げるトピックに関連する書籍やウェブページ、ニュースなどを参考にすることで、授業内容の理解を深めます。	4時間
第6回	**あなたは、どこ生まれ？（後編）** 生命史と生物の進化・淘汰、生命の起源について、さらにスケールを拡大して取り上げます。	授業内で取り上げるトピックに関連する書籍やウェブページ、ニュースなどを参考にすることで、授業内容の理解を深めます。	4時間
第7回	**手のひらに収まる宝（前編）～デジタルって何？～** デジタルとアナログの違いや、生活のあらゆるところに密着するデジタル技術の話を取り上げます。	授業内で取り上げるトピックに関連する書籍やウェブページ、ニュースなどを参考にすることで、授業内容の理解を深めます。	4時間
第8回	**手のひらに収まる宝（後編）～デジタルでできること～** デジタルとアナログの違いや、生活のあらゆるところに密着するデジタル技術の今後について取り上げます。	授業内で取り上げるトピックに関連する書籍やウェブページ、ニュースなどを参考にすることで、授業内容の理解を深めます。	4時間
第9回	**炭の塊が、高級品？（前編）～その石はどんな石？～** 宝石や鉱物資源、地下資源とその成り立ちについて取り上げます。	授業内で取り上げるトピックに関連する書籍やウェブページ、ニュースなどを参考にすることで、授業内容の理解を深めます。	4時間
第10回	**炭の塊が、高級品？（後編）～生活を支える資源～** 宝石や鉱物資源、地下資源とその利用方法や今後の付き合い方について取り上げます。	授業内で取り上げるトピックに関連する書籍やウェブページ、ニュースなどを参考にすることで、授業内容の理解を深めます。	4時間
第11回	**スポーツ＋科学技術＝？** スポーツと科学の関わり、スポーツにおける科学の必要性について取り上げます。	授業内で取り上げるトピックに関連する書籍やウェブページ、ニュースなどを参考にすることで、授業内容の理解を深めます。	4時間
第12回	**危ない！は本当か？（前編）～テクノロジーとどう付き合う？～** 社会実装される技術とそのリスクや安全性について取り上げます。	授業内で取り上げるトピックに関連する書籍やウェブページ、ニュースなどを参考にすることで、授業内容の理解を深めます。	4時間
第13回	**危ない！は本当か？（後編）～安全と安心～** 社会実装される技術について、安心と安全の両観点から取り上げます。	授業内で取り上げるトピックに関連する書籍やウェブページ、ニュースなどを参考にすることで、授業内容の理解を深めます。	4時間
第14回	**社会と科学と、その間** 授業を振り返りながら、日々に潜む科学との接点や「科学」「技術」そのものについて取り上げます。	授業内で取り上げるトピックに関連する書籍やウェブページ、ニュースなどを参考にすることで、授業内容の理解を深めます。	4時間

111

授業科目名	**化学（看護学部）**				
担当教員名	關野高泰				
学年・コース等	１年・看護学部	開講期間	前期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の概要					

授業概要

看護師は、医療の現場で多種多様な薬品、材料などの物質を扱う立場にあり、化学の基礎的知識が必要不可欠である。化学は、物質の性質、構造、変化に関する学問である。気体や水溶液について学習し、化学反応や有機化合物の基本的な構造や性質等を学び化学の理解を深める。さらに、人体をはじめとした生体を形成している化学物質についても学習する。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. 全学DP１.幅広い教養やスキル	化学の基礎や気体・液体について学ぶ。化学反応式や濃度計算を確実にできるようにする。	化学の基礎的な事項を完全に理解して今後の専門の学習や現場での実践に役立てることができる
汎用的な力		
1. 全学DP９.役割理解・連携行動		化学を学び自然界の法則性を知ることで科学的な思考を身に着ける。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)

・問答法・コメントを求める

・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)

・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)

・ディベート、討論

課題や取組に対する評価・振り返り

・提出物にコメント・評価をつけて返却します

・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

授業へは原則としてすべて出席してください。何らかの事情で欠席する場合は、シラバスや授業内での配布資料を参照し、自学により内容を確認し、必要な課題に取り組むようにしてください。なお、資格・免許取得に必要な科目は、単位修得に必要な授業時間数が定められている場合がありますので、注意してください。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
グループディスカッション、授業態度、レポート	10 %	： ディスカッションへの参加状況やグループのレポートの内容などを評価。
提出レポート（個人）	20 %	： 個人で提出するレポートを評価します。
定期試験	70 %	： 講義の内容を的確に理解しているかを評価します。

使用教科書

指定する

著者	タイトル	出版社	出版年
奈良雅之	・ 化学第7版	・ 医学書院	・ 2018 年

参考文献等

高校時代の教科書や資料集　スベトラーナ・アレクシェビッチ著「チェルノブイリの祈り」岩波現代文庫、　門田隆将著「死の淵を見た男」角川文庫、　小

倉豊文著「絶後の記録」中公文庫、　高木仁三郎著「プルトニウムの恐怖」岩波新書 井伏鱒二著「黒い雨」新潮文庫

履修上の注意・備考・メッセージ

高校時代の化学に関する履修状況によらず、講義の内容をしっかり理解してください。放射線について理解を深め、社会的な問題にも関心を持ってください。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 授業の前後

場所： 非常勤講師控室

備考・注意事項： sekino2581123@yahoo.co.jp

授業計画		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**オリエンテーション／ Ⅰ化学の基礎１** 小テストについて、読書レポートについて、物質、三態変化、温度、圧力、原子、同位体 小テスト	高校時代の化学の復習　読書レポート課題の書籍を入手する	4時間
第2回	**Ⅰ化学の基礎２** 電子、イオン、化学結合 小テスト	高校時代の化学の復習と小テストの復習　読書課題を始める	4時間
第3回	**Ⅰ化学の基礎３** 化学反応式、小テスト	化学反応式について授業の復習と小テストの復習 読書課題レポートの作成	4時間
第4回	**Ⅰ科学の基礎４** 化学の基礎のまとめ、中テストA	小テストの復習	4時間
第5回	**Ⅱ毒物・放射線１** 毒とは？周期表の毒について、小テスト	放射線の人体への影響について調べる。	4時間
第6回	**Ⅱ毒物・放射線２** 放射線、原発について	放射線の種類や特徴について調べる。	4時間
第7回	**Ⅱ毒物・放射線３** 福島第一原発事故、アスベストについて	原発事故について調べる。	4時間
第8回	**Ⅲ気体と液体１** 気体のルール、大気、CO2の増加と地球環境問題、小テスト	地球環境問題について調べる。	4時間
第9回	**Ⅲ気体と液体２** 液体の性質、濃度計算について、小テスト	浸透圧とモル濃度について	4時間
第10回	**Ⅲ気体と液体３** 液体を混ぜたり、希釈したりした時の濃度計算、小テスト	濃度計算の復習をする	4時間
第11回	**Ⅲ気体と液体４** ｐｐｍの計算、消毒液の濃度計算、小テスト	小テストで濃度計算に慣れる	4時間
第12回	**Ⅲ気体と液体５** mEqについて、小テスト、中テストB	mEqについて調べる、小テストの復習	4時間
第13回	**Ⅲ気体と液体６** コロイド、酸とアルカリ、中和、小テスト	コロイドとは何か、調べておく	4時間
第14回	**Ⅵ有機化学　医薬品** 消毒薬・麻酔薬・抗生物質・薬害について、麻酔特許について	小テストの復習と試験準備	4時間

111

授業科目名	**生物（看護学部）**				
担当教員名	關野高泰				
学年・コース等	１年・看護学部	開講期間	前期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の概要					

授業概要

看護師として、生命のしくみ、細胞と組織、遺伝と進化など生物学を基盤とする生命科学の知識は必須である。また生物学は、その発展形としての解剖学、組織学、生理学、生化学と密接に繋がっており、さらに微生物学・免疫学、病理学、薬理学などの学問分野の基本である。生命の成り立ちや進化、細胞の成り立ちと活動、生命が連続するしくみ、生命が環境の変化に合わせて生活するしくみについて理解する。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. 全学DP２.専門的知識・技能、職業理解	生物学の発展や細胞、器官について知識を深め、様々な生物現象の法則性を知り、遺伝の法則や恒常性、免疫などについて詳しく学ぶ。	生物学の知識を確実なものとして解剖学や生理学、微生物学など今後の学習の基礎とすることができる。
汎用的な力		
1. 全学DP９.役割理解・連携行動		遺伝子疾患の原因となる遺伝子変異の原因や遺伝の仕方の法則性などを理解して、生物学をもとに他の分野での理解を深めることができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)

・問答法・コメントを求める

・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)

・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)

・ディベート、討論

課題や取組に対する評価・振り返り

・提出物にコメント・評価をつけて返却します

・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

授業へは原則としてすべて出席してください。何らかの事情で欠席する場合は、シラバスや授業内での配布資料を参照し、自学により内容を確認し、必要な課題に取り組むようにしてください。なお、資格・免許取得に必要な科目は、単位修得に必要な授業時間数が定められている場合がありますので、注意してください。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準	
グループディスカッション、授業態度、レポート	10 %	：	ディスカッションへの参加状況やグループのレポートの内容などを評価します。
提出レポート（個人）	20 %	：	個人で提出するレポートを評価します。
定期試験	70 %	：	講義の内容を的確に理解しているかを評価します。

使用教科書

指定する

著者	タイトル	出版社	出版年
高畑雅一他	・ 生物学第10版	・ 医学書院	・ 2019 年

参考文献等

高校時代の教科書や資料集　　レイチェル・カーソン著「沈黙の春」新潮文庫、　石牟礼道子著「苦界浄土」講談社文庫　、　有吉佐和子著「複合汚染」新潮文庫　、　佐江衆一著「田中正造」岩波ジュニア新書

履修上の注意・備考・メッセージ

生物学の知識をしっかり身に着け、今後の学習の基礎としてください。また、読書課題などから環境汚染などの社会問題にも関心を持ってください。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：　授業の前後

場所：　非常勤講師控室

備考・注意事項：　オフィスアワーを活用してください。

授業計画

		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**オリエンテーション、レポート・グループ学習について、講義** レポート課題の方法、グループ学習の進め方、課題図書について、新型コロナから学ぶ、細胞の構造、小テスト	高校時代の生物について復習する。読書レポート課題の書籍を入手する	4時間
第2回	**Ⅰ細胞１　細胞の構造・細胞研究・細胞分裂** 高校生物の復習　生物の特徴である細胞について、細胞小器官・細胞分裂・染色体について理解する。研究の歴史や細胞分裂を学ぶ。小テスト	細胞や細胞研究の歴史について復習する。読書課題を始める	4時間
第3回	**Ⅰ細胞２　組織、器官、器官系、** ヒトの組織、器官、器官系について理解する。小テスト	組織、器官、器官系などについてまとめる。読書課題レポートの作成	4時間
第4回	**Ⅱ発生と遺伝１　無性生殖と有性生殖、ＳＧＤ①クローン** 生殖方法、幹細胞、分化について理解する。クローン人間の問題を考える。ＳＧＤ①クローンと班発表	クローンについて調べておく。読書課題レポートの作成	4時間
第5回	**スモールグループディスカッション　読書課題レポート** 各班でお互いの読書課題レポートを読んで感想を述べあう。課題レポートの推薦文を評価して最もよかったものを班の代表として発表する。	発生について復習する	4時間
第6回	**Ⅱ発生と遺伝２　ヒトの発生** ヒトの発生、ヒトの始まりを理解する。	メンデル遺伝の復習をする。遺伝小テストの復習をする。読書課題レポートの完成	4時間
第7回	**Ⅱ発生と遺伝３　メンデル遺伝** 遺伝研究の歴史など遺伝学の基礎を学ぶ。小テスト	メンデルの遺伝の法則について	4時間
第8回	**Ⅱ発生と遺伝４　メンデル遺伝と伴性遺伝** 血液型の遺伝や遺伝病について問題演習を通して理解を深める。メンデル遺伝や伴性遺伝の問題演習を通して理解を深める。小テスト	伴性遺伝について調べる。遺伝小テストの復習をする	4時間
第9回	**Ⅱ発生と遺伝５　伴性遺伝** 伴性遺伝の仕組みと遺伝病、家系図、小テスト	遺伝小テストの復習をする。	4時間
第10回	**Ⅱ発生と遺伝６　DNA** ＤＮＡの複製やタンパク質合成の仕組みなど遺伝子としてのＤＮＡの働きについて学ぶ。小テスト	DMAの複製の仕方について調べる。	4時間
第11回	**Ⅱ発生と遺伝７　突然変異** 突然変異とその原因について理解する。SGD②NIPTについて、班発表	突然変異について調べる。	4時間
第12回	**Ⅲ恒常性１　血液・腎臓・肝臓** 血液凝固の仕組みや腎臓・肝臓の役割について理解する。小テスト	血液の働き、循環器系器官の働き、排出系器官の働きなどについて調べる	4時間
第13回	**Ⅲ恒常性２　免疫** 生体防御の仕組み、アレルギー・ワクチンなどについて理解を深める。小テスト	免疫について調べる。	4時間
第14回	**Ⅲ恒常性３感覚器・神経・脳　４　ホルモン** 感覚器や神経系・脳の働きについて理解する。 内分泌系器官とホルモンの働き、ホルモンによる調節について理解する。小テスト	神経系の働き、脳の構造と働きについて調べる。ホルモンについて調べる免疫について調べる	4時間

111

授業科目名	**生命倫理（看護学部）**				
担当教員名	**關野高泰**				
学年・コース等	１年・看護学部	開講期間	後期	単位数	1
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の概要					

授業概要

現代の医学・医療の発展と価値観の多様化に伴い、様々な生命倫理上の諸問題が発生し、医療者と患者の関係も変化しつつある。これを踏まえて、臨床的な観点から、「生命倫理」について考え、より良い医療および看護を志向する。同時に、日本における医療の歴史や「風土」に根ざした生命観、健康観についても考える。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. 全学DP３.専門的知識・技能を実践で応用する力	生命倫理学の考え方の基本を理解して、具体的な問題として安楽死の問題を取り上げて考える。	生命倫理学全般から医療・看護倫理学の実際の問題を現場で考えることができる。
汎用的な力		
1. 全学DP９.役割理解・連携行動		他の医療専門職と協調して看護を行うにはどうすればいいのかを考えることができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)

・問答法・コメントを求める

・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)

・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)

・ディベート、討論

課題や取組に対する評価・振り返り

・提出物にコメント・評価をつけて返却します

・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

授業へは原則としてすべて出席してください。何らかの事情で欠席する場合は、シラバスや授業内での配布資料を参照し、自学により内容を確認し、必要な課題に取り組むようにしてください。なお、資格・免許取得に必要な科目は、単位修得に必要な授業時間数が定められている場合がありますので、注意してください。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
グループディスカッション　授業態度	10　％	：　ディスカッションへの参加状況やグループのレポートの内容を評価します
提出レポート	90　％	：　個人で提出するレポートを評価します

使用教科書

指定する

著者	タイトル	出版社	出版年
宮坂道夫　他	・ 看護倫理第２版	・ 医学書院	・ 2018　年

参考文献等

森鴎外著　「高瀬舟」各出版社、　星野一正著「医療の倫理」岩波新書、　水野肇著「インフォームド・コンセント」、御子柴善之著「自分で考える勇気」岩波ジュニア新書　須田セツ子著「私のしたことは殺人ですか？」青志者講談社現代新書、　保阪正康著「安楽死と尊厳死」講談社現代新書、　加藤尚武著「現代倫理学入門」講談社学術文庫　　グレゴリー・Eベンス著「医療倫理　１・２」みすず書房、　加藤・加茂著「生命倫理学を学ぶ人のために」世界思想社、　ドルトン・トランボ著「ジョニーは戦場に行った」（映画も）、角川文庫 、映画 パラマウントジャパン「プライベート・ライアン」、　ポニー

キャニオン「海を飛ぶ夢」、

履修上の注意・備考・メッセージ

レポートはコピー&ペースト禁止です。必ず自分で考えて作成してください。
短い時間ですが医療と倫理の問題を考えるきっかけとしてください

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 授業の前後

場所： 非常勤講師控室

備考・注意事項： オフィスアワーを活用してください。

授業計画		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**オリエンテーション／Ⅰ法・道徳・倫理** レポート(個人・班・任意）について、スモールグループディスカッション（SGD）について 法・道徳・倫理、カントとミル、医療倫理の4原則	参考図書「高瀬舟」を入手し、読む	4時間
第2回	**Ⅰ法・道徳・倫理　２** スモールグループディスカッション（SGD）と班発表、班レポート提出	「高瀬舟」を読んでレポートを作成する	4時間
第3回	**Ⅱ研究倫理とインフォームド・コンセント** ニュルンベルク裁判、７３１部隊、ヒトチャレンジ治験など。ヘルシンキ宣言、IC、パターナリズムについて	「高瀬舟」のレポートを作成する	4時間
第4回	**Ⅲ安楽死１** 「高瀬舟」レポート提出、スモールグループディスカッション、班レポート提出、カレン・アン・クインラン事件、東海大学安楽死事件、京都安楽死事件など	「高瀬舟」のレポート提出と話し合い	4時間
第5回	**Ⅲ安楽死２** 安楽死の分類について、資料視聴	安楽死について調べる	4時間
第6回	**Ⅲ安楽死３** 安楽死スモールグループディスカッション、レポート提出と班発表、安楽死まとめ、任意レポート提出	「海を飛ぶ夢」視聴後の感想を話し合う	4時間
第7回	**Ⅳ医療人の倫理** 新津春子氏、長尾能雅氏の仕事と倫理について、倫理的な医療人とは？レポート準備	「倫理的な医療人」レポート作成	4時間

111

授業科目名	スポーツ演習Ⅰ（ヨガ・ピラティス）				
担当教員名	坂元紹子				
学年・コース等	1～4年	開講期間	前期	単位数	1
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の概要					

授業概要

現代人の健康法として人気の高まっているヨガやピラティスを実践していく中で、自分の内側に目を向け、心と身体を整えるための課題をみつける。日頃抱えている身体問題（腰痛、肩凝り、冷え性など）の解消や身体機能の向上を目指す。ヨガではポーズ（アーサナ）や呼吸法（プラーナーヤーマ）などを通して、自らの心身のバランスを保ちコントロールしていくこと、また他者を受入れ、他者とのコミュニケーション能力を高めていくことを習得する。ピラティスでは、基本動作を理解習得しながら、しなやかで強く美しい身体づくりの方法を学ぶ。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. 全学DP１.幅広い教養やスキル	ヨガ・ピラティスの基本理念・動作を理解習得し、自らの心身の健康保持に繋げることができる。	ヨガ・ピラティスの基本理念・動作を理解習得できる。
汎用的な力		
1. 全学DP６.行動・実践		運動学習での気付きを、主体的に生活にいかし、自らの身体課題を設定・克服できる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)

・実験、実技、実習

・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)

・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

・実習や実技に対して個別にコメントします

・実技・実習後、全体に向けてコメントします

・提出物にコメント・評価をつけて返却します

・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

授業へは原則としてすべて出席してください。何らかの事情で欠席する場合は、シラバスや授業内での配布資料を参照し、自学により内容を確認し、必要な課題に取り組むようにしてください。なお、資格・免許取得に必要な科目は、単位修得に必要な授業時間数が定められている場合がありますので、注意してください。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
実技	20 %	： ヨガ・ピラティスに関する基礎的・基本的理念や動作を身につけているかを評価する。
取り組み姿勢、協力度、授業態度	50 %	： 積極的に授業に参加し、協力して活動できているか評価する。
学習記録、レポート	15 %	： 授業毎の学習記録から評価する
試験（レポート）	15 %	： 授業期間終了後に課す当初目標に対する到達状況の自己判定、レポートから評価する。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

授業中の適宜配布する。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は1単位の科目であるため、平均すると毎回2時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：　授業前後

場所：　授業場所

備考・注意事項：　初回の授業時にアナウンスします。

授業計画		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**オリエンテーション：ヨガ・ピラティスの特徴を理解する。** 授業概要、授業計画、授業形態、評価方法、履修上の注意などに ついて説明する。 ヨガ・ピラティスの特徴を紹介する。	授業概要について理解し、次回の授業に向けて準備をする。自分の健康課題について検討する。	2時間
第2回	**ヨガとは** ヨガの歴史、哲学、効果、ヨガセラピー療法について紹介する。	基礎体力づくり（授業で紹介した動作の日常的実施、ストレッチやトレーニング）	2時間
第3回	**ヨガの種類、呼吸法について** ヨガの重要なポイントのひとつでもある呼吸法（プラーナーヤーマ）を紹介する。 瞑想に趣を持つヨガ、ポーズに趣を持つヨガについて紹介する。	基礎体力づくり（授業で紹介した動作の日常的実施、ストレッチやトレーニング）	2時間
第4回	**身体の問題とヨガ処方(冷え性、生理痛)** 冷え性、生理痛等の身体の問題について症状別対応動作を紹介する。	基礎体力づくり（授業で紹介した動作の日常的実施、ストレッチやトレーニング）	2時間
第5回	**身体の問題とヨガ処方（肩凝り、腰痛、頭痛）** 歪み、肩凝り、腰痛等の身体の問題について症状別対応動作を紹介する。	基礎体力づくり（授業で紹介した動作の日常的実施、ストレッチやトレーニング）	2時間
第6回	**身体問題とヨガ処方（ストレス、不安、集中）** ストレス改善、集中力等の身体の問題について症状別対応動作を紹介する。	基礎体力づくり（授業で紹介した動作の日常的実施、ストレッチやトレーニング）	2時間
第7回	**セルフプラグラム作成** 心身のバランスを保ちコントロールするため自分自身の生活の中にヨガを取り入れる、セルフプログラムを作成する。	基礎体力づくり（授業で紹介した動作の日常的実施、ストレッチやトレーニング）	2時間
第8回	**ピラティスの原則** トレーニングを行う際の原則について紹介する。	基礎体力づくり（授業で紹介した動作の日常実施、ストレッチやトレーニング）	2時間
第9回	**体幹に関わる筋肉** 骨盤、背中を中心に体幹に関わるトレーニングを紹介する。	基礎体力づくり（授業で紹介した動作の日常実施、ストレッチやトレーニング）	2時間
第10回	**基礎動作の実施（基本姿勢、仰向け）** 主に基本姿勢、仰向けでのトレーニングを紹介する。	基礎体力づくり（授業で紹介した動作の日常実施、ストレッチやトレーニング）	2時間
第11回	**基本動作の実施（座位、うつ伏せ）** 主に座位、うつ伏せでのトレーニングを紹介する。	基礎体力づくり（授業で紹介した動作の日常実施、ストレッチやトレーニング）	2時間
第12回	**基礎動作の実施（横向き、立位）** 主に横向き、立位でのトレーニングを紹介する。	基礎体力づくり（授業で紹介した動作の日常実施、ストレッチやトレーニング）	2時間
第13回	**セルフプログラム作成** 自分自身の身体問題を理解し、生活習慣を見直しながら運動習慣の構成として取り入れられそうなセルフプログラムを作成する。	基礎体力づくり（授業で紹介した動作の日常実施、ストレッチやトレーニング、マッサージ）	2時間
第14回	**学習記録シートのまとめ** 当初の目標に対する自己評価を含め、学習記録シートを記入し授業全体のまとめを行う。	基礎体力づくり（授業で紹介した動作の日常実施、ストレッチやトレーニング）	2時間

111

授業科目名	**スポーツ演習Ⅰ（卓球）**				
担当教員名	中村公美子・小林実優・原裕昭				
学年・コース等	1～4年	開講期間	前期	単位数	1
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の概要					

授業概要

スポーツは人生をより豊かにし、充実したものとする世界共通の人類の文化のひとつである。心身の健全な発達に必要不可欠なものであり、人々が生涯にわたってスポーツに親しむことは大きな意義がある。この授業では卓球の実践を通じて、プレイするための基礎的なスキル習得及び、生涯スポーツとして実践できるスキルの習得を目指す。種目のルール、試合(ゲーム)に必要な技能、審判、指導法を理解し、シングルス、ダブルスのそれぞれのスタイルの特徴と面白さを実践を通じて学び、判断力や協調性といった集団技能を身につけ、スポーツをより楽しむことができるようになることを目的とする。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. 全学DP３.専門的知識・技能を実践で応用する力	卓球に関する知識及び実践できるスキル	卓球に関する知識及び実践のためのスキルを習得し、指導方法について理解できる。
汎用的な力		
1. 全学DP６.行動・実践		卓球における身体運動のメカニズムを理解する

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)

・実験、実技、実習

・問答法・コメントを求める

課題や取組に対する評価・振り返り

・実習や実技に対して個別にコメントします

・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

授業へは原則としてすべて出席してください。何らかの事情で欠席する場合は、シラバスや授業内での配布資料を参照し、自学により内容を確認し、必要な課題に取り組むようにしてください。なお、資格・免許取得に必要な科目は、単位修得に必要な授業時間数が定められている場合がありますので、注意してください。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
授業への取り組み	50 %	： 各回授業への積極的参加（作戦・立案の積極性や試合中の動き）や授業態度（受講マナー、スマートフォンの使用や集合時に集まらないなど授業の妨げになるような行為は減点対象とする。）などをもとに総合評価する。
授業中の課題レポート	20 %	： 指定された内容に従い、正確な文書表現および容易に理解できるよう、まとめられているかにより評価する。
期末レポート	30 %	： 14回の授業終了後にレポート実施する。指定された内容に従い、授業内容を踏まえ、自身の論理的な考察と参考文献等を用いて論述されているか、文字数や提出期限を守れているか、以上を総合的に評価し採点する。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

特になし。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は１単位の科目であるため、平均すると毎回2時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。
なお、授業開始までに更衣を済ませておき、腕時計やピアスなどの装飾品は実技中に大きな損傷を招く恐れがあるため、全て取り外すこと。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：　授業時間の前後

場所：　授業の実施場所

授業計画

		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**ガイダンス(卓球の説明、授業のすすめ方、評価方法)** 本実技の進め方、実施する競技の説明、ルール、卓球に必要なスキル等の説明を行う。	卓球のルール、試合方法について理解しておいくこと。	2時間
第2回	**ラケットの種類、握り方、フォアハンド・バックハンドの基本的な打ち方** 基礎的スキルの習得　・ルールの理解	卓球の特徴を理解し、基本的な打ち方の練習を行っておくこと。	2時間
第3回	**フォアハンド・バックハンドの打ち方の練習、サーブの練習、ゲーム** 基礎的スキルの習得・ルールの理解(審判)	フォアハンド・バックハンドの打ち方の練習を行っておくこと。	2時間
第4回	**連続ラリーの練習、サーブ、カットの打ち方、ゲーム** ・基本ストローク(サーブを中心) ・カットの打ち方 ・ルールの理解(審判と試合運営) ・試合の展開	サーブ、カットの打ち方の基本的な技術の練習を行っておくこと。	2時間
第5回	**連続ラリーの練習、様々なサーブの練習、試合** ・試合におけるスキルの習得(戦術) ・ルールの理解③(審判と試合運営) ・試合の展開	習得した技術(フォアハンド、バックハンド、サーブ、カット)の練習を行っておくこと。	2時間
第6回	**連続ラリーの練習、様々なサーブの練習、スマッシュの練習、試合** ・安定した連続ラリーの練習 ・フットワーク ・スマッシュの練習 ・ルールの理解 ・試合方法の理解	安定した連続ラリーとそれに必要なフットワークの練習を行っておくこと。	2時間
第7回	**試合の展開、シングルス(リーグ戦)　～前半～** ・ルールの理解(審判) ・シングルスの試合運営	卓球の試合運営(シングルス)を行う上で必要となるルールの理解、審判の方法を理解しておくこと。	2時間
第8回	**試合の展開、シングルス(リーグ戦)　～後半～** ・卓球に必要なスキルの習得(シングルスにおける試合戦術) ・ルールの理解(審判と試合運営)	卓球の試合運営(シングルス)を行う上で必要となるルールの理解、審判の方法を理解しておくこと。	2時間
第9回	**試合の展開、シングルス(レベル別の対戦形式)** ・卓球に必要なスキルの習得(シングルスにおける試合戦術) ・ルールの理解(審判と試合運営)	卓球の試合運営(シングルス)を行う上で必要となるルールの理解、審判の方法を理解しておくこと。	2時間
第10回	**試合の展開、ダブルス(リーグ戦)　～前半～** ・卓球に必要なスキルの習得(ダブルスにおける試合戦術) ・ルールの理解(審判と試合運営)	卓球の試合運営(ダブルス)を行う上で必要となるルールの理解、審判の方法を理解しておくこと。	2時間
第11回	**試合の展開、ダブルス(リーグ戦)　～後半～** ・卓球に必要なスキルの習得(ダブルスにおける試合戦術) ・ルールの理解(審判と試合運営)	卓球の試合運営(ダブルス)を行う上で必要となるルールの理解、審判の方法を理解しておくこと。	2時間
第12回	**試合の展開、ダブルス(レベル別の対戦形式)　～前半～** ・卓球に必要なスキルの習得(ダブルスにおける試合戦術) ・ルールの理解(審判と試合運営)	卓球の試合運営(ダブルス)を行う上で必要となるルールの理解、審判の方法を理解しておくこと。	2時間
第13回	**試合の展開、ダブルス(レベル別の対戦形式)　～後半～** ・卓球に必要なスキルの習得(ダブルスにおける試合戦術) ・ルールの理解(審判と試合運営)	試合(ダブルス)を展開運営する上で必要となるルールの理解、審判の方法を理解しておくこと。	2時間
第14回	**団体戦** ・卓球に必要なスキルの習得(団体戦における試合戦術) ・ルールの理解(審判と試合運営)	卓球の団体戦のルールを理解しておくこと。	2時間

111

授業科目名	**スポーツ演習Ⅰ（球技等）**				
担当教員名	村田正夫				
学年・コース等	1～4年	開講期間	前期	単位数	1
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の概要					

授業概要

スポーツでは自分の身体を巧みに動かす能力を高めることで、競技パフォーマンスの向上が期待できる。これにはからだの精妙な動かし方を、単なる偶発的な動きではなく、反復可能な技として体得する必要がある。この授業では、リズム能力、バランス能力、変換能力、反応能力、連結能力、定位能力、識別能力について学びつつ、トレーニングを行いながら運動神経の向上を図り、球技やアルティメットに必要なテクニックを反復練習することで技術を高めていく。また各種のゲームを通してスポーツの協調性、観察力、判断力、爽快感、達成感を体得する。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. 全学DP１.幅広い教養やスキル	協働的な学び、自己理解・他者理解	ゲームや演習を通して協調性、観察力、判断力を磨きマナーを尊重して能動的に取り組む。
2. 全学DP２.専門的知識・技能、職業理解	自分の身体を巧みに動かす	リズム能力、バランス能力、変換能力、反応能力、連結能力、定位能力、識別能力を理解し、反復することでスポーツに必要な技能を獲得する。
汎用的な力		
1. 全学DP４.課題発見		ゲームを通して自分の課題を発見・検討することができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)

・実験、実技、実習

・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)

・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)

・シミュレーション型学習(ロールプレイ、ゲーム型学習など)

課題や取組に対する評価・振り返り

・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

授業へは原則としてすべて出席してください。何らかの事情で欠席する場合は、シラバスや授業内での配布資料を参照し、自学により内容を確認し、必要な課題に取り組むようにしてください。なお、資格・免許取得に必要な科目は、単位修得に必要な授業時間数が定められている場合がありますので、注意してください。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
実技習熟度	30 %	： バレーボール 10%、アルティメット 10%、フットサル 10%とする。各競技の能力を高めるために必要な技術について独自のルーブリックを用いて評価を行う。
期末レポート	20 %	： 出題したテーマについてレポートの作成を行う。その成果物については、独自のルーブリックを用いて評価を行う。
チーム参加度（協働・コミュニケーション））	30 %	： チームワークを高めるために積極的に参加し、協働し、互いの意思疎度合いなどを独自のルーブリックを用いて評価を行う。
チーム貢献度	20 %	： 得点、得点に絡むアシスト、チーム勝利数などを勘案し、独自のルーブリックで評価する。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

使用しない。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は1単位の科目であるため、平均すると毎回2時間の授業外学修が求められる。実技科目であるため、日ごろより身体のコンディショニングを整え、スポーツの実践をこころがけること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 火曜日2限目

場所： 研究室（西館２階　№13）

備考・注意事項： 本授業ではGoogleクラスルームを使用するので、質問などはGoogleクラスルームをご利用ください。

授業計画

		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**授業概要の説明およびバレーボール（ゲーム）** この授業の評価方法、到達目標の説明後に、グループ分けを行い、ゲームを実施する。 （初回の授業で能力の確認を行う）	バレーボールに必要な敏捷性、瞬発力、腹 筋・背筋において自分の能力を チェックして みる。	2時間
第2回	**サーブ練習とゲーム** ゲームを開始するためのプレーであるサーブ能力を身につける。ここではサーブ打ち方の説明および練習を行う。	ボールを狙った場所へ正確に打つことができるか（識別能力）について課題を確認する。	2時間
第3回	**パス練習とゲーム** 安定したパスを出せる能力を身につける。ここではオーバーハンドパス、アンダーハンドパスの説明および対人練習を行う。	ボールの落下地点に正確に入ることができる定位能力、ボールを正確に受け取れることができるかあ（識別能力）について課 題を確認する。	2時間
第4回	**スパイク練習とゲーム** 攻撃の柱であるスパイク能力を身につける。ここではスパイクの説明および手投げからのボールを効果的に打ち込める練習を行う。	スパイク前の助走・ステップなど動作のタイミングを合わせることができるリズム能力、体を無駄なく動かすことができるか（連結能 力）について課題を確認する。	2時間
第5回	**バレーボール技術習熟度チェック** バレーボール技術におけるパス、スパイク、サーブについて習熟度チェックを実施する。	バレーボール競技の成果・課題などについて個々に振り返りを行う。	2時間
第6回	**アルティメットの説明とゲーム** アルティメット競技のルール説明後、グループ分けを行いゲームを実施する。 （初回の授業で能力の確認を行う）	アルティメットに必要な走る・投げる・跳ぶ といった能力において自分の状態をチェックしてみる。	2時間
第7回	**スローイング練習とゲーム** マーカーを抜き、見方にパスをつなぐためのスローイング能力を身につける。ここでは様々なスローイングのポイント説明とロールプレイを実施する。	ディスクを正確に投げることができる識別能 力について課題を確認する。	2時間
第8回	**キャッチングおよびカット練習とゲーム** パスされたディスクを受け取るキャッチング能力とカットするディフェンス能力を身につける。ここではキャッチング、カット技術の説明とロールプレーを実施する。	ディスクを正確にスローできる識別能 力、ディフェンスで相手の動きに合わせて適切に対応する変換能力につい て課題を確認する。	2時間
第9回	**アルティメット技術習熟度チェック** アルティメット技術に必要なスローイング、キャッチングにおける習熟度チェックを実施する。	アルティメット競技について成果・課題など について個々に振り返りを 行う。	2時間
第10回	**フットサルの説明とゲーム** フットサル競技のルール説明後、グループ分けを行いゲームを実施する。	ボールタッチ、ド リブル、シュートなど、フットサルに必要なボールコントロールの正確性を自分でチェックしてみる。	2時間
第11回	**ドリブル技術とゲーム** 様々なドリブルの説明とロールプレーの反復練習でドリブルの精度を高めていく。	ドリブル練習を通して状況に応じ、適切に対 処できる変換能力について課題を確認する。	2時間
第12回	**パス技術とゲーム** 様々なパスの説明とロールプレーの反復練習でパスの精度を高めていく。	パス練習を通してボールを左右の足で正 確に扱うことができる識別能力について課 題を確認する。	2時間
第13回	**シュート技術とゲーム**	体を無駄なくスムーズに動かすリズム能力に ついて課題を確認する。	2時間

	サッカーとの違い（コートの狭さやゴールの小ささ）を知り、コンパクトに蹴り込む技術を身につける。		
第14回	**フットサル技術習熟度チェック** フットサル技術におけるボールタッチ、ドリブル、シュートについて習熟度チェックを実施する。	フットサル競技について成果・課題などにつ いて個々に振り返りを行う。	2時間

113

授業科目名	**スポーツ演習Ⅰ（教育学部）**				
担当教員名	濱口幹太・坂本拓巳・辻慎太郎・松尾貴司・小林実優				
学年・コース等	3年	開講期間	後期	単位数	1
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の概要					

授業概要

近年「運動不足」「体力の低下」「身体活動量の低下」が各年代の生活習慣病の原因であると多くの研究で明らかにされ、改善しなければいけない問題とされています。特に「運動が嫌い」・「スポーツが苦手」な幼児・児童が増加しており、運動を指導するだけではなく、楽しさを伝える指導力が重要となってきています。この授業では体力強化･身体づくりはもちろんのこと、運動やスポーツの楽しさを体感し、子ども達に楽しさを伝えられる人間性を形成します。また、これまでに経験のあるスポーツのルールを正しく理解し、スポーツへの知識を深めます。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. 全学DP１.幅広い教養やスキル	バレーボールなどの一般的なスポーツを中心に行う。ルールを正しく理解し、学んだ知識を生かすために汎用的な技能や実践能力を身に着けることができる。	教育者として、自身の体力の維持増進を図ると同時に、様々な運動の特性を知り、運動技能を向上さすことができる。
汎用的な力		
1. 全学DP６.行動・実践		健康や体力の維持増進、技術上達等を各人が体験することができる。
2. 全学DP８.意思疎通		様々な種目を通してコミュニケーション能力を発揮できる。
3. 全学DP９.役割理解・連携行動		実技を通し考えることができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・実験、実技、実習

課題や取組に対する評価・振り返り

・実習や実技に対して個別にコメントします

・実技・実習後、全体に向けてコメントします

成績評価

注意事項等

授業へは原則としてすべて出席してください。何らかの事情で欠席する場合は、シラバスや授業内での配布資料を参照し、自学により内容を確認し、必要な課題に取り組むようにしてください。なお、資格・免許取得に必要な科目は、単位修得に必要な授業時間数が定められている場合がありますので、注意してください。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
授業への取り組み状況	60 %	： 各回授業への積極的参加（作戦・立案の積極性や試合中の動き）や授業態度（受講マナー、携帯電話の使用や集合時に集まらないなど授業の妨げになる行為は減点）などをもとに総合評価する。
授業中の課題レポート	10 %	： 指定された内容に沿い、正確な文書表現および容易に理解できるよう、まとめられているかにより評価する。
期末レポート	30 %	： 14回の授業終了後にレポートを実施する。指定された内容に沿い、正確な文書表現および容易に理解できるよう、まとめられているかにより評価する。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

適宜資料を配布する。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は1単位の科目であるため、平均すると毎回2時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。
なお、教育学部指定のトレーニングウェアとシューズを着用し、授業開始までに更衣を済ませておくこと。
また、腕時計やピアスなどの装飾品は実技中に大きな損傷を招く恐れがあるため、全て取り外すこと。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：　授業の前後

場所：　授業の教室

備考・注意事項：　必要に応じて声を掛けて下さい。時間調整をします。

授業計画		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**講義目的と評価法についてオリエンテーション** 授業の進め方や成績評価の方法、受講マナーについてガイダンスを行う。また、近年において何故運動が重要視されているのか、さらに、子ども達になぜ運動が必要なのか、といった運動を何故するのかという根本を理解する。	運動の重要性について調べる	2時間
第2回	**バスケットボール（1）基礎的技能** ルールの概略を説明し、理解を促す。また、ボールコントロール、ハンドリング技術の向上を目的にパス・ドリブル・リバウンドなどの基礎的な動きを練習する。講義の後半からは班内でのミニゲームを行う。ミニゲームを通してルールを正しく理解するとともに、個人の技術を向上させる。	バスケットボールのルールを理解する	2時間
第3回	**バスケットボール（2）ゲーム形式実践練習** 再度ルール説明を行う。シュート技術の向上を目的に、レイアップシュート・バックシュート・ジャンプシュート・セットシュートなどの練習を行う。講義の後半からは班対抗の実践練習を行う。実践練習を通してチーム内でのコミュニケーションを図りながら、プレイ中の動きの意識や協調性・主体性を養う。	授業内で学んだルールを再確認し、理解する	2時間
第4回	**バスケットボール（3）班対抗ゲーム** バスケットボールで求められる総合的な能力向上を目的として、これまでに行ったドリブル・パス・シュートなどの一連の動作の練習を行う。講義の後半からは班対抗のゲームを行う。試合前に各班で戦略の構築時間を設け、戦術を考える力を養うとともに、班対抗のゲームを通して協調性・主体性を養う。	戦術について調べる	2時間
第5回	**バレーボール（1）基礎的技能** ルールの概略を説明し、理解を促す。また、バレーボールの基本技術の向上を目的にオーバーハンドパス・アンダーハンドパス・スパイク・サーブなどの動きを練習する。講義の後半からは班内でのミニゲームを行う。ミニゲームを通してルールを正しく理解するとともに、個人の技術を向上させる。	バレーボールのルールを理解する	2時間
第6回	**バレーボール（2）ゲーム形式実践練習** 再度ルール説明を行う。チーム戦術の体験を目的に、フォーメーションの確認やコンビネーションの練習を行う。講義の後半からは班対抗の実践練習を行う。実践練習を通してチーム内でのコミュニケーションを図りながら、プレイ中の動きの意識や協調性・主体性を養う。	授業内で学んだルールを再確認し、理解する	2時間
第7回	**バレーボール（3）班対抗ゲーム** バレーボールで求められる総合的な能力向上を目的として、これまでに行ったレシーブ・トス・サーブ・スパイクなどの練習を行う。講義の後半からは班対抗のゲームを行う。試合前に各班で戦略の構築時間を設け、戦術を考える力を養うとともに、班対抗のゲームを通して協調性・主体性を養う。	戦術について調べる	2時間
第8回	**フットサル（1）基礎的技能** ルールの概略を説明し、理解を促す。また、基本技術の向上を目的にキックの仕方（インサイド・トゥー）・ドリブルなどの基礎的な動きを練習する。講義の後半からは班内でのミニゲームを行う。ミニゲームを通してルールを正しく理解するとともに、個人の技術を向上させる。	フットサルのルールを理解する	2時間
第9回	**フットサル（2）ゲーム形式実践練習** 再度ルール説明を行う。攻撃のフォーメーションや防御のフォーメーションなどの練習を行い、チームごとの戦術を工夫する一助とする。講義の後半からは班対抗の実践練習を行う。実践練習を通してチーム内でのコミュニケーションを図りながら、プレイ中の動きの意識や協調性・主体性を養う。	授業内で学んだルールを再確認し、理解する	2時間
第10回	**フットサル（3）班対抗ゲーム** フットサルで求められる総合的な能力向上を目的として、これまでに行ったドリブル・パス・シュートなどの練習を行う。講義の後半からは班対抗のゲームを行う。試合前に各班で戦略の構築時間を設け、戦術を考える力を養うとともに、班対抗のゲームを通して協調性・主体性を養う。	戦術について調べる	2時間
第11回	**卓球（1）基礎的技能**	卓球のルールを理解する	2時間

	ルールの概略を説明し、理解を促す。また、卓球の基本技術の向上を目的にフォアハンド・バックハンドなどの基礎的な動きを練習する。講義の後半からは班内でのミニゲーム（シングルス）を行う。ミニゲームを通してルールを正しく理解するとともに、個人の技術を向上させる。		
第12回	**卓球（２）ゲーム形式実践練習** 再度ルール説明を行う。ダブルスでの動きや連携についての練習を行う。講義の後半からは班対抗の実践練習を行う。実践練習を通してチーム内でのコミュニケーションを図りながら、プレイ中の動きの意識や協調性・主体性を養う。	授業内で学んだルールを再確認し、理解する	2時間
第13回	**卓球（３）班対抗ゲーム** 卓球で求められる総合的な能力向上を目的として、これまでに行ったフォアハンド・バックハンドやダブルスでの連携などの練習を行う。講義の後半からは班対抗のゲームを行う。試合前に各班で戦略の構築時間を設け、戦術を考える力を養うとともに、班対抗のゲームを通して協調性・主体性を養う。	戦術について調べる	2時間
第14回	**総括と質疑応答** 自身の体力と健康意識について振り返る。	授業を振り返り、これまでの内容についてまとめる	2時間

111

授業科目名	スポーツ演習Ⅱ（体育館等）				
担当教員名	村田正夫				
学年・コース等	1～4年	開講期間	後期	単位数	1
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の概要					

授業概要

スポーツは人生をより豊かにし、充実したものとする世界共通の人類の文化のひとつである。また、心身の健全な発達に必要不可欠なものであり、生涯にわたってスポーツに親しむことは大きな意義がある。本授業では様々な種目のスポーツを通じて、自身の体力の向上を図るのみならず、チームプレーによって養われる集団技能を身につけ、さらに対戦相手との駆け引きができ、スポーツをより楽しむことができるようになることを目的とする。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. 全学DP１.幅広い教養やスキル	スポーツに親しむことを通し、身体を使った汎用的な技能の修得し、スポーツの実践能力を磨く。	様々なスポーツに関する知識、個人および集団技能を身につけ、スポーツをより楽しむことを目指す。
汎用的な力		
1. 全学DP９.役割理解・連携行動		スポーツに積極的に取り組むことを通じ、個々の技能をもとに互いに協力し、チームプレーを行うことを目指す。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・実験、実技、実習

・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

・実習や実技に対して個別にコメントします

・実技・実習後、全体に向けてコメントします

・提出物にコメント・評価をつけて返却します

成績評価

注意事項等

授業へは原則としてすべて出席してください。何らかの事情で欠席する場合は、シラバスや授業内での配布資料を参照し、自学により内容を確認し、必要な課題に取り組むようにしてください。なお、資格・免許取得に必要な科目は、単位修得に必要な授業時間数が定められている場合がありますので、注意してください。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準	
授業参加度	40 %	:	本講義で行う活動における積極性・主体性・協同性について評価する。
実技	40 %	:	各種スポーツに関する基礎的・専門的な知識と技能を身につけているか評価する。
課題・レポート	20 %	:	講義内で指定した課題、レポートについて評価する。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

特に指定しない。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は1単位の科目であるため、平均すると毎回2時間の授業外学修が求められる。
「授業外学習課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。なお、授業開始までに更衣を済ませておき、腕時計やピアスなどの装飾品は実技中に大きな損傷を招く恐れがあるため、全て取り外すこと。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 水曜日2限目

場所： 研究室（西館２階　№13）

備考・注意事項： 本授業ではGoogleクラスルームを使用するので、質問などはGoogleクラスルームをご利用ください。

授業計画		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**オリエンテーションおよびバスケットボール（ゲーム）** ①授業の進め方や成績評価の方法、受講マナーについてガイダンスを行う。また、近年におけるスポーツを取り巻く環境について理解し、安全かつ健全にかかわることの意義を学ぶ。 ②ゲームを実施する。（チーム分けの参考にする）	講義内で扱った内容について振り返る。	2時間
第2回	**バスケットボール　個人技能練習（シュート）とゲーム** ①基礎的技能のシュートについて解説し、練習方法について実践する。 ②ゲームを行う。	授業内での練習を繰り返す。	2時間
第3回	**バスケットボール　個人技能練習（パス）とゲーム** ①基本的技能のパスについて解説し、練習方法について実践する。 ②ゲームを行う。	授業内での練習を繰り返す。	2時間
第4回	**バスケットボール　個人技能練習（ドリブル）とゲーム** ①基本的技能のドリブルについて解説し、練習方法を実践する。 ②ゲームを行う。	授業内での練習を繰り返す。	2時間
第5回	**バスケットボール　基礎的技能（ディフェンス）とゲーム** ①基本的技能のドリブルについて解説し、練習方法を実践する。 ②ゲームを行う。	授業内での練習を繰り返す。	2時間
第6回	**バドミントン　ルールの説明とゲーム** ①バドミントンのルール説明を行う。 ②ゲームを行う。（チーム分けの参考にする）	授業内での練習を繰り返す。	2時間
第7回	**バドミントン　ショットの打ち方（ドライブ・プッシュ）とゲーム** ①コートに平行してネットすれすれの軌道を理想とするドライブについて解説する。 ②ネット前に浮いてきたシャトルをコートに突き刺すように打つプッシュについて解説する。 ③ゲームを行う。	授業内での練習を繰り返す。	2時間
第8回	**バドミントン　ショットの打ち方（ドロップ・カット）とゲーム** ①コートの奥から相手のネット前へ落とすドロップについて解説する。 ②ラケットを切るようにして不利、相手の手前のスペースに鋭角に落ちるカットについて解説する。 ③ゲームを行う。	授業内での練習を繰り返す。	2時間
第9回	**バドミントン　ショットの打ち方（スマッシュ）とゲーム** ①シャトルを叩きつけるように打ち込むスマッシュについて解説する。 ②ゲームを行う。	授業内での練習を繰り返す。	2時間
第10回	**フットサルのルールの説明とゲーム** ①フットサルのルール説明を行う。 ②ゲームを行う。（チーム分けの参考にする）	フットサルのルールを理解する。	2時間
第11回	**フットサルの個人技術とゲーム** ①フットサルの個人技術の構成要素について解説する。 ②ゲームを行う。	授業内での練習を繰り返す。	2時間
第12回	**フットサルのポジションの役割とゲーム** ①フットサルのポジションの役割について解説する。 ②ゲームを行う。	授業内での練習を繰り返す。	2時間
第13回	**フットサルのグループ戦術（攻撃）とゲーム** ①フットサルのグループ戦術（攻撃）について解説する。 ②ゲームを行う。	授業内での練習を繰り返す。	2時間
第14回	**フットサルのグループ戦術（守備）とゲーム** ①フットサルのグループ戦術（守備）について解説する。 ②ゲームを行う。	授業内での練習を繰り返す。	2時間

111

授業科目名	スポーツ演習Ⅱ（体育館等）				
担当教員名	中村公美子・坂本拓巳				
学年・コース等	1～4年	開講期間	後期	単位数	1
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の概要					

授業概要

スポーツは人生をより豊かにし、充実したものとする世界共通の人類の文化のひとつである。また、心身の健全な発達に必要不可欠なものであり、人々が生涯にわたってスポーツに親しむことは大きな意義がある。本授業では様々な種目のスポーツを通じて、自身の体力の向上を図るのみならず、チームプレーによって養われる集団技能を身につけ、さらに対戦相手との駆け引きができ、スポーツをより楽しむことができるようになることを目的とする。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. 全学DP１.幅広い教養やスキル	スポーツに親しむことで、身体を通しての汎用的な技能の修得や実践能力を磨くことができる。	様々なスポーツに関する知識、個人および集団技能を身につけ、スポーツをより楽しむことができる。
汎用的な力		
1. 全学DP９.役割理解・連携行動		積極的に取り組むとともに、個々の技能をもとに互いに協力し、チームプレーを行うことができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・実験、実技、実習

・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

・実習や実技に対して個別にコメントします

・実技・実習後、全体に向けてコメントします

・提出物にコメント・評価をつけて返却します

成績評価

注意事項等

授業へは原則としてすべて出席してください。何らかの事情で欠席する場合は、シラバスや授業内での配布資料を参照し、自学により内容を確認し、必要な課題に取り組むようにしてください。なお、資格・免許取得に必要な科目は、単位修得に必要な授業時間数が定められている場合がありますので、注意してください。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
授業態度	30 %	： 本講義に関する活動に対しての、積極性・主体性・協同性について評価する
実技	30 %	： 各種スポーツに関する基礎的・専門的な知識と技能を身に付けているか評価する
課題・レポート	40 %	： 講義内で指定した課題、レポートについて評価する

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

特になし

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は1単位の科目であるため、平均すると毎回2時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。
なお、授業開始までに更衣を済ませておき、腕時計やピアスなどの装飾品は実技中に大きな損傷を招く恐れがあるため、全て取り外すこと。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：　授業時間前後

場所：　授業場所

授業計画

		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**オリエンテーション：近年のスポーツを取り巻く環境について。** 授業の進め方や成績評価の方法、受講マナーについてガイダンスを行う。また、近年におけるスポーツを取り巻く環境について理解し、安全かつ健全にかかわることの意義を学ぶ。	講義内で扱った内容について振り返る。	2時間
第2回	**バレーボール　～基礎的技能～** バレーボールのルール概略を説明し、基本技術の動きを修得する。	バレーボールのルールを理解する。	2時間
第3回	**バレーボール　～発展的技能～** バレーボールのフォーメーションの確認やコンビネーションの確認を行う。	バレーボールの戦術を理解する。	2時間
第4回	**バレーボール　～ゲーム～** チームに分かれてゲームを展開し、そのなかで、協調性・主体性を養う。	バレーボールのゲームを理解する。	2時間
第5回	**バスケットボール　～基礎的技能～** バスケットボールのルール概略を説明し、基本技術の動きを修得する。	バスケットボールのルールを理解する。	2時間
第6回	**バスケットボール　～発展的技能～** バスケットボールのフォーメーションの確認やコンビネーションの確認を行う。	バスケットボールの戦術を理解する。	2時間
第7回	**バスケットボール　～ゲーム～** チームに分かれてゲームを展開し、そのなかで、協調性・主体性を養う。	バスケットボールのゲームを理解する。	2時間
第8回	**バドミントン　～基礎的技能～** バドミントンのルール概略を説明し、基本技術の動きを修得する。	バドミントンのルールを理解する。	2時間
第9回	**バドミントン　～発展的技能～** バドミントンの発展的な攻撃や防御の練習を行う。	バドミントンの戦術を理解する。	2時間
第10回	**バドミントン　～ゲーム～** シングルスとダブルスに分かれてゲームを展開する。そのなかで、協調性・主体性を養う。	バドミントンのゲームを理解する。	2時間
第11回	**フットサル　～基礎的技能～** フットサルのルール概略を説明し、基本技術の動きを修得する。	フットサルのルールを理解する。	2時間
第12回	**フットサル　～発展的技能～** フットサルのフォーメーションの確認やコンビネーションの確認を行う。	フットサルの戦術を理解する。	2時間
第13回	**フットサル　～ゲーム～** チームに分かれてゲームを展開し、そのなかで、協調性・主体性を養う。	フットサルのゲームを理解する。	2時間
第14回	**授業の総括** 授業内で親しんだスポーツの総合的振り返りを行う。	講義内で扱った内容について振り返る。	2時間

111

授業科目名	**スポーツ演習Ⅱ（卓球）**				
担当教員名	濱口幹太・原裕昭				
学年・コース等	1～4年	開講期間	後期	単位数	1
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の概要					

授業概要

スポーツは人生をより豊かにし、充実したものとする世界共通の人類の文化のひとつである。心身の健全な発達に必要不可欠なものであり、人々が生涯にわたってスポーツに親しむことは大きな意義がある。この授業では卓球の実践を通じて、プレイするための基礎的なスキル習得及び、生涯スポーツとして実践できるスキルの習得を目指す。種目のルール、試合(ゲーム)に必要な技能、審判、指導法を理解し、シングルス、ダブルスのそれぞれのスタイルの特徴と面白さを実践を通じて学び、判断力や協調性といった集団技能を身につけ、スポーツをより楽しむことができるようになることを目的とする。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. 全学DP３.専門的知識・技能を実践で応用する力	卓球に関する知識及び実践できるスキル	卓球に関する知識及び実践のためのスキルを習得し、指導方法について理解できる。
汎用的な力		
1. 全学DP６.行動・実践		卓球における身体運動のメカニズムを理解する

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)

・実験、実技、実習

・問答法・コメントを求める

課題や取組に対する評価・振り返り

・実習や実技に対して個別にコメントします

・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

授業へは原則としてすべて出席してください。何らかの事情で欠席する場合は、シラバスや授業内での配布資料を参照し、自学により内容を確認し、必要な課題に取り組むようにしてください。なお、資格・免許取得に必要な科目は、単位修得に必要な授業時間数が定められている場合がありますので、注意してください。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
授業への取り組み	50 %	： 各回授業への積極的参加（作戦・立案の積極性や試合中の動き）や授業態度（受講マナー、スマートフォンの使用や集合時に集まらないなど授業の妨げになるような行為は減点対象とする。）などをもとに総合評価する。
授業中の課題レポート	20 %	： 指定された内容に従い、正確な文書表現および容易に理解できるよう、まとめられているかにより評価する。
期末レポート	30 %	： 14回の授業終了後にレポート実施する。指定された内容に従い、授業内容を踏まえ、自身の論理的な考察と参考文献等を用いて論述されているか、文字数や提出期限を守れているか、以上を総合的に評価し採点する。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

特になし。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は１単位の科目であるため、平均すると毎回2時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。
なお、授業開始までに更衣を済ませておき、腕時計やピアスなどの装飾品は実技中に大きな損傷を招く恐れがあるため、全て取り外すこと。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：　授業時間の前後

場所：　授業の実施場所

授業計画

		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**ガイダンス(卓球の説明、授業のすすめ方、評価方法)** 本実技の進め方、実施する競技の説明、ルール、卓球に必要なスキル等の説明を行う。	卓球のルール、試合方法について理解しておいくこと。	2時間
第2回	**ラケットの種類、握り方、フォアハンド・バックハンドの基本的な打ち方** 基礎的スキルの習得　・ルールの理解	卓球の特徴を理解し、基本的な打ち方の練習を行っておくこと。	2時間
第3回	**フォアハンド・バックハンドの打ち方の練習、サーブの練習、ゲーム** 基礎的スキルの習得・ルールの理解(審判)	フォアハンド・バックハンドの打ち方の練習を行っておくこと。	2時間
第4回	**連続ラリーの練習、サーブ、カットの打ち方、ゲーム** ・基本ストローク(サーブを中心) ・カットの打ち方 ・ルールの理解(審判と試合運営) ・試合の展開	サーブ、カットの打ち方の基本的な技術の練習を行っておくこと。	2時間
第5回	**連続ラリーの練習、様々なサーブの練習、試合** ・試合におけるスキルの習得(戦術) ・ルールの理解③(審判と試合運営) ・試合の展開	習得した技術(フォアハンド、バックハンド、サーブ、カット)の練習を行っておくこと。	2時間
第6回	**連続ラリーの練習、様々なサーブの練習、スマッシュの練習、試合** ・安定した連続ラリーの練習 ・フットワーク ・スマッシュの練習 ・ルールの理解 ・試合方法の理解	安定した連続ラリーとそれに必要なフットワークの練習を行っておくこと。	2時間
第7回	**試合の展開、シングルス(リーグ戦)　～前半～** ・ルールの理解(審判) ・シングルスの試合運営	卓球の試合運営(シングルス)を行う上で必要となるルールの理解、審判の方法を理解しておくこと。	2時間
第8回	**試合の展開、シングルス(リーグ戦)　～後半～** ・卓球に必要なスキルの習得(シングルスにおける試合戦術) ・ルールの理解(審判と試合運営)	卓球の試合運営(シングルス)を行う上で必要となるルールの理解、審判の方法を理解しておくこと。	2時間
第9回	**試合の展開、シングルス(レベル別の対戦形式)** ・卓球に必要なスキルの習得(シングルスにおける試合戦術) ・ルールの理解(審判と試合運営)	卓球の試合運営(シングルス)を行う上で必要となるルールの理解、審判の方法を理解しておくこと。	2時間
第10回	**試合の展開、ダブルス(リーグ戦)　～前半～** ・卓球に必要なスキルの習得(ダブルスにおける試合戦術) ・ルールの理解(審判と試合運営)	卓球の試合運営(ダブルス)を行う上で必要となるルールの理解、審判の方法を理解しておくこと。	2時間
第11回	**試合の展開、ダブルス(リーグ戦)　～後半～** ・卓球に必要なスキルの習得(ダブルスにおける試合戦術) ・ルールの理解(審判と試合運営)	卓球の試合運営(ダブルス)を行う上で必要となるルールの理解、審判の方法を理解しておくこと。	2時間
第12回	**試合の展開、ダブルス(レベル別の対戦形式)　～前半～** ・卓球に必要なスキルの習得(ダブルスにおける試合戦術) ・ルールの理解(審判と試合運営)	卓球の試合運営(ダブルス)を行う上で必要となるルールの理解、審判の方法を理解しておくこと。	2時間
第13回	**試合の展開、ダブルス(レベル別の対戦形式)　～後半～** ・卓球に必要なスキルの習得(ダブルスにおける試合戦術) ・ルールの理解(審判と試合運営)	試合(ダブルス)を展開運営する上で必要となるルールの理解、審判の方法を理解しておくこと。	2時間
第14回	**団体戦** ・卓球に必要なスキルの習得(団体戦における試合戦術) ・ルールの理解(審判と試合運営)	卓球の団体戦のルールを理解しておくこと。	2時間

114

授業科目名	**スポーツ演習Ⅱ（教育学部）**				
担当教員名	寳学淳郎・辻慎太郎・松尾貴司				
学年・コース等	4年	開講期間	前期	単位数	1
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の概要					

授業概要

近年「運動不足」「体力の低下」「身体活動量の低下」が各年代の生活習慣病の原因であると多くの研究で明らかにされ、改善しなければいけない問題とされています。特に、「運動が嫌い」・「スポーツが苦手」な幼児・児童・生徒が増加しており、運動を指導するだけではなく、楽しさを伝える指導力が重要となってきています。スポーツ演習Ⅱでは体力強化･身体づくりはもちろんのこと、運動やスポーツの楽しさを体感し、子ども達に楽しさを伝えられる人間を形成します。また、各種目の発展的な練習方法や試合展開方法について考える機会を授業に取り入れ、実践形式で実施していきます。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. 全学DP１.幅広い教養やスキル	一般的なスポーツに触れるだけではなく、発展的な練習方法や試合展開を学ぶことで、学んだ知識を生かすために汎用的な技能や実践能力を磨く。	教育者として、自身の体力の維持増進を図ると同時に、様々な運動の特性を知り、運動技能の向上を図る。

汎用的な力	
1. 全学DP６.行動・実践	健康や体力の維持増進、技術上達等を各人が体験する。
2. 全学DP８.意思疎通	様々な種目を通してコミュニケーション能力を育てる。
3. 全学DP９.役割理解・連携行動	実技を通し考える力を体得する。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)

・実験、実技、実習

・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

・実習や実技に対して個別にコメントします

・実技・実習後、全体に向けてコメントします

成績評価

注意事項等

授業へは原則としてすべて出席してください。何らかの事情で欠席する場合は、シラバスや授業内での配布資料を参照し、自学により内容を確認し、必要な課題に取り組むようにしてください。なお、資格・免許取得に必要な科目は、単位修得に必要な授業時間数が定められている場合がありますので、注意してください。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
授業への取り組み状況	40 %	： 各回授業への積極的参加（作戦・立案の積極性や試合中の動き）や授業態度（受講マナー、携帯電話の使用や集合時に集まらないなど授業の妨げになる行為は減点）などをもとに総合評価する。
授業中の課題レポート	20 %	： 指定された内容に沿い、正確な文書表現および容易に理解できるよう、まとめられているかにより評価する。
期末レポート	40 %	： 14回の授業終了後に、指定された内容に関するレポートを実施する。レポート内容に沿い、正確な文書表現および容易に理解できるよう、まとめられているかにより評価する。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

適宜資料を配布する。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は1単位の科目であるため、平均すると毎回2時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。
なお、教育学部指定のトレーニングウェアとシューズを着用し、授業開始までに更衣を済ませておくこと。
また、腕時計やピアスなどの装飾品は実技中に大きな損傷を招く恐れがあるため、全て取り外すこと。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：　授業の前後

場所：　授業の教室

備考・注意事項：　必要に応じて声を掛けて下さい。時間調整をします。

授業計画		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**講義目的と評価法についてオリエンテーション** 授業の進め方や成績評価の方法、受講マナーについてガイダンスを行う。また、近年において運動不足が問題視されていること、健康増進おいて求められる運動について理解し、スポーツの概念や生涯スポーツの大切さについて学修する。	自身の体力を向上させるためにはどのような運動を取り入れるべきか考えておくこと	2時間
第2回	**バスケットボール　個人技能練習法** ルールの概略を説明し理解を促す。また、バスケットボールの基礎的技術の向上を目的に、ボールハンドリング、シュート、パス、ドリブルの基礎的な動きの練習とその指導方法について学修する。	バスケットボールのルールを理解する	2時間
第3回	**バスケットボール　集団技能練習法** バスケットボールで求められる総合的な能力向上を目的として、これまでに行った基本的な練習に加えてフォーメーションなどの練習とその指導方法について学ぶ。講義の後半からは班対抗のゲームを行う。	バスケットボールの攻撃・防御方法について調べる	2時間
第4回	**バスケットボール　チーム練習・リーグ戦** バスケットボールの攻撃、防御について総合的な練習と指導方法について学び、チーム練習とリーグ戦を通じて、戦術などを考える力を養い、試合中の動きの意識や協調性・主体性を養う。	バスケットボールの戦術について調べる	2時間
第5回	**バレーボール　個人技能練習法** ルールの概略を説明し理解を促す。また、バレーボールの基礎的技術の向上を目的に、パス、レシーブ、トス、アタックの基礎的な動きの練習とその指導方法について学修する。	バレーボールのルールを理解する	2時間
第6回	**バレーボール　集団技能練習法** バレーボールで求められる総合的な能力向上を目的として、これまでに行った基本的な練習に加えてフォーメーションなどの練習とその指導方法について学ぶ。講義の後半からは班対抗のゲームを行う。	バレーボールの攻撃・防御方法について調べる	2時間
第7回	**バレーボール　チーム練習・リーグ戦** バレーボールの攻撃、防御について総合的な練習と指導方法について学び、チーム練習とリーグ戦を通じて、戦術などを考える力を養い、試合中の動きの意識や協調性・主体性を養う。	バレーボールの戦術について調べる	2時間
第8回	**バドミントン　個人技能練習法** ルールの概略を説明し理解を促す。また、バドミントンの基礎的技術の向上を目的に、スマッシュ、クリア、ドライブ、ドロップの基礎的な動きの練習とその指導方法について学修する。	バドミントンのルールを理解する	2時間
第9回	**バドミントン　集団技能練習法** バドミントンで求められる総合的な能力向上を目的として、これまでに行った基本的な練習に加えてダブルスのフォーメーションなどの練習とその指導方法について学ぶ。講義の後半からは班対抗のゲームを行う。	バドミントンの攻撃・防御方法について調べる	2時間
第10回	**バドミントン　チーム練習・リーグ戦** バドミントンの攻撃、防御について総合的な練習と指導方法について学び、チーム練習とリーグ戦を通じて、戦術などを考える力を養い、試合中の動きの意識や協調性・主体性を養う。	バドミントンの戦術について調べる	2時間
第11回	**ハンドボール　個人技能練習法** ルールの概略を説明し理解を促す。また、ハンドボールの基礎的技術の向上を目的に、ドリブル、パス、スローの基礎的な動きの練習とその指導方法について学修する。	ハンドボールのルールを理解する	2時間
第12回	**ハンドボール　集団技能練習法** ハンドボールで求められる総合的な能力向上を目的として、これまでに行った基本的な練習に加えてフォーメーションなどの練習とその指導方法について学ぶ。講義の後半からは班対抗のゲームを行う。	ハンドボールの攻撃・防御方法について調べる	2時間
第13回	**ハンドボール　チーム練習・リーグ戦**	ハンドボールの戦術について調べる	2時間

	ハンドボールの攻撃、防御について総合的な練習と指導方法について学び、チーム練習とリーグ戦を通じて、戦術などを考える力を養い、試合中の動きの意識や協調性・主体性を養う。		
第14回	**総合演習** これまで授業で学修した種目や内容について、総合的な演習を企画し実施する。	授業を振り返り、これまでの内容についてまとめる	2時間

111

授業科目名	**健康科学**				
担当教員名	中野尊志				
学年・コース等	1～4年	開講期間	前期／後期	単位数	2
授業形態	遠隔授業				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	教育機関にて関連教科指導				

授業概要

現代社会において、適度な運動の実践は肉体的にも精神的にも、また社会的にも健康で豊かな生活を送るために増々重要な要素となっている。本科目では、運動による身体の生理的反応や栄養摂取・睡眠を含めた質の高い食生活の送り方、スポーツ疾患の予防や対応等について概説する。実生活での健康づくりにおいて役立つ知識を獲得するにとどまらず、自身の健康について関心が持てるようにする。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. 全学DP１.幅広い教養やスキル	健康的な生活を営む上で必要な知識の習得。	日常生活における健康の知識を身に着けることができる。
2. 全学DP１.幅広い教養やスキル	生活習慣病を含めた現代の健康問題についての知識および運動・食事・睡眠による身体の生理的反応についての知識の習得。	健康の維持・増進における運動・食事・睡眠の効果について理解し、説明できる。
汎用的な力		
1. 全学DP４.課題発見		自身の生活、行動について振り返り、講義で得た知識を役立てることができる。
2. 全学DP６.行動・実践		得た知識を日常において実践に移すことができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)

・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

授業へは原則としてすべて出席してください。何らかの事情で欠席する場合は、シラバスや授業内での配布資料を参照し、自学により内容を確認し、必要な課題に取り組むようにしてください。なお、資格・免許取得に必要な科目は、単位修得に必要な授業時間数が定められている場合がありますので、注意してください。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
レポート課題	56 %	： 期日が守られているか。論理性のある内容になっているかの観点から評価する（4点×14回）。
授業内容の理解度	28 %	： 各自の授業内容の理解度を評価する（シャトルシート2点×14回）。
期末レポート	16 %	： 期日が守られているか。これまでの授業内容をもとに、論理性のある内容になっているかの観点から評価する。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

スポーツと生きる－生涯のスポーツライフ・デザイン－．学術図書出版
リファレンスブック．公益財団法人日本スポーツ協会

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。授業外学習課題に取り組むことに加え、その回の授業内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。また、講義資料の授業以外での無断使用は固く禁止する。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：　初回の授業で伝える

場所：　初回の授業で伝える

備考・注意事項：　連絡方法について初回の授業で伝える

授業計画		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**ガイダンスおよび健康の定義** 授業概要、到達目標、授業方法、成績評価、授業計画についてのガイダンスを行い、初回授業にて健康の定義について学習する	講義内容をもとに、自身の健康について考察を行う。	4時間
第2回	**健康の維持・増進における運動効果** 現代社会における運動の必要性や生活習慣病の予防・軽減に対する運動効果について概説する。	講義内容をもとに、健康の維持・増進における自身の運動習慣について考察を行う。	4時間
第3回	**体力についての基本的な考え方** 体力の定義と体力を構成する要素、その内容ついて概説する。	講義内容をもとに、自身の体力について考察を行う。	4時間
第4回	**幼児期・児童期・青年期おける身体機能の特性と適した運動** 幼児期・児童期・青年期における身体機能の発育発達の特性、各期に適した運動について概説する。	講義内容をもとに幼児期・児童期・青年期をテーマにした運動計画を立案する。	4時間
第5回	**壮年期・更年期おける身体機能の特性と適した運動** 壮年期・高齢期における身体機能の発育発達または老化の特性、各期に適した運動について概説する。	講義内容をもとに壮年期・高齢期をテーマにした運動計画を立案する。	4時間
第6回	**運動と栄養（1）** エネルギー摂取とエネルギー消費、運動とエネルギーの関係（エネルギー代謝）について概説する。	講義内容をもとに、自身のエネルギー摂取状況と運動活動量の現状について考察を行う。	4時間
第7回	**運動と栄養（2）** 栄養素の分類とその役割、疲労回復のための食事法について概説する。	講義内容をもとに自身の栄養摂取状況について考察を行う。	4時間
第8回	**良質な睡眠のとり方** 健康を維持するうえで重要な睡眠のメカニズム、良質な睡眠とその方法について概説する。	講義内容をもとに自身の睡眠の状況についての考察を行う。	4時間
第9回	**健康づくりのための運動基準と運動の数値・グラフ化** 厚生労働省による個人の健康づくりのための運動基準について概説する。	講義内容をもとに、自身の日常の運動を数値化・グラフ化する（運動実践報告）。	4時間
第10回	**有酸素運動の効果と最大酸素摂取量の測定** 有酸素運動の効果と有酸素的作業能力の指標とされる最大酸素摂取量のはかり方について概説する。	講義内容をもとに自身の推定最大酸素摂取量をはかる（運動実践報告）。	4時間
第11回	**筋力トレーニングの種類と方法** 筋力トレーニングの種類と実施方法、体の生理的反応、トレーニングの原理原則について概説する。	講義内容をもとにした筋力トレーニングを実施し、レポートにまとめる（運動実践報告）。	4時間
第12回	**スポーツ疾患（1）外科系疾患および救急処置について** 運動、スポーツの実施に伴う外科系疾患とその予防と対応について学習し、現場で事故に遭遇したときの対応を概説する。	救急処置（動画視聴）に関わるレポート課題	4時間
第13回	**スポーツ疾患（2）内科系疾患について** 運動、スポーツの実施に伴う内科系疾患とその予防と対応ついて学習し、現場で事故に遭遇したときの対応を概説する。	内科系疾患に関わるレポート課題	4時間
第14回	**健康の維持・増進についての施策** 健康の維持・増進に対する厚生労働省の取り組みについて概説する。	健康の維持増進に対する様々な取り組みの事例について調べる。	4時間

111

授業科目名	**健康科学**				
担当教員名	羽藤文彦				
学年・コース等	1～4年	開講期間	後期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の概要					

授業概要

スポーツの実践は個人が健康で豊かな社会生活を営む上で極めて重要な要素となっている。スポーツへの参加は社会性・協調性等の人格形成に寄与するのみならず、適度な運動を継続することにより生活習慣病の発症予防や改善が可能であり、心身の健康維持に極めて重要である。本科目では、正常な身体機能とともにスポーツ活動に伴う身体の生理的反応とその意義を講義し、健康の維持・向上のためのスポーツの意義を学習する。また、スポーツに伴う障害や疾病についても講義し、予防や対応の方法も学習する。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. 全学DP２.専門的知識・技能、職業理解	身体活動に伴う身体の変化や傷病について理解し、適切な対応ができる。	スポーツ活動に伴う身体的トラブルへの対応策を提示できる。
2. 全学DP１.幅広い教養やスキル	現代の社会背景をふまえて健康の維持・増進におけるスポーツの意義を理解する。	健康の維持・増進におけるスポーツの意義について説明できる。
汎用的な力		
1. 全学DP８.意思疎通		質問を理解し、適切な回答が出来る。
2. 全学DP10.忠恕の心		受講に適した行動を取ることが出来る。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)

・問答法・コメントを求める

課題や取組に対する評価・振り返り

・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

授業へは原則としてすべて出席してください。何らかの事情で欠席する場合は、シラバスや授業内での配布資料を参照し、自学により内容を確認し、必要な課題に取り組むようにしてください。なお、資格・免許取得に必要な科目は、単位修得に必要な授業時間数が定められている場合がありますので、注意してください。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準	
受講態度	25 %	:	授業での問いかけに対する積極性と論理性の２点から評価する。
授業内課題	25 %	:	期日が守られているか、論理性のある内容になっているかの観点から評価する。
期末レポート	50 %	:	レポートの形式、期日が守られているか、また内容に関しては引用文献、理論構築が適切にされているかの観点から評価する。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

特になし。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 水曜日4時限

場所： 保健センター

備考・注意事項： 下記のメールアドレスに質問を送って頂いても結構です。
大学のメールアドレス： hato@osaka-seikei.ac.jp

授業計画		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**健康の維持・増進におけるスポーツの意義** 健康の概念ならびに社会環境と身体活動の変化について説明し、現代社会での健康の維持・増進に対するスポーツの意義を概説する。	社会環境と身体活動強度の変遷について調べる。	4時間
第2回	**体力とは** 体力の分類とその内容について概説する。	一般的に（狭義の）体力という言葉が表す意味と広義の体力の意味を調べる。	4時間
第3回	**身体発育とその特性** 乳幼児期から老年期の身体発育・老化について概説し、各年齢層に適切な活動様式、スポーツ種目などについて説明する。	各年齢層での身体機能の発育・老化の特性について調べる。	4時間
第4回	**身体運動の機構** 身体運動がどのようにして行われるかを神経系、筋骨格系ならびに感覚器系の関連について概説する。	筋肉・骨格・関節の働き、大脳・小脳・脊髄の部位と感覚の種類について調べる。	4時間
第5回	**身体運動と循環・呼吸** 心血管系・呼吸器系と運動との関連について説明する。	心臓の構造と血液の成分・役割、気体の特性、呼吸器系の構造について調べる。	4時間
第6回	**身体運動と代謝** 身体運動においてどのような代謝が行われるかを説明する。	栄養素とエネルギー産生機構について調べる。	4時間
第7回	**有酸素運動と無酸素運動** 有酸素運動と無酸素運動における身体活動の相違を説明する。	エネルギー産生と酸素の関連について調べる。	4時間
第8回	**スポーツと栄養** スポーツにおける栄養補給の重要性について説明する。	栄養素と身体の構成・機能の関連について調べる。	4時間
第9回	**筋力と技巧性** 筋力の分類について説明し、技巧性と神経系や感覚器系の関連について概説する。	身体運動の機構について復習し、小脳と感覚について調べる。	4時間
第10回	**トレーニングの分類と特徴** トレーニングの分類について説明し、トレーニングの原理・原則と各種トレーニングの特徴を概説する。	トレーニングの種類とそれぞれの特性を調べる。	4時間
第11回	**成人のスポーツ活動中に多いケガや病気** 事故の発生要因について説明し、潜在的危険の存在について説明し、運動中に起こり易い病気や怪我とその予防策を概説する。	各自が経験あるいは居合わせた怪我や事故についての状況を授業内で発表できるようにまとめる。	4時間
第12回	**発育発達期に多い怪我や病気** 成人と異なり、乳児期から青年期にかけた発育発達期に起こりやすい怪我や病気について、身体発育の特性を踏まえて概説する。	身体の発達発育の特性について復習し、まとめを作成する。	4時間
第13回	**救急処置** 意識の確認、呼吸の確認について説明し、心臓マッサージや人工呼吸法ならびにAEDの使用法について概説する。	緊急時に冷静に救急処置が出来るようにイメージトレーニングによる復習を充分に行う。	4時間
第14回	**健康の維持・増進に対する施策の現状と今後の課題** 健康の維持・増進に対する施策の現状について概説し、今後の課題について意見交換を行う。	健康の維持・増進のため実施されている施策について調べ、その実施状況や問題点についてまとめる。	4時間

111

授業科目名	**健康科学**				
担当教員名	松尾貴司				
学年・コース等	1～4年	開講期間	前期／後期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の概要					

授業概要

日本の平均寿命は延伸しているが、今後は健康寿命の延伸が重要である。本講義では、社会問題とされている生活習慣病に関する基礎知識を学ぶとともに、自身の生活習慣を見直し健康管理ができるよう、適切な食事、睡眠、運動習慣に関する知識の習得を目指す。また、近年多く見られる若年女性の健康問題や小児肥満などについても考え、理解を深める。さらに、運動・栄養が身体に与える影響について、スポーツ科学の観点から学習する。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. 全学DP１.幅広い教養やスキル	健康に関連する食事、運動、休養に関して学ぶ。	健康な生活習慣に関する知識を習得できる。
汎用的な力		
1. 全学DP４.課題発見		自身の生活習慣を振り返り、適切な生活を送るための課題を発見できる。
2. 全学DP５.計画・立案力		発見した課題をもとに、健康的な生活を送るための計画を立てることができる。
3. 全学DP６.行動・実践		健康的な生活を送るための計画を実際に実践することができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)

・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)

・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

授業へは原則としてすべて出席してください。何らかの事情で欠席する場合は、シラバスや授業内での配布資料を参照し、自学により内容を確認し、必要な課題に取り組むようにしてください。なお、資格・免許取得に必要な科目は、単位修得に必要な授業時間数が定められている場合がありますので、注意してください。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
振り返りシート	35 %	： 授業内容の理解度を振り返りシートで評価する。全7回実施する。
レポート試験	65 %	： 講義内容の理解度、知識の習得ができているかをレポート試験で評価する。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

授業中に適宜紹介する。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。
※今後の状況に合わせて、授業の順番や内容を一部変更する場合がある。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 初回の授業で伝える

場所： 初回の授業で伝える

備考・注意事項： 連絡方法は初回授業時に伝える。

授業計画		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**ガイダンスおよび健康の定義について** 授業概要及び授業の目的や目標についてのガイダンスを行う。 健康の定義について学ぶ。	健康の定義をもとに、自身の生活習慣が健康的かどうか振り返る。	4時間
第2回	**生活習慣病について** 現代の生活習慣について考え、生活習慣病の予防および対策法について学ぶ。	振り返りシートの作成（健康的な生活習慣について）	4時間
第3回	**睡眠のメカニズムについて** 睡眠のメカニズムについて学び、健康的な睡眠習慣について考える。	自身の睡眠について睡眠時間、時間帯、質の三つの観点から振り返る。	4時間
第4回	**睡眠障害と健康について** 様々な年齢で生じる睡眠障害について理解し、その予防や対策法を学ぶ。	振り返りシートの作成（睡眠と健康について）	4時間
第5回	**メタボリックシンドロームについて** 生活習慣病であるメタボリックシンドロームの発症要因について学ぶ。	現代社会における肥満人口の変化について調べる。	4時間
第6回	**肥満と運動について** 肥満の予防に有効な運動について学ぶ。	振り返りシートの作成（肥満と運動について）	4時間
第7回	**飲酒と健康について** 飲酒が身体に与える影響について学び、健康な生活習慣について考える。	飲酒に関連する時事問題について調べる。	4時間
第8回	**喫煙と健康について** 喫煙が身体に与える影響について学び、健康な生活習慣について考える。	振り返りシートの作成（飲酒および喫煙と健康について）	4時間
第9回	**骨代謝について** 骨の構造や機能、骨代謝のメカニズムについて学ぶ。	現代人の骨密度低下問題について調べる。	4時間
第10回	**運動と健康について** 安全で効果的な運動について学び、運動が健康に与える影響について考える。	振り返りシートの作成（安全で効果的な運動について）	4時間
第11回	**ストレスのメカニズムについて** 身体がストレスを感じるメカニズムについて学ぶとともに、ストレスが免疫に与える影響についても学習する。	現代社会でのストレスとなる原因について調べる。	4時間
第12回	**運動とストレスの関係について** 運動がストレスに与える影響について学び、ストレス軽減の方法について考える。	振り返りシートの作成（ストレスと運動について）	4時間
第13回	**脳科学と健康** 脳の構造や機能について学び、脳科学の視点から健康について考える。	脳の働きについて調べる。	4時間
第14回	**現代社会での疲労問題について** 現代社会において問題視されている疲労関連問題について考え、疲労の予防法について脳科学の視点から学ぶ。	振り返りシートの作成（疲労と健康について）	4時間

111

授業科目名	**情報リテラシー１（経営）**				
担当教員名	中井秀樹・酒井真紀・豊田美喜子				
学年・コース等	1年	開講期間	前期	単位数	2
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の概要					

授業概要

この授業では、本学の学びにおいて必要不可欠なコンピュータスキルの基本を身につけることを目的とする。基本的には、Windowsパソコンの基本操作、インターネット検索の方法、電子メールを使った文書のやり取り、電子メールやSNSでのマナー、及び、文書作成ソフトを使った文書表現、表計算ソフトを使ったデータの分析・整理、プレゼンテーションソフトを使った発表資料の作成のためのMicrosoft Officeのツールハンドリングについて学ぶ。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. 全学DP１.幅広い教養やスキル	情報リテラシー	文書作成ソフト、電子メール、表計算ソフトやプレゼンテーションソフトの基本的操作ができる。
汎用的な力		
1. 全学DP６.行動・実践		独力で、課題に対して正確な表現や、表やグラフを使ってデータ整理・分析、分かりやすい発表資料の作成ができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)

・実験、実技、実習

・問答法・コメントを求める

課題や取組に対する評価・振り返り

・実技・実習後、全体に向けてコメントします

・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

授業へは原則としてすべて出席してください。何らかの事情で欠席する場合は、シラバスや授業内での配布資料を参照し、自学により内容を確認し、必要な課題に取り組むようにしてください。なお、資格・免許取得に必要な科目は、単位修得に必要な授業時間数が定められている場合がありますので、注意してください。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
授業への取り組み状況	12 %	： PC操作に関してのルールを遵守することを標準とし、積極的に学習しようとしているかを評価する。NESSを積極的に行っているかも評価する。
授業内でのPC操作修得状況	36 %	： 各授業において文書作成ソフト、表計算ソフト、プレゼンテーションソフト、電子メールの演習課題の完成度をもとに評価する。
総合課題の完成度	35 %	： 文書作成ソフト（15%）、表計算ソフト（20%）の各総合課題で文書表現の正確さ、データ整理の適切さにより評価する。
定期試験	17 %	： プレゼンテーションソフトを使用した試験を実施する。

使用教科書

指定する

著者	タイトル	出版社	出版年
	・ イチからしっかり学ぶ！Office基	・ noa出版	・ 2019 年

礎と情報モラル　Office365・2019
対応【NESS付】

参考文献等

特になし

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： Classroomのコメント欄等で

場所： Classroom

備考・注意事項： 各クラス、担当講師より授業内で通達する。
また、対面での質問を行いたい場合には、西館3階中井研究室へ（科目担当者が他者のクラスも含む）

授業計画		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**オリエンテーション、PCの操作、Word①入力・修正** 【オリエンテーション】 ・オリエンテーション ・GoogleClassroomの使い方（ダウンロード、アップロードの仕方）、画面の見方 ・TAサポート、ラーニングコモンズについて ・マウスの操作方法 ・アプリケーションの起動 ・ウィンドウの移動とサイズ変更 ・エクスプローラーの操作 ・ファイルやフォルダーの移動とコピー ・フォルダーの新規作成、保存、削除 ・Gmailの設定、送受信、PCメールのルール 【Word①】 ・Wordの基本操作 ・文書の新規作成、Wordの画面構成、リボンについて ・キーボード配列表、タッチタイピング、ホームポジション ・IMEの設定 ・さまざまな文字の入力と変換 ・文字の修正 ・文書の保存、文書を閉じる、文書を開く ・範囲設定、変換のタイミング、元に戻す	テキストの2から26ページまでを授業前に読み理解しておくこと。	4時間
第2回	**セキュリティと情報モラル** ・セキュリティとは ・コンピューターウィルス ・スパイウェア、不正アクセス、フィッシング詐欺 ・著作権、知的財産権、個人情報 ・ネチケット、ネットコミュニケーション	テキストの249から287ページまで読み、理解しておくこと。 NESSを使用した復習、タイピング練習	4時間
第3回	**Word②チラシ作成-1（書式・表作成）** ・書式(書式とは、フォント、中央揃え、フォントサイズ、フォントの色、太字・斜体、下線、インデント、タブ、均等割り付け) ・表の作成(表の構成要素、表の挿入、表の範囲指定、表内のカーソル移動、文字の入力、列幅の変更、セルの結合、表のスタイル、セルの配置、表の配置)	テキストの60から80ページまで読み、理解しておくこと。 NESSを使用した復習、タイピング練習	4時間
第4回	**Word③チラシ作成-2（各種オブジェクト・印刷）** ・ワードアート(ワードアートの挿入、フォントサイズ、文字の塗りつぶし、文字の効果、位置) ・オンライン画像(オンライン画像の挿入、文字列の折り返し) ・図の挿入 ・図形(図形の挿入、文字の入力) ・ページ罫線 ・印刷	テキストの60から80ページまで読み、理解しておくこと。 NESSを使用した復習、タイピング練習	4時間
第5回	**Word④レポート作成** ・ページ設定 ・表紙の作成 ・フッター(ページ番号の表示、ページ番号の書式設定) ・図の挿入 ・Excelのグラフの挿入 ・引用 ・図表番号 ・脚注 ・参考文献 ・スタイル	テキストの81から93ページまでまで読み、理解しておくこと。 NESSを使用した復習、タイピング練習	4時間
第6回	**Word⑤Word総合課題** Word総合課題を独力で完成する	テキストの29から93ページまで復習をしてくる NESSを使用した復習、タイピング練習	4時間
第7回	**Excel①表作成-1（基本操作）** ・Excelの基本操作 ・ブックの新規作成、Excelの画面構成 ・範囲指定 ・データの入力、訂正、削除 ・フォントの設定(フォント・フォントサイズ、太字・斜体、フォントの色、塗りつぶしの色)	テキストの99から122ページまで読み、理解しておくこと。 NESSを使用した復習、タイピング練習	4時間

第8回	**Excel②表作成-2（配置・表示形式）** ・配置の設定(セルを結合して中央揃え、中央揃え、右揃え) ・表示形式の設定(枠区切りスタイル、通貨表示形式、パーセントスタイル、小数点以下の表示桁数を増やす、日付の表示形式の変更) ・罫線 ・行の高さや列の幅の変更	テキストの99から122ページまで読み、理解しておくこと。 NESSを使用した復習、タイピング練習	4時間
第9回	**Excel③計算式-1** ・ビジネスで使われる計算式 ・数式の入力(数式に使う演算記号、売上金額の計算、累計の計算、達成率の計算、前日比の計算、伸び率の計算、再計算機能) ・数式のコピー(オートフィルを利用した数式のコピー、複数の数式のコピー、合計の計算)	テキストの130から152ページまで読み、理解しておくこと。 NESSを使用した復習、タイピング練習	4時間
第10回	**Excel④ 計算式-2、関数** ・相対参照と絶対参照(構成比の計算、絶対参照を使った数式のコピー) ・関数の利用(SUM関数、AVERAGE関数、シートの切り替え、IF関数)	テキストの130から152ページまで読み、理解しておくこと。 NESSを使用した復習、タイピング練習	4時間
第11回	**Excel⑤グラフ作成、ページ設定・印刷** ・Excelのグラフ ・棒グラフの作成(縦棒グラフの作成、グラフの移動とサイズ変更、グラフの要素) ・円グラフの作成 ・印刷イメージの確認 ・ページ設定 ・改ページプレビュー	テキストの153から176ページ、123から128ページまで読み、理解しておくこと。 NESSを使用した復習、タイピング練習	4時間
第12回	**Excel⑥、Excel総合課題** ・Excel総合課題を独力で完成する	テキストの99から176ページまで読み、理解しておくこと。 NESSを使用した復習、タイピング練習	4時間
第13回	**PowerPoint① プレゼンテーションとは、スライド作成-1** ・プレゼンテーションとは ・PowerPointの基本操作 ・プレゼンテーションの新規作成、画面構成 ・スライドのサイズを変更、スライドのデザインを選ぶ ・文字の入力（タイトルの入力、サブタイトルの入力） ・スライドの作成 ・ワードアート（ワードアートの挿入、ワードアートの編集、プレースホルダーの削除） ・SmartArt（SmartArtの挿入、文字の入力、色とスタイルの変更） ・画像の挿入	テキストの177から219ページまで読み、理解しておくこと。 NESSを使用した復習、タイピング練習	4時間
第14回	**PowerPoint② スライド作成-2、効果・発表準備** ・Excelの表とグラフの挿入 ・図形の作成 ・画面切り替え効果 ・アニメーション効果（文字に効果を付ける、SmartArtに効 果を付ける、図形に効果を付ける、順序の変更） ・スライドショーの実行	テキストの222から248ページまで読み、理解しておくこと。 NESSを使用した復習、タイピング練習	4時間

111

授業科目名	情報リテラシー１（国際観光学部）				
担当教員名	河野幸				
学年・コース等	1年	開講期間	前期	単位数	2
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の概要					

授業概要

この授業では、本学の学びにおいて必要不可欠なコンピュータスキルの基本を身につけることを目的とする。基本的には、Windowsパソコンの基本操作、インターネット検索の方法、電子メールを使った文書のやり取り、電子メールやSNSでのマナー、及び、文書作成ソフトを使った文書表現、表計算ソフトを使ったデータの分析・整理、プレゼンテーションソフトを使った発表資料の作成のためのMicrosoft Officeのツールハンドリングについて学ぶ。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. 全学DP１.幅広い教養やスキル	情報リテラシー	文書作成ソフト、電子メール、表計算ソフトやプレゼンテーションソフトの基本的操作ができる。
汎用的な力		
1. 全学DP６.行動・実践		独力で、課題に対して正確な表現や、表やグラフを使ってデータ整理・分析、分かりやすい発表資料の作成ができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)

・実験、実技、実習

・問答法・コメントを求める

課題や取組に対する評価・振り返り

・実技・実習後、全体に向けてコメントします

・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

授業へは原則としてすべて出席してください。何らかの事情で欠席する場合は、シラバスや授業内での配布資料を参照し、自学により内容を確認し、必要な課題に取り組むようにしてください。なお、資格・免許取得に必要な科目は、単位修得に必要な授業時間数が定められている場合がありますので、注意してください。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
授業への取り組み状況	12 %	： PC操作に関してのルールを遵守することを標準とし、積極的に学習しようとしているかを評価する。NESSを積極的に行っているかも評価する。
授業内でのPC操作修得状況	36 %	： 各授業において文書作成ソフト、表計算ソフト、プレゼンテーションソフト、電子メールの演習課題の完成度をもとに評価する。
総合課題の完成度	35 %	： 文書作成ソフト（15%）、表計算ソフト（20%）の各総合課題で文書表現の正確さ、データ整理の適切さにより評価する。
定期試験	17 %	： プレゼンテーションソフトを使用した試験を実施する。

使用教科書

指定する

著者	タイトル	出版社	出版年
	・ イチからしっかり学ぶ！Office基	・ noa出版	・ 2019 年

礎と情報モラル　Office365・2019
対応【NESS付】

参考文献等

特になし

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： Classroomのコメント欄等で

場所： Classroom

備考・注意事項： 各クラス、担当講師より授業内で通達する。
また、対面での質問を行いたい場合には、西館3階中井研究室へ（科目担当者が他者のクラスも含む）

授業計画		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**オリエンテーション、PCの操作、Word①入力・修正** 【オリエンテーション】 ・オリエンテーション ・GoogleClassroomの使い方（ダウンロード、アップロードの仕方）、画面の見方 ・TAサポート、ラーニングコモンズについて ・マウスの操作方法 ・アプリケーションの起動 ・ウィンドウの移動とサイズ変更 ・エクスプローラーの操作 ・ファイルやフォルダーの移動とコピー ・フォルダーの新規作成、保存、削除 ・Gmailの設定、送受信、PCメールのルール 【Word①】 ・Wordの基本操作 ・文書の新規作成、Wordの画面構成、リボンについて ・キーボード配列表、タッチタイピング、ホームポジション ・IMEの設定 ・さまざまな文字の入力と変換 ・文字の修正 ・文書の保存、文書を閉じる、文書を開く ・範囲設定、変換のタイミング、元に戻す	テキストの2から26ページまでを授業前に読み理解しておくこと。	4時間
第2回	**セキュリティと情報モラル** ・セキュリティとは ・コンピューターウィルス ・スパイウェア、不正アクセス、フィッシング詐欺 ・著作権、知的財産権、個人情報 ・ネチケット、ネットコミュニケーション	テキストの249から287ページまで読み、理解しておくこと。 NESSを使用した復習、タイピング練習	4時間
第3回	**Word②チラシ作成-1（書式・表作成）** ・書式(書式とは、フォント、中央揃え、フォントサイズ、フォントの色、太字・斜体、下線、インデント、タブ、均等割り付け) ・表の作成(表の構成要素、表の挿入、表の範囲指定、表内のカーソル移動、文字の入力、列幅の変更、セルの結合、表のスタイル、セルの配置、表の配置)	テキストの60から80ページまで読み、理解しておくこと。 NESSを使用した復習、タイピング練習	4時間
第4回	**Word③チラシ作成-2（各種オブジェクト・印刷）** ・ワードアート(ワードアートの挿入、フォントサイズ、文字の塗りつぶし、文字の効果、位置) ・オンライン画像(オンライン画像の挿入、文字列の折り返し) ・図の挿入 ・図形(図形の挿入、文字の入力) ・ページ罫線 ・印刷	テキストの60から80ページまで読み、理解しておくこと。 NESSを使用した復習、タイピング練習	4時間
第5回	**Word④レポート作成** ・ページ設定 ・表紙の作成 ・フッター(ページ番号の表示、ページ番号の書式設定) ・図の挿入 ・Excelのグラフの挿入 ・引用 ・図表番号 ・脚注 ・参考文献 ・スタイル	テキストの81から93ページまでまで読み、理解しておくこと。 NESSを使用した復習、タイピング練習	4時間
第6回	**Word⑤Word総合課題** Word総合課題を独力で完成する	テキストの29から93ページまで復習をしてくる NESSを使用した復習、タイピング練習	4時間
第7回	**Excel①表作成-1（基本操作）** ・Excelの基本操作 ・ブックの新規作成、Excelの画面構成 ・範囲指定 ・データの入力、訂正、削除 ・フォントの設定(フォント・フォントサイズ、太字・斜体、フォントの色、塗りつぶしの色)	テキストの99から122ページまで読み、理解しておくこと。 NESSを使用した復習、タイピング練習	4時間

第8回	**Excel②表作成-2（配置・表示形式）** ・配置の設定(セルを結合して中央揃え、中央揃え、右揃え) ・表示形式の設定(枠区切りスタイル、通貨表示形式、パーセントスタイル、小数点以下の表示桁数を増やす、日付の表示形式の変更) ・罫線 ・行の高さや列の幅の変更	テキストの99から122ページまで読み、理解しておくこと。 NESSを使用した復習、タイピング練習	4時間
第9回	**Excel③計算式-1** ・ビジネスで使われる計算式 ・数式の入力(数式に使う演算記号、売上金額の計算、累計の計算、達成率の計算、前日比の計算、伸び率の計算、再計算機能) ・数式のコピー(オートフィルを利用した数式のコピー、複数の数式のコピー、合計の計算)	テキストの130から152ページまで読み、理解しておくこと。 NESSを使用した復習、タイピング練習	4時間
第10回	**Excel④ 計算式-2、関数** ・相対参照と絶対参照(構成比の計算、絶対参照を使った数式のコピー) ・関数の利用(SUM関数、AVERAGE関数、シートの切り替え、IF関数)	テキストの130から152ページまで読み、理解しておくこと。 NESSを使用した復習、タイピング練習	4時間
第11回	**Excel⑤グラフ作成、ページ設定・印刷** ・Excelのグラフ ・棒グラフの作成(縦棒グラフの作成、グラフの移動とサイズ変更、グラフの要素) ・円グラフの作成 ・印刷イメージの確認 ・ページ設定 ・改ページプレビュー	テキストの153から176ページ、123から128ページまで読み、理解しておくこと。 NESSを使用した復習、タイピング練習	4時間
第12回	**Excel⑥、Excel総合課題** ・Excel総合課題を独力で完成する	テキストの99から176ページまで読み、理解しておくこと。 NESSを使用した復習、タイピング練習	4時間
第13回	**PowerPoint① プレゼンテーションとは、スライド作成-1** ・プレゼンテーションとは ・PowerPointの基本操作 ・プレゼンテーションの新規作成、画面構成 ・スライドのサイズを変更、スライドのデザインを選ぶ ・文字の入力（タイトルの入力、サブタイトルの入力） ・スライドの作成 ・ワードアート（ワードアートの挿入、ワードアートの編集、プレースホルダーの削除） ・SmartArt（SmartArtの挿入、文字の入力、色とスタイルの変更） ・画像の挿入	テキストの177から219ページまで読み、理解しておくこと。 NESSを使用した復習、タイピング練習	4時間
第14回	**PowerPoint② スライド作成-2、効果・発表準備** ・Excelの表とグラフの挿入 ・図形の作成 ・画面切り替え効果 ・アニメーション効果（文字に効果を付ける、SmartArtに効 果を付ける、図形に効果を付ける、順序の変更） ・スライドショーの実行	テキストの222から248ページまで読み、理解しておくこと。 NESSを使用した復習、タイピング練習	4時間

111

授業科目名	**情報リテラシー１（教育）**				
担当教員名	**河野幸・吹田のり子・酒井真紀**				
学年・コース等	1年	開講期間	前期	単位数	2
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の概要					

授業概要

この授業では、本学の学びにおいて必要不可欠なコンピュータスキルの基本を身につけることを目的とする。基本的には、Windowsパソコンの基本操作、インターネット検索の方法、電子メールを使った文書のやり取り、電子メールやSNSでのマナー、及び、文書作成ソフトを使った文書表現、表計算ソフトを使ったデータの分析・整理、プレゼンテーションソフトを使った発表資料の作成のためのMicrosoft Officeのツールハンドリングについて学ぶ。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. 全学DP１.幅広い教養やスキル	情報リテラシー	文書作成ソフト、電子メール、表計算ソフトやプレゼンテーションソフトの基本的操作ができる。
汎用的な力		
1. 全学DP６.行動・実践		独力で、課題に対して正確な表現や、表やグラフを使ってデータ整理・分析、分かりやすい発表資料の作成ができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)

・実験、実技、実習

・問答法・コメントを求める

課題や取組に対する評価・振り返り

・実技・実習後、全体に向けてコメントします

・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

授業へは原則としてすべて出席してください。何らかの事情で欠席する場合は、シラバスや授業内での配布資料を参照し、自学により内容を確認し、必要な課題に取り組むようにしてください。なお、資格・免許取得に必要な科目は、単位修得に必要な授業時間数が定められている場合がありますので、注意してください。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
授業への取り組み状況	12 %	： PC操作に関してのルールを遵守することを標準とし、積極的に学習しようとしているかを評価する。NESSを積極的に行っているかも評価する。
授業内でのPC操作修得状況	36 %	： 各授業において文書作成ソフト、表計算ソフト、プレゼンテーションソフト、電子メールの演習課題の完成度をもとに評価する。
総合課題の完成度	35 %	： 文書作成ソフト（15%）、表計算ソフト（20%）の各総合課題で文書表現の正確さ、データ整理の適切さにより評価する。
定期試験	17 %	： プレゼンテーションソフトを使用した試験を実施する。

使用教科書

指定する

著者	タイトル	出版社	出版年
	・ イチからしっかり学ぶ！Office基	・ noa出版	・ 2019 年

礎と情報モラル　Office365・2019
対応【NESS付】

参考文献等

特になし

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： Classroomのコメント欄等で

場所： Classroom

備考・注意事項： 各クラス、担当講師より授業内で通達する。
また、対面での質問を行いたい場合には、西館3階中井研究室へ（科目担当者が他者のクラスも含む）

授業計画		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**オリエンテーション、PCの操作、Word①入力・修正** 【オリエンテーション】 ・オリエンテーション ・GoogleClassroomの使い方（ダウンロード、アップロードの仕方）、画面の見方 ・TAサポート、ラーニングコモンズについて ・マウスの操作方法 ・アプリケーションの起動 ・ウィンドウの移動とサイズ変更 ・エクスプローラーの操作 ・ファイルやフォルダーの移動とコピー ・フォルダーの新規作成、保存、削除 ・Gmailの設定、送受信、PCメールのルール 【Word①】 ・Wordの基本操作 ・文書の新規作成、Wordの画面構成、リボンについて ・キーボード配列表、タッチタイピング、ホームポジション ・IMEの設定 ・さまざまな文字の入力と変換 ・文字の修正 ・文書の保存、文書を閉じる、文書を開く ・範囲設定、変換のタイミング、元に戻す	テキストの2から26ページまでを授業前に読み理解しておくこと。	4時間
第2回	**セキュリティと情報モラル** ・セキュリティとは ・コンピューターウィルス ・スパイウェア、不正アクセス、フィッシング詐欺 ・著作権、知的財産権、個人情報 ・ネチケット、ネットコミュニケーション	テキストの249から287ページまで読み、理解しておくこと。 NESSを使用した復習、タイピング練習	4時間
第3回	**Word②チラシ作成-1（書式・表作成）** ・書式(書式とは、フォント、中央揃え、フォントサイズ、フォントの色、太字・斜体、下線、インデント、タブ、均等割り付け) ・表の作成(表の構成要素、表の挿入、表の範囲指定、表内のカーソル移動、文字の入力、列幅の変更、セルの結合、表のスタイル、セルの配置、表の配置)	テキストの60から80ページまで読み、理解しておくこと。 NESSを使用した復習、タイピング練習	4時間
第4回	**Word③チラシ作成-2（各種オブジェクト・印刷）** ・ワードアート(ワードアートの挿入、フォントサイズ、文字の塗りつぶし、文字の効果、位置) ・オンライン画像(オンライン画像の挿入、文字列の折り返し) ・図の挿入 ・図形(図形の挿入、文字の入力) ・ページ罫線 ・印刷	テキストの60から80ページまで読み、理解しておくこと。 NESSを使用した復習、タイピング練習	4時間
第5回	**Word④レポート作成** ・ページ設定 ・表紙の作成 ・フッター(ページ番号の表示、ページ番号の書式設定) ・図の挿入 ・Excelのグラフの挿入 ・引用 ・図表番号 ・脚注 ・参考文献 ・スタイル	テキストの81から93ページまでまで読み、理解しておくこと。 NESSを使用した復習、タイピング練習	4時間
第6回	**Word⑤Word総合課題** Word総合課題を独力で完成する	テキストの29から93ページまで復習をしてくる NESSを使用した復習、タイピング練習	4時間
第7回	**Excel①表作成-1（基本操作）** ・Excelの基本操作 ・ブックの新規作成、Excelの画面構成 ・範囲指定 ・データの入力、訂正、削除 ・フォントの設定(フォント・フォントサイズ、太字・斜体、フォントの色、塗りつぶしの色)	テキストの99から122ページまで読み、理解しておくこと。 NESSを使用した復習、タイピング練習	4時間

第8回	**Excel②表作成-2（配置・表示形式）** ・配置の設定(セルを結合して中央揃え、中央揃え、右揃え) ・表示形式の設定(枠区切りスタイル、通貨表示形式、パーセントスタイル、小数点以下の表示桁数を増やす、日付の表示形式の変更) ・罫線 ・行の高さや列の幅の変更	テキストの99から122ページまで読み、理解しておくこと。 NESSを使用した復習、タイピング練習	4時間
第9回	**Excel③計算式-1** ・ビジネスで使われる計算式 ・数式の入力(数式に使う演算記号、売上金額の計算、累計の計算、達成率の計算、前日比の計算、伸び率の計算、再計算機能) ・数式のコピー(オートフィルを利用した数式のコピー、複数の数式のコピー、合計の計算)	テキストの130から152ページまで読み、理解しておくこと。 NESSを使用した復習、タイピング練習	4時間
第10回	**Excel④ 計算式-2、関数** ・相対参照と絶対参照(構成比の計算、絶対参照を使った数式のコピー) ・関数の利用(SUM関数、AVERAGE関数、シートの切り替え、IF関数)	テキストの130から152ページまで読み、理解しておくこと。 NESSを使用した復習、タイピング練習	4時間
第11回	**Excel⑤グラフ作成、ページ設定・印刷** ・Excelのグラフ ・棒グラフの作成(縦棒グラフの作成、グラフの移動とサイズ変更、グラフの要素) ・円グラフの作成 ・印刷イメージの確認 ・ページ設定 ・改ページプレビュー	テキストの153から176ページ、123から128ページまで読み、理解しておくこと。 NESSを使用した復習、タイピング練習	4時間
第12回	**Excel⑥、Excel総合課題** ・Excel総合課題を独力で完成する	テキストの99から176ページまで読み、理解しておくこと。 NESSを使用した復習、タイピング練習	4時間
第13回	**PowerPoint① プレゼンテーションとは、スライド作成-1** ・プレゼンテーションとは ・PowerPointの基本操作 ・プレゼンテーションの新規作成、画面構成 ・スライドのサイズを変更、スライドのデザインを選ぶ ・文字の入力（タイトルの入力、サブタイトルの入力） ・スライドの作成 ・ワードアート（ワードアートの挿入、ワードアートの編集、プレースホルダーの削除） ・SmartArt（SmartArtの挿入、文字の入力、色とスタイルの変更） ・画像の挿入	テキストの177から219ページまで読み、理解しておくこと。 NESSを使用した復習、タイピング練習	4時間
第14回	**PowerPoint② スライド作成-2、効果・発表準備** ・Excelの表とグラフの挿入 ・図形の作成 ・画面切り替え効果 ・アニメーション効果（文字に効果を付ける、SmartArtに効 果を付ける、図形に効果を付ける、順序の変更） ・スライドショーの実行	テキストの222から248ページまで読み、理解しておくこと。 NESSを使用した復習、タイピング練習	4時間

111

授業科目名	情報リテラシー１（データサイエンス学部・看護学部）				
担当教員名	吹田のり子				
学年・コース等	1年	開講期間	前期	単位数	2
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の概要					

授業概要

この授業では、本学の学びにおいて必要不可欠なコンピュータスキルの基本を身につけることを目的とする。基本的には、Windowsパソコンの基本操作、インターネット検索の方法、電子メールを使った文書のやり取り、電子メールやSNSでのマナー、及び、文書作成ソフトを使った文書表現、表計算ソフトを使ったデータの分析・整理、プレゼンテーションソフトを使った発表資料の作成のためのMicrosoft Officeのツールハンドリングについて学ぶ。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. 全学DP１.幅広い教養やスキル	情報リテラシー	文書作成ソフト、電子メール、表計算ソフトやプレゼンテーションソフトの基本的操作ができる。
汎用的な力		
1. 全学DP６.行動・実践		独力で、課題に対して正確な表現や、表やグラフを使ってデータ整理・分析、分かりやすい発表資料の作成ができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)

・実験、実技、実習

・問答法・コメントを求める

課題や取組に対する評価・振り返り

・実技・実習後、全体に向けてコメントします

・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

授業へは原則としてすべて出席してください。何らかの事情で欠席する場合は、シラバスや授業内での配布資料を参照し、自学により内容を確認し、必要な課題に取り組むようにしてください。なお、資格・免許取得に必要な科目は、単位修得に必要な授業時間数が定められている場合がありますので、注意してください。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
授業への取り組み状況	12 %	： PC操作に関してのルールを遵守することを標準とし、積極的に学習しようとしているかを評価する。NESSを積極的に行っているかも評価する。
授業内でのPC操作修得状況	36 %	： 各授業において文書作成ソフト、表計算ソフト、プレゼンテーションソフト、電子メールの演習課題の完成度をもとに評価する。
総合課題の完成度	35 %	： 文書作成ソフト（15%）、表計算ソフト（20%）の各総合課題で文書表現の正確さ、データ整理の適切さにより評価する。
定期試験	17 %	： プレゼンテーションソフトを使用した試験を実施する。

使用教科書

指定する

著者	タイトル	出版社	出版年
	・ イチからしっかり学ぶ！Office基	・ noa出版	・ 2019 年

礎と情報モラル　Office365・2019
対応【NESS付】

参考文献等

特になし

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： Classroomのコメント欄等で

場所： Classroom

備考・注意事項： 各クラス、担当講師より授業内で通達する。
また、対面での質問を行いたい場合には、西館3階中井研究室へ（科目担当者が他者のクラスも含む）

授業計画		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**オリエンテーション、PCの操作、Word①入力・修正** 【オリエンテーション】 ・オリエンテーション ・GoogleClassroomの使い方（ダウンロード、アップロードの仕方）、画面の見方 ・TAサポート、ラーニングコモンズについて ・マウスの操作方法 ・アプリケーションの起動 ・ウィンドウの移動とサイズ変更 ・エクスプローラーの操作 ・ファイルやフォルダーの移動とコピー ・フォルダーの新規作成、保存、削除 ・Gmailの設定、送受信、PCメールのルール 【Word①】 ・Wordの基本操作 ・文書の新規作成、Wordの画面構成、リボンについて ・キーボード配列表、タッチタイピング、ホームポジション ・IMEの設定 ・さまざまな文字の入力と変換 ・文字の修正 ・文書の保存、文書を閉じる、文書を開く ・範囲設定、変換のタイミング、元に戻す	テキストの2から26ページまでを授業前に読み理解しておくこと。	4時間
第2回	**セキュリティと情報モラル** ・セキュリティとは ・コンピューターウィルス ・スパイウェア、不正アクセス、フィッシング詐欺 ・著作権、知的財産権、個人情報 ・ネチケット、ネットコミュニケーション	テキストの249から287ページまで読み、理解しておくこと。 NESSを使用した復習、タイピング練習	4時間
第3回	**Word②チラシ作成-1（書式・表作成）** ・書式(書式とは、フォント、中央揃え、フォントサイズ、フォントの色、太字・斜体、下線、インデント、タブ、均等割り付け) ・表の作成(表の構成要素、表の挿入、表の範囲指定、表内のカーソル移動、文字の入力、列幅の変更、セルの結合、表のスタイル、セルの配置、表の配置)	テキストの60から80ページまで読み、理解しておくこと。 NESSを使用した復習、タイピング練習	4時間
第4回	**Word③チラシ作成-2（各種オブジェクト・印刷）** ・ワードアート(ワードアートの挿入、フォントサイズ、文字の塗りつぶし、文字の効果、位置) ・オンライン画像(オンライン画像の挿入、文字列の折り返し) ・図の挿入 ・図形(図形の挿入、文字の入力) ・ページ罫線 ・印刷	テキストの60から80ページまで読み、理解しておくこと。 NESSを使用した復習、タイピング練習	4時間
第5回	**Word④レポート作成** ・ページ設定 ・表紙の作成 ・フッター(ページ番号の表示、ページ番号の書式設定) ・図の挿入 ・Excelのグラフの挿入 ・引用 ・図表番号 ・脚注 ・参考文献 ・スタイル	テキストの81から93ページまでまで読み、理解しておくこと。 NESSを使用した復習、タイピング練習	4時間
第6回	**Word⑤Word総合課題** Word総合課題を独力で完成する	テキストの29から93ページまで復習をしてくる NESSを使用した復習、タイピング練習	4時間
第7回	**Excel①表作成-1（基本操作）** ・Excelの基本操作 ・ブックの新規作成、Excelの画面構成 ・範囲指定 ・データの入力、訂正、削除 ・フォントの設定(フォント・フォントサイズ、太字・斜体、フォントの色、塗りつぶしの色)	テキストの99から122ページまで読み、理解しておくこと。 NESSを使用した復習、タイピング練習	4時間

第8回	**Excel②表作成-2（配置・表示形式）** ・配置の設定(セルを結合して中央揃え、中央揃え、右揃え) ・表示形式の設定(枠区切りスタイル、通貨表示形式、パーセントスタイル、小数点以下の表示桁数を増やす、日付の表示形式の変更) ・罫線 ・行の高さや列の幅の変更	テキストの99から122ページまで読み、理解しておくこと。 NESSを使用した復習、タイピング練習	4時間
第9回	**Excel③計算式-1** ・ビジネスで使われる計算式 ・数式の入力(数式に使う演算記号、売上金額の計算、累計の計算、達成率の計算、前日比の計算、伸び率の計算、再計算機能) ・数式のコピー(オートフィルを利用した数式のコピー、複数の数式のコピー、合計の計算)	テキストの130から152ページまで読み、理解しておくこと。 NESSを使用した復習、タイピング練習	4時間
第10回	**Excel④ 計算式-2、関数** ・相対参照と絶対参照(構成比の計算、絶対参照を使った数式のコピー) ・関数の利用(SUM関数、AVERAGE関数、シートの切り替え、IF関数)	テキストの130から152ページまで読み、理解しておくこと。 NESSを使用した復習、タイピング練習	4時間
第11回	**Excel⑤グラフ作成、ページ設定・印刷** ・Excelのグラフ ・棒グラフの作成(縦棒グラフの作成、グラフの移動とサイズ変更、グラフの要素) ・円グラフの作成 ・印刷イメージの確認 ・ページ設定 ・改ページプレビュー	テキストの153から176ページ、123から128ページまで読み、理解しておくこと。 NESSを使用した復習、タイピング練習	4時間
第12回	**Excel⑥、Excel総合課題** ・Excel総合課題を独力で完成する	テキストの99から176ページまで読み、理解しておくこと。 NESSを使用した復習、タイピング練習	4時間
第13回	**PowerPoint① プレゼンテーションとは、スライド作成-1** ・プレゼンテーションとは ・PowerPointの基本操作 ・プレゼンテーションの新規作成、画面構成 ・スライドのサイズを変更、スライドのデザインを選ぶ ・文字の入力（タイトルの入力、サブタイトルの入力） ・スライドの作成 ・ワードアート（ワードアートの挿入、ワードアートの編集、プレースホルダーの削除） ・SmartArt（SmartArtの挿入、文字の入力、色とスタイルの変更） ・画像の挿入	テキストの177から219ページまで読み、理解しておくこと。 NESSを使用した復習、タイピング練習	4時間
第14回	**PowerPoint② スライド作成-2、効果・発表準備** ・Excelの表とグラフの挿入 ・図形の作成 ・画面切り替え効果 ・アニメーション効果（文字に効果を付ける、SmartArtに効 果を付ける、図形に効果を付ける、順序の変更） ・スライドショーの実行	テキストの222から248ページまで読み、理解しておくこと。 NESSを使用した復習、タイピング練習	4時間

111

授業科目名	**情報リテラシー２**				
担当教員名	中井秀樹				
学年・コース等	1年	開講期間	後期	単位数	２
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の概要					

授業概要

この授業では、大学での学びにおいて必要不可欠な情報を活用する基本的なスキルを身につけることを目的とする。
具体的には、課題解決に必要な情報を収集し、収集した情報を課題解決に向けて適切に加工して解決案を作成する。
そして、作成した解決案を分かりやすく伝達するといった一連の活動を、コンピュータとインターネット（ＩＣＴ）を使って行えるようする。
授業では、具体的な演習課題を通して、この一連の情報活用能力を身につける。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. 全学DP１.幅広い教養やスキル	アカデミックスキル	解決案を分かりやすく表現した発表資料を作成し、発表ができる。
汎用的な力		
1. 全学DP４.課題発見		インターネットを使って必要な情報を適切に収集・選択し、課題を発見し、解決案を論理的に組み立てて表現することができる。
2. 全学DP８.意思疎通		自分の意見をしっかり述べることができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
・実験、実技、実習
・問答法・コメントを求める
・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

・実技・実習後、全体に向けてコメントします
・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

授業へは原則としてすべて出席してください。何らかの事情で欠席する場合は、シラバスや授業内での配布資料を参照し、自学により内容を確認し、必要な課題に取り組むようにしてください。なお、資格・免許取得に必要な科目は、単位修得に必要な授業時間数が定められている場合がありますので、注意してください。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準	
授業への取り組み状況	20 %	:	授業における演習への取り組み姿勢、受講態度などで評価する。
授業内での課題達成率	30 %	:	情報収集した情報の適切さ、グラフ等による分析の適切さ、内容の論理性を評価する。
総合演習での成果	30 %	:	発表資料と発表内容について、わかりやすさ、表現の適切さ、取り組み姿勢について評価する。
定期試験（レポート試験）	20 %	:	授業内で学修した内容について、課題作成を行う。

使用教科書

指定する

著者	タイトル	出版社	出版年
	・考える　伝える　分かち合う　情報活用力	・noa出版	・2017　年

参考文献等

特になし

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 水曜日４限

場所： 西館3階

備考・注意事項： メールでの質問はnakai-hi@g.osaka-seikei.ac.jpに
用件は明確につたえるようにしてください。
どの課題のどの部分についての質問で、どこまでの操作ができているのか。どの操作がうまくできないのかなどを確実に伝えるようにしてください。

授業計画

		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**オリエンテーション、情報リテラシー1の復習** 当該授業の目標、学習内容、評価について確認する。 情報リテラシー１で学んだWord、Excelの操作の復習をする。	情報リテラシー1で学んだPC操作の苦手な箇所を復習する。	4時間
第2回	**情報検索** 情報収集の役割や価値を理解し、インターネットを活用した情報検索を実践する。 また情報の検索方法を理解した上で、実際の社会における情報運用に関する課題を検索し、検証する。	情報リテラシー1で学んだPC操作の苦手な箇所を復習する。	4時間
第3回	**情報運用・ファイルデータ管理** 情報を運用するにあたって、理解しておくべきファイル・データのセキュリティや取り扱いについて学習する。 また情報の運用方法を理解した上で、実社会を想定し、情報運用に関する課題を実施する。	次回の授業で使用するExcelの基本操作を復習する。	4時間
第4回	**数値分析Ⅰ（基本的観点）** 数値分析の基本的な考え方や観点（比較・変化・構造）を学習する。	授業で学習した数値分析の考え方を理解した上で、Excelの各種操作を復習する。	4時間
第5回	**数値分析Ⅱ（実践）** 表計算ソフトを使ったデータ分析処理方法（集計・グラフ・基本統計量）を学び、実践する。	次回の授業で使用するExcelの各種機能を予習する。	4時間
第6回	**データベース** 表計算ソフトのデータベース機能を用いて、データベースの概念を理解する。 またデータベースの概念を理解した上で、実社会を想定し、課題を実施する。	次回の授業で学習するインターネットコミュニケーションに関する事例を情報収集する。	4時間
第7回	**インターネットコミュニケーション** メールの活用方法（CC/BCC・添付ファイル・マナー・トラブル対処など）や掲示板の特性、また利用マナーを理解する。またインターネットコミュニケーションの利用方法を理解した上で、実社会を想定し、課題を実施する。	次回の授業で使用するWordの各種機能を予習する。	4時間
第8回	**文書表現** 情報整理のテクニックを理解し、文書作成の作法やフォーマットを学習する。 また正しい文書作成の方法を理解した上で、実社会を想定し、文書作成の課題を実施する。	課題提出に関して、論理的な文書の組み立てになるように見直し、提出する。	4時間
第9回	**ビジュアル表現** 情報検索及びデータ分析結果など、あらゆる情報を文書で表現する際の効果的なビジュアル表現を学習する。またビジュアル表現の正しい使い方を理解した上で、実社会を想定し、課題を実施する。	課題提出に関して、効果的なビジュアル表現を用いた分かりやすい資料を構成し、提出する。	4時間
第10回	**PowerPontの基本操作** ・プレゼンテーションとは ・PowerPointの起動方法、PowerPontのスタート画面の構成 ・プレゼンテーションの新規作成、画面構成 ・スライドの基本操作	プレゼンテーションに関する事例を情報収集する。	4時間
第11回	**プレゼンテーションⅠ（基本）** 発表する場面を想定して、プレゼンテーションの基本を学習する。	第14回目の授業を想定し、調査しておくこと。	4時間
第12回	**プレゼンテーションⅡ（資料作成）**	第14回目の授業を想定し、効果的なプレゼンテーション資料を作成する。	4時間

	効果的なプレゼンテーション資料の作成方法を学習する。 課題に関連する事象を調べ、プレゼンテーション資料の作成を開始する。		
第13回	**プレゼンテーションⅢ（発表準備）** 第11回及び第12回で学習した内容をもとに、発表内容及びPowerPontの資料を作成し、発表の練習をする。	発表を想定したPowerPoint資料を完成する。	4時間
第14回	**プレゼンテーションⅣ（発表）** 第13回で作成したプレゼンテーションの内容を発表する。 発表に対し、コメント及び評価する。	これまでに学んだことを元に効果的な発表を復習する。	4時間

111

授業科目名	**情報リテラシー３**				
担当教員名	小沼良次/滝川雄貴				
学年・コース等	1年	開講期間	前期	単位数	2
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	【小沼 良次】 デジタルハリウッド大学大学院等の講師のほか、Web、映像などジャンルにとらわれず、現役のテクニカルディレクター・デザイナーとして幅広く活躍。 【滝川 雄貴】 ソースボックス（srcbox Inc.）代表。桑沢デザイン研究所を卒業後、2002年4月にデザインオフィスソースボックスを設立する（2005年に法人化）。デザイナーとして、WEB・グラフィックの制作を中心に幅広くプロジェクトに携わっている。				

授業概要

画像メディア製作において、代表的アプリケーションソフトであるAdobe PhotoshopとAdobe Illustratorの基本操作と活用を実習形式で習得する。名刺やDM、バナー、タイプ別のWebサイトのインターフェイスデザインの作成を通して IllustratorとPhotoshopとFigmaの基礎を習得し、継続して自発的に楽しく学ぶベースを作る。また「デザイン概論」で「デザインの4原則」「配色」「タイポグラフィ」等のデジタルデザインを行う上で必要な知識についても学ぶ。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. 全学DP２.専門的知識・技能、職業理解	デジタルクリエイティブの基礎知識と基礎スキル	専門的な学びの前提となる分野に関する歴史的・理論的な知識を学び、美的判断力を養い、専門分野について客観的に論述する能力を培う。
2. 全学DP３.専門的知識・技能を実践で応用する力	様々なクリエイティブを制作できる力	社会で実践するために必要とされる力として、課題解決力・完遂力（課題を解決するための道筋を考え、実践する力）養う。
汎用的な力		
1. 全学DP５.計画・立案力		作品制作を通じて、人々に感動を伝えることができる。
2. 全学DP６.行動・実践		与えられた課題や問題解決のため、計画的に行動しようとする行動力を身につけている。
3. 全学DP７.完遂		課題を納期通りに一定以上の品質で納品できる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)

・実験、実技、実習

・eラーニング、反転授業

・その他(以下に概要を記述)

履修期間中にオフィスアワー（Zoomでのオンライン、または教室での対面）を開催します。担当教員が授業内容や課題制作に関する質問対応をします。予約不要、途中入退室自由です。お気軽に参加下さい。

課題や取組に対する評価・振り返り

・提出物にコメント・評価をつけて返却します

・その他(以下に概要を記述)

LMS（ラーニングマネジメントシステム）上で随時、質問対応を行います。

成績評価

注意事項等

授業へは原則としてすべて出席してください。何らかの事情で欠席する場合は、シラバスや授業内での配布資料を参照し、自学により内容を確認し、必要な課題に取り組むようにしてください。なお、資格・免許取得に必要な科目は、単位修得に必要な授業時間数が定められている場合がありますので、注意してください。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
各回の制作レポート課題・確認テスト 70 %	：	各回の授業内容通りのものが制作できているかどうかが評価基準です。 ※再提出・再受験可
単位修得試験（制作課題）の完成度	：	①作品を作る各工程において 適切なアプリケーション および 機能が使用されている ②デザインが仕様に沿ったものになっていて、かつ 無駄のないレイヤー管理などが行なわれている ③作品に配置する必要なある情報が もれなく適切に配置されている ④レイアウトや配色、画像のレタッチや合成などが商用レベルのクオリティに達している 以上の観点で評価します。

30　%

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

なし

履修上の注意・備考・メッセージ

・Adobe PhotoshopとAdobe Illustrator、figma
運営側でも検証・対応を進めておりますが、一部機能変更によりオンデマンド型動画教材と差異が出る可能性があります。予めご容赦ください。
※AdobeCCのインストール等については、直接アドビ社にお問い合わせ下さい。

・Figmaが使えるように動画教材を見ながらアカウントを作ってください。
ブラウザ版（無料）で動作できれば学習は進められます。

・上記ソフトが動作するスペックのPC
※スペックについては、https://helpx.adobe.com/jp/creative-cloud/system-requirements.html　を参照下さい。

・他学生の成果物を剽窃した、剽窃に協力したと見なされる場合は、剽窃者・剽窃に協力した者の両者に対して厳重な処罰を行います。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 24時間受付可能

場所： 学習管理システム

備考・注意事項： 学習管理システム上で24時間質問受付可能です。
また、履修期間中に必要に応じてオフィスアワー（Zoomでのオンライン、または教室での対面）を開催します。担当教員が授業内容や課題制作に関する質問対応をします。予約不要、途中入退室自由です。お気軽に参加下さい。https://portal.osaka-seikei.ac.jp/web_gen/syllabus/image/btn/btn_plan_input11.gif

授業計画

		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**デザイン概論（1）** デザインとは何か、アートとの違いとは何か、デザイナーの役割とは何かを理解する。 デザインの4原則を理解する。 （学習内容の内訳） ①デザイン概論(1) ②デザイン概論(2) ③2つの事例紹介 ④「デザインの言語化 」トレーニング ⑤レイアウトとは？ ⑥デザイン制作の流れを知る ⑦デザインの4原則を習得する理由 ⑧近接とは？整列とは？ ⑨対比とは？対比の事例 ⑩反復とは？	・授業内で紹介したAdobeのアプリケーションの機能と専門用語を理解しておくこと。・繰り返しオンデマンド型動画教材を視聴し、授業内容をよく理解した上で課題および復習に取り組むこと。・制作レポート課題を課します、第1回授業内容で（動画教材内の）先生が制作している成果物を実際にその通りに制作して下さい。そして、その制作データを指定場所に提出して下さい。	5時間
第2回	**デザイン概論（2）※第1回の続き** デザインの基礎知識（レイアウト・配色に着いてなど）を学習する。 （学習内容の内訳） ①その他、レイアウトのコツ ②レイアウトの実践　(1)　(2) ③レイアウトの実践　(3)　(4) ④デザイン制作の流れを振り返る ⑤色の重要性・色彩の基礎知識 ⑥色の3属性と色の与えるイメージ ⑦トーンと色彩調和・ユーザー視点に立った配色 ⑧その他、配色のコツ ⑨代表的な配色方法 ⑩Adobe Colorなどのツール ⑪Chocolateパッケージの配色	・授業内で紹介したAdobeのアプリケーションの機能と専門用語を理解しておくこと。・繰り返しオンデマンド型動画教材を視聴し、授業内容をよく理解した上で課題および復習に取り組むこと。・制作レポート課題を課します、第2回授業内容で（動画教材内の）先生が制作している成果物を実際にその通りに制作して下さい。そして、その制作データを指定場所に提出して下さい。	5時間
第3回	**デザイン概論（3）**	・授業内で紹介したAdobeのアプリケーションの機能と専門用語を理解しておくこと。・繰り返しオンデマンド型動画教材を視聴し、授業内容をよく理解した上で課題および復習に取り組むこと。・制作レポート課題を課します、第3回授業内容で（動画教材内の）先生が制作している成果物を実際にその通りに制作して下さい。そして、その制作データを指定場所に提出して下さい。	5時間

	タイポグラフィについて学習する （学習内容の内訳） ①タイポグラフィとは？書体の基礎知識 ②欧文書体の歴史_セリフ体 ③欧文書体の歴史_サンセリフ体 ④和文書体の歴史_明朝体-ゴシック体-その他 ⑤本文の組版 ⑥どうしたら迷走せず、書体を選択できるか？ ⑦媒体によるそれぞれの一般的な本文の文字サイズ ⑧横書き文字の字間調整 ⑨実際に手を動かしてみよう ⑩縦書きの字間調整 ⑪複数行の分頭、和欧混植、記号・約物の扱い		
第4回	**グラフィック講座（基礎）Illustrator（1）** Illustratorの基本操作を学習する （学習内容の内訳） ①はじめに ②AdobeFontsのアクティベート方法 ③『Adobe Illustrator』とは ④基本操作 ⑤レイヤーについて ⑥作業前準備(1)環境設定 ⑦作業前準備(2)_ワークスペースの設定 ⑧データの保存形式について	・授業内で紹介したAdobeのアプリケーションの機能と専門用語を理解しておくこと。・繰り返しオンデマンド型動画教材を視聴し、授業内容をよく理解した上で課題および復習に取り組むこと。・制作レポート課題を課します、第4回授業内容で（動画教材内の）先生が制作している成果物を実際にその通りに制作して下さい。そして、その制作データを指定場所に提出して下さい。	5時間
第5回	**グラフィック講座（基礎）Illustrator（2）　第4回の続き** Illustratorの基本操作を学習する Illustratorでイラスト（ランチョンマット・パン）を描く （学習内容の内訳） ①データの書き出しについて ②【appendix】印刷入稿データを作成する場合(1) ③【appendix】印刷入稿データを作成する場合(2) ④【appendix】印刷入稿データを作成する場合(3) ⑤ワークの作成準備 ⑥イラスト作成（1）ランチョンマット ⑦イラスト作成（2）食パン(1) ⑧イラスト作成（2）食パン(2)	・授業内で紹介したAdobeのアプリケーションの機能と専門用語を理解しておくこと。・繰り返しオンデマンド型動画教材を視聴し、授業内容をよく理解した上で課題および復習に取り組むこと。・制作レポート課題を課します、第5回授業内容で（動画教材内の）先生が制作している成果物を実際にその通りに制作して下さい。そして、その制作データを指定場所に提出して下さい。	5時間
第6回	**グラフィック講座（基礎）Illustrator（3）　第5回の続き** Illustratorでイラスト（ドーナツ）を描く Illustratorでメインタイトルのデザインをする （学習内容の内訳） ①イラスト作成（3）ドーナツ(1) ②イラスト作成（3）ドーナツ(2) ③メインタイトルデザイン（1）文字の挿入-調整 ④メインタイトルデザイン（2）文字のアウトライン化 ⑤メインタイトルデザイン（3）文字のレイアウト ⑥メインタイトルデザイン（4）パーツを描く ⑦メインタイトルデザイン（5）パーツの配置(1) ⑧メインタイトルデザイン（5）パーツの配置(2) ⑨メインタイトルデザイン（6）色の変更	・授業内で紹介したAdobeのアプリケーションの機能と専門用語を理解しておくこと。・繰り返しオンデマンド型動画教材を視聴し、授業内容をよく理解した上で課題および復習に取り組むこと。・制作レポート課題を課します、第6回授業内容で（動画教材内の）先生が制作している成果物を実際にその通りに制作して下さい。そして、その制作データを指定場所に提出して下さい。	5時間
第7回	**グラフィック講座（基礎）Photoshop（1）** Photoshopの基本操作を学習する （学習内容の内訳） ①『Adobe Photoshop』とは ②基本操作 ③レイヤーについて ④レイヤーマスクについて ⑤作業前準備 ⑥データの保存形式について ⑦データの書き出しについて	・授業内で紹介したAdobeのアプリケーションの機能と専門用語を理解しておくこと。・繰り返しオンデマンド型動画教材を視聴し、授業内容をよく理解した上で課題および復習に取り組むこと。・制作レポート課題を課します、第7回授業内容で（動画教材内の）先生が制作している成果物を実際にその通りに制作して下さい。そして、その制作データを指定場所に提出して下さい。	5時間
第8回	**グラフィック講座（基礎）Photoshop（2）　※第7回の続き**	・授業内で紹介したAdobeのアプリケーションの機能と専門用語を理解しておくこと。・繰り返しオンデマンド型動画教材を視聴し、授業内容をよく理解した上で課題および復習に取り組むこと。・制作レポート課題を課します、第8回授業内容で（動画教材内の）先生が制作している成果物を実際にその通りに制作して下さい。そして、その制作データを指定場所に提出して下さい。	5時間

	Photoshopで画像の補正とトリミングをする （学習内容の内訳） ①色調補正レイヤーの使い方(1) ②色調補正レイヤーの使い方(2) ③準備-パンA 画像切り抜き_自動選択ツール・画像補正 ④準備-パンB 画像切り抜き_クイックマスクを使用する・画像補正 ⑤準備-パンC 画像切り抜き_選択とマスクを使用する・画像補正 ⑥準備-パンD（1）ペンツールを使用する(1) ⑦準備-パンD（1）ペンツールを使用する(2)　準備-パンD（2）画像補正 ⑧トリミング		
第9回	**グラフィック講座（基礎）Photoshop（3）　※第8回の続き** PhotoshopでLPのメインビジュアル　カバー画像を作成する （学習内容の内訳） ①ワークの作成準備 ②テキストデザイン ③サブタイトルデザイン(1)リボン作成と文字調整 ④サブタイトルデザイン(2)イラストの配置(1) ⑤サブタイトルデザイン(2)イラストの配置(2) ⑥メインタイトルデザイン ⑦背景デザイン ⑧タイトルの全体バランス調整 ⑨素材の配置	・授業内で紹介したAdobeのアプリケーションの機能と専門用語を理解しておくこと。・繰り返しオンデマンド型動画教材を視聴し、授業内容をよく理解した上で課題および復習に取り組むこと。・制作レポート課題を課します、第9回授業内容で（動画教材内の）先生が制作している成果物を実際にその通りに制作して下さい。そして、その制作データを指定場所に提出して下さい。	5時間
第10回	**グラフィック講座（実践）Illustrator・Photoshop（1）** Illustratorで名刺を作成する PhotoshopでDMを作成する（1） （学習内容の内訳） ①グラフィックデザイン実践_はじめに　Illustratorで名刺を作ろう　はじめに ②表面（１） ③表面（２） ④表面（３） ⑤表面（４） ⑥裏面 ⑦Photoshopでダイレクトメールを作ろう　はじめに ⑧新規ドキュメントの作成 ⑨メインビジュアルの作成 ⑩メインコピーのレイアウト ⑪写真の配置	・授業内で紹介したAdobeのアプリケーションの機能と専門用語を理解しておくこと。・繰り返しオンデマンド型動画教材を視聴し、授業内容をよく理解した上で課題および復習に取り組むこと。・制作レポート課題を課します、第10回授業内容で（動画教材内の）先生が制作している成果物を実際にその通りに制作して下さい。そして、その制作データを指定場所に提出して下さい。	5時間
第11回	**グラフィック講座（実践）Photoshop（2）　※第10回の続き** PhotoshopでDMを作成する（2） ※第10回の続き （学習内容の内訳） ①メインビジュアルの作り込み ②レイアウト調整 ③日付の調整 ④レイヤーの整理と全体調整 ⑤クーポンの作成(1) ⑥クーポンの作成(2)	・授業内で紹介したAdobeのアプリケーションの機能と専門用語を理解しておくこと。・繰り返しオンデマンド型動画教材を視聴し、授業内容をよく理解した上で課題および復習に取り組むこと。・制作レポート課題を課します、第11回授業内容で（動画教材内の）先生が制作している成果物を実際にその通りに制作して下さい。そして、その制作データを指定場所に提出して下さい。	5時間
第12回	**グラフィック講座（実践）Photoshop（3）　※第11回の続き** PhotoshopでDMを作成する（3） ※第11回の続き 目的に合わせたデザイン表現tips（1） （学習内容の内訳） ①クーポンの作成(3) ②はさみの作成 ③店舗情報エリア ④仕上げ ⑤目的に合わせたデザイン表現tips　はじめに ⑥tips(1)_レイヤーマスク・レイヤー透過(1)	・授業内で紹介したAdobeのアプリケーションの機能と専門用語を理解しておくこと。・繰り返しオンデマンド型動画教材を視聴し、授業内容をよく理解した上で課題および復習に取り組むこと。・制作レポート課題を課します、第12回授業内容で（動画教材内の）先生が制作している成果物を実際にその通りに制作して下さい。そして、その制作データを指定場所に提出して下さい。	5時間
第13回	**グラフィック講座（実践）Photoshop（3）　※第12回の続き**	・授業内で紹介したAdobeのアプリケーションの機能と専門用語を理解しておくこと。・繰り返しオンデマンド型動画教材を視聴し、授業内容をよく理解した上で課題および復習に取り組むこと。・制作レポート課題を課します、第13回授業内容で（動画教材内の）先生が制作している成果物を実際にその通りに制作して下さい。そして、その制作データを指定場所に提出して下さい。	5時間

	目的に合わせたデザイン表現tips (2) ※第12回の続き （学習内容の内訳） ①tips(1)_レイヤーマスク・レイヤー透過(2) ②tips(2)_ブラシ ③tips(3)_パターン ④tips(4)カラー補正(1)_モノクロ　tips(4)カラー補正(2)_セピア ⑤tips(4)_カラー補正(3)_アンニュイな雰囲気の写真にする ⑥tips(5)_写真の加工(1) ⑦tips(5)_写真の加工(2) ⑧tips(5)_写真の加工(3)		
第14回	**プロトタイピングツール　Figma講座 (1)** Figmaの基本操作を習得する （学習内容の内訳） ①Figma講座について（イントロダクション・デザインカンプとは） ②Figmaの基礎知識　Figmaを使う準備を整える ③Figmaの基本機能_データ管理編 　Figmaの基本機能_FigJam編 　Figmaの基本機能_コミュニティ編 　Figma_デザインファイル編 ④フレームの準備 ⑤画像などの取り込み ⑥オブジェクトにエフェクトを追加　シェイプツールと作成ツールで帯を作る ⑦テキスト設定とフォントについて　テキスト入力とプラグイン活用 ⑧バナーを完成させる ⑨オートレイアウトでコンテンツを配置 ⑩コンポーネントを作成して複製を楽に	・授業内で紹介したAdobeのアプリケーションの機能と専門用語を理解しておくこと。・繰り返しオンデマンド型動画教材を視聴し、授業内容をよく理解した上で課題に取り組むこと。・制作レポート課題を課します、第14回授業内容で（動画教材内の）先生が制作している成果物を実際にその通りに制作して下さい。そして、その制作データを指定場所に提出して下さい。	5時間

111

授業科目名	**データサイエンス基礎**				
担当教員名	夏川浩明・杉山一成・廣江葵				
学年・コース等	1年	開講期間	後期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	杉山 民間企業にて、ネットワークの構築、各社データベースや検索エンジンのアーキテクチャに関する調査、情報検索に関する基礎研究、に従事した経験がある。（第1回～第7回担当）				

授業概要

近年、情報通信技術やセンサ技術の進歩により、ヒトやモノの情報がリアルタイムに計測、利用される時代が訪れている。こうしたデータを用いた様々なサービスが生まれ、個人や組織の意思決定も、データあるいはAIに支援されて行われるようになりつつある。そのような社会の変化の中で、データを処理分析し、有益な情報を得て活用する為の学問分野であるデータサイエンスの重要性は高い。
本講義では、数理・データサイエンス教育強化拠点コンソーシアムが策定したモデルカリキュラムに基づいて、データサイエンスとは何かを学び、基礎となる知識やスキルセットを得ることを目指す。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. 全学DP１.幅広い教養やスキル	データサイエンスの基礎となる情報学と統計学の二つの学問分野を融合的に扱う。社会においてどのようにデータとAIが用いられているかを利活用の実際と技術の面から解説する。	データサイエンスを学ぶ上で基礎となるスキルセットを習得すること。
2. 全学DP３.専門的知識・技能を実践で応用する力	利活用において留意しなければならないセキュリティやプライバシー等の倫理法制度についても解説する。また実際にどのようにデータを読み、分析活用するかについて、Excelなどで手を動かす演習も交えて学習する。	データを用いて、論理的に課題を抽出する基礎的な考え方を身につけること。
汎用的な力		
1. 全学DP４.課題発見		課題解決に当たって、適切な手法を選択するための考え方を身につけること。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)

・eラーニング、反転授業

・その他(以下に概要を記述)

本講義は「遠隔：オンデマンド授業」で実施します。

第10～13回はExcel演習を行います。WindowsパソコンでExcelの操作を解説します。
Macパソコンを利用の方もExcelなどで課題を行うことはできますが、操作画面が異なることがあります。

Windowsパソコンで作業されたい方でExcelを持っていない方は、必要に応じて教務で貸し出しパソコンを借りるか、もしくは相川キャンパスの情報教室（PCのある教室）や南館2Fの芸術学部のラーニングコモンズで取り組むことができます。

課題や取組に対する評価・振り返り

・提出物にコメント・評価をつけて返却します

・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

授業へは原則としてすべて出席してください。何らかの事情で欠席する場合は、シラバスや授業内での配布資料を参照し、自学により内容を確認し、必要な課題に取り組むようにしてください。なお、資格・免許取得に必要な科目は、単位修得に必要な授業時間数が定められている場合がありますので、注意してください。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
提出物	40 %	： 演習課題の提出により理解度を評価する。
小テスト	30 %	： 授業内容の基本的理解度を小テストの点数により評価する。
期末レポート（レポート試験）	30 %	： 期末レポート（レポート試験）により、授業内容全体の理解度やそれを踏まえた問題発見力や深い思考を評価する。

使用教科書

指定する

著者	タイトル	出版社	出版年
北川源四郎、竹村彰通編、内田誠一、川崎能典、他　著	・「教養としてのデータサイエンス 改訂第2版」	・講談社	・2024　年

参考文献等

徳野 淳子、山川 修、田中 武之 共著:
「情報リテラシー （第4版）」、森北出版、2022年、ISBN: 978-4-627-82734-9

魚田 勝臣（編著)、渥美 幸雄、植竹 朋文、大曽根 匡、森本 祥一、 綿貫 理明 共著:
「コンピュータ概論　ー　情報システム入門」（第9版）、共立出版、2023年、ISBN: 978-4-320-12498-1

馬場口 登、山田 誠ニ 共著：
「人工知能の基礎 第2版」、オーム社、2015年、ISBN: 978-4-274-21615-2

東京弁護士会インターネット法律研究部 編
「インターネットの法的論点と実務対応」、ぎょうせい、2019年、ISBN: 978-4-324-10622-8

髙橋慈子，原田隆史，佐藤翔，岡部晋典 共著：
「【改訂3版】情報倫理 ネット時代のソーシャル・リテラシー」、技術評論社、2023年、ISBN: 978-4-297-13415-0

人工知能学会 倫理委員会、日本ソフトウェア科学会 機械学習工学研究会、電子情報通信学会 情報論的学習理論と機械学習研究会：
「機械学習と公平性に関する声明」、2019年12月
http://ai-elsi.org/archives/888

その他、授業中に指定する。

履修上の注意・備考・メッセージ

・本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：　水曜3限（廣江）、金曜4限（杉山・夏川）など

場所：　駅前キャンパスS館各教員研究室（廣江、杉山、夏川）

備考・注意事項：　オフィスアワーを活用するため、事前に電子メールで日程を調整すること。

授業計画

		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**イントロダクション 社会のデジタル化** 今日の情報システムを支えるハードウェア、ソフトウェア、ネットワークの発展により、増大するデータの高速な処理や、データ分析の高度化が実現されている。これらによってもたらされた社会の変化について講義する。	教科書１－１章、ならびに参考文献の該当部分を予習する。また、講義内容を復習すると共に、講義中に指示した演習ワークシートに取り組むこと。	4時間
第2回	**社会で利用されているデータ** 人文科学・自然科学分野におけるデータとAIの活用領域や事例などを講義する。	教科書１－２章、ならびに参考文献の該当部分を予習する。また、講義内容を復習すると共に、講義中に指示した演習ワークシートに取り組むこと。	4時間
第3回	**データ・AI利活用事例／最新動向** AIの歴史、データとAIの活用領域や事例、最新技術などを講義する。	教科書１－３、１－６章、ならびに参考文献の該当部分を予習する。また、講義内容を復習すると共に、講義中に指示した演習ワークシートに取り組むこと。	4時間
第4回	**データ・AI利用における留意点① 法制度、倫理** データやAIを扱う上での倫理的・法的・社会的諸問題を学ぶ。特に法制度やAI倫理などの話題について紹介する。	教科書３－１章、ならびに参考文献の該当部分を予習する。また、講義内容を復習すると共に、講義中に指示した演習ワークシートに取り組むこと。	4時間
第5回	**データ・AI利用における留意点② 情報セキュリティと技術** データやAIを扱う上での情報セキュリティやその技術について学ぶ。	教科書３－２章、ならびに参考文献の該当部分を予習する。また、講義内容を復習すると共に、講義中に指示した演習ワークシートに取り組むこと。	4時間
第6回	**データ・AI利用における留意点③ プライバシー保護とその技術** データやAIを扱う上でのプライバシー保護やその技術について学ぶ。	教科書３－２章、ならびに参考文献の該当部分を予習する。また、講義内容を復習すると共に、講義中に指示した演習ワークシートに取り組むこと。	4時間
第7回	**小テストと解説** これまでの講義内容の理解を深めるための小テストを実施し、その内容の解説を通じて、学習の振り返りを行う。	これまでの講義内容を復習すると共に、小テストの振り返りを行う。	4時間
第8回	**データ解析の技術予測、相関と因果**	教科書１－４、１－５章、ならびに参考文献の該当部分を予習する。また、講義内容を復習すると共に、講義中に指示した演習ワークシートに取り組むこと。	4時間

	データ利活用のための技術として予測の概念や相関分析などのデータ解析技術を学ぶ。相関と因果の違いの議論を通じて、数理的な解析の原理に根ざしたデータの利活用について考察する。		
第9回	**データ解析の技術 非構造化データ処理、データ可視化、強いAIと弱いAI** 非構造化データ処理やデータ可視化などの解析技術を学ぶ。特に人工知能に関する話題や諸問題を取り上げながら、データ利活用の価値について理解する。	教科書１－４、１－５章、ならびに参考文献の該当部分を予習する。また、講義内容を復習すると共に、講義中に指示した演習ワークシートに取り組むこと。	4時間
第10回	**データを読む 分布、ばらつき、相関と因果** データを読むための基本事項を講義する。データの種類やデータの分布と基本統計量などを学び、学んだ内容を自ら活用できるようになるためのExcelの演習を行う。	教科書２－１章、ならびに参考文献の該当部分を予習する。また、講義内容を復習すると共に、講義中に指示したExcelでの演習や演習ワークシートに取り組むこと。	4時間
第11回	**データを読む 標本抽出、集計** 標本抽出や集計について学ぶ。学んだ内容を自ら活用できるようになるためのExcelの演習を行う。	教科書２－１章、ならびに参考文献の該当部分を予習する。また、講義内容を復習すると共に、講義中に指示したExcelでの演習や演習ワークシートに取り組むこと。	4時間
第12回	**データを説明する データ表現、比較、不適切なグラフ** データを説明するための基本事項を講義する。可視化手法や読み取り方などを学び、学んだ内容を自ら活用できるようになるためのExcelの演習を行う。	教科書２－２章、ならびに参考文献の該当部分を予習する。また、講義内容を復習すると共に、講義中に指示したExcelでの演習や演習ワークシートに取り組むこと。	4時間
第13回	**データを扱う データの集計、ソート、ランキング** データを扱うための集計や可視化、分析ツールを利用した実践的な方法を学ぶ。学んだ内容を自ら活用できるようになるためのExcelの演習を行う。	教科書２－３章、ならびに参考文献の該当部分を予習する。また、講義内容を復習すると共に、講義中に指示したExcelでの演習や演習ワークシートに取り組むこと。	4時間
第14回	**小テストと解説 （又は外部講師による講演）** これまでの講義内容の理解を深めるための小テストを実施し、その内容の解説を通じて、学習の振り返りを行う。（外部講師により、企業や学術界におけるデータサイエンスの活用・研究事例を紹介の授業とする可能性もある）	これまでの講義内容を復習すると共に、小テストの振り返りを行う。 （外部講師による講演を振り返り、その内容をまとめる。）	4時間

111

授業科目名	**データサイエンス基礎（データサイエンス学部）**				
担当教員名	夏川浩明・杉山一成				
学年・コース等	1年・データサイエンス学部	開講期間	前期・後期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	杉山 民間企業にて、ネットワークの構築、各社データベースや検索エンジンのアーキテクチャに関する調査、情報検索に関する基礎研究、に従事した経験がある。（第1回～第7回担当）				

授業概要

近年、情報通信技術やセンサ技術の進歩により、ヒトやモノの情報がリアルタイムに計測、利用される時代が訪れている。こうしたデータを用いた様々なサービスが生まれ、個人や組織の意思決定も、データあるいはAIに支援されて行われるようになりつつある。そのような社会の変化の中で、データを処理分析し、有益な情報を得て活用する為の学問分野であるデータサイエンスの重要性は高い。
本講義では、数理・データサイエンス教育強化拠点コンソーシアムが策定したモデルカリキュラムに基づいて、データサイエンスとは何かを学び、基礎となる知識やスキルセットを得ることを目指す。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. DP１.数学・統計学・科学的方法、計算機科学の基礎／DP２.データとその扱いの基礎／DP３.データサイエンスによる課題解決の方法の選択	本講義では、データサイエンスの基礎となる情報学と統計学の二つの学問分野を融合的に扱う。まず、社会においてどのようにデータとAIが用いられているかを利活用の実際と技術の面から解説する。	データサイエンスを学ぶ上で基礎となるスキルセットを習得すること。
2. DP１.数学・統計学・科学的方法、計算機科学の基礎／DP２.データとその扱いの基礎／DP３.データサイエンスによる課題解決の方法の選択	利活用において留意しなければならないセキュリティやプライバシー等の倫理法制度についても解説する。また、実際にどのようにデータを読み、分析活用するかについて、Excelなどで手を動かす演習も交えて学修する。	データを用いて、論理的に課題を抽出する基礎的な考え方を身につけること。
汎用的な力		
1. DP４.データサイエンスによる課題解決・課題探索の方法の提案		課題解決に当たって、適切な手法を選択するための考え方を身につけること。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)

・eラーニング、反転授業

課題や取組に対する評価・振り返り

・提出物にコメント・評価をつけて返却します

・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

授業へは原則としてすべて出席してください。何らかの事情で欠席する場合は、シラバスや授業内での配布資料を参照し、自学により内容を確認し、必要な課題に取り組むようにしてください。なお、資格・免許取得に必要な科目は、単位修得に必要な授業時間数が定められている場合がありますので、注意してください。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
提出物	40 %	： 演習課題の提出により理解度を評価する。
小テスト	30 %	： 授業内容の基本的理解度を小テストの点数により評価する。
期末レポート（レポート試験）	30 %	： 期末レポート（レポート試験）により、授業内容全体の理解度やそれを踏まえた問題発見力や深い思考を評価する。

使用教科書

指定する

著者	タイトル	出版社	出版年

北川源四郎、竹村彰通編、内田誠一、川崎能典、他 著	・「教養としてのデータサイエンス 改訂第2版」	・講談社	・2024 年

参考文献等

徳野 淳子、山川 修、田中 武之 共著:
「情報リテラシー （第4版）」、森北出版、2022年、ISBN: 978-4-627-82734-9

魚田 勝臣（編著）、渥美 幸雄、植竹 朋文、大曽根 匡、森本 祥一、 綿貫 理明 共著:
「コンピュータ概論 ー 情報システム入門」（第9版）、共立出版、2023年、ISBN: 978-4-320-12498-1

馬場口 登、山田 誠ニ 共著：
「人工知能の基礎 第2版」、オーム社、2015年、ISBN: 978-4-274-21615-2

東京弁護士会インターネット法律研究部 編
「インターネットの法的論点と実務対応」、ぎょうせい、2019年、ISBN: 978-4-324-10622-8

高橋慈子、原田隆史、佐藤翔、岡部晋典 共著
「【改訂3版】情報倫理 ネット時代のソーシャル・リテラシー」、技術評論社、2023年、ISBN: 978-4-297-13415-0

人工知能学会 倫理委員会、日本ソフトウェア科学会 機械学習工学研究会、電子情報通信学会 情報論的学習理論と機械学習研究会：
「機械学習と公平性に関する声明」、2019年12月
http://ai-elsi.org/archives/888

その他、授業中に指定する。

履修上の注意・備考・メッセージ

・本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。
・欠席してしまった場合、次回までに、担当教員等から課題をうけとり、指示をうけること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 金曜4限など

場所： 駅前キャンパスS館各教員研究室（杉山、夏川）

備考・注意事項： オフィスアワーを活用するため、事前に電子メールで日程を調整すること。

授業計画		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**イントロダクション 社会のデジタル化** 今日の情報システムを支えるハードウェア、ソフトウェア、ネットワークの発展により、増大するデータの高速な処理や、データ分析の高度化が実現されている。これらによってもたらされた社会の変化について講義する。	教科書１－１章、ならびに参考文献の該当部分を予習する。また、講義内容を復習すると共に、講義中に指示した演習ワークシートに取り組むこと。	4時間
第2回	**社会で利用されているデータ** 人文科学・自然科学分野におけるデータとAIの活用領域や事例などを講義する。	教科書１－２章、ならびに参考文献の該当部分を予習する。また、講義内容を復習すると共に、講義中に指示した演習ワークシートに取り組むこと。	4時間
第3回	**データ・AI利活用事例／最新動向** AIの歴史、データとAIの活用領域や事例、最新技術などを講義する。	教科書１－３、１－６章、ならびに参考文献の該当部分を予習する。また、講義内容を復習すると共に、講義中に指示した演習ワークシートに取り組むこと。	4時間
第4回	**データ・AI利用における留意点① 法制度、倫理** データやAIを扱う上での倫理的・法的・社会的諸問題を学ぶ。特に法制度やAI倫理などの話題について紹介する。	教科書３－１章、ならびに参考文献の該当部分を予習する。また、講義内容を復習すると共に、講義中に指示した演習ワークシートに取り組むこと。	4時間
第5回	**データ・AI利用における留意点② 情報セキュリティと技術** データやAIを扱う上での情報セキュリティやその技術について学ぶ。	教科書３－２章、ならびに参考文献の該当部分を予習する。また、講義内容を復習すると共に、講義中に指示した演習ワークシートに取り組むこと。	4時間
第6回	**データ・AI利用における留意点③ プライバシー保護とその技術** データやAIを扱う上でのプライバシー保護やその技術について学ぶ。	教科書３－２章、ならびに参考文献の該当部分を予習する。また、講義内容を復習すると共に、講義中に指示した演習ワークシートに取り組むこと。	4時間
第7回	**小テストと解説** これまでの講義内容の理解を深めるための小テストを実施し、その内容の解説を通じて、学習の振り返りを行う。	これまでの講義内容を復習すると共に、小テストの振り返りを行う。	4時間
第8回	**データ解析の技術予測、相関と因果** データ利活用のための技術として予測の概念や相関分析などのデータ解析技術を学ぶ。相関と因果の違いの議論を通じて、数理的な解析の原理に根ざしたデータの利活用について考察する。	教科書１－４、１－５章、ならびに参考文献の該当部分を予習する。また、講義内容を復習すると共に、講義中に指示した演習ワークシートに取り組むこと。	4時間

第9回	**データ解析の技術 非構造化データ処理、データ可視化、強いAIと弱いAI** 非構造化データ処理やデータ可視化などの解析技術を学ぶ。特に人工知能に関する話題や諸問題を取り上げながら、データ利活用の価値について理解する。	教科書１－４、１－５章、ならびに参考文献の該当部分を予習する。また、講義内容を復習すると共に、講義中に指示した演習ワークシートに取り組むこと。	4時間
第10回	**データを読む 分布、ばらつき、相関と因果** データを読むための基本事項を講義する。データの種類やデータの分布と基本統計量などを学び、学んだ内容を自ら活用できるようになるためのExcelの演習を行う。	教科書２－１章、ならびに参考文献の該当部分を予習する。また、講義内容を復習すると共に、講義中に指示したExcelでの演習や演習ワークシートに取り組むこと。	4時間
第11回	**データを読む 標本抽出、集計** 標本抽出や集計について学ぶ。学んだ内容を自ら活用できるようになるためのExcelの演習を行う。	教科書２－１章、ならびに参考文献の該当部分を予習する。また、講義内容を復習すると共に、講義中に指示したExcelでの演習や演習ワークシートに取り組むこと。	4時間
第12回	**データを説明する データ表現、比較、不適切なグラフ** データを説明するための基本事項を講義する。可視化手法や読み取り方などを学び、学んだ内容を自ら活用できるようになるためのExcelの演習を行う。	教科書２－２章、ならびに参考文献の該当部分を予習する。また、講義内容を復習すると共に、講義中に指示したExcelでの演習や演習ワークシートに取り組むこと。	4時間
第13回	**データを扱う データの集計、ソート、ランキング** データを扱うための集計や可視化、分析ツールを利用した実践的な方法を学ぶ。学んだ内容を自ら活用できるようになるためのExcelの演習を行う。	教科書２－３章、ならびに参考文献の該当部分を予習する。また、講義内容を復習すると共に、講義中に指示したExcelでの演習や演習ワークシートに取り組むこと。	4時間
第14回	**小テストと解説** これまでの講義内容の理解を深めるための小テストを実施し、その内容の解説を通じて、学習の振り返りを行う。	これまでの講義内容を復習すると共に、小テストの振り返りを行う。	4時間

111

授業科目名	**データサイエンス実践（データサイエンス学部）**				
担当教員名	新庄雅斗・廣江葵				
学年・コース等	1年・データサイエンス学部	開講期間	後期	単位数	2
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の概要					

授業概要

近年、情報通信技術やセンサ技術の進歩により、多種多様なデータがリアルタイムで収集され、幅広い分野で活用されている。これに伴い、大規模データに基づく意思決定やサービスの重要性が増しており、データを処理・分析し、有益な情報を活用する学問であるデータサイエンスの役割がますます注目されている。

本授業では、数理・データサイエンス教育強化拠点コンソーシアムが策定したモデルカリキュラムに基づき、データサイエンスの基礎知識やスキルを学修する。Microsoft Excelを用いたデータ分析演習を中心に、科学的方法を理解し、データサイエンスの実践力を向上させる。また、Excel VBA(Visual Basic for Applicatons)やPythonを活用したデータ処理の自動化についても演習を通じて学び、効率的なデータ活用スキルを身につけることを目指す。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. DP１.数学・統計学・科学的方法、計算機科学の基礎／DP２.データとその扱いの基礎／DP３.データサイエンスによる課題解決の方法の選択	データサイエンスの実践力を養うため、科学的方法や情報処理技術を総合的に学修する。データサイエンス基礎の講義を踏まえて、先端的なデータ活用について理解する。	課題解決に当たって、必要なデータを収集し適切な手法で分析するための考え方を身につける。
汎用的な力		
1. DP４.データサイエンスによる課題解決・課題探索の方法の提案		社会統計データや自ら取得したデータに対して、Excelによる分析や可視化の演習を通じて、実問題に対して科学的にアプローチするデータサイエンスの実践力を身につける。
2. DP６.他者とのコミュニケーション		科学的方法に基づき自己の意見を伝え、他者の意見を傾聴する対話力を身につける。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)

・実験、実技、実習

・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)

・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

・実技・実習後、全体に向けてコメントします

・提出物にコメント・評価をつけて返却します

・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

授業へは原則としてすべて出席してください。何らかの事情で欠席する場合は、シラバスや授業内での配布資料を参照し、自学により内容を確認し、必要な課題に取り組むようにしてください。なお、資格・免許取得に必要な科目は、単位修得に必要な授業時間数が定められている場合がありますので、注意してください。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準	
演習課題提出	40 %	：	演習課題の提出状況およびその完成度に基づき、総合的に評価します。
演習課題発表	20 %	：	演習課題発表の参加状況、発表資料の完成度、質疑に対する応答に基づき、総合的に評価します。
定期レポート試験	40 %	：	レポートの内容により、情報処理技術の習熟度を総合的に評価します。

使用教科書

指定する

著者	タイトル	出版社	出版年
北川源四郎、竹村彰通 編、内田誠一、川崎能典 他 著	・教養としてのデータサイエンス 改訂第2版	・講談社	・2024 年

参考文献等

・北川源四郎、竹村彰通 編、赤穂昭太郎、今泉充聡 他 著『応用基礎としてのデータサイエンス』
（講談社、2023年、384ページ、ISBN：978-4-06-530789-2）
・上藤一郎、西川浩昭、朝倉真粧美、森本栄一 著『データサイエンス入門 -Excelで学ぶ統計データの見方・使い方・集め方-』
（オーム社、2018年、260ページ、ISBN：978-4-274-22173-6）
・Jake VanderPlas 著、菊池彰 訳『Pythonデータサイエンスハンドブック 第2版』
（オライリー・ジャパン、2024年、576ページ、ISBN：978-4-8144-0063-8）

必要に応じて、授業内で指定する。

履修上の注意・備考・メッセージ

・授業や課題においてPCを使用するので、授業時には必ず持参すること。
・本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。
・「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習すること。
・授業の進行状況や演習課題の内容に応じて、一部の授業内容や演習課題発表のスケジュールが前後する場合がある。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：　水曜5限（新庄）・水曜3限（廣江）

場所：　各教員研究室（駅前キャンパスS館）

備考・注意事項：　オフィスアワーを活用してください。

授業計画		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**イントロダクション AIと社会の変化・基本的なExcelの使い方** 社会で起きている変化やデータ・AIの利活用について学修する。データが社会の意思決定や課題解決にどのように活用されているかを解説し、データサイエンスの重要性を理解する。また、オープンデータを用いて、基本的なExcel操作（データ入力や簡単な計算など）に習熟する。	テキスト1-1、1-6章を通読する。また、オープンデータから統計データを収集し、Excelを用いて処理する。	4時間
第2回	**科学的方法によるデータ利活用 社会で活用されているデータ・Excelを用いたデータの集計** 目的に応じたデータとAIの活用領域の広がりについて学修する。ビジネスや社会問題解決の場で活用されているデータの形式について学び、目的に応じたデータの集計のついて理解する。また、指定されたデータセットをExcelに取り込み、基本的な集計操作（フィルタリングやCOUNTIF関数の活用）を行うことで、集計の基礎を学修する。	テキスト1-2、1-3章を通読する。また、アンケートデータの集計に関する課題に取り組む。	4時間
第3回	**データ利活用の実践 統計量と可視化** データの読み方・説明の仕方について学修する。データを「読む」力と「説明する」力を養うために、統計量（平均値、中央値、分散など）の基本概念を実際のデータを通じて理解する。Excelを用いて適当な統計量を計算し、グラフ（棒グラフや散布図など）を作成するために必要な知識を習得する。作成したグラフを使用して、データを視覚的に説明する技術を身につける。	テキスト2-1、2－2章を通読する。また、アンケートデータの可視化に関する課題に取り組む。	4時間
第4回	**データ利活用の実践 科学的方法に基づく社会統計データ探索** データの扱い方について学修し、Excelでの演習を通じて、データの集計や並べ替えなどの基本的な処理技術を習得する。また、実際のデータから母集団の代表値を推定する統計的推定の基礎を理解する。具体的なデータセットを使い、推定結果の解釈について考察する。	Excelを用いたデータの集計に関する課題レポートを完成させて提出する。	4時間
第5回	**演習課題発表と解説** データの利活用に関する演習課題に各グループで取り組み、その考察を踏まえて、プレゼンテーションを行う。また、各自、発表内容に対する質問を考える。授業の終盤には、教員からプレゼンテーションに対する総評と演習課題の解説を行う。	プレゼンテーションの準備・予習に加えて、発表後の振り返りを行う。	4時間
第6回	**データ利活用の実践 AIとデータサイエンスの最先端** 社会における実問題を解決するためのデータサイエンスについて学修する。また、効率的なデータ可視化技術を利用したデータの集計についても考察する。	授業内容をまとめてレポートとして提出する。	4時間
第7回	**データ利活用の実践 データを集める** Google Formによる質問紙の作成およびデータ収集を通じて、社会における実問題を解決するためのデータサイエンスの利活用について学修する。アンケート調査の意義や設計手法を学び、効果的な調査票を作成するための基礎を理解する。実際に調査票を作成し、アンケート調査を実施する上での課題について考える。収集したデータを確認し、初期的な分析について、グループで議論する。	収集したデータを可視化し、考察を加えたレポートを提出する。	4時間
第8回	**データ利活用の実践 質的データの分析**	テキスト2-1、2-2章の練習問題に取り組む。また、質的データの分析に関する演習課題に取り組み、レポートとして提出する。	4時間

	質的データの特性と分析方法を学び、実践的なデータ整理の手法を理解する。Excelの機能を利用して、クロス集計やピボットテーブルを活用した質的データの分析を行う。質的データに対する分析結果をグループで共有し、解釈の方向性について議論する。		
第9回	**データ利活用の実践 量的データの分析** 量的データの基本的な分析方法を学び、相関係数や回帰分析を用いた関係性の評価を理解する。Excelを使用して、データセットの相関係数や回帰分析に基づくデータ分析を実施し、データの関係性について考察する。各グループで分析結果を比較し、異なる結果が出た理由や分析手法の改善案について議論する。	相関係数や回帰分析に関する演習課題に取り組み、レポートとして提出する。	4時間
第10回	**演習課題発表と解説** データの利活用の実践に関して、Excelを用いた演習課題に各グループで取り組み、その考察を踏まえて、プレゼンテーションを行う。また、各自、発表内容に対する質問を考える。授業の終盤には、教員からプレゼンテーションに対する総評と演習課題の解説を行う。	プレゼンテーションの準備・予習に加えて、発表後の振り返りを行う。	4時間
第11回	**データ利活用の実践 データ分析応用** 実データの集計・分析を通じて、データ分析の応用について学修する。質的データおよび量的データの特性を理解し、それぞれに適した効率的な分析手法を考える。さらに、実データの背景を踏まえ、分析結果を適切に解釈し、データに基づく意思決定の重要性について考察する。	データ分析の応用に関する課題レポートを完成させて提出する。	4時間
第12回	**データ利活用の実践 Excel VBAプログラミング～環境構築・基本的な使い方～** 基本的なExcel VBAプログラムについて学修する。Excel VBAの基本構造や環境設定を学び、シンプルなプログラムを実行することで自動化の第一歩を体験する。また、Excel VBAやPythonを使いこなすことで、反復的な「作業」を効率化し、本質的な「知的生産」に注力できるスキルが優秀な社会人にとって不可欠であることを理解する。	プログラミング課題レポートを完成させて提出する。	4時間
第13回	**データ利活用の実践 Excel VBAによるデータ分析～データ分析の自動化～** 基本的なExcel VBAによるデータ分析の自動化などについて学修する。Excel VBAを活用したデータの可視化手法を学び、自動化による効率的な可視化プロセスを理解する。Excel VBAやPythonを用いたデータ分析課題を通じて、棒グラフや散布図などの描画から、相関関係を視覚的に表現するヒートマップの作成まで、幅広い可視化スキルを習得する。	データ分析の自動化に関する課題レポートを完成させて提出する。	4時間
第14回	**演習課題発表と解説** データの利活用に関して、Excel VBAやPythonを用いた自動化に関する演習課題に取り組み、その考察を踏まえて、プレゼンテーションを行う。また、各自、発表内容に対する質問を考える。授業の終盤には、プレゼンテーションに対する総評と演習課題の解説を行う。	プレゼンテーションの準備・予習に加えて、発表後の振り返りを行う。	4時間

111

授業科目名	**統計学基礎（データサイエンス学部・看護学部）**				
担当教員名	上阪彩香・關戸啓人				
学年・コース等	1年	開講期間	前期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の概要					

授業概要

本授業では、数理・データサイエンス・ＡＩ教育プログラム（リテラシーレベル）のモデルカリキュラムに基づき、社会における統計学の役割を理解し、統計学を通じてデータサイエンスを行う基礎となる知識を獲得することを目指す。統計学的命題について、厳密な数学的証明は避け、あくまで統計・統計学のエンドユーザーとして必要とされる直感的な理解を目標とする。

前半では、データの要約や視覚化、相関と因果、回帰を取り上げる。後半では、統計的推定・検定の基礎となる具体的な方法論を学び、それらの意味と意義、特徴と限界を知り、データの分析結果を批判的に見る目を養う。本講義を通じて、社会での実例を含むいくつかの例を用いて理解を深めることで、統計学によって様々な現象を理解する一つの視点を獲得する。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. DP１.数学・統計学・科学的方法、計算機科学の基礎／DP２.データとその扱いの基礎／DP３.データサイエンスによる課題解決の方法の選択	日常生活や社会活動で必要とされる統計学への理解を深める。 日常生活や社会活動で必要とされる統計学の正しいデータの扱い方の基礎を身に付ける。	データおよびデータの分析結果を批判的に見ることができる。 データの誤用・悪用を発見できる。 検定・推定の考え方を理解し、調査や実験の結果を正しく解釈できる。
汎用的な力		
1. DP４.データサイエンスによる課題解決・課題探索の方法の提案		課題解決に当たって、適切な手法を選択するための考え方を身につけること。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)

・eラーニング、反転授業

課題や取組に対する評価・振り返り

・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

授業へは原則としてすべて出席してください。何らかの事情で欠席する場合は、シラバスや授業内での配布資料を参照し、自学により内容を確認し、必要な課題に取り組むようにしてください。なお、資格・免許取得に必要な科目は、単位修得に必要な授業時間数が定められている場合がありますので、注意してください。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
授業内課題	70 ％	： 毎回授業の後に、小テストを実施します。
定期試験	30 ％	： 指定した範囲を的確に理解しているかを評価します。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

教養としてのデータサイエンス（内田 誠一 他著、ISBN：978-4-06-523809-7、講談社）2021年
確率・統計入門（小針 アキ宏著、ISBN：9784000051576、岩波書店）1973年
データサイエンスの基礎（浜田 悦生著、ISBN：978-4-06-517000-7、講談社）2019年

履修上の注意・備考・メッセージ

講義資料やその他の資料は適宜配布する。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 火曜4限

場所： 各教員の研究室（駅前キャンパスＳ館4階）

備考・注意事項： オフィスアワーを活用してください。

授業計画		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**授業に関するガイダンスと社会における統計学・データサイエンスの意義** 記述統計と推測統計、社会における統計学及びデータサイエンスの重要性について講義する。	小テストを受け、講義内容の理解度を確かめ、復習を行う。	4時間
第2回	**データからの情報抽出（1）　尺度水準、量的データの要約** 統計データの分類及び量的データの整理・要約について講義する。	小テストを受け、講義内容の理解度を確かめ、復習を行う。	4時間
第3回	**データからの情報抽出（2）　質的データの要約** 質的データの整理・要約について、具体的な例を挙げて紹介する。	小テストを受け、講義内容の理解度を確かめ、復習を行う。	4時間
第4回	**データからの情報抽出（3）　データの可視化** データの可視化を取り上げ、適切なデータの見せ方について講義する。	小テストを受け、講義内容の理解度を確かめ、復習を行う。	4時間
第5回	**データからの情報抽出（4）　変数の変換** 標準化などの変数の変換及びその意義について講義する。	小テストを受け、講義内容の理解度を確かめ、復習を行う。	4時間
第6回	**データからの情報抽出（5）　相関と因果** 相関関係と因果関係の違いについて説明し、散布図及び相関係数について講義する。	小テストを受け、講義内容の理解度を確かめ、復習を行う。	4時間
第7回	**データからの情報抽出（6）　回帰** 回帰直線及び決定係数について講義する。	小テストを受け、講義内容の理解度を確かめ、復習を行う。	4時間
第8回	**データからの情報抽出（7）　まとめと補足** 第1回から7回目までのまとめ及び補足を行う。	第１回目から7回目までの復習を行う。	4時間
第9回	**統計的推測の考え方（1）　推測統計の基礎** 標本抽出及び推測統計の基礎的な事項・考え方について講義する。	小テストを受け、講義内容の理解度を確かめ、復習を行う。	4時間
第10回	**統計的推測の考え方（2）　標本分布と信頼区間** 標本分布及び信頼区間について講義する。	小テストを受け、講義内容の理解度を確かめ、復習を行う。	4時間
第11回	**統計的推測の考え方（3）　統計的検定の基礎** 統計的検定の基礎的な事項・手続きについて講義する。	小テストを受け、講義内容の理解度を確かめ、復習を行う。	4時間
第12回	**統計的推測の考え方（4）　t検定** 対応のないt検定及び対応のあるt検定について講義する。	小テストを受け、講義内容の理解度を確かめ、復習を行う。	4時間
第13回	**統計的推測の考え方（5）　カイ二乗検定** 適合度の検定及び独立性の検定について講義する。	小テストを受け、講義内容の理解度を確かめ、復習を行う。	4時間
第14回	**統計的推測の考え方（6）　まとめと補足** 第9回から13回目までのまとめ及び補足を行う。	第9回目から13回目までの復習を行う。	4時間

111

授業科目名	統計学基礎（データサイエンス学部）				
担当教員名	上阪彩香・關戸啓人				
学年・コース等	1～4年	開講期間	後期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の概要					

授業概要

本授業では、数理・データサイエンス・ＡＩ教育プログラム（リテラシーレベル）のモデルカリキュラムに基づき、社会における統計学の役割を理解し、統計学を通じてデータサイエンスを行う基礎となる知識を獲得することを目指す。統計学的命題について、厳密な数学的証明は避け、あくまで統計・統計学のエンドユーザーとして必要とされる直感的な理解を目標とする。

前半では、データの要約や視覚化、相関と因果、回帰を取り上げる。後半では、統計的推定・検定の基礎となる具体的な方法論を学び、それらの意味と意義、特徴と限界を知り、データの分析結果を批判的に見る目を養う。本講義を通じて、社会での実例を含むいくつかの例を用いて理解を深めることで、統計学によって様々な現象を理解する一つの視点を獲得する。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. DP１.数学・統計学・科学的方法、計算機科学の基礎／DP２.データとその扱いの基礎／DP３.データサイエンスによる課題解決の方法の選択	日常生活や社会活動で必要とされる統計学への理解を深める。 日常生活や社会活動で必要とされる統計学の正しいデータの扱い方の基礎を身に付ける。	データおよびデータの分析結果を批判的に見ることができる。 データの誤用・悪用を発見できる。 検定・推定の考え方を理解し、調査や実験の結果を正しく解釈できる。
汎用的な力		
1. DP４.データサイエンスによる課題解決・課題探索の方法の提案		課題解決に当たって、適切な手法を選択するための考え方を身につけること。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)

・eラーニング、反転授業

本講義は「遠隔：オンデマンド授業」で実施します。PCの扱いが苦手などの理由で「対面」での授業を希望する場合は前期に開講している統計学基礎を履修してください。

課題や取組に対する評価・振り返り

・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

授業へは原則としてすべて出席してください。何らかの事情で欠席する場合は、シラバスや授業内での配布資料を参照し、自学により内容を確認し、必要な課題に取り組むようにしてください。なお、資格・免許取得に必要な科目は、単位修得に必要な授業時間数が定められている場合がありますので、注意してください。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
授業内課題	70 %	： 毎回授業の後に、小テストを実施します。
定期試験	30 %	： 指定した範囲を的確に理解しているかを評価します。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

教養としてのデータサイエンス（内田 誠一 他著、ISBN：978-4-06-523809-7、講談社）2021年
確率・統計入門（小針 アキ宏著、ISBN：9784000051576、岩波書店）1973年
データサイエンスの基礎（浜田 悦生著、ISBN：978-4-06-517000-7、講談社）2019年

履修上の注意・備考・メッセージ

講義資料やその他の資料は適宜配布する。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 火曜4限

場所： 各教員の研究室（駅前キャンパスＳ館4階）

備考・注意事項： オフィスアワーを活用してください。

授業計画		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**授業に関するガイダンスと社会における統計学・データサイエンスの意義** 記述統計と推測統計、社会における統計学及びデータサイエンスの重要性について講義する。	小テストを受け、講義内容の理解度を確かめ、復習を行う。	4時間
第2回	**データからの情報抽出（1）　尺度水準、量的データの要約** 統計データの分類及び量的データの整理・要約について講義する。	小テストを受け、講義内容の理解度を確かめ、復習を行う。	4時間
第3回	**データからの情報抽出（2）　質的データの要約** 質的データの整理・要約について、具体的な例を挙げて紹介する。	小テストを受け、講義内容の理解度を確かめ、復習を行う。	4時間
第4回	**データからの情報抽出（3）　データの可視化** データの可視化を取り上げ、適切なデータの見せ方について講義する。	小テストを受け、講義内容の理解度を確かめ、復習を行う。	4時間
第5回	**データからの情報抽出（4）　変数の変換** 標準化などの変数の変換及びその意義について講義する。	小テストを受け、講義内容の理解度を確かめ、復習を行う。	4時間
第6回	**データからの情報抽出（5）　相関と因果** 相関関係と因果関係の違いについて説明し、散布図及び相関係数について講義する。	小テストを受け、講義内容の理解度を確かめ、復習を行う。	4時間
第7回	**データからの情報抽出（6）　回帰** 回帰直線及び決定係数について講義する。	小テストを受け、講義内容の理解度を確かめ、復習を行う。	4時間
第8回	**データからの情報抽出（7）　まとめと補足** 第1回から7回目までのまとめ及び補足を行う。	第１回目から7回目までの復習を行う。	4時間
第9回	**統計的推測の考え方（1）　推測統計の基礎** 標本抽出及び推測統計の基礎的な事項・考え方について講義する。	小テストを受け、講義内容の理解度を確かめ、復習を行う。	4時間
第10回	**統計的推測の考え方（2）　標本分布と信頼区間** 標本分布及び信頼区間について講義する。	小テストを受け、講義内容の理解度を確かめ、復習を行う。	4時間
第11回	**統計的推測の考え方（3）　統計的検定の基礎** 統計的検定の基礎的な事項・手続きについて講義する。	小テストを受け、講義内容の理解度を確かめ、復習を行う。	4時間
第12回	**統計的推測の考え方（4）　t検定** 対応のないt検定及び対応のあるt検定について講義する。	小テストを受け、講義内容の理解度を確かめ、復習を行う。	4時間
第13回	**統計的推測の考え方（5）　カイ二乗検定** 適合度の検定及び独立性の検定について講義する。	小テストを受け、講義内容の理解度を確かめ、復習を行う。	4時間
第14回	**統計的推測の考え方（6）　まとめと補足** 第9回から13回目までのまとめ及び補足を行う。	第9回目から13回目までの復習を行う。	4時間

111

授業科目名	**統計学基礎**				
担当教員名	關戸啓人・上阪彩香				
学年・コース等	1年	開講期間	後期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の概要					

授業概要

本授業では、数理・データサイエンス・ＡＩ教育プログラム（リテラシーレベル）のモデルカリキュラムに基づき、社会における統計学の役割を理解し、統計学を通じてデータサイエンスを行う基礎となる知識を獲得することを目指す。統計学的命題について、厳密な数学的証明は避け、あくまで統計・統計学のエンドユーザーとして必要とされる直感的な理解を目標とする。

前半では、データの要約や視覚化、相関と因果、回帰を取り上げる。後半では、統計的推定・検定の基礎となる具体的な方法論を学び、それらの意味と意義、特徴と限界を知り、データの分析結果を批判的に見る目を養う。本講義を通じて、社会での実例を含むいくつかの例を用いて理解を深めることで、統計学によって様々な現象を理解する一つの視点を獲得する。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. 全学DP１.幅広い教養やスキル	日常生活や社会活動で必要とされる統計学への理解を深める。	データおよびデータの分析結果を批判的に見ることができる。
2. 全学DP２.専門的知識・技能、職業理解	日常生活や社会活動で必要とされる統計学の正しいデータの扱い方の基礎を身に付ける。	データの誤用・悪用を発見できる。 検定・推定の考え方を理解し、調査や実験の結果を正しく解釈できる。

汎用的な力	
1. 全学DP４.課題発見	課題解決に当たって、適切な手法を選択するための考え方を身につけること。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)

・eラーニング、反転授業

課題や取組に対する評価・振り返り

・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

授業へは原則としてすべて出席してください。何らかの事情で欠席する場合は、シラバスや授業内での配布資料を参照し、自学により内容を確認し、必要な課題に取り組むようにしてください。なお、資格・免許取得に必要な科目は、単位修得に必要な授業時間数が定められている場合がありますので、注意してください。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
授業内課題	70 %	： 毎回授業の後に、小テストを実施します。
定期試験	30 %	： 指定した範囲を的確に理解しているかを評価します。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

教養としてのデータサイエンス（内田 誠一 他著、ISBN：978-4-06-523809-7、講談社）2021年
確率・統計入門（小針 アキ宏著、ISBN：9784000051576、岩波書店）1973年
データサイエンスの基礎（浜田 悦生著、ISBN：978-4-06-517000-7、講談社）2019年

履修上の注意・備考・メッセージ

講義資料やその他の資料は適宜配布する。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 火曜4限

場所： 各教員の研究室（駅前キャンパスＳ館4階）

備考・注意事項： オフィスアワーを活用してください。

授業計画		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**授業に関するガイダンスと社会における統計学・データサイエンスの意義** 記述統計と推測統計、社会における統計学及びデータサイエンスの重要性について講義する。	小テストを受け、講義内容の理解度を確かめ、復習を行う。	4時間
第2回	**データからの情報抽出（1）　尺度水準、量的データの要約** 統計データの分類及び量的データの整理・要約について講義する。	小テストを受け、講義内容の理解度を確かめ、復習を行う。	4時間
第3回	**データからの情報抽出（2）　質的データの要約** 質的データの整理・要約について、具体的な例を挙げて紹介する。	小テストを受け、講義内容の理解度を確かめ、復習を行う。	4時間
第4回	**データからの情報抽出（3）　データの可視化** データの可視化を取り上げ、適切なデータの見せ方について講義する。	小テストを受け、講義内容の理解度を確かめ、復習を行う。	4時間
第5回	**データからの情報抽出（4）　変数の変換** 標準化などの変数の変換及びその意義について講義する。	小テストを受け、講義内容の理解度を確かめ、復習を行う。	4時間
第6回	**データからの情報抽出（5）　相関と因果** 相関関係と因果関係の違いについて説明し、散布図及び相関係数について講義する。	小テストを受け、講義内容の理解度を確かめ、復習を行う。	4時間
第7回	**データからの情報抽出（6）　回帰** 回帰直線及び決定係数について講義する。	小テストを受け、講義内容の理解度を確かめ、復習を行う。	4時間
第8回	**データからの情報抽出（7）　まとめと補足** 第1回から7回目までのまとめ及び補足を行う。	第１回目から7回目までの復習を行う。	4時間
第9回	**統計的推測の考え方（1）　推測統計の基礎** 標本抽出及び推測統計の基礎的な事項・考え方について講義する。	小テストを受け、講義内容の理解度を確かめ、復習を行う。	4時間
第10回	**統計的推測の考え方（2）　標本分布と信頼区間** 標本分布及び信頼区間について講義する。	小テストを受け、講義内容の理解度を確かめ、復習を行う。	4時間
第11回	**統計的推測の考え方（3）　統計的検定の基礎** 統計的検定の基礎的な事項・手続きについて講義する。	小テストを受け、講義内容の理解度を確かめ、復習を行う。	4時間
第12回	**統計的推測の考え方（4）　t検定** 対応のないt検定及び対応のあるt検定について講義する。	小テストを受け、講義内容の理解度を確かめ、復習を行う。	4時間
第13回	**統計的推測の考え方（5）　カイ二乗検定** 適合度の検定及び独立性の検定について講義する。	小テストを受け、講義内容の理解度を確かめ、復習を行う。	4時間
第14回	**統計的推測の考え方（6）　まとめと補足** 第9回から13回目までのまとめ及び補足を行う。	第9回目から13回目までの復習を行う。	4時間

111

授業科目名	**統計学実践**				
担当教員名	**上阪彩香・廣江葵**				
学年・コース等	1年・データサイエンス学部	開講期間	後期	単位数	2
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の概要					

授業概要

授業では、PCの扱いに不慣れな学生でも直感的に扱いやすいMicrosoft Excelを用いて、「統計学基礎」で学修した内容、および発展的な内容について演習を行う。また、Excelを用いてデータを分析する際に非常に強力な手段となりうるVBA（Visual Basic for Applications）を用いてプログラミングの基本的な概要についても講述し、演習を行う。これは、将来的にRやPythonなどの他のプログラミング言語を用いてデータ分析を行う際の橋渡しともなる。まずは、「Excelの基礎的な操作」として、データの代表値、データの可視化、仮説検定を取り上げ、短時間で完結するタスクをこなすことで、Excelの操作を会得し、統計学基礎で学んだ内容の定着を目指す。次に、「Excelの発展的な操作」として、層別解析、大数の法則、中心極限定理について取り上げ、少々複雑なExcelの操作を要する演習を通じてExcelの操作に習熟する。最後に、「Excelを用いた実践的データ分析」として、回帰分析を用いた予測について演習を行う。ここでは、今まで培ったExcelを扱う能力をフルに活かし、試行錯誤を重ねながら、より良いデータ分析の方法を模索する。分析ツールやソルバーなどのアドインについても紹介

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. DP１.数学・統計学・科学的方法、計算機科学の基礎／DP２.データとその扱いの基礎／DP３.データサイエンスによる課題解決の方法の選択	「統計学基礎」で学修した内容を踏まえ、表計算ソフトであるMicrosoft Excelを用いて統計学の演習を行う。	Excelの扱いに習熟し、Excelを用いてデータの分析を行うことができる。
2.	演習を通じて、日常生活や社会活動に必要不可欠である統計学への理解を深め、正しいデータの扱い方を身につける。	データ分析の結果を正しく読み取り、結果に基づいて正しく考察することができる。
汎用的な力		
1. DP４.データサイエンスによる課題解決・課題探索の方法の提案		Excelに標準搭載されている関数での分析が難しい処理に関して、VBA（Visual Basic for Applications）のプログラミングを通じて柔軟にデータ分析を実施できる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)

・実験、実技、実習

課題や取組に対する評価・振り返り

・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

授業へは原則としてすべて出席してください。何らかの事情で欠席する場合は、シラバスや授業内での配布資料を参照し、自学により内容を確認し、必要な課題に取り組むようにしてください。なお、資格・免許取得に必要な科目は、単位修得に必要な授業時間数が定められている場合がありますので、注意してください。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
授業内レポート	80 %	： 毎回、講義内容に関するレポートを提出する。
定期試験（レポート）	20 %	： 指定した範囲を的確に理解しているかを評価します。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

教養としてのデータサイエンス（内田 誠一 他著、ISBN：978-4-06-523809-7、講談社）2021年
確率・統計入門（小針 アキ宏著、ISBN：9784000051576、岩波書店）1973年

データサイエンスの基礎（浜田 悦生著、ISBN：978-4-06-517000-7、講談社）2019年
統計学の基礎から学ぶExcelデータ分析の全知識（三好 大悟著、ISBN9784295011088、インプレス）2021年

履修上の注意・備考・メッセージ

講義・課題においてPCを利用するため、講義時には必ず持参すること。
Microsoft Office Excelを使用し、授業はWindowsで行います。講義までに、Microsoft Office Excelが使用できるようにしておくこと。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 上阪：火曜4限、廣江：水曜3限

場所： 各教員の研究室（駅前キャンパスＳ館）

備考・注意事項： オフィスアワーを活用してください。

授業計画		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**授業に関するガイダンスと表 計算ソフトExcelについて** 授業に関するガイダンスと表計算ソフトExcelの基礎的な操作を紹介する。	表計算ソフトExcelが使用できることを確認する。	4時間
第2回	**Excelの基礎的な操作（1） 数式・ワークシート関数の利用とデータの代表値** 数式・ワークシート関数を紹介し、データの代表値（平均・中央値など）の算出を実践する。	講義内容に関するレポートを作成し、提出する。	4時間
第3回	**Excelの基礎的な操作（2） Excelのグラフ機能とデータの可視化** グラフ種類の適切な選び方から、グラフの作成の基本手順・編集手順について講義する。	講義内容に関するレポートを作成し、提出する。	4時間
第4回	**Excelの基礎的な操作（3） 仮説検定** 統計的仮説検定を復習し、データを用いて仮説検定を実践する。	講義内容に関するレポートを作成し、提出する。	4時間
第5回	**Excelの発展的な操作（1） データの抽出・前処理、層別解析** データの抽出や並び変え、層別、集計など分析を行うための前処理について紹介する。層別解析について講義する。	講義内容に関するレポートを作成し、提出する。	4時間
第6回	**Excelの発展的な操作（2） 乱数を利用した大数の法則、中心極限定理の確認** 乱数を利用し、大数の法則及び中心極限定理について確認する。	講義内容に関するレポートを作成し、提出する。	4時間
第7回	**Excelを用いた実践的データ 分析（1） 単回帰分析** 単回帰分析の説明とデータを用いた分析を実践する。	講義内容に関するレポートを作成し、提出する。	4時間
第8回	**Excelを用いた実践的データ 分析（2） 重回帰分析** 重回帰分析の説明とデータを用いた分析を実践する。	講義内容に関するレポートを作成し、提出する。	4時間
第9回	**Excelを用いた実践的データ 分析（3） ソルバーアドインの利用** ソルバーアドインについて紹介し、実践する。	講義内容に関するレポートを作成し、提出する。	4時間
第10回	**Excelを用いた実践的データ 分析（4） モデル選択** モデル選択について紹介し、実践する。	講義内容に関するレポートを作成し、提出する。	4時間
第11回	**Excelのマクロ機能とVBA（1） マクロ機能の紹介とVBAを用いたプログラミング（前半）** Excelのマクロ機能の紹介とVBAを用いたプログラミングの導入を行う。	講義内容に関するレポートを作成 し、提出する。	4時間
第12回	**Excelのマクロ機能とVBA（2） VBAを用いたプログラミング （後半）** VBAを用いたプログラミングを実践する。	講義内容に関するレポートを作成し、提出する。	4時間
第13回	**Excelのマクロ機能とVBA（3） VBAを用いたモデル選択** 第10回目に取り上げたモデル選択をVBAを用いて実践する。	講義内容に関するレポートを作成し、提出する。	4時間
第14回	**Excel以外のツールを用いた データ分析の方法について、授業のまとめ** 講義の総括と補足、Excel以外のツールを用いたデータ分析の方法について紹介する。	これまでの学修内容を使用し、指定された内容のレポートを作成し、 提出する。	4時間

111

授業科目名	ＡＩ入門				
担当教員名	加藤隆文				
学年・コース等	1年～4年	開講期間	後期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	AIによって急速に変容してゆく社会（いわゆるSociety 5.0）において、都市計画、新ビジネス開拓、法制度や倫理的問題への配慮など、多彩な分野での実務経験がある特別講師を招聘する。				

授業概要

Society 5.0という言葉を聞いたことはありますか。あなたは、自分の個人情報がどのように活用されているのか、理解していますか。私たちの生活の様々な局面でAI（人工知能）が活用されるようになっており、ビッグデータとAIを活用した新興のデータビジネスにより、社会の姿は劇的に変わりつつあります。本講義では、こうした社会において実務面・思想面の両面で活躍する外部講師を招き、それぞれの専門や手掛けるビジネスについてお話しいただきます。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. 全学DP１.幅広い教養やスキル	AI導入や新しいデータビジネスによって急速に変化する社会を生き抜く教養を身につける。	社会で活躍する様々な産業人や研究者から直接話を聞いたり、質疑応答をしたりすることを通じて、AI時代の社会についての知識と想像力、思考力を身につける。
2. 全学DP３.専門的知識・技能を実践で応用する力	AI導入や新しいデータビジネスによって社会がどう変化するのかを具体的に理解し、先進的なアイデアを自ら構想できるようになる。	AI時代の最先端の都市計画やビジネスについて、その専門当事者の講義を聴き、時には議論をすることを通して、自らがそうした新しい社会の最前線で活躍できる将来像を具体的に思い描けるようになる。
汎用的な力		
1. 全学DP４.課題発見		今後の社会の変化に柔軟に対応し、自ら率先して、AIを利用したりデータを扱ったりする際の倫理的課題等を見抜けるようになる。
2. 全学DP５.計画・立案力		ビッグデータとAIが組み合わさることで生じる幅広い新ビジネスを自ら構想・開拓できる柔軟な想像力を身につける。

学外連携学修

有り(連携先：AI利用やデータビジネス関連の分野で活躍する様々な産業人・研究者)

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)

・問答法・コメントを求める

・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)

・その他(以下に概要を記述)

小シンポジウムを開催する際には、ゲスト講師と学生との間で議論をする時間を設ける。

課題や取組に対する評価・振り返り

・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

授業へは原則としてすべて出席してください。何らかの事情で欠席する場合は、シラバスや授業内での配布資料を参照し、自学により内容を確認し、必要な課題に取り組むようにしてください。なお、資格・免許取得に必要な科目は、単位修得に必要な授業時間数が定められている場合がありますので、注意してください。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
授業内質疑応答	10 %	： ゲスト講師との積極的なコミュニケーションを期待します。社会の最先端で活躍する産業人や研究者との貴重なコミュニケーションの機会をどれだけ有意義なものにできるかを見ます。
授業振り返り（フィードバック課題）	60 %	： 講義ごとに、各自が内容を振り返り、気付いたことや考えたことなどを報告してもらいます。理解の深さ、自分の考えが述べられているかを見ます。
課題試験（総括レポート）	30 %	： 授業全体に関して個々に振り返りをおこない、自分が何を感じ、考えたのかを述べるレポートを作成する。未来の社会において自分ならばどのように活躍できるのかを具体的に構想できているレポートは高く評価する。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

授業中に適宜指示する。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間以上の授業外学修が求められる。
各講義で学習したことについて、独自に復習や調査をおこない、さらに理解を深めることを期待する。

※特別講師のご都合や、受講学生に合わせた授業設計改善の観点から、それぞれの講義・小シンポジウムの予定が変更される場合がある。予定変更が生じた場合は、適宜連絡する。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 月曜2限

場所： 南館２F総合研究室

備考・注意事項： 相談や質問の内容を、事前に下記メールアドレスに連絡することが望ましい。
kato-t@g.osaka-seikei.ac.jp

授業計画

		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**AIは社会をどう変えるのか** 私たちの身近なところで、AI（Artificial Intelligence：人工知能）の活用が急速に進んでいる。しかしそもそも、AIとは何をするもので、私たちの生活をどう変えるのか。「何となく凄そう」という漠然としたイメージだけが先行してはいないか。まずは広い視野で、実際に社会のどのような場面でAIが実装されているのかを考察する。 ※初回に、本授業の全体的な設計や評価方法などについても説明する。	講義内容を復習し、必要に応じて関係分野や社会情報をさらに探究する。	4時間
第2回	**ELSIとはなにか** 【特別講師を招聘予定】 Society 5.0において必要とされる知恵とはなにか。AIやデータサイエンスを適切に活用してゆくには、科学的知識や工学的関心だけでなく、人文知も不可欠である。こうした考えに基づき、最先端テクノロジーと主体的に（人間中心の態度を維持して）付き合うための人文知を身につけるべく、ELSI（Ethical, Legal and Social Issues）と呼ばれる問題系の概要を学ぶ。	講義内容を復習し、必要に応じて関係分野や社会情報をさらに探究する。	4時間
第3回	**小シンポジウム１：大規模データの商業活用の現状（予定）** 【特別講師を2名招聘予定（産業界から1名、研究者を1名）】 第3回と第4回は連続で授業をおこなう。 1）産業界からお呼びするゲスト講師より、経歴、今までの活動、AI時代の社会についての今後のヴィジョンと自分自身の戦略などをお話しいただく。 2）ゲスト講師のお話をふまえ、研究者の特別講師から、とりわけELSIの観点で留意すべき事柄についてご指摘いただく。	講義内容を復習し、必要に応じて関係分野や社会情報をさらに探究する。	4時間
第4回	**小シンポジウム１：ディスカッション** 休憩をはさんだのちに、特別講師2名と学生たちのあいだで質疑応答をおこなう。さらに、本学教員がファシリテーターとなり、特別講師と学生たちのあいだで議論をする機会を提供する。	ディスカッション内容を反芻し、ゲスト講師の携わる事業に将来の自分が関わることになったらどう貢献できるか等を具体的に構想する。	4時間
第5回	**ELSIの歴史（予定）** 【特別講師を招聘予定】 第2回にその概要を学んだELSIは、科学技術と社会の関わりを考える上で必須の問題系を示している。こうした問題系について、どういった歴史的経緯があって成立・発展してきたのかを、専門の科学哲学研究者が講じる。	講義内容を復習し、必要に応じて関係分野や社会情報をさらに探究する。	4時間
第6回	**科学者コミュニケーションと社会（予定）** 【特別講師を招聘予定】 科学技術は、閉じられた科学者・工学者・技術者のコミュニティ内だけで発展するものではない。新しい技術が社会の中でどう受け入れられ、どのような利用方法が発展してゆくのかを構想する、科学者コミュニケーションの視点が極めて重要である。科学者コミュニケーションにまつわる議論や実践を、様々な具体例を踏まえつつ概観する。	講義内容を復習し、必要に応じて関係分野や社会情報をさらに探究する。	4時間
第7回	**さまざまなAI活用（予定）**	講義内容を復習し、必要に応じて関係分野や社会情報をさらに探究する。	4時間

	【特別講師を招聘予定】 現実世界でのAI活用という点では、たとえば医療の分野では既に、AIに大量の論文を読ませることによって、人間には識別不可能な微妙な画像から繊細な変化を検知させ、高い精度で疾病を特定することに成功している。日本でも同様の研究開発は進められており、患者に対してより高精度な医療を提供できるだけでなく、医師の負担を軽減することにもつながる。しかし、その一方で、誤診が生じた際の責任の所在が不明確になること、またAIと医師の診断が分かれた場合の判断が分かれるなど、新たな問題も生じている。こうしたAI活用の現状について広い分野において再考する講義をおこなう。		
第8回	**小シンポジウム２：スマートな社会（予定）** 【特別講師を2名招聘予定（産業界から1名、研究者を1名）】 第8回と第9回は連続で授業をおこなう。 1）産業界からお呼びするゲスト講師より、経歴、今までの活動、AI時代の社会についての今後のヴィジョンと自分自身の戦略などをお話しいただく。 2）ゲスト講師のお話をふまえ、研究者の特別講師から、とりわけELSIの観点で留意すべき事柄についてご指摘いただく。	講義内容を復習し、必要に応じて関係分野や社会情報をさらに探究する。	4時間
第9回	**小シンポジウム１：ディスカッション** 休憩をはさんだのちに、特別講師2名と学生たちのあいだで質疑応答をおこなう。さらに、本学教員がファシリテーターとなり、特別講師と学生たちのあいだで議論をする機会を提供する。	ディスカッション内容を反芻し、ゲスト講師の携わる事業に将来の自分が関わることになったらどう貢献できるか等を具体的に構想する。	4時間
第10回	**スマート社会の光と影（予定）** 【特別講師を招聘予定】 「スマートな社会」には明るい面だけではなく、危険もついて回る。たとえば、学生にとって身近なのは個人情報の管理の問題である。プライバシーポリシーの制定をめぐる倫理的諸問題をはじめとして、スマート社会において想定されるELSI関連の課題について、専門の哲学研究者が講じる。	講義内容を復習し、必要に応じて関係分野や社会情報をさらに探究する。	4時間
第11回	**AIによって変わる働き方（予定）** 【特別講師を招聘予定】 AIないしアルゴリズムを導入してゆくことによって、私たちの働き方は大きく変化する。数十年単位の経済文化の変化をベースに、AIやアルゴリズムの導入によって到来することが予想される非正規労働／フレキシブル労働について、Uber等を例に講義する。	講義内容を復習し、必要に応じて関係分野や社会情報をさらに探究する。	4時間
第12回	**哲学対話の実践１：スマート社会の私たち（予定）** 【特別講師を招聘予定】 これまでの授業でさまざまな観点からELSIに関わる課題を検討してきたが、本講義ではそうした実際の事例に基づき、特別講師の案内を得ながら、学生とともに「哲学対話」を実践する。この実践を通して、スマート社会において大きく変わってゆかざるをえない私たちの生き方について構想する。	講義内容を復習し、必要に応じて関係分野や社会情報をさらに探究する。	4時間
第13回	**哲学対話の実践２：AIと生きる私たち** 【特別講師を招聘予定】 AIを活用したさまざまなサービス、あるいはビジネスが、急速に私たちの生活の中に現れてきている。ただ、AIとはそもそもどういう存在なのか、AIとともに生きるなかで私たち人間はどのように変わってゆくのか、未だ不透明である。こうした事柄について具体的な将来像を思い描くべく、前回に引き続き、特別講師の案内を得つつ、学生とともに「哲学対話」を実践する。	講義内容を復習し、必要に応じて関係分野や社会情報をさらに探究する。	4時間
第14回	**実データを扱ってみよう（データ処理入門演習）** 独立行政法人統計センターが提供する教育用標準データセット（SSDSE）を活用し、表計算ソフトを使って実データ内の分布相関を視覚化するなどの簡単な演習をおこなう。	講義全体を復習し、最終レポート課題執筆に備える。	4時間

111

授業科目名	Ａ Ｉ 入門				
担当教員名	吉川千晴				
学年・コース等	1年～4年	開講期間	後期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の概要					

授業概要

Society 5.0という言葉を聞いたことはありますか。あなたは、自分の個人情報がどのように活用されているのか、理解していますか。私たちの生活の様々な局面でAI（人工知能）が活用されるようになっており、ビッグデータとAIを活用した新興のデータビジネスにより、社会の姿は劇的に変わりつつあります。本講義では、AIの歴史やAIについての倫理といった教養を学んだ上で、人とAIの認識や人とAIの関わり方について考えていきます。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. 全学DP１.幅広い教養やスキル	AI導入や新しいデータビジネスによって急速に変化する社会を生き抜く教養を身につける。	AI時代の社会についての知識と想像力、思考力を身につける。
2. 全学DP３.専門的知識・技能を実践で応用する力	AI導入や新しいデータビジネスによって社会がどう変化するのかを具体的に理解し、先進的なアイデアを自ら構想できるようになる。	AIが活用される新しい社会の最前線で自らが活躍できる将来像を具体的に思い描けるようになる。
汎用的な力		
1. 全学DP４.課題発見		今後の社会の変化に柔軟に対応し、自ら率先して、AIを利用したりデータを扱ったりする際の倫理的課題等を見抜けるようになる。
2. 全学DP５.計画・立案力		ビッグデータとAIが組み合わさることで生じる幅広い新ビジネスを自ら構想・開拓できる柔軟な想像力を身につける。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)

・問答法・コメントを求める

・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)

・eラーニング、反転授業

オンデマンド動画形式の授業です。

課題や取組に対する評価・振り返り

・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

授業へは原則としてすべて出席してください。何らかの事情で欠席する場合は、シラバスや授業内での配布資料を参照し、自学により内容を確認し、必要な課題に取り組むようにしてください。なお、資格・免許取得に必要な科目は、単位修得に必要な授業時間数が定められている場合がありますので、注意してください。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
授業振り返り（フィードバック課題）	70 %	： 講義ごとに、各自が内容を振り返り、気付いたことや考えたことなどを報告してもらいます。理解の深さ、自分の考えが述べられているかを見ます。
課題試験（総括レポート）	30 %	： 授業全体に関して個々に振り返りをおこない、自分が何を感じ、考えたのかを述べるレポートを作成する。単なる授業のまとめではなく、自分がこれからどうAIと関わるべきかといった自分の考えを具体的に書けているレポートは高く評価する。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

授業中に適宜指示する。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回約5時間の授業外学修が求められる。
各講義で学習したことについて、独自に復習や調査をおこない、さらに理解を深めることを期待する。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

備考・注意事項： 下記のメールアドレスに連絡して、アポイントメントを取ってください。Zoomかメールで対応します。
yoshikawa-c@g.osaka-seikei.ac.jp

授業計画		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**AIは社会をどう変えるのか** 私たちの身近なところで、AI（Artifi cial Intelligence:人工知能）の活用が急速に進んでいる。しかしそもそも、AIとは何をするもので、私たちの生活をどう変えるのか。「何となく凄そう」という漠然としたイメージだけが先行してはいないか。まずは広い視野で、実際に社会のどのような場面でAIが実装されているのかを考察する。 ※初回に、本授業の全体的な設計や評価方法などについても説明する。	講義内容を復習し、必要に応じて関係分野や社会情報をさらに探究する。	5時間
第2回	**ELSIとは** Society 5.0において必要とされる知恵とはなにか。AIやデータサイエンスを適切に活用してゆくには、科学的知識や工学的関心だけでなく、人文知も不可欠である。こうした考えに基づき、最先端テクノロジーと主体的に（人間中心の態度を維持して）付き合うための人文知を身につけるべく、ELSI（Ethical, Legal and Social Issues）と呼ばれる問題系の概要を学ぶ。	講義内容を復習し、必要に応じて関係分野や社会情報をさらに探究する。	5時間
第3回	**AIの歴史** 第一次AIブームから現在も続く第三次AIブームまでの歴史を概説する。	講義内容を復習し、必要に応じて関係分野や社会情報をさらに探究する。	5時間
第4回	**機械学習とは何か** 機械学習の種類を概説し、それぞれの手法にどのような特徴があるか講じる。 AIが得意なことと苦手なことについて概説する。	講義内容を復習し、必要に応じて関係分野や社会情報をさらに探究する。	5時間
第5回	**ディープラーニングとは何か** 最近のAIブームで特に注目されている手法であるディープラーニングとは何か概説する。ディープラーニングの手法や、ディープラーニングによってできることについて講じる。	講義内容を復習し、必要に応じて関係分野や社会情報をさらに探究する。	5時間
第6回	**自然言語処理モデル** AIは人間の使う言葉をどのようにして使えるようになるのか、AIは人間の使う言葉の意味が分かるのかについて講じる。	講義内容を復習し、必要に応じて関係分野や社会情報をさらに探究する。	5時間
第7回	**生成モデル** AIは単純作業をするだけでなく、新たに文章・絵画・音楽を生成するなどクリエイティブな領域にも関わるようになってきている。それらを生成できるようになる方法や、クリエイティブな領域におけるAIと人間の関わり方について講じる。	講義内容を復習し、必要に応じて関係分野や社会情報をさらに探究する。	5時間
第8回	**画像認識モデル** AIはどのようにして画像認識をするのか、また画像認識AIはどのように応用して活用できるのかについて講じる。	講義内容を復習し、必要に応じて関係分野や社会情報をさらに探究する。	5時間
第9回	**AI倫理** AIを利用する私たちにとって倫理的問題は重要である。実際に起こった例を挙げながら、それぞれの例がどのような点で倫理原則に反しているか確認し、今後取るべき措置について講じる。	講義内容を復習し、必要に応じて関係分野や社会情報をさらに探究する。	5時間
第10回	**AIによって変わる働き方** AIないしアルゴリズムを導入してゆくことによって、私たちの働き方は大きく変化する。必要なAIを開発し、育て、AIの仕事の最終チェックを人間がするというように、AIと関わりながら仕事をしていくことが予想される。具体的な職業の例を踏まえながら、今後の働き方の変化について講じる。	講義内容を復習し、必要に応じて関係分野や社会情報をさらに探究する。	5時間
第11回	**AIと差別・偏見**	講義内容を復習し、必要に応じて関係分野や社会情報をさらに探究する。	5時間

	人間は認識の偏りを持っていて、ときに特定の人々を差別することがある。AIはこうした偏見をデータとして学習してしまうこともある。実際にどのような偏見をAIが学習した例があるか挙げ、これからそのようなことが起こらないようにどう改善していくべきか講じる。		
第12回	**AIと芸術** 生成AIは芸術の一部を担うことがある。しかし、AIは本当の意味で創作や鑑賞といった芸術活動を行うことができるだろうか。それは専門家でも意見が分かれているので、AIが芸術活動を行えるという意見、行えないという意見のそれぞれを紹介し、考察する。	講義内容を復習し、必要に応じて関係分野や社会情報をさらに探究する。	5時間
第13回	**AIとの関係** AIは人間を支配する脅威となるのだろうか。あるいは、AIは人間が使う道具や奴隷のような存在なのだろうか。また、AIと人間が友達になるという可能性はあるのだろうか。AIと人間のあるべき関係について考察する。	講義内容を復習し、必要に応じて関係分野や社会情報をさらに探究する。	5時間
第14回	**実データを扱ってみよう（データ処理入門演習）** 独立行政法人統計センターが提供する教育用標準データセット（SSDSE）を活用し、表計算ソフトを使って実データ内の分布相関を視覚化するなどの簡単な演習をおこなう。	講義全体を復習し、最終レポート課題執筆に備える。	5時間

111

授業科目名	**企業等連携ＰＢＬ（2023～）/学外連携ＰＢＬ（～2022）**				
担当教員名	**島雅則・本間哲也・中野毅・尾崎文則**				
学年・コース等	2年	開講期間	前期	単位数	2
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	全ての教員がそれぞれ企業での就業経験を持つ実務家教員として、キャリアについての知識と経験を豊富に持つ。				

授業概要

社会で実践する力、協働できる素養を踏まえて学生から社会人に意識改革を図り、社会人としての姿勢を身につける。企業や団体が提供する課題に受講者全体が取組む。学習活動を通し学生は学習手法、分析方法、課題解決法、マネジメント、チームワーク、コミュニケーション、プレゼンテーションなどキャリアに必要なコンピテンシーを能動的に学ぶ。国際観光学部に対応した専門に特化したPBL（Project-Based Learning）として、専門知識を応用し現実の課題に生かすことで、その知識を定着させ専門知識と実社会とのつながりを学ぶ。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. 全学DP２.専門的知識・技能、職業理解	課題を解決するために、必要な情報を収集し、そのためのプロセスを考え実践する力を身につける。	社会で必要とされる情報収集力、分析力、課題解決力を養う。

汎用的な力

1. 全学DP４.課題発見	提示された問題点を洗い出し解決の目標を定めることができる。
2. 全学DP５.計画・立案力	独自性・創造性があり実行可能な企画書を作成することができる。
3. 全学DP６.行動・実践	チーム活動の内容を理解し主体的に取り組むことができる。
4. 全学DP９.役割理解・連携行動	場の流れを理解し、適切に協働することができる。
5. 全学DP10.忠恕の心	相手が伝えたいことを共感的に理解し、自分の考えや思いを伝えることができる。

学外連携学修

有り(連携先：在阪のホテル等)

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
・見学、フィールドワーク
・課題解決学習(PBL)

課題や取組に対する評価・振り返り

・提出物にコメント・評価をつけて返却します
・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

授業へは原則としてすべて出席してください。何らかの事情で欠席する場合は、シラバスや授業内での配布資料を参照し、自学により内容を確認し、必要な課題に取り組むようにしてください。なお、資格・免許取得に必要な科目は、単位修得に必要な授業時間数が定められている場合がありますので、注意してください。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
個人評価　テキスト評価	30　％	：　毎回の授業終了時の振り返りレポートです。KPT法を使う。KEEP：今回できてよかったこと、PROBLM:今回できなかったこと、課題だと感じたこと、TRY:今後に向けてチャレンジしている。
個人評価　フィードバックシート	15　％	：　受講生から受講生全体に対してコメントするものである。メンバーの活動を理解しコミュニケーションを取っている。
個人評価　課題発見レポート		：　必要なデータを読み取り的確にまとめ、問題点を洗い出し解決の目標を定めることができる。

10 ％

期末レポート : レポート内容は授業時間内に通知する。記述内容の充実度と論理性、説得性の観点から評価する。

15 ％

グループ評価　企画提案シート : 独自性・創造性があり実行可能な企画書を作成することができる。
状況や場面に応じ、計画変更・修正の必要性に気づき、指導者の承諾を得、変更・修正できる。

10 ％

グループ評価　プレゼンテーション : シナリオの状況に適した、妥当な最終解決策を提案している。解決策をより効果的に実行するために、追加情報の必要性に気付いている。

20 ％

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

授業の都度、参考文献、資料、論文等を紹介します。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は２単位の科目であるため、平均すると毎回４時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。
原則すべての授業に出席することが前提である。欠席した場合は理由を教員に連絡してください。開始時は着席が基本である。配布されるテキストは毎回持参してください。マナーを重視する。この授業は協働を重視するため、授業態度の悪い学生には退出を命じる。この授業はチームで考え、自分達で行動する授業である。受ける教育から参画する教育へ頭を切り替えてください。積極的に授業に関わりながら「学ぶ楽しさ」を知る授業にしてください。企業訪問、最終プレゼンテーションはスーツで参加すること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 初回授業時にお知らせします

場所： 各教員の研究室

備考・注意事項： メールでの質問等も受け付けます。
その際タイトルに必ず、学籍番号と氏名を明記してください。

授業計画		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**プログラムの目的の説明＆チームづくり** この授業の目的および進め方について、全体説明を行い、学科横断によるチーム編成を実施する。	インターネット等で、大学のＰＢＬ授業の事例を調べ、必要な能力や行動を考える。また課題提供企業に関する情報・データを調べる。	4時間
第2回	**課題提供事業者からの課題の提示** 課題提供事業者からプレゼンテーションを受ける。 提示されたミッションから希望ミッションを選択する。	課題提供企業から提示されたミッションについて、先進的に取り組んでいる企業事例を調べ、取り組み内容をまとめる。	4時間
第3回	**【座学】企画の基礎を学ぶ** ①企画の基本的な考え方や立案の仕方を学ぶ（基本のフレームワークの作成）。 ②取り組みの方向性を決め、チーム内での役割分担を行う。	チームで取り組む企画案について、その全体像を再確認するとともに、自身の担当する分野について必要な情報を収集する。	4時間
第4回	**事前調査①　役割を分担し課題を調査する** チーム内で役割を分担し、担当する課題について、インターネット等で調査する。	現地調査やヒアリング調査において気を付けなければならない点、準備しておかなければならない点を事前に調べ、まとめておく。	4時間
第5回	**事前調査②　調査項目を設定する** 現地調査での調査項目またはヒアリング項目を設定する。	現地調査やヒアリング調査において気を付けなければならない点、準備しておかなければならない点を事前に調べ、まとめておく。	4時間
第6回	**現地調査** チーム内で役割を分担し、担当する課題について調査する【学外授業】。	現地で見たこと、感じたこと、また課題点や改善点をまとめる。	4時間
第7回	**調査結果の共有と企画骨子の作成** プレゼンテーションの基本を学ぶ【座学】 各自が調査した内容をもとに、企画の基礎となる骨子案を作成する。 （ここまでに企業訪問などの現地調査を終了することが望ましい）	チームで共有された骨子案について、新規性や実現性があるか、インターネット等で先行事例を調べる。	4時間
第8回	**企画書の作成** 企画書の作成を行う。	企画に不足している点についてインターネット等で調査する。	4時間

第9回	**プレゼンテーション準備** 企画書を完成させ、プレゼンテーションの準備を行う。	プレゼンテーション用のパワーポイントが見やすく、伝わりやすくなっているかを確認し、プレゼンの練習を行う。	4時間
第10回	**企画提案の実施** 課題提供事業者に対し企画案のプレゼンテーションを実施する【学外授業】。	課題提供事業者より指摘された問題点を改善するためにチームで話し合いをする。	4時間
第11回	**企画提案のブラッシュアップ** 課題提供事業者からの指摘をもとに、成果発表に向け、プランを修正し、また必要な情報を集める。	課題提供事業者より指摘された問題点を改善するためにチームで話し合いをする。	4時間
第12回	**発表資料の完成** 企画案から発表資料（パワーポイント）の作成を行う。 また最終プレゼンテーションに向け、発表練習を行う。	企画の改善点、プレゼンテーションの問題点をチームで話し合いを行う。	4時間
第13回	**最終プレゼンテーション** 課題提供事業者に対して、優秀チーム企画のプレゼンテーションを行う、成果発表、審査委員会の実施。	各チームの発表の良かった点（アイデア、発表内容、発表資料）見学メモで学修の振り返りを行ってください。	4時間
第14回	**総括および今後の課題を整理** チーム学習振り返り／PDCAを知る。今後の課題を整理する。	全体的な復習と学習成果を確認する。	4時間

授業科目名	企業等連携ＰＢＬ（2023～）/学外連携ＰＢＬ（～2022）				
担当教員名	田村匡・神瀬邦久・青野桃子・山崎哲弘・林悠太・白濱孝之・鳥山稔・福長久美子・田原卓哉				
学年・コース等	2年	開講期間	前期	単位数	2
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の概要					

授業概要

社会で実践する力、協働できる素養を踏まえて学生から社会人に意識改革を図り、社会人としての姿勢を身に付ける。企業や団体が提供する課題に受講者全体で取り組む。学習活動を通し、学生は学習方法、分析方法、課題解決法、チームワーク、マネジメント、コミュニケーション、プレゼンテーションなどキャリアに必要なコンピテンシーを能動的に学ぶ。経営学部の各学科・コースに対応した専門に特化したＰＢＬとして、専門知識を応用し現実の課題に生かすことで知識を定着させ専門知識と実社会との繋がりを学ぶ。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. 全学DP２.専門的知識・技能、職業理解	課題を解決するために、必要な情報を収集し、そのためのプロセスを考え実践する力を身に付ける。	社会で必要とされる情報収集力、分析力、課題解決力を養う。

汎用的な力

1. 全学DP４.課題発見	提示された問題点を洗い出し解決の目標を定めることができる。
2. 全学DP５.計画・立案力	独自性・創造性があり実行可能な企画書を作成することができる。
3. 全学DP６.行動・実践	チーム活動の内容を理解し主体的に取り組むことができる。
4. 全学DP９.役割理解・連携行動	場の流れを理解し、適切に協働することができる。
5. 全学DP10.忠恕の心	相手が伝えたいことを共感的に理解し、自分の考えや思いを伝えることができる。

学外連携学修

有り(連携先：コングレ、セレッソ、アシックストライアスサービス)

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
・見学、フィールドワーク
・課題解決学習(PBL)

課題や取組に対する評価・振り返り

・提出物にコメント・評価をつけて返却します
・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

授業へは原則としてすべて出席してください。何らかの事情で欠席する場合は、シラバスや授業内での配布資料を参照し、自学により内容を確認し、必要な課題に取り組むようにしてください。なお、資格・免許取得に必要な科目は、単位修得に必要な授業時間数が定められている場合がありますので、注意してください。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
個人評価　テキスト評価	30　％	： 毎回の授業終了時の振り返りレポートです。KPT法を使う。KEEP：今回できてよかったこと、PROBLM:今回できなかったこと、課題だと感じたこと、TRY:今後に向けてチャレンジしている。
個人評価　フィードバックシート	15　％	： 受講生から受講生全体に対してコメントするものである。メンバーの活動を理解しコミュニケーションを取っている。
個人評価　課題発見レポート		： 必要なデータを読み取り的確にまとめ、問題点を洗い出し解決の目標を定めることができる。

10 %

期末レポート : レポート内容は授業時間内に通知する。記述内容の充実度と論理性、説得性の観点から評価する。

15 %

グループ評価 企画立案シート : 独自性・創造性があり実行可能な企画書を作成することができる。 状況や場面に応じ、計画変更・修正の必要性に気づき、指導者の承諾を得、変更・修正できる。

10 %

グループ評価 プレゼンテーション : シナリオの状況に適した、妥当な最終解決策を提案している。解決策をより効果的に実行するために、追加情報の必要性に気付いている。

20 %

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

西川英彦・廣田章光（2012）『1からの商品企画』碩学舎.ISBN-13：978-4502693007

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は２単位の科目であるため、平均すると毎回４時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。
原則すべての授業に出席することが前提である。欠席した場合は理由を教員に連絡してください。開始時は着席が基本である。配布されるテキストは毎回持参してください。マナーを重視する。この授業は協働を重視するため、授業態度の悪い学生には退出を命じる。この授業はチームで考え、自分達で行動する授業である。受ける教育から参画する教育へ頭を切り替えてください。積極的に授業に関わりながら「学ぶ楽しさ」を知る授業にしてください。企業訪問、最終プレゼンテーションはスーツで参加すること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 各学科・テーマ別に設定。

場所： 各教員の研究室。

備考・注意事項： 初回講義でオフィスアワーを伝えます。

授業計画		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**プログラムの目的の説明＆チームづくり** この授業の目的および進め方について、全体説明を行い、学科横断によるチーム編成を実施する。	インターネット等で、大学のＰＢＬ授業の事例を調べ、必要な能力や行動を考える。また課題提供企業に関する情報・データを調べる。	4時間
第2回	**課題提供事業者からの課題の提示** 課題提供事業者からプレゼンテーションを受ける。 提示されたミッションから希望ミッションを選択する。	課題提供企業から提示されたミッションについて、先進的に取り組んでいる企業事例を調べ、取り組み内容をまとめる。	4時間
第3回	**【座学】企画の基礎を学ぶ** ①企画の基本的な考え方や立案の仕方を学ぶ（基本のフレームワークの作成）。 ②取り組みの方向性を決め、チーム内での役割分担を行う。	チームで取り組む企画案について、その全体像を再確認するとともに、自身の担当する分野について必要な情報を収集する。	4時間
第4回	**事前調査①　役割を分担し課題を調査する** チーム内で役割を分担し、担当する課題について、インターネット等で調査する。	現地調査やヒアリング調査において気を付けなければならない点、準備しておかなければならない点を事前に調べ、まとめておく。	4時間
第5回	**事前調査②　調査項目を設定する** 現地調査での調査項目またはヒアリング項目を設定する。	現地調査やヒアリング調査において気を付けなければならない点、準備しておかなければならない点を事前に調べ、まとめておく。	4時間
第6回	**現地調査** チーム内で役割を分担し、担当する課題について調査する【学外授業】。	現地で見たこと、感じたこと、また課題点や改善点をまとめる。	4時間
第7回	**調査結果の共有と企画骨子の作成** プレゼンテーションの基本を学ぶ【座学】 各自が調査した内容をもとに、企画の基礎となる骨子案を作成する。 （ここまでに企業訪問・店舗訪問などの現地調査を終了することが望ましい）	チームで共有された骨子案について、新規性や実現性があるか、インターネット等で先行事例を調べる。	4時間
第8回	**企画書の作成** 企画書の作成を行う。	企画に不足している点についてインターネット等で調査する。	4時間
第9回	**プレゼンテーション準備**	プレゼンテーション用のパワーポイントが見やすく、伝わりやすくなっているかを確認し、プレゼンの練習を行う。	4時間

	企画書を完成させ、プレゼンテーションの準備を行う。		
第10回	**企画提案の実施** 課題提供事業者に対し企画案のプレゼンテーションを実施する【学外授業】。	課題提供事業者より指摘された問題点を改善するためにチームで話し合いをする。	4時間
第11回	**企画提案のブラッシュアップ** 課題提供事業者からの指摘をもとに、成果発表に向け、プランを修正し、また必要な情報を集める。	課題提供事業者より指摘された問題点を改善するためにチームで話し合いをする。	4時間
第12回	**発表資料の完成** 企画案から発表資料（パワーポイント）の作成を行う。 また最終プレゼンテーションに向け、発表練習を行う。	企画の改善点、プレゼンテーションの問題点をチームで話し合いを行う。	4時間
第13回	**最終プレゼンテーション** 課題提供事業者に対して、優秀チーム企画のプレゼンを行う（７分１組）、成果発表、審査委員会の実施。	各チームの発表の良かった点（アイデア、発表内容、発表資料）見学メモで学修の振り返りを行ってください。	4時間
第14回	**総括および今後の課題を整理** チーム学習振り返り／PDCAを知る。今後の課題を整理する。	全体的な復習と学習成果を確認する。	4時間

112

授業科目名	企業等連携ＰＢＬ（2023～）/学外連携ＰＢＬ（～2022）				
担当教員名	門脇英純・辰巳清・熊倉一紗・仲村学・成清北斗				
学年・コース等	2年	開講期間	前期+集中	単位数	2
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	門脇：コンサルティング会社でプランナーとして、企業からの依頼を受けて事業開発、製品企画、広報戦略、市場調査を担当。（全14回） 辰巳:株式会社アミューズにてコンサート、演劇・ミュージカル、美術展など5000以上の公演を演出・プロデュース。国内外で大型プロジェクトの経験多数。文化庁専門委員など芸術文化による地域活性化の社会活動も行っている。（全14回）				

授業概要

社会で実践する力、協働できる力を養い、学生から社会人に意識改革を図り、社会人としての姿勢を身につける。企業や地域が提供する課題に受講者全体が取組む。学修活動を通し、学びの手法、分析方法、課題解決法、マネジメント、チームワーク、コミュニケーション、プレゼンテーションなど、キャリアに必要な基礎的能力を能動的に学ぶ。芸術学部に対応した専門に特化したPBL（Project-Based Learning）として、専門知識と技能を応用し、現実の課題に活かすことで、知識や技能を定着させ、専門性と実社会とのつながりを体験的に学ぶ。PBLは問題解決型学習〔Project（Program、Problem） Based Learning〕の略称で学習者が自ら問題を発見し解決することを重視した能動的学習方法。学習者が、答えや解決方法が一つだけではない問題を解決するという高い壁に挑戦することで、学習意欲を高めることができる学習法。2025年連携企業：株式会社電通、大阪大学 社会技術共創研究センター（ELSIセンター）。授業進行の中での学生向け研究倫理教育を学ぶ。学修の可視化として養うべき力を学修到達目標に示します。7～8回目の中間時に確認調査、授業終了に学習の振り返り学修到達目標評価の確認を行います。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. 全学DP３.専門的知識・技能を実践で応用する力	課題発見のための情報収集力	与えられた課題や問題について、情報収集力（課題発見にあたり必要な情報を判断し、収集できる力）を養う。
2. 全学DP３.専門的知識・技能を実践で応用する力	本質を明らかにする分析力	社会で必要とされる力として、分析力（収集した情報を目的に沿って整理し、その関係性や本質を明らかにできる力）を養う。
汎用的な力		
1. 全学DP４.課題発見		提示された問題点を洗い出し解決の目標を定めることができる。
2. 全学DP５.計画・立案力		独自性・創造性があり実行可能な企画書を作成することができる。
3. 全学DP８.意思疎通		仲間と適切なコミュニケーションがとれる。
4. 全学DP９.役割理解・連携行動		場の流れを理解し、適切に協働することができる。
5. 全学DP10.忠恕の心		相手が伝えたいことを共感的に理解し、自分の考えや思いを伝えることができる

学外連携学修

有り(連携先：大阪大学 社会技術共創研究センター（ELSIセンター）)

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
・ディベート、討論
・見学、フィールドワーク
・課題解決学習(PBL)

課題や取組に対する評価・振り返り

・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

授業へは原則としてすべて出席してください。何らかの事情で欠席する場合は、シラバスや授業内での配布資料を参照し、自学により内容を確認し、必要な課題に取り組むようにしてください。なお、資格・免許取得に必要な科目は、単位修得に必要な授業時間数が定められている場合がありますので、注意してください。

成績評価の方法・評価の割合	評価の基準
ミニッツペーパー、フィードバックシート（個人） 15 %	： 毎回の授業終了時の振り返りレポート。グループメンバーに対するコメントを記述する。メンバーの活動を理解しコミュニケーションが取れているかを評価するチームのメンバーに対するコメント。

課題発見シート提出（個人）	:	必要なデータを読み取り、的確にまとめ、問題点を洗い出し解決の目標を定めることができるかを評価する。
20 %		
企画提案シート提出（グループ評価）	:	独自性・創造性があり実行可能な企画書であるか。 状況や場面に応じ、計画変更・修正の必要性に気づき、指導者の承諾を得て、変更・修正できたか。グループ全員対象
20 %		
プレゼンテーション（中間/最終）	:	プレゼンテーションにおいて、問題解決企画案を論理的で説得力のある内容と、効果的なスライドと演出で提示し、聴衆の理解と共感を得ることができた。グループ全員対象
30 %		
定期試験（課題レポート）	:	最終プレゼンテーションを終了し、振り返りとしてレポートを課す。評価の視点は、①PBLとしての学びに視点、②気付いた課題、③今後のアクションプランについて具体的な視点があれば加点とする。
15 %		

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

○トランジション 社会の「あたりまえ」を変える方法 /松浦 正浩（著)/集英社/ISBN978-4-7976-7433-0
○システミックデザインの実践/著者：ピーター・ジョーンズ、クリステル・ファン・アール/BNN/ISBN：978-4-8025-1270-1
○入門 科学技術と社会/標葉 隆馬（編集)、見上 公一（編集)/ナカニシヤ出版//ISBN-13 978-4779517792
○責任ある科学技術ガバナンス概論/標葉 隆馬（著)/ナカニシヤ出版//ISBN-13 978-4779514845

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は２単位の科目であるため、平均すると毎回5時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。原則すべての授業に出席することが前提です。欠席した場合は理由を教員に連絡してください。開始時は着席が基本です。配布されるテキストは毎回持参してください。マナーを重視します。授業態度の悪い学生には退出を命じます。この授業はチームで考え、自分達で行動する授業です。受ける教育から参画する教育へ頭を切り替えてください。積極的に授業に関わりながら「学ぶ楽しさ」を知る授業にしてください。企業訪問、最終プレゼンテーションはスーツで参加すること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：　門脇：火1.２限、辰巳：月4限、熊倉：金4限、仲村：水3限、成清：金2限

場所：　門脇：南館１階、熊倉・辰巳・仲村：南館２階、成清：アトリエ棟

備考・注意事項：　火1.２限（門脇）、月４限（辰巳）、金４限（熊倉）、水3限（仲村）、金２限（成清）をオフィスアワーとしている。授業前後の質問も歓迎する。その他の連絡の取り方としてEメールで対応する。門脇（kadowaki@g.osaka-seikei.ac.jp）、Eメール件名としては「企業等連携PBL]について（氏名、学籍番号、グループNO）とすること。

授業計画

		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**学外連携PBL学修授業の目的と企業からのミッション理解** 課題提供事業者からプレゼンテーションを受ける。提示されたミッションから希望ミッションを選択する。 ①企業担当者よるミッションに関するプレゼンテーションを聞く。（50分） 連携企業：株式会社電通 ②ミッション提示に対してし質疑応答（10分） ③リサーチ・調査　役割を分担し課題を調査（30分） ④授業の振り返り（10分）	イ課題提供企業から提示されたミッションについて、先進的に取り組んでいる企業事例を調べ、取り組み内容をまとめる。	5時間
第2回	**チーム分け。チームワークの質向上を目的とするワークショップ** ①学修到達目標についてこの授業の学びと養える力を示します。（20分） ・授業の目的、学修目標、備わる能力 ②授業の進め方について、全体説明を行い、コース横断によるチーム編成を実施する。（70分） ・チーム分け。チームワークの質向上を目的とするワークショップ。 ・PBLミッション発表。 ③授業の振り返り（10分）	課題提供企業から提示されたミッションについて、先進的に取り組んでいる企業事例を調べ、取り組み内容をまとめる。	5時間
第3回	**事前調査・市場調査** ①課題発見グループワーク ミッションに対する課題をチームで話し合う。（20分） ②課題の整理グループワーク 出てきた課題を整理。（20分） ③課題の共有化 ・課題の発見と解決プランの考察 ・コンセプトを考える ・各チームごとに課題を発表。（50分） ④授業の振り返り（10分）	現地調査やヒアリング調査において気を付けなければならない点、準備しておかなければならない点を事前に調べ、まとめておく。	5時間
第4回	**企画の基本を学ぶ：個人ワーク①**	チームで取り組む企画案について、その全体像を再確認するとともに、自身の担当する分野について必要な情報を収集する。	5時間

	①企画の基本的な考え方や立案の仕方を学ぶ（基本のフレームワークの作成）。（30分） ②取り組みの方向性を決め、チーム内での役割分担を行う。（60分） ・企画の考え方、作り方を学ぶ ・企画の基本的なフレームワーク ・必要情報を洗い出し企画書の作成 ③授業の振り返り（10分）		
第5回	**企画書作成：個人ワーク②** チームで共有された骨子案について、新規性や実現性があるか、インターネット等で先行事例を調べる。 ・連携先企業から出されているテーマを再度確認 ・新規性、実効性、コスト面を考察 ・企画書の提出	作成した企画書を説明できる様に工夫をしてください。	5時間
第6回	**企画案の共有：チーム作成①** ①各自が構築した企画書をベースにチームで１つの企画案を選定（90分） ・チームで企画案を構築するためのメンバーの役割を考える ・新規性、実効性、コスト面の再考 ②授業の振り返り（10分）	チーム内で出た課題が実効性、新規性がある企画なのかを、インターネットなどで情報を検索し、同様な事例を調査してください	5時間
第7回	**企画書：チーム作成②** ①プレゼンテーションの基本を学ぶ【座学】（30分） ②各自が調査した内容をもとに、企画の基礎となる骨子案を作成する。（60分） （ここまでに企業訪問・店舗訪問などの現地調査を終了することが望ましい） ・プレゼンテーションの基本を学ぶ ・企画書を完成させ、プレゼンテーションの準備を行う。 ・プレゼンテーションまでのメンバーの役割分担 ③授業の振り返り（10分）	企画の改善点、プレゼンテーションの問題点をチームで話し合いを行う。	5時間
第8回	**プレゼンテーション準備：チーム学修　/　中間学修到達目標の確認調査** ①チームの企画書を完成させる ・プレゼンテーションの準備 ・中間審査会（プレゼン）に備えたメンバー間の役割認識 ②学修到達目標の中間確認調査 中間時点までの成長度を確認し成長点、さらに伸ばしていく点をアドバイス。	論理的にプレゼンテーションする方法を使い身の回りのもので５回練習を行ってください。	5時間
第9回	**予選審査会①** 本審査に向けて学内予備審査を行う。（80分） チーム学修振り返り／PDCAを知る。今後の課題を整理 ・企画のプレゼンを行う（7分１組）成果発表 ②チームの学修振り返り（PDCAを知る）（10分） ③今後の課題を整理、学修到達度確認（10分）	中間報告で明らかになった課題の解決に取り組んでください。	5時間
第10回	**予選審査会②** 本審査に向けて学内予備審査を行う。（80分） チーム学修振り返り／PDCAを知る。今後の課題を整理 ・企画のプレゼンを行う（7分１組）成果発表 ②チームの学修振り返り（PDCAを知る）（10分） ③今後の課題を整理、学修到達度確認（10分）	中間報告で明らかになった課題の解決に取り組んでください。	5時間
第11回	**課題発見と企画の修正/最終発表準備・パネルセッション準備** ①成果発表に向け、プランを修正し、また必要な情報を集める。（90分） ・発表チーム（上位１０チーム）は発表の準備と役割の再確認 ②今後の課題を整理（10分）	各チームの課題に各自が役割を持って取り組んでください。	5時間
第12回	**最終発表①** ①発表チームは企画のプレゼンを行う（7分１組）、成果発表、審査委員会（80分） ②チームの学修振り返り（PDCAを知る）（10分） ③今後の課題を整理（10分）	各チームの課題に各自が役割を持って取り組んでください。	5時間
第13回	**最終発表②** ①発表チームは企画のプレゼンを行う（7分１組）、成果発表、審査委員会（80分） ②チームの学修振り返り（PDCAを知る）（10分） ③今後の課題を整理（10分）	企画の改善点、プレゼンテーションの問題点をチームで話し合いを行う。	5時間
第14回	**総括「今後の課題を整理」/学修到達目標調査** PBL学修を振り返り、個人のキャリアデザインを目標設定する。 ①チーム学修振り返り ②PDCAを知る ③今後の課題を整理） ④授業評価アンケート 学修到達目標調査 ・課題への取り組み、本授業で養われた力を自己評価、教員評価を行います。	授業全体を通し（アイデア、発表内容、発表資料）学修の振り返りを行ってください。	5時間

111

授業科目名	企業等連携ＰＢＬ（2023～）/学外連携ＰＢＬ（～2022）				
担当教員名	小林志保・白波瀬達也・園田育代・宮崎大樹				
学年・コース等	2年	開講期間	前期	単位数	2
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の概要					

授業概要

幼稚園・小中学校内外の環境とその中での子どもの動きを関連的にとらえて、園・学校の教育活動と関連させて分析し、課題とその解決策を提案するPBL（Project-based learning）型の授業です。授業クラスごとにプロジェクト課題を定めて、４人程度のチームで情報収集、問題発見、課題解決に取り組みます。最終的に企画書の作成及びプレゼンテーションを行います。教育学部・経営学部・芸術学部の代表による“大阪成蹊カップ”プレゼンテーション大会が行われます。代表チームには、その栄誉を称え、各賞に準じた奨学金を授与しています。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. 全学DP２.専門的知識・技能、職業理解	プロジェクト課題に関する情報収集と分析、考察	教育を取り巻く諸課題について基本的な情報を収集し、適切に分析、理解できる。
汎用的な力		
1. 全学DP４.課題発見		現地での調査、観察をもとに解決すべき課題を明らかにできる。
2. 全学DP５.計画・立案力		課題解決に向けたプロセスを明確にし、実現可能な企画案を作成できる。
3. 全学DP６.行動・実践		調査・観察の計画を立案し、自律的、効果的に実践できる。
4. 全学DP９.役割理解・連携行動		プレゼン作成に向けてチームに主体的に参画し、責任をもって遂行できる。
5. 全学DP10.忠恕の心		教育を取り巻く課題に真摯に向き合い、解決に向けて誠実に行動できる。

学外連携学修

有り(連携先：幼稚園、小学校、中学校)

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)

・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)

・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)

・見学、フィールドワーク

・課題解決学習(PBL)

課題や取組に対する評価・振り返り

・提出物にコメント・評価をつけて返却します

・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

授業へは原則としてすべて出席してください。何らかの事情で欠席する場合は、シラバスや授業内での配布資料を参照し、自学により内容を確認し、必要な課題に取り組むようにしてください。なお、資格・免許取得に必要な科目は、単位修得に必要な授業時間数が定められている場合がありますので、注意してください。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
タスク１：レポート　プロジェクト課題の現状と課題	15 ％	： プロジェクト課題について、調査、収集した情報をもとにした適切に作成されているか、独自のルーブリックにより評価します。
タスク２：調査報告書	15 ％	： 仮説、観点を明確にして、現地調査・観察の結果を適切にまとめているか、独自のルーブリックにより評価します。
タスク３：企画書	25 ％	： 現地調査の結果、チームでの協議、現地からの指導助言を踏まえて、課題、問題を整理し、解決策示しているか、独自のルーブリックにより評価します。

タスク４：プレゼンテーション　：　チームのプレゼンテーションについて、全学ルーブリックにより評価します。

25　％

ポートフォリオ　：　授業全体を振り返って資料を整理し、学びの成果と自己の今後の課題をまとめているか、独自のルーブリックにより評価します。

20　％

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

授業において、プロジェクト課題に関連する書籍等を随時紹介する。

履修上の注意・備考・メッセージ

初年次教育で培った協働する力を実践で生かす課題解決型学修です。学修に当たっては、教育現場を取り巻く諸課題について、自らの知識、経験をもとに主体的な課題意識を持つことが求められます。日頃から、新聞等のニュース目を向け、現在の教育を取り巻く状況や課題を理解しておくように心がけることが必要です。

調査活動やチーム活動は、授業の他に課外の時間に行うことが必要です。チームの活動に主体的に参画し、自分の役割を責任をもって果たすことが求められます。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：　各教員ごとに周知

場所：　各教員ごとに周知

備考・注意事項：　最初の授業時に各教員ごとに周知する

授業計画

		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第１回	**タスク１　プロジェクト課題に関する知識基盤形成（１）オリエンテーションとプロジェクト課題の決定** ①オリエンテーション ②プロジェクト課題のレクチャー ③プロジェクト課題のクラス担当決定	クラス担当のプロジェクト課題について、自己の知識・理解をレポートにまとめる。	4時間
第２回	**タスク１　プロジェクト課題に関する知識基盤形成（２）プロジェクト課題に関する情報収集** ①調査方法の検討・確認 ②チームで調査（ネット、文献等）	チームでクラス内発表の資料、PPスライドを作成する。	4時間
第３回	**タスク１　プロジェクト課題に関する知識基盤形成（３）プロジェクト課題に関する解決策の提案** ①チームからのプレゼンテーション ②現状と課題についてレポート作成	プロジェクト課題について自分自身の経験や問題意識をまとめる。	4時間
第４回	**タスク２　現場調査・観察と情報整理（１）　調査・観察準備** ①仮説の設定 ②調査・観察の項目策定 ③調査・観察の準備	調査・観察の準備を行う	4時間
第５回	**タスク２　現場調査・観察と情報整理（２）　調査・観察の実施** ①連携先で、現地調査、現地観察を実施	調査・観察報告書を作成する。	4時間
第６回	**タスク３：課題解決策の検討作成（１）調査報告と問題の分析** ①各自の報告書に基づいてチーム内で報告・交流 ②問題を分析し、課題を析出	課題、問題を整理し、解決策の各事案を作成する。	4時間
第７回	**タスク３：課題解決策の検討作成（２）解決方策の検討と企画書の作成** ①モデル校・園を想定し、解決方策を検討し、チームで企画書を作成する。	提案、質問等、訪問の準備をする。	4時間
第８回	**タスク３：課題解決策の検討作成（３）現場の意見聴取・企画書のブラッシュアップ** ①各自のボランティア先に企画書を高覧していただき、助言、指導を受ける。 ②各自の現場助言・指導の報告 ③企画案の再検討	助言、指導内容を報告書にまとめる。各自の企画案を最終調整、完成させる。	4時間
第９回	**タスク４：プレゼン戦略の立案と準備（１）プレゼンの基本戦略立案** ①前年度の「成蹊カップ」及びモデルとなる学生プレゼンテーションを参考視聴 ②チームのプレゼン戦略の立案、基本設計	次時に提案するプレゼンの絵コンテを作成する	4時間
第10回	**タスク４：プレゼン戦略の立案と準備（２）プレゼン資料作成と練習** ①プレゼン資料、PPを作成 ②チーム内で役割分担を決める	各自担当部分を練習する。	4時間
第11回	**タスク４：プレゼン戦略の立案と準備（３）** ①プレゼン資料、PPを作成 ②チーム内で発表練習	各担当部分の発表準備を完成させる。	4時間

第12回	**タスク４：プレゼン戦略の立案と準備（４）クラス内プレゼン発表→代表選考** ①クラス内でプレゼン発表 ②クラス代表・次点を選定	発表全体を通しての学びをレポートにまとめる。	4時間
第13回	**タスク４：プレゼン戦略の立案と準備（５）成蹊カップ教育学部予選（教育学部カップ）** ①各クラス代表によるプレゼン発表（８分&８チーム）及びフロアとのディスカッション（５分） ②参観者は、ルーブリックを活用し発表を評価 ③審査結果発表・講評	発表全体を通しての学びをレポートにまとめる。	4時間
第14回	**総括と省察　ポートフォリオ作成と学修活動の省察** ①授業の資料を整理する ②授業全体を振り返り、自己の今後の課題をまとめる	現地調査先への礼状・企画案発送	4時間

授業科目名	**企業等連携ＰＢＬ**				
担当教員名	原良憲				
学年・コース等	2年	開講期間	前期	単位数	2
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	日本電気株式会社において、メディア情報管理等の研究開発に従事。また、AREホールディングス株式会社において、社外取締役（監査等委員）として、貴金属、環境リサイクルのビジネスに関する経営活動に従事。				

授業概要

学外の連携する企業・公的機関等が現在抱える課題を取り上げ、洞察、観察、対話、交渉、反省、学習の再構築というPBLのプロセスを理解すると共に、受講生の少人数グループを単位とした課題解決に向けての分析・討議とプレゼンテーションを行う。課題認識、中間発表、最終報告に際しては、受謂生への的確なフィードバックを行う。学生主体の能動的な授業により、個々の受謂生の自主学習力、応用展開力、コミュニケーションカ、協調力、他者への思いやり、粘り強さなどの非認知能力の向上を図る。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. 全学DP１.幅広い教養やスキル	課題に応じた背景知識をあたらに学ぶ	課題に応じた背景知識を高校生に説明できる
汎用的な力		
1. 全学DP４.課題発見		連携先の抱える課題を適切に取り上げることができる

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)

・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)

・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

授業へは原則としてすべて出席してください。何らかの事情で欠席する場合は、シラバスや授業内での配布資料を参照し、自学により内容を確認し、必要な課題に取り組むようにしてください。なお、資格・免許取得に必要な科目は、単位修得に必要な授業時間数が定められている場合がありますので、注意してください。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
授業内グループ課題の発表	60 %	： 課題内容、並びに、発表をルーブリックで評価する
レポート（論文）	40 %	： 講義で説明した内容を的確に理解しているかを評価する

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

[1]リンダ・トープ，サラ・セージ，「PBL学びの可能性をひらく授業づくり：日常生活の問題から確かな学力を育成する」，北大路書房， 2017，ISBN 978-4762829925
[2] 安斎勇樹，塩瀬隆之，「問いのデザイン：創造的対話のファシリテーション」，学芸出版社， 2020，ISBN 978-4761527433

履修上の注意・備考・メッセージ

PBL手法で学ぶこの授業では、社会と連携し、データ駆動のアプローチで実践的なプロジェクトに挑戦。PDCAサイクルを通じて成長し、最終的にはプレゼンテーションスキルも磨けます。未知への探求心を刺激し、課題解決の冒険に挑戦しましょう

オフィスアワー・授業外での質問の方法

備考・注意事項：　原：　hara-y@osaka-seikei.ac.jp　（事前にメールで連絡してください。）

授業計画		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	はじめに（本授業の目的と進め方、 PBLとは） 本授業全体の目的と進め方、並びに、PBL（課題解決型学習 Problem Based Learning）とは何かについての説明を行う。また、１チーム４～６名程度の受講生グループを決定する。 PBLの実施に際しては、２回のPDCAサイクルが回るように本授業を進める。	予習（事前学修）： 講義資料に記載された主要キーワードをネット、参考文献などで調べてノートに要約する。	4時間
第2回	学外連携者による社会動向と課題の認識（１） 学外の連携する企業の担当者による当該企業・組織のおかれている社会状況の理解、並びに、課題の説明を行う。前半の回。本年度は、学外連携者として、株式会社公文教育研究会に参画いただく。株式会社公文教育研究会からは、企業で収集・分析している実際のデータを入手し、当該企業の課題解決に資するデータのさらなる分析と分析結果に対する知見を得ることを目指す。	復習：前回の講義資料をもとに、アンケートに回答する。 予習（事前学修）：当該企業・組織の状況を文献、インターネット等で事前調査する。	4時間
第3回	学外連携者による社会動向と課題の認識（２） 学外の連携する企業・公的機関の担当者による当該企業・組織のおかれている社会状況の理解、並びに、課題の説明を行う。後半の回。	復習：前回の講義資料をもとに、アンケートに回答する。 予習（事前学修）：当該企業・組織の課題と解決状況を文献、インターネット等で事前調査する。	4時間
第4回	PBLプロセス１－１　（学外もしくは文献での情報収集） 各受講生グループは、割り当てられた課題に対し、必要に応じ、現場での観察や文献調査による情報収集を行い、課題に対する理解を深める。	復習：前回の講義資料をもとに、アンケートに回答する。 予習（事前学修）：情報収集を行うための計画を準備する。	4時間
第5回	PBLプロセス１－２　（学生による課題解決のための活動計画の討議） 各受講生グループは、収集した情報等をもとに、課題解決のための活動計画策定の討議を行う。必要に応じ、担当教員や学外連携者等からの意見を得て解決に向けた計画の具体化を図る。	復習：前回の活動をもとに、アンケートに回答する。 予習（事前学修）：今後の活動策定を行う計画を準備する。	4時間
第6回	（ソリューションに向けた定式化・アプローチ） 各受講生グループは、提示された課題のソリューションに向けた定式化や、データサイエンス分析方法論を活用したアプローチの具体化を検討、討議する。	復習：前回の活動をもとに、アンケートに回答する。 予習（事前学修）：今後の活動策定を行う計画を準備する。	4時間
第7回	中間発表 当該課題の解決に向けた定式化、アプローチについての中間発表を行う。授業担当者、並びに、学外連携者は、発表に対するフィードバックを行う。	復習：前回の活動をもとに、アンケートに回答する。 予習（事前学修）：中間発表のための資料作成を行う。	4時間
第8回	PBLプロセス２－１　（中間発表フィードバックを踏まえた学外もしくは文献での情報収集） 各受講生グループは、割り当てられた課題に対し、必要に応じ、現場での再度の観察や文献調査による情報収集を行い、中間発表会でのフィードバックに対する対応を行う。	復習：前回の中間発表をもとに、アンケートに回答する。 予習（事前学修）：情報収集を行うための計画を準備する。	4時間
第9回	PBLプロセス２－２　（学生による課題解決のための活動計画の精緻化） 各受講生グループは、中間発表でのフィードバックや再度の情報収集結果等をもとに、課題解決のための活動計画策定の更新を行う。必要に応じ、担当教員や学外連携者等からの意見を得て解決に向けた計画の精緻化を図る。	復習：前回の活動をもとに、アンケートに回答する。 予習（事前学修）：今後の活動策定を行う計画を準備する。	4時間
第10回	PBLプロセス２－３　（ソリューションに向けた定式化・アプローチの深耕） 各受講生グループは、提示された課題のソリューションに向けた定式化や、データサイエンス分析方法論を活用したアプローチの具体的深耕を図る。	復習：前回の活動をもとに、アンケートに回答する。 予習（事前学修）：今後の活動策定を行う計画を準備する。	4時間
第11回	発表準備・リハーサル（１） 各受講生グループは、最終発表報告会のプレゼンテーションに向けた準備を行う。	復習：前回の活動をもとに、アンケートに回答する。 予習（事前学修）：最終報告発表のための資料作成を行う。	4時間
第12回	発表準備・リハーサル（２）	復習：前回の活動をもとに、アンケートに回答する。 予習（事前学修）：最終報告発表のための資料精緻化を行う。	4時間

	前回の発表準備・リハーサルでフィードバックのあった項目等の改善を行い、プレゼンテーションをより良いものとする。		
第13回	**最終発表報告会** 担当教員と共に、学外の連携する企業・公的機関の担当者にも参加いただき、本授業当初の課題の解決に向けたソリューションの報告を行う。発表、フィードバックは、受講生グループ毎に行う。	復習：前回の活動をもとに、アンケートに回答する。 予習（事前学修）：最終報告発表のための資料精緻化を行う。	4時間
第14回	**まとめ （PBLのプロセスの振り返りと今後の展望）** 前回、前々回の最終発表報告会での講評・フィードバックをもとに、PBL学習プロセスの振り返りを行う。また、当該課題に対する今後の展望等の討議を含めたまとめを行う。	PBL学習プロセスの振り返りを行う。	4時間

授業科目名	**企業等連携ＰＢＬ**				
担当教員名	小山田耕二				
学年・コース等	2年	開講期間	前期	単位数	2
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	小山田耕二： 日本IBM株式会社において、情報可視化、シミュレーション等の研究開発に従事				

授業概要

本授業は、課題解決型学習（PBL: Project Based Learning）を通じて、実社会の課題に対する実践的な問題解決能力を養うことを目的とする。学生は4～6名のグループに分かれ、学外連携企業（本年度は株式会社りそなホールディングス）と協働し、企業が抱える課題をデータサイエンスを活用して解決策を提案する。

授業は14回の講義で構成され、PBLのPDCAサイクルを2回回すことで、課題発見から解決策の実装・評価までのプロセスを体験する。第1～2回では企業の現状と課題について学び、グループごとに課題を選定する。第3～6回では、情報収集とデータ分析を行い、解決策の方向性を決定。第7回で中間発表を実施し、企業担当者や教員からのフィードバックを受ける。第8～11回では、中間発表をもとに課題解決策を深化させ、最終提案を完成させる。第12回で発表準備を行い、第13回では企業担当者に向けた最終報告会を実施。第14回ではPBLのプロセスを振り返り、今後の学習計画を立案する。

本授業では、課題設定、データ分析、チームワーク、プレゼンテーションのスキルを総合的に高め、実践的な問題解決力を養成する。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. 全学DP１.幅広い教養やスキル	課題に応じた背景知識を主体的に学ぶ	課題に応じた背景知識を高校生に説明できる
汎用的な力		
1. 全学DP４.課題発見		連携先の抱える課題を適切に取り上げることができる

学外連携学修

有り(連携先：りそなHD データサイエンス部)

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)

・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)

・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

授業へは原則としてすべて出席してください。何らかの事情で欠席する場合は、シラバスや授業内での配布資料を参照し、自学により内容を確認し、必要な課題に取り組むようにしてください。なお、資格・免許取得に必要な科目は、単位修得に必要な授業時間数が定められている場合がありますので、注意してください。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
授業内グループ課題の発表	60 %	： 課題内容、並びに、発表をルーブリックで評価する
レポート（論文）	40 %	： 課題内容、並びに、論文内容をルーブリックで評価する

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

特になし

履修上の注意・備考・メッセージ

データサイエンス×金融業界の最前線を体験しよう！

「データ分析が企業の意思決定にどう役立つのか？」 「データサイエンティストって実際にどんな仕事をしているの？」

そんな疑問を持っているあなたにピッタリの授業が 「企業等連携PBL」 です。本授業では、実際の金融業界の課題を題材に、データサイエンスを活用した解決策を企業に提案する、リアルなプロジェクトを体験できます。

特に、本年度は りそなホールディングス と連携し、金融業界におけるデータ活用の実践的な学びを提供！りそなHDの担当者から、銀行業務の仕組みやデータ活用の現場を直接聞くことができ、単なる机上の勉強ではなく 「実際に使われるデータ分析」 を肌感覚で学べる貴重な機会です。

授業では、4〜6人のチームで企業の課題を分析し、データを活用して解決策を提案。中間発表や最終報告会では企業担当者からフィードバックをもらい、実社会で通用する分析力・課題解決力・プレゼン力を鍛えます。

「データサイエンスを実際に仕事でどう活かせるのか？」 を学びながら、企業とのネットワークを広げられるこの授業。将来、金融業界やデータ活用に関心のある人はもちろん、実践的なプロジェクトに挑戦したい人にもオススメです！

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 水曜日お昼休み

場所： 駅前キャンパス教室

授業計画

		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**はじめに（本授業の目的と進め方、 PBLとは）** 本授業全体の目的と進め方、並びに、PBL（課題解決型学習 Problem Based Learning）とは何かについての説明を行う。 また、１チーム４～６名程度の受講生グループを決定する。 PBLの実施に際しては、２回のPDCAサイクルが回るように本授業を進める。 本年度は、本授業の学外連携者として、株式会社りそなホールディングスに参画いただく。 学外の連携する企業の担当者による当該企業・組織のおかれている社会状況を理解する。 学外連携者からは、金融業界や同社の現状、提供する商品サービスの概要を説明する。 初回はオリエンテーションやグループ分けなどの進行を中心に予定する。その後、金融業界や当社についての話をする。 学生ごとに本授業で学習目標を設定する	事前学習資料を読み、キーワード等をインターネットや文献等で事前調査する。	4時間
第2回	**学外連携者による社会動向と課題の認識** 学外の連携する企業・公的機関の担当者による当該企業・組織における課題テーマの説明を行う。 参加者の関心によって課題テーマを選択し、当該企業の課題解決に資するデータのさらなる分析と分析結果に対する知見を得ることを目指す。 連携企業の課題の説明を行い、学生がどの企業のどの課題テーマを選択するかを決定する。 復習：講義資料をもとに、アンケートに回答する。	当該企業・組織の課題と解決状況を文献、インターネット等で事前調査する。	4時間
第3回	**PBLプロセス１－１ （インターネットや文献での情報収集）（1）** 各受講生グループは、選択した課題に対し、インターネットや文献調査による情報収集を行い、課題に対する理解を深める。 学外連携者は課題に対して有用と考えられる各種データ元を例示する。実態としてのグループワークのスタートとなる。 復習：前回の課題説明等をもとに、アンケートに回答する。	情報収集を行うための計画を準備する。	4時間
第4回	**PBLプロセス１－１ （学外もしくは文献での情報収集）（2）** 各受講生グループは、割り当てられた課題に対し、必要に応じ、現場での観察や文献調査による情報収集を行い、課題に対する理解を深める。現場での観察として、近隣りそな支店へのフィールドワークまたはりそなグループアプリの操作の実体験を検討する。 復習：前回の活動をもとに、アンケートに回答する。	情報収集を行うための計画を準備する。	4時間
第5回	**PBLプロセス１－２ （学生による課題解決のための活動計画の討議）** 各受講生グループは、収集した情報等をもとに、課題解決のための活動計画策定の討議を行う。 必要に応じ、担当教員や学外連携者等からの意見を得て解決に向けた計画の具体化を図る。学生が課題解決に向けた活動計画を語り合う回となる。 復習：前回の活動をもとに、アンケートに回答する。	今後の活動策定を行う計画を準備する。	4時間
第6回	**ソリューションに向けた定式化・アプローチ** 各受講生グループは、提示された課題のソリューションに向けた定式化や、データサイエンス分析方法論を活用したアプローチの具体化を検討、討議する。定型化の例は別シートとして提示する。 復習：前回の活動をもとに、アンケートに回答する。	今後の活動策定を行う計画を準備する。	4時間
第7回	**中間発表**	中間発表のための資料作成を行う。	4時間

	当該課題の解決に向けた定式化、アプローチについての中間発表を行う。 授業担当者、並びに、学外連携者は、発表に対するフィードバックを行う。課題解決に向けたアプローチ方法の具体策などについて進捗報告を行う。 復習：前回の中間発表をもとに、アンケートに回答する。		
第8回	**PBLプロセス２－１　（中間発表フィードバックを踏まえた学外もしくは文献での情報収集）** 各受講生グループは、割り当てられた課題に対し、必要に応じ、現場での再度の観察や文献調査による情報収集を行い、中間発表会でのフィードバックに対する対応を行う。 銀行を知らないことによるリアル感のなさが浮き彫りになると予想されるので、りそな支店の現場をみるフィールドワークが効果があったかどうかを検証する。 復習：前回の活動をもとに、アンケートに回答する。	情報収集を行うための計画を準備する。	4時間
第9回	**PBLプロセス２－２　（学生による課題解決のための活動計画の精緻化）** 各受講生グループは、中間発表でのフィードバックや再度の情報収集結果等をもとに、課題解決のための活動計画策定の更新を行う。 必要に応じ、担当教員や学外連携者等からの意見を得て解決に向けた計画の精緻化を図る。情報収集と内容の深掘りの回となる。 復習：前回の活動をもとに、アンケートに回答する。	今後の活動策定を行う計画を準備する。	4時間
第10回	**PBLプロセス２－３　（ソリューションに向けた定式化・アプローチの深耕）（１）** 各受講生グループは、提示された課題のソリューションに向けた定式化や、データサイエンス分析方法論を活用したアプローチの具体的深耕を図る。内容の深掘りの回となる。 復習：前回の活動をもとに、アンケートに回答する。	今後の活動策定を行う計画を準備する。	4時間
第11回	**PBLプロセス２－３　（ソリューションに向けた定式化・アプローチの深耕）（２）** 各受講生グループは、提示された課題のソリューションに向けた定式化や、データサイエンス分析方法論を活用したアプローチの具体的深耕を図る。内容の深掘りの回となる。 復習：前回の活動をもとに、アンケートに回答する。	今後の活動策定を行う計画を準備する。	4時間
第12回	**発表準備・リハーサル** 各受講生グループは、最終発表報告会のプレゼンテーションに向けた準備を行う。アウトプットの準備を行う回となる。 復習：前回の活動をもとに、アンケートに回答する。	今後の活動策定を行う計画を準備する。	4時間
第13回	**最終発表報告会** 担当教員と共に、学外の連携する企業・公的機関の担当者にも参加いただき、本授業当初の課題の解決に向けたソリューションの報告を行う。 発表、フィードバックは、受講生グループ毎に行う。 復習：前回の活動をもとに、アンケートに回答する。	最終報告発表のための資料精緻化を行う。	4時間
第14回	**まとめ　（PBLのプロセスの振り返りと今後の展望）** 前回、前々回の最終発表報告会での講評・フィードバックをもとに、PBL学習プロセスの振り返りを行う。また、当該課題に対する今後の展望等の討議を含めたまとめを行う。 さらに、最終発表会での総評を元に、更なるブラッシュアップができたのではないか反芻する。 復習：PBL学習プロセスの振り返りを行う。	ガイダンス受講時に設定した目標に対してどこまで達成したのかを自己評価する。	4時間

授業科目名	**企業等連携ＰＢＬ**				
担当教員名	劉継紅				
学年・コース等	2年	開講期間	前期	単位数	2
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	ダイキン工業株式会社において、計算機援用工学（CAE：Computer Aided Engineering）の研究開発に従事。これに加えて、製品開発への応用、設計力やモノづくり力の向上を目的としたCAE活用の推進、さらにはCAE手法やその結果に基づく特許出願にも取り組んだ。（全14回）				

授業概要

学外の連携する企業が提供する課題を取り上げ、背景、解決方法（モデル構築、条件設定、計算実施、結果考察などの一連のプロセス）を理解すると共に、受講生の少人数グループを単位とした課題解決に向けての分析・討議とプレゼンテーションを行う。課題認識と取り組み、中間発表、最終報告を通して、個々の受講生の自主学習力、応用展開力、コミュニケーションカ、協調力、他者への思いやり、粘り強さなどの非認知能力の向上を図る。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. 全学DP２.専門的知識・技能、職業理解	課題の背景と解決方法を学ぶ	課題の背景と解決方法を身に付ける。
汎用的な力		
1. 全学DP７.完遂		与えられた課題をやり遂げる。
2. 全学DP９.役割理解・連携行動		グループメンバーと協力して課題に取り組む。

学外連携学修

有り(連携先：株式会社JSOL)

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・実験、実技、実習

・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)

・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)

・課題解決学習(PBL)

課題や取組に対する評価・振り返り

・実技・実習後、全体に向けてコメントします

・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

授業へは原則としてすべて出席してください。何らかの事情で欠席する場合は、シラバスや授業内での配布資料を参照し、自学により内容を確認し、必要な課題に取り組むようにしてください。なお、資格・免許取得に必要な科目は、単位修得に必要な授業時間数が定められている場合がありますので、注意してください。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
授業外課題	50 %	： 課題内容、講義で説明した内容を的確に理解しているかを評価する。
中間発表	20 %	： 第1回～第6回の課題内容を理解し、まとめて発表できているか評価する。
最終発表	30 %	： 第7回～第12回の課題内容を理解し、結果について、考察し発表できているか評価する。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

Ansys LS-DYNAおよびAnsys PrePostチュートリアル（配布予定）

履修上の注意・備考・メッセージ

PBL手法で学ぶこの授業では、社会と連携し、データ駆動のアプローチで実践的なプロジェクトに挑戦。PDCAサイクルを通じて成長し、最終的にはプレゼンテーションスキルも磨ける。未知への探求心を刺激し、課題解決の冒険に挑戦しよう。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 火曜日11:00～12:00

場所： S457

授業計画		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**ガイダンスと2024年度成蹊カップ動画視聴** 授業全体の概要と学習の進め方を説明し、到達目標と評価基準を共有する。また2024年度大阪成蹊カップ動画を視聴し、2025年度大阪成蹊カップ出場を目指してPBL課題に取り組む意欲を高める。	大阪成蹊カップへの出場を勝ち取り、優勝を目指す心構えについて考えてレポートにまとめる。	4時間
第2回	**(株)JSOLのご紹介、テーマ紹介、取り組み方針** 本授業に参画する株式会社JSOLの事業概要、CAE業務をご紹介する。また、今回取り組むスマートフォン落下時のガラス面の割れに対するスマートフォンケースの緩衝効果の検証とケース形状最適化を紹介し、実習内容と課題解決の方針、目的、期待される成果について説明する。	(株)JSOLの事業について調査する。授業内容を復習し取り組む課題についての理解を深める。	4時間
第3回	**Ansys LS-DYNAの紹介、Ansys LS-PrePost操作習得** 本授業で使用する解析ソルバーであるAnsys LS-DYNAの主な解析用途や解析例を挙げながら機能概要を説明する。また、解析モデルの作成や結果評価で用いるAnsys LS-DYNAのプリポストプロセッサーAnsys LS-PrePostの操作を習得する。	Ansys LS-DYNAとAnsys LS-PrePostについて調査する。Ansys LS-PrePostの操作を復習する。	4時間
第4回	**Ansys LS-PrePost操作習得、モデル構築** 第3回に引き続き、Ansys LS-PrePostのチュートリアル演習に取り組んで、プリプロセッサーとしてのAnsys LS-PrePostの基本的な操作方法を習得する。また、実際のスマートフォンおよびスマートフォンケースの解析モデルの構築作業に取り掛かる。	Ansys LS-PrePost操作と解析モデル構築作業を予習復習する。	4時間
第5回	**モデル構築** 第4回に引き続き、Ansys LS-PrePostを用いてスマートフォンとスマートフォンケースのメッシュ作成、解析条件の付与などを行い、解析モデルを構築、エラーチェックを行って計算の実行に備える。	Ansys LS-PrePostによる解析モデル構築を予習復習する。	4時間
第6回	**計算の実施** 第5回で構築した解析モデルを入力データとして実際にAnsys LS-DYNAを実行する。計算実行時にエラーが発生した場合はエラー原因を解明し対処する必要がある。正常終了した解析結果をAnsys LS-PrePostで結果表示して評価ポイントの確認をする。	授業で学習した計算の実施と結果の処理をもう一度行い、理解を深める。	4時間
第7回	**中間発表** 前回までの成果を発表する。解析結果の発表だけでなく、モデル構築で苦労したポイントや工夫したポイント、解析結果の分析や考察した点、解析モデルの問題点と改善方針などを発表する。	事前に発表資料を作成する。授業後は、指摘された事項を検討し、発表資料を見直す。	4時間
第8回	**トポロジー最適化ソフトウェアAnsys LS-OPTの紹介と操作習得** スマートフォンケースの形状最適化を検討するために用いるトポロジー最適化ソフトウェアAnsys LS-OPTの機能と使用方法を紹介する。また、実際にAnsys LS-OPTの操作を習得する。	Ansys LS-OPTについて調査する。Ansys LS-OPTの操作を復習する。	4時間
第9回	**Ansys LS-OPTを用いたスマートフォンケースの形状最適化** 第6回までに作成し計算実行したスマートフォンおよびケースのベースモデルに対して、Ansys LS-OPTを用いてケースの形状最適化を実施する。どのように形状最適化されるかを確認する。	授業で学習した操作を復習し、理解を深める。	4時間
第10回	**Ansys LS-OPTを用いたスマートフォンケースの形状最適化（異なる落下姿勢）** 前回実施した形状最適化の場合とは異なる落下姿勢での荷重ケースでの形状最適化を実施して、汎用性の高いスマートフォンケースの最適形状を模索する。また、得られた最適化形状に対して現実的なデザインのスマートフォンケースを検討し、ガラス割れが発生しないかの確認計算を実施する。	授業で学習した計算をもう一度実施し、内容理解を深める。	4時間
第11回	**考察・知見の整理** 前回までのスマートフォンおよびスマートフォンケースのベースモデル構築、落下解析の実施、スマートフォンケースの形状最適化検討を踏まえて、今回の解析モデル、形状最適化で検討したパラメータや得られた最適形状などについての考察や分析、得られた知見をまとめる。	解析結果について、考察を深める。	4時間
第12回	**機械学習、プレゼンテーション資料作成**	機械学習による結果の考察と知見の整理について調査する。またプレゼンテーション資料を見直す。	4時間

	第11回の考察・知見の整理に機械学習の手法を取り入れて考える。また最終発表するプレゼンテーション資料を作成する。モデル構築から形状最適化検討までの成果を端的に分かりやすく説明可能なプレゼンテーション資料とする。苦労した点や工夫した点、さらに解析対象をよりよくするための改善点なども挙げてください。		
第13回	**発表の練習** チームごとに本課題への取り組みと成果を練習発表とする。指摘事項をプレゼンテーション資料に反映する。	最終発表に向けてプレゼンテーション資料の修正と発表の練習をする。	4時間
第14回	**最終発表** チームごとに本課題への取り組みと成果を発表する。本課題を含む全テーマの中で成績優秀チームは秋に開催される「大阪成蹊カップ」への出場を予定している。	取り組んだ課題を取りまとめて消化する。	4時間

113

授業科目名	**地域連携ＰＢＬ**				
担当教員名	荒木俊之・大塚康央				
学年・コース等	2年	開講期間	前期	単位数	2
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	自治体職員、都市計画コンサルタントとして長年にわたり、まちづくり、住民参加、地域協働の取り組みを実践(全14回)				

授業概要

具体的な公共課題をテーマに、問題とされていることの原因、取り組みが必要な事項と効果的な方策、実施にあたってクリアしなければならない事項等を考える。この取り組みを通して公共性の意味、公共における問題と、その解決にあたって考慮しなければいけないことを理解する。また、政策、施策の立案能力を養い、社会で活躍できる能力を身につける、グループで協力し、意見交換を行いながら成果をまとめていく活動を通して、協働することの意義を学び、コミュニケーション能力、リーダーシップ、プレゼンテーション能力を身につける。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. 全学DP１.幅広い教養やスキル	公共の意味、社会を支える仕組みなどの基礎的知識を獲得する。	公共の一員としての自覚と、地域社会を支える基本的な仕組みを理解する。
2. 全学DP２.専門的知識・技能、職業理解	仕事で必要な社会人基礎力を身につけ、課題を発見し解決に向けて進んで取り組む力を身につける。	集団やチームの中で固有の役割を果たすことができる。 論理的な考え、課題を明らかにすることができる。 主体性を持ち、積極的に行動することができる。 困難な課題にも望み、最後までやり遂げることができる。

汎用的な力	
1. 全学DP４.課題発見	問題点を洗い出し解決の目標を定めることができる。
2. 全学DP５.計画・立案力	独自性、創造性があり、実行可能な企画書を作成することができる。
3. 全学DP６.行動・実践	チーム活動の内容を理解し、主体的に取り組むことができる。
4. 全学DP９.役割理解・連携行動	場の流れを理解し、適切に協働することができる。
5. 全学DP10.忠恕の心	相手が伝えたいことを共感的に理解し、自分の考えや思いを伝えることができる。

学外連携学修

有り(連携先：地方自治体、NPO等)

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
・ディベート、討論
・見学、フィールドワーク
・課題解決学習(PBL)

課題や取組に対する評価・振り返り

・実技・実習後、全体に向けてコメントします
・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

授業へは原則としてすべて出席してください。何らかの事情で欠席する場合は、シラバスや授業内での配布資料を参照し、自学により内容を確認し、必要な課題に取り組むようにしてください。なお、資格・免許取得に必要な科目は、単位修得に必要な授業時間数が定められている場合がありますので、注意してください。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
個人評価　授業への参加、振り返りシート	：	毎回の授業受講態度や授業時でのワークシート、終了時の振り返りシートにより、授業に真摯に向き合い、必要な知識、能力を付けることに取り組んだかを評価する。

15　%

情報収集・グループ検討への協力　：　グループ内で積極的、主体的に活動し、課題検討にあたって必要な情報、資料を適切に収集分析し、グループでの共有を図ることができたかを評価する。

25　%

個人評価　期末レポート　：　授業を通じて得た知見、地域社会における自分との関係など、他者との協働、公共課題解決における役割など総合的な知識を得ることができたかを評価する。

15　%

相互フィードバック　：　公共課題の調査分析を行うことで解決が必要な課題を明らかにすることができているか、当該課題に対する効果的な提案について、制度、問題の特性、周辺の状況なども考慮した含めたものとなっているかを評価する。

20　%

グループまとめ　プレゼンテーション　：　報告資料は現状や課題分析が的確で、この内容に基づく解決策を提案しプレゼンをまとめることができたかを評価する。

25　%

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

松田剛典、佐伯勇、木村亮介編著『大学生のためのキャリアデザインーはじめての課題解決型プロジェクトー』（ミネルヴァ書房、2019、ISDN978-4623084883）

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。
担当するテーマ・課題により、授業の進め方、授業での取り組み内容を変更する場合がある。この場合、授業の中で適宜、指示する。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：　各教員のオフィスアワー

場所：　各研究室

備考・注意事項：　上記以外でも、研究室に在席中は対応可能です。

授業計画

		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**プログラムの目的、公共政策の理解** ①この授業の目的の説明 ②チーム分けを行う。チームワークづくりを目的にワークショップを行う。 ③PBLミッションを発表する。	インターネットで大学のPBL学修事例2つ以上調べて、本授業で必要な能力、技術を考える。	4時間
第2回	**座学：公共とは何か、公共問題解決のアプローチなどについて** 本授業で取り組むものは、地域社会で発生している問題である。 問題の内容から、公共性とは何かを考える。また、公共問題の解決に取り組むことについて、関係する行政の役割、施策、事業の決定過程、合意形成など、公共が有する特徴について学ぶ。	新聞等で、地域社会で発生している問題・課題解決にどのような取り組みがなされているかを調べる。	4時間
第3回	**ミッションに関する情報提示＆課題の把握、現地でのリサーチ準備** ①行政担当者等によるミッションに関するプレゼンテーションを聞く。 ②ミッション提示に対して質疑応答 ②問題の整理グループワーク：問題が起こっている原因と対応が必要な課題解決案(仮説)の設定 ③現地調査で確認すべき事項の確認を行う。	同種の問題に対し、他の自治体などでどのような取り組みが行われているかをインターネット等で調べる。また、現地調査で確認すべき事項、明らかにしたい内容を整理し、円滑かつ効果的な調査実施となるよう準備する。	4時間
第4回	**リサーチ・調査　役割を分担し調査する。** 担当テーマについて調査を行う。 チームで役割を分担し、あらかじめ準備した調査項目に基づき課題を調査する。	調査で得られた内容をまとめ、次回の授業(グループワーク)で発表できるように文章でまとめる。	4時間
第5回	**調査結果の共有、問題の把握** 各自が調べた情報、調査での発見について、それぞれ報告する。 報告内容を基に、課題解決の方策として設定した仮説が妥当かどうかを検証する。与えられたミッションについて、問題は何か、その原因はどこにあるか、解決が必要な課題はどんなものかをグループで検討する。(先に設定した仮説の検討)、修正が必要であれば再検討を行う。	他の事例も参考にしながら、実効性のある施策、事業を考える。	4時間
第6回	**課題解決策の提案(アイデア出し)**	グループ内で出された様々な提案について、グループ化してみる、組みあわせてみる等して、より良いものになるよう考える。	4時間

	ブレーンストーミング形式でチームで話し合いを行い、いくつものアイデアを出す。 KJ法などを使い、出てきたアイデアを分類整理し、問題・課題解決の方向検討の準備作業を行う。		
第7回	**課題解決の方向性検討** 問題は何か、解決や対応が必要な課題は何かを明らかにし、グループ内で提案してきたアイデアが、課題解決につながるものかを検討する。 また、事業実施にあたっての制約、障害はないのか、あるとすれば、どのように対応すべきかなどを考える。 事業の具体化にむけて、方向性を確認、共有するステップとなる。	施策、事業案の作成にあたり、同様の事例があるか、実施にあたって制度、体制等の問題がないかどうかをチェックする。	4時間
第8回	**中間まとめ(問題と課題の確認)** 具体的な方策を立案する。 与えられたミッション（テーマ）の確認、そのテーマが有する問題と、問題解決に向けて対応する必要がある事項、活用・利用するリソース、施策の基本方針、施策内容と効果を体系化した中間まとめを行う。 テーマ提示の担当者にむけた説明準備を進める。	中間まとめの報告会を前に、チームで話し合いの時間を２～３回持ち、報告に備える。	4時間
第9回	**中間まとめ報告会** ミッションを提示した担当者に、検討中の施策、事業内容について、問題の分析、課題の設定、関係する主体と役割、実施すべき施策等の内容を説明する。 実現可能性、公共目的に合致しているか等の視点からのアドバイスを受ける。	ミッション担当者から指摘された事項を整理し、改善・見直しすべき点を整理する。また、施策の具体化を図るため、同様の取り組み事例などを調査する。	4時間
第10回	**フィードバック、ブラッシュアップ** ミッションを提示した担当者からのアドバイス、指摘された事項について、各自が整理分析した内容をグループで共有し、方向性の見直しの必要性や提案した施策の妥当性を考察の上、施策、事業の具体化に向けた検討を・協議を進める。この際、施策・事業内容が、与えられた問題解決につながるか、総合的に考えておく。そのうえで、より効果的で魅力ある提案となるよう検討を深める。	グループでのまとめに向けて、必要なデータ、資料はないか、分かりやすく論理的に説明するための工夫について考え整理する。	4時間
第11回	**施策、事業の提案まとめ** 最終まとめの発表に向けて施策、事業提案のブラッシュアップを図る。 プレゼン資料作成に必要な資料、データの収集、説明のストーリー作成、資料の構成などをグループで分担し、まとめ資料を作成する体制を整える。 資料構成について決定する。	グループ内で与えられた役割を踏まえ、発表資料の論理構成が適切か、付け加えること、不要なことはないかを確認してプレゼン資料作成が円滑に進むよう準備する。	4時間
第12回	**プレゼン資料作成** プレゼン資料を、グループで協力して作成する。 聞き手の立場になって、分かりやすく、納得させることができるプレゼン資料を作成する。	最終の発表会を目標に、提案の背景、考え方、根拠となるデータ、提案内容などが、論理的に一貫しているか、説明に過不足はないかを最終確認しておく。グループで集まり、最終発表の準備をする。	4時間
第13回	**最終発表会** グループ成果の発表を行う。 発表の姿勢、説明内容、提案の妥当性、効果などについて、分かりやすくプレゼンテーションを行う。また、他グループのプレゼンを聞くことによって、効果的なプレゼンテーションについて学ぶ。	プレゼンテーション評価表を基に、他チームと自身のチームとの違いを考察する。	4時間
第14回	**総括・振りかえり** グループ学習を振り返る。公共課題、地域・社会問題の性格、解決にあたって考慮すべき事項、関係者との関わりなど本授業を通じ得たことを考える。 また、協働で検討し取り組んできた経過を振り返り、グループでの自身の役割、協働の必要性、リーダーシップやグループへの貢献などを振り返る。	授業の振り返りを行う。良かった点、難しかったこと、課題と感じたことを整理する。	4時間

113

授業科目名	**仕事とキャリア**				
担当教員名	辛川敬・島雅則・山本弘和				
学年・コース等	3年	開講期間	後期	単位数	2
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	辛川は40年近く大手航空会社に勤務、グループ会社社長、役員等を歴任。マーケティング、営業、空港、海外等で幅広い実務経験あり。				

授業概要

この授業では、社会で活躍するために必要な知識と能力を身につけます。適正検査やプログテストから自らの強み弱みを理解し、ビジネスマナー、業界研究、コミュニケーション、自己PRなどを学び、ソーシャルタッチポイントを意識し、企業人や先輩（4年生）の話を聞く機会を活用し、双方向で意見交換する場をもち、実践的な知識を身につけます。社会人として必要な、知識、教養、行動指針を学びながら自身の将来へのビジョンを描きます（特別授業の日程は変更することがあります）。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. 全学DP２.専門的知識・技能、職業理解	社会での多様な業界や職種、そして組織での基本的行動についての理解を深めます。	様々な仕事で必要な社会人基礎力を身につけます。
2. 全学DP１.幅広い教養やスキル	自己分析による強み弱みの理解やビジネスマナー、コミュニケーション力、自己PR力などを深めていきます。	自ら進むべき進路を見出し、そこに向けての必要なスキルアップを目指します。

汎用的な力	
1. 全学DP４.課題発見	各種の適性検査によって、自らの強み弱みを理解し、啓発課題をつかむこと。
2. 全学DP５.計画・立案力	業界や職種を研究し、具体的なアクションプランを策定すること。
3. 全学DP６.行動・実践	インターンシップに参加し、実際に就業体験していくこと。
4. 全学DP８.意思疎通	グループワークやインターンシップ等を通じて双方向コミュニケーションを図ること。
5. 全学DP10.忠恕の心	誠実で思いやりのある人、周囲から頼りにされる人になること。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)

・問答法・コメントを求める

・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)

・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)

・その他(以下に概要を記述)

適性検査（キャリアアプローチテスト）、PROGテストなど

課題や取組に対する評価・振り返り

・実技・実習後、全体に向けてコメントします

・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

・その他(以下に概要を記述)

PROGテストのフィードバックなど

成績評価

注意事項等

授業へは原則としてすべて出席してください。何らかの事情で欠席する場合は、シラバスや授業内での配布資料を参照し、自学により内容を確認し、必要な課題に取り組むようにしてください。なお、資格・免許取得に必要な科目は、単位修得に必要な授業時間数が定められている場合がありますので、注意してください。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
授業内提出物 40 %	:	授業内容を踏まえ、独自の見解や今後の取り組みなど定められた文字数で具体的に論述できているかどうかを評価します。
授業への積極的参画	:	授業の各種ワークに積極的に参加しているかどうかを評価します。

PROGテスト	20 %	PROGテストで、自らの成長度や課題の認識について評価します。
中間レポート	10 %	中間レポートにより、授業で学んだことに関する理解度を評価します。
期末レポート	10 %	期末レポートにより、授業で学んだことに関する理解度を評価します。
	20 %	

使用教科書

指定する

著者	タイトル	出版社	出版年
	・仕事とキャリア　ワークブック(初回授業にて配布)	・	・　年

参考文献等

大阪成蹊大学『PLACEMENT GUIDE 2026　就職ガイドブック』2025年8月発行予定。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められます。

「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習してください。

また、受講の際、指示があった授業回ではリクルートスーツを着用してください。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 島：水曜３限　辛川:水曜4限

場所： 研究室西館（島：２階　辛川:4階）

備考・注意事項： 授業の前後以外で質問したい場合は、メールにて受け付けます。タイトルには必ず授業名を記載し、メールでは氏名・学籍番号・所属を明記してください。

授業計画

		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**ガイダンスおよび卒業後のキャリアに向けての行動計画作成** 授業概要を確認し、夏休みのインターンシップ等の振り返りを通して、卒業後のキャリアへの具体的な行動計画作成を行います。	インターンシップ等での卒業後に向けた行動をまとめ、作成した行動計画を見直します。	4時間
第2回	**情報収集力を高め業界・企業研究を行う** 業界・企業情報ツールの活用方法、企業説明会やインターンシップに参加する際の注意点などについて学びながら、様々な業界・企業・キャリアの理解を深めます。	リアルとウェブで自ら情報ツールを活用しながら、自身の就職活動や就職希望先の業界や企業に関する情報を収集します。	4時間
第3回	**特別授業（1）　B to B 業界(物流系)** ゲストスピーカー（業界人）を招いて授業を行います。B to B　企業の具体的仕事を知ることを通じて、業界の構造や業務について理解を深めます。	BtoB業界での関心ある企業について情報収集を行います。	4時間
第4回	**特別授業（2）　B to C業界（航空系）** 実務出身教員による授業を行います。航空業界での具体的仕事を知ることを通じて、B to C企業の主要な業務・職種について理解を深めるとともに、改めてB to B、　B to Cの違いや共通点、重複点について理解を深めます。	BtoC業界での関心ある企業について情報収集を行います。	4時間
第5回	**リテラシーの理解** 社会人に必要なリテラシーについて理解を深めます。	リテラシーの内容と必要性について復習します。	4時間
第6回	**コンピテンシーの理解** 社会人に必要なコンピテンシーについて理解を深めます。	コンピテンシーの内容と必要性について復習します。	4時間
第7回	**PROGテスト** PROGテストを受け、自身のリテラシーとコンピテンシーの把握を行います。	PROGテストの意義と問われたリテラシーとコンピテンシーの重要性について再確認します。	4時間
第8回	**ビジネスコミュニケーション～ビジネスマネーについて** 社会の様々な場面で必要とされる重要なビジネスマナー等について学びます。	学んだビジネスマナーについて復習します。	4時間
第9回	**ビジネスコミュニケーション（2）～口頭表現と所作** 社会の様々な場面で必要とされる重要な口頭表現や所作について学びます。	学んだ口頭表現方法について復習します。	4時間
第10回	**企業が求める人材像**	学んだ企業の求める人材像について復習します。	4時間

	業界・企業が求める様々な人材像について学びます。		
第11回	**フィードバック＆グループディスカッションの基本** 「グループディスカッション」についての手法とポイントについて学んでいきます。	学んだディスカッションの手法やポイントについて復習します。	4時間
第12回	**グループディスカッションの実践** 「グループディスカッション」を通じて業界や企業での働き方について受講生間で討論を行い、自己の適性への理解を深めます。	ディスカッションの方法と内容に振り返りを行います。	4時間
第13回	**PROGフィードバック** ＰＲＯＧテストの結果を考察し、自身のリテラシーとコンピテンシーについて理解を深め、課題を明らかにします。	自身のリテラシーとコンピテンシーの進捗度を踏まえ、各自で春休みの行動計画を立ててください。	4時間
第14回	**振り返りと春休みの行動計画作成** 後期で学んだ内容を振り返ります。また、後期で学んだことを踏まえ、春休みの行動計画について考えます。	各自で春休みの行動計画を立ててください。	4時間

授業科目名	**仕事とキャリア**				
担当教員名	児山俊行・古川拓也・丸朋子・田原卓哉				
学年・コース等	3年	開講期間	後期	単位数	2
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の概要					

授業概要

この授業では、キャリアプランニングでの学びを生かし、社会で活躍するために必要な知識と能力を身につけます。さらにプログテストから自らの強み弱みを理解し、ビジネスマナーやビジネスコミュニケーションの在り方などを学びます。またソーシャルタッチポイントを意識し、先輩（4年生）の話を聞く機会を活用し、またグループディスカッションを通じて、実践的な知識を身につけます。（特別授業の日程は変更することがあります）。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. 全学DP２.専門的知識・技能、職業理解	組織での基本的行動についての理解を深めるとともに、ビジネスマナーやビジネスコミュニケーション力を高めます。	様々な仕事で必要な社会人基礎力を身につけます。

汎用的な力	
1. 全学DP４.課題発見	PROGテストを通じて、自らの強み弱みを理解し、啓発課題をつかむこと。
2. 全学DP５.計画・立案力	企業選考プロセスを学び、具体的なアクションプランを策定する。
3. 全学DP６.行動・実践	インターンシップやオープンカンパニーに参加するなど、主体的にアクションプランを考え実践する。
4. 全学DP８.意思疎通	グループワークやインターンシップ等を通じて双方向コミュニケーションを図る。
5. 全学DP10.忠恕の心	誠実で思いやりのある人、周囲から頼りにされる人になることを目指す。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)

・問答法・コメントを求める

・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)

・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)

・その他(以下に概要を記述)

適性検査（キャリアアプローチテスト）、PROGテストなど

課題や取組に対する評価・振り返り

・実技・実習後、全体に向けてコメントします

・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

・その他(以下に概要を記述)

PROGテストのフィードバックなど

成績評価

注意事項等

授業へは原則としてすべて出席してください。何らかの事情で欠席する場合は、シラバスや授業内での配布資料を参照し、自学により内容を確認し、必要な課題に取り組むようにしてください。なお、資格・免許取得に必要な科目は、単位修得に必要な授業時間数が定められている場合がありますので、注意してください。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
授業内提出物	30 %	： 授業に継続的に参加し、積極的に課題（ワーク）に取り組めているかどうかを評価します。
PROGテスト	10 %	： PROGテストで、自らの成長度や課題の認識について評価します。

中間レポート　：　授業で学んだことに関して理解できているかを評価します。

30　％

期末レポート　：　授業で学んだことに関して理解できているかを評価します。

30　％

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

大阪成蹊大学『就活ガイドブック』

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められます。

「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習してください。

また、受講の際、指示があった授業回ではリクルートスーツを着用してください。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：　児山：金曜４限　古川：火曜1・2限　丸：火曜2限

場所：　研究室（児山：３階西館、古川：２階西館、丸：3階西館）

備考・注意事項：　授業の前後以外で質問したい場合は、メールにて受け付けます（KOYAMA_T@g.osaka-seikei.ac.jp）。タイトルには必ず授業名を記載し、メールでは氏名・学籍番号・所属を明記してください。

授業計画

		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**ガイダンスおよび卒業後のキャリアに向けての行動計画作成** 授業概要を確認し、夏休みのインターンシップ等の振り返りを通して、今後の具体的な行動計画作成を行います。	インターンシップ等を振り返り、今後に向けた行動をまとめ、作成した行動計画を見直す。	4時間
第2回	**企業が求める人材像** 業界・企業が求める様々な人材像について学びます。	学んだ企業の求める人材像について復習する。	4時間
第3回	**ビジネスマナー** 社会の様々な場面で必要とされる重要な口頭表現や所作について学びます。	学んだビジネスマナーについて復習する。	4時間
第4回	**先輩の体験談から学ぶ** 先輩たちの進路決定に向けての様々な努力や工夫から、自身のキャリアを深め考える機会とする。	自身の強みと大学時代に力を入れたことを関連づける。	4時間
第5回	**特別講義** ゲストスピーカー（業界人）を招いて授業を行います。具体的な仕事を知ることを通じて、業界独特の構造と主要な業務・職種について理解を深めます。	ゲストスピーカーに関連する企業ならびに業界について理解する。	4時間
第6回	**リテラシーの理解** 社会人に必要なリテラシーについて理解を深めます。	リテラシーの内容と必要性について復習する。	4時間
第7回	**コンピテンシーの理解** 社会人に必要なコンピテンシーについて理解を深めます。	コンピテンシーの内容と必要性について復習する。	4時間
第8回	**PROGテスト** ＰＲＯＧテストを受け、自身のリテラシーとコンピテンシーの把握を行います。	PROGテストの意義と問われたリテラシーとコンピテンシーの重要性について再確認する。	4時間
第9回	**ビジネスコミュニケーション（１次・２次）** １次・２次面接の場面で必要とされる重要な知識やスキルについて学びます。	学んだ知識・スキルについて復習する。	4時間
第10回	**ビジネスコミュニケーション（最終）** 最終面接の場面で必要とされる重要な知識やスキルについて学びます。	学んだ知識・スキルについて復習する。	4時間
第11回	**グループディスカッションの基礎** キャリアプランニングで学んだ「グループディスカッション」における手法とポイントについて、聞き手により伝わる伝え方等を学んでいきます。	学んだディスカッションの手法やポイントについて復習します。	4時間
第12回	**グループディスカッションの実践（働き方）** 「グループディスカッション」を通じて業界や企業での働き方について受講生間で討論を行い、自己の適性への理解を深めます。	ディスカッションの方法と内容を振り返る。	4時間
第13回	**グループディスカッションの実践（ビジネスプラン）**	ディスカッションの方法と内容を振り返る。	4時間

	「グループディスカッション」を通じて業界や企業における新たなビジネスプランの構築について受講生間で討論を行い、自己の適性への理解を深めます。		
第14回	PROGフィードバック ＰＲＯＧテストの結果を考察し、自身のリテラシーとコンピテンシーについて理解を深め、課題を明らかにします。	自身のリテラシーとコンピテンシーの進捗度を踏まえ、各自で春休みの行動計画を立てる。	4時間

113

授業科目名	**仕事とキャリア**				
担当教員名	辰巳清・内田英武・新規専任教員				
学年・コース等	3年	開講期間	後期	単位数	2
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	辰巳清：株式会社アミューズにてコンサート、演劇・ミュージカル、美術展など5000以上の公演を演出・プロデュース。国内外で大型プロジェクトの経験多数。文化庁専門委員など芸術文化による地域活性化の社会活動も行っている。 内田英武：株式会社ポリゴン・ピクチュアズにてディレクターとして多数の案件を手掛け、TVアニメやゲーム、縦読みコミック、ミュージックビデオなど多彩なメディア作品のディレクションを経験。現在は自ら立ち上げた会社で幅広いメディアの制作を行っている。（全14回）				

授業概要

本授業の目的は3年生のキャリア意識の向上です。
14回の授業の前半で、自己理解を深め、①自己PR、②ガクチカ（学生時代に力を入れたこと）、③取り組んできた作品制作、に関する文章を作成して、企業等の新卒採用エントリーシートにも活かせる本学指定の履歴書を完成させます。
後半の授業では、履歴書の内容をもとに、企業等の新卒採用面接にも活かせるトーク原稿を作成し、自撮りした面接動画を提出して、教員の助言を受けながら、グループワークとしての模擬面接を繰り返します。
授業外課題を通じた学修も充実させることで本学のディプロマ・ポリシーである「専門に関わる知識・技能、職業理解」を身につけることを目標としています。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. 全学DP２.専門的知識・技能、職業理解	キャリア意識の向上	経済産業省が定める社会人基礎力である「前に踏み出す力」「考え抜く力」「チームで働く力」を身につける。
汎用的な力		
1. 全学DP４.課題発見		与えられた課題や問題について、提供された情報に加え、積極的に独自の調査を行い、必要な情報を正しく収集することができる。
2. 全学DP５.計画・立案力		自分の専門的知識と技能を、社会に発信し活かす意思とスキルを有し、行動計画を立てられる。
3. 全学DP６.行動・実践		課題・問題に対する調査・分析から考察に至るまでのプロセスが計画的に進められ、レベルの高い最終提案、最終成果物に結びつける実践力を発揮することができる。
4. 全学DP８.意思疎通		与えられた課題や目的のために、他者と円滑で有意義な意思疎通ができ、双方にとって望ましい結果を得られる豊かなコミュニケーション能力を身につけている。
5. 全学DP10.忠恕の心		相手が伝えたいことを共感的に理解し、自分の考えや思いを適切に伝えられるよう感情コントロールを行い、取り組みのモチベーションを維持することができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
・実験、実技、実習
・問答法・コメントを求める
・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
・ディベート、討論

課題や取組に対する評価・振り返り

・実習や実技に対して個別にコメントします
・実技・実習後、全体に向けてコメントします
・提出物にコメント・評価をつけて返却します
・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

授業へは原則としてすべて出席してください。何らかの事情で欠席する場合は、シラバスや授業内での配布資料を参照し、自学により内容を確認し、必要な課題

に取り組むようにしてください。なお、資格・免許取得に必要な科目は、単位修得に必要な授業時間数が定められている場合がありますので、注意してください。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
授業への取組み	70 %	: 毎回の授業内・授業外課題への取り組みを評価する
期末課題	30 %	: 授業を通じて見につけた力を期末課題を通じて評価する

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

SPI対策問題集　https://spi.careermine.jp/tags/normal

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は２単位の科目であるため、平均すると毎回5時間の授業外学修が求められる。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

備考・注意事項：　第1回授業にて各教員から伝える。

授業計画		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**自己紹介と志望動機 / リテラシーを高める** 自己紹介と志望動機の重要性を理解するリテラシーの重要性を理解する	①敬語に関する学習動画を3本以上観て、動画のタイトルとURLを提出する ②時事問題に関して毎日観るニュース動画や新聞を決めて、タイトルとURLを提出する	5時間
第2回	**就職活動の理解** 就職活動に関する理解を深める	ゲスト講師の講義に関してアカデミックライティングメソッドに則ったレポートを提出する	5時間
第3回	**コンピテンシーを高める / SPI対策** コンピテンシーの重要性を理解する SPI試験について理解する	①週1回、SPI模試を受けるウェブサイトを決めてサイトのタイトルとURLを提出する　②「３つの出会い」で自分を語る	5時間
第4回	**自己理解～自己紹介** 自己理解を深め自己紹介を文章化する	グループワークを受けて自己紹介「３つの出会い」を修正する	5時間
第5回	**自己紹介の修正～完成** 自己紹介の完成度を高める	グループワークを受けて自己紹介を修正する	5時間
第6回	**キャリアアンカー / 大学指定履歴書の作成** キャリアアンカーについて理解し、大学指定履歴書を作成する	グループワークを受けて大学指定履歴書を改善する	5時間
第7回	**大学指定履歴書の修正** 大学指定履歴書の完成度を高める	グループワークを受けて大学指定履歴書を改善する	5時間
第8回	**大学指定履歴書の完成** 大学指定履歴書を完成させる	グループワークを受けて大学指定履歴書を完成する	5時間
第9回	**PRDGテスト** PROGテストを通じてリテラシーとコンピテンシーを理解する	レポート「本授業の学びを振り返る」	5時間
第10回	**面接原稿の作成** 履歴書の内容をもとに面接のトーク原稿を作成する	面接動画を自撮りして提出する	5時間
第11回	**面接対策①自己PR /　志望動機** 模擬面接で面接に慣れる	面接動画を自撮りして提出する	5時間
第12回	**面接対策②ガクチカ / 作品制作 / 逆質問** 模擬面接を繰り返して経験を積む	面接動画を自撮りして提出する	5時間
第13回	**PROGフィードバック** PROGテストのフィードバックを通じて自己理解を深める	面接動画を自撮りして提出する	5時間
第14回	**面接対策の総仕上げ**	面接動画を自撮りして提出する	5時間

授業を通じて身につけた力を最終確認する		

113

授業科目名	**仕事とキャリア**				
担当教員名	**丸野亨・福岡亮治**				
学年・コース等	３年	開講期間	後期	単位数	2
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	【丸野】大阪市立小学校教諭（2年）、国立大学附属小学校教諭（14年）同主幹教諭（1年）同副校長（4年） 【福岡】京都市立小学校教諭（6年）、京都市教育委員会（7年）の勤務経験（全14回）				

授業概要

学生が自分の特性を見つめ直し、主体的に自身の人生設計を考えていくために次の課題に取り組んでいく。まず、計画的に学修する態度を養っていくために、学修計画を立てる。次に、小学校教員に求められる専門的な知識や社会教養について、その習得状況を個別的に確認し、不十分な場合は補充を行っていく。また、自分の学修計画をもとに毎回進捗状況をチェックするとともに、今日の学校教育をめぐる主要な問題についてそれぞれテーマ化し、小論文形式で問題理解を深めることによって課題意識を養っていく。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. 全学DP１.幅広い教養やスキル	専門的知識	文化的素養としての教養知識を身につけることができる。
2. 全学DP２.専門的知識・技能、職業理解	職業理解	教育を取り巻く諸課題を学ぶことで、教職に関する基本的な見識を得ることができる。
汎用的な力		
1. 全学DP４.課題発見		様々な資料、データから教育に関わる課題をとらえ、考察することができる。
2. 全学DP５.計画・立案力		主体的・継続的に学び続ける力を養うことができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
・実験、実技、実習
・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

・実習や実技に対して個別にコメントします
・実技・実習後、全体に向けてコメントします
・提出物にコメント・評価をつけて返却します
・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

授業へは原則としてすべて出席してください。何らかの事情で欠席する場合は、シラバスや授業内での配布資料を参照し、自学により内容を確認し、必要な課題に取り組むようにしてください。なお、資格・免許取得に必要な科目は、単位修得に必要な授業時間数が定められている場合がありますので、注意してください。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
授業内小テスト	40 %	： 授業内容の理解度を問う小テストを5点×8回とし、60点以上を合格点として評価する。
定期テスト	60 %	： 全授業内容について正しく理解し、適切に解答しているかを問う。60点以上を合格点として評価する。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

授業に於いて、適宜紹介する。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は２単位の科目であるため、平均すると毎回４時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 授業後

場所： 各教員研究室

授業計画

		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**オリエンテーション（小学校教員としてのキャリア形成の重要性）** 各自治体の募集資料等から、小学校教員に求められる資質や能力について学び、教員を目指す者として自分の特性や課題を見つめ直し、キャリア形成に向けて主体的に取り組んでいく展望を確かなものにします。	自らの志望と、これまでの取組を振り返り、自らの課題を具体的にリストアップしておく。キーワード：求められる教師像	4時間
第2回	**自治体の教育理念・方針・施策** 志望する自治体の教育理念や方針・施策を調査し、採用に向けて理解すべき内容をキーワードの形で整理します。その中から教職教養に関連する内容を取り上げ、今後の学修計画を作成します。	授業で整理したキーワードについて、疑問などをまとめておく。作成した学修計画に沿って自学自修を進める。キーワード:自治体の教育理念	4時間
第3回	**教育理念・方針の考察・小論文作成** 自治体の教育理念・方針に関わるキーワードからテーマを設定し、必要な情報を集めた上で、考察と見解を小論文にまとめます。	自治体のパンフレットや新聞記事などから、取り上げるキーワードに関する情報を集め、ファイルしておく。作成した学修計画に沿って自学自修を進める。キーワード：教育理念	4時間
第4回	**自治体の教育理念のまとめと小論文のブラッシュアップ** 前時に作成した小論文を交流し、相互批正の後、加筆修正します。他の人の小論文から、各自治体の教育理念を学び、知識の幅を広げます。	他の小論文から学んだ知識をノートに整理しておく。作成した学修計画に沿って自学自修を進める。キーワード：教育理念	4時間
第5回	**教育施策の考察・小論文作成** 自治体の教育施策に関わるキーワードからテーマを設定し、必要な情報を集めた上で、考察と見解を小論文にまとめます。	自治体のパンフレットやインターネットなどから、取り上げるキーワードに関する情報を集め、ファイルしておく。作成した学修計画に沿って自学自修を進める。キーワード：特色ある教育施策	4時間
第6回	**自治体の教育施策のまとめと小論文のブラッシュアップ** 前時に作成した小論文を交流し、相互批正の後、加筆修正します。他の人の小論文から、各自治体の特色ある教育施策を学び、知識の幅を広げます。	他の小論文から学んだ知識をノートに整理しておく。作成した学修計画に沿って自学自修を進める。キーワード：特色ある教育施策	4時間
第7回	**小学校教育に関わるトピック（教育思潮）の考察と小論文作成** 現在の教育思潮に関わるキーワードからテーマを設定し、必要な情報を集めた上で、考察と見解を小論文にまとめます。	新聞記事、インターネットなどから、取り上げるキーワードに関する情報を集め、ファイルしておく。作成した学修計画に沿って自学自修を進める。キーワード：21世紀型学力・アクティブラーニング等	4時間
第8回	**教育思潮のまとめと小論文のブラッシュアップ** 前時に作成した小論文を交流し、相互批正の後、加筆修正します。他の人の小論文から、教育思潮に関するトピックを学び、知識の幅を広げます。	他の小論文から学んだ知識をノートに整理しておく。作成した学修計画に沿って自学自修を進める。キーワード：教育思潮	4時間
第9回	**小学校教育に関わるトピック（教育問題）の考察と小論文作成** 現在の教育を巡る諸問題に関わるキーワードからテーマを設定し、必要な情報を集めた上で、考察と見解を小論文にまとめます。	設定したテーマに関する新聞記事や情報、過去問題の解答例などを集めて、ファイルにまとめておく。作成した学修計画に沿って自学自修を進める。キーワード：教育問題	4時間
第10回	**教育問題のまとめと小論文のブラッシュアップ** 前時に作成した小論文を交流し、相互批正の後、加筆修正します。他の人の小論文から、教育問題に関するトピックを学び、知識の幅を広げます。	他の小論文から学んだ知識をノートに整理しておく。作成した学修計画に沿って自学自修を進める。キーワード：教育問題	4時間
第11回	**生徒指導事例に関わる考察と小論文作成**	設定したテーマに関する新聞記事や情報、過去問題の解答例などを集めて、ファイルにまとめておく。作成した学修計画に沿って自学自修を進める。キーワード：生徒指導	4時間

	生徒指導に関わる具体的事例からテーマを設定し、必要な情報を集めた上で、考察と見解を小論文にまとめます。		
第12回	**生徒指導事例のまとめと小論文のブラッシュアップ** 前時に作成した小論文を交流し、相互批正の後、加筆修正します。他の人の小論文から、生徒指導事例に関するトピックを学び、知識の幅を広げます。	他の小論文から学んだ知識をノートに整理しておく。作成した学修計画に沿って自学自修を進める。キーワード：生徒指導事例	4時間
第13回	**危機管理事例に関わる考察と小論文作成** 小学校現場における危機管理に関わる具体的事例からテーマを設定し、必要な情報を集めた上で、考察と見解を小論文にまとめます。	設定したテーマに関する新聞記事や情報、過去問題の解答例などを集めて、ファイルにまとめておく。作成した学修計画に沿って自学自修を進める。キーワード：学校危機管理	4時間
第14回	**総括と今後の学修計画の作成** 業で取り組んできた小論文や、自学自修として取り組んできた学修を省察し、今後の課題を明確にした上で、学修計画の修正を行います。	修正した計画をもとに、具体的な行動計画（目標、スケジュール、取組内容等）を作成する。キーワード：小学校教員としてのキャリア形成	4時間

113

授業科目名	仕事とキャリア				
担当教員名	山内淳子				
学年・コース等	3年	開講期間	後期	単位数	2
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	山内：私立幼稚園にて園長として11年勤務（全14回）				

授業概要

本授業では、学生が自らの特性を見つめ直し、主体的に自身の人生設計を考えていくことを目指す。これまで体験してきた実習や、大学における様々な授業での学びを振り返り、保育者に求められる専門的な知識や実践力、社会教養について、その習得状況を個別に確認し、不十分な場合は補充に取り組んでいく。また、今日の保育をめぐる主要な問題について理解を深めることによって課題意識を養い、それへの対応のあり方について検討し、対応力の獲得に努める。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. 全学DP１.幅広い教養やスキル	保育者に必要な教養	保育者の専門性を裏打ちする教養を身につける。
2. 全学DP２.専門的知識・技能、職業理解	保育者に求められる専門的知識、実践力	今日の保育をめぐる課題を理解し、それへの対応のあり方を理解する。
汎用的な力		
1. 全学DP４.課題発見		様々な資料や、自身の体験等から、今日の保育をめぐる課題を捉え、考察することができる。
2. 全学DP５.計画・立案力		主体的・継続的に学び続けるために、自らに適した計画を作成することができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)

・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)

・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

授業へは原則としてすべて出席してください。何らかの事情で欠席する場合は、シラバスや授業内での配布資料を参照し、自学により内容を確認し、必要な課題に取り組むようにしてください。なお、資格・免許取得に必要な科目は、単位修得に必要な授業時間数が定められている場合がありますので、注意してください。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
授業内活動への参加状況	20 %	： 個人ワーク、ペアワーク、グループワーク等、授業内活動へ参加状況を評価します。積極的参加、他者への配慮、表現方法の工夫等を高く評価します。
毎回の小レポート	20 %	： 原則として毎回小レポートの提出を求めます。授業での学びを振り返り、丁寧に記述されているものを高く評価します。
中間・期末レポート	60 %	： 自らの特性を見つめ直し、主体的に自身の人生設計を考えていくという本授業に目的にそって、授業の学びを振り返り、自らが目指すキャリアについての考察が深くなされているものを高く評価します。

使用教科書

指定する

著者	タイトル	出版社	出版年
山内淳子	・保護者と保育者をつなぐ連絡帳の書き方	・一藝社	・2021 年

参考文献等

授業に於いて、適宜紹介します。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は２単位の科目であるため、平均すると毎回４時間の授業外学修が求められます。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習してください。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：　初回授業の際にお伝えします

場所：　初回授業の際にお伝えします

授業計画

		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**オリエンテーション（保育者としてのキャリア形成の重要性）** 資料等から、今日の保育者に求められるものについて考察し、保育者としてのキャリア形成の重要性について考える。	保育所保育指針、幼稚園教育要領等から、保育者に求められる役割を考察する。	4時間
第2回	**保育にまつわる今日的課題** これまでに体験してきた保育実習等を振り返り、学生同士共有することを通して、保育をまつわる今日的課題について考察を深める。	これまでに体験してきた保育実習等を「保育にまつわる今日課題」という視点から振り返る。	4時間
第3回	**自己の強みと課題の明確化** これまでに体験してきた保育実習等を振り返り、学生同士共有することを通して、各自が保育職を目指すうえでの自らの特長や課題について考える。	これまでに体験してきた保育実習等を「自己の強みと課題」という視点から振り返る。	4時間
第4回	**理想の保育者像** これまでに体験してきた保育実習等を振り返り、学生同士共有することを通して、理想の保育者像について考える。	れまでに体験してきた保育実習等を「理想の保育者像」という視点から振り返る。	4時間
第5回	**保育者に必要な教養** 豊かな保育実践を裏打ちする教養の重要性について考える。保育者の採用試験で用いられる教養試験等を通して、教養の獲得状況を各自確認し、今後の学修課題を明確化する。	これまでに体験してきた保育実習等を振り返り、保育者が教養を深めることがどのように保育実践を豊かなものにするかについて考える。	4時間
第6回	**保育者に必要な専門的知識** 保育者の採用試験で用いられる、保育者の専門性に関わる試験等を通して、専門的知識の獲得状況を各自確認し、今後の学修課題を明確化する。	保育者に求められる専門的知識の獲得状況を確認する試験問題等に取り組む。	4時間
第7回	**保育者に必要な専門的実践力：子育て支援のための実践力とは** 子育て支援という今日の保育をめぐる重要課題について理解を深め、そのために必要な専門的実践力について理解を深める。	これまでに体験してきた保育実習等を「子育て支援」という視点から振り返る。	4時間
第8回	**保育者に必要な専門的実践力：子育て支援のための実践力を高めるには** 子育て支援という今日の保育をめぐる重要課題について理解を深め、そのために必要な専門的実践力向上のための演習に取り組む。	新聞記事やインターネット上に掲載されているブログ等を読むことを通して、子育て中の保護者の思いを想像する。	4時間
第9回	**保育者の社会的役割と自己実現：幼稚園に勤務する保育者の話** 幼稚園に勤務する現職の保育者または幼稚園に勤務経験のある人から直接話を聴くことを通して、保育者が実感的に捉えている保育者の社会的使命ややりがい、今日の保育をめぐる課題、保育者としてのキャリアアップの必要性について理解を深める。	授業前には保育者に質問したいことをリストアップし、授業後には保育者の話で印象に残ったことを記述する。	4時間
第10回	**保育者の社会的役割と自己実現：保育所に勤務する保育者の話** 保育所に勤務する現職の保育者または幼稚園に勤務経験のある人から直接話を聴くことを通して、保育者が実感的に捉えている保育者の社会的使命ややりがい、今日の保育をめぐる課題、保育者としてのキャリアアップの必要性について理解を深める。	授業前には保育者に質問したいことをリストアップし、授業後には保育者の話で印象に残ったことを記述する。	4時間
第11回	**自身の人生設計の検討：先輩の体験談から** 自身の人生設計について検討していくにあたり、先輩がどのようにそれに取り組んだかの体験談を聴き、参考にする。	授業前には保育者に質問したいことをリストアップし、授業後には先輩の話で印象に残ったことを記述する。	4時間
第12回	**自身の人生設計の検討：自身の強みと課題の明確化** 自身の人生設計について検討していくにあたり、自らの強みと課題を明確化する。それらを他者にどう語るかについても考え、実践する。	これまでの経験を振り返り、自らの強みや課題について考え記述する。	4時間

第13回	**自身の人生設計の検討：価値の明確化** 保育において大切にしたいこと等、自身が価値をおくものについて考えをまとめる。それらを具体例とともに、他者にわかりやすく熱意をもって伝えられるよう、ペアワークを通して取り組む。	「私が〇〇において大切にしたいこと」というタイトルでレポートを作成する。	4時間
第14回	**授業内容の振り返りと今後の課題の明確化** 授業内容を振り返り、自身のキャリア形成に向けて、今後の課題を明確にする。互いに語り合い、考察を深める。	授業内容を振り返り、最終レポートに取り組む。	4時間

113

授業科目名	**仕事とキャリア**				
担当教員名	鈴木克彦・臼井達矢				
学年・コース等	３年	開講期間	後期	単位数	2
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	発達障害児を含む知的障害児を対象とする特別支援学校に勤務。また、教育委員会で特別支援教育行政に従事。発達障害児の教育的支援体制整備に参画。				

授業概要

学生が自分の特性を見つめ直し、主体的に自身の人生設計を考えていくために次の課題に取り組んでいく。まず、計画的に学修する態度を養っていくために、学修計画を立てる。次に、教員に求められる専門的な知識や社会教養について、その習得状況を個別的に確認し、不十分な場合は補充を行っていく。また、自分の学修計画をもとに毎回進捗状況をチェックするとともに、今日の学校教育をめぐる主要な問題についてそれぞれテーマ化し、小論文形式で問題理解を深めることによって課題意識を養っていく。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. 全学DP１.幅広い教養やスキル	専門的知識	文化的素養としての教養知識を身につけることができる。
2. 全学DP２.専門的知識・技能、職業理解	職業理解	教育を取り巻く諸課題を学ぶことで、教職に関する基本的な見識を得ることができる。
汎用的な力		
1. 全学DP４.課題発見		様々な資料、データから教育に関わる課題をとらえ、考察することができる。
2. 全学DP５.計画・立案力		主体的・継続的に学び続ける力を養うことができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
・実験、実技、実習
・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

・実習や実技に対して個別にコメントします
・実技・実習後、全体に向けてコメントします
・提出物にコメント・評価をつけて返却します
・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

授業へは原則としてすべて出席してください。何らかの事情で欠席する場合は、シラバスや授業内での配布資料を参照し、自学により内容を確認し、必要な課題に取り組むようにしてください。なお、資格・免許取得に必要な科目は、単位修得に必要な授業時間数が定められている場合がありますので、注意してください。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
授業内小テスト	30 %	： 授業内容の理解度を問う小テストを10点×3回実施し、評価する。
期末レポート	30 %	： 全授業内容について正しく理解し、適切に回答しているかを問う。
ワークシート、討議・交流・発表	40 %	： ワークシートの記載内容と提出状況、授業中の討議・交流・発表などの課題への取り組み方について評価する。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

授業に於いて、適宜紹介する。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は２単位の科目であるため、平均すると毎回４時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： オフィスアワー

場所： 各研究室

備考・注意事項： オフィスアワー場所は、鈴木：研究室（中央館５階）、臼井：研究室(中央館２階)
授業の前後にも質問に応じる。

授業計画

		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**オリエンテーション（教員としてのキャリア形成の重要性）** 各自治体の募集資料等から、教員に求められる資質や能力について学び、教員を目指す者として自分の特性や課題を見つめ直し、キャリア形成に向けて主体的に取り組んでいく展望を確かなものにします。	自らの志望と、これまでの取組を振り返り、自らの課題を具体的にリストアップしておく。キーワード：求められる教師像	4時間
第2回	**自治体の教育理念・方針・施策** 志望する自治体の教育理念や方針・施策を調査し、採用に向けて理解すべき内容をキーワードの形で整理します。その中から教職教養に関連する内容を取り上げ、今後の学修計画を作成します。	授業で整理したキーワードについて、疑問などをまとめておく。作成した学修計画に沿って自学自修を進める。	4時間
第3回	**教育理念・方針・施策の考察・小論文作成** 自治体の教育理念・方針・施策に関わるキーワードからテーマを設定し、必要な情報を集めた上で、考察と見解を小論文にまとめます。	自治体のパンフレットや新聞記事などから、取り上げるキーワードに関する情報を集め、ファイルしておく。作成した学修計画に沿って自学自修を進める。	4時間
第4回	**自治体の教育理念・方針・施策のまとめと小論文のブラッシュアップ** 前時に作成した小論文を交流し、相互批正の後、加筆修正します。他の人の小論文から、各自治体の教育理念・方針・施策について学び、知識の幅を広げます。	他の小論文から学んだ知識をノートに整理しておく。作成した学修計画に沿って自学自修を進める。	4時間
第5回	**自己PRについて考える** 教員採用試験で自治体に提出する自己申告書に記す自己PRについてディスカッションを通して考察します。自治体の教育理念・方針・施策等に照らし何がどのようにPRすることができるか考えます。	自己PRの内容・方法について再度考えてみる。	4時間
第6回	**自己PRについてブラッシュアップ** 前時に作成した自己申告書をもとにグループ、クラスで交流し、聞き取った意見などをもとに加筆修正します。	自己PRを確立し自己申告書を完成させる。	4時間
第7回	**先輩から学ぶ** 教員採用試験に合格した先輩を招き、受験勉強の進め方や試験対策などについて体験に基づく講話を聞きます。講話やグループやクラスでのディスカッションを通し、自身の学修計画を修正するとともに受験に向けて意欲を高める機会とします。	先輩の講話にあったキーワードについて整理し、修正した学修計画に沿って自学自修を進める。	4時間
第8回	**中学校教育に関わるトピック（教育時事）の考察と面接対策** タイムりーな教育時事に関わるキーワードからテーマを設定し、必要な情報を集めた上で、考察と見解をまとめます。それをもとに面接での質問を想定しどのように回答するか考えます。	教育時事について学んだ知識をノートに整理しておく。作成した学修計画に沿って自学自修を進める。	4時間
第9回	**中学校教育に関わるトピック（教育問題）の考察と面接対策** 現在の教育を巡る諸問題に関わるキーワードからテーマを設定し、必要な情報を集めた上で、考察と見解をまとめます。それをもとに面接での質問を想定しどのように回答するか考えます。	設定したテーマに関する新聞記事や情報、過去問題の解答例などを集めて、ファイルにまとめておく。作成した学修計画に沿って自学自修を進める。	4時間
第10回	**面接対策のブラッシュアップ**	面接練習で他の人の答え方や内容から学んだ知識をノートに整理しておく。作成した学修計画に沿って自学自修を進める。	4時間

	中学校教育に関わるトピック（教育時事、教育問題）に関して前時までに作成した面接対策を交流し、相手の意見を聞いて加筆修正します。面接練習で他の人が回答する内容や答え方などから学び面接対策のブラッシュアップを図ります。		
第11回	**生徒指導事例に関わる考察と小論文などの作成** 生徒指導に関わる具体的事例からテーマを設定し、必要な情報を集めた上で、考察と見解を小論文にまとめるなど２次筆答試験に向けて学修します。	設定したテーマに関する新聞記事や情報、過去問題の解答例などを集めて、ファイルにまとめておく。作成した学修計画に沿って自学自修を進める。	4時間
第12回	**生徒指導事例のまとめと小論文などのブラッシュアップ** 前時に作成した小論文などを交流し、他の人の意見を聞いて加筆修正します。交流を通して生徒指導に関する知識の幅を広げます。	他の人から学んだ知識をノートに整理しておく。作成した学修計画に沿って自学自修を進める。	4時間
第13回	**危機管理事例に関わる考察と小論文などの作成** 中学校での危機管理に関わる具体的事例からテーマを設定し、必要な情報を集めた上で、考察と見解を小論文にまとめるなど２次筆答試験に向けて学修します。	設定したテーマに関する新聞記事や情報、過去問題の解答例などを集めて、ファイルにまとめておく。作成した学修計画に沿って自学自修を進める。	4時間
第14回	**危機管理事例のまとめと小論文などのブラッシュアップ** 前時に作成した小論文などを交流し、他の人の意見を聞いて加筆修正します。交流を通して危機管理に関する知識の幅を広げます。 また、授業全体をふりかえり、自学自修として取り組んできた学修を省察することで今後の課題を明確にし、学修計画の修正を行います。	他の人から学んだ知識をノートに整理しておく。学びをもとに今後の学修計画を修正する。	4時間

113

授業科目名	キャリアプランニング				
担当教員名	辛川敬・福長久美子・東出加奈子				
学年・コース等	3年	開講期間	前期	単位数	2
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	辛川は40年近く大手航空会社に勤務、グループ会社社長、役員等を歴任。マーケティング、営業、空港、海外等で幅広い実務経験あり。				

授業概要

この授業では、自身のキャラプランニングの為に必要な知識と能力を身につけます。自らの強み弱みを理解し、将来へのビジョンを描きます。その他、ビジネスマナー、企業選考プロセス、自己紹介文書の作成などを学びつつ、企業人や先輩（4年生）の話を聞く機会の活用など、将来に必要な実践的なスキルを身につけます。社会人として必要な、知識、教養、働き方を学び、自ら目標設定を行い、後期からの具体的なキャリアの検討に結びつけることを目指します。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. 全学DP１.幅広い教養やスキル	自己分析による強み弱みの理解、ビジネスマナー、業界研究、自己紹介文書の作成などスキルを身につける。	自ら進むべき業界を選び、就業選考に前向きに取り組めるようになる。
汎用的な力		
1. 全学DP４.課題発見		就業選考検査によって、自らの強み弱みを理解し、啓発課題をつかむ。
2. 全学DP５.計画・立案力		企業選考プロセスを学び、具体的なアクションプランを策定する。
3. 全学DP６.行動・実践		業界研究などに取り組み、主体的にアクションプランを考え実践する。
4. 全学DP８.意思疎通		教員やゲストスピーカーとの質疑応答など双方向コミュニケーションを図る。
5. 全学DP10.忠恕の心		誠実で思いやりのある人、周囲から頼りにされる人になることを目指す。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)

・問答法・コメントを求める

・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)

・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

・実技・実習後、全体に向けてコメントします

・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

授業へは原則としてすべて出席してください。何らかの事情で欠席する場合は、シラバスや授業内での配布資料を参照し、自学により内容を確認し、必要な課題に取り組むようにしてください。なお、資格・免許取得に必要な科目は、単位修得に必要な授業時間数が定められている場合がありますので、注意してください。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準	
授業中のワーク（就業選考検査含む）	30 %	:	授業に継続的に参加し、積極的に課題（ワーク）に取り組めているかどうかを評価します。
毎回のレポート	40 %	:	授業内容を踏まえ、独自の見解や今後の取り組みなど定められた文字数で具体的に論述できているかどうかを評価します。
中間レポート	10 %	:	中間レポートにより、授業で学んだことに関して理解できているかを評価します。
期末レポート		:	指定された日時までに提出された期末レポートにより、授業で学んだことに関して理解できているかを評価します。

20　%

使用教科書

指定する

著者	タイトル	出版社	出版年
	・キャリアプランニングワークブック（初回授業にて配布）	・	・　年

参考文献等

必要に応じて、適宜紹介します。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習すること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：　辛川：水曜4限　東出：水曜2限

場所：　研究室（辛川：西館4階 東出：西館4階）

備考・注意事項：　授業の前後以外で質問したい場合は、メールにて受け付けます（karakawa@g.osaka-seikei.ac.jp）。件名には必ず、氏名・学籍番号・所属を明記してください。

授業計画

		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**ガイダンスおよびキャリアプランニングに関する総論** 授業の目的と進め方についてガイダンスを行います。また、現在の就職活動事情と今後のスケジュールについて、具体的なイメージを形成します。	キャリアプランニングを行う上で重要な事項について、テキストにまとめておいてください。	4時間
第2回	**採用人事のプロセス** 企業の採用人事プロセスにおいて、就職希望者に求める知識や能力について学び、理解を深めます。また、採用試験で求められる知識がビジネスの現場でどのように生かされているのかを学びます。	当日学習したことを復習してください。	4時間
第3回	**情報収集力を高めよう** 就職情報ツールの活用方法を学び、自分自身のキャリアを検討するために必要な情報収集力の獲得と、キャリアを選択する際の注意点などについて学びます。	就職情報ツールを活用し、興味のあるキャリア等について調べてみましょう。	4時間
第4回	**業種と職種を理解しよう：基礎知識の理解** 業種および職種に関する基本的な知識を学び、キャリアを選択するうえでの基本事項をおさえます。	テキストで当日学習したことを復習してください。	4時間
第5回	**業種と職種を理解しよう：まとめ** 業種および職種について理解してきた事項を整理します。	テキストで当日学習したことを復習してください。	4時間
第6回	**業種と職種を理解しよう：特別講義** ゲストスピーカー（企業人）を招いて特別授業を開催し、業種と職種に関する具体的なケースを学びます。	具体的な企業の事例を第4回講義で学習したことと照らし合わせて、学びを深めてください。	4時間
第7回	**自分自身を理解しよう：適性検査にチャレンジ** オンラインで適性検査を受検します。	受検後に自身で振り返りをして9回の分析に備えてください。	4時間
第8回	**自分自身を理解しよう：自身の過去を振り返る** 将来のキャリアプランを設計するために、まずは自分自身の過去を振り返ることで自身のキャリアや特性を理解します。	テキストで当日学習したことを復習してください。	4時間
第9回	**自分自身を理解しよう：適性検査を踏まえた分析** 専門家からのフィードバックと適性検査結果の考察から、自らの長所と短所、アピール可能な点について整理します。	当日学習したことについて、気が付いた点等をテキストに整理しましょう。	4時間
第10回	**自分自身を表現しよう：自己紹介文の作成** 各自で自己紹介文書の作成に取り組み、文章表現力を強化します。	テキストで当日学習したことを整理しておきましょう。	4時間
第11回	**自分自身を表現しよう：自己紹介文の洗練と発表** 作成した自己紹介文書をペアで読み合わせ、ブラッシュアップすることで文章表現力を強化します。自己紹介文書を完成させ、お互いに発表することで良い点、改善点などを学びます。	テキストで当日学習したことを整理しておきましょう。	4時間
第12回	**自分自身を表現しよう：学生時代に力を入れて取り組んだこと** 各自で学生時代に力を入れて取り組んだことについて文章表現し、文章表現力を強化します。	テキストで当日学習したことを踏まえ、テキストに文章を作成しましょう。	4時間

第13回	**ビジネス文書（メール・カバーレター・御礼状）** ビジネス文書（メール）の基本を理解します。カバーレターの重要性を理解します。就業活動や社会人として必要となるビジネス文書の書き方について実践します。	テキストで当日学習したことを整理しておきましょう。	4時間
第14回	**まとめ** 講義全体の学びを踏まえて、今後の課題を設定します。夏休みの有意義な過ごし方についても考えます。授業の最後に期末レポートの課題を提示します。	前14回講義の内容を振り返りましょう。	4時間

113

授業科目名	キャリアプランニング				
担当教員名	古川拓也・佐藤亮・白濵孝之・川島将希				
学年・コース等	3年	開講期間	前期	単位数	2
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の概要					

授業概要

この授業では、自身のキャリアプランニングの為に必要な知識と能力を身につけます。自らの強み弱みを理解し、将来へのビジョンを描きます。その他、自己紹介文書、志望動機の作成、ビジネスマナーなどを学びつつ、企業人や先輩（４年生）の話を聞く機会の活用など、将来に必要な実践的なスキルを身につけます。社会人として必要な、知識、教養、働き方を学び、自ら目標設定を行い、前期以降からの具体的なキャリアの検討に結びつけることを目指します。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. 全学DP１.幅広い教養やスキル	自己分析による強み弱みの理解、ビジネスマナー、自己紹介文書・志望動機の作成スキルなどを身につける。	自ら進むべき業界を選び、就業選考に主体的に取り組めるようになる。
汎用的な力		
1. 全学DP４.課題発見		自らの強み弱みを理解し、啓発課題をつかむ。
2. 全学DP５.計画・立案力		企業選考プロセスを学び、具体的なアクションプランを策定する。
3. 全学DP６.行動・実践		自己紹介書や志望動機作成などに取り組み、主体的にアクションプランを考え実践する。
4. 全学DP８.意思疎通		教員やゲストスピーカーとの質疑応答など双方向コミュニケーションを図る。
5. 全学DP10.忠恕の心		誠実で思いやりのある人、周囲から頼りにされる人になることを目指す。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)

・問答法・コメントを求める

・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)

・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

・提出物にコメント・評価をつけて返却します

・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

授業へは原則としてすべて出席してください。何らかの事情で欠席する場合は、シラバスや授業内での配布資料を参照し、自学により内容を確認し、必要な課題に取り組むようにしてください。なお、資格・免許取得に必要な科目は、単位修得に必要な授業時間数が定められている場合がありますので、注意してください。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
授業中のワーク	30 %	： 授業に継続的に参加し積極的に課題（ワーク）に取り組めているかどうかを評価します。
講義内課題	50 %	： 授業内容を踏まえ、独自の見解や今後の取り組みなど定められた文字数で具体的に論述できているかどうか、計画策定の上で実行できるかを評価します。
中間テスト	10 %	： 授業で学んだことに関して理解できているかを評価します。
期末レポート	10 %	： 授業で学んだことに関して理解できているかを評価します。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

適宜紹介します。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習すること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 1回目の授業で案内

場所： 個人研究室（西館2F）西館2階

備考・注意事項： 記載は佐藤（主担当）のオフィスアワー。
事前にメールでアポイントを取るようにお願いします
sato-t@g.osaka-seikei.ac.jp
その他事項は講義初回に確認すること。

授業計画

		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**ガイダンスおよびキャリアプランニングに関する総論** 授業の目的と進め方についてガイダンスを行います。また、最新の就職活動事情について具体的なスケジュールを再確認します。さらに、サマーインターンシップを含む就職活動の行動計画を作成します。	自身の年間計画と残りの大学生活、その後のキャリアについて、具体的なスケジュールを再確認し、計画を検討する。	4時間
第2回	**自分自身を理解しよう：自身の過去を振り返る** 将来のキャリアプランを設計するために、まずは自分自身の過去を振り返ることで自身のキャリアや特性を理解します。	自分自身の過去を振り返り、具体的なエピソードを言語化する。	4時間
第3回	**自分自身を表現しよう：「自己紹介文」作成** 各自で自己紹介文書の作成に取り組み、文章表現力を強化します。	自己PRの文章を作成する。	4時間
第4回	**自分自身を表現しよう：「自己紹介文」洗練と発表** 作成した自己紹介文書をペアで読み合わせ、ブラッシュアップすることで文章表現力を強化します。自己紹介文書を修正し、お互いに発表することで良い点、改善点などを学びます。	講義内容を振り返り、自己PRの文章を洗練させる。	4時間
第5回	**自分自身を表現しよう：「学生時代に力を入れて取り組んだこと」作成** 各自で学生時代に力を入れて取り組んだことについて文章表現し、文章表現力を強化します。	自分自身の過去を振り返り、学生時代に力を入れたことについて具体的に思い出しまとめる。	4時間
第6回	**先輩の体験談から学ぶ** 先輩たちの進路決定に向けての様々な努力や工夫から、自身のキャリアを考える機会とします。	自身の強みと大学時代に力を入れたことを関連づける。	4時間
第7回	**企業の視点を理解しよう：特別講義** ゲストスピーカー（企業人）を招いて特別授業を開催し、採用担当者の視点などに関する具体的なケースを学びます。	ゲストスピーカーに関連する企業、業界、ならびに採用担当者の視点などに関する具体的なケースを理解する。	4時間
第8回	**自分自身を表現しよう：「学生時代に力を入れて取り組んだこと」洗練と発表** 作成した学生時代に力を入れて取り組んだことをペアで読み合わせ、ブラッシュアップすることで文章表現力を強化します。学生時代に力を入れて取り組んだことを修正し、お互いに発表することで良い点、改善点などを学びます。	講義内容を振り返り、学生時代に力を入れたことの文章を洗練させる。	4時間
第9回	**自分自身を表現しよう：「志望動機」作成** 各自で志望動機の作成に取り組み、文章表現力を強化します。	志望動機の文章を作成する。	4時間
第10回	**自分自身を表現しよう：生成AIに対するITリテラシー** 生成AIに対する傾向と対策を理解し、適切に用いることで文章表現力をさらに向上させます。	生成ＡＩに対する傾向と対策、ならびに活用方法を理解し、実際に使用して自己紹介文書と志望動機を洗練させる。	4時間
第11回	**自分自身を表現しよう：「志望動機」洗練と発表** 作成した志望動機をペアで読み合わせ、他者の視点を得ることで文章表現力を強化します。志望動機を修正し、お互いに発表することで良い点、改善点などを学び、志望動機を完成させます。	講義内容を振り返り、志望動機の文章を完成させる。	4時間
第12回	**社会で必要な数的知識**	講義内容を踏まえて、数的知識に関する資料を自ら探して、復習し、定着させる。	4時間

	社会人として必要な経営指標等を論理的に分析できる数的知識を身に付けます。		
第13回	**ビジネス文書（メール・カバーレター・御礼状）** ビジネス文書（メール）の基本と、カバーレターの重要性を理解します。就業活動や社会人として必要となるビジネス文書の書き方について実践します。	普段のメールの文章を見直し、社会人としてのマナーに沿った内容か否か、修正するとしたらどの様な点かについて考える。	4時間
第14回	**まとめ** 講義全体の学びを踏まえて、今後の課題を設定します。夏休みの有意義な過ごし方についても考えます。授業の最後に期末レポートの課題を提示します。	講義全体を振り返り、キャリアを計画するうえで取り組むべきことについて自身の言葉で説明できるようにする。	4時間

113

授業科目名	キャリアプランニング				
担当教員名	石田直美・麻生典子・川島将希				
学年・コース等	3年	開講期間	前期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要					

授業概要

この授業では、自身のキャラプランニングの為に必要な知識と能力を身につけます。自らの強み弱みを理解し、将来へのビジョンを描きます。その他、ビジネスマナー、企業選考プロセス、自己紹介文書の作成などを学びつつ、ソーシャル・タッチポイントの視点から、企業人や先輩（4年生）の話を聞く機会の活用など、将来に必要な実践的なスキルを身につけます。社会人として必要な、知識、教養、働き方を学び、自ら目標設定を行い、後期からの具体的なキャリアの検討に結びつけることを目指します。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. 全学DP１.幅広い教養やスキル	自己分析による強み弱みの理解、ビジネスマナー、業界研究、自己紹介文書の作成などスキルを身につける	自ら進むべき業界を選び、就業選考に前向きに取り組めるようになる

汎用的な力	
1. 全学DP４.課題発見	自らの強み弱みを理解し、啓発課題をつかむ
2. 全学DP５.計画・立案力	実社会で稼働していくためのプロセスを学び、具体的なアクションプランを策定する
3. 全学DP６.行動・実践	業界研究などに取り組み、主体的にアクションプランを考え実践する
4. 全学DP８.意思疎通	教員やゲストスピーカーとの質疑応答など双方向コミュニケーションを図る
5. 全学DP10.忠恕の心	誠実で思いやりのある人、周囲から頼りにされる人になることを目指す

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)

・問答法・コメントを求める

・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)

・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

・実習や実技に対して個別にコメントします

・提出物にコメント・評価をつけて返却します

成績評価

注意事項等

授業へは原則としてすべて出席してください。何らかの事情で欠席する場合は、シラバスや授業内での配布資料を参照し、自学により内容を確認し、必要な課題に取り組むようにしてください。なお、資格・免許取得に必要な科目は、単位修得に必要な授業時間数が定められている場合がありますので、注意してください。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
授業中のワーク（ワークシート、他）	30 %	： 授業に継続的に参加し、積極的に課題（ワーク）に取り組めているかどうかを評価します。
振り返りレポート（随時）	20 %	： 授業内容を踏まえ、独自の見解や今後の取り組みなど定められた文字数で具体的に論述できているかどうかを評価します。
未来展望レポートコンテスト執筆	30 %	： 未来展望セミナー動画を視聴しレポートを執筆してもらいます。様式、文字数、期限を守り、コンテスト規定を遵守しながら、その内容と自身の意見が述べられているかにより評価します。
期末レポート		： 指定された日時までに提出された期末レポートにより、授業で学んだことに関して理解できているかを評価します。

20　%

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

必要に応じて、適宜紹介します。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回5時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習すること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：　第1回授業でお知らせします

授業計画		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第１回	**オリエンテーションと目標設定** ①授業の目的と進め方についてガイダンスを行う。 ②学修達成度目標の理解。 ③授業スケジュールの確認。	今後の授業計画を立ててください。	5時間
第２回	**自己分析による強みと弱みの確認** ①自分自身の強みと弱みを把握。 ②アセスメントは、適性検査の体験と振り返り。	適性検査を参考にして自身の課題を考えてください	5時間
第３回	**学生から社会人へのキャリアデザイン** ①社会で活躍できるビジネスパーソンの事例から、社会人に求める知識や能力について学び、理解を深める。 ②知識や技術がビジネスの現場でどのように生かされているのかを学ぶ。（ゲスト講師あり）	当日学習したことを復習してください	5時間
第４回	**情報収集・自己紹介文の作成** ①社会を知る情報ツールの活用方法の理解。 ②自分自身のキャリアを検討するために必要な情報収集力を身につけ、キャリアを選択する際の注意点などについて学ぶ ③各自で自己紹介文書の作成に取り組み、文章表現力を強化する。	テキストで当日学習したことを復習してく ださい	5時間
第５回	**仕事とキャリアデザイン** ①社会で活躍できるビジネスパーソンの事例から、社会人に求める知識や能力について学び、理解を深める。 ②知識や技術がビジネスの現場でどのように生かされているのかを学ぶ。（ゲスト講師あり）	当日学習したことを復習してく ださい	5時間
第６回	**自己紹介文書作成：完成・発表** ①作成した自己紹介文書をペアで読み合わせ、ブラッシュアップすることで文章表現力を強化する。 ②自己紹介文書を完成させ、お互いに発表することで良い点、改善点などを学ぶ。	当日学習したことを復習し、自 己紹介文書を作成してください。	5時間
第７回	**ソーシャルタッチポイント：未来展望セミナーレホ゜ートコンテスト①** ①未来展望セミナーの講演動画（一部視聴：最先端の知識を社会の第一線の講師から学ぶ） ②未来展望レポートコンテストへのエントリー（概要と目的の理解） ③レポート・論文「背景→主張→理由→反論・論駁→結論（主張）」までの作法を理解する。	フィードバックの結果をもとに、自身の課 題を整理しましょう	5時間
第８回	**ビジネス文書の理解：未来展望セミナーレポートコンテスト②** ①未来展望セミナーの講演動画（一部視聴：最先端の知識を社会の第一線の講師から学ぶ） ②レポート・論文の作法を踏まえた上で、ビジネス文書との差異を理解。 ③ビジネス文書（メール）の基本を理解する。 ④カバーレターの重要性の理解。社会人として必要となるビジネス文書の書き方についての実践する。	当日学習したことを復習し、自 己紹介文書をブラッシュアップしてください	5時間
第９回	**企業研究・業界研究：未来展望セミナーレポートコンテスト③** ①これまで学んだ内容を踏まえ、未来展望セミナーレポートコンテスト提出レポートの制作。 ②業界研究をどのように行えばよいか、そのポイントや具体的な方法について学ぶ。 ③未来展望レポートコンテストの進捗管理と質疑応答。	キストで当日学習したこと、および 中間レポートを復習してください。	5時間
第１０回	**現代社会と多様な社会活動、働き方の理解：未来展望セミナーレポートコンテスト④** ①ゲストを招き特別授業を開催 ②社会におけるビジネスの実情について学ぶ（ゲストスピーカーの都合により、10回授業～１２回授業での調整もある）。	当日学習したことを復習してください。	5時間
第１１回	**企業研究と職業観：未来展望セミナーレポートコンテスト⑤**	当日学習したことを復習してください。	5時間

	①個々人の職業人生とそのために今できることを学ぶ（10回授業～１２回授業でゲスト調整あり）。 ②未来展望レポートコンテストの進捗管理と質疑応答。		
第１２回	**企業研究・業界研究：未来展望セミナーレポートコンテスト⑥** ①講演内容を踏まえ、様々な業界の実情やBtoC、BtoB企業の特徴などについて学ぶ（10回授業～１２回授業でゲスト調整あり）。 ②未来展望レポートコンテストの進捗管理と質疑応答。	当日学習したことを復習してください	5時間
第１３回	**企業研究と職種研究：未来展望セミナーレポートコンテスト⑦** ①クリエイターを始めとした専門職から、事務系職種、SE、営業職、等、働く視点からキャリアを考察。 ②未来展望レポートコンテストの進捗管理と質疑応答。	当日学習したことを復習してください	5時間
第１４回	**総まとめ（研鑽）** ①講義全体の学びを踏まえた振り返り（最終学修到達度目標についての確認） ②今後の課題の設定。 ③夏休みの有意義な過ごし方に関する行動計画。 ④授業の最後に期末レポート課題の提示。	前14回講義の内容を振り返りましょう	5時間

113

授業科目名	キャリアプランニング				
担当教員名	高木玉江				
学年・コース等	3年	開講期間	前期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	障害児発達支援センターの相談員として勤務し、キャリア形成や進路についての相談援助も有する。 市役所の子育て支援課で保育園での発達相談、障がい児の保育所、幼稚園、認定こども園の障害児加配認定業務、障がい者施設認定における受給者証の認定における発達診断の業務経験を有する。（14回）				

授業概要

学生が自分の特性を見つめ直し、主体的に自身の人生設計を考えていく。キャリアの意味を理解し、仕事の意味や人生のあり方を考えていく。さらに人との関わりで創られるコミュニケーション力や社会人の基礎力のキャリアについて学修し、自己のキャリア形成について考えていく。
そして、それに向けて計画的に学習する態度を養っていくために、自己のあり方を丹念にとらえた上で、学習計画の立て方を学び、実際に計画を立ててみる。さらに、教育に携わるものとしての自己及び他者と関わりの在り方についてワークを通して理解を深めていく、これらの取り組みを通して、自己のライフコースにおけるキャリア形成の在り方を明確にする。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. 全学DP１.幅広い教養やスキル	社会人としての意識と教養を身につける	実社会で主体的に生きるために必要な知識や実行力の向上を図る姿勢を身につけていく。
2. 全学DP２.専門的知識・技能、職業理解	自己のキャリア形成について考える。	キャリアの意味を理解し、仕事の意味や人生のあり方を考えていく。
汎用的な力		
1. 全学DP６.行動・実践		目標に向かい主体性を持ち、前向きに行動することができる。
2. 全学DP８.意思疎通		他者の意見をよく聞き、自己の考えを正確に伝えることができる。
3. 全学DP５.計画・立案力		自己理解をし、キャリア形成を行い、長期的な計画を考える

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

授業へは原則としてすべて出席してください。何らかの事情で欠席する場合は、シラバスや授業内での配布資料を参照し、自学により内容を確認し、必要な課題に取り組むようにしてください。なお、資格・免許取得に必要な科目は、単位修得に必要な授業時間数が定められている場合がありますので、注意してください。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
平常点	50 %	： 授業において提示されるワークなどへの取り組みを評価します。
中間課題	30 %	： 授業内容についての理解度を評価します。
最終課題	20 %	： 自己ＰＲシートの作成 この授業を通して得た気づきを踏まえて、自己のアピールポイント、裏付けとなる具体的な行動などについて、明確化の度合いを評価します。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

川瀬正裕・松本真理子編（1997）『新・自分さがしの心理学』ナカニシヤ出版 ISBE4-88848-356-6
星野欣生　著（2003）「人間関係づくりトレーニング」金子書房　ISBN-978-4760830251

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は２単位の科目であるため、平均すると毎回４時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 初回授業時に提示する

場所： 担当者研究室

授業計画		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**オリエンテーション（人生設計とキャリア）** 自分の特性を見つめ直し、主体的に人生を設計していくために、将来希望する職業について考え、その実現のために必要な取組や課題を検討します。 キャリア教育についての理解－キャリアとはなにか　「外的キャリア」、「内的キャリア」「ライフラインチャート」	これまでの学修を振り返り、自らの課題を具体的にリストアップしておく。	4時間
第2回	**自己分析－自分の知らない自分を知ろう** 自己理解をすすめよう 「ライフラインチャート」をもとに、自己理解を進める 知らない自分を知ろう「ジョハリの窓」	「ライフラインチャート」を仕上げてくる。	4時間
第3回	**自己分析と目標設定の手法** 志望職場の特性を分析し、求められる資質や能力を明確にし、それを尺度にして自分の学力状況を分析します。一般教養、専門知識、実技技能、小論文など具体的なレベルで求められる内容や力を把握し、目標を設定した上え学修計画を作成します。	１、２年生次に取り組んだ課題や小論文など、自分の学修・学力状況を分析できる資料を整理し、課題を分析しておく	4時間
第4回	**自己理解①　現時点までの自分を知る** 自分は何に興味があるのか、自分の大切にしたい考えや、自分の能力（強みと弱み）を理解します。	自分自身について考えておく。	4時間
第5回	**自己理解②　大学で伸ばしたい力を考える** 自身が伸ばしたい得意分野、克服したい課題について考え、理解します。	復習：対人態度についてのワーク・レクチャーを通して自らの気づきを明確化する	4時間
第6回	**自己理解③　自己の将来の価値観を探る** 仕事をする上でのあなたの価値観を探り、将来どんな自分でありたいかを考える。	復習：自分自身の評価について明確化しておく	4時間
第7回	**他者と関わる自己①　ソーシャル・スキル** 対人関係、ソーシャル・スキルという観点で他者と関わる自己をとらえます。	復習：ソーシャル・スキルについてのワーク・レクチャーを通して自らの気づきを明確化する。	4時間
第8回	**他者と関わる自己②　　エゴグラム** 交流分析理論に基づくエゴグラムという観点で他者と関わる自己をとらえます。	復習：交流分析・エゴグラムについてのワーク・レクチャーを通して自らの気づきを明確化する。	4時間
第9回	**他者と関わる自己③　攻撃性とストレス** 攻撃やいじめ、家庭における暴力や虐待などの対人関係の諸問題を理解する。また、ストレス 人間関係にかかわるストレスについて理解し、ストレスに対する対処について考えます。	復習：攻撃性についてのワーク・レクチャーを通して自らの気づきを明確化する。	4時間
第10回	**職業について考える** 保育の仕事、教師、企業など職業内容、職場環境について調べる	興味のある仕事について具体的に考えておく	4時間
第11回	**コンセンサス実習** 今後経験する様々な協同作業をスムーズに行うための対処を身につける。	意見を言うルールを考えておく	4時間
第12回	**ライフコースの観点で自己を見つめる（ライフコースと子育て）** 時代の変化に伴う、伝統的性役割観のゆらぎや、ジェンダーに固定されない子育てについて考えます。	復習：ジェンダーについてのワーク・レクチャーを通して自らの気づきを明確化する。	4時間
第13回	**未来の展望について** 未来の日本、未来の世界に対する理解と自分たちが社会と積極的に関わり、将来を生き抜くために必要な知見を獲得する機会を考えます。	自分自身の未来について考える	4時間
第14回	**総括と今後学修計画の 作成** これまでのワークを通しての学びを踏まえて、今後の学修への取り組みを明確化していきます。	総括レポート：自己ＰＲシートの作成	4時間

113

授業科目名	キャリアプランニング				
担当教員名	橋本隆公・福岡亮治				
学年・コース等	3年	開講期間	前期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	橋本隆公：大阪市立小学校教諭（9年）、大阪教育大学附属小学校教諭（9年）、同主幹教諭（2年）同副校長（2年）（全14回） 福岡亮治：京都市立小学校教諭（6年）、京都市教育委員会（7年）の勤務経験（全14回）				

授業概要

学生が自分の特性を見つめ直し、主体的に自身の人生設計を考えていくために、次の課題に取り組んでいく。まず、計画的に学習する態度を養っていくために、自己のあり方を丹念にとらえた上で、学習計画の立て方を学び、実際に計画を立ててみる。次に、自分の学習計画をもとに、毎回進捗状況をチェックすると同時に、実社会において活躍していくために必要な教養やスキル等を学んでいく。これらの取り組みを通し、社会人として働くことの意義を理解し、就業意識を高めていく。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. 全学DP１.幅広い教養やスキル	社会人としての意識と教養を身につける	実社会で主体的に生きるために必要な知識や実行力の向上を図る姿勢を身につけている。
汎用的な力		
1. 全学DP６.行動・実践		目標に向かい主体性を持ち、前向きに行動することができる。
2. 全学DP８.意思疎通		他者の意見をよく聞き、自己の考えを正確に伝えることができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)

・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)

・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)

・ディベート、討論

課題や取組に対する評価・振り返り

・提出物にコメント・評価をつけて返却します

・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

授業へは原則としてすべて出席してください。何らかの事情で欠席する場合は、シラバスや授業内での配布資料を参照し、自学により内容を確認し、必要な課題に取り組むようにしてください。なお、資格・免許取得に必要な科目は、単位修得に必要な授業時間数が定められている場合がありますので、注意してください。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
小テスト	20 %	： 授業内容についての理解度を評価します。
討議・交流・発表	40 %	： 積極的な発言と論理的構成・意思疎通を図る姿勢について評価します。
期末レポート	40 %	： 内容の妥当性と論理的構成、理解の正確性について、独自のルーブリックに基づいて評価します。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

授業に於いて、適宜紹介する。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は２単位の科目であるため、平均すると毎回４時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： オフィスアワー

場所： 研究室

備考・注意事項： 授業や会議時を除いて、できる限り対応します。昼休みなどを利用して、相談時間の調整に来てください。
オフィスアワー等についての詳細は、初回の授業時に周知します。

授業計画

		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**オリエンテーション（人生設計とキャリア）** 自分の特性を見つめ直し、主体的に人生を設計していくために、将来希望する職業について考え、その実現のために必要な取組や課題を検討します。	これまでの学修を振り返り、自らの課題を具体的にリストアップしておく。	4時間
第2回	**就職活動の流れと就職までのロードマップ作成** 一般的な就職活動の流れについて理解した上で、自分の志望職業に的を絞って、就職までに必要な活動や身に付けるべき能力などを調査・分析し、就職までの準備について個々にロードマップを作成します。	受験を志望する府市の情報をインターネット等で集めて整理する	4時間
第3回	**自己分析と目標設定の手法** 志望職種の特性を分析し、求められる資質や能力を明確にし、それを尺度にして自分の学力状況を分析します。一般教養、専門知識、実技技能、小論文など具体的なレベルで求められる内容や力を把握し、目標を設定した上で学修計画を作成します。	１，２年次に取り組んだ模擬試験や小論文など、自分の学修・学力状況を分析できる資料を整理し、課題を分析しておく。	4時間
第4回	**知識の習得、定着を図る学修スキル** 一般教養、専門知識などに関する知識を習得、定着を図る学習手法について学び、これまでの経験を交流することで効果的な学習方法を検討します。個々に作成した学修計画について、進捗状況を交流し、次週までの目標を設定します。	授業を振り返り、自分に適した学習方法を決定し、カードやノートなど必要なツールを準備する。設定した学修計画に沿って、自学自修を進める。	4時間
第5回	**技能の習得、定着を図る学修スキル** 実技技能、小論文などに関する知識を習得、定着を図る学習手法について学び、これまでの経験を交流することで効果的な学習方法について考えます。	授業を振り返り、自分に適した学習方法を決定し、カードやノートなど必要なツールを 準備する。設定した学修計画に沿って、自学自修を進める。	4時間
第6回	**学修の効果を向上させるスキルの検討** 各自の学修計画に沿ったこれまでの取組を省察し、効果的であった学修スキルについて交流し、より効果的な方法を検討します。	授業を振り返り、自分の学習方法を修正、改善し、必要なツールを準備する。 設定した学修計画に沿って、自学自修を進める。	4時間
第7回	**一般教養として求められるミニマムエッセンシャルズ(言語領域)** 社会人、職業人として求められる一般教養（言語領域）内容を分析し求められるミニマムエッセンシャルズについてその特質や価値を考察し、整理します。 演習として【社会的言語コミュニケーションスキル①】を設定し、①「若者言葉」ビジネスの場や上司等目上の人に対する相応しい使い方に言い換えについて学びます。続いて【第1回問題】に取組んだ後、グループディスカッションを行い、自身の経験と結びつけて学びをまとめます。	授業で整理した内容をもとに、自分知識の獲得状況を振り返り、学修計画に生かすよう にする。設定した学修計画に沿って、自学自修を進める。	4時間
第8回	**一般教養として求められるミニマムエッセンシャルズ(社会科学領域)** 社会人、職業人として求められる一般教養（社会科学領域）内容を分析し、求められるミニマムエッセンシャルズについてその特質や価値を考察し、整理します。 演習として【社会的言語コミュニケーションスキル②】を設定し、②間違えて使ってしまいがちな「敬語」について学びます。続いて【第1回問題】に取組んだ後、グループディスカッションを行い、自身の経験と結びつけて学びをまとめます。	授業で整理した内容をもとに、自分知識の獲得状況を振り返り、学修計画に生かすようにする。設定した学修計画に沿って、自学自修を進める。	4時間
第9回	**一般教養として求められるミニマムエッセンシャルズ(自然科学領域)** 社会人、職業人として求められる一般教養（自然科学領域）の内容を分析し、求められるミニマムエッセンシャルズについてその特質や価値を考察し、整理します。 演習として【社会的言語コミュニケーションスキル②】を設定し、について学びます。続いて【第1回問題】に取組んだ後、グループディスカッションを行い、自身の経験と結びつけて学びをまとめます。	授業で整理した内容をもとに、自分知識の獲得状況を振り返り、学修計画に生かすようにする。設定した学修計画に沿って、自学自修を進める。	4時間

第10回	**教職に求められるミニマムエッセンシャルズ（教育原理・保育原理）** 教職に就く者に求められる教職教養（教育原理関連）内容を分析し、求められるミニマムエッセンシャルズについてその特質や価値を考察し、整理します。 演習として【社会的言語コミュニケーションスキル③】③意味を間違えてしまう敬語を設定し、について学びます。続いて【第1回問題】に取組んだ後、グループディスカッションを行い、自身の経験と結びつけて学びをまとめます。	授業で整理した内容をもとに、自分知識の獲得状況を振り返り、学修計画に生かすようにする。設定した学修計画に沿って、自学自修を進める。	4時間
第11回	**教職に求められるミニマムエッセンシャルズ（教育心理）** 教職に就く者に求められる教職教養（教育心理関連）内容を分析し、求められるミニマムエッセンシャルズについてその特質や価値を考察し、整理します。 演習として【社会的言語コミュニケーションスキル④】④使うと相手に失礼にあたる間違った「慣用句」を設定し、について学びます。続いて【第1回問題】に取組んだ後、グループディスカッションを行い、自身の経験と結びつけて学びをまとめます。	授業で整理した内容をもとに、自分知識の獲得状況を振り返り、学修計画に生かすようにする。設定した学修計画に沿って、自学自修を進める	4時間
第12回	**学修計画のセルフマネジメントの手法** 学修計画の実施と自己管理、自己チェックの手法を学び、自らの進捗状況を分析します。それをもとに、今後の課題と、学修計画の修正を行います。 【社会的言語コミュニケーションスキル】の①～⑤を振り返り学びをまとめます。まとめテストに取組み、自らの課題を分析します。	授業で実施した自己チェックをもとに、今後の課題をリストアップし、行動計画として再設定し今後の学修に生かすようにする。設定した学修計画に沿って、自学自修を進める。	4時間
第13回	**学修状況の評価方法** これまでに学んだ知識の定着状況を評価、判断する手法について学び、評価の観点や方法を検討します。設定した観点や基準に従って、評価問題の試案を作成します。	授業で作成した試案をもとに、自己評価を行い、自分の学修状況について文章にまとめておく。設定した学修計画に沿って、自学自修を進める。	4時間
第14回	**総括と今後学修計画の作成** 授業や自学自修として取り組んできた学修を省察し、今後の課題を明確にした上で、学修計画の修正を行います。	修正した学修計画をもとに、具体的な行動計画（目標、スケジュール、取組内容等）を作成する	4時間

113

授業科目名	キャリアプランニング				
担当教員名	鈴木克彦				
学年・コース等	3年	開講期間	前期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	知的障害、肢体不自由のある児童生徒を対象とする特別支援学校で教諭、校長を、視覚障害特別支援学校で教頭を務めた。また、教育委員会で特別支援教育行政に従事。				

授業概要

学生が自分の特性を見つめ直し、主体的に自身の人生設計を考えていくために、次の課題に取り組んでいく。まず、計画的に学修する態度を養っていくために、自己のあり方を丹念にとらえた上で、学修計画の立て方を学び、実際に計画を立ててみる。次に、自分の学修計画をもとに、毎回進捗状況をチェックすると同時に、実社会において活躍していくために必要な教養やスキル等を学んでいく。これらの取り組みを通し、社会人として働くことの意義を理解し、就業意識を高めていく。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. 全学DP１.幅広い教養やスキル	社会人としての意識と教養を身につける	実社会で主体的に生きるために必要な知識や実行力の向上を図る姿勢を身につけている。
汎用的な力		
1. 全学DP６.行動・実践		目標に向かい主体性を持ち、前向きに行動することができる。
2. 全学DP８.意思疎通		他者の意見をよく聞き、自己の考えを正確に伝えることができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)

・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)

・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)

・ディベート、討論

課題や取組に対する評価・振り返り

・提出物にコメント・評価をつけて返却します

・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

授業へは原則としてすべて出席してください。何らかの事情で欠席する場合は、シラバスや授業内での配布資料を参照し、自学により内容を確認し、必要な課題に取り組むようにしてください。なお、資格・免許取得に必要な科目は、単位修得に必要な授業時間数が定められている場合がありますので、注意してください。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
小テスト	20 %	： 授業内容についての理解度を評価します。
討議・交流・発表	40 %	： 積極的な発言と論理的構成・意思疎通を図る姿勢について評価します。
期末レポート	40 %	： 内容の妥当性と論理的構成、理解の正確性について、独自のルーブリックに基づいて評価します。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

授業中に適宜通知する。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は２単位の科目であるため、平均すると毎回４時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： オフィスアワー

場所： 研究室

備考・注意事項： オフィスアワー等についての詳細は、初回の授業時に周知します。
オフィスアワー場所は研究室（中央館５階118）

授業計画

		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**オリエンテーション（人生設計とキャリア）** 自分の特性を見つめ直し、主体的に人生を設計していくために、将来希望する職業について考え、その実現のために必要な取組や課題を検討します。	これまでの学修を振り返り、自らの課題を具体的にリストアップしておく。	4時間
第2回	**就職活動の流れと就職までのロードマップ作成** 一般的な就職活動の流れについて理解した上で、自分の志望職業に的を絞って、就職までに必要な活動や身に付けるべき能力などを調査・分析し、就職までの準備について個々にロードマップを作成します。	受験を志望する府市の情報をインターネット等で集めて整理する	4時間
第3回	**自己分析と目標設定の手法** 志望職種の特性を分析し、求められる資質や能力を明確にし、それを尺度にして自分の学力状況を分析します。一般教養、専門知識、実技技能、小論文など具体的なレベルで求められる内容や力を把握し、目標を設定した上で学修計画を作成します。	１，２年次に取り組んだ模擬試験や小論文など、自身の学修・学力状況を分析できる資料を整理し、課題を分析しておく。	4時間
第4回	**知識の習得、定着を図る学修スキル** 一般教養、専門知識などに関する知識を習得、定着を図る学修方法について学び、これまでの経験を交流することで効果的な方法を検討します。個々で作成した学修計画について、進捗状況を交流し、次週までの目標を設定します。	授業を振り返り、自身に適した学習方法を決定し、カードやノートなど必要なツールを準備する。設定した学修計画に沿って、自学自修を進める。	4時間
第5回	**技能の習得、定着を図る学修スキル** 実技技能、小論文などに関する知識を習得、定着を図る学習手法について学び、これまでの経験を交流することで効果的な学習方法について考えます。	授業を振り返り、自身に適した学修方法を決定し、カードやノートなど必要なツールを 準備する。設定した学修計画に沿って、自学自修を進める。	4時間
第6回	**学修の効果を向上させるスキルの検討** 各自の学修計画に沿ったこれまでの取組を省察し、効果的であった学修スキルについて交流し、より効果的な方法を検討します。	授業を振り返り、自身の学修方法を修正、改善し、必要なツールを準備する。 設定した学修計画に沿って、自学自修を進める。	4時間
第7回	**一般教養として求められるミニマムエッセンシャルズ(言語領域)** 社会人、職業人として求められる一般教養（言語領域）内容を分析し求められるミニマムエッセンシャルズについてその特質や価値を考察し、整理します。	授業で整理した内容をもとに、自身の知識の獲得状況を振り返り、学修計画に生かすよう にする。設定した学修計画に沿って、自学自修を進める。	4時間
第8回	**一般教養として求められるミニマムエッセンシャルズ(社会科学領域)** 社会人、職業人として求められる一般教養（社会科学領域）内容を分析し、求められるミニマムエッセンシャルズについてその特質や価値を考察し、整理します。	授業で整理した内容をもとに、自身の知識の獲得状況を振り返り、学修計画に生かすようにする。設定した学修計画に沿って、自学自修を進める。	4時間
第9回	**一般教養として求められるミニマムエッセンシャルズ(自然科学領域)** 社会人、職業人として求められる一般教養（自然科学領域）の内容を分析し、求められるミニマムエッセンシャルズについてその特質や価値を考察し、整理します。	授業で整理した内容をもとに、自身の知識の獲得状況を振り返り、学修計画に生かすようにする。設定した学修計画に沿って、自学自修を進める。	4時間
第10回	**教職に求められるミニマムエッセンシャルズ（教育原理・保育原理）** 教職に就く者に求められる教職教養（教育原理関連）内容を分析し、求められるミニマムエッセンシャルズについてその特質や価値を考察し、整理します。	授業で整理した内容をもとに、自身の知識の獲得状況を振り返り、学修計画に生かすようにする。設定した学修計画に沿って、自学自修を進める。	4時間
第11回	**教職に求められるミニマムエッセンシャルズ（教育心理）** 教職に就く者に求められる教職教養（教育心理関連）内容を分析し、求められるミニマムエッセンシャルズについてその特質や価値を考察し、整理します。	授業で整理した内容をもとに、自身の知識の獲得状況を振り返り、学修計画に生かすようにする。設定した学修計画に沿って、自学自修を進める	4時間

第12回	**教職に求められるミニマムエッセンシャルズ（その他）** 教職・保育職に求められる専門的な知識等について、試験問題や募集要項等を分析し、ミニマムエッセンシャルズについてその特質や価値を考察し、整理します。	授業で整理した内容をもとに、自身の知識の獲得状況を振り返り、学修計画に生かすようにする。設定した学修計画に沿って、自学自修を進める。	4時間
第13回	**学修計画のセルフマネジメントの手法** 学修計画の実施と自己管理、自己チェックの手法を学び、自らの進捗状況を分析します。それをもとに、今後の課題と、学修計画の修正を行います。	授業で実施した自己チェックをもとに、今後の課題をリストアップし、行動計画として再設定し今後の学修に生かすようにする。設定した学修計画に沿って、自学自修を進める。	4時間
第14回	**学修状況の評価方法と今後の学習計画の作成** これまでに学んだ知識の定着状況を評価、判断する手法について学び、評価の観点や方法を検討します。設定した観点や基準に従って、評価問題の試案を作成します。また、授業や自学自修として取り組んできた学修を省察し、今後の課題を明確にした上で、学修計画の修正を行います。	修正した学修計画をもとに、具体的な行動計画を作成する	4時間

授業科目名	キャリアプランニング				
担当教員名	笠原秀一・杉山一成・佐々木博史				
学年・コース等	2年	開講期間	後期	単位数	2
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	笠原:通信事業者での経営企画、事業開発、法人営業、管理会計などバックオフィス業務全般。大学の研究成果還元型AIベンチャーの会社設立および継続に関わる業務全般。 杉山:民間企業にて、ネットワークの構築、各社データベースや検索エンジンのアーキテクチャに関する調査、情報検索に関する基礎研究、を担当した経験がある。 佐々木:大学の情報センター教員として、全学の情報ネットワークシステムの構築,教育・研究用コンピュータシステムの構築を通し、全学からの意見・要望を汲み上げながら稼働開始までの調整,稼働後も担当者として運用した経験がある。				

授業概要

本授業では、データサイエンスを修めた者としてのキャリアプランニングに必要な知識と能力を身につける。キャリアを築くのに必要なスキルと知識を学び、実際に社会で活躍しているエンジニアやデータサイエンティストの話を聞く機会を通じ、自らの将来をプランニングする能力を身につける。

具体的には、キャリアプランニングを行う上で必要となる、自己分析の手法、キャリアパスの知識、情報収集の手法などのスキルを身につける。

目標は、自ら進むべき職業を選び、主体的にキャリア形成に取り組むことができるように、必要な知識を身につけることである。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. 全学DP２.専門的知識・技能、職業理解	データサイエンス人材の職業理解	講演などを通じて、データサイエンス人材とは何かを理解する。
汎用的な力		
1. 全学DP６.行動・実践		キャリアプラン作成に必要な情報収集や自己分析を実践する。
2. 全学DP７.完遂		自分の将来のキャリアプランを最後まで完成させる。
3. 全学DP８.意思疎通		講演やペアワーク、グループワークを通じて、他者との意思疎通を学ぶ。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
・問答法・コメントを求める
・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

授業へは原則としてすべて出席してください。何らかの事情で欠席する場合は、シラバスや授業内での配布資料を参照し、自学により内容を確認し、必要な課題に取り組むようにしてください。なお、資格・免許取得に必要な科目は、単位修得に必要な授業時間数が定められている場合がありますので、注意してください。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
授業中の提出物	30 %	： 講義で説明した、自己分析手法に対する理解度を評価します。
中間レポート	40 %	： 講義で説明した、自己分析の手法、キャリアパスの知識、情報収集手法が理解できているかを評価します。
期末レポート	30 %	： 講義で説明した、自己分析の手法、キャリアパスの知識、情報収集手法の理解度、及び、それらの知識が、自己のキャリアパス設計に活用できているかを評価します。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

特に指定しない

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

備考・注意事項：　オフィスアワーを活用してください。

授業計画

		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**ガイダンス、授業の目的と概要** 授業の目的と進め方についてガイダンスを行います。	自身の職業キャリア、希望する業種・企業について事前に考えて下さい。	4時間
第2回	**自己分析** 自分の能力、性格について分析し、優れている点、そうでない点を客観的に理解します。	自己分析結果をまとめておいてください。	4時間
第3回	**社会人へのステップ** 企業の採用プロセス、企業が求める人材像について、キャリアパスとその構築についても学びます。また、就職やキャリア形成に必要な情報収集の方法を学びます。	講義で扱った情報収集の方法を用いて、企業やキャリアパスを調べて下さい。	4時間
第4回	**企業・職種・業界研究（1）** 今後の職業キャリアを考え、その実現のために何が出来るかを学びます。また、前回の講義を踏まえ、キャリアパスについて振り返ります。	講義内容を踏まえ、これまで考えた自分のキャリアパスを見直してみてください。	4時間
第5回	**特別講義(1)技術分野以外でのデータ活用** 営業やバックオフィスなどの分野でデータを扱うデータユーザーを招いて特別講義を開催し、仕事とキャリアパス形成について学びます。	外部講師による講演内容をレポートとしてまとめて提出してください。	4時間
第6回	**データサイエンス職種概観（1）** ハードウェアやアプリケーションを中心とした情報システム分野について、これまでの発展と、今後の展望を概観するとともに、どのような職種や役割があるかについて紹介する。	興味を持った内容については、文献やWebページなどで調べ、知識を深めてください。	4時間
第7回	**データサイエンス職種概観（2）** ネットワークを中心とした情報通信分野について、これまでの発展と、今後の展望を概観するとともに、どのような職種や役割があるかについて紹介する。	興味を持った内容については、文献やWebページなどで調べ、知識を深めてください。	4時間
第8回	**データサイエンス職種概観（3）** 大学におけるAI・データサイエンス研究について、国内外の動向を概観する。	日本国内のみならず、海外の動向についても注目するきっかけとし、興味を持った内容については、文献やWebページなどで調べ、知識を深めてください。	4時間
第9回	**特別講義(2) データサイエンティスト** 情報通信、または情報システム分野で活躍されているデータサイエンティストを招いて特別講義を開催し、講演者がこれまでに従事してきた職務について学ぶ。	外部講師による講演内容とその感想を、レポートとして提出してください。	4時間
第10回	**企業・職種・業界研究（2）** 第6～8回の内容を復習するとともに、第9回の講演者を具体例として、その職種に就くために必要な技能や能力などについてまとめる。	第6～8回の講義と第9回の特別講義の内容に基づいて、これまでに考えた自分の将来像や、今後身につけたい能力について、レポートを提出してください。	4時間
第11回	**特別講義(3) 大規模データを扱う情報システム開発** 大規模データを扱う情報システム開発に携わるデータユーザーを招いて特別講義を開催し、仕事とキャリアパス形成について学びます。	外部講師による講演内容をレポートとしてまとめて提出してください。	4時間
第12回	**企業・職種・業界研究(3)** 実際のシステム導入事例を示しながら、様々な利用者からの意見を汲み上げ、必要な機能を精査し、システムとして形作る、情報システム開発の初歩について学びます。	講義内容を踏まえ、具体的な職種や業種を想定しながら自分のキャリアパスについて考えてください。	4時間

第13回	**自己紹介の振り返り** これまでに作成した自己紹介文とキャリアパスについて、振り返り考察し、自己についての理解を深めます。その理解の元、就職活動などに用いる文章をどう書くかを学びます。	自己紹介の文章を見直し・修正してください。修正した自己紹介文とプレゼンテーションをレポートとして提出してください。	4時間
第14回	**まとめ** 講義全体を踏まえて、就職・キャリアパス形成と今後の課題を設定します。	講義全体を振り返りましょう。当日伝える最終レポートの課題を〆切までに提出してください。	4時間

114

授業科目名	仕事とキャリア演習				
担当教員名	東出加奈子・島雅則・福長久美子				
学年・コース等	4年	開講期間	前期	単位数	2
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の概要					

授業概要

人生のキャリアデザインの形成に向けて、未来のグランドビジョンを考えます。多様な価値観が存在する社会環境のなかで、自己実現に向けた能力の修得、目標の設定、行動計画を立て、自己管理について考えます。ゲストスピーカーによる特別講義も取り入れ、授業を通して自身の個性を最大限に活かすうえで、積極性かつ自主性が発揮できるよう、社会的にも職業的にも自立したキャリア形成を目指します。
＊特別講義の回が変更になる場合があります。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. 全学DP２.専門的知識・技能、職業理解	ビジネススキルの実践力を身に付ける。	社会人に求められるコミュニケーション、基礎的能力を身につけることができる。
2. 全学DP１.幅広い教養やスキル	自己実現に向けた将来の目標設定をたてる。	卒業後のキャリア形成とライフスタイルのビジョンをイメージできる。
汎用的な力		
1. 全学DP６.行動・実践		企業や学外の人と積極的に関わることができる。
2. 全学DP８.意思疎通		言語・非言語のコミュニケーションスキルを向上することができる。
3. 全学DP９.役割理解・連携行動		チームやグループの活動における役割を果たすことができる。
4. 全学DP10.忠恕の心		道徳と思いやりを持ち、真剣に取り組む姿勢を身につけることができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
・シミュレーション型学習(ロールプレイ、ゲーム型学習など)

課題や取組に対する評価・振り返り

・提出物にコメント・評価をつけて返却します
・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

授業へは原則としてすべて出席してください。何らかの事情で欠席する場合は、シラバスや授業内での配布資料を参照し、自学により内容を確認し、必要な課題に取り組むようにしてください。なお、資格・免許取得に必要な科目は、単位修得に必要な授業時間数が定められている場合がありますので、注意してください。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
授業内の提出物	44 %	： 内容の妥当性と論理的構成について、独自の見解で事例を示すなどで論じられているかどうか評価します。
特別講義の提出物	16 %	： 内容の妥当性と論理的構成について、独自の見解で事例を示すなどで論じられているかどうか評価します。
期末試験課題	40 %	： 社会人に必要なビジネススキルの修得に基づき評価します。 授業で学んだことに関する理解度を評価します。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

大阪成蹊大学『PLACEMENT GUIDE 2026　就職ガイドブック』2024年5月。
その他、授業内で適宜紹介する。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は２単位の科目であるため、平均すると毎回４時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： いつでもClassroom のGmailにて

場所： Classroom・研究室・授業後

備考・注意事項： 東出：個人研究室（西館4階）：水曜日2時限
島　：個人研究室（西館2階）：水曜日2時限
福長：授業の前後
いずれの教員にも相談可能です。

授業計画

		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**オリエンテーション・生涯キャリアを考える** 仕事とキャリア演習の授業の進め方についてガイダンスを行います。 春休みを振り返り、生涯を通したキャリアデザインの必要性と意義を確認します。	キャリアに関する情報を整理し将来の目標をたててください	4時間
第2回	**キャリアと職業観について** 職業や仕事とはどのようなもので、何のためにどんな仕事をしたいのかという自分の価値観を確認し、５年後・10年後の目標を考えます。	卒業後のライフワークバランスについて調べて考えてください	4時間
第3回	**自身のキャリア観を再点検する** ワークライフバランスを重視し、楽しく働きたい、そして転職が当たり前になった令和の就労観が、皆さんのこれからのキャリア形成に与える影響について理解を深めながら、就活の早期化と離職率の現状と課題についても考えます。	自身のライフプランニングを確認してください	4時間
第4回	**社会の変化における業界・企業研究** AIやITが進む社会の変化において、社会を理解します。 志望企業の理解と取引先やサプライチェーンなど、業界について確認します。 業界への関心を高め、企業内の職種や求められるスキルについて理解します。	志望する業界について情報を整理してください自身の資格やスキルについて考えてください	4時間
第5回	**労働基準法・社会保険と税金** 労働基準法を理解して働き方を考えます。 社会保障制度における社会保険を理解します。 税金の基礎知識を学び、給与のしくみについて理解します。	企業における法律と規則について確認してください	4時間
第6回	**アサーティブ・コミュニケーション** 社会における協調性と自己主張のコミュニケーション手法を考えます。 グループワークを通して、社会で活かせる言葉や文章のコミュニケーションを確認します。	ワークシートに取り組んでください	4時間
第7回	**エンプロイアビリティ** SWOT分析を行い、自身の強みを把握します。分析を振り返り自己を理解し、将来のキャリアの可能性を考えます。 エンプロイアビリティのチェックシートによる社会人として必要なスキルを確認します。ケーススタディを通してビジネスでの実践を学び、エンプロイアビリティを高めていきます。	チェックシートに取り組んでください	4時間
第8回	**コンピテンシー** コンピテンシー理論によるケーススタディを通してビジネスでの実践を学びます。職種や職務などによって求められるコンピテンシーを理解します。	自身のコンピテンシーを振り返り確認してください	4時間
第9回	**特別講義①　仕事の実践** 企業がどのような人材を求めているのか、新入社員に期待されることは何かについて学びます。 ゲストスピーカーをお招きして皆さんの卒業後に役立つ内容について講義していただきます。	業種・職種の理解を深めてください	4時間
第10回	**仕事の実践演習** 企業のコンプライアンス、倫理について理解します。 実践例を通して社会人に向けての準備について考えます。	自身のビジネスワークを考えてください	4時間
第11回	**社会人として求められるコミュニケーション** ケーススタディを交えながら社会人として求められるコミュニケーションスキルについて学びます。企業における報連相の重要性、コミュニケーションツールの種類と注意点についても理解します。	自身のコミュニケーション力を確認してください	4時間

第12回	**特別講義②　ライフデザインと資金計画** 企業の方をお招きします。ファイナンシャルプランナーの講師による、金融の知識とライフデザインを考えます。卒業後の自身の資金計画をたて、ライフプランニングがシミュレーションできるように知識を深めます。	生涯を通して資金計画をたててください	4時間
第13回	**社会人になるにあたって** 実務家教員による社会で必要なスキルについて学修します。 卒業後の自身の目標や仕事をする目的などを考えるうえでの知識を深め、自身が目指す社会人像を考えます。	卒業後のビジョンを確認してください	4時間
第14回	**卒業後のキャリアを考える・授業のまとめ** 卒業後のキャリアビジョンを考えます。 授業全体を通して、自立した社会人になるために、仕事で実践する力、協働できる素養が修得できたかどうか、振り返ります。	復習と振り返りを行ってください	4時間

114

授業科目名	仕事とキャリア演習				
担当教員名	荒木俊之・田原卓哉・丸朋子・山本弘和				
学年・コース等	2年	開講期間	後期	単位数	2
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の概要					

授業概要

この授業では、自身のキャリアプランニングの為に必要な知識と能力を身につけます。AIに代表されるように、社会が大きく変化する中、「何のために働くのか」仕事観と働き方の変化を概観したうえで、自らの強み弱みを理解し、将来へのビジョンを描きます。その他、企業の選考プロセスなどを学びつつ、企業人の話を聞く機会の活用など、将来に必要な実践的なスキルを身につけます。社会人として必要な、知識、教養、働き方を学び、自ら目標設定を行ったうえで、3年生からの具体的なキャリアの検討に結びつけることを目指します。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. 全学DP１.幅広い教養やスキル	自己分析による強み弱みの理解、キャリアデザインの考え方、情報収集力、業界研究などスキルを身につける。	自ら進むべき業界を選び、就業選考に前向きに取り組めるようになる。

汎用的な力	
1. 全学DP４.課題発見	社会環境の変化や自分の価値観、自らの強み弱みを理解し、啓発課題をつかむ。
2. 全学DP５.計画・立案力	企業選考プロセスを学び、具体的なアクションプランを策定する。
3. 全学DP６.行動・実践	業界研究などに取り組み、主体的にアクションプランを考え実践する。
4. 全学DP８.意思疎通	教員やゲストスピーカーとの質疑応答など双方向コミュニケーションを図る。
5. 全学DP10.忠恕の心	誠実で思いやりのある人、周囲から頼りにされる人になることを目指す。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)

・問答法・コメントを求める

・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)

・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

・実技・実習後、全体に向けてコメントします

・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

授業へは原則としてすべて出席してください。何らかの事情で欠席する場合は、シラバスや授業内での配布資料を参照し、自学により内容を確認し、必要な課題に取り組むようにしてください。なお、資格・免許取得に必要な科目は、単位修得に必要な授業時間数が定められている場合がありますので、注意してください。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
授業中のワーク	30 %	： 授業に継続的に参加し積極的に課題（ワーク）に取り組めているかどうかを評価します。
授業レポート	50 %	： 授業内容を踏まえ、独自の見解や今後の取り組みなど定められた文字数で具体的に論述できているかどうかを評価します。
中間レポート	10 %	： 授業で学んだことに関して理解できているかを評価します。
期末レポート		： 授業で学んだことに関して理解できているかを評価します。

10　%

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

適宜紹介します。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習すること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 各教員のオフィスアワー

場所： 西館3階ほか

備考・注意事項： 担当教員のオフィスアワーは、初回講義に発表する。

授業計画

		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**ガイダンスおよびキャリアプランニングに関する総論** 授業の目的と進め方についてガイダンスを行います。また、現在の就職活動事情と今後のスケジュールについて、具体的なイメージを形成します。	自信の年間計画と残りの大学生活、その後のキャリアについて、大雑把なスケジュールを確認したうえで、計画を検討する。	4時間
第2回	**社会環境変化と職業：雇用形態の多様化を考える** AIに代表されるように、社会環境の変化、雇用形態の多様化を理解し、フリーター・ニートになる厳しさや非正規雇用の拡大を理解します。	社会環境の変化や日本の雇用形態の変化を調べ、基本的な知識を定着させる。	4時間
第3回	**何のために働くのか：仕事観と働き方の変化** 自分が仕事をしている姿を想像し、家庭や趣味などをどのようにバランスを取りたいか、自分の価値観と絡めて仕事について考えます。	自分が何のために働くかを、自分の価値観と絡めて考える。	4時間
第4回	**キャリアデザインに関する理論** 自分自身の人生設計やキャリア形成を考える前提として、キャリアデザインに関する理論についての理解を深めます。	キャリアデザインに関する理論について調べ、基本的な知識を定着させる	4時間
第5回	**キャリアデザインに関する実践** 第4回授業で学修したキャリアデザインに関する理論について、ワークを通じて実践し、学修の定着を図る。	授業で実践したワークを、自ら繰り返し行う	4時間
第6回	**採用人事のプロセス** 企業の採用人事プロセスにおいて、就職希望者に求める知識や能力について学び、理解を深めます。また、採用試験で求められる知識がビジネスの現場でどのように生かされているのかを学びます。	企業の実際の人事採用プロセスについて調べ、基本的な知識を定着させる。	4時間
第7回	**情報収集力を高めよう** 就職情報ツールの活用方法を学び、自分自身のキャリアを検討するために必要な情報収集力の獲得と、キャリアを選択する際の注意点などについて学びます。	各種就活情報ツールへ登録し、各機能について理解し、慣れる。	4時間
第8回	**業種と職種を理解しよう：基礎知識の理解** 業種および職種に関する基本的な知識を学び、キャリアを選択するうえでの基本事項をおさえます。	業種と職種の違いを理解できるように講義内容の予習復習を行う。	4時間
第9回	**業種と職種を理解しよう：特別講義** ゲストスピーカー（企業人）を招いて特別授業を開催し、業種と職種に関する具体的なケースを学びます。	ゲストスピーカーに関連する企業ならびに業界について理解する	4時間
第10回	**業種と職種を理解しよう：まとめ** 業種および職種について理解してきた事項を整理します。	特別講義の内容を振り返り、業界や職種について理解を深化させる。	4時間
第11回	**自分自身を理解しよう：適性検査等にチャレンジ** 適性検査等を受け、自己の強みと弱みの把握します。	適性検査の意義や活用方法について理解を深める。	4時間
第12回	**自分自身を理解しよう：自身の過去を振り返る** 将来のキャリアプランを設計するために、まずは自分自身の過去を振り返ることで自身のキャリアや特性を理解します。	自分自身の過去を振り返り、具体的なエピソードを言語化する。	4時間
第13回	**自分自身を理解しよう：適性検査等を踏まえた分析**	自己の長所と短所について、具体的に表現できるようになる。	4時間

	専門家からのフィードバックと適性検査等の結果の考察から、自らの長所と短所、アピール可能な点について整理します。		
第14回	**まとめ** 講義全体の学びを踏まえて、今後の課題を設定します。夏休みの有意義な過ごし方についても考えます。授業の最後に期末レポートの課題を提示します。	講義全体を振り返り、キャリアを計画するうえで取り組むべきことについて自身の言葉で説明できるようにする。	4時間

授業科目名	**仕事とキャリア演習**				
担当教員名	三津留ゆう・仲村学・伊藤俊輔・浅田伸・桐原一史・姜尚均・成清北斗・根津武彦・川上須賀代				
学年・コース等	4年	開講期間	前期	単位数	2
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	石田直美：アナウンス業務、司会業（20年） 福本 章：営業管理・人事労務管理・経営企画・組織開発(25年)				

授業概要

人生を有意義に行動するための基盤となる学修です。社会で実践力を身に付け、社会で活躍できる人材としての能力を身に付けます。授業を通し、内定先企業、あるいは興味のある企業や業界を想定したSDGsの目標達成案を実現するプランニングを行います。そのために、ソーシャルタッチポイントを推進し、業界・企業研究、OB・OGとの交流を積極的に行い、実践的な活動を授業を推進します。また、外部からゲストを招き、企業人として、取り組んできた仕事や、転機となった経験談等から学ぶことで、働き方・生き方について考える機会も作ります。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. 全学DP２.専門的知識・技能、職業理解	企業・業界、職業についての理解	業界の方向性、問題点、改善点を考察し、自身の置かれている内的環境と、外的な環境の分析を可能とする知見を備えている。
2. 全学DP３.専門的知識・技能を実践で応用する力	社会で活躍できる人材になるための素養	単に就職し、社会人になるのではなく、主体的に物事に取組み、困難な課題に対しても諦めることなく、最後までやり遂げることが出来る人材となっている。
汎用的な力		
1. 全学DP５.計画・立案力		専門的知識と技能に関し、アウトプットしていくための意思と技能を有し、その行動計画を立案できる。
2. 全学DP６.行動・実践		自身の知識と技能を効果的に発揮し、実践していくことが出来る行動力を備えている。
3. 全学DP８.意思疎通		双方向の意思疎通を通しソーシャル・タッチポイントの目標を達成している。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)

・実験、実技、実習

・問答法・コメントを求める

・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)

・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)

・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)

・ディベート、討論

「マッキンゼー流入社１年目の問題解決の教科書」（著）大島祥誉、SBクリエイティブ。
「論理的思考力を鍛える33の思考実験」（著）北村良子、彩図社。
「MBA生産性をあげる100の基本」（著）グロービス・（執筆）嶋田毅、東洋経済新報社。
「アクティブラーニングで学ぶキャリアデザイン就活編」（著）福本章・佐々木公之、学術研究出版。

課題や取組に対する評価・振り返り

・実習や実技に対して個別にコメントします

・実技・実習後、全体に向けてコメントします

・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

「マッキンゼー流入社１年目　問題解決の教科書」（著）大嶋祥誉、SBクリエイティブ。
「論理的思考力を鍛える33の思考実験」（著）北村良子、新図社。
「MBA生産性をあげる100の基本」（著）グロービス・（執筆）嶋田毅、東洋経済新報社。

成績評価

注意事項等

授業へは原則としてすべて出席してください。何らかの事情で欠席する場合は、シラバスや授業内での配布資料を参照し、自学により内容を確認し、必要な課題に取り組むようにしてください。なお、資格・免許取得に必要な科目は、単位修得に必要な授業時間数が定められている場合がありますので、注意してください。

成績評価の方法・評価の割合　　**評価の基準**

授業への積極的参加 30 %	:	演習への積極的参加、発表や質問する姿勢、適切な答えなどを総合的に評価する。
課題レポート（中間） 10 %	:	内定企業（就活中：志望企業・志望業界）に関し、SDGsを踏まえ、持続可能な開発目標プロモーション案をまとめる。
振り返りシート（取組姿勢・理解度） 40 %	:	随時提出するリフレクションシート（振り返り）の内容、と付随する提出物の内容から評価する。
最終レポート（期末） 20 %	:	授業内容を踏まえた理解度を基準に評価する。回答に独自の視点からの展開があることで加点項目とする。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

「マッキンゼー流入社１年目の問題解決の教科書」（著）大島祥誉、SBクリエイティブ。
「論理的思考力を鍛える33の思考実験」（著）北村良子、彩図社。
「創造社会の都市と農村ーSDGsへの文化政策」（総監修）佐々木雅之幸、水曜社

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は２単位の科目であるため、平均すると毎回5時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 水曜日11：00〜12：00

場所： 南館研究室

備考・注意事項： 各コースより、初回授業にて提示します。

授業計画		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**オリエンテーション** ①講座の目的を理解します。 ②就職活動の流れを鑑み、授業の進行と併せて行動計画を立てます。 ③学修達成度目標の説明	就職戦線における本科目が担う役割を明確にし、自身の目標を具現化するための行動計画を立ててください。	5時間
第2回	**SDGsの理解** ①17の目標と169のターゲットを理解します。 ②個人ワーク、グループワーク ③第13回〜14回目に企画案を発表する授業計画を共有します。	SDGsを踏まえ、企業、業界の情報を収集し、アプローチの為の行動計画を立てましょう。	5時間
第3回	**持続可能な社会へ向けた事例研究** ①国家の立場、行政の立場からSDGsの達成へ向けて活動を理解します。 ②産業界・企業の立場から事例を研究していきます。 ③個人ワーク、グループワーク	SDGsを踏まえ、自身の就職活動、就職先企業に関する情報を整理する。	5時間
第4回	**SCAMPER法から商品開発** ①SCAMPER法を活用し、論理的な視点からSDGsを踏まえた商品開発をしてみます。 ②個人ワーク、グループワーク	SDGsを踏まえ、就職セミナーや企業説明会への参加　就職先企業の情報を整理する。	5時間
第5回	**企業・業界研究（SDGsの深化）** ①SDGsの視点から内定企業の研究（志望企業・志望業界研究）を行います。 ②SDGsを踏まえ、持続可能な開発目標の考察をします。 ③個人ワーク、グループワーク	SDGsを踏まえ、就職セミナーや企業説明会への参加　就職先企業の情報を整理する。	5時間
第6回	**SDGsビジネスモデル** ①SDGsを関連付けた持続可能な開発目標に関する企画案の作成に取り掛かります。 ②個人ワーク、グループワーク	SDGsと身の周りの社会問題を照らし合わせ理解を深めてください。	5時間
第7回	**企業・業界研究（SDGsの目標設定）** ①情報を収集し、持続可能な開発目標と内定先、および志望業界の研究を行います。 ②SDGsの視点から世の中の短な課題を考えていきます。 ③学修達成度目標進捗確認	SDGsと志望業界を取り巻く課題を照らし合わせ理解を深めてください。	5時間
第8回	**コンピテンシーの理解とケーススタディ**	授業の復習と、就職セミナーや企業説明会への参加　就職先企業の情報を整理する。	5時間

	①コンピテンシーを理解します。 ②就職活動における成功と社会人としての成功を考えます。 ③高業績者の行動特性に関し、深掘りしコンピテンシーの理解を深めます。 ④就職試験および、社員研修で実施される実践演習にも取り組みます。		
第9回	**学生と社会人の意識の違い（ケーススタデイ）** ①社会人に求められる9つの意識を理解します。 ②9つの意識についてのケーススタデイを行います。 ③就職希望先、就業内定企業について理解を深めます。 ④企業勤務の経験者から、社会人に求められる能力を理解します。 ⑤学生と社会人の違いについて個人で考え、グループワークを行います。	社会人としての行動について実践できるところから始めてみましょう。	5時間
第10回	**SWOT分析の理解とSDGs** ①企業や組織で利用されるSWOT分析を理解します。 ②SDGsの視点から企業と業界の研究を行います。	SDGsの企画案を提出するための関連付けを行ってください。	5時間
第11回	**SWOT分析（個人目標設定）** ①個人のSWOT分析を行います。 ①SWOT分析による自己分析と自己理解を深めていきます。 ②自身のキャリアに関する目標設定を行います。	社会人として活躍するための自身の課題を明確にしてください。	5時間
第12回	**ライフプランニングと資金計画** ①社会や企業、個人のお金の流れについて理解します。 ②給与の仕組みについて知識を深めます。 ③社会保険と税金について学びます。 ④社会や企業、個人のお金の流れについて理解した上で、自身の資金計画を立てます。 ⑤ライフプランニングがシミュレーションできるように知識を深めます。	SDGsの企画案を提出するための関連付けを行ってください。	5時間
第13回	**SDGs：持続可能な開発目標案発表（代表者）** ①チーム内から選出された代表者の発表の場とします。 ②情報共有（背景の理解、課題の理解、解決案の理解）を行います。 ③相互評価（ルーブリック）を行います。	授業の復習としての振り返りと、授業時間外での行動の変革を行ってください。	5時間
第14回	**総括・振り返り** ①目標設定の行動計画を作成します。 ②本授業が終了した後の行動計画とキャリアビジョンを描きます。 ③最終学修達成度評価確認	授業終了後がスタートのつもりでキャリアビジョンを現実のものにしてください。	5時間

114

授業科目名	**仕事とキャリア演習**				
担当教員名	橋本隆公・辻村敬三				
学年・コース等	4年	開講期間	前期	単位数	2
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	・教育現場で教育課題等についての計画・改善を推進する。また、教育委員会で教育行政についても経験を深める。（辻村）（全14回）・独立大学法人大阪教育大学附属小学校で先導的な授業研究、学校マネジメントに取り組む。（橋本）（全14回）				

授業概要

小学校教員として必要な資質・能力を身につけるために、次の課題に取り組んでいく。まず、今日の小学校教員に求められる資質・能力の内容について調査し、自身の今後の課題を見出す。次にその課題をテーマに、小集団による討論を通してコミュニケーション・スキルの向上を図る。また、担当教員の講義から最近の教育課題（いじめ、体罰、保護者対応等）について知識を蓄え、さらにその教育課題をテーマとした討論によって理解を深めていく。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. 全学DP２.専門的知識・技能、職業理解	小学校現場で起きている様々な事象に対する考察	教育を取り巻く諸課題を学ぶことで、教職に関する専門的な見識を得ることができる。
2. 全学DP３.専門的知識・技能を実践で応用する力	模擬授業演習　グループディスカッション	課題解決に向けた自らの考えについて発信し、ディスカッションを通して深めることができる。
汎用的な力		
1. 全学DP４.課題発見		様々な資料及び事例から教育に関わる課題をとらえ、考察することができる。
2. 全学DP６.行動・実践		教員に求められる資質・能力を理解し、その力を演習やディスカッションで実践できる。
3. 全学DP10.忠恕の心		教育に関する議論等に真摯に向き合い、誠実な態度で相手と理解し合うことができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)

・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)

・シミュレーション型学習(ロールプレイ、ゲーム型学習など)

課題や取組に対する評価・振り返り

・実習や実技に対して個別にコメントします

・提出物にコメント・評価をつけて返却します

成績評価

注意事項等

授業へは原則としてすべて出席してください。何らかの事情で欠席する場合は、シラバスや授業内での配布資料を参照し、自学により内容を確認し、必要な課題に取り組むようにしてください。なお、資格・免許取得に必要な科目は、単位修得に必要な授業時間数が定められている場合がありますので、注意してください。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
授業への参加状況	40 %	： 各回で出される課題やレポートについて適切に対応、答えられているか、また、教員からの質問に対して適切に答えられているか。
ロールプレイングや面談への参加状況	50 %	： 各回で出題される課題や面談の状況、ロールプレイングの様子、他の人の対応の様子などを見てのコメントが適切に出来るかなど。
期末レポート	10 %	： 各回で出される課題やレポートについて総括するレポートで、小学校現場で起因している様々な事象に対する考察が出来るかなど。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

適宜参考資料を配布する。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：　教員ごとに異なる

場所：　各研究室

備考・注意事項：　第1回の情業の際に詳細を伝える。

授業計画		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第１回	**オリエンテーション：小学校教員として必要な資質・能力を経験をもとにした考察** 今日の小学校教員に求められる資質・能力の内容について、調査し、これまでの学校体験活動や教育実習の経験から、考えられることを書き出し、グループディスカッションを通して整理し、調査に向けた見通しを持ちます。新聞、インターネット、書籍、その他の資料から必要な情報を収集する方法を確認し、計画を立てます。	本講義を見通した自分自身の課題をまとめる。	4時間
第２回	**調査資料をもとにしたディスカッション（小学校教員として必要な資質・能力）** 入手した資料をグループで分類整理して考察し、資料に基づいたディスカッションを行い、コミュニケーションスキルの向上を図ります。その結果をまとめ、プレゼンテーションの準備をします。	事前ワークに取り組む、学修中に出た課題への取り組み。	4時間
第３回	**プレゼンテーション（小学校教員として必要な資質・能力）** 前時までの授業で整理した「小学校教員として必要な資質・能力」や、本学の建学の精神、教育学部のアカデミックスキルなどに照らして、自分自身の特性や資質を振り返り、自らの“強みと課題”を明らかにします。それに基づいて、３分程度の自己アピールスピーチの準備をします。	事前ワークに取り組む、学修中に出た課題への取り組み。	4時間
第４回	**スピーチ「小学校教員としての私の“強みと課題”」の作成** 前時までの授業で整理した「小学校教員として必要な資質・能力」や、本学の建学の精神、教育学部のアカデミックスキルなどに照らして、自分自身の特性や資質を振り返り、自らの“強みと課題”を明らかにします。それに基づいて、３分程度の自己アピールスピーチの準備をします。	事前ワークに取り組む、学修中に出た課題への取り組み。	4時間
第５回	**スピーチ「小学校教員としての私の“強みと課題”」の実施** グループ内でスピーチを発表し、相互批評を通してブラッシュアップし、プレゼンテーション力の向上を図ります。	グループ内でスピーチを発表し、相互批評を通してブラッシュアップし、プレゼンテーション力の向上を図ります。	4時間
第６回	**最近の教育課題に関する知識・見識** いじめや不登校など、最近の教育課題について、これまでの学校体験活動や教育実習の経験から、考えられることを書き出し、グループディスカッションを通して整理し、調査に向けた見通しを持ちます。新聞、インターネット、書籍、その他の資料から必要な情報を収集する方法を確認し、計画を立てます。	事前ワークに取り組む、学修中に出た課題への取り組み。	4時間
第７回	**グループディスカッション（最近の教育課題）①　学級経営をめぐる諸課題をテーマにして** テーマに即したグループディスカッションを行います。グループでテーマに沿った討論を行うことと、他のグループのディスカッションを観察・評価することで、発言の仕方や振る舞い方について、学び合います。	事前ワークに取り組む、学修中に出た課題への取り組み。	4時間
第８回	**グループディスカッション（最近の教育課題）②　生徒指導をめぐる諸課題をテーマにして** テーマに即したグループディスカッションを行います。グループでテーマに沿った討論を行うことと、他のグループのディスカッションを観察・評価することで、発言の仕方や振る舞い方について、学び合います。ディスカッションを通して学んだ「小学校教員として必要な資質・能力」について考察し、小レポートにまとめます。	事前ワークに取り組む、学修中に出た課題への取り組み。	4時間
第９回	**様々な場面で必要な資質・能力（生徒指導場面）** これまでの学校体験活動や教育実習の経験から授業以外の生徒指導場面を想定し、その際に教員に必要な指導や振る舞いについて考えられることを書き出し、グループディスカッションを通して整理します。グループで場面・テーマを設定し、模擬指導の指導案を検討します。	事前ワークに取り組む、学修中に出た課題への取り組み。	4時間
第10回	**模擬指導（生徒指導場面）①　前半グループ** 模擬指導（生徒指導場面）①　前半グループ	事前ワークに取り組む、学修中に出た課題への取り組み。	4時間
第11回	**模擬指導（生徒指導場面）②　後半グループ**	事前ワークに取り組む、学修中に出た課題への取り組み。	4時間

	実際の場面を想定し、グループごとに模擬指導を行います。他のグループの模擬指導を観察・評価することで、指導の仕方や教員の態度、振る舞い方について、学び合います。模擬指導を通して学んだ「小学校教員として必要な資質・能力」について考察し、小レポートにまとめます。		
第12回	**教育相談に必要な資質・能力** 保護者との個別面談や教育相談の際に必要な対話、傾聴、カウンセリング、コーチングなどのコミュニケーションスキルについて理解し、これまでの経験などについてグループで交流します。グループごとに教育相談の具体的場面を想定し、シミレーションの計画を立てます。	事前ワークに取り組む、学修中に出た課題への取り組み。	4時間
第13回	**教育相談のシミレーション** グループごとに教育相談シミレーションを行います。他のグループのシミレーションを観察・評価することで、相談や対話の仕方や教員の態度、振る舞い方について、学び合います。授業を通して気付いたことをグループで交流し考察します。	事前ワークに取り組む、学修中に出た課題への取り組み。	4時間
第14回	**総括と今後の学修計画** 授業で取り組んできた事を振り返り、「小学校教員に必要な資質・能力」について改めて考察し、自分自身の“強みと課題”を明確にします。その上で、改善・向上のための学修計画を作成します。	本講義で出た様々な課題へのまとめを作成する。	4時間

114

授業科目名	**仕事とキャリア演習**				
担当教員名	鈴木克彦				
学年・コース等	４年	開講期間	前期	単位数	2
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	知的障害、肢体不自由のある児童生徒を対象とする特別支援学校で教諭、校長を、また、視覚障害特別支援学校で教頭を務めた。教育委員会で特別支援教育行政に従事。				

授業概要

中学校教員に求められる資質・能力について理解を深め、自身の課題解決につながる個別の目標設定を通して意欲の向上を図ることを目的とする。中学校教員に必要な資質・能力に関する調査に主体的に取り組みながら個別に課題を発見する、その課題を解決する方法についてグループで意見交換するなどのアクティブラーニングにより教員になる意欲を高める。また、担当教員の講義から学校現場の最近の教育課題に関する知識を増やし、取り扱った教育課題からテーマを設定した調査や討論をもとに模擬授業を行い理解を深める。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. 全学DP２.専門的知識・技能、職業理解	学校現場の様々な事象に対する考察	最近の学校の諸課題について学ぶことで教職に関する専門的な見識を得ることができる。
2. 全学DP３.専門的知識・技能を実践で応用する力	模擬授業演習、グループディスカッション	課題解決に向けた自身の考えを表現し、ディスカッションを通して考えを深めることができる。
汎用的な力		
1. 全学DP４.課題発見		調査を通して事例や資料から課題に対する考察を深めることができる。
2. 全学DP６.行動・実践		教員に求められる資質・能力について理解し、課題解決に向けた方法を表現することができる。
3. 全学DP10.忠恕の心		調査や意見交換に真摯に臨み誠実な態度で相手を理解することができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)

・実験、実技、実習

・ディベート、討論

・シミュレーション型学習(ロールプレイ、ゲーム型学習など)

課題や取組に対する評価・振り返り

・実習や実技に対して個別にコメントします

・実技・実習後、全体に向けてコメントします

成績評価

注意事項等

授業へは原則としてすべて出席してください。何らかの事情で欠席する場合は、シラバスや授業内での配布資料を参照し、自学により内容を確認し、必要な課題に取り組むようにしてください。なお、資格・免許取得に必要な科目は、単位修得に必要な授業時間数が定められている場合がありますので、注意してください。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
授業への参加状況	40 %	： 各回の課題やレポートに適切に対処し回答することができたか。また、教員からの質問に適切に答えることができたか。
ディスカッションや模擬授業への参加状況	50 %	： 各回の課題やディスカッションへの参加状況、模擬授業の様子はどうか、他の発表へのコメントが適切だったか。
期末レポート	10 %	： 各回の課題やレポートを総括する期末レポートで学校現場の課題について考察することができたか。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

適宜参考資料を配布する。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は２単位の科目であるため、毎回４時間の授業外学修が求められる。「授業外学修課題」に取り組むことに加え、各回の授業の内容を復習し、次回の授業に向けて予習すること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：　授業の前後　その他

場所：　研究室

備考・注意事項：　第１回の授業で詳細を伝える。

授業計画

		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**中学校教員に求められる資質・能力　①調査と考察** 中学校教員に求められる資質・能力について、これまでの教育実習やインターンシップでの経験をふまえた各自の考えを持ち寄り、グループでのディスカッションを通して整理します。調査方法を確認し、グループ内で適宜分担しながら調査を行います。	本授業に臨む目的を項目に沿ってワークシートにまとめる。	4時間
第2回	**中学校教員に求められる資質・能力　②考察とディスカッション** 調査結果をグループで整理し、求められる資質・能力に関しグループでテーマを決めます。テーマに関する調査結果についてグループでディスカッションしながら考察を深めるとともにプレゼンテーションに向けて準備します。	調査結果の整理、考察についてワークシートにまとめる。	4時間
第3回	**中学校教員に求められる資質・能力　③プレゼンテーション** グループごとにテーマに即したプレゼンテーションを行い、全体で意見交換しながら考察を深めます。考察の結果をふり返りワークシートにまとめます。	各グループのプレゼンテーションをふまえ中学校教員に求められる資質・能力についてワークシートにまとめる。	4時間
第4回	**中学校教員としての私の強みと課題　①スピーチ準備** 前時までに整理した中学校教員に求められる資質・能力に照らして自身が持つ強みと現状での課題を明らかにします。その際、本学の建学の精神・行動指針や教育学部のカリキュラム・ポリシーとディプロマ・ポリシーなど幅広い観点から自身をみつめ特性と課題について深く考える機会とします。明らかにした内容をもとに各自３分のスピーチの準備をします。	項目に沿ってワークシートにまとめスピーチの準備をする。	4時間
第5回	**中学校教員としての私の強みと課題　②スピーチ** 全体で一人３分のスピーチを行い、他の学生からの評価を受けて自身の強みと課題に関するとらえ方を深めます。その際、話者と評価を伝える側とが意見交換する時間を設け、互いに深く学ぶことができるようにします。	スピーチ後の評価をふまえ自身の強みと課題について再度ワークシートにまとめる。	4時間
第6回	**最近の教育課題に関する知識・理解** 中学校の最近の教育課題について、これまでの教育実習やインターンシップでの経験もふまえ調査し、その成果をグループで共有します。グループごとに特に詳細に調査するテーマを決め調査方法やその結果のまとめ方について話し合い計画を作成します。	グループでの話し合いをもとに計画表を作成する。	4時間
第7回	**最近の教育課題（ディスカッション）** 作成した調査計画表に沿って分担しながら調査を進め、その成果をワークシートにまとめます。それをもとにグループでディスカッションを行い、テーマとする教育課題の現状、経過、背景と解決するための方策、方策を実行する計画をレポートにまとめます。	報告に向けた留意点を予習シートにまとめる。	4時間
第8回	**最近の教育課題（ディスカッションの報告）** 報告する際の留意点を意識しながらグループごとにレポートに沿って報告し合います。互いの報告を評価し合うことを通して最近の教育課題について理解を深めます。学修のまとめとして最近の教育課題からテーマを決め小レポートを作成します。	最近の教育課題に関する小レポートを作成する。	4時間
第9回	**生徒指導に必要な知識・技能（模擬授業準備）** 生徒指導に必要な知識・技能について、これまでの教育実習やインターンシップでの経験もふまえ教員の準備や態度・構え、生徒や保護者との良好な関係づくりの基本を調査し、その成果を共有します。その際、自身に特に必要な知識・技能について考察します。さらに、模擬授業（シミュレーション）に向けて分担や進め方を決め準備します。	生徒指導に必要な知識・技能について予習シートにまとめる。	4時間
第10回	**生徒指導に必要な知識・技能（模擬授業）**	生徒指導に必要な知識・技能についてワークシートにまとめる。	4時間

	グループごとに生徒指導の模擬授業（シミュレーション）を行います。互いに生徒の立場になりながら個に応じた指導を行う経験とその場面を観察・評価する学修を通し、教員の準備や態度・構え、生徒との良好な関係づくりについて考察します。授業の後半では学修内容を報告し合い、学びを深めます。		
第11回	**教育相談に必要な知識・技能（模擬授業準備）** 保護者や生徒との個別面談や教育相談に必要な知識・技能についてカウンセリングやコーチング等に関する知識・技能の基本を調査し、その成果を共有します。併せて、これまでに教育実習やインターンシップで得た経験をもとに自身に特に必要な知識・技能について考察します。さらに、模擬授業（シミュレーション）に向けて分担や進め方を決め準備します。	教育相談に必要な知識・技能について予習シートにまとめる。	4時間
第12回	**教育相談に必要な知識・技能（模擬授業）** グループごとに教育相談の模擬授業（シミュレーション）を行います。互いに保護者や生徒の立場になりながら相談を進める経験とその場面を観察・評価する学修を通し、教員の準備や態度・構え、生徒との良好な関係づくりについて考察します。授業の後半では学修内容を報告し合い、学びを深めます。	教育相談に必要な知識・技能についてワークシートにまとめる。	4時間
第13回	**保護者、関係機関との連携・協力** 生徒指導、教育相談に関する学修をふり返り、保護者や関係機関との連携・協力について講義をもとに考察します。授業や直接的な生徒指導以外に必要となる中学校教員の資質・能力について理解を深めます。	保護者や関係機関との効果的な連携・協力のあり方に関する自身の意見をワークシートにまとめる。	4時間
第14回	**学修のまとめと今後の計画** 授業をふり返り中学校教員に求められる資質・能力に照らした自身の課題について改めて考察し、課題解決に向けた今後の学修に関する行動計画を作成します。	授業をふり返り自身の課題を整理し課題解決に向けた学修計画を立てる。	4時間

112

授業科目名	ビジネス・インターンシップ1				
担当教員名	島雅則・東出加奈子・中野毅・本間哲也				
学年・コース等	2年	開講期間	前期・後期	単位数	2
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の概要					

授業概要

本科目では、大学における学修と社会での経験とを結びつけることで、大学における学修を深化させ新たな学習意欲を喚起すること、また、自己の職業適性や将来設計について考える機会を得て主体的な職業選択の意識を育むことを目的としています。事前学習では、実習先企業･団体の概要調査や業界研究、実社会で求められる基本的マナーの研修などを行うとともに、実習期間の達成目標を明確にするために｢インターンシップ･ポートフォリオ｣を作成します。就業体験先では、それぞれのプログラムに従って、実働5～10日間の実習に取り組みます。事後学習では、実習を振り返り履修生同士での意見交換を行うとともに、各自が研修結果をまとめ、成果と自己成長の視覚化と言語化のためにプレゼンテーションを行います。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. 全学DP１.幅広い教養やスキル	社会人マナーの基本	社会において働く上で最低限必要なマナーを身につける。
2. 全学DP２.専門的知識・技能、職業理解	企業と職業に関する知識	実習先の業界・業種・職種についての基本的な知識を身につける。
汎用的な力		
1. 全学DP４.課題発見		企業や団体の情報を正確に調べることができる。
2. 全学DP６.行動・実践		基本的なマナーを身につけ、企業や団体の休みなく参加し、実践できる。
3. 全学DP７.完遂		目標を具体的に設定し、その取り組みの成果を言語化し、自己成長を明確化できる。
4. 全学DP８.意思疎通		企業や団体の担当者、及び大学の担当教員との適切な報告・連絡・相談を行うことができる。
5. 全学DP８.意思疎通		大人数の前でのプレゼンテーションをわかりやすく行うことができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・実験、実技、実習

・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)

・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

・実習や実技に対して個別にコメントします

・実技・実習後、全体に向けてコメントします

成績評価

注意事項等

授業へは原則としてすべて出席してください。何らかの事情で欠席する場合は、シラバスや授業内での配布資料を参照し、自学により内容を確認し、必要な課題に取り組むようにしてください。なお、資格・免許取得に必要な科目は、単位修得に必要な授業時間数が定められている場合がありますので、注意してください。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
インターシップ・ポートフォリオ	50 %	： 事前･事後学修への取組み度。受入先での就業体験目的の把握レベル、及び受入先やその関連業界の事前調査の内容。就業体験内容の整理と習得した知識・技能並びに自らの課題の明確化、自己目標の達成度。
受入企業・団体による評価	30 %	： 受け入れ企業での就業態度や業務の理解と遂行、その際の自己の役割認識や協同・連携の度合い。
発表会でのプレゼンテーション	20 %	： 自身の学修内容と課題をインターンシップでの実習内容を結び付けた形で、分かりやすく伝えているかどうか。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

参考文献等は特に指定しないが、受け入れ先企業・団体の概要・業界知識などが掲載された専門誌や書籍、有価証券報告書等。インターネット検索による受け入れ企業や関連業界内容の整理、就職関連ウェブサイト。

履修上の注意・備考・メッセージ

１．本科目は2単位の科目であるため、全体で90時間の学修が求められます。
２．履修上限単位には含まれません。
３．実習参加にあたっては、学業成績（主にGPA）とアドバイザー教員の推薦を参考に、学内選考を通過する必要があります。場合によっては、受入先企業等の面接等が実施されることもあります。
４．事後学修集中講義は夏季休暇中や土曜日にも実施されます。あらかじめ日程を確認し、必ず出席してください。
５．マナー研修やインターンシップ報告会、及びそのリハーサルはスーツ着用です。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 担当によって異なる（初回授業で案内）

場所： 担当教員の研究室

備考・注意事項： 担当教員のオフィスアワーにおいて質問・相談などを受け付けます。

授業計画		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**インターンシップの意義（ガイダンス授業）** インターンシップの現状とそのメリットについて学びます。自身のインターンシップに参加する目的について考えてもらい、目標の大枠決定のサポートをします。実習先企業に提出するプロフィールシート、並びにインターンシップ・ポートフォリオのフォーマットを提示し、その作成方法を説明します。	「インターンシップ・ポートフォリオ」のフォーマットに従い、「自己目標」の初回入力をする。	4時間
第2回	**事前学修（１）業界･実習先企業の研究** 実習先企業の強み・弱みや企業を取り巻く環境について調べ、企業研究シートにまとめ理解を深めます。併せて、名刺作成アプリについて説明し、作成準備をします。	名刺を作成し、その扱い方のマナー研修に備える。	4時間
第3回	**事前学修（２）プロフィールシートの作成** 自己PRや実習の志望動機の書き方や基本マナーを学び、実習先に提出するプロフィールシートを作成します。	プロフィールシートを仕上げ、アドバイザーに提出し添削を受ける。	4時間
第4回	**事前学修（３）マナー研修（社会人マナーの意義と実践）** 社会人としての基本的マナーとその意義を考え、実践する際の心構えやポイントについて学びます。（スーツ着用） ※この授業は学外講師のスケジュールにより日程が変更されることがあります。	学んだマナーについて振り返るとともに、日常的に実践を繰り返す。	4時間
第5回	**事前学修（４）「インターンシップ・ポートフォリオ」の作成①（意義の確認と目標の明確化）** インターンシップ・ポートフォリオ作成の意義と作成要領を詳説します。第1回授業外課題で作成した「自己目標」の素案を、担当教員の指導を受け、各自の実習先企業が求める内容に沿った形で具体化します。	作成中の「インターンシップ･ポートフォリオ」の内容を再点検し、次回の授業に備える。	4時間
第6回	**事前学修（５）「インターンシップ・ポートフォリオ」の作成②（仮説に基づく試案の作成）** 実習結果について仮説を立て、担当教員の指導の下、具体的な成果と自己成長の記載を試みます。実習前後のマナーやお礼メールの基本を学んだ後、持参提出物の確認を含めて実習直前チェックを実施します。	実習前「インターンシップ･ポートフォリオ」を最終確認の上、期限内に提出する。	4時間
第7回	**就業体験（実習）：前半** 企業等での実習 ― 受入先企業に赴き、前半の実地研修。	就業体験日誌を記入し、受け入れ先の担当の方からコメントをいただく。	4時間
第8回	**就業体験（実習）：後半** 企業等での実習 ― 受入先企業に赴き、後半の実地研修。（合計で原則70時間）	就業体験日誌を記入し、受け入れ先の担当の方からコメントをいただく。お礼状は、担当教員の下書きチェックを受け、就業体験終了後速やかに送付する。	4時間
第9回	**事後学修（１）「インターンシップ･ポートフォリオ」の作成③（仕上げ）** 各自の就業体験について振り返り、整理をしながら、自身のインターンシップ･ポートフォリオを仕上げる。	完成した「インターンシップ･ポートフォリオ」について、目標設定から自己成長までの一連の流れを、筋道を立てて説明できるよう準備をする。	4時間
第10回	**事後学修（２）「インターンシップ・ポートフォリオ」の共有と修正** 同一就業体験先、あるいは混成のグループに分かれて発表をする。相互評価による気付きを通して改善点を明確にする。	明確になった改善点を反映させ、自身の「インターンシップ･ポートフォリオ」の最終仕上げをする。	4時間
第11回	**事後学修（３）プレゼン資料の作成**	第11回と12回は同日に実施するため、第12回目の授業外課題に集約する。	4時間

	担当教員のアドバイスを受けながら、就業体験先別にプレゼンテーション用のスライドを作成する。		
第12回	**事後学修（４）プレゼン資料のリハーサル** プレゼン資料案が完成したグループからリハーサルを実施する。学生相互並びに教員も入れてアドバイスを出し合う。	指摘された点をよく検討した上、修正するとともに、プレゼン資料の細部のチェックを行う。	4時間
第13回	**事後学修（５）プレゼンテーション①（前半グループの発表）** グループ毎にプレゼンテーションを実施する。チームメンバー全員がそれぞれの担当部分を発表し、リーダーが全体をまとめるという形式をとる。発表中の内容の相互評価にくわえて、発表後には指名した他チームに質問と感想をお願いし、全員にとって新しい気付きと学びの時間とする。	第１３回と１４回は同日に続けて実施するため、第１４回目の授業外学修課題に集約する。	4時間
第14回	**事後学修（６）プレゼンテーション②（後半グループの発表と授業総括）** 前半と同じ内容と進行で、残りの全チームのプレゼンテーションを実施する。その後、教員による本科目全体の振り返りと総括で締めくくる。	インターンシップ全体の振り返りを行い、就職活動における自己アピールのポイントの一つとして整理する。	4時間

112

授業科目名	ビジネス・インターンシップ１				
担当教員名	大塚康央・荒木俊之				
学年・コース等	2年	開講期間	前期／後期	単位数	2
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の概要					

授業概要

本科目では、大学における学修と社会での経験とを結びつけることで、大学における学修を深化させ新たな学習意欲を喚起すること、また、自己の職業適性や将来設計について考える機会を得て主体的な職業選択の意識を育むことを目的としています。事前学習では、実習先企業･団体の概要調査や業界研究、実社会で求められる基本的マナーの研修などを行うとともに、実習期間の達成目標を明確にするために｢インターンシップ･ポートフォリオ｣を作成します。就業体験先では、それぞれのプログラムに従って、実働5～10日間の実習に取り組みます。事後学習では、実習を振り返り履修生同士での意見交換を行うとともに、各自が研修結果をまとめ、成果と自己成長の視覚化と言語化のためにプレゼンテーションを行います。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. 全学DP１.幅広い教養やスキル	社会人マナーの基本	社会において働く上で最低限必要なマナーを身につける。
2. 全学DP２.専門的知識・技能、職業理解	企業と職業に関する知識	実習先の業界・業種・職種についての基本的な知識を身につける。
汎用的な力		
1. 全学DP４.課題発見		企業や団体の情報を正確に調べることができる。
2. 全学DP６.行動・実践		基本的なマナーを身につけ、企業や団体の休みなく参加し、実践できる。
3. 全学DP７.完遂		目標を具体的に設定し、その取り組みの成果を言語化し、自己成長を明確化できる。
4. 全学DP８.意思疎通		企業や団体の担当者、及び大学の担当教員との適切な報告・連絡・相談を行うことができる。
5. 全学DP８.意思疎通		大人数の前でのプレゼンテーションをわかりやすく行うことができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・実験、実技、実習

・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)

・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

・実習や実技に対して個別にコメントします

・実技・実習後、全体に向けてコメントします

成績評価

注意事項等

授業へは原則としてすべて出席してください。何らかの事情で欠席する場合は、シラバスや授業内での配布資料を参照し、自学により内容を確認し、必要な課題に取り組むようにしてください。なお、資格・免許取得に必要な科目は、単位修得に必要な授業時間数が定められている場合がありますので、注意してください。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
インターシップ・ポートフォリオ	50 %	： 事前･事後学修への取組み度。受入先での就業体験目的の把握レベル、及び受入先やその関連業界の事前調査の内容。就業体験内容の整理と習得した知識・技能並びに自らの課題の明確化、自己目標の達成度。
受入企業・団体による評価	30 %	： 受け入れ企業での就業態度や業務の理解と遂行、その際の自己の役割認識や協同・連携の度合い。
発表会でのプレゼンテーション	20 %	： 自身の学修内容と課題をインターンシップでの実習内容を結び付けた形で、分かりやすく伝えているかどうか。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

参考文献等は特に指定しないが、受け入れ先企業・団体の概要・業界知識などが掲載された専門誌や書籍、有価証券報告書等。インターネット検索による受け入れ企業や関連業界内容の整理、就職関連ウェブサイト。

履修上の注意・備考・メッセージ

１．本科目は2単位の科目であるため、全体で90時間の学修が求められます。
２．履修上限単位には含まれません。
３．実習参加にあたっては、学業成績（主にGPA）とアドバイザー教員の推薦を参考に、学内選考を通過する必要があります。場合によっては、受入先企業等の面接等が実施されることもあります。
４．事後学修集中講義は夏季休暇中や土曜日にも実施されます。あらかじめ日程を確認し、必ず出席してください。
５．マナー研修やインターンシップ報告会、及びそのリハーサルはスーツ着用です。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 担当によって異なる（初回授業で案内）

場所： 担当教員の研究室

備考・注意事項： 担当教員のオフィスアワーにおいて質問・相談などを受け付けます。

授業計画		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**インターンシップの意義（ガイダンス授業）** インターンシップの現状とそのメリットについて学びます。自身のインターンシップに参加する目的について考えてもらい、目標の大枠決定のサポートをします。実習先企業に提出するプロフィールシート、並びにインターンシップ・ポートフォリオのフォーマットを提示し、その作成方法を説明します。	「インターンシップ・ポートフォリオ」のフォーマットに従い、「自己目標」の初回入力をする。	4時間
第2回	**事前学修（１）業界･実習先企業の研究** 実習先企業の強み・弱みや企業を取り巻く環境について調べ、企業研究シートにまとめ理解を深めます。併せて、名刺作成アプリについて説明し、作成準備をします。	名刺を作成し、その扱い方のマナー研修に備える。	4時間
第3回	**事前学修（２）プロフィールシートの作成** 自己PRや実習の志望動機の書き方や基本マナーを学び、実習先に提出するプロフィールシートを作成します。	プロフィールシートを仕上げ、アドバイザーに提出し添削を受ける。	4時間
第4回	**事前学修（３）マナー研修（社会人マナーの意義と実践）** 社会人としての基本的マナーとその意義を考え、実践する際の心構えやポイントについて学びます。（スーツ着用） ※この授業は学外講師のスケジュールにより日程が変更されることがあります。	学んだマナーについて振り返るとともに、日常的に実践を繰り返す。	4時間
第5回	**事前学修（４）「インターンシップ・ポートフォリオ」の作成①（意義の確認と目標の明確化）** インターンシップ・ポートフォリオ作成の意義と作成要領を詳説します。第1回授業外課題で作成した「自己目標」の素案を、担当教員の指導を受け、各自の実習先企業が求める内容に沿った形で具体化します。	作成中の「インターンシップ･ポートフォリオ」の内容を再点検し、次回の授業に備える。	4時間
第6回	**事前学修（５）「インターンシップ・ポートフォリオ」の作成②（仮説に基づく試案の作成）** 実習結果について仮説を立て、担当教員の指導の下、具体的な成果と自己成長の記載を試みます。実習前後のマナーやお礼メールの基本を学んだ後、持参提出物の確認を含めて実習直前チェックを実施します。	実習前「インターンシップ･ポートフォリオ」を最終確認の上、期限内に提出する。	4時間
第7回	**就業体験（実習）：前半** 企業等での実習 ― 受入先企業に赴き、前半の実地研修。	就業体験日誌を記入し、受け入れ先の担当の方からコメントをいただく。	4時間
第8回	**就業体験（実習）：後半** 企業等での実習 ― 受入先企業に赴き、後半の実地研修。（合計で原則70時間）	就業体験日誌を記入し、受け入れ先の担当の方からコメントをいただく。お礼状は、担当教員の下書きチェックを受け、就業体験終了後速やかに送付する。	4時間
第9回	**事後学修（１）「インターンシップ･ポートフォリオ」の作成③（仕上げ）** 各自の就業体験について振り返り、整理をしながら、自身のインターンシップ･ポートフォリオを仕上げる。	完成した「インターンシップ･ポートフォリオ」について、目標設定から自己成長までの一連の流れを、筋道を立てて説明できるよう準備をする。	4時間
第10回	**事後学修（２）「インターンシップ・ポートフォリオ」の共有と修正** 同一就業体験先、あるいは混成のグループに分かれて発表をする。相互評価による気付きを通して改善点を明確にする。	明確になった改善点を反映させ、自身の「インターンシップ･ポートフォリオ」の最終仕上げをする。	4時間
第11回	**事後学修（３）プレゼン資料の作成**	第11回と12回は同日に実施するため、第12回目の授業外課題に集約する。	4時間

	担当教員のアドバイスを受けながら、就業体験先別にプレゼンテーション用のスライドを作成する。		
第12回	**事後学修（４）プレゼン資料のリハーサル** プレゼン資料案が完成したグループからリハーサルを実施する。学生相互並びに教員も入れてアドバイスを出し合う。	指摘された点をよく検討した上、修正するとともに、プレゼン資料の細部のチェックを行う。	4時間
第13回	**事後学修（５）プレゼンテーション①（前半グループの発表）** グループ毎にプレゼンテーションを実施する。チームメンバー全員がそれぞれの担当部分を発表し、リーダーが全体をまとめるという形式をとる。発表中の内容の相互評価にくわえて、発表後には指名した他チームに質問と感想をお願いし、全員にとって新しい気付きと学びの時間とする。	第１３回と１４回は続けて実施するため、第１４回目の授業外学修課題に集約する。	4時間
第14回	**事後学修（６）プレゼンテーション②（後半グループの発表）** 前半と同じ内容と進行で、残りの全チームのプレゼンテーションを実施する。その後、教員による本科目全体の振り返りと総括で締めくくる。	インターンシップ全体の振り返りを行い、就職活動における自己アピールのポイントの一つとして整理する。	4時間

113

授業科目名	ビジネス・インターンシップ２				
担当教員名	島雅則・東出加奈子・中野毅・本間哲也				
学年・コース等	3年	開講期間	前期・後期	単位数	2
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の概要					

授業概要

本科目では、大学における学修と社会での経験とを結びつけることで、大学における学修を深化させ新たな学習意欲を喚起すること、また、自己の職業適性や将来設計について考える機会を得て主体的な職業選択の意識を育むことを目的としています。事前学習では、実習先企業･団体の概要調査や業界研究、実社会で求められる基本的マナーの研修などを行うとともに、実習期間の達成目標を明確にするために｢インターンシップ･ポートフォリオ｣を作成します。就業体験先では、それぞれのプログラムに従って、実働5～10日間の実習に取り組みます。事後学習では、実習を振り返り履修生同士での意見交換を行うとともに、各自が研修結果をまとめ、成果と自己成長の視覚化と言語化のためにプレゼンテーションを行います。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. 全学DP１.幅広い教養やスキル	社会人マナーの基本	社会において働く上で最低限必要なマナーを身につける。
2. 全学DP２.専門的知識・技能、職業理解	企業と職業に関する知識	実習先の業界・業種・職種についての基本的な知識を身につける。
汎用的な力		
1. 全学DP４.課題発見		企業や団体の情報を正確に調べることができる。
2. 全学DP６.行動・実践		基本的なマナーを身につけ、企業や団体の休みなく参加し、実践できる。
3. 全学DP７.完遂		目標を具体的に設定し、その取り組みの成果を言語化し、自己成長を明確化できる。
4. 全学DP８.意思疎通		企業や団体の担当者、及び大学の担当教員との適切な報告・連絡・相談を行うことができる。
5. 全学DP８.意思疎通		大人数の前でのプレゼンテーションをわかりやすく行うことができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・実験、実技、実習

・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)

・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

・実習や実技に対して個別にコメントします

・実技・実習後、全体に向けてコメントします

成績評価

注意事項等

授業へは原則としてすべて出席してください。何らかの事情で欠席する場合は、シラバスや授業内での配布資料を参照し、自学により内容を確認し、必要な課題に取り組むようにしてください。なお、資格・免許取得に必要な科目は、単位修得に必要な授業時間数が定められている場合がありますので、注意してください。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
インターシップ・ポートフォリオ	50 %	： 事前･事後学修への取組み度。受入先での就業体験目的の把握レベル、及び受入先やその関連業界の事前調査の内容。就業体験内容の整理と習得した知識・技能並びに自らの課題の明確化、自己目標の達成度。
受入企業・団体による評価	30 %	： 受け入れ企業での就業態度や業務の理解と遂行、その際の自己の役割認識や協同・連携の度合い。
発表会でのプレゼンテーション	20 %	： 自身の学修内容と課題をインターンシップでの実習内容を結び付けた形で、分かりやすく伝えているかどうか。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

参考文献等は特に指定しないが、受け入れ先企業・団体の概要・業界知識などが掲載された専門誌や書籍、有価証券報告書等。インターネット検索による受け入れ企業や関連業界内容の整理、就職関連ウェブサイト。

履修上の注意・備考・メッセージ

１．本科目は2単位の科目であるため、全体で90時間の学修が求められます。
２．履修上限単位には含まれません。
３．実習参加にあたっては、学業成績（主にGPA）とアドバイザー教員の推薦を参考に、学内選考を通過する必要があります。場合によっては、受入先企業等の面接等が実施されることもあります。
４．事後学修集中講義は夏季休暇中や土曜日にも実施されます。あらかじめ日程を確認し、必ず出席してください。
５．マナー研修やインターンシップ報告会、及びそのリハーサルはスーツ着用です。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 担当によって異なる（初回授業で案内）

場所： 担当教員の研究室

備考・注意事項： 担当教員のオフィスアワーにおいて質問・相談などを受け付けます。

授業計画		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**インターンシップの意義（ガイダンス授業）** インターンシップの現状とそのメリットについて学びます。自身のインターンシップに参加する目的について考えてもらい、目標の大枠決定のサポートをします。実習先企業に提出するプロフィールシート、並びにインターンシップ・ポートフォリオのフォーマットを提示し、その作成方法を説明します。	「インターンシップ・ポートフォリオ」のフォーマットに従い、「自己目標」の初回入力をする。	4時間
第2回	**事前学修（１）業界･実習先企業の研究** 実習先企業の強み・弱みや企業を取り巻く環境について調べ、企業研究シートにまとめ理解を深めます。併せて、名刺作成アプリについて説明し、作成準備をします。	名刺を作成し、その扱い方のマナー研修に備える。	4時間
第3回	**事前学修（２）プロフィールシートの作成** 自己PRや実習の志望動機の書き方や基本マナーを学び、実習先に提出するプロフィールシートを作成します。	プロフィールシートを仕上げ、アドバイザーに提出し添削を受ける。	4時間
第4回	**事前学修（３）マナー研修（社会人マナーの意義と実践）** 社会人としての基本的マナーとその意義を考え、実践する際の心構えやポイントについて学びます。（スーツ着用） ※この授業は学外講師のスケジュールにより日程が変更されることがあります。	学んだマナーについて振り返るとともに、日常的に実践を繰り返す。	4時間
第5回	**事前学修（４）「インターンシップ・ポートフォリオ」の作成①（意義の確認と目標の明確化）** インターンシップ・ポートフォリオ作成の意義と作成要領を詳説します。第1回授業外課題で作成した「自己目標」の素案を、担当教員の指導を受け、各自の実習先企業が求める内容に沿った形で具体化します。	作成中の「インターンシップ･ポートフォリオ」の内容を再点検し、次回の授業に備える。	4時間
第6回	**事前学修（５）「インターンシップ・ポートフォリオ」の作成②（仮説に基づく試案の作成）** 実習結果について仮説を立て、担当教員の指導の下、具体的な成果と自己成長の記載を試みます。実習前後のマナーやお礼メールの基本を学んだ後、持参提出物の確認を含めて実習直前チェックを実施します。	実習前「インターンシップ･ポートフォリオ」を最終確認の上、期限内に提出する。	4時間
第7回	**就業体験（実習）：前半** 企業等での実習 ― 受入先企業に赴き、前半の実地研修。	就業体験日誌を記入し、受け入れ先の担当の方からコメントをいただく。	4時間
第8回	**就業体験（実習）：後半** 企業等での実習 ― 受入先企業に赴き、後半の実地研修。（合計で原則70時間）	就業体験日誌を記入し、受け入れ先の担当の方からコメントをいただく。お礼状は、担当教員の下書きチェックを受け、就業体験終了後速やかに送付する。	4時間
第9回	**事後学修（１）「インターンシップ･ポートフォリオ」の作成③（仕上げ）** 各自の就業体験について振り返り、整理をしながら、自身のインターンシップ･ポートフォリオを仕上げる。	完成した「インターンシップ･ポートフォリオ」について、目標設定から自己成長までの一連の流れを、筋道を立てて説明できるよう準備をする	4時間
第10回	**事後学修（２）「インターンシップ・ポートフォリオ」の共有と修正** 同一就業体験先、あるいは混成のグループに分かれて発表をする。相互評価による気付きを通して改善点を明確にする。	明確になった改善点を反映させ、自身の「インターンシップ･ポートフォリオ」の最終仕上げをする。	4時間
第11回	**事後学修（３）プレゼン資料の作成**	第11回と12回は同日に実施するため、第12回目の授業外課題に集約する。	4時間

	担当教員のアドバイスを受けながら、就業体験先別にプレゼンテーション用のスライドを作成する。		
第12回	**事後学修（４）プレゼン資料のリハーサル** プレゼン資料案が完成したグループからリハーサルを実施する。学生相互並びに教員も入れてアドバイスを出し合う。	指摘された点をよく検討した上、修正するとともに、プレゼン資料の細部のチェックを行う。	4時間
第13回	**事後学修（５）プレゼンテーション①（前半グループの発表）** グループ毎にプレゼンテーションを実施する。チームメンバー全員がそれぞれの担当部分を発表し、リーダーが全体をまとめるという形式をとる。発表中の内容の相互評価にくわえて、発表後には指名した他チームに質問と感想をお願いし、全員にとって新しい気付きと学びの時間とする。	第１３回と１４回は同日に続けて実施するため、第１４回目の授業外学修課題に集約する。	4時間
第14回	**事後学修（６） プレゼンテーション②（後半グループの発表と授業総括）** 前半と同じ内容と進行で、残りの全チームのプレゼンテーションを実施する。その後、教員による本科目全体の振り返りと総括で締めくくる。	インターンシップ全体の振り返りを行い、就職活動における自己アピールのポイントの一つとして整理する。	4時間

113

授業科目名	ビジネス・インターンシップ２				
担当教員名	大塚康央・荒木俊之				
学年・コース等	3年	開講期間	前期／後期	単位数	2
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の概要					

授業概要

本科目では、大学における学修と社会での経験とを結びつけることで、大学における学修を深化させ新たな学習意欲を喚起すること、また、自己の職業適性や将来設計について考える機会を得て主体的な職業選択の意識を育むことを目的としています。事前学習では、実習先企業･団体の概要調査や業界研究、実社会で求められる基本的マナーの研修などを行うとともに、実習期間の達成目標を明確にするために｢インターンシップ･ポートフォリオ｣を作成します。就業体験先では、それぞれのプログラムに従って、実働5～10日間の実習に取り組みます。事後学習では、実習を振り返り履修生同士での意見交換を行うとともに、各自が研修結果をまとめ、成果と自己成長の視覚化と言語化のためにプレゼンテーションを行います。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. 全学DP１.幅広い教養やスキル	社会人マナーの基本	社会において働く上で最低限必要なマナーを身につける。
2. 全学DP２.専門的知識・技能、職業理解	企業と職業に関する知識	実習先の業界・業種・職種についての基本的な知識を身につける。
汎用的な力		
1. 全学DP４.課題発見		企業や団体の情報を正確に調べることができる。
2. 全学DP６.行動・実践		基本的なマナーを身につけ、企業や団体の休みなく参加し、実践できる。
3. 全学DP７.完遂		目標を具体的に設定し、その取り組みの成果を言語化し、自己成長を明確化できる。
4. 全学DP８.意思疎通		企業や団体の担当者、及び大学の担当教員との適切な報告・連絡・相談を行うことができる。
5. 全学DP８.意思疎通		大人数の前でのプレゼンテーションをわかりやすく行うことができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・実験、実技、実習

・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)

・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

・実習や実技に対して個別にコメントします

・実技・実習後、全体に向けてコメントします

成績評価

注意事項等

授業へは原則としてすべて出席してください。何らかの事情で欠席する場合は、シラバスや授業内での配布資料を参照し、自学により内容を確認し、必要な課題に取り組むようにしてください。なお、資格・免許取得に必要な科目は、単位修得に必要な授業時間数が定められている場合がありますので、注意してください。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
インターシップ・ポートフォリオ	50 %	： 事前･事後学修への取組み度。受入先での就業体験目的の把握レベル、及び受入先やその関連業界の事前調査の内容。就業体験内容の整理と習得した知識・技能並びに自らの課題の明確化、自己目標の達成度。
受入企業・団体による評価	30 %	： 受け入れ企業での就業態度や業務の理解と遂行、その際の自己の役割認識や協同・連携の度合い。
発表会でのプレゼンテーション	20 %	： 自身の学修内容と課題をインターンシップでの実習内容を結び付けた形で、分かりやすく伝えているかどうか。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

参考文献等は特に指定しないが、受け入れ先企業・団体の概要・業界知識などが掲載された専門誌や書籍、有価証券報告書等。インターネット検索による受け入れ企業や関連業界内容の整理、就職関連ウェブサイト。

履修上の注意・備考・メッセージ

１．本科目は2単位の科目であるため、全体で90時間の学修が求められます。
２．履修上限単位には含まれません。
３．実習参加にあたっては、学業成績（主にGPA）とアドバイザー教員の推薦を参考に、学内選考を通過する必要があります。場合によっては、受入先企業等の面接等が実施されることもあります。
４．事後学修集中講義は夏季休暇中や土曜日にも実施されます。あらかじめ日程を確認し、必ず出席してください。
５．マナー研修やインターンシップ報告会、及びそのリハーサルはスーツ着用です。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 担当によって異なる（初回授業で案内）

場所： 担当教員の研究室

備考・注意事項： 担当教員のオフィスアワーにおいて質問・相談などを受け付けます。

授業計画		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**インターンシップの意義（ガイダンス授業）** インターンシップの現状とそのメリットについて学びます。自身のインターンシップに参加する目的について考えてもらい、目標の大枠決定のサポートをします。実習先企業に提出するプロフィールシート、並びにインターンシップ・ポートフォリオのフォーマットを提示し、その作成方法を説明します。	「インターンシップ・ポートフォリオ」のフォーマットに従い、「自己目標」の初回入力をする。	4時間
第2回	**事前学修（１）業界･実習先企業の研究** 実習先企業の強み・弱みや企業を取り巻く環境について調べ、企業研究シートにまとめ理解を深めます。併せて、名刺作成アプリについて説明し、作成準備をします。	名刺を作成し、その扱い方のマナー研修に備える。	4時間
第3回	**事前学修（２）プロフィールシートの作成** 自己PRや実習の志望動機の書き方や基本マナーを学び、実習先に提出するプロフィールシートを作成します。	プロフィールシートを仕上げ、アドバイザーに提出し添削を受ける。	4時間
第4回	**事前学修（３）マナー研修（社会人マナーの意義と実践）** 社会人としての基本的マナーとその意義を考え、実践する際の心構えやポイントについて学びます。（スーツ着用） ※この授業は学外講師のスケジュールにより日程が変更されることがあります。	学んだマナーについて振り返るとともに、日常的に実践を繰り返す。	4時間
第5回	**事前学修（４）「インターンシップ・ポートフォリオ」の作成①（意義の確認と目標の明確化）** インターンシップ・ポートフォリオ作成の意義と作成要領を詳説します。第1回授業外課題で作成した「自己目標」の素案を、担当教員の指導を受け、各自の実習先企業が求める内容に沿った形で具体化します。	作成中の「インターンシップ･ポートフォリオ」の内容を再点検し、次回の授業に備える。	4時間
第6回	**事前学修（５）「インターンシップ・ポートフォリオ」の作成②（仮説に基づく試案の作成）** 実習結果について仮説を立て、担当教員の指導の下、具体的な成果と自己成長の記載を試みます。実習前後のマナーやお礼メールの基本を学んだ後、持参提出物の確認を含めて実習直前チェックを実施します。	実習前「インターンシップ･ポートフォリオ」を最終確認の上、期限内に提出する。	4時間
第7回	**就業体験（実習）：前半** 企業等での実習 ― 受入先企業に赴き、前半の実地研修。	就業体験日誌を記入し、受け入れ先の担当の方からコメントをいただく。	4時間
第8回	**就業体験（実習）：後半** 企業等での実習 ― 受入先企業に赴き、後半の実地研修。（合計で原則70時間）	就業体験日誌を記入し、受け入れ先の担当の方からコメントをいただく。お礼状は、担当教員の下書きチェックを受け、就業体験終了後速やかに送付する。	4時間
第9回	**事後学修（１）「インターンシップ･ポートフォリオ」の作成③（仕上げ）** 各自の就業体験について振り返り、整理をしながら、自身のインターンシップ･ポートフォリオを仕上げる。	完成した「インターンシップ･ポートフォリオ」について、目標設定から自己成長までの一連の流れを、筋道を立てて説明できるよう準備をする	4時間
第10回	**事後学修（２）「インターンシップ・ポートフォリオ」の共有と修正** 同一就業体験先、あるいは混成のグループに分かれて発表をする。相互評価による気付きを通して改善点を明確にする。	明確になった改善点を反映させ、自身の「インターンシップ･ポートフォリオ」の最終仕上げをする。	4時間
第11回	**事後学修（３）プレゼン資料の作成**	第11回と12回は同日に実施するため、第12回目の授業外課題に集約する。	4時間

	担当教員のアドバイスを受けながら、就業体験先別にプレゼンテーション用のスライドを作成する。		
第12回	**事後学修（４）プレゼン資料のリハーサル** プレゼン資料案が完成したグループからリハーサルを実施する。学生相互並びに教員も入れてアドバイスを出し合う。	指摘された点をよく検討した上、修正するとともに、プレゼン資料の細部のチェックを行う。	4時間
第13回	**事後学修（５）プレゼンテーション①（前半グループの発表）** グループ毎にプレゼンテーションを実施する。チームメンバー全員がそれぞれの担当部分を発表し、リーダーが全体をまとめるという形式をとる。発表中の内容の相互評価にくわえて、発表後には指名した他チームに質問と感想をお願いし、全員にとって新しい気付きと学びの時間とする。	第１３回と１４回は続けて実施するため、第１４回目の授業外学修課題に集約する。	4時間
第14回	**事後学修（６） プレゼンテーション②（後半グループの発表）** 前半と同じ内容と進行で、残りの全チームのプレゼンテーションを実施する。その後、教員による本科目全体の振り返りと総括で締めくくる。	インターンシップ全体の振り返りを行い、就職活動における自己アピールのポイントの一つとして整理する。	4時間

112

授業科目名	ビジネス・インターンシップ１・２				
担当教員名	山中コ～ジ・成清北斗				
学年・コース等	2～3年	開講期間	前期＋集中	単位数	2
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	山中：GENETOという建築設計、家具デザインに関する企業経営をしていることから、その経験を活かした授業。 成清：「社会におけるアートの場づくり」を目的に様々な表現活動を展開している自らの経験を活かした授業。				

授業概要

本授業の目的は、2、3年生のキャリア意識の向上です。まず事前学修として6～7月の7回の授業では、企業研究や就業上のマナー研修に加えて「前に踏み出す力」「考え抜く力」「チームで働く力」をピアレビュー等を通じて身につけます。 次に大学の夏季休暇中（7～9月）に個々の学生の専門性に応じた就業研修（8時間×10日以上）を行い、研修中に教員が研修先を訪問して中間指導を行います。更に事後学修として10月にコース別報告会を、11月に受講生全員での報告会を行い、受講生全員が修了レポートを提出します。大学で学んだ専門知識を制作現場で実践することのみならず、事前と事後の学修も充実させることで本学のディプロマ・ポリシーである「専門に関わる知識・技能、職業理解」を身につけることを目標としています。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. 全学DP２.専門的知識・技能、職業理解	キャリア意識の向上	経済産業省が定める社会人基礎力である「前に踏み出す力」「考え抜く力」「チームで働く力」を身につける。
汎用的な力		
1. 全学DP４.課題発見		与えられた課題や問題について、提供された情報に加え、積極的に独自の調査を行い、必要な情報を正しく収集することができる。
2. 全学DP６.行動・実践		課題・問題に対する調査・分析から考察に至るまでのプロセスが計画的に進められ、レベルの高い最終提案、最終成果物に結びつける実践力を発揮することができる。
3. 全学DP８.意思疎通		与えられた課題や目的のために、他者と円滑で有意義な意思疎通ができ、双方にとって望ましい結果を得られる豊かなコミュニケーション能力を身につけている。
4. 全学DP９.役割理解・連携行動		社会を構成する自立した人間に必要な協働できる素養として、自己の役割を理解し、他者との協働の利点を理解しながら、倫理観に基づいた十分なコミュニケーションのもと活動を円滑に進捗させることができる。
5. 全学DP10.忠恕の心		相手が伝えたいことを共感的に理解し、自分の考えや思いを適切に伝えられるよう感情コントロールを行い、取り組みのモチベーションを維持することができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)

・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)

・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)

・シミュレーション型学習(ロールプレイ、ゲーム型学習など)

・見学、フィールドワーク

課題や取組に対する評価・振り返り

・実習や実技に対して個別にコメントします

・実技・実習後、全体に向けてコメントします

・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

授業へは原則としてすべて出席してください。何らかの事情で欠席する場合は、シラバスや授業内での配布資料を参照し、自学により内容を確認し、必要な課題に取り組むようにしてください。なお、資格・免許取得に必要な科目は、単位修得に必要な授業時間数が定められている場合がありますので、注意してください。

成績評価の方法・評価の割合	評価の基準
事前学修への取り組み	： 事前学修への取り組みを評価する。

30 %

就業研修への取り組み : 研修先からの就業研修修了証明書の内容を参考に評価する。

30 %

事後学修への取り組み : 事後学修への取り組みを評価する。

30 %

学修到達度評価 : 学修到達目標について4項目4段階の総合指数を評価する。

10 %

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

文部科学省ウェブサイト　2024年度（令和6年度）、2025年度（令和7年度）大学、短期大学、高等専門学校卒業・修了予定者に係るインターンシップを活用した就職・採用活動日程ルールの見直しについて
https://www.mext.go.jp/a_menu/koutou/gakuseishien/1410984_00001.htm

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。
就業研修時の交通費は自己負担である。

授業計画		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**事前学修、就業研修、事後学修の理解** この授業での学びと養われる力を把握する ・目的と目標 ・事前学修、就業研修、事後学修の内容 ・各コースにてマッチング済の就業研修先の再確認	就業研修先の企業と業界について調査する。	4時間
第2回	**就業研修の理解** 本授業受講経験者（在学生、卒業生）から就業研修に関する報告、助言を受けてレポートを作成する。	第2回授業のレポートを提出する。	4時間
第3回	**就職活動の理解** クリエイター専門の総合人材マネジメント会社（フェローズ）のゲスト講師から就職活動について学び、レポートを作成する。	第3回授業のレポートを提出する。	4時間
第4回	**ビジネスマナーの理解** マナー研修を専門とするゲスト講師から社会人としての基本的なマナーを学び、レポートを作成する。 スーツを着用して受講する。	第4回授業のレポートを提出する。	4時間
第5回	**就業研修先の企業と業界の理解** 就業研修先の企業と業界に関する報告スライドを作成する。	就業研修先の企業と業界に関する報告スライドを提出する。	4時間
第6回	**就業研修先の企業と業界に関する報告** 選抜された各コース1名が就業研修先の企業と業界に関する報告を行う。他の受講生は発表を参考に自身の報告スライドを修正する。	就業研修先の企業と業界に関する報告スライドを再提出する。 就業研修先と研修内容やスケジュールの打ち合わせを進める。	42時間
第7回	**就業研修準備** 研修に必要な書類を作成する。 事後研修について理解する。 学修到達度の確認アンケートを行う。	就業研修に関する事前打ち合わせ報告書を提出する。	4時間
第8回	**就業研修①** 8時間×10日の就業研修を第8～12回授業とする。	研修日誌を作成する	4時間
第9回	**就業研修②** 8時間×10日の就業研修を第8～12回授業とする。	研修日誌を作成する	4時間
第10回	**就業研修③** 8時間×10日の就業研修を第8～12回授業とする。	研修日誌を作成する	4時間
第11回	**就業研修④** 8時間×10日の就業研修を第8～12回授業とする。	研修日誌を作成する	4時間
第12回	**就業研修⑤** 8時間×10日の就業研修を第8～12回授業とする。	研修日誌を作成する	4時間
第13回	**コース別報告会** 就業研修の報告をコースごとに行う。	コース別報告会での発表スライドを作成する	4時間
第14回	**最終報告会** 各コース代表者による就業研修の報告を受講生全体で行う。	修了レポートを提出する。	4時間

112

授業科目名	ビジネス・インターンシップ１				
担当教員名	米田薫				
学年・コース等	2年	開講期間	前期	単位数	2
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の概要					

授業概要

本科目は、企業就職をめざす学生を対象に、企業の有り方やその仕事の仕組みや流れ、組織的関係等に関する理解を、企業の現場での業務の実体験を通じて深めることを目的とする。事前事後学習でキャリア形成の課題を明確にし、就職に対する心構えを高めたい。事前学で各自の実習目標を明らかにすると共に、社会人に求められるマナーやスキルについて学ぶ。事後学習では体験リポート作成と報告会を通して総括し、今後の課題の明確化を図る。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. 全学DP２.専門的知識・技能、職業理解	実際に企業現場に身を置くことによって、求められる専門的な知識や技能を理解し、また日常的な業務内容にも理解を深める。	社会人として求められる専門的な知識や技能を的確に述べることができ、そして実際に活用できる。

汎用的な力	
1. 全学DP４.課題発見	求められる専門的な知識や技能について、自身の課題を見出すことができる。
2. 全学DP８.意思疎通	他者の意見を尊重しながら積極的にコミュニケーションを図ることができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)

・実験、実技、実習

・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)

・eラーニング、反転授業

・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)

・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)

・見学、フィールドワーク

課題や取組に対する評価・振り返り

・実習や実技に対して個別にコメントします

・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

授業へは原則としてすべて出席してください。何らかの事情で欠席する場合は、シラバスや授業内での配布資料を参照し、自学により内容を確認し、必要な課題に取り組むようにしてください。なお、資格・免許取得に必要な科目は、単位修得に必要な授業時間数が定められている場合がありますので、注意してください。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
事前の取り組み	30 %	： 事前学習での意欲・態度、課題に対する取り組み、評価する。
成果発表	30 %	： 就業状況について、実習中の情報交換や日誌の記入内容、訪問時の状況等から評価する。
事後の取り組み	30 %	： 就業体験に関する総括を、今後の課題が明確になっているかという観点を含めて評価する。
期末レポート	10 %	： 全般に関する事後レポートを授業終了後の定められた期間に提出する。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

授業時に適宜紹介する。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は２単位の科目であるため、平均すると毎回４時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 火曜2講時

場所： 中央館5階127研究室

備考・注意事項： 質問は、Ｅメール（アドレス：yoneda@osaka-seikei.ac.jp）でも対応する。件名に「ビジネスインタＩ質問：○○（送信者の氏名）」とした上で、本文に送信者の所属学部、学籍番号、名前を明記すること。

授業計画

		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**事前学習（1）インターンシップの意義【前期】** ・本科目の意義や目標、内容・評価等を理解する。 ・社会人に求められる力について理解する。	各自の目標を明確にする。	4時間
第2回	**事前学習（2）自己分析【前期】** インターンシップ体験に向けて、各自の強みと課題を自己分析する。	インターンシップ先やその業界の調査を行う。	4時間
第3回	**事前学習（3）インターンシップ先の業界についてを知ろう【前期】** 実習を行うインターンシップ先の業界について調査した事項を発表し、相互交流を図る。	発表概要をレポートにまとめる。	4時間
第4回	**事前学習（4）インターンシップ先の企業についてを知ろう【前期】** 実習を行うインターンシップ先について調査した事項を発表し、相互交流を図る。	発表概要をレポートにまとめる。	4時間
第5回	**事前学習（5）社会人に求められるコミュニケーションを身に着けよう【前期】** 社会人に必要な情報交換の仕方等をロールプレイ等を交えて習得する。	日常的にマナーを意識して生活する。	4時間
第6回	**事前学習（6）中間総括【前期】** 各自の目標とインターンシップ先について調査した事項について発表し、相互交流を図る。	相互交流の結果をまとめる。	4時間
第7回	**事前学習（7）インターンシップに向けての疑問点を解消する。【前期】** 各自のインターンシップ先へ事前訪問し、その結果を報告し、疑問点や不安を感じる部分の解消を図る。	事前訪問の報告書を作成する。	4時間
第8回	**インターンシップ実習（1）【夏季休業中】** 各インターンシップ先での実習に取り組む。	インターンシップ先で指示された課題に取り組む。	4時間
第9回	**インターンシップ実習（2）【夏季休業中】** 各インターンシップ先での実習に取り組む。	インターンシップ先で指示された課題に取り組む。	4時間
第10回	**インターンシップ実習（3）【夏季休業中】** 各インターンシップ先での実習に取り組む。	インターンシップ先で指示された課題に取り組む。	4時間
第11回	**事後学習（1）体験の振り返り【後期】** インターンシップ先での体験を振り返り、まとめる。	体験の振り返りをまとめる。	4時間
第12回	**事後学習（2）体験発表の準備【後期】** インターンシップ先での体験を発表するための、プレゼンテーションの準備をする。	プレゼンテーションの準備を完成させる。	4時間
第13回	**事後学習（3）体験のプレゼンテーション【後期】** 各インターンシップ先での実習に取り組んだ体験と今後の展望について発表する。	自他のプレゼンテーションについて振り返る。	4時間
第14回	**事後学習（4）全体振り返り【後期】** 発表についての振り返りと、インターンシップ体験全般についての相互交流を図る。 全体振り返りで得た実習での成果や課題等を広く伝える。	最終レポートを作成する。	4時間

113

授業科目名	ビジネス・インターンシップ２				
担当教員名	米田薫				
学年・コース等	3年	開講期間	前期	単位数	2
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の概要					

授業概要

本科目は、ビジネスインターンシップ1を受講した学生を対象に、企業の有り方やその仕事の仕組みや流れ、組織的関係等に関する理解を、企業の現場での業務の実体験をさらに深めることを目的とする。事前事後学習でキャリア形成の課題を明確にし、就職に対する心構えを高めたい。事前学で各自の実習目標を明らかにすると共に、社会人に求められるマナーやスキルについて学ぶ。事後学習では体験リポート作成と報告会を通して総括し、今後の課題の明確化を図る。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. 全学DP２.専門的知識・技能、職業理解	実際に企業現場に身を置くことによって、求められる専門的な知識や技能を理解し、また日常的な業務内容にも理解を深める。	社会人として求められる専門的な知識や技能を的確に述べることができ、そして実際に活用できる。
汎用的な力		
1. 全学DP４.課題発見		求められる専門的な知識や技能について、自身の課題を見出すことができる。
2. 全学DP８.意思疎通		他者の意見を尊重しながら積極的にコミュニケーションを図ることができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)

・実験、実技、実習

・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)

・eラーニング、反転授業

・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)

・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

・実習や実技に対して個別にコメントします

・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

授業へは原則としてすべて出席してください。何らかの事情で欠席する場合は、シラバスや授業内での配布資料を参照し、自学により内容を確認し、必要な課題に取り組むようにしてください。なお、資格・免許取得に必要な科目は、単位修得に必要な授業時間数が定められている場合がありますので、注意してください。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
事前の取り組み	30 %	： 事前学習での意欲・態度、課題に対する取り組み、評価する。
成果発表	30 %	： 就業状況について、実習中の情報交換や日誌の記入内容、訪問時の状況等から評価する。
事後の取り組み	30 %	： 就業体験に関する総括を、今後の課題が明確になっているかという観点を含めて評価する。
期末レポート	10 %	： 全般に関する事後レポートを授業終了後の定められた期間に提出する。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

授業時に適宜紹介する。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は２単位の科目であるため、平均すると毎回４時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 火曜2講時

場所： 中央館5階127研究室

備考・注意事項： 質問は、Ｅメール（アドレス：yoneda@osaka-seikei.ac.jp）でも対応する。件名に「ビジネスインタＩ質問：○○（送信者の氏名）」とした上で、本文に送信者の所属学部、学籍番号、名前を明記すること。

授業計画

		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**事前学習（１）インターンシップの意義【前期】** ・本科目の意義や目標、内容・評価等を理解する。 ・社会人に求められる力について、経済産業省の示す「社会人基礎力」を例として理解する。	各自の目標を明確にする。	4時間
第2回	**事前学習（２）自己分析【前期】** インターンシップ体験に向けて、各自の強みと課題を自己分析する。	インターンシップ先やその業界の調査を行う。	4時間
第3回	**事前学習（３）インターンシップ先の業界についてを知ろう【前期】** 実習を行うインターンシップ先の業界について調査した事項を発表し、相互交流を図る。	発表概要をレポートにまとめる。	4時間
第4回	**事前学習（４）インターンシップ先の企業についてを知ろう【前期】** 実習を行うインターンシップ先について調査した事項を発表し、相互交流を図る。	発表概要をレポートにまとめる。	4時間
第5回	**事前学習（５）社会人に求められるコミュニケーションを身に着けよう【前期】** 社会人に必要な情報交換の仕方等をロールプレイ等を交えて習得する。	日常的にマナーを意識して生活する。	4時間
第6回	**事前学習（6）中間総括【前期】** 各自の目標とインターンシップ先について調査した事項について発表し、相互交流を図る。	相互交流の結果をまとめる。	4時間
第7回	**事前学習（７）インターンシップに向けての疑問点を解消する。【前期】** 各自のインターンシップ先へ事前訪問し、その結果を報告し、疑問点や不安を感じる部分の解消を図る。	事前訪問の報告書を作成する。	4時間
第8回	**インターンシップ実習（１）【夏季休業中】** 各インターンシップ先での実習に取り組む。	インターンシップ先で指示された課題に取り組む。	4時間
第9回	**インターンシップ実習（２）【夏季休業中】** 各インターンシップ先での実習に取り組む。	インターンシップ先で指示された課題に取り組む。	4時間
第10回	**インターンシップ実習（３）【夏季休業中】** 各インターンシップ先での実習に取り組む。	インターンシップ先で指示された課題に取り組む。	4時間
第11回	**事後学習（１）体験の振り返り【後期】** インターンシップ先での体験を振り返り、まとめる。	体験の振り返りをまとめる。	4時間
第12回	**事後学習（２）体験発表の準備【後期】** インターンシップ先での体験を発表するための、プレゼンテーションの準備をする。	プレゼンテーションの準備を完成させる。	4時間
第13回	**事後学習（３）体験のプレゼンテーション【後期】** 各インターンシップ先での実習に取り組んだ体験と今後の展望について発表する。	自他のプレゼンテーションについて振り返る。	4時間
第14回	**事後学習（４）全体振り返り【後期】** 発表についての振り返りと、インターンシップ体験全般についての相互交流を図る。 全体振り返りで得た実習での成果や課題等を広く伝える。	最終レポートを作成する。	4時間

授業科目名	ビジネス・インターンシップ１				
担当教員名	劉継紅、吉川正俊、原良憲				
学年・コース等	3年	開講期間	前期	単位数	2
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の概要					

授業概要

本授業は、大学における学修と社会での経験とを結び付けることで、大学における学修を深化させ新たな学習意欲を喚起すること、また自己の職業適性や将来設計について考える機会を得て主体的な職業選択の意識を育むことを目標とする。事前学習では、実習先企業・団体の概要調査や業界研究、実社会で求められる基本的なマナーの研修などを実施する。実習先企業・団体では、それぞれのプログラムに従って実働５～１０日間の実習に取り組む。事後学習では、実習を振り返り履修生同士での意見交換を行うとともに、各自が実習結果をまとめ、報告会でプレゼンテーションを行う。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. 全学DP１.幅広い教養やスキル	ビジネスマナーと実習先に関する知識を学ぶ。	ビジネスマナーと実習先についての基本的な知識を身に付ける。
2. 全学DP２.専門的知識・技能、職業理解	学習した知識を生かした職業理解を深める。	主体的な職業選択の意識を育む。
汎用的な力		
1. 全学DP７.完遂		与えられた課題をやり抜く。
2. 全学DP８.意思疎通		教員、実習先担当者と適切な報告、連絡、相談を行う。
3. 全学DP９.役割理解・連携行動		自分の役割を理解し、周りと連携して行動する。
4. 全学DP10.忠恕の心		誠意、思いやりをもって自分の役割を果たす。

学外連携学修

有り(連携先：ワークスアイディ株式会社等)

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・実験、実技、実習

・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)

・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)

・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

・実習や実技に対して個別にコメントします

・実技・実習後、全体に向けてコメントします

・提出物にコメント・評価をつけて返却します

・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

授業へは原則としてすべて出席してください。何らかの事情で欠席する場合は、シラバスや授業内での配布資料を参照し、自学により内容を確認し、必要な課題に取り組むようにしてください。なお、資格・免許取得に必要な科目は、単位修得に必要な授業時間数が定められている場合がありますので、注意してください。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
事前・事後レポート	20 %	： 事前･事後学修への取組み度。実習先企業・団体での就業体験目的の把握レベルおよび実習先企業・団体やその関連業界の事前調査の内容。就業体験内容の整理と習得した知識・技能ならびに自らの課題の明確化、自己目標の達成度。
インターンシップ実習（実習先企業・団体によるコメント・助言を参考に評価）	60 %	： 実習先企業・団体での就業態度や業務の理解と遂行、その際の自己の役割認識や協調・協働の度合い
発表会でのプレゼンテーション	20 %	： 自身の学修内容と課題をインターンシップでの実習内容を結び付けた形で、分かりやすく伝えているかどうか。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

参考文献等は特に指定しないが、受け入れ先企業・団体の概要・業界知識などが掲載された専門誌や書籍、有価証券報告書等。インターネット検索による受け入れ企業・団体や関連業界内容の整理、就職関連ウェブサイト。その他授業中に適宜紹介する。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は２単位の科目であるため、平均すると毎回４時間の授業外学修が求められる。「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。また実習参加にあたっては、アドバイザー教員の推薦を得るとともに、学内選考（書類・面接）を通過する必要がある。場合によっては、実習先企業・団体の面接等が実施されることもある。マナー研修やインターンシップ報告会、及びそのリハーサルはスーツ着用である。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 火曜日11:00～12:00

場所： S457

備考・注意事項： オフィスアワーを活用してください。
原： hara-y@osaka-seikei.ac.jp （不在のときもありますので、事前にメールで連絡してください。）

授業計画

		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**ガイダンス、インターンシップの意義 〔劉〕** インターンシップの現状とそのメリットについて学ぶ。自分がインターンシップに参加する目的について考えてもらい、意思決定のサポートをする。また事前学修レポートのフォーマットに従い、第１回目入力をする。	事前学修レポートのフォーマットに従い、第１回目入力をする。	4時間
第2回	**事前学修（１） マナー研修１ （社会人マナーの意義）〔原〕** 社会人としての基本的なマナーについて学び、その意義を考える。また社会で働くとはどのようなことかについて、自分の近い将来をイメージする。	学んだマナーについて振り返り、次回の実践練習に備える。	4時間
第3回	**事前学修（２） マナー研修２ （社会人マナーの実践）〔原〕** 社会人としての基本的なマナーを実践する際の心構えやポイントについて学ぶ。実施中の就労に支障がないよう準備する。	学んだマナーについて振り返るとともに、日常的に実践を繰り返す。	4時間
第4回	**事前学修（３） 実習先企業・団体の研究 〔劉〕** 実習先企業の強み・弱みや企業を取り巻く環境について調べ、企業研究シートにまとめ、理解を深める。併せて自身の名刺（オンライン名刺）を作成し、その扱い方のマナーについても身に付ける。	企業研究シートを仕上げ、アドバイザーに提出し添削を受ける。	4時間
第5回	**事前学修（４） プロフィールシートの作成 〔吉川〕** 自己PRや実習の志望動機の書き方や基本マナーを学び、実習先に提出するプロフィールシートを作成する。	仕上げたプロフィールシートをアドバイ ザーに提出し添削を受ける。	4時間
第6回	**事前学修（５） 事前学修レポートの作成と実習直前確認〔吉川〕** 実習前後のマナーやお礼メールの基本を学んだ後、教員の指導を受けて、事前学修レポートの仕上げに取り掛かる。実習先への持参提出物の確認を含めて実習直前チェックを実施する。	事前学修レポートに修正を加え最終確認の上、期限内に提出する。（成績評価対象）	4時間
第7回	**就業体験（実習）：前半 〔劉〕** 企業・団体等での実習 ― 受入先企業・団体等に赴き、前半の実地研修を実施する。	就業体験日誌を記入し、受け入れ先の担当の方からコメントをいただく。 研修担当教員による訪問指導、およびヒアリングを行う。研修の課題や研修後半に向けての目標などについて再確認を行う。	4時間
第8回	**就業体験（実習）：後半 〔劉〕** 企業・団体等での実習 ― 受入先企業・団体等に赴き、後半の実地研修を実施する。（合計で原則70時間）	就業体験日誌を記入し、受け入れ先の担当の方からコメントをいただく。お礼状は、担当教員の下書きチェックを受け、就業体験終了後速やかに送付する。	4時間
第9回	**事後学修（１） 就業体験の共有 〔劉・吉川・原〕** 各自の就業体験について、学生同士で共有しディスカッショ ンを通じて相互検討を行う。事後報告書とプレゼン資料の作成要領の説明を受けた後、自身の就業体験を整理し、報告と発表のための骨子をまとめる。	第9回と10回は連続で実施するため、第10回目の授業外課題に集約する。	4時間
第10回	**事後学修（２） 就業体験報告書の作成 〔劉・吉川・原〕** 担当教員の指導とアドバイスを受けながら、就業体験報告書（事後学修レポート）の作成を進める。	事後学修レポートに修正を加えて最終確認の上、期限内に提出する。（成績評価対象）	4時間
第11回	**事後学修（３） プレゼン資料の作成 〔劉・吉川・原〕**	第11回と12回は連続で実施するため、第12回目の授業外課題に集約する。	4時間

	プレゼン資料の初案を仕上げた後、リハーサルを行い、学生相互ならびに教員も入れてアドバイスを出し合う。		
第12回	**事後学修（４） プレゼン資料のリハーサル 〔劉・吉川・原〕** プレゼン資料の初案を仕上げた後、リハーサルを行い、学生相互ならびに教員も入れてアドバイスを出し合う。	指摘された点を修正するとともに、合同報告会に向けての準備（時間を計って発表練習を複数回行うこと。また適宜スライドを修正すること。	4時間
第13回	**合同報告会（第１部） 〔劉・吉川・原〕** 前半の発表者によるプレゼンテーションを行う。他の学生の発表を視聴し、自らの経験と関連させ学びを深める。	第13回と14回は連続で実施するため、第14回目の授業外学修に集約する。	4時間
第14回	**合同報告会（第２部） 〔劉・吉川・原〕** 後半の発表者によるプレゼンテーションを行う。他の学生の発表を視聴し、自らの経験と関連させ学びを深める。１部と２部の全プレゼンテーションの中から優秀発表を選抜し、選ばれた発表者は翌年１月に開催するインターンシップ最終報告会で、データサイエンス学部１年生全員の合同授業で体験報告を行ってもらう。	インターンシップ全体の振り返りを行い、就職活動における自己アピールのポイントの一つとして整理する。最終発表会の選抜者は、担当教員のアドバイスを受け、資料と発表のブラッシュアップを進める。	4時間